講 義 概 要 ・ 授 業 計 画

令 和 5年 度
（2023）

高 野 山 大 学

本誌の利用に際して

この「講義概要・授業計画」は、令和５年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

総　目　次

文学部・別科 ……1
シラバスを活用しよう！ ……2
履修登録と見方 ……3
◆目次について
◆講義コードについて
◆受講登録について
◆出席票について
◆報恩日（21日）の授業実施について
◆ＧＰＡについて
◆科目ナンバリングについて
◆シラバス「他」欄について
◆授業形態について
◆卒業認定・学位授与に関する方針（文学部ディプロマ・ポリシー ＤＰ）
入学から卒業までの履修について
密教学科（2022年度からの入学生用） ……8
◆卒業認定・学位授与に関する方針（密教学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）
◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
◆必修科目◆選択科目◆自由科目
カリキュラムマップ
密教学科（2019年度から2021年度までの入学生用） ……10
◆卒業認定・学位授与に関する方針（密教学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）
◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
◆必修科目◆選択科目◆自由科目
カリキュラムマップ
僧侶実力養成プログラム
人間学科 ……13
◆卒業認定・学位授与に関する方針（人間学科ディプロマ・ポリシー　ＤＰ）
◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
◆必修科目◆選択科目
カリキュラムマップ
科目目次 ……16
Ｒ４から文学部　密教学科 ……16
Ｒ３から文学部　密教学科 ……25
H31・Ｒ２文学部　密教学科 ……33
H31・Ｒ２文学部　人間学科 ……41
別　科 ……49
講義概要・授業計画 ……51
文学部
別　科
大学院 ……339
講義概要・授業計画 ……345
教員別索引（50音順） ……400

文　学　部

別　　科

シラバスを活用しよう！

副学長（密教）

この『高野山大学・大学院 講義概要・授業計画 令和５年度』は一般にシラバス（syllabus）と呼ばれています（以下、「シラバス」）。シラバスには今年度の高野山大学の文学部密教学科と人間学科で開講されるすべての科目に関する情報（授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、準備学習とその時間、テキスト、参考書・参考資料、学生に対する評価方法、ルーブリック（目標に準拠した評価）、課題に対するフィードバックの方法、その他の注意点など）がコンパクトにまとめられています。シラバスは、今年度１年間のみなさんの学修の指針となるものです。別の言い方をすると、シラバスは、学生諸君に対する私たち教員の約束です。今年度１年間の授業はここに書いてあるように展開されます。シラバスを大切にし、学修に役立ててください。

本学は、2019 年度からＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）制を導入しました。ＧＰＡについては後のページに載せてありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員にたずねてください。とても大事なことですから、よく理解をしてください。

また本学は、2019 年度から新しいカリキュラムを導入しました。2022 年度には密教学科の中に従来の密教学科を継承する密教学コースと、国際的視点から日本文化を学ぶ留学生のための日本文化コース、密教・仏教の思想や歴史を基本から学ぶ社会人編入学生のための密教文化コースを設けました。提供しているカリキュラムが「宗教的教養を持った社会人」を育成するように設計されていることは、これまで通りです。宗教的教養を持った社会人とは、宗教の智慧を人生の指針とし、様々な問題を抱える現代社会で活かしていける力を持った社会人のことです。言い換えれば、弘法大師の教えを具現化できる人です。

カリキュラムマップは、そういう人になるための学修の体系を図示したものです。弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を経営したり、福祉事業を展開したりするための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められ、さらに語学力も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっています。

こうした能力、こうした教養は、僧侶になる人にも一般企業に就職する人、公務員を目指す人にも役に立ちます。これを基礎に、僧侶を目指す人は教学実習科目等の授業を、一般企業・公務員を目指す人は就職支援授業をさらに活用してください。

みなさんの健闘を期待しています。

履修登録と見方

◆目次について

この『令和５年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学科のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	科　目　名	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門Ａ	添田　隆昭	２	１年次	－		1

開講時期
曜日
時間

講義コード

科目名

担当教員名

履修年次
（記載年次以上の年次の学生が履修できます）

履修制限や開講地についても記載しています。

シラバス
ページ番号

◆講義コードについて

講義コードは５ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

５　２　１　０　２

課程
５＝密教・人間学科共通
６＝教育学科
８＝別科生用
９＝大学院生用

曜日
１＝月曜日
２＝火曜日
３＝水曜日
４＝木曜日
５＝金曜日
６＝土曜日
７＝集中講義
８＝実習
９＝論文

時限
１＝１講時
２＝２講時
３＝３講時
４＝４講時
５＝５講時
６＝６講時
７＝７講時

通し番号
01 ～ 25 ＝前期授業
および通年授業（高野山）
26 ～ 49 ＝前期授業
および通年授業（遠隔授業・難波）
51 ～ 75 ＝後期授業（高野山）
76 ～ 99 ＝後期授業（遠隔授業・難波）

◆受講登録について

1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、４月 10 日（月）から４月 14 日（金）午後４時までに学務課教務係へ提出してください。ただし、遠隔授業科目の登録については、４月７日（金）午後４時までに行ってください。（期限までの登録が無いと、LMS への登録ができず、授業に参加ができなくなります。）

2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。

① 学籍番号（※身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入もしくはチェックしてください。

② 履修登録欄は、今年度に受講するすべての授業科目を、『令和５年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。

※１年間に履修登録できるのは卒業論文・自由科目を除き 50 単位までです。

3 履修登録票を学務課教務係へ提出した学生は、４月 24 日（月）から４月 28 日（金）午後４時までに、学務課教務係から各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

窓口での受け取り時には学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、学務課教務係へ提出してください。

4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、１年間保管してください。

5 履修を取り消したい科目がある場合は、前期は５月 31 日（水）まで、後期は 10 月 31 日（火）午後４時まで受け付けますので学務課教務係に申し出てください。（※ただし、一部の科目は履修取り消しができません。）

※論文を提出しなかった学生は、前期は７月末までに、後期は１月末までに必ず学務課教務係まで取り消しにきてください。

6 後期（９月 25 日開講）授業科目の追加及び登録変更は、９月 25 日（月）から９月 29 日（金）午後４時までの後期履修登録変更期間に、学務課教務係へ申し出てください。また、遠隔授業科目の登録については、９月 21 日（木）午後４時までに行ってください。（期限までの登録が無いと、LMS への登録ができず、授業に参加ができなくなります。）ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第１回目から第３回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の３分の２以上の出席がないと「失格」（999）になりますので留意してください。

◆報恩日（21 日）の授業実施について

報恩日（21 日）は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

◆ＧＰＡについて

１　ＧＰＡとは

ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のＧＰ（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

２　目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

３　対象

平成 31 年度入学生から対象となります。また３年次編入学生は令和３年度入学生からとなります。

４　ＧＰＡの計算方法

履修登録した各科目の成績（ＧＰ）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第３位は四捨五入。

合否	評点	評語	ＧＰ	判定基準
合　格	90 点以上	S	4	授業の到達目標を達成し特に優れた成績である
	89 点～80 点	A	3	授業の到達目標を達成し優れた成績である
	79 点～70 点	B	2	授業の到達目標を概ね達成している
	69 点～60 点	C	1	授業の到達目標を最低限達成している
不合格	59 点以下	D	0	授業の到達目標を達成していない
失　格	999	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認　定	888	N	対象外	編入等で単位を認定した

５　ＧＰＡに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「Ｎ」評価の科目。

６　履修取り消し

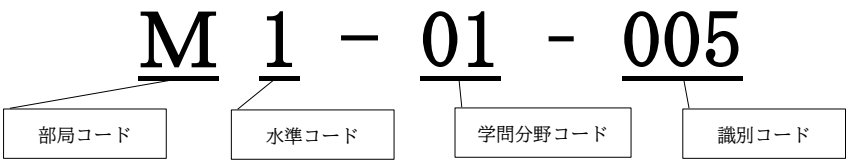
前期は５月 31 日（水）まで、後期は 10 月 31 日（火）まで履修取消期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、ＧＰＡ算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

※論文を提出しなかった学生は、前期は７月末までに、後期は１月末までに必ず学務課教務係まで取り消しにきてください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

＜高野山大学科目ナンバリングの形式＞



＜各コードの定義について＞

1　部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するために項目です。

＜部局コード分類表＞

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

2　水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学 1 年生を対象とした授業（大学 1 年次レベル）
2	主に大学 2 年生を対象とした授業（大学 2 年次レベル）
3	主に大学 3 年生を対象とした授業（大学 3 年次レベル）
4	主に大学 4 年生を対象とした授業（大学 4 年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

３　学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字２ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

４　識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字３ケタで表記しています。

◆シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「Ａ」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「Ｉ」については、ＩＣＴを用いて実施する科目を表しています。授業ではスマートフォンを利用した理解度把握システムを使用します。スマートフォンを必ず持ってきてください。また、持っていない学生は学務課教務係まで申し出てください。

◆授業形態について

授業の中には多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で行うものもあります。そのような授業科目には科目名の最後に、授業形態の略名が入っています。主な授業形態には、以下のものがあります。ただし、卒業に必要な単位数のうち、遠隔授業により修得可能な単位数の上限は60単位までとなります。

授業形態	略名	解説
対面授業	ＩＰ	原則対面で実施する授業科目のことを指します。ただし、授業によっては授業の一部（授業時数の半分未満）を遠隔授業によって実施する場合があります。
ライブ配信	ＬＳ	ZOOMなどによって教員等と非対面でつないで行う同時双方向型授業のことをいいます。資料等のオンデマンド配信は実施しますが、映像のオンデマンド配信（事後配信）は行いません。
ライブ配信 ＋ オンデマンド	ＬＳＯ	ZOOMなどによって教員等と非対面でつないで行う同時双方向型授業のことをいいます。資料等のオンデマンド配信（事後配信）とともにその映像のオンデマンド配信も実施する科目です。
オンデマンド	ＯＤ	動画やスライド等の授業教材の配信により実施する科目です。

※ＬＳＯ・ＯＤ科目については、毎授業課されるリアクションペーパーの提出により出席をとります。

※科目名に【ＬＳＯ】など授業形態が書かれていない科目は、原則高野山キャンパスでの対面授業です。

◆卒業認定・学位授与に関する方針（文学部ディプロマ・ポリシー ＤＰ）

本学の教育理念に照らし、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

１．体系的に学んだ専門的な知識と方法論に基づいて、総合的に問題を解決し新たな価値の創造につなげていく能力が、一定の水準に達したと認められる学生。

２．生命尊重の精神に基づいて人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力を有する学生。

入学から卒業までの履修について(密教学科)（2022 年度からの入学生用）

◆卒業認定・学位授与に関する方針（密教学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）

高野山大学密教学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような知識や技能、能力を身につけた学生に学位を授与します。

1．仏教・密教に関する専門知識。(DP1)
2．体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。(DP2)
3．真言宗僧侶としての基礎的技能。(DP3)
4．日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。(DP4)
5．現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部密教学科では、卒業するためには 124 単位以上を取得する必要があります。
密教学科の科目は、必修科目、選択科目、自由科目に区分されています。
必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計 64 単位以上を取得してください。
また、必修科目以外に、選択科目の中から 60 単位を取得する必要があります。ただし、１年間に履修できるのは 50 単位までです。(卒業論文・自由科目を除く。ただし、前年度の GPA が3.0 以上の人は 58 単位まで履修可能です。)
密教学科の学生は、必修科目 64 単位と選択科目 60 単位の合計 124 単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

教養科目36単位	密教学コース	日本文化コース	応用科目28単位	密教学コース	日本文化コース
建学の精神科目	２単位	２単位	講　　読	４単位	０単位
導入科目	２単位	０単位	キャリア科目	０単位	４単位
語学科目	６単位	６単位	特殊講義	４単位	４単位
基礎ゼミ	４単位	４単位	講読演習	４単位	４単位
教養基礎科目	６単位	８単位	演　　習	８単位	８単位
キャリア科目	４単位	８単位	卒業論文	８単位	４単位
講　　義	４単位	４単位		必修科目合計	64単位
基礎科目	０単位	０単位		選択科目合計	60単位
講　　読	４単位	４単位		合　　計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が２回生以上と指定されている科目は、１回生は履修できません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず 64 単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義が設定されており、選択できるものもあります。

◆選択科目

密教学科の必修科目を 64 単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの選択科目 60 単位は、総合、企画、外国語、僧侶、実技・実習、歴史学、普通、書道師範、社会福祉主事、キャリア、学芸員資格から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目（一部）を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。
※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（密教学科）（2022 年度からの入学生用）

	1 年次			2 年次			3 年次			4 年次		
科目区分	科目名	密教学	日本文化	科目名	密教学	日本文化	科目名	密教学	日本文化	科目名	密教学	日本文化
建学の精神科目	空海の思想入門	◎	◎									
導入科目	導入研修	◎	○									
語学科目	英語Ⅰ	◎	○									
				英語Ⅱ	◎	○						
	漢文	○	○									
	サンスクリット語	○	○									
	日本語	－	◎									
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ	◎	◎									
教養基礎科目	常用経典	◎	○									
	声明	○	○									
	法式	○	○									
	布教	○	○									
	漢字Ⅰ	○	○									
	かなⅠ	○	○									
	梵字悉曇	○	○									
	伝統文化	○	○									
	宗教芸能	○	○									
	加行Ⅰ	○	○									
	加行Ⅱ	○	○									
	宗教思想史Ⅰ	○	○									
	宗教思想史Ⅱ	○	○									
	哲学	○	○									
	心理学Ⅰ	○	○									
	心理学Ⅱ	○	○									
	情報処理	○	○									
	日本文化	－	○									
キャリア科目	キャリアデザインⅠ	◎	◎	キャリアデザインⅢ	○	◎						
	キャリアデザインⅡ	◎	◎	キャリアデザインⅣ	○	◎						
講義				密教学概論	○	○						
				仏教学概論	○	○						
				密教史概説	○	○						
				仏教史概説	○	○						
基礎科目				歴史学	○	○						
				宗教学Ⅰ	○	○						
				宗教学Ⅱ	○	○						
				宗教史Ⅰ	○	○						
				宗教史Ⅱ	○	○						
講読				祖典講読Ⅰ	◎	◎						
講読							祖典講読Ⅱ	○	○			
							宗典講読	○	○			
キャリア科目							キャリアデザインⅤ	○	◎			
							キャリアデザインⅥ	○	◎			
特殊講義							密教学特殊講義	○	○			
							仏教学特殊講義	○	○			
							真言密教特殊講義	○	○			
講読演習							密教学講読演習	○	○			
							仏教学講読演習	○	○			
							真言密教講読演習	○	○			
演習							密教学演習	◎	◎	密教学演習	◎	◎
卒業論文										密教学科卒業論文	◎	○
										密教学科卒業研究	－	○
選択科目												

※◎は必修、○は選択必修、－は履修不可

入学から卒業までの履修について(密教学科）（2019 年から 2021 年度の入学生用）

◆卒業認定・学位授与に関する方針（密教学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）

高野山大学密教学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような知識や技能、能力を身につけた学生に学位を授与します。

1．仏教・密教に関する専門知識。(DP1)
2．体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。(DP2)
3．真言宗僧侶としての基礎的技能。(DP3)
4．日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。(DP4)
5．現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部密教学科では、卒業するためには 124 単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条)。
密教学科の科目は、必修科目、選択科目、自由科目に区分されています。
必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計 64 単位以上を取得してください。
また、必修科目以外に、選択科目の中から 60 単位を取得する必要があります。ただし、１年間に履修できるのは 50 単位までです。(卒業論文・自由科目を除く。ただし、前年度の GPA が 3.0 以上の人は 58 単位まで履修可能です。)
密教学科の学生は、必修科目 64 単位と選択科目 60 単位の合計 124 単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	２単位	基礎科目	４単位	特殊講義	４単位
導入科目	２単位	実技科目	10単位	講読演習	４単位
語学科目	６単位	講　　読	８単位	演　　習	８単位
基礎ゼミ	４単位	実　　習	４単位	卒業論文	８単位
				必修科目合計	64単位
				選択科目合計	60単位
				合　　計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が２回生以上と指定されている科目は、１回生は履修できません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず 64 単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。

◆選択科目

密教学科の必修科目を 64 単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの 60 単位は、総合、企画、外国語、僧侶、実技・実習、歴史学、普通、書道師範、社会福祉主事、キャリア、学芸員から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目（一部）を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。
※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（密教学科）（2019 年度から 2021 年度の入学生用）

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ		
	漢文 ※1 科目選択			
	サンスクリット語			
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ ※２科目受講			
基礎科目		密教学概論 ※2 科目選択		
		仏教学概論		
		密教史概説		
		仏教史概説		
実技科目	常用経典			
	声明			
	法式			
	布教			
	漢字Ⅰ ※1 科目選択			
	かなⅠ			
講読		祖典講読Ⅰ	祖典講読Ⅱ ※1 科目選択	
			宗典講読	
実習	加行Ⅰ ※春期休業中	加行Ⅱ ※夏期休業中		
	ボランティア ※４単位選択			
	巡礼・遍路			
特殊講義			密教学特殊講義 ※2 科目選択	
			仏教学特殊講義	
			真言密教特殊講義	
講読演習			密教学講読演習 ※2 科目選択	
			仏教学講読演習	
			真言密教講読演習	
演習			密教学演習	密教学演習
卒業論文				密教学科卒業論文
選択科目				

僧侶実力養成プログラム（2019 年度からの入学生用）

密教学科主任

密教学科の講義の中には灌頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

密教学科では、２回生までに得度・受戒・加行・灌頂を終えるケースをモデルとして想定しています。

＜モデルケース＞

	《僧侶への道》		《授業科目》
1回生	５～６月頃	得　　度	常用経典 声　　明 法　　式 布　　教 実技科目（教学実習科目）
	６月頃	受　　戒	
	⋮		
	春期休業	前期加行	
2回生	⋮		加行Ⅰ　※受講登録・レポート提出
	夏期休業	後期加行	加行Ⅱ　※受講登録・レポート提出
	⋮		
	11 月頃	灌　　頂	

《授業科目》※開講科目例。変更する場合もあります。

３回生 ４回生	十八道次第	諸作法伝授
	秘密儀軌	引導作法伝授
	金剛界伝授次第	中院流三十三尊法 １
	胎蔵界伝授次第	中院流三十三尊法 ２

2 年次において高野山専修学院（学外施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用経典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用経典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので、必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

高野山専修学院（学外施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、高野山専修学院（学外施設）において開講する指定科目を履修することができます。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

入学から卒業までの履修について（人間学科）

◆卒業認定・学位授与に関する方針（人間学科ディプロマ・ポリシー　ＤＰ）

高野山大学文学部人間学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

1．社会人として必要な一般教養を身に付けている。(DP1：社会人基礎力)
2．他者を積極的に理解しようとする姿勢を身につけるとともに、自分の考えをまとめ、他者に適切に伝達するコミュニケーション能力を持っている。(DP２：コミュニケーション力)
3．自らが置かれた現状を客観的に分析し、現状に働きかけるための対応を立案し、実行できる。(DP3：課題解決能力)
4．大学での学びを社会のために、役立てようとする意識を持っている。(DP4：社会貢献意識)

◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部人間学科では、卒業するためには 124 単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条)。
人間学科の科目は、建学の精神科目、導入科目、語学科目、基礎ゼミ、基礎科目、キャリア科目、教養科目、実習、専門講義、実践演習、演習、卒業論文に区分されています。これらは必修ですが、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。
これらの科目では、必要単位が決められています。各科目の必要単位を合計 62 単位以上取得しなければ、卒業できません。
また、必修科目以外に、選択科目の中から 62 単位を取得する必要があります。ただし、１年間に履修できるのは 50 単位までです。(卒業論文・自由科目を除く。ただし、前年度の GPA が 3.0 以上の人は 58 単位まで履修可能です。)
人間学科の学生は、必修科目 62 単位と選択科目 62 単位の合計 124 単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	２単位	基礎科目	６単位	専門講義	４単位
導入科目	２単位	キャリア科目	10単位	実践演習	２単位
語学科目	４単位	教養科目	４単位	演　　習	８単位
基礎ゼミ	８単位	実　　習	４単位	卒業論文	８単位
				必修科目合計	62単位
				選択科目合計	62単位
				合　　計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が 2 回生以上と指定されている科目は、１回生は履修できません。

◆必修科目

卒業するためには、必修科目を 62 単位以上取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義が設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、専門講義は 4 単位となっていますが、地域デザインや心理ケアの専門的な講義が複数開講されており、その中から 4 単位以上を選択することができます。

◆選択科目

人間学科の必修科目を 62 単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの 62 単位は、密教学科の必修科目（密教学演習を除く）や総合科目、企画科目、外国語科目、僧侶科目、実技・実習科目、古文書学科目、普通科目、書道師範科目、学芸員資格科目から履修することができます。また余分に履修した人間学科必修科目を充てることもできます。

カリキュラムマップ（人間学科）

	1年次	2年次	3年次	4年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ		
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ・Ⅱ	基礎ゼミⅢ・Ⅳ		
基礎科目	心理学Ⅰ・Ⅱ			
	社会学			
	社会福祉論			
	社会保障論			
キャリア科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ			
		キャリアデザインⅢ・Ⅳ		
			キャリアデザインⅤ・Ⅵ	
		キャリア研修		
			インターンシップ	
教養科目	教養講義（社会科学）			
	教養講義（人文科学）			
	教養講義（数的処理）			
	教養講義（自然科学）			
	教養講義（数的処理）			
	教養講義（人権論）			
実習科目		人間学実習（社会調査）		
		人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ）		
	ボランティア			
	巡礼・遍路			
専門講義科目		人間学専門講義 社会調査入門 社会調査方法論 質的調査論 情報リテラシー論 基礎統計学 地方行政論 地方自治法 地域産業論 高野文化圏論 地域連携 こころのケアとは 発達心理学 家族心理学 学校心理学 社会心理学 深層心理学 災害心理学 カウンセリング論 もの語り心理学 メンタルヘルス 心理統計学 心理測定法 臨床心理学面接演習Ⅰ～Ⅳ 心理検査法演習Ⅰ・Ⅱ 心理学基礎実験演習Ⅰ・Ⅱ スピリチュルケア実践論 スピリチュアルケア演習Ⅰ・Ⅱ 臨床死生学 死生観 自殺学 悲嘆学 宗教学入門 世俗主義と宗教		
実践演習			人間学実践演習（学外研修Ⅰ）	人間学実践演習（学外研修Ⅱ）
			人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ、Ⅱ）	
			人間学実践演習（臨床実習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ）	人間学実践演習（臨床実習Ⅱ・Ⅴ）
人間学演習			人間学演習	人間学演習
人間学科卒業論文				人間学科卒業論文
選択科目				

※　科目によって半期・通年・集中がある。
※　開講科目については、隔年開講も含めて年度ごとに変更する。
※　開講場所は、高野山キャンパスのみ、難波サテライト教室のみ、両方、学外で開講する科目がある。

文 学 部 目 次

「備考・履修条件」欄について
難　　波・・・難波サテライト教室にて開講
社 会 人・・・社会人学生に限る（入学時に25歳以上）
留 学 生・・・外国人留学生に限る
已灌頂者・・・已灌頂者に限る
科 目 名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
日　　付・・・集中講義開催日（詳細は掲示などを確認のこと）

Ｒ４から文学部　密教学科

1　必修科目

1）「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門Ａ	添　田　隆　昭	2	1年次	—		52
前期	月	3	51327	空海の思想入門Ｓ【IP】	北　川　真　寛	2	1年次	—	難波／社会人	258
前期	月	3	51329	空海の思想入門Ｓ【LSO】	北　川　真　寛	2	1年次	—		258

2）導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57007	導入研修	学　科　主　任	2	1年次	—		53

3）語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	3	52301	英語Ⅰ	伊 藤 佳 世 子	2	1年次	教職基礎		54
通年	火	5	52526	英語Ⅰ（再履修）【LS】	森　本　敦　子	2	2年次	教職基礎		55
通年	月	1	51101	英語Ⅱ	亀　位　卓　阿	2	2年次	教職基礎		56
通年	月	5	51526	英語Ⅱ（再履修）【LS】	森　本　敦　子	2	3年次	教職基礎		57
通年	金	3	55301	漢文	南　　昌　　宏	2	1年次	教免（国語）		58
通年	火	3	52326	漢文Ｓ【IP】	南　　昌　　宏	2	1年次	—	難波／社会人	259
通年	火	3	52328	漢文Ｓ【LSO】	南　　昌　　宏	2	1年次	—		259
通年	月	1	51102	サンスクリット語Ａ	菊　谷　竜　太	2	1年次	—		59
通年	火	4	52426	サンスクリット語Ｓ【IP】	菊　谷　竜　太	2	1年次	—	難波／社会人	260
通年	火	4	52428	サンスクリット語Ｓ【LSO】	菊　谷　竜　太	2	1年次	—		260
通年	金	3	55326	サンスクリット語Ｔ【IP】	前　　谷　　彰	2	1年次	—	難波／社会人	261
通年	水	4	53401	日本語Ａ	藤　井　知　枝	2	1年次	—	留学生	62
通年	水	3	53301	日本語Ｂ	藤　井　知　枝	2	1年次	—	留学生	63

4）基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53103	密教学基礎ゼミＡ1	北　川　真　寛	2	1年次	—		64
後期	水	1	53151	密教学基礎ゼミＡ2	北　川　真　寛	2	1年次	—		65
前期	水	1	53104	密教学基礎ゼミＢ1	菊　谷　竜　太	2	1年次	—		66
後期	水	1	53152	密教学基礎ゼミＢ2	菊　谷　竜　太	2	1年次	—		67
前期	水	1	53105	密教学基礎ゼミＣ1	櫻　　木　　潤	2	1年次	—		68
後期	水	1	53153	密教学基礎ゼミＣ2	櫻　　木　　潤	2	1年次	—		69
前期	水	1	53106	密教学基礎ゼミＤ1	鈴　木　晴　久	2	1年次	—		70
後期	水	1	53154	密教学基礎ゼミＤ2	鈴　木　晴　久	2	1年次	—		71
前期	水	1	53107	密教学基礎ゼミＥ1	佐　々　木　聡	2	1年次	—		72
後期	水	1	53155	密教学基礎ゼミＥ2	佐　々　木　聡	2	1年次	—		73

5）教養基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53402	常用経典	宮　田　永　明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻　　秀　　道	2	1年次	僧階補任		77
通年	木	1	54101	法式	加　藤　善　弘	2	1年次	僧階補任		78

通年	火	4	52401	布教Ａ	橋　本　真　人	2	1年次	僧階補任		79
通年	木	3	54301	布教Ｂ（詠歌）	辻・西山・岩田	2	1年次	僧階補任		80
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野　田　悟	2	1年次	書道師範／教免（国語）		81
通年	木	4	54426	漢字ＩＳ【IP】	野　田　悟	2	1年次	—	難波／社会人	262
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩 野 三 恵 子	2	1年次	書道師範		82
通年	金	3	55302	梵字悉曇Ａ	齋　藤　天　譽	2	1年次	—		83
通年	金	5	54227	梵字悉曇Ｓ【IP】	添　野　了	2	1年次	—	難波／社会人	263
通年	水	3	53302	伝統文化（茶道）	岡　本　文　音	2	1年次	—		85
通年	火	4	52402	伝統文化（華道）	五　味　和　樹	2	1年次	—		84
通年	月	3	51301	宗教芸能（宗教舞踊）	高　祖　・　辻	2	1年次	—		86
通年	集中	集中	57001	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	—		87
通年	集中	集中	57004	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	—		88
後期	金	4	55453	宗教思想史ＩＡ	奥　山　直　司	2	1年次	教免（宗教）		89
後期	金	4	55477	宗教思想史ＩＳ【LSO】	奥　山　直　司	2	1年次	—		89
前期	月	4	51402	宗教思想史ⅡＡ	櫻　木　潤	2	1年次	教免（宗教）		90
前期	月	4	51427	宗教思想史ⅡＳ【LSO】	櫻　木　潤	2	1年次	—		90
前期	金	4	55402	哲学	南　昌　宏	2	1年次	教免（宗教）		91
前期	金	4	55427	哲学Ｓ【LSO】	南　昌　宏	2	1年次	—		91
前期	金	2	55203	心理学ＩＡ	佐　々　木　聡	2	1年次	社会福祉主事		92
前期	金	2	55227	心理学ＩＳ【LSO】	佐　々　木　聡	2	1年次	—		92
後期	金	2	55251	心理学ⅡＡ	佐　々　木　聡	2	1年次	社会福祉主事		93
後期	金	2	55277	心理学ⅡＳ【LSO】	佐　々　木　聡	2	1年次	—		93
通年	水	3	53303	情報処理	木　地　茂　典	2	1年次	教免基礎		94
前期	月	3	51305	日本文化Ａ	松　本　貴　子	2	1年次	—	留学生	95
後期	月	3	51351	日本文化Ｂ	松　本　貴　子	2	1年次	—	留学生	96
前期	月	4	51403	日本文化Ｃ	松　本　貴　子	2	1年次	—	留学生	97
後期	月	4	51451	日本文化Ｄ	松　本　貴　子	2	1年次	—	留学生	98
前期	月	5	51502	日本文化Ｅ	松　本　貴　子	2	1年次	—	留学生	99
後期	月	5	51551	日本文化Ｆ	松　本　貴　子	2	1年次	—	留学生	100

6）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52203	キャリアデザインⅠ	高　田　綾　子	2	1年次	—	キャリアデザインⅡ	101
後期	火	2	52251	キャリアデザインⅡ	高　田　綾　子	2	1年次	—	キャリアデザインⅠ	102
前期	火	4	52404	キャリアデザインⅢ	高　田　綾　子	2	2年次	—	キャリアデザインⅣ	103
後期	火	4	52451	キャリアデザインⅣ	高　田　綾　子	2	2年次	—	キャリアデザインⅢ	104

7）講義

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52151	密教学概論Ａ	北　川　真　寛	2	2年次	教免（宗教）		105
後期	月	2	51276	密教学概論Ｓ【OD】	北　川　真　寛	2	2年次	—		264
前期	水	1	53102	仏教学概論Ａ	前　谷　彰	2	2年次	教免（宗教）		106
前期	月	2	51228	仏教学概論Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		265
前期	火	1	52103	密教史概説Ａ	德　重　弘　志	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		107
後期	木	5	54576	密教史概説Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		266
後期	水	1	53156	仏教史概説Ａ	前　谷　彰	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		108
前期	木	5	54526	仏教史概説Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		267

8）基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	3	55306	歴史学	坂　口　太　郎	2	2年次	学芸員		109
前期	火	2	52226	歴史学Ｓ【IP】	坂　口　太　郎	2	2年次	—	難波／社会人	268
前期	火	2	52227	歴史学Ｓ【LSO】	坂　口　太　郎	2	2年次	—		268
前期	金	2	55204	宗教学Ⅰ	奥　山　直　司	2	2年次	教免（宗教）		110
前期	木	4	54433	宗教学ⅠＳ【IP】	小　田　龍　哉	2	2年次	—	難波／社会人	318
前期	木	4	54432	宗教学ⅠＳ【LSO】	小　田　龍　哉	2	2年次	—		318
後期	金	2	55252	宗教学Ⅱ	奥　山　直　司	2	2年次	教免（宗教）		111
後期	木	4	54479	宗教学ⅡＳ【IP】	小　田　龍　哉	2	2年次	—	難波／社会人	327
後期	木	4	54478	宗教学ⅡＳ【LSO】	小　田　龍　哉	2	2年次	—		327
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土　居　夏　樹	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		112
後期	金	1	55151	宗教史Ⅱ	土　居　夏　樹	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		113

9）講読

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	52201	祖典講読ⅠＡ	松　長　潤　慶	4	2年次	教免（宗教）		114
通年	火	2	52202	祖典講読ⅠＢ	北　川　真　寛	4	2年次	教免（宗教）		115
通年	月	5	51527	祖典講読ⅠＳ【IP】	土　居　夏　樹	4	3年次	—	難波／社会人	269
通年	月	5	51532	祖典講読ⅠＳ【LSO】	土　居　夏　樹	4	3年次	—		269
通年	月	3	51302	祖典講読ⅡＡ	大　柴　清　圓	4	3年次	教免（宗教）		116
通年	月	4	51426	祖典講読ⅡＢ【LS】	米　田　弘　仁	4	3年次	教免（宗教）		117
通年	木	3	54302	祖典講読ⅡＣ	川　﨑　一　洋	4	3年次	教免（宗教）		118
通年	月	3	51326	祖典講読ⅡＳ【LSO】	大　柴　清　圓	4	3年次	—		116
通年	木	3	54326	祖典講読ⅡＴ【LSO】	川　﨑　一　洋	4	3年次	—		118
通年	木	2	54226	宗典講読Ｂ【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	3年次	—	已灌頂者	119
通年	水	4	53426	宗典講読Ｓ【IP】	川　﨑　一　洋	4	3年次	—	難波／社会人	270
通年	水	4	53428	宗典講読Ｓ【LSO】	川　﨑　一　洋	4	3年次	—		270
通年	水	2	53226	宗典講読Ｔ【IP】	德　重　弘　志	4	3年次	—	難波／社会人	271
通年	水	2	53229	宗典講読Ｔ【LSO】	德　重　弘　志	4	3年次	—		271

10）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	3	52303	キャリアデザインⅤ	高　田　綾　子	2	3年次	—	キャリアデザインⅥ	120
後期	火	3	52351	キャリアデザインⅥ	高　田　綾　子	2	3年次	—	キャリアデザインⅤ	121

11）特殊講義

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	51103	密教学特殊講義Ａ	松　長　潤　慶	2	3年次	教免（宗教）		122
前期	火	4	52405	密教学特殊講義Ｂ	和　田　圭　子	2	3年次	学芸員／教免（宗教）		123
後期	火	4	52452	密教学特殊講義Ｃ	和　田　圭　子	2	3年次	学芸員／教免（宗教）		124
後期	月	2	51252	密教学特殊講義Ｄ	森　本　一　彦	2	3年次	教免（宗教）		125
前期	水	3	53327	密教学特殊講義ＳＩＰ】	川　﨑　一　洋	2	3年次	—	難波／社会人	272
前期	水	3	53329	密教学特殊講義ＳＬＳＯ】	川　﨑　一　洋	2	3年次	—		272
後期	水	3	53376	密教学特殊講義ＴＩＰ】	川　﨑　一　洋	2	3年次	—	難波／社会人	273
後期	水	3	53377	密教学特殊講義ＴＬＳＯ】	川　﨑　一　洋	2	3年次	—		273
後期	水	2	53276	密教学特殊講義ＵＩＰ】	柴　谷　宗　叔	2	3年次	—	難波／社会人	274
後期	水	2	53277	密教学特殊講義ＵＬＳＯ】	柴　谷　宗　叔	2	3年次	—		274
前期	木	4	54406	仏教学特殊講義Ａ	那 須 真 裕 美	2	3年次	教免（宗教）		126
前期	木	5	54501	仏教学特殊講義Ｂ	前　　谷　　彰	2	3年次	教免（宗教）		127

前期	木	1	54103	仏教学特殊講義D	森 崎 雅 好	2	3年次	教免（宗教）		128
前期	木	1	54104	仏教学特殊講義E	徐 東 軍	2	3年次	教免（宗教）		129
後期	木	1	54153	仏教学特殊講義F	森 崎 雅 好	2	2年次	教免（宗教）		130
後期	集中	集中	57051	仏教学特殊講義G	井上ウィマラ	2	3年次	教免（宗教）		131
前期	金	4	55429	仏教学特殊講義S【IP】	前 谷 彰	2	3年次	—	難波／社会人	275
前期	金	3	55327	仏教学特殊講義T【IP】	岡 田 英 作	2	3年次	—	難波／社会人	276
前期	金	3	55330	仏教学特殊講義T【LSO】	岡 田 英 作	2	3年次	—		276
後期	集中	集中	57077	仏教学特殊講義U【IP】	井上ウィマラ	2	3年次	—	社会人	131
前期	月	1	51104	真言密教特殊講義A	中 西 雄 泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	132
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義B	中 西 雄 泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	133
後期	集中	集中	57052	真言密教特殊講義C	佐 藤 隆 彦	2	3年次	教免（宗教）		134
前期	金	2	55226	真言密教特殊講義D【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	135
後期	金	2	55276	真言密教特殊講義E【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	136
前期	月	4	51404	真言密教特殊講義F	佐 藤 隆 彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	137
後期	月	4	51452	真言密教特殊講義G	佐 藤 隆 彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	138
前期	月	4	51428	真言密教特殊講義S【IP】	北 川 真 寛	2	3年次	—	難波／社会人	277
前期	月	4	51430	真言密教特殊講義S【LSO】	北 川 真 寛	2	3年次	—		277
後期	集中	集中	57079	真言密教特殊講義T【IP】	五十嵐啓道	2	3年次	—	難波／社会人	278
後期	集中	集中	57078	真言密教特殊講義U【IP】	佐 藤 隆 彦	2	3年次	—	社会人	134

12）講読演習

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51201	密教学講読演習A	大 柴 清 圓	2	3年次	教免（宗教）		139
後期	月	2	51253	密教学講読演習B	大 柴 清 圓	2	3年次	教免（宗教）		140
前期	金	3	55307	密教学講読演習D	土 居 夏 樹	2	3年次	教免（宗教）		141
後期	木	1	54152	密教学講読演習F	徐 東 軍	2	3年次	教免（宗教）		142
後期	月	3	51376	密教学講読演習S【IP】	土 居 夏 樹	2	3年次	—	難波／社会人	279
後期	月	3	51377	密教学講読演習S【LSO】	土 居 夏 樹	2	3年次	—		279
後期	火	5	52576	密教学講読演習T【IP】	森 崎 雅 好	2	3年次	—	難波／社会人	280
後期	火	5	52577	密教学講読演習T【LSO】	森 崎 雅 好	2	3年次	—		280
後期	火	2	52276	密教学講読演習U【IP】	櫻 木 潤	2	3年次	—	難波／社会人	281
後期	火	2	52278	密教学講読演習U【LSO】	櫻 木 潤	2	3年次	—		281
後期	木	5	54551	仏教学講読演習A	前 谷 彰	2	3年次	教免（宗教）		143
前期	月	2	51202	仏教学講読演習B	櫻 木 潤	2	3年次	教免（宗教）		144
後期	木	2	54251	仏教学講読演習C	岡 田 英 作	2	3年次	教免（宗教）		145
前期	月	4	51405	仏教学講読演習D	菊 谷 竜 太	2	3年次	教免（宗教）		146
後期	月	4	51453	仏教学講読演習E	菊 谷 竜 太	2	3年次	教免（宗教）		147
後期	集中	集中	57053	仏教学講読演習F	平 岡 宏 一	2	3年次	教免（宗教）		148
後期	金	4	55478	仏教学講読演習S【IP】	前 谷 彰	2	3年次	—	難波／社会人	282
後期	金	3	55376	仏教学講読演習T【IP】	岡 田 英 作	2	3年次	—	難波／社会人	283
後期	金	3	55377	仏教学講読演習T【LSO】	岡 田 英 作	2	3年次	—		283
後期	火	2	52277	仏教学講読演習U【IP】	坂 口 太 郎	2	3年次	—	難波／社会人	284
前期	火	3	52304	真言密教講読演習B	北 川 真 寛	2	3年次	教免（宗教）		149
通年	集中	集中	57008	真言密教講読演習C	佐 藤 隆 彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	150
前期	金	1	55126	真言密教講読演習D【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	—	已灌頂者	151
後期	金	1	55176	真言密教講読演習E【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	—	已灌頂者	152
後期	火	3	52352	真言密教講読演習G	木 下 智 雄	2	3年次	教免（宗教）		153
後期	月	4	51476	真言密教講読演習S【IP】	北 川 真 寛	2	3年次	—	難波／社会人	285

13）演習

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53201	密教学演習Ｂ	佐　藤　隆　彦	4	3・4年次	—		154
通年	水	2	53203	密教学演習Ｄ	櫻　木　潤	4	3・4年次	—		156
通年	水	2	53205	密教学演習Ｆ	松　長　潤　慶	4	3・4年次	—		158
通年	水	2	53206	密教学演習Ｇ	菊　谷　竜　太	4	3・4年次	—		159
通年	水	2	53207	密教学演習Ｋ	坂　口　太　郎	4	3・4年次	—		161
通年	月	2	51226	密教学演習Ｌ【IP】	土　居　夏　樹	4	4年次	—	難波／社会人	286
通年	月	2	51227	密教学演習Ｌ【LSO】	土　居　夏　樹	4	4年次	—	社会人	286
通年	水	2	53208	密教学演習Ｎ	北　川　真　寛	4	3・4年次	—		162

2　選択科目

1）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51203	総合科目（仏教入門ＩＡ）	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		163
後期	月	2	51254	総合科目（仏教入門ⅡＡ）	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		164
前期	金	5	55526	総合科目（仏教入門ＩＳ）【IP】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—	難波／社会人	287
前期	金	5	55527	総合科目（仏教入門ＩＳ）【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		287
後期	金	5	55576	総合科目（仏教入門ⅡＳ）【IP】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—	難波／社会人	288
後期	金	5	55577	総合科目（仏教入門ⅡＳ）【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		288

2）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目（仏画）	有　松　孝　雄	2	1年次	学芸員		171
前期	火	3	52305	企画科目（高野山の歴史と文化）	木　下　智　雄	2	3年次	—		172
前期	火	3	52327	企画科目（高野山の歴史と文化Ｓ）【LSO】	木　下　智　雄	2	3年次	—		172
前期	水	3	53305	企画科目（寺院経営入門）	藤　本　善　光	2	1年次	—		173
前期	水	4	53406	企画科目（数学史概論）	木　地　茂　典	2	1年次	—		250
後期	水	4	53452	企画科目（思考力講座）	木　地　茂　典	2	1年次	—		252
前期	木	1	54105	企画科目（社会のしくみ）	森　本　一　彦	2	1年次	—		251
後期	木	1	54154	企画科目（人間と文化）	森　本　一　彦	2	1年次	—		253
前期	木	2	54202	企画科目（歴史学入門）	坂　口　太　郎	2	1年次	—		174
後期	木	2	54252	企画科目（歴史学入門演習）	坂　口　太　郎	2	1年次	—		178
通年	木	3	54305	企画科目（社会調査）	森　本　一　彦	2	2年次	—		175
通年	木	4	54401	企画科目（詠歌上級）	辻・西山・岩田	2	1年次	—		176
前期	木	4	54407	企画科目（地域連携）	森　本　一　彦	2	2年次	—		177
前期	金	4	55404	企画科目（カウンセリング論Ａ）	佐　々　木　聡	2	2年次	—		167
前期	金	4	55432	企画科目（カウンセリング論Ａ）【LSO】	佐　々　木　聡	2	2年次	—		167
後期	金	4	55452	企画科目（学校心理学Ａ）	佐　々　木　聡	2	2年次	—		168
後期	金	4	55479	企画科目（学校心理学Ａ）【LSO】	佐　々　木　聡	2	2年次	—		168
前期	月	6	51629	企画科目（カウンセリング論Ｂ）【IP】	上　野　和　久	2	1年次	—	難波／社会人	313
前期	月	6	51628	企画科目（カウンセリング論Ｂ）【LSO】	上　野　和　久	2	1年次	—		313
後期	月	6	51679	企画科目（学校心理学Ｂ）【IP】	上　野　和　久	2	1年次	—	難波／社会人	314
後期	月	6	51678	企画科目（学校心理学Ｂ）【LSO】	上　野　和　久	2	1年次	—		314
後期	月	7	51777	企画科目（コミュニケーション心理学）【OD】	東　真　由　美	2	2年次	—		323
前期	火	6	52629	企画科目（悲嘆学）【IP】	森　崎　雅　好	2	2年次	—	難波／社会人	315
前期	火	6	52628	企画科目（悲嘆学）【LSO】	森　崎　雅　好	2	2年次	—		315
後期	火	6	52679	企画科目（自殺学）【IP】	森　崎　雅　好	2	2年次	—	難波／社会人	324
後期	火	6	52678	企画科目（自殺学）【LSO】	森　崎　雅　好	2	2年次	—		324
通年	水	4	53427	企画科目（仏画Ｓ）【IP】	徐　東　軍	2	1年次	—	難波／社会人	289

前期	水	6	53629	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）【IP】	木下忠恭	2	2年次	―	難波／社会人	316
前期	水	6	53628	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）【LSO】	木下忠恭	2	2年次	―		316
後期	水	6	53679	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）【IP】	木下忠恭	2	2年次	―	難波／社会人	325
後期	水	6	53678	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）【LSO】	木下忠恭	2	2年次	―		325
前期	水	7	53729	企画科目（深層心理学）【IP】	森崎雅好	2	2年次	―	難波／社会人	317
前期	水	7	53728	企画科目（深層心理学）【LSO】	森崎雅好	2	2年次	―		317
後期	水	7	53779	企画科目（福祉心理学）【IP】	森崎雅好	2	2年次	―	難波／社会人	326
後期	水	7	53778	企画科目（福祉心理学）【LSO】	森崎雅好	2	2年次	―		326
前期	木	6	54629	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）【IP】	大河内大博	2	2年次	―	難波／社会人	319
前期	木	6	54628	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）【LSO】	大河内大博	2	2年次	―		319
後期	木	6	54679	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）【IP】	大河内大博	2	2年次	―	難波／社会人	328
後期	木	6	54678	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）【LSO】	大河内大博	2	2年次	―		328
前期	金	6	55629	企画科目（心理統計学）【IP】	五明優介	2	2年次	―	難波／社会人	320
前期	金	6	55628	企画科目（心理統計学）【LSO】	五明優介	2	2年次	―		320
後期	金	6	55679	企画科目（心理測定法）【IP】	五明優介	2	2年次	―	難波／社会人	329
後期	金	6	55678	企画科目（心理測定法）【LSO】	五明優介	2	2年次	―		329
前期	金	7	55781	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）【IP】	五明優介	2	2年次	―	難波／社会人	330
後期	金	7	55783	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）【IP】	五明優介	2	2年次	―	難波／社会人	331
前期	金	7	55780	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）【LSO】	五明優介	2	2年次	―		330
後期	金	7	55782	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）【LSO】	五明優介	2	2年次	―		331
後期	土	第1週	56086	企画科目（社会心理学）【IP】	松下歩睦	2	2年次	―	難波／社会人	332
後期	土	第1週	56083	企画科目（社会心理学）【LSO】	松下歩睦	2	2年次	―		332
前期	土	第2週	56033	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅰ）【IP】	山添正	2	2年次	―	難波／社会人	321
前期	土	第2週	56031	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅰ）【LSO】	山添正	2	2年次	―		321
後期	土	第2週	56087	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅱ）【IP】	山添正	2	2年次	―	難波／社会人	333
後期	土	第2週	56084	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅱ）【LSO】	山添正	2	2年次	―		333
前期	土	第3週	56027	企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅰ）【IP】	森崎雅好	2	1年次	―	難波／社会人	292
後期	土	第3週	56078	企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅱ）【IP】	森崎雅好	2	1年次	―	難波／社会人	298
前期	土	第4週	56034	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）【IP】	山本和美	2	2年次	―	難波／社会人	322
前期	土	第4週	56032	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）【LSO】	山本和美	2	2年次	―		322
後期	土	第4週	56088	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）【IP】	森崎雅好	2	2年次	―	難波／社会人	334
後期	土	第4週	56085	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）【LSO】	森崎雅好	2	2年次	―		334
後期	集中	集中	57080	企画科目（仏教美術入門Ｓ）【IP】	内藤栄	2	1年次	―	難波／社会人	290
後期	集中	集中	57083	企画科目（スピリチュアルケア概論）【IP】	窪寺俊之	2	2年次	―	難波／社会人	299
後期	集中	集中	57084	企画科目（死生観）【IP】	山本佳世子	2	2年次	―	難波／社会人	300
後期	集中	集中	57085	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）【IP】	橋本久仁彦	2	2年次	―	難波／社会人	301
後期	集中	集中	57086	企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）【IP】	橋本久仁彦	2	2年次	―	難波／社会人	302
後期	集中	集中	57087	企画科目（もの語り心理学）【IP】	やまだようこ	2	2年次	―	難波／社会人	303
後期	集中	集中	57081	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）【他】	森崎雅好	2	3年次	―		304
通年	実習	実習	58026	企画科目（臨床実習Ⅰ）【他】	森崎雅好	2	3年次	―		293
通年	実習	実習	58028	企画科目（臨床実習Ⅲ）【他】	森崎雅好	2	3年次	―		295
通年	実習	実習	58029	企画科目（臨床実習Ⅳ）【他】	川口道雄	2	3年次	―		296

3）外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	3	51304	サンスクリット語上級A	徳　重　弘　志	2	2年次	—		179
通年	水	3	53326	サンスクリット語上級S【IP】	徳　重　弘　志	2	2年次	—	難波／社会人	306
通年	水	3	53328	サンスクリット語上級S【LSO】	徳　重　弘　志	2	2年次	—		306
通年	水	4	53404	チベット語A	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	—		180
通年	金	4	55426	チベット語S【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	—		307
通年	木	4	54402	パーリ語A	岡　田　英　作	2	2年次	—		181
通年	木	4	54427	パーリ語S【LSO】	岡　田　英　作	2	2年次	—		181
通年	水	2	53210	中国語Ⅰ	土　生　川　正　賢	2	1年次	—		182
通年	水	1	53101	中国語Ⅱ	土　生　川　正　賢	2	1年次	—		183

4）僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	55304	声明上級	辻　　秀　　道	2	2年次	—		184

5）実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	54403	体育実技	本　　山　　司	2	1年次	教免基礎		185
通年	集中	集中	57003	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	—		186
通年	集中	集中	57002	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	—		187
前期	水	2	53212	巡礼・遍路B	柴　谷　宗　叔	2	1年次	—		188
通年	集中	集中	57026	巡礼・遍路S【他】	密教学科主任	2	1年次	—	社会人	187
前期	水	2	53227	巡礼・遍路T【LSO】	柴　谷　宗　叔	2	1年次	—		188

6）歴史学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53108	書誌学	坂　口　太　郎	2	3年次	学芸員		189
後期	水	1	53157	古文書学	坂　口　太　郎	2	3年次	学芸員		190
後期	金	4	55454	古文書解読A	西　川　哲　矢	2	2年次	学芸員		191
後期	月	4	51477	古文書解読S【IP】	桐　田　貴　史	2	2年次	—	難波／社会人	308
後期	月	4	51479	古文書解読S【LSO】	桐　田　貴　史	2	2年次	—		308

7）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	3	51306	社会学	森　本　一　彦	2	1年次	社会福祉主事		192
後期	水	4	53453	現代の人権	竹　村　和　也	2	1年次	—		193
前期	水	4	53407	宗教学方法論	小　田　龍　哉	2	2年次	—		194
前期	木	5	54502	国語学Ⅰ	鈴　木　晴　久	2	2年次	教免（国語）		195
後期	木	5	54552	国語学Ⅱ	鈴　木　晴　久	2	2年次	教免（国語）		196
前期	月	4	51406	国文法Ⅰ	溝　端　悠　朗	2	2年次	教免（国語）		197
後期	月	4	51454	国文法Ⅱ	溝　端　悠　朗	2	2年次	教免（国語）		198
前期	火	4	52406	日本文学史概説Ⅰ	溝　端　悠　朗	2	2年次	教免（国語）		199
後期	火	4	52453	日本文学史概説Ⅱ	溝　端　悠　朗	2	2年次	教免（国語）		200
前期	火	5	52501	日本文学Ⅰ	溝　端　悠　朗	2	1年次	教免（国語）		201
後期	火	5	52551	日本文学Ⅱ	溝　端　悠　朗	2	1年次	教免（国語）		202
前期	木	3	54306	漢文学概論Ⅰ	南　　昌　　宏	2	2年次	教免（国語）		203
後期	木	3	54351	漢文学概論Ⅱ	南　　昌　　宏	2	2年次	教免（国語）		204
後期	月	3	51352	日本文化特殊講義A	溝　端　悠　朗	2	3年次	教免（国語）		205
前期	木	2	54228	日本文化特殊講義S【IP】	溝　端　悠　朗	2	3年次	—	難波／社会人	309

前期	木	2	54230	日本文化特殊講義Ｓ【LSO】	溝　端　悠　朗	2	3年次	―		309
後期	木	2	54276	日本文化特殊講義Ｔ【IP】	溝　端　悠　朗	2	3年次	―	難波／社会人	310
後期	木	2	54277	日本文化特殊講義Ｔ【LSO】	溝　端　悠　朗	2	3年次	―		310
後期	水	1	53158	中国文化特殊講義Ａ	野　田　悟	2	3年次	教免（国語）		206
前期	火	4	52427	中国文化特殊講義Ｓ【IP】	南　昌　宏	2	2年次	―	難波／社会人	311
前期	火	4	52429	中国文化特殊講義Ｓ【LSO】	南　昌　宏	2	2年次	―		311
後期	火	4	52476	中国文化特殊講義Ｔ【IP】	南　昌　宏	2	2年次	―	難波／社会人	312
後期	火	4	52477	中国文化特殊講義Ｔ【LSO】	南　昌　宏	2	2年次	―		312
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹　村　和　也	2	1年次	教免基礎		207

8）書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	野　田　悟	2	2年次	書道師範		208
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		209
通年	火	1	52101	篆刻	野　田　悟	2	2年次	書道師範		210
通年	火	3	52302	条幅制作Ａ（漢字）	野　田　悟	2	3年次	書道師範		211
通年	木	4	54404	条幅制作Ｂ（かな）	塩野三恵子	2	3年次	書道師範		212
通年	金	1	55102	書道史（日本）	野　田　悟	4	2年次	書道師範		213

9）社会福祉主事科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55205	社会福祉論	溝　渕　淳	2	1年次	社会福祉主事		214
後期	金	2	55253	社会保障論	溝　渕　淳	2	1年次	社会福祉主事		215

10）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	集中	集中	57056	キャリア研修	就　職　担　当	2	2年次	―		216
後期	集中	集中	57057	インターンシップ	就　職　担　当	2	3年次	―		217

11）学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51503	生涯学習概論	櫻　木　潤	2	1年次	学芸員		218
前期	木	4	54408	博物館概論	山　口　文　章	2	1年次	学芸員		219
後期	木	4	54451	博物館経営論	山　口　文　章	2	2年次	学芸員		220
前期	金	3	55309	博物館資料論	坂　口　太　郎	2	2年次	学芸員		221
後期	木	3	54352	博物館資料保存論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		222
後期	集中	集中	57076	博物館展示論【LS】	山　口　隆　介	2	2年次	学芸員		223
前期	木	3	54307	博物館情報・メディア論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		224
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻　木　潤	2	1年次	学芸員		225
通年	実習	実習	58001	博物館実習	櫻木・坂口	3	3年次	学芸員		226

3　自由科目（卒業要件には参入されません）

1）教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52152	教育原論	鈴　木　晴　久	2	1年次	教免必修／社会福祉主事		227
前期	水	2	53213	教職入門	鈴　木　晴　久	2	1年次	教免必修		228
後期	木	1	54155	教育心理学	佐　々　木　聡	2	2年次	教免必修		229
後期	月	3	51353	教育社会学	森　本　一　彦	2	1年次	教免必修		230
前期	集中	集中	57006	特別支援教育	宮　本　直　美	1	1年次	教免必修		231
後期	水	2	53251	教育課程論	鈴　木　晴　久	2	1年次	教免必修		232
前期	木	1	54106	道徳教育指導論	佐　々　木　聡	2	2年次	教免必修		233
前期	火	1	52104	総合的な学習の時間・特別活動	鈴　木　晴　久	2	1年次	教免必修		234
前期	木	2	54204	教育方法論・ICT活用論	佐　々　木　聡	2	2年次	教免必修		236
後期	木	2	54253	生徒指導・進路指導	佐　々　木　聡	2	2年次	教免必修		237
前期	金	3	55308	教育相談	佐　々　木　聡	2	3年次	教免必修		238
前期	月	2	51204	宗教科教育法Ⅰ	松　長　潤　慶	2	2年次	教免（宗教）		239
後期	月	2	51255	宗教科教育法Ⅱ	松　長　潤　慶	2	2年次	教免（宗教）		240
前期	木	5	54503	宗教科教育法Ⅲ	岡　田　英　作	2	3年次	教免（宗教）		241
後期	火	4	52454	宗教科教育法Ⅳ	富　田　向　真	2	3年次	教免（宗教）		242
前期	火	3	52306	国語科教育法Ⅰ	鈴　木　晴　久	2	2年次	教免（国語）		243
後期	火	3	52353	国語科教育法Ⅱ	鈴　木　晴　久	2	2年次	教免（国語）		244
前期	火	2	52204	国語科教育法Ⅲ	溝　端　悠　朗	2	3年次	教免（国語）		245
後期	金	4	55455	国語科教育法Ⅳ	南　　昌　　宏	2	3年次	教免（国語）		246
前期	実習	実習	58002	教育実習Ⅰ	鈴木・佐々木	2	3年次	教免必修		－
前期	木	4	54409	教育実習の研究	鈴木・佐々木	1	3・4年次	教免必修		247

Ｒ３から文学部　密教学科

「備考・履修条件」欄について
難　　波・・・難波サテライト教室にて開講
社 会 人・・・社会人学生に限る（入学時に25歳以上）
留 学 生・・・外国人留学生に限る
已灌頂者・・・已灌頂者に限る
科 目 名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
日　　付・・・集中講義開催日（詳細は掲示などを確認のこと）

1　必修科目

1）「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門Ａ	添　田　隆　昭	2	1年次	—		52
前期	月	3	51327	空海の思想入門Ｓ【IP】	北　川　真　寛	2	1年次	—	難波／社会人	258
前期	月	3	51329	空海の思想入門Ｓ【LSO】	北　川　真　寛	2	1年次	—		258

2）導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57007	導入研修	学　科　主　任	2	1年次	—		53

3）語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52526	英語Ⅰ（再履修）【LS】	森　本　敦　子	2	2年次	教職基礎		55
通年	月	5	51526	英語Ⅱ（再履修）【LS】	森　本　敦　子	2	3年次	教職基礎		57
通年	金	3	55301	漢文	南　　昌　　宏	2	1年次	教免（国語）		58
通年	火	3	52326	漢文Ｓ【IP】	南　　昌　　宏	2	1年次	—	難波／社会人	259
通年	火	3	52328	漢文Ｓ【LSO】	南　　昌　　宏	2	1年次	—		259
通年	月	1	51102	サンスクリット語Ａ	菊　谷　竜　太	2	1年次	—		59
通年	火	4	52426	サンスクリット語Ｓ【IP】	菊　谷　竜　太	2	1年次	—	難波／社会人	260
通年	火	4	52428	サンスクリット語Ｓ【LSO】	菊　谷　竜　太	2	1年次	—		260
通年	金	3	55326	サンスクリット語Ｔ【IP】	前　　谷　　彰	2	1年次	—	難波／社会人	261

4）基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	5	53501	密教学基礎ゼミＦ１	密教学科主任	2	1年次	—		74
後期	水	5	53551	密教学基礎ゼミＦ２	密教学科主任	2	1年次	—		75

5）基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52151	密教学概論Ａ	北　川　真　寛	2	2年次	教免（宗教）		105
後期	月	2	51276	密教学概論Ｓ【OD】	北　川　真　寛	2	2年次	—		264
前期	水	1	53102	仏教学概論Ａ	前　　谷　　彰	2	2年次	教免（宗教）		106
前期	月	2	51228	仏教学概論Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		265
前期	火	1	52103	密教史概説Ａ	徳　重　弘　志	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		107
後期	木	5	54576	密教史概説Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		266
後期	水	1	53156	仏教史概説Ａ	前　　谷　　彰	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		108
前期	木	5	54526	仏教史概説Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		267

6）実技科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53402	常用経典	宮　田　永　明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻　　秀　　道	2	1年次	僧階補任		77
通年	木	1	54101	法式	加　藤　善　弘	2	1年次	僧階補任		78
通年	火	4	52401	布教Ａ	橋　本　真　人	2	1年次	僧階補任		79
通年	木	3	54301	布教Ｂ（詠歌）	辻・西山・岩田	2	1年次	僧階補任		80
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野　　田　　悟	2	1年次	書道師範／教免（国語）		81
通年	木	4	54426	漢字ＩＳ【IP】	野　　田　　悟	2	1年次	—	難波／社会人	262

通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範		82

7）講読

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	52201	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	教免（宗教）		114
通年	火	2	52202	祖典講読ⅠB	北川真寛	4	2年次	教免（宗教）		115
通年	月	5	51527	祖典講読ⅠS【IP】	土居夏樹	4	3年次	—	難波／社会人	269
通年	月	5	51532	祖典講読ⅠS【LSO】	土居夏樹	4	3年次	—		269
通年	月	3	51302	祖典講読ⅡA	大柴清圓	4	3年次	教免（宗教）		116
通年	月	4	51426	祖典講読ⅡB【LS】	米田弘仁	4	3年次	教免（宗教）		117
通年	木	3	54302	祖典講読ⅡC	川崎一洋	4	3年次	教免（宗教）		118
通年	月	3	51326	祖典講読ⅡS【LSO】	大柴清圓	4	3年次	—		116
通年	木	3	54326	祖典講読ⅡT【LSO】	川崎一洋	4	3年次	—		118
通年	木	2	54226	宗典講読B【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	3年次	—	已灌頂者	119
通年	水	4	53426	宗典講読S【IP】	川崎一洋	4	3年次	—	難波／社会人	270
通年	水	4	53428	宗典講読S【LSO】	川崎一洋	4	3年次	—		270
通年	水	2	53226	宗典講読T【IP】	徳重弘志	4	3年次	—	難波／社会人	271
通年	水	2	53229	宗典講読T【LSO】	徳重弘志	4	3年次	—		271

8）実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57001	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	—		87
通年	集中	集中	57004	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	—		88
通年	集中	集中	57003	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	—		186
通年	集中	集中	57002	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	—		187
前期	水	2	53212	巡礼・遍路B	柴谷宗叔	2	1年次	—		188
通年	集中	集中	57026	巡礼・遍路S【他】	密教学科主任	2	1年次	—	社会人	187
前期	水	2	53227	巡礼・遍路T【LSO】	柴谷宗叔	2	1年次	—		188

9）特殊講義

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	51103	密教学特殊講義A	松長潤慶	2	3年次	教免（宗教）		122
前期	火	4	52405	密教学特殊講義B	和田圭子	2	3年次	学芸員／教免（宗教）		123
後期	火	4	52452	密教学特殊講義C	和田圭子	2	3年次	学芸員／教免（宗教）		124
後期	月	2	51252	密教学特殊講義D	森本一彦	2	3年次	教免（宗教）		125
前期	水	3	53327	密教学特殊講義S【IP】	川崎一洋	2	3年次	—	難波／社会人	272
前期	水	3	53329	密教学特殊講義S【LSO】	川崎一洋	2	3年次	—		272
後期	水	3	53376	密教学特殊講義T【IP】	川崎一洋	2	3年次	—	難波／社会人	273
後期	水	3	53377	密教学特殊講義T【LSO】	川崎一洋	2	3年次	—		273
後期	水	2	53276	密教学特殊講義U【IP】	柴谷宗叔	2	3年次	—	難波／社会人	274
後期	水	2	53277	密教学特殊講義U【LSO】	柴谷宗叔	2	3年次	—		274
前期	木	4	54406	仏教学特殊講義A	那須真裕美	2	3年次	教免（宗教）		126
前期	木	5	54501	仏教学特殊講義B	前谷彰	2	3年次	教免（宗教）		127
前期	木	1	54103	仏教学特殊講義D	森崎雅好	2	3年次	教免（宗教）		128
前期	木	1	54104	仏教学特殊講義E	徐東軍	2	3年次	教免（宗教）		129
後期	木	1	54153	仏教学特殊講義F	森崎雅好	2	2年次	教免（宗教）		130
後期	集中	集中	57051	仏教学特殊講義G	井上ウィマラ	2	3年次	教免（宗教）		131
前期	金	4	55429	仏教学特殊講義S【IP】	前谷彰	2	3年次	—	難波／社会人	275
前期	金	3	55327	仏教学特殊講義T【IP】	岡田英作	2	3年次	—	難波／社会人	276
前期	金	3	55330	仏教学特殊講義T【LSO】	岡田英作	2	3年次	—		276

後期	集中	集中	57077	仏教学特殊講義Ｕ【IP】	井上ウィマラ	2	3年次	―	社会人	131
前期	月	1	51104	真言密教特殊講義Ａ	中　西　雄　泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	132
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義Ｂ	中　西　雄　泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	133
後期	集中	集中	57052	真言密教特殊講義Ｃ	佐　藤　隆　彦	2	3年次	教免（宗教）		134
前期	金	2	55226	真言密教特殊講義Ｄ【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	135
後期	金	2	55276	真言密教特殊講義Ｅ【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	136
前期	月	4	51404	真言密教特殊講義Ｆ	佐　藤　隆　彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	137
後期	月	4	51452	真言密教特殊講義Ｇ	佐　藤　隆　彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	138
前期	月	4	51428	真言密教特殊講義Ｓ【IP】	北　川　真　寛	2	3年次	―	難波／社会人	277
前期	月	4	51430	真言密教特殊講義Ｓ【LSO】	北　川　真　寛	2	3年次	―		277
後期	集中	集中	57079	真言密教特殊講義Ｔ【IP】	五十嵐啓道	2	3年次	―	難波／社会人	278
後期	集中	集中	57078	真言密教特殊講義Ｕ【IP】	佐　藤　隆　彦	2	3年次	―	社会人	134

10）講読演習

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51201	密教学講読演習Ａ	大　柴　清　圓	2	3年次	教免（宗教）		139
後期	月	2	51253	密教学講読演習Ｂ	大　柴　清　圓	2	3年次	教免（宗教）		140
前期	金	3	55307	密教学講読演習Ｄ	土　居　夏　樹	2	3年次	教免（宗教）		141
後期	木	1	54152	密教学講読演習Ｆ	徐　東　軍	2	3年次	教免（宗教）		142
後期	月	3	51376	密教学講読演習Ｓ【IP】	土　居　夏　樹	2	3年次	―	難波／社会人	279
後期	月	3	51377	密教学講読演習Ｓ【LSO】	土　居　夏　樹	2	3年次	―		279
後期	火	5	52576	密教学講読演習Ｔ【IP】	森　崎　雅　好	2	3年次	―	難波／社会人	280
後期	火	5	52577	密教学講読演習Ｔ【LSO】	森　崎　雅　好	2	3年次	―		280
後期	火	2	52276	密教学講読演習Ｕ【IP】	櫻　木　潤	2	3年次	―	難波／社会人	281
後期	火	2	52278	密教学講読演習Ｕ【LSO】	櫻　木　潤	2	3年次	―		281
後期	木	5	54551	仏教学講読演習Ａ	前　谷　彰	2	3年次	教免（宗教）		143
前期	月	2	51202	仏教学講読演習Ｂ	櫻　木　潤	2	3年次	教免（宗教）		144
後期	木	2	54251	仏教学講読演習Ｃ	岡　田　英　作	2	3年次	教免（宗教）		145
前期	月	4	51405	仏教学講読演習Ｄ	菊　谷　竜　太	2	3年次	教免（宗教）		146
後期	月	4	51453	仏教学講読演習Ｅ	菊　谷　竜　太	2	3年次	教免（宗教）		147
後期	集中	集中	57053	仏教学講読演習Ｆ	平　岡　宏　一	2	3年次	教免（宗教）		148
後期	金	4	55478	仏教学講読演習Ｓ【IP】	前　谷　彰	2	3年次	―	難波／社会人	282
後期	金	3	55376	仏教学講読演習Ｔ【IP】	岡　田　英　作	2	3年次	―	難波／社会人	283
後期	金	3	55377	仏教学講読演習Ｔ【LSO】	岡　田　英　作	2	3年次	―		283
後期	火	2	52277	仏教学講読演習Ｕ【IP】	坂　口　太　郎	2	3年次	―	難波／社会人	284
前期	火	3	52304	真言密教講読演習Ｂ	北　川　真　寛	2	3年次	教免（宗教）		149
通年	集中	集中	57008	真言密教講読演習Ｃ	佐　藤　隆　彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	150
前期	金	1	55126	真言密教講読演習Ｄ【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	―	已灌頂者	151
後期	金	1	55176	真言密教講読演習Ｅ【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	―	已灌頂者	152
後期	火	3	52352	真言密教講読演習Ｇ	木　下　智　雄	2	3年次	教免（宗教）		153
後期	月	4	51476	真言密教講読演習Ｓ【IP】	北　川　真　寛	2	3年次	―	難波／社会人	285

11）演習

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53201	密教学演習Ｂ	佐　藤　隆　彦	4	3・4年次	―		154
通年	水	2	53203	密教学演習Ｄ	櫻　木　潤	4	3・4年次	―		156
通年	水	2	53205	密教学演習Ｆ	松　長　潤　慶	4	3・4年次	―		158
通年	水	2	53206	密教学演習Ｇ	菊　谷　竜　太	4	3・4年次	―		159
通年	水	2	53207	密教学演習Ｋ	坂　口　太　郎	4	3・4年次	―		161
通年	月	2	51226	密教学演習Ｌ【IP】	土　居　夏　樹	4	4年次	―	難波／社会人	286

通年	月	2	51227	密教学演習Ｌ【LSO】	土　居　夏　樹	4	4年次	―	社会人	286
通年	水	2	53208	密教学演習Ｎ	北　川　真　寛	4	3・4年次	―		162

2　選択科目

1）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51203	総合科目（仏教入門ＩＡ）	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	―		163
後期	月	2	51254	総合科目（仏教入門ⅡＡ）	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	―		164
前期	金	5	55526	総合科目（仏教入門ＩＳ）【IP】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	―	難波／社会人	287
前期	金	5	55527	総合科目（仏教入門ＩＳ）【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	―		287
後期	金	5	55576	総合科目（仏教入門ⅡＳ）【IP】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	―	難波／社会人	288
後期	金	5	55577	総合科目（仏教入門ⅡＳ）【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	―		288

2）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目（仏画）	有　松　孝　雄	2	1年次	学芸員		171
前期	火	3	52305	企画科目（高野山の歴史と文化）	木　下　智　雄	2	3年次	―		172
前期	火	3	52327	企画科目（高野山の歴史と文化Ｓ）【LSO】	木　下　智　雄	2	3年次	―		172
前期	水	3	53305	企画科目（寺院経営入門）	藤　本　善　光	2	1年次	―		173
前期	水	4	53406	企画科目（数学史概論）	木　地　茂　典	2	1年次	―		250
後期	水	4	53452	企画科目（思考力講座）	木　地　茂　典	2	1年次	―		252
前期	木	1	54105	企画科目（社会のしくみ）	森　本　一　彦	2	1年次	―		251
後期	木	1	54154	企画科目（人間と文化）	森　本　一　彦	2	1年次	―		253
前期	木	2	54202	企画科目（歴史学入門）	坂　口　太　郎	2	1年次	―		174
後期	木	2	54252	企画科目（歴史学入門演習）	坂　口　太　郎	2	1年次	―		178
通年	木	3	54305	企画科目（社会調査）	森　本　一　彦	2	2年次	―		175
通年	木	4	54401	企画科目（詠歌上級）	辻・西山・岩田	2	1年次	―		176
前期	木	4	54407	企画科目（地域連携）	森　本　一　彦	2	2年次	―		177
前期	金	4	55404	企画科目（カウンセリング論Ａ）	佐　々　木　聡	2	2年次	―		167
前期	金	4	55432	企画科目（カウンセリング論Ａ）【LSO】	佐　々　木　聡	2	2年次	―		167
後期	金	4	55452	企画科目（学校心理学Ａ）	佐　々　木　聡	2	2年次	―		168
後期	金	4	55479	企画科目（学校心理学Ａ）【LSO】	佐　々　木　聡	2	2年次	―		168
通年	月	3	51303	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	松　本　貴　子	2	1年次	―	留学生	169
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	松　本　貴　子	2	1年次	―	留学生	170
通年	水	3	53304	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	藤　井　知　枝	2	1年次	―	留学生	165
通年	水	4	53403	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	藤　井　知　枝	2	1年次	―	留学生	166
前期	月	6	51629	企画科目（カウンセリング論Ｂ）【IP】	上　野　和　久	2	1年次	―	難波／社会人	313
前期	月	6	51628	企画科目（カウンセリング論Ｂ）【LSO】	上　野　和　久	2	1年次	―		313
後期	月	6	51679	企画科目（学校心理学Ｂ）【IP】	上　野　和　久	2	1年次	―	難波／社会人	314
後期	月	6	51678	企画科目（学校心理学Ｂ）【LSO】	上　野　和　久	2	1年次	―		314
後期	月	7	51777	企画科目（コミュニケーション心理学）【OD】	東　真　由　美	2	2年次	―		323
前期	火	6	52629	企画科目（悲嘆学）【IP】	森　崎　雅　好	2	2年次	―	難波／社会人	315
前期	火	6	52628	企画科目（悲嘆学）【LSO】	森　崎　雅　好	2	2年次	―		315
後期	火	6	52679	企画科目（自殺学）【IP】	森　崎　雅　好	2	2年次	―	難波／社会人	324
後期	火	6	52678	企画科目（自殺学）【LSO】	森　崎　雅　好	2	2年次	―		324
通年	水	4	53427	企画科目（仏画Ｓ）【IP】	徐　　東　　軍	2	1年次	―	難波／社会人	289
前期	水	6	53629	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）【IP】	木　下　忠　恭	2	2年次	―	難波／社会人	316
前期	水	6	53628	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）【LSO】	木　下　忠　恭	2	2年次	―		316
後期	水	6	53679	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）【IP】	木　下　忠　恭	2	2年次	―	難波／社会人	325

後期	水	6	53678	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）【LSO】	木下忠恭	2	2年次	—		325
前期	水	7	53729	企画科目（深層心理学）【IP】	森崎雅好	2	2年次	—	難波／社会人	317
前期	水	7	53728	企画科目（深層心理学）【LSO】	森崎雅好	2	2年次	—		317
後期	水	7	53779	企画科目（福祉心理学）【IP】	森崎雅好	2	2年次	—	難波／社会人	326
後期	水	7	53778	企画科目（福祉心理学）【LSO】	森崎雅好	2	2年次	—		326
前期	木	6	54629	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）【IP】	大河内大博	2	2年次	—	難波／社会人	319
前期	木	6	54628	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）【LSO】	大河内大博	2	2年次	—		319
後期	木	6	54679	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）【IP】	大河内大博	2	2年次	—	難波／社会人	328
後期	木	6	54678	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）【LSO】	大河内大博	2	2年次	—		328
前期	金	6	55629	企画科目（心理統計学）【IP】	五明優介	2	2年次	—	難波／社会人	320
前期	金	6	55628	企画科目（心理統計学）【LSO】	五明優介	2	2年次	—		320
後期	金	6	55679	企画科目（心理測定法）【IP】	五明優介	2	2年次	—	難波／社会人	329
後期	金	6	55678	企画科目（心理測定法）【LSO】	五明優介	2	2年次	—		329
前期	金	7	55781	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）【IP】	五明優介	2	2年次	—	難波／社会人	330
後期	金	7	55783	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）【IP】	五明優介	2	2年次	—	難波／社会人	331
前期	金	7	55780	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）【LSO】	五明優介	2	2年次	—		330
後期	金	7	55782	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）【LSO】	五明優介	2	2年次	—		331
後期	土	第1週	56086	企画科目（社会心理学）【IP】	松下歩睦	2	2年次	—	難波／社会人	332
後期	土	第1週	56083	企画科目（社会心理学）【LSO】	松下歩睦	2	2年次	—		332
前期	土	第2週	56033	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅰ）【IP】	山添正	2	2年次	—	難波／社会人	321
前期	土	第2週	56031	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅰ）【LSO】	山添正	2	2年次	—		321
後期	土	第2週	56087	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅱ）【IP】	山添正	2	2年次	—	難波／社会人	333
後期	土	第2週	56084	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅱ）【LSO】	山添正	2	2年次	—		333
前期	土	第3週	56027	企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅰ）【IP】	森崎雅好	2	1年次	—	難波／社会人	292
後期	土	第3週	56078	企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅱ）【IP】	森崎雅好	2	1年次	—	難波／社会人	298
前期	土	第4週	56034	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）【IP】	山本和美	2	2年次	—	難波／社会人	322
前期	土	第4週	56032	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）【LSO】	山本和美	2	2年次	—		322
後期	土	第4週	56088	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）【IP】	森崎雅好	2	2年次	—	難波／社会人	334
後期	土	第4週	56085	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）【LSO】	森崎雅好	2	2年次	—		334
後期	集中	集中	57080	企画科目（仏教美術入門Ｓ）【IP】	内藤栄	2	1年次	—	難波／社会人	290
後期	集中	集中	57083	企画科目（スピリチュアルケア概論）【IP】	窪寺俊之	2	2年次	—	難波／社会人	299
後期	集中	集中	57084	企画科目（死生観）【IP】	山本佳世子	2	2年次	—	難波／社会人	300
後期	集中	集中	57085	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）【IP】	橋本久仁彦	2	2年次	—	難波／社会人	301
後期	集中	集中	57086	企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）【IP】	橋本久仁彦	2	2年次	—	難波／社会人	302
後期	集中	集中	57087	企画科目（もの語り心理学）【IP】	やまだようこ	2	2年次	—	難波／社会人	303
後期	集中	集中	57081	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）【他】	森崎雅好	2	3年次	—		304
後期	集中	集中	57082	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）【他】	森崎雅好	2	4年次	—		305
通年	実習	実習	58026	企画科目（臨床実習Ⅰ）【他】	森崎雅好	2	3年次	—		293
通年	実習	実習	58027	企画科目（臨床実習Ⅱ）【他】	森崎雅好	2	4年次	—		294
通年	実習	実習	58028	企画科目（臨床実習Ⅲ）【他】	森崎雅好	2	3年次	—		295
通年	実習	実習	58029	企画科目（臨床実習Ⅳ）【他】	川口道雄	2	3年次	—		296
通年	実習	実習	58030	企画科目（臨床実習Ⅴ）【他】	川口道雄	2	4年次	—		297

3）外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	3	51304	サンスクリット語上級A	徳　重　弘　志	2	2年次	—		179
通年	水	3	53326	サンスクリット語上級S【IP】	徳　重　弘　志	2	2年次	—	難波／社会人	306
通年	水	3	53328	サンスクリット語上級S【LSO】	徳　重　弘　志	2	2年次	—		306
通年	水	4	53404	チベット語A	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	—		180
通年	金	4	55426	チベット語S【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	—		307
通年	木	4	54402	パーリ語A	岡　田　英　作	2	2年次	—		181
通年	木	4	54427	パーリ語S【LSO】	岡　田　英　作	2	2年次	—		181
通年	水	2	53210	中国語Ⅰ	土 生 川 正 賢	2	1年次	—		182
通年	水	1	53101	中国語Ⅱ	土 生 川 正 賢	2	1年次	—		183

4）僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	55304	声明上級	辻　秀　道	2	2年次	—		184
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋　藤　天　響	2	1年次	—		83
通年	金	5	54227	梵字悉曇S【IP】	添　野　了	2	1年次	—	難波／社会人	263

5）実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	54403	体育実技	本　山　司	2	1年次	教免基礎		185
通年	水	3	53303	情報処理	木　地　茂　典	2	1年次	教免基礎		94
通年	火	4	52402	伝統文化（華道）	五　味　和　樹	2	1年次	—		84
通年	水	3	53302	伝統文化（茶道）	岡　本　文　音	2	1年次	—		85
通年	月	3	51301	宗教芸能（宗教舞踊）	高　祖　・　辻	2	1年次	—		86

6）歴史学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	3	55306	歴史学	坂　口　太　郎	2	2年次	学芸員		109
前期	火	2	52226	歴史学S【IP】	坂　口　太　郎	2	2年次	—	難波／社会人	268
前期	火	2	52227	歴史学S【LSO】	坂　口　太　郎	2	2年次	—		268
前期	水	1	53108	書誌学	坂　口　太　郎	2	3年次	学芸員		189
後期	水	1	53157	古文書学	坂　口　太　郎	2	3年次	学芸員		190
後期	金	4	55454	古文書解読A	西　川　哲　矢	2	2年次	学芸員		191
後期	月	4	51477	古文書解読S【IP】	桐　田　貴　史	2	2年次	—	難波／社会人	308
後期	月	4	51479	古文書解読S【LSO】	桐　田　貴　史	2	2年次	—		308

7）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55204	宗教学Ⅰ	奥　山　直　司	2	2年次	教免（宗教）		110
前期	木	4	54433	宗教学ⅠS【IP】	小　田　龍　哉	2	2年次	—	難波／社会人	318
前期	木	4	54432	宗教学ⅠS【LSO】	小　田　龍　哉	2	2年次	—		318
後期	金	2	55252	宗教学Ⅱ	奥　山　直　司	2	2年次	教免（宗教）		111
後期	木	4	54479	宗教学ⅡS【IP】	小　田　龍　哉	2	2年次	—	難波／社会人	327
後期	木	4	54478	宗教学ⅡS【LSO】	小　田　龍　哉	2	2年次	—		327
後期	金	4	55453	宗教思想史ⅠA	奥　山　直　司	2	1年次	教免（宗教）		89
後期	金	4	55477	宗教思想史ⅠS【LSO】	奥　山　直　司	2	1年次	—		89
前期	月	4	51402	宗教思想史ⅡA	櫻　木　潤	2	1年次	教免（宗教）		90
前期	月	4	51427	宗教思想史ⅡS【LSO】	櫻　木　潤	2	1年次	—		90
前期	金	2	55203	心理学ⅠA	佐　々　木　聡	2	1年次	社会福祉主事		92

前期	金	2	55227	心理学ＩＳ【LSO】	佐々木聡	2	1年次	―		92
後期	金	2	55251	心理学ⅡＡ	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		93
後期	金	2	55277	心理学ⅡＳ【LSO】	佐々木聡	2	1年次	―		93
前期	月	3	51306	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		192
後期	水	4	53453	現代の人権	竹村和也	2	1年次	―		193
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		112
後期	金	1	55151	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		113
前期	金	4	55402	哲学	南昌宏	2	1年次	教免（宗教）		91
前期	金	4	55427	哲学Ｓ【LSO】	南昌宏	2	1年次	―		91
前期	水	4	53407	宗教学方法論	小田龍哉	2	2年次	―		194
前期	木	5	54502	国語学Ⅰ	鈴木晴久	2	2年次	教免（国語）		195
後期	木	5	54552	国語学Ⅱ	鈴木晴久	2	2年次	教免（国語）		196
前期	月	4	51406	国文法Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免（国語）		197
後期	月	4	51454	国文法Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免（国語）		198
前期	火	4	52406	日本文学史概説Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免（国語）		199
後期	火	4	52453	日本文学史概説Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免（国語）		200
前期	火	5	52501	日本文学Ⅰ	溝端悠朗	2	1年次	教免（国語）		201
後期	火	5	52551	日本文学Ⅱ	溝端悠朗	2	1年次	教免（国語）		202
前期	木	3	54306	漢文学概論Ⅰ	南昌宏	2	2年次	教免（国語）		203
後期	木	3	54351	漢文学概論Ⅱ	南昌宏	2	2年次	教免（国語）		204
後期	月	3	51352	日本文化特殊講義Ａ	溝端悠朗	2	3年次	教免（国語）		205
前期	木	2	54228	日本文化特殊講義Ｓ【IP】	溝端悠朗	2	3年次	―	難波／社会人	309
前期	木	2	54230	日本文化特殊講義Ｓ【LSO】	溝端悠朗	2	3年次	―		309
後期	木	2	54276	日本文化特殊講義Ｔ【IP】	溝端悠朗	2	3年次	―	難波／社会人	310
後期	木	2	54277	日本文化特殊講義Ｔ【LSO】	溝端悠朗	2	3年次	―		310
後期	水	1	53158	中国文化特殊講義Ａ	野田悟	2	3年次	教免（国語）		206
前期	火	4	52427	中国文化特殊講義Ｓ【IP】	南昌宏	2	2年次	―	難波／社会人	311
前期	火	4	52429	中国文化特殊講義Ｓ【LSO】	南昌宏	2	2年次	―		311
後期	火	4	52476	中国文化特殊講義Ｔ【IP】	南昌宏	2	2年次	―	難波／社会人	312
後期	火	4	52477	中国文化特殊講義Ｔ【LSO】	南昌宏	2	2年次	―		312
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	教免基礎		207

8）書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	野田悟	2	2年次	書道師範		208
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		209
通年	火	1	52101	篆刻	野田悟	2	2年次	書道師範		210
通年	火	3	52302	条幅制作Ａ（漢字）	野田悟	2	3年次	書道師範		211
通年	木	4	54404	条幅制作Ｂ（かな）	塩野三恵子	2	3年次	書道師範		212
通年	金	1	55102	書道史（日本）	野田悟	4	2年次	書道師範		213

9）社会福祉主事科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55205	社会福祉論	溝渕淳	2	1年次	社会福祉主事		214
後期	金	2	55253	社会保障論	溝渕淳	2	1年次	社会福祉主事		215

10）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52203	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次	―	キャリアデザインⅡ	101
後期	火	2	52251	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	1年次	―	キャリアデザインⅠ	102

前期	火	4	52404	キャリアデザインⅢ	高 田 綾 子	2	2年次	—	キャリアデザインⅣ	103
後期	火	4	52451	キャリアデザインⅣ	高 田 綾 子	2	2年次	—	キャリアデザインⅢ	104
前期	火	3	52303	キャリアデザインⅤ	高 田 綾 子	2	3年次	—	キャリアデザインⅥ	120
後期	火	3	52351	キャリアデザインⅥ	高 田 綾 子	2	3年次	—	キャリアデザインⅤ	121
後期	集中	集中	57056	キャリア研修	就 職 担 当	2	2年次	—		216
後期	集中	集中	57057	インターンシップ	就 職 担 当	2	3年次	—		217

11）学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51503	生涯学習概論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		218
前期	木	4	54408	博物館概論	山 口 文 章	2	1年次	学芸員		219
後期	木	4	54451	博物館経営論	山 口 文 章	2	2年次	学芸員		220
前期	金	3	55309	博物館資料論	坂 口 太 郎	2	2年次	学芸員		221
後期	木	3	54352	博物館資料保存論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		222
後期	集中	集中	57076	博物館展示論【LS】	山 口 隆 介	2	2年次	学芸員		223
前期	木	3	54307	博物館情報・メディア論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		224
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		225
通年	実習	実習	58001	博物館実習	櫻木・坂口	3	3年次	学芸員		226

3 自由科目（卒業要件には参入されません）

1）教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52152	教育原論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修／社会福祉主事		227
前期	水	2	53213	教職入門	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		228
後期	木	1	54155	教育心理学	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		229
後期	月	3	51353	教育社会学	森 本 一 彦	2	1年次	教免必修		230
前期	集中	集中	57006	特別支援教育	宮 本 直 美	1	1年次	教免必修		231
後期	水	2	53251	教育課程論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		232
前期	木	1	54106	道徳教育指導論	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		233
前期	火	1	52104	総合的な学習の時間・特別活動	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		234
前期	木	2	54203	教育方法論	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		235
後期	木	2	54253	生徒指導・進路指導	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		237
前期	金	3	55308	教育相談	佐 々 木 聡	2	3年次	教免必修		238
前期	月	2	51204	宗教科教育法Ⅰ	松 長 潤 慶	2	2年次	教免（宗教）		239
後期	月	2	51255	宗教科教育法Ⅱ	松 長 潤 慶	2	2年次	教免（宗教）		240
前期	木	5	54503	宗教科教育法Ⅲ	岡 田 英 作	2	3年次	教免（宗教）		241
後期	火	4	52454	宗教科教育法Ⅳ	富 田 向 真	2	3年次	教免（宗教）		242
前期	火	3	52306	国語科教育法Ⅰ	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免（国語）		243
後期	火	3	52353	国語科教育法Ⅱ	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免（国語）		244
前期	火	2	52204	国語科教育法Ⅲ	溝 端 悠 朗	2	3年次	教免（国語）		245
後期	金	4	55455	国語科教育法Ⅳ	南 昌 宏	2	3年次	教免（国語）		246
前期	実習	実習	58002	教育実習Ⅰ	鈴木・佐々木	2	3年次	教免必修		－
前期	木	4	54409	教育実習の研究	鈴木・佐々木	1	3・4年次	教免必修		247

H31・R２文学部　密教学科

「備考・履修条件」欄について
難　　波・・・難波サテライト教室にて開講
社 会 人・・・社会人学生に限る（入学時に25歳以上）
留 学 生・・・外国人留学生に限る
已灌頂者・・・已灌頂者に限る
科 目 名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
日　　付・・・集中講義開催日（詳細は掲示などを確認のこと）

1　必修科目

1）「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	添　田　隆　昭	2	1年次	—		52
前期	月	3	51327	空海の思想入門S【IP】	北　川　真　寛	2	1年次	—	難波／社会人	258
前期	月	3	51329	空海の思想入門S【LSO】	北　川　真　寛	2	1年次	—		258

2）導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57007	導入研修	学　科　主　任	2	1年次	—		53

3）語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52526	英語Ⅰ（再履修）【LS】	森　本　敦　子	2	2年次	教職基礎		55
通年	月	5	51526	英語Ⅱ（再履修）【LS】	森　本　敦　子	2	3年次	教職基礎		57
通年	金	3	55301	漢文	南　　昌　　宏	2	1年次	教免（国語）		58
通年	火	3	52326	漢文S【IP】	南　　昌　　宏	2	1年次	—	難波／社会人	259
通年	火	3	52328	漢文S【LSO】	南　　昌　　宏	2	1年次	—		259
通年	月	1	51102	サンスクリット語A	菊　谷　竜　太	2	1年次	—		59
通年	火	4	52426	サンスクリット語S【IP】	菊　谷　竜　太	2	1年次	—	難波／社会人	260
通年	火	4	52428	サンスクリット語S【LSO】	菊　谷　竜　太	2	1年次	—		260
通年	金	3	55326	サンスクリット語T【IP】	前　　谷　　彰	2	1年次	—	難波／社会人	261

4）基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	5	53501	密教学基礎ゼミF1	密教学科主任	2	1年次	—		74
後期	水	5	53551	密教学基礎ゼミF2	密教学科主任	2	1年次	—		75

5）基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52151	密教学概論A	北　川　真　寛	2	2年次	教免（宗教）		105
後期	月	2	51276	密教学概論S【OD】	北　川　真　寛	2	2年次	—		264
前期	水	1	53102	仏教学概論A	前　　谷　　彰	2	2年次	教免（宗教）		106
前期	月	2	51228	仏教学概論S【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		265
前期	火	1	52103	密教史概説A	徳　重　弘　志	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		107
後期	木	5	54576	密教史概説S【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		266
後期	水	1	53156	仏教史概説A	前　　谷　　彰	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		108
前期	木	5	54526	仏教史概説S【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	—		267

6）実技科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53402	常用経典	宮　田　永　明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻　　秀　　道	2	1年次	僧階補任		77
通年	木	1	54101	法式	加　藤　善　弘	2	1年次	僧階補任		78
通年	火	4	52401	布教A	橋　本　真　人	2	1年次	僧階補任		79
通年	木	3	54301	布教B（詠歌）	辻・西山・岩田	2	1年次	僧階補任		80
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野　　田　　悟	2	1年次	書道師範／教免（国語）		81
通年	木	4	54426	漢字ⅠS【IP】	野　　田　　悟	2	1年次	—	難波／社会人	262

通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範		82

7）講読

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	52201	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	教免（宗教）		114
通年	火	2	52202	祖典講読ⅠB	北川真寛	4	2年次	教免（宗教）		115
通年	月	5	51527	祖典講読ⅠS【IP】	土居夏樹	4	3年次	—	難波／社会人	269
通年	月	5	51532	祖典講読ⅠS【LSO】	土居夏樹	4	3年次	—		269
通年	月	3	51302	祖典講読ⅡA	大柴清圓	4	3年次	教免（宗教）		116
通年	月	4	51426	祖典講読ⅡB【LS】	米田弘仁	4	3年次	教免（宗教）		117
通年	木	3	54302	祖典講読ⅡC	川崎一洋	4	3年次	教免（宗教）		118
通年	月	3	51326	祖典講読ⅡS【LSO】	大柴清圓	4	3年次	—		116
通年	木	3	54326	祖典講読ⅡT【LSO】	川崎一洋	4	3年次	—		118
通年	木	2	54226	宗典講読B【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	3年次	—	已灌頂者	119
通年	水	4	53426	宗典講読S【IP】	川崎一洋	4	3年次	—	難波／社会人	270
通年	水	4	53428	宗典講読S【LSO】	川崎一洋	4	3年次	—		270
通年	水	2	53226	宗典講読T【IP】	徳重弘志	4	3年次	—	難波／社会人	271
通年	水	2	53229	宗典講読T【LSO】	徳重弘志	4	3年次	—		271

8）実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57001	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	—		87
通年	集中	集中	57004	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	—		88
通年	集中	集中	57003	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	—		186
通年	集中	集中	57002	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	—		187
前期	水	2	53212	巡礼・遍路B	柴谷宗叔	2	1年次	—		188
通年	集中	集中	57026	巡礼・遍路S【他】	密教学科主任	2	1年次	—	社会人	187
前期	水	2	53227	巡礼・遍路T【LSO】	柴谷宗叔	2	1年次	—		188

9）特殊講義

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	51103	密教学特殊講義A	松長潤慶	2	3年次	教免（宗教）		122
前期	火	4	52405	密教学特殊講義B	和田圭子	2	3年次	学芸員／教免（宗教）		123
後期	火	4	52452	密教学特殊講義C	和田圭子	2	3年次	学芸員／教免（宗教）		124
前期	水	3	53327	密教学特殊講義S【IP】	川崎一洋	2	3年次	—	難波／社会人	272
前期	水	3	53329	密教学特殊講義S【LSO】	川崎一洋	2	3年次	—		272
後期	水	3	53376	密教学特殊講義T【IP】	川崎一洋	2	3年次	—	難波／社会人	273
後期	水	3	53377	密教学特殊講義T【LSO】	川崎一洋	2	3年次	—		273
後期	水	2	53276	密教学特殊講義U【IP】	柴谷宗叔	2	3年次	—	難波／社会人	274
後期	水	2	53277	密教学特殊講義U【LSO】	柴谷宗叔	2	3年次	—		274
前期	木	4	54406	仏教学特殊講義A	那須真裕美	2	3年次	教免（宗教）		126
前期	木	5	54501	仏教学特殊講義B	前谷彰	2	3年次	教免（宗教）		127
前期	木	1	54103	仏教学特殊講義D	森崎雅好	2	3年次	教免（宗教）		128
前期	木	1	54104	仏教学特殊講義E	徐東軍	2	3年次	教免（宗教）		129
後期	木	1	54153	仏教学特殊講義F	森崎雅好	2	2年次	教免（宗教）		130
後期	集中	集中	57051	仏教学特殊講義G	井上ウィマラ	2	3年次	教免（宗教）		131
前期	金	4	55429	仏教学特殊講義S【IP】	前谷彰	2	3年次	—	難波／社会人	275
前期	金	3	55327	仏教学特殊講義T【IP】	岡田英作	2	3年次	—	難波／社会人	276
前期	金	3	55330	仏教学特殊講義T【LSO】	岡田英作	2	3年次	—		276

後期	集中	集中	57077	仏教学特殊講義U【IP】	井上ウィマラ	2	3年次	―	社会人	131
前期	月	1	51104	真言密教特殊講義A	中西雄泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	132
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義B	中西雄泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	133
後期	集中	集中	57052	真言密教特殊講義C	佐藤隆彦	2	3年次	教免（宗教）		134
前期	金	2	55226	真言密教特殊講義D【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	135
後期	金	2	55276	真言密教特殊講義E【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	136
前期	月	4	51404	真言密教特殊講義F	佐藤隆彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	137
後期	月	4	51452	真言密教特殊講義G	佐藤隆彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	138
前期	月	4	51428	真言密教特殊講義S【IP】	北川真寛	2	3年次	―	難波／社会人	277
前期	月	4	51430	真言密教特殊講義S【LSO】	北川真寛	2	3年次	―		277
後期	集中	集中	57079	真言密教特殊講義T【IP】	五十嵐啓道	2	3年次	―	難波／社会人	278
後期	集中	集中	57078	真言密教特殊講義U【IP】	佐藤隆彦	2	3年次	―	社会人	134

10）講読演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51201	密教学講読演習A	大柴清圓	2	3年次	教免（宗教）		139
後期	月	2	51253	密教学講読演習B	大柴清圓	2	3年次	教免（宗教）		140
前期	金	3	55307	密教学講読演習D	土居夏樹	2	3年次	教免（宗教）		141
後期	木	1	54152	密教学講読演習F	徐東軍	2	3年次	教免（宗教）		142
後期	月	3	51376	密教学講読演習S【IP】	土居夏樹	2	3年次	―	難波／社会人	279
後期	月	3	51377	密教学講読演習S【LSO】	土居夏樹	2	3年次	―		279
後期	火	5	52576	密教学講読演習T【IP】	森崎雅好	2	3年次	―	難波／社会人	280
後期	火	5	52577	密教学講読演習T【LSO】	森崎雅好	2	3年次	―		280
後期	火	2	52276	密教学講読演習U【IP】	櫻木潤	2	3年次	―	難波／社会人	281
後期	火	2	52278	密教学講読演習U【LSO】	櫻木潤	2	3年次	―		281
後期	木	5	54551	仏教学講読演習A	前谷彰	2	3年次	教免（宗教）		143
前期	月	2	51202	仏教学講読演習B	櫻木潤	2	3年次	教免（宗教）		144
後期	木	2	54251	仏教学講読演習C	岡田英作	2	3年次	教免（宗教）		145
前期	月	4	51405	仏教学講読演習D	菊谷竜太	2	3年次	教免（宗教）		146
後期	月	4	51453	仏教学講読演習E	菊谷竜太	2	3年次	教免（宗教）		147
後期	集中	集中	57053	仏教学講読演習F	平岡宏一	2	3年次	教免（宗教）		148
後期	金	4	55478	仏教学講読演習S【IP】	前谷彰	2	3年次	―	難波／社会人	282
後期	金	3	55376	仏教学講読演習T【IP】	岡田英作	2	3年次	―	難波／社会人	283
後期	金	3	55377	仏教学講読演習T【LSO】	岡田英作	2	3年次	―		283
後期	火	2	52277	仏教学講読演習U【IP】	坂口太郎	2	3年次	―	難波／社会人	284
前期	火	3	52304	真言密教講読演習B	北川真寛	2	3年次	教免（宗教）		149
通年	集中	集中	57008	真言密教講読演習C	佐藤隆彦	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	150
前期	金	1	55126	真言密教講読演習D【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	―	已灌頂者	151
後期	金	1	55176	真言密教講読演習E【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	―	已灌頂者	152
後期	火	3	52352	真言密教講読演習G	木下智雄	2	3年次	教免（宗教）		153
後期	月	4	51476	真言密教講読演習S【IP】	北川真寛	2	3年次	―	難波／社会人	285

11）演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53201	密教学演習B	佐藤隆彦	4	3・4年次	―		154
通年	水	2	53202	密教学演習C	前谷彰	4	4年次	―		155
通年	水	2	53203	密教学演習D	櫻木潤	4	3・4年次	―		156
通年	水	2	53204	密教学演習E	土居夏樹	4	4年次	―		157
通年	水	2	53205	密教学演習F	松長潤慶	4	3・4年次	―		158
通年	水	2	53206	密教学演習G	菊谷竜太	4	3・4年次	―		159

通年	水	2	53207	密教学演習K	坂 口 太 郎	4	3・4年次	—		161
通年	水	2	53208	密教学演習N	北 川 真 寛	4	3・4年次	—		162
通年	金	4	55401	密教学演習H（再履修）	土 居 夏 樹	4	4年次	—		160
通年	月	2	51226	密教学演習L【IP】	土 居 夏 樹	4	4年次	—	難波／社会人	286
通年	月	2	51227	密教学演習L【LSO】	土 居 夏 樹	4	4年次	—	社会人	286

12）卒業論文

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	論文	論文	59001	密教学科卒業論文	密教学科主任	8	4年次	—		−
通年	論文	論文	59003	密教学科卒業論文（前期）	密教学科主任	8	4年次	—		−

2 選択科目

1）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55203	心理学ⅠA	佐 々 木 聡	2	1年次	社会福祉主事		92
前期	金	2	55227	心理学ⅠS【LSO】	佐 々 木 聡	2	1年次	—		92
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	佐 々 木 聡	2	1年次	社会福祉主事		93
後期	金	2	55277	心理学ⅡS【LSO】	佐 々 木 聡	2	1年次	—		93
前期	月	3	51306	社会学	森 本 一 彦	2	1年次	社会福祉主事		192
前期	金	2	55205	社会福祉論	溝 渕 淳	2	1年次	社会福祉主事		214
後期	金	2	55253	社会保障論	溝 渕 淳	2	1年次	社会福祉主事		215
前期	火	2	52203	キャリアデザインⅠ	高 田 綾 子	2	1年次	—	キャリアデザインⅡ	101
後期	火	2	52251	キャリアデザインⅡ	高 田 綾 子	2	1年次	—	キャリアデザインⅠ	102
前期	火	4	52404	キャリアデザインⅢ	高 田 綾 子	2	2年次	—	キャリアデザインⅣ	103
後期	火	4	52451	キャリアデザインⅣ	高 田 綾 子	2	2年次	—	キャリアデザインⅢ	104
前期	火	3	52303	キャリアデザインⅤ	高 田 綾 子	2	3年次	—	キャリアデザインⅥ	120
後期	火	3	52351	キャリアデザインⅥ	高 田 綾 子	2	3年次	—	キャリアデザインⅤ	121
後期	集中	集中	57056	キャリア研修	就 職 担 当	2	2年次	—		216
後期	集中	集中	57057	インターンシップ	就 職 担 当	2	3年次	—		217
前期	木	1	54102	教養講義（社会のしくみ）	森 本 一 彦	2	1年次	—		251
後期	木	1	54151	教養講義（人間と文化）	森 本 一 彦	2	1年次	—		253
前期	水	4	53405	教養講義（数学史概論）	木 地 茂 典	2	1年次	—		250
後期	水	4	53451	教養講義（思考力講座）	木 地 茂 典	2	1年次	—		252
通年	木	3	54304	人間学実習（社会調査）	森 本 一 彦	2	2年次	—		175
後期	集中	集中	57096	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ）【IP】	橋 本 久 仁 彦	2	2年次	—	難波／社会人	301
後期	集中	集中	57097	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅱ）【IP】	橋 本 久 仁 彦	2	2年次	—	難波／社会人	302
後期	月	2	51251	人間学専門講義（高野文化圏論）	森 本 一 彦	2	2年次	—		125
前期	木	4	54405	人間学専門講義（地域連携）	森 本 一 彦	2	2年次	—		177
前期	金	4	55403	人間学専門講義（カウンセリング論A）	佐 々 木 聡	2	2年次	—		167
前期	金	4	55428	人間学専門講義（カウンセリング論A）【LSO】	佐 々 木 聡	2	2年次	—		167
後期	金	4	55451	人間学専門講義（学校心理学A）	佐 々 木 聡	2	2年次	—		168
後期	金	4	55476	人間学専門講義（学校心理学A）【LSO】	佐 々 木 聡	2	2年次	—		168
前期	月	6	51627	人間学専門講義（カウンセリング論B）【IP】	上 野 和 久	2	1年次	—	難波／社会人	313
前期	月	6	51626	人間学専門講義（カウンセリング論B）【LSO】	上 野 和 久	2	1年次	—		313
後期	月	6	51677	人間学専門講義（学校心理学B）【IP】	上 野 和 久	2	1年次	—	難波／社会人	314
後期	月	6	51676	人間学専門講義（学校心理学B）【LSO】	上 野 和 久	2	1年次	—		314
後期	月	7	51776	人間学専門講義（コミュニケーション心理学）【OD】	東 真 由 美	2	2年次	—		323
前期	火	6	52627	人間学専門講義（悲嘆学）【IP】	森 崎 雅 好	2	2年次	—	難波／社会人	315
前期	火	6	52626	人間学専門講義（悲嘆学）【LSO】	森 崎 雅 好	2	2年次	—		315
後期	火	6	52677	人間学専門講義（自殺学）【IP】	森 崎 雅 好	2	2年次	—	難波／社会人	324

後期	火	6	52676	人間学専門講義（自殺学）【LSO】	森 崎 雅 好	2	2年次	—		324
前期	水	6	53627	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）【IP】	木 下 忠 恭	2	2年次	—	難波／社会人	316
前期	水	6	53626	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）【LSO】	木 下 忠 恭	2	2年次	—		316
後期	水	6	53677	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）【IP】	木 下 忠 恭	2	2年次	—	難波／社会人	325
後期	水	6	53676	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）【LSO】	木 下 忠 恭	2	2年次	—		325
前期	水	7	53727	人間学専門講義（深層心理学）【IP】	森 崎 雅 好	2	2年次	—	難波／社会人	317
前期	水	7	53726	人間学専門講義（深層心理学）【LSO】	森 崎 雅 好	2	2年次	—		317
後期	水	7	53777	人間学専門講義（福祉心理学）【IP】	森 崎 雅 好	2	2年次	—	難波／社会人	326
後期	水	7	53776	人間学専門講義（福祉心理学）【LSO】	森 崎 雅 好	2	2年次	—		326
前期	木	4	54429	人間学専門講義（宗教学入門）【IP】	小 田 龍 哉	2	2年次	—	難波／社会人	318
前期	木	4	54428	人間学専門講義（宗教学入門）【LSO】	小 田 龍 哉	2	2年次	—		318
後期	木	4	54477	人間学専門講義（世俗主義と宗教）【IP】	小 田 龍 哉	2	2年次	—	難波／社会人	327
後期	木	4	54476	人間学専門講義（世俗主義と宗教）【LSO】	小 田 龍 哉	2	2年次	—		327
前期	木	6	54627	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）【IP】	大 河 内 大 博	2	2年次	—	難波／社会人	319
前期	木	6	54626	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）【LSO】	大 河 内 大 博	2	2年次	—		319
後期	木	6	54677	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）【IP】	大 河 内 大 博	2	2年次	—	難波／社会人	328
後期	木	6	54676	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）【LSO】	大 河 内 大 博	2	2年次	—		328
前期	金	6	55627	人間学専門講義（心理統計学）【IP】	五 明 優 介	2	2年次	—	難波／社会人	320
前期	金	6	55626	人間学専門講義（心理統計学）【LSO】	五 明 優 介	2	2年次	—		320
後期	金	6	55677	人間学専門講義（心理測定法）【IP】	五 明 優 介	2	2年次	—	難波／社会人	329
後期	金	6	55676	人間学専門講義（心理測定法）【LSO】	五 明 優 介	2	2年次	—		329
前期	金	7	55777	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）【IP】	五 明 優 介	2	2年次	—	難波／社会人	330
後期	金	7	55779	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）【IP】	五 明 優 介	2	2年次	—	難波／社会人	331
前期	金	7	55776	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）【LSO】	五 明 優 介	2	2年次	—		330
後期	金	7	55778	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）【LSO】	五 明 優 介	2	2年次	—		331
後期	土	第1週	56080	人間学専門講義（社会心理学）【IP】	松 下 歩 睦	2	2年次	—	難波／社会人	332
後期	土	第1週	56076	人間学専門講義（社会心理学）【LSO】	松 下 歩 睦	2	2年次	—		332
前期	土	第2週	56029	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅰ）【IP】	山 添 正	2	2年次	—	難波／社会人	321
前期	土	第2週	56026	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅰ）【LSO】	山 添 正	2	2年次	—		321
後期	土	第2週	56081	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅱ）【IP】	山 添 正	2	2年次	—	難波／社会人	333
後期	土	第2週	56077	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅱ）【LSO】	山 添 正	2	2年次	—		333
前期	土	第4週	56030	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）【IP】	山 本 和 美	2	2年次	—	難波／社会人	322
前期	土	第4週	56028	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）【LSO】	山 本 和 美	2	2年次	—		322
後期	土	第4週	56082	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）【IP】	森 崎 雅 好	2	2年次	—	難波／社会人	334
後期	土	第4週	56079	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）【LSO】	森 崎 雅 好	2	2年次	—		334
後期	集中	集中	57094	人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）【IP】	窪 寺 俊 之	2	2年次	—	難波／社会人	299
後期	集中	集中	57095	人間学専門講義（死生観）【IP】	山 本 佳 世 子	2	2年次	—	難波／社会人	300
後期	集中	集中	57098	人間学専門講義（もの語り心理学）【IP】	やまだようこ	2	2年次	—	難波／社会人	303
後期	集中	集中	57092	人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ）【他】	森 崎 雅 好	2	3年次	—		304
後期	集中	集中	57093	人間学実践演習（聖地巡礼Ⅱ）【他】	森 崎 雅 好	2	4年次	—		305
通年	実習	実習	58031	人間学実践演習（臨床実習Ⅰ）【他】	森 崎 雅 好	2	3年次	—		293
通年	実習	実習	58032	人間学実践演習（臨床実習Ⅱ）【他】	森 崎 雅 好	2	4年次	—		294
通年	実習	実習	58033	人間学実践演習（臨床実習Ⅲ）【他】	森 崎 雅 好	2	3年次	—		295
通年	実習	実習	58034	人間学実践演習（臨床実習Ⅳ）【他】	川 口 道 雄	2	3年次	—		296
通年	実習	実習	58035	人間学実践演習（臨床実習Ⅴ）【他】	川 口 道 雄	2	4年次	—		297

2）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51203	総合科目（仏教入門ＩＡ）	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		163
後期	月	2	51254	総合科目（仏教入門ⅡＡ）	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		164
前期	金	5	55526	総合科目（仏教入門ＩＳ）【IP】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—	難波／社会人	287
前期	金	5	55527	総合科目（仏教入門ＩＳ）【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		287
後期	金	5	55576	総合科目（仏教入門ⅡＳ）【IP】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—	難波／社会人	288
後期	金	5	55577	総合科目（仏教入門ⅡＳ）【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		288

3）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	1年次	学芸員		171
前期	火	3	52327	企画科目（高野山の歴史と文化Ｓ）【LSO】	木下智雄	2	3年次	—		172
前期	火	3	52305	企画科目（高野山の歴史と文化）	木下智雄	2	3年次	—		172
前期	水	3	53305	企画科目（寺院経営入門）	藤本善光	2	1年次	—		173
通年	水	4	53427	企画科目（仏画Ｓ）【IP】	徐東軍	2	1年次	—	難波／社会人	289
前期	木	2	54202	企画科目（歴史学入門）	坂口太郎	2	1年次	—		174
後期	木	2	54252	企画科目（歴史学入門演習）	坂口太郎	2	1年次	—		178
通年	木	4	54401	企画科目（詠歌上級）	辻・西山・岩田	2	1年次	—		176
通年	月	3	51303	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	169
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	松本貴子	2	1年次	—	留学生	170
通年	水	3	53304	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	藤井知枝	2	1年次	—	留学生	165
通年	水	4	53403	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	藤井知枝	2	1年次	—	留学生	166
前期	土	第3週	56027	企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅰ）【IP】	森崎雅好	2	1年次	—	難波／社会人	292
後期	土	第3週	56078	企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅱ）【IP】	森崎雅好	2	1年次	—	難波／社会人	298
後期	集中	集中	57080	企画科目（仏教美術入門Ｓ）【IP】	内藤栄	2	1年次	—	難波／社会人	290

4）外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	3	51304	サンスクリット語上級Ａ	德重弘志	2	2年次	—		179
通年	水	3	53326	サンスクリット語上級Ｓ【IP】	德重弘志	2	2年次	—	難波／社会人	306
通年	水	3	53328	サンスクリット語上級Ｓ【LSO】	德重弘志	2	2年次	—		306
通年	水	4	53404	チベット語Ａ	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	—		180
通年	金	4	55426	チベット語Ｓ【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	—		307
通年	木	4	54402	パーリ語Ａ	岡田英作	2	2年次	—		181
通年	木	4	54427	パーリ語Ｓ【LSO】	岡田英作	2	2年次	—		181
通年	水	2	53210	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	—		182
通年	水	1	53101	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	—		183

5）僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	55304	声明上級	辻秀道	2	2年次	—		184
通年	金	3	55302	梵字悉曇Ａ	齋藤天響	2	1年次	—		83
通年	金	5	54227	梵字悉曇Ｓ【IP】	添野了	2	1年次	—	難波／社会人	263

6）実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	54403	体育実技	本山司	2	1年次	教免基礎		185
通年	水	3	53303	情報処理	木地茂典	2	1年次	教免基礎		94
通年	水	3	53302	伝統文化（茶道）	岡本文音	2	1年次	—		85

通年	火	4	52402	伝統文化（華道）	五 味 和 樹	2	1年次	―		84
通年	月	3	51301	宗教芸能（宗教舞踊）	高 祖 ・ 辻	2	1年次	―		86

7）古文書学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	3	55306	歴史学	坂 口 太 郎	2	2年次	学芸員		109
前期	火	2	52226	歴史学Ｓ【IP】	坂 口 太 郎	2	2年次	―	難波／社会人	268
前期	火	2	52227	歴史学Ｓ【LSO】	坂 口 太 郎	2	2年次	―		268
前期	水	1	53108	書誌学	坂 口 太 郎	2	3年次	学芸員		189
後期	水	1	53157	古文書学	坂 口 太 郎	2	3年次	学芸員		190
後期	金	4	55454	古文書解読Ａ	西 川 哲 矢	2	2年次	学芸員		191
後期	月	4	51477	古文書解読Ｓ【IP】	桐 田 貴 史	2	2年次	―	難波／社会人	308
後期	月	4	51479	古文書解読Ｓ【LSO】	桐 田 貴 史	2	2年次	―		308

8）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55204	宗教学Ⅰ	奥 山 直 司	2	2年次	教免（宗教）		110
前期	木	4	54433	宗教学ⅠＳ【IP】	小 田 龍 哉	2	2年次	―	難波／社会人	318
前期	木	4	54432	宗教学ⅠＳ【LSO】	小 田 龍 哉	2	2年次	―		318
後期	金	2	55252	宗教学Ⅱ	奥 山 直 司	2	2年次	教免（宗教）		111
後期	木	4	54479	宗教学ⅡＳ【IP】	小 田 龍 哉	2	2年次	―	難波／社会人	327
後期	木	4	54478	宗教学ⅡＳ【LSO】	小 田 龍 哉	2	2年次	―		327
後期	金	4	55453	宗教思想史ⅠＡ	奥 山 直 司	2	1年次	教免（宗教）		89
後期	金	4	55477	宗教思想史ⅠＳ【LSO】	奥 山 直 司	2	1年次	―		89
前期	月	4	51402	宗教思想史ⅡＡ	櫻 木 潤	2	1年次	教免（宗教）		90
前期	月	4	51427	宗教思想史ⅡＳ【LSO】	櫻 木 潤	2	1年次	―		90
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土 居 夏 樹	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		112
後期	金	1	55151	宗教史Ⅱ	土 居 夏 樹	2	2年次	学芸員／教免（宗教）		113
前期	金	4	55402	哲学	南 昌 宏	2	1年次	教免（宗教）		91
前期	金	4	55427	哲学Ｓ【LSO】	南 昌 宏	2	1年次	―		91
前期	水	4	53407	宗教学方法論	小 田 龍 哉	2	2年次	―		194
前期	木	5	54502	国語学Ⅰ	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免（国語）		195
後期	木	5	54552	国語学Ⅱ	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免（国語）		196
前期	月	4	51406	国文法Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	教免（国語）		197
後期	月	4	51454	国文法Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	教免（国語）		198
前期	火	4	52406	日本文学史概説Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	教免（国語）		199
後期	火	4	52453	日本文学史概説Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	教免（国語）		200
前期	火	5	52501	日本文学Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	1年次	教免（国語）		201
後期	火	5	52551	日本文学Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	1年次	教免（国語）		202
前期	木	3	54306	漢文学概論Ⅰ	南 昌 宏	2	2年次	教免（国語）		203
後期	木	3	54351	漢文学概論Ⅱ	南 昌 宏	2	2年次	教免（国語）		204
後期	月	3	51352	日本文化特殊講義Ａ	溝 端 悠 朗	2	3年次	教免（国語）		205
前期	木	2	54228	日本文化特殊講義Ｓ【IP】	溝 端 悠 朗	2	3年次	―	難波／社会人	309
前期	木	2	54230	日本文化特殊講義Ｓ【LSO】	溝 端 悠 朗	2	3年次	―		309
後期	木	2	54276	日本文化特殊講義Ｔ【IP】	溝 端 悠 朗	2	3年次	―	難波／社会人	310
後期	木	2	54277	日本文化特殊講義Ｔ【LSO】	溝 端 悠 朗	2	3年次	―		310
後期	水	1	53158	中国文化特殊講義Ａ	野 田 悟	2	3年次	教免（国語）		206
前期	火	4	52427	中国文化特殊講義Ｓ【IP】	南 昌 宏	2	2年次	―	難波／社会人	311
前期	火	4	52429	中国文化特殊講義Ｓ【LSO】	南 昌 宏	2	2年次	―		311
後期	火	4	52476	中国文化特殊講義Ｔ【IP】	南 昌 宏	2	2年次	―	難波／社会人	312

後期	火	4	52477	中国文化特殊講義Ｔ【LSO】	南　昌　宏	2	2年次	―		312
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1年次	教免基礎		207

9）書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	野　田　悟	2	2年次	書道師範		208
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩 野 三 恵 子	2	2年次	書道師範		209
通年	火	1	52101	篆刻	野　田　悟	2	2年次	書道師範		210
通年	火	3	52302	条幅制作Ａ（漢字）	野　田　悟	2	3年次	書道師範		211
通年	木	4	54404	条幅制作Ｂ（かな）	塩 野 三 恵 子	2	3年次	書道師範		212
通年	金	1	55103	書道史	野　田　悟	4	2年次	書道師範		213

10）学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51503	生涯学習概論	櫻　木　潤	2	1年次	学芸員		218
前期	木	4	54408	博物館概論	山 口 文 章	2	1年次	学芸員		219
後期	木	4	54451	博物館経営論	山 口 文 章	2	2年次	学芸員		220
前期	金	3	55309	博物館資料論	坂 口 太 郎	2	2年次	学芸員		221
後期	木	3	54352	博物館資料保存論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		222
後期	集中	集中	57076	博物館展示論【LS】	山 口 隆 介	2	2年次	学芸員		223
前期	木	3	54307	博物館情報・メディア論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		224
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻　木　潤	2	1年次	学芸員		225
通年	実習	実習	58001	博物館実習	櫻 木 ・ 坂 口	3	3年次	学芸員		226

3　自由科目（卒業要件には参入されません）

1）教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52152	教育原論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修／社会福祉主事		227
前期	水	2	53213	教職入門	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		228
後期	木	1	54155	教育心理学	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		229
後期	月	3	51353	教育社会学	森 本 一 彦	2	1年次	教免必修		230
前期	集中	集中	57006	特別支援教育	宮 本 直 美	1	1年次	教免必修		231
後期	水	2	53251	教育課程論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		232
前期	木	1	54106	道徳教育指導論	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		233
前期	火	1	52104	総合的な学習の時間・特別活動	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		234
前期	木	2	54203	教育方法論	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		235
後期	木	2	54253	生徒指導・進路指導	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修		237
前期	金	3	55308	教育相談	佐 々 木 聡	2	3年次	教免必修		238
前期	月	2	51204	宗教科教育法Ⅰ	松 長 潤 慶	2	2年次	教免（宗教）		239
後期	月	2	51255	宗教科教育法Ⅱ	松 長 潤 慶	2	2年次	教免（宗教）		240
前期	木	5	54503	宗教科教育法Ⅲ	岡 田 英 作	2	3年次	教免（宗教）		241
後期	火	4	52454	宗教科教育法Ⅳ	富 田 向 真	2	3年次	教免（宗教）		242
前期	火	3	52306	国語科教育法Ⅰ	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免（国語）		243
後期	火	3	52353	国語科教育法Ⅱ	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免（国語）		244
前期	火	2	52204	国語科教育法Ⅲ	溝 端 悠 朗	2	3年次	教免（国語）		245
後期	金	4	55455	国語科教育法Ⅳ	南　昌　宏	2	3年次	教免（国語）		246
前期	実習	実習	58002	教育実習Ⅰ	鈴木・佐々木	2	3年次	教免必修		－
前期	実習	実習	58003	教育実習Ⅱ	鈴木・佐々木	2	4年次	教免必修		－
前期	木	4	54409	教育実習の研究	鈴木・佐々木	1	3・4年次	教免必修		247
後期	木	4	54452	教職実践演習（中・高）	鈴木・佐々木	2	4年次	教免必修		248

H31から文学部　人間学科

「備考・履修条件」欄について
難　　波・・・難波サテライト教室にて開講
社 会 人・・・社会人学生に限る（入学時に25歳以上）
留 学 生・・・外国人留学生に限る
已灌頂者・・・已灌頂者に限る
科 目 名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
日　　付・・・集中講義開催日（詳細は掲示などを確認のこと）

1　必修科目

1）「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	添　田　隆　昭	2	1年次	—		52
前期	月	3	51327	空海の思想入門S【IP】	北　川　真　寛	2	1年次	—	難波／社会人	258
前期	月	3	51329	空海の思想入門S【LSO】	北　川　真　寛	2	1年次	—		258

2）導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57007	導入研修	学　科　主　任	2	1年次	—		53

3）語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52526	英語Ⅰ（再履修）【LS】	森　本　敦　子	2	2年次	—		55
通年	月	5	51526	英語Ⅱ（再履修）【LS】	森　本　敦　子	2	3年次	—		57

4）基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55202	人間学基礎ゼミⅠ（再履修）	上　野　和　久	2	1年次	—		249

5）基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55203	心理学ⅠA	佐　々　木　聡	2	1年次	社会福祉主事		92
前期	金	2	55227	心理学ⅠS【LSO】	佐　々　木　聡	2	1年次	—		92
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	佐　々　木　聡	2	1年次	社会福祉主事		93
後期	金	2	55277	心理学ⅡS【LSO】	佐　々　木　聡	2	1年次	—		93
前期	月	3	51306	社会学	森　本　一　彦	2	1年次	社会福祉主事		192
前期	金	2	55205	社会福祉論	溝　　渕　　淳	2	1年次	社会福祉主事		214
後期	金	2	55253	社会保障論	溝　　渕　　淳	2	1年次	社会福祉主事		215

6）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52203	キャリアデザインⅠ	高　田　綾　子	2	1年次	—	キャリアデザインⅡ	101
後期	火	2	52251	キャリアデザインⅡ	高　田　綾　子	2	1年次	—	キャリアデザインⅠ	102
前期	火	4	52404	キャリアデザインⅢ	高　田　綾　子	2	2年次	—	キャリアデザインⅣ	103
後期	火	4	52451	キャリアデザインⅣ	高　田　綾　子	2	2年次	—	キャリアデザインⅢ	104
前期	火	3	52303	キャリアデザインⅤ	高　田　綾　子	2	3年次	—	キャリアデザインⅥ	120
後期	火	3	52351	キャリアデザインⅥ	高　田　綾　子	2	3年次	—	キャリアデザインⅤ	121
後期	集中	集中	57056	キャリア研修	就　職　担　当	2	2年次	—		216
後期	集中	集中	57057	インターンシップ	就　職　担　当	2	3年次	—		217

7）教養科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	54102	教養講義（社会のしくみ）	森　本　一　彦	2	1年次	—		251
後期	木	1	54151	教養講義（人間と文化）	森　本　一　彦	2	1年次	—		253
前期	水	4	53405	教養講義（数学史概論）	木　地　茂　典	2	1年次	—		250
後期	水	4	53451	教養講義（思考力講座）	木　地　茂　典	2	1年次	—		252

8）実習

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54304	人間学実習（社会調査）	森　本　一　彦	2	2年次	—		175
後期	集中	集中	57096	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ）【IP】	橋 本 久 仁 彦	2	2年次	—	難波／社会人	301
後期	集中	集中	57097	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅱ）【IP】	橋 本 久 仁 彦	2	2年次	—	難波／社会人	302
通年	集中	集中	57003	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	—		186
通年	集中	集中	57002	巡礼・遍路Ａ	密教学科主任	2	1年次	—		187
通年	集中	集中	57026	巡礼・遍路Ｓ【他】	密教学科主任	2	1年次	—	社会人	187

9）専門講義

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	51251	人間学専門講義（高野文化圏論）	森　本　一　彦	2	2年次	—		125
前期	木	4	54405	人間学専門講義（地域連携）	森　本　一　彦	2	2年次	—		177
前期	金	4	55403	人間学専門講義（カウンセリング論Ａ）	佐　々　木　聡	2	2年次	—		167
前期	金	4	55428	人間学専門講義（カウンセリング論Ａ）【LSO】	佐　々　木　聡	2	2年次	—		167
後期	金	4	55451	人間学専門講義（学校心理学Ａ）	佐　々　木　聡	2	2年次	—		168
後期	金	4	55476	人間学専門講義（学校心理学Ａ）【LSO】	佐　々　木　聡	2	2年次	—		168
前期	月	6	51627	人間学専門講義（カウンセリング論Ｂ）【IP】	上　野　和　久	2	1年次	—	難波／社会人	313
前期	月	6	51626	人間学専門講義（カウンセリング論Ｂ）【LSO】	上　野　和　久	2	1年次	—		313
後期	月	6	51677	人間学専門講義（学校心理学Ｂ）【IP】	上　野　和　久	2	1年次	—	難波／社会人	314
後期	月	6	51676	人間学専門講義（学校心理学Ｂ）【LSO】	上　野　和　久	2	1年次	—		314
後期	月	7	51776	人間学専門講義（コミュニケーション心理学）【OD】	東　真　由　美	2	2年次	—		323
前期	火	6	52627	人間学専門講義（悲嘆学）【IP】	森　崎　雅　好	2	2年次	—	難波／社会人	315
前期	火	6	52626	人間学専門講義（悲嘆学）【LSO】	森　崎　雅　好	2	2年次	—		315
後期	火	6	52677	人間学専門講義（自殺学）【IP】	森　崎　雅　好	2	2年次	—	難波／社会人	324
後期	火	6	52676	人間学専門講義（自殺学）【LSO】	森　崎　雅　好	2	2年次	—		324
前期	水	6	53627	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）【IP】	木　下　忠　恭	2	2年次	—	難波／社会人	316
前期	水	6	53626	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）【LSO】	木　下　忠　恭	2	2年次	—		316
後期	水	6	53677	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）【IP】	木　下　忠　恭	2	2年次	—	難波／社会人	325
後期	水	6	53676	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）【LSO】	木　下　忠　恭	2	2年次	—		325
前期	水	7	53727	人間学専門講義（深層心理学）【IP】	森　崎　雅　好	2	2年次	—	難波／社会人	317
前期	水	7	53726	人間学専門講義（深層心理学）【LSO】	森　崎　雅　好	2	2年次	—		317
後期	水	7	53777	人間学専門講義（福祉心理学）【IP】	森　崎　雅　好	2	2年次	—	難波／社会人	326
後期	水	7	53776	人間学専門講義（福祉心理学）【LSO】	森　崎　雅　好	2	2年次	—		326
前期	木	4	54429	人間学専門講義（宗教学入門）【IP】	小　田　龍　哉	2	2年次	—	難波／社会人	318
前期	木	4	54428	人間学専門講義（宗教学入門）【LSO】	小　田　龍　哉	2	2年次	—		318
後期	木	4	54477	人間学専門講義（世俗主義と宗教）【IP】	小　田　龍　哉	2	2年次	—	難波／社会人	327
後期	木	4	54476	人間学専門講義（世俗主義と宗教）【LSO】	小　田　龍　哉	2	2年次	—		327
前期	木	6	54627	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）【IP】	大 河 内 大 博	2	2年次	—	難波／社会人	319
前期	木	6	54626	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）【LSO】	大 河 内 大 博	2	2年次	—		319
後期	木	6	54677	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）【IP】	大 河 内 大 博	2	2年次	—	難波／社会人	328
後期	木	6	54676	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）【LSO】	大 河 内 大 博	2	2年次	—		328
前期	金	6	55627	人間学専門講義（心理統計学）【IP】	五　明　優　介	2	2年次	—	難波／社会人	320
前期	金	6	55626	人間学専門講義（心理統計学）【LSO】	五　明　優　介	2	2年次	—		320
後期	金	6	55677	人間学専門講義（心理測定法）【IP】	五　明　優　介	2	2年次	—	難波／社会人	329
後期	金	6	55676	人間学専門講義（心理測定法）【LSO】	五　明　優　介	2	2年次	—		329
前期	金	7	55777	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）【IP】	五　明　優　介	2	2年次	—	難波／社会人	330
後期	金	7	55779	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）【IP】	五　明　優　介	2	2年次	—	難波／社会人	331
前期	金	7	55776	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）【LSO】	五　明　優　介	2	2年次	—		330
後期	金	7	55778	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）【LSO】	五　明　優　介	2	2年次	—		331

後期	土	第1週	56080	人間学専門講義（社会心理学）【IP】	松下歩睦	2	2年次	—	難波／社会人	332
後期	土	第1週	56076	人間学専門講義（社会心理学）【LSO】	松下歩睦	2	2年次	—		332
前期	土	第2週	56029	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅰ）【IP】	山添正	2	2年次	—	難波／社会人	321
前期	土	第2週	56026	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅰ）【LSO】	山添正	2	2年次	—		321
後期	土	第2週	56081	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅱ）【IP】	山添正	2	2年次	—	難波／社会人	333
後期	土	第2週	56077	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅱ）【LSO】	山添正	2	2年次	—		333
前期	土	第4週	56030	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）【IP】	山本和美	2	2年次	—	難波／社会人	322
前期	土	第4週	56028	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）【LSO】	山本和美	2	2年次	—		322
後期	土	第4週	56082	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）【IP】	森崎雅好	2	2年次	—	難波／社会人	334
後期	土	第4週	56079	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）【LSO】	森崎雅好	2	2年次	—		334
後期	集中	集中	57094	人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）【IP】	窪寺俊之	2	2年次	—	難波／社会人	299
後期	集中	集中	57095	人間学専門講義（死生観）【IP】	山本佳世子	2	2年次	—	難波／社会人	300
後期	集中	集中	57098	人間学専門講義（もの語り心理学）【IP】	やまだようこ	2	2年次	—	難波／社会人	303

10）実践演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	集中	集中	57054	人間学実践演習（学外研修①）	森本一彦	2	3年次	—		254
後期	集中	集中	57055	人間学実践演習（学外研修②）	森本一彦	2	4年次	—		255
前期	水	2	53228	人間学実践演習（巡礼・遍路）【LSO】	柴谷宗叔	2	1年次	—		188
後期	集中	集中	57092	人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ）【他】	森崎雅好	2	3年次	—		304
後期	集中	集中	57093	人間学実践演習（聖地巡礼Ⅱ）【他】	森崎雅好	2	4年次	—		305
通年	実習	実習	58031	人間学実践演習（臨床実習Ⅰ）【他】	森崎雅好	2	3年次	—		293
通年	実習	実習	58032	人間学実践演習（臨床実習Ⅱ）【他】	森崎雅好	2	4年次	—		294
通年	実習	実習	58033	人間学実践演習（臨床実習Ⅲ）【他】	森崎雅好	2	3年次	—		295
通年	実習	実習	58034	人間学実践演習（臨床実習Ⅳ）【他】	川口道雄	2	3年次	—		296
通年	実習	実習	58035	人間学実践演習（臨床実習Ⅴ）【他】	川口道雄	2	4年次	—		297

11）演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	5	51530	人間学演習ⅠC（臨床心理学演習）【IP】	上野和久	2	3年次	—	難波／社会人	335
通年	月	5	51528	人間学演習ⅠC（臨床心理学演習）【LS】	上野和久	2	3年次	—		335
通年	火	7	52728	人間学演習ⅠD（臨床心理学演習）【IP】	森崎雅好	2	3年次	—	難波／社会人	336
通年	火	7	52726	人間学演習ⅠD（臨床心理学演習）【LS】	森崎雅好	2	3年次	—		336
通年	水	2	53209	人間学演習ⅡA	森本一彦	2	4年次	—		256
通年	金	3	55303	人間学演習ⅡB	上野和久	2	4年次	—		257
通年	月	5	51531	人間学演習ⅡC（臨床心理学演習）【IP】	上野和久	2	4年次	—	難波／社会人	337
通年	月	5	51529	人間学演習ⅡC（臨床心理学演習）【LS】	上野和久	2	4年次	—		337
通年	火	7	52729	人間学演習ⅡD（臨床心理学演習）【IP】	森崎雅好	2	4年次	—	難波／社会人	338
通年	火	7	52727	人間学演習ⅡD（臨床心理学演習）【LS】	森崎雅好	2	4年次	—		338

12）卒業論文

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	論文	論文	59002	人間学科卒業論文	人間学科主任	8	4年次	—		−
前期	論文	論文	59004	人間学科卒業論文（前期）	人間学科主任	8	4年次	—		−

2　選択科目

1）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	55301	漢文	南昌宏	2	1年次	—		58
通年	火	3	52326	漢文S【IP】	南昌宏	2	1年次	—	難波／社会人	259

通年	火	3	52328	漢文Ｓ【LSO】	南　昌　宏	2	1年次	―		259
通年	月	1	51102	サンスクリット語Ａ	菊　谷　竜　太	2	1年次	―		59
通年	火	4	52426	サンスクリット語Ｓ【IP】	菊　谷　竜　太	2	1年次	―	難波／社会人	260
通年	火	4	52428	サンスクリット語Ｓ【LSO】	菊　谷　竜　太	2	1年次	―		260
通年	金	3	55326	サンスクリット語Ｔ【IP】	前　谷　彰	2	1年次	―	難波／社会人	261
後期	火	1	52151	密教学概論Ａ	北　川　真　寛	2	2年次	―		105
後期	月	2	51276	密教学概論Ｓ【OD】	北　川　真　寛	2	2年次	―		264
前期	水	1	53102	仏教学概論Ａ	前　谷　彰	2	2年次	―		106
前期	月	2	51228	仏教学概論Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	―		265
前期	火	1	52103	密教史概説Ａ	德　重　弘　志	2	2年次	学芸員		107
後期	木	5	54576	密教史概説Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	―		266
後期	水	1	53156	仏教史概説Ａ	前　谷　彰	2	2年次	学芸員		108
前期	木	5	54526	仏教史概説Ｓ【OD】	菊　谷　竜　太	2	2年次	―		267
通年	水	4	53402	常用経典	宮　田　永　明	2	1年次	僧階補任		76
通年	金	1	55101	声明	辻　秀　道	2	1年次	僧階補任		77
通年	木	1	54101	法式	加　藤　善　弘	2	1年次	僧階補任		78
通年	火	4	52401	布教Ａ	橋　本　真　人	2	1年次	僧階補任		79
通年	木	3	54301	布教Ｂ（詠歌）	辻・西山・岩田	2	1年次	僧階補任		80
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野　田　悟	2	1年次	書道師範／教免（国語）		81
通年	木	4	54426	漢字ⅠＳ【IP】	野　田　悟	2	1年次	―	難波／社会人	262
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩 野 三 恵 子	2	1年次	書道師範		82
通年	火	2	52201	祖典講読ⅠＡ	松　長　潤　慶	4	2年次	―		114
通年	火	2	52202	祖典講読ⅠＢ	北　川　真　寛	4	2年次	―		115
通年	月	5	51527	祖典講読ⅠＳ【IP】	土　居　夏　樹	4	3年次	―	難波／社会人	269
通年	月	5	51532	祖典講読ⅠＳ【LSO】	土　居　夏　樹	4	3年次	―		269
通年	月	3	51302	祖典講読ⅡＡ	大　柴　清　圓	4	3年次	―		116
通年	月	4	51426	祖典講読ⅡＢ【LS】	米　田　弘　仁	4	3年次	―		117
通年	木	3	54302	祖典講読ⅡＣ	川　崎　一　洋	4	3年次	―		118
通年	月	3	51326	祖典講読ⅡＳ【LSO】	大　柴　清　圓	4	3年次	―		116
通年	木	3	54326	祖典講読ⅡＴ【LSO】	川　崎　一　洋	4	3年次	―		118
通年	木	2	54226	宗典講読Ｂ【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	3年次	―	已灌頂者	119
通年	水	4	53426	宗典講読Ｓ【IP】	川　崎　一　洋	4	3年次	―	難波／社会人	270
通年	水	4	53428	宗典講読Ｓ【LSO】	川　崎　一　洋	4	3年次	―		270
通年	水	2	53226	宗典講読Ｔ【IP】	德　重　弘　志	4	3年次	―	難波／社会人	271
通年	水	2	53229	宗典講読Ｔ【LSO】	德　重　弘　志	4	3年次	―		271
通年	集中	集中	57001	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	―		87
通年	集中	集中	57004	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	―		88
前期	月	1	51103	密教学特殊講義Ａ	松　長　潤　慶	2	3年次	―		122
前期	火	4	52405	密教学特殊講義Ｂ	和　田　圭　子	2	3年次	学芸員／教免（宗教）		123
後期	火	4	52452	密教学特殊講義Ｃ	和　田　圭　子	2	3年次	学芸員／教免（宗教）		124
前期	水	3	53327	密教学特殊講義Ｓ【IP】	川　崎　一　洋	2	3年次	―	難波／社会人	272
前期	水	3	53329	密教学特殊講義Ｓ【LSO】	川　崎　一　洋	2	3年次	―		272
後期	水	3	53376	密教学特殊講義Ｔ【IP】	川　崎　一　洋	2	3年次	―	難波／社会人	273
後期	水	3	53377	密教学特殊講義Ｔ【LSO】	川　崎　一　洋	2	3年次	―		273
後期	水	2	53276	密教学特殊講義Ｕ【IP】	柴　谷　宗　叔	2	3年次	―	難波／社会人	274
後期	水	2	53277	密教学特殊講義Ｕ【LSO】	柴　谷　宗　叔	2	3年次	―		274
前期	木	4	54406	仏教学特殊講義Ａ	那 須 真 裕 美	2	3年次	―		126
前期	木	5	54501	仏教学特殊講義Ｂ	前　谷　彰	2	3年次	―		127
後期	木	2	54251	仏教学講読演習Ｃ	岡　田　英　作	2	3年次	―		145
前期	木	1	54103	仏教学特殊講義Ｄ	森　崎　雅　好	2	3年次	―		128

前期	木	1	54104	仏教学特殊講義E	徐　東　軍	2	3年次	—		129
後期	木	1	54153	仏教学特殊講義F	森　崎　雅　好	2	2年次	—		130
後期	集中	集中	57051	仏教学特殊講義G	井上ウィマラ	2	3年次	—		131
前期	金	4	55429	仏教学特殊講義S【IP】	前　谷　彰	2	3年次	—	難波／社会人	275
前期	金	3	55327	仏教学特殊講義T【IP】	岡　田　英　作	2	3年次	—	難波／社会人	276
前期	金	3	55330	仏教学特殊講義T【LSO】	岡　田　英　作	2	3年次	—		276
後期	集中	集中	57077	仏教学特殊講義U【IP】	井上ウィマラ	2	3年次	—	社会人	131
前期	月	1	51104	真言密教特殊講義A	中　西　雄　泰	2	3年次	—	已灌頂者	132
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義B	中　西　雄　泰	2	3年次	—	已灌頂者	133
後期	集中	集中	57052	真言密教特殊講義C	佐　藤　隆　彦	2	3年次	—		134
前期	金	2	55226	真言密教特殊講義D【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	—	已灌頂者	135
後期	金	2	55276	真言密教特殊講義E【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	—	已灌頂者	136
前期	月	4	51404	真言密教特殊講義F	佐　藤　隆　彦	2	3年次	—	已灌頂者	137
後期	月	4	51452	真言密教特殊講義G	佐　藤　隆　彦	2	3年次	—	已灌頂者	138
前期	月	4	51428	真言密教特殊講義S【IP】	北　川　真　寛	2	3年次	—	難波／社会人	277
前期	月	4	51430	真言密教特殊講義S【LSO】	北　川　真　寛	2	3年次	—		277
後期	集中	集中	57079	真言密教特殊講義T【IP】	五十嵐啓道	2	3年次	—	難波／社会人	278
後期	集中	集中	57078	真言密教特殊講義U【IP】	佐　藤　隆　彦	2	3年次	—	社会人	134
前期	月	2	51201	密教学講読演習A	大　柴　清　圓	2	3年次	—		139
後期	月	2	51253	密教学講読演習B	大　柴　清　圓	2	3年次	—		140
前期	金	3	55307	密教学講読演習D	土　居　夏　樹	2	3年次	—		141
後期	木	1	54152	密教学講読演習F	徐　東　軍	2	3年次	—		142
後期	月	3	51376	密教学講読演習S【IP】	土　居　夏　樹	2	3年次	—	難波／社会人	279
後期	月	3	51377	密教学講読演習S【LSO】	土　居　夏　樹	2	3年次	—		279
後期	火	5	52576	密教学講読演習T【IP】	森　崎　雅　好	2	3年次	—	難波／社会人	280
後期	火	5	52577	密教学講読演習T【LSO】	森　崎　雅　好	2	3年次	—		280
後期	火	2	52276	密教学講読演習U【IP】	櫻　木　潤	2	3年次	—	難波／社会人	281
後期	火	2	52278	密教学講読演習U【LSO】	櫻　木　潤	2	3年次	—		281
後期	木	5	54551	仏教学講読演習A	前　谷　彰	2	3年次	—		143
前期	月	2	51202	仏教学講読演習B	櫻　木　潤	2	3年次	—		144
前期	月	4	51405	仏教学講読演習D	菊　谷　竜　太	2	3年次	—		146
後期	月	4	51453	仏教学講読演習E	菊　谷　竜　太	2	3年次	—		147
後期	集中	集中	57053	仏教学講読演習F	平　岡　宏　一	2	3年次	—		148
後期	金	4	55478	仏教学講読演習S【IP】	前　谷　彰	2	3年次	—	難波／社会人	282
後期	金	3	55376	仏教学講読演習T【IP】	岡　田　英　作	2	3年次	—	難波／社会人	283
後期	金	3	55377	仏教学講読演習T【LSO】	岡　田　英　作	2	3年次	—		283
後期	火	2	52277	仏教学講読演習U【IP】	坂　口　太　郎	2	3年次	—	難波／社会人	284
前期	火	3	52304	真言密教講読演習B	北　川　真　寛	2	3年次	—		149
通年	集中	集中	57008	真言密教講読演習C	佐　藤　隆　彦	2	3年次	—	已灌頂者	150
前期	金	1	55126	真言密教講読演習D【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	—	已灌頂者	151
後期	金	1	55176	真言密教講読演習E【LS】	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	—	已灌頂者	152
後期	火	3	52352	真言密教講読演習G	木　下　智　雄	2	3年次	—		153
後期	月	4	51476	真言密教講読演習S【IP】	北　川　真　寛	2	3年次	—	難波／社会人	285

2）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51203	総合科目（仏教入門ＩＡ）	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		163
後期	月	2	51254	総合科目（仏教入門ⅡＡ）	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		164
前期	金	5	55526	総合科目（仏教入門ＩＳ）【IP】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—	難波／社会人	287
前期	金	5	55527	総合科目（仏教入門ＩＳ）【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	—		287

後期	金	5	55576	総合科目（仏教入門ⅡＳ）【IP】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	―	難波／社会人	288
後期	金	5	55577	総合科目（仏教入門ⅡＳ）【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1年次	―		288

3）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	1年次	学芸員		171
前期	火	3	52305	企画科目（高野山の歴史と文化）	木下智雄	2	3年次	―		172
前期	火	3	52327	企画科目（高野山の歴史と文化Ｓ）【LSO】	木下智雄	2	3年次	―		172
前期	水	3	53305	企画科目（寺院経営入門）	藤本善光	2	1年次	―		173
通年	水	4	53427	企画科目（仏画Ｓ）【IP】	徐東軍	2	1年次	―	難波／社会人	289
前期	木	2	54202	企画科目（歴史学入門）	坂口太郎	2	1年次	―		174
後期	木	2	54252	企画科目（歴史学入門演習）	坂口太郎	2	1年次	―		178
通年	木	4	54401	企画科目（詠歌上級）	辻・西山・岩田	2	1年次	―		176
前期	土	第3週	56027	企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅰ）【IP】	森崎雅好	2	1年次	―	難波／社会人	292
後期	土	第3週	56078	企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅱ）【IP】	森崎雅好	2	1年次	―	難波／社会人	298
後期	集中	集中	57080	企画科目（仏教美術入門Ｓ）【IP】	内藤栄	2	1年次	―	難波／社会人	290

4）外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	3	51304	サンスクリット語上級Ａ	徳重弘志	2	2年次	―		179
通年	水	3	53326	サンスクリット語上級Ｓ【IP】	徳重弘志	2	2年次	―	難波／社会人	306
通年	水	3	53328	サンスクリット語上級Ｓ【LSO】	徳重弘志	2	2年次	―		306
通年	水	4	53404	チベット語Ａ	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	―		180
通年	金	4	55426	チベット語Ｓ【LSO】	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	2年次	―		307
通年	木	4	54402	パーリ語Ａ	岡田英作	2	2年次	―		181
通年	木	4	54427	パーリ語Ｓ【LSO】	岡田英作	2	2年次	―		181
通年	水	2	53210	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	―		182
通年	水	1	53101	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	―		183

5）僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	55304	声明上級	辻秀道	2	2年次	―		184
通年	金	3	55302	梵字悉曇Ａ	齋藤天譽	2	1年次	―		83
通年	金	5	54227	梵字悉曇Ｓ【IP】	添野了	2	1年次	―	難波／社会人	263

6）実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	54403	体育実技	本山司	2	1年次	―		185
通年	水	3	53303	情報処理	木地茂典	2	1年次	―		94
通年	水	3	53302	伝統文化（茶道）	岡本文音	2	1年次	―		85
通年	火	4	52402	伝統文化（華道）	五味和樹	2	1年次	―		84
通年	月	3	51301	宗教芸能（宗教舞踊）	高祖・辻	2	1年次	―		86

7）古文書学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	3	55306	歴史学	坂口太郎	2	2年次	学芸員		109
前期	火	2	52226	歴史学Ｓ【IP】	坂口太郎	2	2年次	―	難波／社会人	268
前期	火	2	52227	歴史学Ｓ【LSO】	坂口太郎	2	2年次	―		268
前期	水	1	53108	書誌学	坂口太郎	2	3年次	学芸員		189
後期	水	1	53157	古文書学	坂口太郎	2	3年次	学芸員		190

後期	金	4	55454	古文書解読A	西 川 哲 矢	2	2年次	学芸員		191
後期	月	4	51477	古文書解読S【IP】	桐 田 貴 史	2	2年次	—	難波／社会人	308
後期	月	4	51479	古文書解読S【LSO】	桐 田 貴 史	2	2年次	—		308

8）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55204	宗教学Ⅰ	奥 山 直 司	2	2年次	—		110
前期	木	4	54433	宗教学ⅠS【IP】	小 田 龍 哉	2	2年次	—	難波／社会人	318
前期	木	4	54432	宗教学ⅠS【LSO】	小 田 龍 哉	2	2年次	—		318
後期	金	2	55252	宗教学Ⅱ	奥 山 直 司	2	2年次	—		111
後期	木	4	54479	宗教学ⅡS【IP】	小 田 龍 哉	2	2年次	—	難波／社会人	327
後期	木	4	54478	宗教学ⅡS【LSO】	小 田 龍 哉	2	2年次	—		327
後期	金	4	55453	宗教思想史ⅠA	奥 山 直 司	2	1年次	—		89
後期	金	4	55477	宗教思想史ⅠS【LSO】	奥 山 直 司	2	1年次	—		89
前期	月	4	51402	宗教思想史ⅡA	櫻 木 潤	2	1年次	—		90
前期	月	4	51427	宗教思想史ⅡS【LSO】	櫻 木 潤	2	1年次	—		90
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土 居 夏 樹	2	2年次	学芸員		112
後期	金	1	55151	宗教史Ⅱ	土 居 夏 樹	2	2年次	学芸員		113
前期	金	4	55402	哲学	南 昌 宏	2	1年次	—		91
前期	金	4	55427	哲学S【LSO】	南 昌 宏	2	1年次	—		91
前期	水	4	53407	宗教学方法論	小 田 龍 哉	2	2年次	—		194
前期	木	5	54502	国語学Ⅰ	鈴 木 晴 久	2	2年次	—		195
後期	木	5	54552	国語学Ⅱ	鈴 木 晴 久	2	2年次	—		196
前期	月	4	51406	国文法Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	—		197
後期	月	4	51454	国文法Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	—		198
前期	火	4	52406	日本文学史概説Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	—		199
後期	火	4	52453	日本文学史概説Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	—		200
前期	火	5	52501	日本文学Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	1年次	—		201
後期	火	5	52551	日本文学Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	1年次	—		202
前期	木	3	54306	漢文学概論Ⅰ	南 昌 宏	2	2年次	—		203
後期	木	3	54351	漢文学概論Ⅱ	南 昌 宏	2	2年次	—		204
後期	月	3	51352	日本文化特殊講義A	溝 端 悠 朗	2	3年次	—		205
前期	木	2	54228	日本文化特殊講義S【IP】	溝 端 悠 朗	2	3年次	—	難波／社会人	309
前期	木	2	54230	日本文化特殊講義S【LSO】	溝 端 悠 朗	2	3年次	—		309
後期	木	2	54276	日本文化特殊講義T【IP】	溝 端 悠 朗	2	3年次	—	難波／社会人	310
後期	木	2	54277	日本文化特殊講義T【LSO】	溝 端 悠 朗	2	3年次	—		310
後期	水	1	53158	中国文化特殊講義A	野 田 悟	2	3年次	—		206
前期	火	4	52427	中国文化特殊講義S【IP】	南 昌 宏	2	2年次	—	難波／社会人	311
前期	火	4	52429	中国文化特殊講義S【LSO】	南 昌 宏	2	2年次	—		311
後期	火	4	52476	中国文化特殊講義T【IP】	南 昌 宏	2	2年次	—	難波／社会人	312
後期	火	4	52477	中国文化特殊講義T【LSO】	南 昌 宏	2	2年次	—		312

9）書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	野 田 悟	2	2年次	書道師範		208
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩 野 三 恵 子	2	2年次	書道師範		209
通年	火	1	52101	篆刻	野 田 悟	2	2年次	書道師範		210
通年	火	3	52302	条幅制作A（漢字）	野 田 悟	2	3年次	書道師範		211
通年	木	4	54404	条幅制作B（かな）	塩 野 三 恵 子	2	3年次	書道師範		212
通年	金	1	55103	書道史	野 田 悟	4	2年次	書道師範		213

10）学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51503	生涯学習概論	櫻　木　潤	2	1年次	学芸員		218
前期	木	4	54408	博物館概論	山口文章	2	1年次	学芸員		219
後期	木	4	54451	博物館経営論	山口文章	2	2年次	学芸員		220
前期	金	3	55309	博物館資料論	坂口太郎	2	2年次	学芸員		221
後期	木	3	54352	博物館資料保存論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		222
後期	集中	集中	57076	博物館展示論【LS】	山口隆介	2	2年次	学芸員		223
前期	木	3	54307	博物館情報・メディア論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		224
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻　木　潤	2	1年次	学芸員		225
通年	実習	実習	58001	博物館実習	櫻木・坂口	3	3年次	学芸員		226

別　科　目　次

別科

1　必修科目

1）基礎科目（16）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
前期	火	1	82102	真言宗の教えA（別）	密教史概説A	徳　重　弘　志	2	1年次	A・Bは同年に履修すること	107
後期	火	1	82151	真言宗の教えB（別）	密教学概論A	北　川　真　寛	2	1年次		105
後期	水	1	83151	釈尊の生涯（別）	仏教史概説A	前　谷　彰	2	1年次		108
前期	火	1	82101	弘法大師空海の生涯（別）	空海の思想入門A	添　田　隆　昭	2	1年次		52
通年	火	2	82201	真言宗典講読1（別）	祖典講読ⅠA	松　長　潤　慶	4	1年次		114

2）実習科目（14）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
後期	集	中	87051	観法の理論と実習A（別）	真言密教特殊講義C	佐　藤　隆　彦	2	1～2年次	4単位必修	134
通年	金	3	85302	梵字悉曇（別）	梵字悉曇A	齋　藤　天　譽	2	1年次		83
通年	金	1	85101	声明（別）	声明	辻　秀　道	2	1年次		77
通年	水	4	83401	常用経典（別）	常用経典	宮　田　永　明	2	1年次		76
通年	木	1	84101	法式（別）	法式	加　藤　善　弘	2	1年次		78
通年	火	4	82401	布教（別）	布教A	橋　本　真　人	2	1年次		79

3）実習科目（18）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
後期	水	4	83451	人権と福祉（別）	現代の人権	竹　村　和　也	2	1～2年次		193
通年	金	2	85202	世界の宗教（別）	宗教学Ⅰ	奥　山　直　司	4	1～2年次		110
					宗教学Ⅱ					111
通年	金	1	85102	宗教の歴史（別）	宗教史Ⅰ	土　居　夏　樹	4	1～2年次		112
					宗教史Ⅱ					113
通年	金	2	85201	心の科学（別）	心理学ⅠA	佐　々　木　聡	4	1～2年次		92
					心理学ⅡA					93
通年	月	4	81401	仏教芸術（別）	企画科目（仏画）	有　松　孝　雄	2	1～2年次		171
前期	月	3	81301	社会保障A（別）	社会学	森　本　一　彦	2	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	192
前期	金	2	85203	社会保障B（別）	社会福祉論	溝　渕　淳	2	1～2年次		214
後期	金	2	85251	地域福祉A（別）	社会保障論	溝　渕　淳	2	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	215
前期	木	4	84402	地域福祉B（別）	企画科目（地域連携）	森　本　一　彦	2	1～2年次		177
通年	月	1	81102	サンスクリット語（別）	サンスクリット語A	菊　谷　竜　太	2	1～2年次		59
通年	水	4	83402	チベット語（別）	チベット語A	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	2	1～2年次		180
通年	木	4	84401	パーリ語（別）	パーリ語A	岡　田　英　作	2	1～2年次		181
通年	金	3	85301	声明上級（別）	声明上級	辻　秀　道	2	1～2年次		184
通年	月	1	81101	密教儀礼の理論と実習（別）	真言密教特殊講義A	中　西　雄　泰	4	1～2年次	已灌頂者	132
					真言密教特殊講義B					133

講　義　概　要
・
授　業　計　画

科目名	空海の思想入門A／弘法大師空海の生涯(別)							学 期	前期
副 題	弘法大師信仰と高野山					授業方法	講義	担当者	添田隆昭
ナンバリング	M1-01-001	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山大学は弘法大師空海の伝えられた密教の教えを建学の精神としている。では密教はインドでどのように発達し　日本に伝えられたのか。弘法大師はどのように密教を理解したのか。現在の大師信仰の根拠となっている「入定留身」とはどういうものかについて考察する。

授業の到達目標
弘法大師の生涯及び密教思想の全体像を理解する。

授業計画
1.インド　ヨーロッパ語族の広がり
2.ブッダの誕生
3.部派仏教の成立
4.大乗仏教の興起
5.大乗経典　（維摩経　般若経　法華経　華厳経　涅槃経）
6.密教経典の深化
7.大日経　金剛頂経の成立
8.弘法大師の生涯　1（出生から唐よりの帰国まで）
9.弘法大師の生涯　2（薬子の乱から入定まで）
10.弘法大師の著作　1（三教指帰・請来目録・声字義・吽字義）
11.弘法大師の著作　2（二教論・十住心論）
12.入定留身
13.入定留身以後
14.大師信仰の現在　1（臨死体験）
15.大師信仰の現在　2（東北震災後の体験）

準備学習(予習・復習)・時間
授業内容について関心のあった部分について関連図書で調べておくこと（90 分）

テキスト
必要に応じて　プリントを配布する

参考書・参考資料等
添田隆昭「大師はいまだおわしますか」（高野山出版社）

学生に対する評価
期末の筆記試験（80%）と授業への積極性（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）講義の内容を理解できる。
（B）講義の内容を自分の言葉で表現できる。
（A）専門用語を理解し　自分の文章の中で駆使できる。
（S）興味のある部分について　自分で探求し　文章化できる

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見には授業中に対応する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職でもある学長が、本学の建学の精神について、弘法大師の教え及び密教思想の重要性を通して認識させる。

科目名	導入研修							学 期	前期
副 題	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・履修指導				授業方法	講義	担当者	学科主任	
ナンバリング	M1-26-002	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
合宿による集中講義により、大学での学びを体験するとともに、グループによって活動することで、協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。

授業の到達目標
各自が高野山大学における学ぶ目的意識を持つとともに、学習の仕方を習得する。

授業計画
1.高野山、高野山大学について
2.宗教体験①金剛峯寺参拝
3.宗教体験②奥之院参拝
4.大学で学ぶ意義を考える
5.大学生活を考える
6.自己を理解する
7.ワークショップ①大学教育を考える
8.宗教体験③勤行
9.山内フィールドワーク
10.ワークショップ②将来像を考える
11.宗教体験④写経
12.ワークショップ③大学での計画を立てる
13.ワークショップ④計画をプレゼンテーションする
14.宗教体験⑦（報恩日）
15.宗教体験⑧（宗祖降誕日）

準備学習（予習・復習）・時間
学習した内容、発表、討論やワークを踏まえて、内容について各自で整理する。(180 分)

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
田中共子編『よくわかる学びの技法第２版』ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価
レポート（40%）、発表など授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）指示されたことが理解できる。
（B）授業内容を理解した上で、積極的に行動する。
（A）グループをまとめ、リーダーシップを発揮することができる。
（S）大学で学ぶ意義を理解して、行動することができる。

課題に対するフィードバックの方法
各回ごとに質問を受けるとともに、提出されたレポートを添削する。

その他
・本講義は、2019 年度以降の密教学科密教学コース入学生は全員必修となっているので、必ず履修すること。 ・本講義は、入学式後のオリエンテーション期間中を中心に開講されるが、宗教行事（報恩日、宗祖降誕日など）への参加、およびレポートを提出することによって単位を認定する。 ・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを行う。

科目名	英語Ⅰ							学期	通年
副　題	英語ニュースを使用し四技能一領域を高める				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	M1-07-003	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本講義では、語彙力・文法力、リスニング力を総合的に伸ばしていく。またトピックの内容から多文化を理解しそれらと共存する社会について考え、グループによるディスカッションをした後、その要旨を英語で述べたり書いたりすることによって、アウトプット力を養う。

授業の到達目標
時事英語教材を使用して、 基本的な英文法を再確認しながら意味理解ができるようになる。あわせて音声モデルに合わせてリスニング（主にシャドーイング練習）を実施し英語の内容が聞き取れるようにする。

授業計画
【前期】

1.予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2.【Unit 1 Anti-Asian Hate Crimes Rising 】Topicの読解/内容理解/リスニング
3.【Unit 1 Anti-Asian Hate Crimes Rising】文法解説/グループワーク
4.【Unit 2 Courthouse Facility Dog】 topicの読解/内容理解/リスニング
5.【Unit 2 Courthouse Facility Dog】文法解説/グループワーク
6.中間テストと講評
7.【Unit 3 2021’s Most Influential Project】Topicの読解/内容理解/リスニング
8.【Unit 3 2021’s Most Influential Project】文法解説/グループワーク
9.【Unit 4 】Topicの読解/内容理解/リスニング
10.【Unit 4 Japan Works to Make Paternity Leave More Flexible】 文法解説/グループワーク
11.【Unit 5 Students Cooperate with Police in Cyber Patrol】Topicの読解/内容理解/リスニング
12.【Unit 5 Students Cooperate with Police in Cyber Patrol】文法解説/グループワーク
13.【Unit 6 Emergency Number “118”】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
14.前期まとめテストとリスニングガイダンス
15.総括とフィードバック

【後期】

1.後期の講義計画とプレゼンの説明
2.【Unit 6 Emergency Number “118”】文法解説/グループワーク
3.【Unit 7 Great Historical Figure Series: Shibusawa Eiichi 】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
4.【Unit7 Great Historical Figure Series: Shibusawa Eiichi 】 文法解説/グループワーク/文法解説/グループワーク
5.【Unit 8 Hawker Culture in Singapore】Topicの読解/内容理解/リスニング
6.中間テストと講評
7.【Unit9 Help Mark 】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
8.【Unit 10 Debate Sparked over Same Surname for Married Couples】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
9.【Unit 11 Video Translation】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
10.【Unit 12 Opinions Divided on Vaccine Passports】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
11.【Unit 13 Problems with Japan’s Technical Intern Training Program】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
12.【Unit 14 Young Carers】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
13.【Unit15 Genetically Modified Mosquito Project Given Green Light in Florida】Topicの読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
14.後期まとめテストとリスニングガイダンス
15.総括とフィードバック

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として毎回担当を指名するので、その担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと。英語シャドーイング練習は自主学習として実施する。

テキスト
４月最初の講義で販売する。

参考書・参考資料等
参考書は、講義中に適宜紹介し、プリント教材は初回講義（オリエンテーション）で配布する

学生に対する評価
予習状況と授業態度、前期・後期試験、プレゼンテーションを加味して行う。テスト（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）パラグラフ単位で英文を理解できる。
（A）短い会話のやり取りができるようになる。
（S）ある程度まとまった英文を読んで理解できる。

課題に対するフィードバックの方法
リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他
担当部分は必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ５回まで。講義開始３０分を超えて入室した場合は欠席とする。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	英語Ⅰ（再履修）							学 期	通年
副 題	基本的な英会話の習得を目指す実践型講義				授業方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバリング	M2-07-004	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
基本的な英文法を学び直し、簡単な日常会話ができる力を身につける。SCHOLASTIC のデジタル英語教材を利用した多読多聴で英語の 4 技能（Speaking,Listening, Reading, Writing）の向上を目指す。英語での発表やプレゼンテーションも行い、英語の発表力も養う。

授業の到達目標
初歩的な英文法を学び直し、基礎力を高めながら簡単な英会話が出来るようになる。 音声付きのデジタル英語絵本を読むことで、英語の発音を向上させ、同時に Speaking, Listening, Reading, Writing 能力を高めることができる。

授業計画
【前期】
1.予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2.Lesson 1① (Personal Information)
3.Lesson 1② (Meeting People)
4.Lesson 2① (Subject Pronouns)、Book Flix①
5.Lesson 2② (Places and Nationalities)、
6.Lesson 3① (Everyday Activities)、Book Flix②
7.Lesson 3② (Titles, Names, Nicknames)
8.中間テスト、解答と解説
9.Lesson 4①(Everyday Activities)
10.Lesson 4②(Posessive Adjectives)、Book Flix③
11.Lesson 5①(Describing People and Things)
12.Lesson 5②(Weather)、Book Flix④
13.英語発表① (Presentation)
14.前期まとめテスト
15.まとめテストの解答と解説、フィードバック

【後期】
1.Lesson 6① (Family Members)
2.Lesson 6② (Describing Activities and Events)、Book Flix⑤
3.Lesson 7① (Places Around Town)
4.Lesson 7② (Locating Places)、Book Flix⑥
5.Lesson 8① (Clothing)
6.Lesson 8② (Colors)、Book Flix⑦
7.英語発表② (Presentation)
8.Lesson 9① (Languages and Nationalities)、Book Flix⑧
9.Lesson 9② (Everyday Activities)
10.Lesson 10① (Habitual Actions)、Book Flix⑨
11.Lesson 10② (People's Intersts and Activities)
12.Lesson 11① (Describing Frequency of Actions)、Book Flix⑩
13.Lesson 11② (Describing People)、デジタルブックまとめ
14.後期まとめテスト
15.テストの解答と解説、年間を通した講義のフィードバック

準備学習（予習・復習）・時間
予習として、テキストの学習予定範囲の問題をあらかじめ解いておくこと。デジタル絵本は随時視聴しておくこと。講義後は英語レポートを英語で書き、テキストの学習範囲を復習しておくこと。

テキスト
Side by Side Level 1 Activity Workbook (Third Edition) SCHOLASTIC Book Flix（オンライン教材）

参考書・参考資料等
Side by Side Level 1 Extra Edition:Student Book and eText (Third Edition)、

学生に対する評価
講義中の積極性（30%）、講義後の英語レポート（20%）、発表に対する評価（20%）、 試験（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）基本的な語彙や英文法を使って、簡単な会話をすることができる。
（A）読んだ英文の内容を理解し、その内容について短い文でやり取りをすることができる。
（S）豊かな語彙や英文法を使って、様々な内容について会話でやり取りを続けることができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義についての質問は授業内、レポートのフィードバックはクラスルームで返却、試験等の課題についてのフィードバックは次時に行う。

その他
欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ５回まで。30 分以上の遅刻は欠席とみなす。
講義は基本的に英語で実施（時折、日本語）。
オンラインによる講義のため、インターネットに自由にアクセスができる環境と背景画像を準備して、カメラオンで講義に臨むこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニング型講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
元英会話スクール講師として勤務していた経験を活かし、基礎的な英語力を活用する英会話の訓練をする。試験だけでなく、英語のレポート課題や発表があり、英語での writing や発音・発表指導も行う予定である。

科目名	英語Ⅱ							学 期	通年
副 題	英会話と話題についての探求				授業方法	講義	担当者	亀位卓阿	
ナンバリング	M2-07-005	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
【前期】受講生がこれまでに身につけた知識としての英語を「実用英語」に「活性化」する。具体的には、時事英語や、読解系の日常社会英語の教材などで親和性のあるものを扱いたい。 【後期】実用的なコミュニケーション英語に取り組む。前期後期とも受講生にカスタマイズした役に立つ授業にする。

授業の到達目標
【前期】時事英語、宗教英語、トーイック等に親しむ。 【後期】上記のことを生かして卒業後も末永く英語を生かせる思考を身に着けてもらう。

授業計画
【前期】
1. ガイダンス
2. 高野山についての英語説明 (1)・読み物
3. 高野山についての英語説明 (2)・読み物
4. 高野山についての英語説明 (3)・読み物
5. 高野山についての英語説明 (4)・読み物
6. 高野山についての英語説明 (5)・読み物
7. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (1)・読み物 (英文檀信徒必携等)
8. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (2)・読み物 (英文檀信徒必携等)
9. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (3)・読み物 (英文檀信徒必携等)
10. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (4)・読み物 (英文檀信徒必携等)
11. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (5)・読み物 (英文檀信徒必携等)
12. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (6)・読み物 (英文檀信徒必携等)
13. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (7)・読み物 (英文檀信徒必携等)
14. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (8)・読み物 (英文檀信徒必携等)
15. まとめ

【後期】
1. ガイダンス
2. 英字新聞解釈・トーイック作業 (1)
3. 英字新聞解釈・トーイック作業 (2)
4. 英字新聞解釈・トーイック作業 (3)
5. 英字新聞解釈・トーイック作業 (4)
6. 英字新聞解釈・トーイック作業 (5)
7. 英字新聞解釈・トーイック作業 (6)
8. 英字新聞解釈・トーイック作業 (7)
9. 英字新聞解釈・トーイック作業 (8)
10. 英字新聞解釈・トーイック作業 (9)
11. 英字新聞解釈・トーイック作業 (10)
12. まとめ①
13. まとめ②
14. まとめ③
15. 試験

準備学習（予習・復習）・時間
中学・高校で習った英語の英文法理解、読解、作文をおさらいしておく。(計 90 分以上)。リスニングも普段から親しんで欲しい。

テキスト
英文檀信徒必携（@500)・英文高野山パンフレット（@50)。その他は授業中にコピーを配付する。自分の気に入っている英文法参考書などを持っておく。

参考書・参考資料等
授業を進める中で紹介する。

学生に対する評価
テスト（40%)、授業参加の積極性・態度（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）英文読解力をつけ、情報収集能力をつける。
（B）英語で高野山はもちろん、身の回りのことについて紹介できる。
（A）英会話が出来るよう英語での情報収集能力をつける。
（S）ビジネス英文を読解できるようになる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見は授業時、または期間中にフィードバックする。

その他
役に立つ勉強を工夫する。ネットを利用した情報伝達も工夫し、進めていきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	英語Ⅱ（再履修）							学期	通年
副　題	英会話の習得を目指す実践型講義				授業方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバリング	M3-07-006	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
会話でよく使われる英文法を学び直し、基礎的な日常会話ができる力を身につける。SCHOLASTIC のデジタル英語教材を利用した多読多聴で英語の４技能（Speaking, Listening, Reading, Writing）の向上を目指す。英語での発表やプレゼンテーションも行い、英語の発表力も養う。

授業の到達目標
基本的な英文法を学び直し、基礎力を高めながら簡単な英会話が出来るようになる。 音声付きのデジタル英語絵本を読むことで、英語の発音を向上させ、同時に Speaking, Listening, Reading, Writing 能力を高めることができる。

授業計画
【前期】
1.予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2.Lesson 1① (Simple Present, Simple Past)
3.Lesson 1② (Future: Going to, Like to)
4.Lesson 2① (Count Nouns)、Book Flix①
5.Lesson 2② (Non/Count Nouns)
6.Lesson 3① (Partitives, Nouns)、Book Flix②
7.Lesson 3② (Imperatives)
8.中間テスト、解答と解説
9.Lesson 4①(Future Tense: Will)
10.Lesson 4②(Might)、Book Flix③
11.Lesson 5①(Comparatives)
12.Lesson 5②(Should, Possessive Pronouns)、Book Flix④
13.英語発表① (Presentation)
14.前期まとめテスト
15.まとめテストの解答と解説、前期フィードバック

【後期】
1.Lesson 6① (Superlatives 1)
2.Lesson 6② (Superlatives 2)、Book Flix⑤
3.Lesson 7① (Imperatives)
4.Lesson 7② (Directions)、Book Flix ⑥
5.Lesson 8① (Adverbs, Comparative Adverbs)
6.Lesson 8② (Agent Nouns, If-Clauses)、Book Flix⑦
7.英語発表②(Presentation)
8.Lesson 9① (Past Continuous Tense)、Book Flix⑧
9.Lesson 9② (Reflexive Pronouns, While-Clauses)
10.Lesson 10① (Could, Be Able to)、Book Flix⑨
11.Lesson 10② (Have Got to, Too+Adjective)
12.Lesson 11 (Review, Must, Should)、Book Flix⑩
13.Lesson 12 (Future Continuous Tense)
14.後期まとめテスト
15.まとめテストの解答と解説、年間を通した講義のフィードバック

準備学習（予習・復習）・時間
予習として、テキストの学習予定範囲の問題をあらかじめ解いておくこと。デジタル絵本は随時視聴しておくこと。講義後は英語レポートを英語で書き、テキストの学習範囲を復習しておくこと。

テキスト
Side by Side Level 2 Activity Workbook (Third Edition) SCHOLASTIC Book Flix（オンライン教材）

参考書・参考資料等
Side by Side Level 2 Extra Edition:Student Book and eText

学生に対する評価
講義中の積極性（30%）、講義後の英語レポート（20%）、発表に対する評価（20%）、 試験（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）基本的な語彙や英文法を使って、簡単な会話をすることができる。
（A）読んだ英文の内容を理解し、その内容について短い文でやり取りすることができる。
（S）豊かな語彙や英文法を使って、様々な内容について会話でやり取りを続けることができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義についての質問は授業内、レポートのフィードバックはクラスルームで返却、試験等の課題についてのフィードバックは次時に行う。

その他
欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ５回まで。30 分以上の遅刻は欠席とみなす。
講義は基本的に英語で実施（時折、日本語）。
オンラインによる講義のため、インターネットに自由にアクセスができる環境と背景画像を準備して、カメラオンで講義に臨むこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニング型講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
元英会話スクール講師として勤務していた経験を活かし、基礎的な英語力を活用する英会話の訓練をする。試験だけでなく、英語のレポート課題や発表があり、英語での writing や発音・発表指導も行う予定である。

科目名	漢文							学 期	通年
副 題	漢文の基礎				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-007	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。返り点のとおりに読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などを修得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについても言及する。

授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点を利用して書き下し文を書ける。置き字・再読文字など、多用される特殊な用法を修得する。漢文を逐語訳・直訳することができる。漢文を自然な口語訳にすることができる。

授業計画

【前期】

1. 送りがな・返り点（テキスト第１日）
2. 書き下し文（１）（テキスト第２日）
3. 書き下し文（２）（テキスト第３日）
4. 熟語の構造（テキスト第４日）
5. 漢文の構造（テキスト第５日）
6. 再読文字（１）（テキスト第７日）
7. 再読文字（２）（テキスト第８日）
8. 否定の形（１）（テキスト第１０日）
9. 否定の形（２）（テキスト第１１日）
10. 否定の形（３）（テキスト第１２日）
11. 否定の形（４）（テキスト第１３日）
12. 疑問・反語の形（１）（テキスト第１５日）
13. 前期の総復習
14. 到達度の確認
15. 前期の総括

【後期】

1. 疑問・反語の形（２）（テキスト第１６日）
2. 疑問・反語の形（３）（テキスト第１７日）
3. 使役・受身の形（テキスト第１９日）
4. 比較選択・願望の形（テキスト第２０日）
5. 仮定・抑揚の形（テキスト第２１日）
6. 限定・累加の形（テキスト第２２日）
7. 文字の整理（１）（テキスト第２４日）
8. 文字の整理（２）（テキスト第２５日）
9. 文字の整理（３）（テキスト第２６日）
10. 文字の整理（４）（テキスト第２７日）
11. 文字の整理（５）（テキスト第２８日）
12. 文字の整理（６）（テキスト第２９日）
13. 後期の総復習
14. 到達度の確認
15. 後期の総括

準備学習（予習・復習）・時間

毎回、テキスト 2 ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。疑問・質問がある場合は、具体的に文章化する。(60 分)

テキスト

佐藤雅一『発展 30 日完成　漢文高校初級用』（日栄社）　書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

佐藤雅一『発展 30 日完成　漢文高校中級用』（日栄社）　日比野純三『発展 30 日完成　漢文高校上級用』（日栄社）　加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫　2010 年　など。

学生に対する評価

前期試験 40%・後期試験 60%で評価。定期試験が 60 点未満の時、宿題 1 枚を 1 点として加算し、60 点以上に達すれば 60 点。上記の条件で合格点に満たない場合、後期試験のみ 60 点以上であれば 60 点で合格。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。授業中にスマホ・PC は必要ないので、使用したい者は退室すること。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語A／サンスクリット語（別）							学 期	通年
副 題	サンスクリット初級				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M1-07-008	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
古典サンスクリット文法について語形のなりたちに注目し、基本的な文法書だけでなく工具類の扱いかたを射程に入れ、韻律・シンタックスに関する基礎知識をも修得する。精読する際に詩節を唱えてみることで実際に声に出してサンスクリットに親しむ感覚を身につける。

授業の到達目標
初等文法で習う文法規則を実際の古典資料と照らし合わせることによって連声や語形、韻律について正しく理解することができる。テキストやリーダーの指示どおりに文法事項やグロッサリー、注記を参照することで文献学の基礎を学び、作文や読誦を通じて実践的な知識をも身につける。

授業計画
【前期】
1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 音韻論と連声（サンディ）、問題演習
3. 名詞の変化①（-a-語幹）、問題演習
4. 名詞の変化②（-a-語幹）、問題演習
5. 名詞の変化③（男性-i-および-u-語幹、中性、女性の-i-および-u-語幹）、問題演習
6. 名詞の変化④（-r-および-ū-語幹、単音節、-r-語幹、二重母音語幹）、問題演習
7. 名詞の変化⑤（語根語幹、-as-, -is-, -us-語幹）、問題演習
8. 名詞の変化⑥（-ant-, -vant-および-mant-語幹）、問題演習
9. 名詞の変化⑦（-in-, -an-, -van-および-man-語幹）、問題演習
10. 名詞の変化⑧（-vas-, -yas-語幹）、問題演習
11. 名詞の変化⑨（-añc-語幹およびその他の語幹）、問題演習
12. 比較法、問題演習
13. 代名詞、問題演習
14. 数詞、問題演習
15. 試験と総括

【後期】
1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 現在語幹①（第一種活用・幹母音語幹、未完了過去、願望法・命令法）、問題演習
3. 現在語幹②（第二種活用・語根型語幹）、問題演習
4. 現在語幹③（第二種活用・重複型語幹）、問題演習
5. 現在語幹④（第二種活用・鼻音挿入型語幹）、問題演習
6. 現在語幹⑤（未来語幹）、問題演習
7. アオリスト語幹、問題演習
8. 完了語幹・受動態、問題演習
9. 二次活用動詞①（使役活用と名詞起源動詞）、問題演習
10. 二次活用動詞②（意欲活用と強意活用）、問題演習
11. 準動詞（動詞的形容詞、不定詞、絶対詞）、問題演習
12. 複合語①（動詞複合語と副詞的複合語、名詞複合語（Dv））、問題演習
13. 複合語②（名詞複合語（TP, KD, BV））、問題演習
14. シンタックス（統語論）、問題演習
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として指示された次回の授業範囲について文法事項を調べ日本語訳を作成すること（90 分）。事後学習としてテキストと自分のノートとを読み直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと（90 分）。

テキスト
J.ゴンダ（著）・鎧淳（翻訳）『サンスクリット語初等文法―練習題、選文、語彙付』東京・春秋社、1989年（書店で購入）

参考書・参考資料等
①W. D. Whitney. Sanskrit Grammar. ②同. The Roots, Verb-forms and Primary Derivates of the Sanskrit Language. ③J. S. Speijer. Sanskrit Syntax.

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに各授業における課題（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）テキストやリーダーに指示された文法事項を忠実に押さえ、グロッサリーや注記を正確に参照することができている。
（B）連声（サンディ）や語形を正しく押さえ、語形を正しく比定することができている。
（A）韻文・散文の平易な文章について正しく理解し、散文で簡単な文章を作ることができる。
（S）韻文で簡単な文章を作ることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。少しでもサンスクリット語に興味をもつ希望者の積極的な参加をもとめるアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文Ⅰ							学 期	前期
副 題	漢文の基礎				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-009	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高校レベルの復習をする。返り点のとおりに読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて、理解する。

授業の到達目標
漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点を利用して書き下し文を書ける。置き字・再読文字など、多用される特殊な用法を修得する。漢文を逐語訳・直訳することができる。漢文を自然な口語訳にすることができる。

授業計画
1. 送りがな・返り点（テキスト第１日）
2. 書き下し文（１）（テキスト第２日）
3. 書き下し文（２）（テキスト第３日）
4. 熟語の構造（テキスト第４日）
5. 漢文の構造（テキスト第５日）
6. 再読文字（１）（テキスト第７日）
7. 再読文字（２）（テキスト第８日）
8. 否定の形（１）（テキスト第１０日）
9. 否定の形（２）（テキスト第１１日）
10. 否定の形（３）（テキスト第１２日）
11. 否定の形（４）（テキスト第１３日）
12. 疑問・反語の形（１）（テキスト第１５日）
13. 前期の総復習
14. 到達度の確認
15. 前期の総括

準備学習（予習・復習）・時間
毎回、テキスト 2 ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。疑問・質問がある場合は、具体的に文章化する。(60 分)

テキスト
佐藤雅一『発展 30 日完成　漢文高校初級用』（日栄社）　書店等で購入すること。

参考書・参考資料等
佐藤雅一『発展 30 日完成　漢文高校中級用』（日栄社）　日比野純三『発展 30 日完成　漢文高校上級用』（日栄社）　加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫　2010 年　など。

学生に対する評価
定期試験の点数を成績とする。定期試験が 60 点未満の時、宿題 1 枚を 1 点として加算し、60 点以上に達すれば 60 点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

課題に対するフィードバックの方法
○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他
授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。授業中にスマホ・PC は必要ないので、使用したい者は退室すること。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文Ⅱ							学 期	後期
副 題	漢文の基礎				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-010	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高校レベルの復習をする。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加など。ほかに、漢文に特有な漢字の用法を習得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。日本と中国との文化、現代社会と当時との相違について理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて理解する。

授業の到達目標
漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点を利用して書き下し文を書ける。置き字・再読文字など、多用される特殊な用法を修得する。漢文を逐語訳・直訳することができる。漢文を自然な口語訳にすることができる。

授業計画
1. 疑問・反語の形（２）（テキスト第１６日）
2. 疑問・反語の形（３）（テキスト第１７日）
3. 使役・受身の形（テキスト第１９日）
4. 比較選択・願望の形（テキスト第２０日）
5. 仮定・抑揚の形（テキスト第２１日）
6. 限定・累加の形（テキスト第２２日）
7. 文字の整理（１）（テキスト第２４日）
8. 文字の整理（２）（テキスト第２５日）
9. 文字の整理（３）（テキスト第２６日）
10. 文字の整理（４）（テキスト第２７日）
11. 文字の整理（５）（テキスト第２８日）
12. 文字の整理（６）（テキスト第２９日）
13. 後期の総復習
14. 到達度の確認
15. 後期の総括

準備学習（予習・復習）・時間
毎回、テキスト 2 ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。疑問・質問がある場合は、具体的に文章化する。(60 分)

テキスト
佐藤雅一『発展 30 日完成　漢文高校初級用』（日栄社）　書店等で購入すること。

参考書・参考資料等
佐藤雅一『発展 30 日完成　漢文高校中級用』（日栄社）　日比野純三『発展 30 日完成　漢文高校上級用』（日栄社）　加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫　2010 年　など。

学生に対する評価
定期試験の点数を成績とする。定期試験が 60 点未満の時、宿題 1 枚を 1 点として加算し、60 点以上に達すれば 60 点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

課題に対するフィードバックの方法
○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他
授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。授業中にスマホ・PC は必要ないので、使用したい者は退室すること。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本語A							学 期	通年
副 題	中級日本語				授業方法	講義	担当者	藤井知枝	
ナンバリング	M1-07-011	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
大学で学ぶために必要となる、日本語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能を総合的に学習する。 中級から中上級レベルの文法・語彙を学習し、日本の社会や文化などについて書かれた文章を読み、 理解する。自分の考えを理由とともに表現する力を身につける。 講義や口頭発表を聞く力を養う。 大学で必要な小論文やレポートを書く力をつける。

授業の到達目標
大学の講義内容を理解し、大学での基本的な活動ができる。 日本の社会や文化を理解できるようになる。

授業計画
【前期】
1. 自己紹介/ テーマ：まもるー見えない相手 語彙・読解
2. テーマ：まもるー見えない相手 文法（～はずだ 他）
3. テーマ：まもるー見えない相手 / 聴解「落語」
4. アカデミック・ライティング 準備
5. テーマ：なれるー腕時計 語彙・読解
6. テーマ：なれるー腕時計 文法（～につれて 他）
7. テーマ：なれるー腕時計 / 聴解「将棋」
8. アカデミック・ライティング 文末・文中のスタイル
9. アカデミック・ライティング 指示表現・接続表現・小論文作成
10. テーマ：わけるーABOAB 語彙・読解
11. テーマ：わけるーABOAB 文法（～というのも 他）
12. テーマ：わけるーABOAB / 聴解「明治神宮の森」
13. アカデミック・ライティング 指示表現・接続表現・副詞のスタイル
14. アカデミック・ライティング 主張の表現・文末のバリエーション・小論文作成
15. 徳川家康 我慢の武士

【後期】
1. テーマ：うたうー歌の力 語彙・読解
2. テーマ：うたうー歌の力 文法（～ものだから 他）
3. テーマ：うたうー歌の力 / 聴解「畳」
4. アカデミック・ライティング 名詞・動詞・形容詞のスタイル
5. アカデミック・ライティング 視点・呼応の表現・小論文作成
6. テーマ：はなれるーふるさと 語彙・読解
7. テーマ：はなれるーふるさと 文法（～たばかりに 他）
8. テーマ：はなれるーふるさと / 聴解「天神様」
9. アカデミック・ライティング 助詞・引用のスタイル
10. アカデミック・ライティング 引用表現・レポート作成
11. テーマ：かなえるーふたつの夢 語彙・読解
12. テーマ：かなえるーふたつの夢 文法（～はともかくとして 他）
13. テーマ：かなえるーふたつの夢 / 聴解「知里幸恵さん」
14. アカデミック・ライティング 数値に関する表現のスタイル
15. アカデミック・ライティング 図表・データの表現・レポート作成

準備学習（予習・復習）・時間
新出語彙を事前に調べておくこと。テキストの指定された文に目を通しておくこと。（計 60 分） 課終了後、小テストを行うので、十分に学習しておくこと。（60 分）

テキスト
松田浩志・亀田美保『テーマ別 中級から学ぶ日本語（三訂版）』研究社（2014）（書店で購入） 伊集院郁子・高野愛子『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』アスク出版（2020）（書店で購入）

参考書・参考資料等
①ABK『TRY！日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語（改訂版）』アスク出版（2014）②友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型５００（改訂版）』アルク（2010）

学生に対する評価
期末試験（50%）、課題（25%）、小テスト（２5%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した文法、語彙をある程度理解することができる。
（B）学習した文法、語彙をほぼ理解することができる。
（A）学習した文法、語彙を理解し、使うことができる。
（S）学習した文法、語彙を場面に応じ、自分の言葉として使うことができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出された課題は添削し、次回返却する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本語B							学 期	通年
副 題	上級日本語				授業方法	講義	担当者	藤井知枝	
ナンバリング	M1-07-012	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
大学で学ぶために必要となる日本語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能を総合的に学習する。 中上級から上級レベルの語彙や表現を学ぶ。 社会的なテーマについて書かれたエッセイ、説明文、記事などを読み、自分の考えを詳しく具体的に表現する力を身につける。 日本文化や日本人の考え方についての文を読み理解する。 社会、生活、経済、政治、行政に関するニュースを聴く力を養う。

授業の到達目標
大学でのアカデミックな活動が円滑にできる。 日本の社会や文化への理解を深めることができる。

授業計画
【前期】
1. 自己紹介 / テーマ：環境のためにできること 語彙・読解
2. テーマ：環境のためにできること グラフの数値の説明 他
3. テーマ：環境のためにできること 重要表現（～とすれば 他）
4. テーマ：環境のためにできること 文法・語彙
5. 聴解「静岡県で震度6弱の地震」他
6. テーマ：食の共同性 語彙・読解
7. テーマ：食の共同性 読解 他
8. テーマ：食の共同性 重要表現（～に向けて 他）
9. テーマ：食の共同性 文法・語彙
10. 聴解「自動車保険料、各社一斉値上げへ」他
11. テーマ：笑いのちから 語彙・読解
12. テーマ：笑いのちから 関連エッセイ 他
13. テーマ：笑いのちから 重要表現（～をはじめとする/～をはじめとして 他）
14. テーマ：笑いのちから 文法・語彙
15. 聴解「内閣支持率、5.2ポイント低下」他

【後期】
1. テーマ：しる―初めての雪 語彙・読解
2. テーマ：しる―初めての雪 要約、文法（～ことなく 他）
3. テーマ：しる―初めての雪 / 聴解「健全サイトで中高生の被害相次ぐ」他
4. テーマ：いたわる―春の一日 語彙・読解
5. テーマ：いたわる―春の一日 要約、文法（～からといって、～というものではない 他）
6. テーマ：いたわる―春の一日 / 聴解「建設業準大手2社が合併に合意」他
7. テーマ：ならう―そば屋の先生 語彙・読解
8. テーマ：ならう―そば屋の先生 要約、文法（～ならまだしも 他）
9. テーマ：ならう―そば屋の先生 / 聴解「殺人事件、時効廃止へ」他
10. テーマ：よみとる―記事の裏側 語彙・読解
11. テーマ：よみとる―記事の裏側 要約、文法（～手前 他）
12. テーマ：よみとる―記事の裏側 / 聴解「就職活動、厳しい状況続く」 他
13. テーマ：さばく―裁判員のもやもや 語彙・読解
14. テーマ：さばく―裁判員のもやもや 要約、文法（～とも～ともつかない 他）
15. テーマ：さばく―裁判員のもやもや / 聴解「レストランで食中毒」他

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの新出語彙を調べ、指定された文に目を通しておくこと。（計 60 分） ユニット終了後小テストを行うので、十分に学習しておくこと。（60 分）

テキスト
鎌田修・ボイクマン総子他『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』ジャパンタイムズ（2012）（書店で購入） 松田浩志・亀田美保『テーマ別 上級で学ぶ日本語（三訂版）』研究社（2016）（書店で購入）

参考書・参考資料等
①友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型５００』アルク（2010）

学生に対する評価
期末試験（50%）、課題（25%）小テスト（２5%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した文法・表現をある程度理解することができる。
（B）学習した文法・表現をほぼ理解することができる。
（A）学習した文法・表現を理解し、使うことができる。
（S）学習した文法・表現を場面に応じ、自分の言葉として使うことができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出された課題は添削し、次回返却する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミA1							学 期	前期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニング Ⅰ				授業方法	演習	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M1-01-013	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.大学の学び方
２.ノートの取り方（１）授業内容を正確に理解する
３.ノートの取り方（２）キーワードを中心に整理する
４.配布資料の整理と使い方
５.予習・復習の必要性
６.本の読み方（１）全体像を理解する
７.本の読み方（２）内容を要約する
８.レポートの作成の仕方（１）論文の書式
９.レポートの作成の仕方（２）文章構成
10.レポートの作成の仕方（３）分かりやすい文章
11.資料の検索（１）図書館の利用
12.資料の検索（２）インターネットの利用
13.レポート作成の実践（１）論文を要約する
14.レポート作成の実践（２）意見文を書く
15.レポート作成の実践（３）課題にしがって文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を５クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミA2							学 期	後期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M1-01-014	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.発表するには
２.データの収集（１）データの種類を説明する
３.データの収集（２）具体的な収集方法を説明する
４.データの記録（１）メモ
５.データの記録（２）写真
６.データの記録（３）動画
７.データと思考の整理
８.レジュメの作成（１）レジュメの書式
９.レジュメの作成（２）分かりやすいレジュメ
10.パワーポイントの作成（１）パワーポイントの基礎
11.パワーポイントの作成（２）発表のためのパワーポイント
12.発表の実践（１）課題に対する発表
13.発表の実践（２）意見を発表する発表
14.討論（１）課題に関する討論
15.討論（２）他の報告に対する討論

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を５クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミB1							学 期	前期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニング Ⅰ				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M1-01-015	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.大学の学び方
２.ノートの取り方（１）授業内容を正確に理解する
３.ノートの取り方（２）キーワードを中心に整理する
４.配布資料の整理と使い方
５.予習・復習の必要性
６.本の読み方（１）全体像を理解する
７.本の読み方（２）内容を要約する
８.レポートの作成の仕方（１）論文の書式
９.レポートの作成の仕方（２）文章構成
10.レポートの作成の仕方（３）分かりやすい文章
11.資料の検索（１）図書館の利用
12.資料の検索（２）インターネットの利用
13.レポート作成の実践（１）論文を要約する
14.レポート作成の実践（２）意見文を書く
15.レポート作成の実践（３）課題にしがって文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を 5 クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミB2							学 期	後期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M1-01-016	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.発表するには
２.データの収集（１）データの種類を説明する
３.データの収集（２）具体的な収集方法を説明する
４.データの記録（１）メモ
５.データの記録（２）写真
６.データの記録（３）動画
７.データと思考の整理
８.レジュメの作成（１）レジュメの書式
９.レジュメの作成（２）分かりやすいレジュメ
10.パワーポイントの作成（１）パワーポイントの基礎
11.パワーポイントの作成（２）発表のためのパワーポイント
12.発表の実践（１）課題に対する発表
13.発表の実践（２）意見を発表する発表
14.討論（１）課題に関する討論
15.討論（２）他の報告に対する討論

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を 5 クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミC1							学 期	前期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニング Ⅰ				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-01-017	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.大学の学び方
２.ノートの取り方（１）授業内容を正確に理解する
３.ノートの取り方（２）キーワードを中心に整理する
４.配布資料の整理と使い方
５.予習・復習の必要性
６.本の読み方（１）全体像を理解する
７.本の読み方（２）内容を要約する
８.レポートの作成の仕方（１）論文の書式
９.レポートの作成の仕方（２）文章構成
10.レポートの作成の仕方（３）分かりやすい文章
11.資料の検索（１）図書館の利用
12.資料の検索（２）インターネットの利用
13.レポート作成の実践（１）論文を要約する
14.レポート作成の実践（２）意見文を書く
15.レポート作成の実践（３）課題にしがって文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を５クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミC2							学 期	後期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-01-018	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.発表するには
２.データの収集（１）データの種類を説明する
３.データの収集（２）具体的な収集方法を説明する
４.データの記録（１）メモ
５.データの記録（２）写真
６.データの記録（３）動画
７.データと思考の整理
８.レジュメの作成（１）レジュメの書式
９.レジュメの作成（２）分かりやすいレジュメ
10.パワーポイントの作成（１）パワーポイントの基礎
11.パワーポイントの作成（２）発表のためのパワーポイント
12.発表の実践（１）課題に対する発表
13.発表の実践（２）意見を発表する発表
14.討論（１）課題に関する討論
15.討論（２）他の報告に対する討論

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を５クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミD1							学 期	前期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニング Ⅰ				授業方法	演習	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	M1-01-019	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.大学の学び方
２.ノートの取り方（１）授業内容を正確に理解する
３.ノートの取り方（２）キーワードを中心に整理する
４.配布資料の整理と使い方
５.予習・復習の必要性
６.本の読み方（１）全体像を理解する
７.本の読み方（２）内容を要約する
８.レポートの作成の仕方（１）論文の書式
９.レポートの作成の仕方（２）文章構成
10.レポートの作成の仕方（３）分かりやすい文章
11.資料の検索（１）図書館の利用
12.資料の検索（２）インターネットの利用
13.レポート作成の実践（１）論文を要約する
14.レポート作成の実践（２）意見文を書く
15.レポート作成の実践（３）課題にしがって文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を 5 クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミD2							学 期	後期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	M1-01-020	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.発表するには
２.データの収集（１）データの種類を説明する
３.データの収集（２）具体的な収集方法を説明する
４.データの記録（１）メモ
５.データの記録（２）写真
６.データの記録（３）動画
７.データと思考の整理
８.レジュメの作成（１）レジュメの書式
９.レジュメの作成（２）分かりやすいレジュメ
10.パワーポイントの作成（１）パワーポイントの基礎
11.パワーポイントの作成（２）発表のためのパワーポイント
12.発表の実践（１）課題に対する発表
13.発表の実践（２）意見を発表する発表
14.討論（１）課題に関する討論
15.討論（２）他の報告に対する討論

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を５クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミE1							学 期	前期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニング Ⅰ				授業方法	演習	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	M1-01-021	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.大学の学び方
２.ノートの取り方（１）授業内容を正確に理解する
３.ノートの取り方（２）キーワードを中心に整理する
４.配布資料の整理と使い方
５.予習・復習の必要性
６.本の読み方（１）全体像を理解する
７.本の読み方（２）内容を要約する
８.レポートの作成の仕方（１）論文の書式
９.レポートの作成の仕方（２）文章構成
10.レポートの作成の仕方（３）分かりやすい文章
11.資料の検索（１）図書館の利用
12.資料の検索（２）インターネットの利用
13.レポート作成の実践（１）論文を要約する
14.レポート作成の実践（２）意見文を書く
15.レポート作成の実践（３）課題にしがって文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を５クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミE2							学 期	後期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	M1-01-022	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.発表するには
２.データの収集（１）データの種類を説明する
３.データの収集（２）具体的な収集方法を説明する
４.データの記録（１）メモ
５.データの記録（２）写真
６.データの記録（３）動画
７.データと思考の整理
８.レジュメの作成（１）レジュメの書式
９.レジュメの作成（２）分かりやすいレジュメ
10.パワーポイントの作成（１）パワーポイントの基礎
11.パワーポイントの作成（２）発表のためのパワーポイント
12.発表の実践（１）課題に対する発表
13.発表の実践（２）意見を発表する発表
14.討論（１）課題に関する討論
15.討論（２）他の報告に対する討論

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を５クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミF1							学 期	前期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニング Ⅰ				授業方法	演習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M1-01-023	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.大学の学び方
２.ノートの取り方（１）授業内容を正確に理解する
３.ノートの取り方（２）キーワードを中心に整理する
４.配布資料の整理と使い方
５.予習・復習の必要性
６.本の読み方（１）全体像を理解する
７.本の読み方（２）内容を要約する
８.レポートの作成の仕方（１）論文の書式
９.レポートの作成の仕方（２）文章構成
10.レポートの作成の仕方（３）分かりやすい文章
11.資料の検索（１）図書館の利用
12.資料の検索（２）インターネットの利用
13.レポート作成の実践（１）論文を要約する
14.レポート作成の実践（２）意見文を書く
15.レポート作成の実践（３）課題にしがって文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を 5 クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミF2							学 期	後期
副 題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M1-01-024	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。 密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標
①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。 ②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。 ③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画
１.発表するには
２.データの収集（１）データの種類を説明する
３.データの収集（２）具体的な収集方法を説明する
４.データの記録（１）メモ
５.データの記録（２）写真
６.データの記録（３）動画
７.データと思考の整理
８.レジュメの作成（１）レジュメの書式
９.レジュメの作成（２）分かりやすいレジュメ
10.パワーポイントの作成（１）パワーポイントの基礎
11.パワーポイントの作成（２）発表のためのパワーポイント
12.発表の実践（１）課題に対する発表
13.発表の実践（２）意見を発表する発表
14.討論（１）課題に関する討論
15.討論（２）他の報告に対する討論

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト
全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年） ②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年） ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995 年） ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。 ②受講者を 5 クラス程度に編成する。 ④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	常用経典／常用経典(別)							学 期	通年
副 題	特殊な読み方・抑揚・多人数での唱法。				授業方法	実技	担当者	宮田永明	
ナンバリング	M1-01-025	実務経験の有無	有	関連DP	1,3,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の勤行・法要などに用いる諸経典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを暗誦できるように務める。『真言宗常用諸経要聚』等の経典に用いられている仏教用語の基礎的理解を助け、経典が描く仏教・密教的世界観が理解しやすくなるようなるべく簡単に用語の概説をおこなう。また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『観音経』、『梵網経』『金胎礼懺』「三陀羅尼」『梵讃』に務める。

授業の到達目標
『理趣経』、『梵網経』、礼懺、三陀羅尼、般若心経、立義分、諸真言等が読誦できる様に務める。受戒・加行などへの参加者の必要性に伴い、必要となる諸経の認識と理解に努め、仏教徒として各教典の内容を如何に捉え、実践としての行法を修する上での参考となる様指導する。

授業計画
【前期】
1. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（開経偈）（懺悔文）
2. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（礼文）
3. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（理趣経）
4. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（理趣経）
5. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（梵網経）
6. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（梵網経）
7. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（金・胎礼懺）
8. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（金・胎礼懺）
9. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（観音経）
10. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（観音経）
11. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（般若心経）
12. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（立義分）（九条錫杖）
13. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（梵讃・三陀羅尼）（諸真言）
14. 経典や偈文の読誦法の解説と練習（梵讃・三陀羅尼）（諸真言）
15. 試験と講評

【後期】
1. 前期の復習と補足解説（開経偈）（懺悔文）（礼文）
2. 前期の復習と補足解説（理趣経）
3. 前期の復習と補足解説（理趣経）
4. 前期の復習と補足解説（金・胎礼懺）
5. 前期の復習と補足解説（金・胎礼懺）
6. 前期の復習と補足解説（観音経）
7. 前期の復習と補足解説（梵讃・三陀羅尼）（諸真言）
8. 前期の復習と補足解説（梵網経）・外
9. 前期の復習と補足解説（般若心経）・外
10. 前期の復習と補足解説（般若心経）・外
11. 前期の復習と補足解説（立義分）・外
12. 前期の復習と補足解説（立義分）・外
13. 『般若心経秘鍵』を読む
14. 『般若心経秘鍵』を読む
15. 試験と講評

準備学習（予習・復習）・時間
実技実習の習得を求める。復習の習熟が必要。（30 分程度）

テキスト
中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を用いる。その他、資料を配布する。

参考書・参考資料等
必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価
実技（50%）・筆記試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『理趣経』がある程度読める。
（B）『理趣経』・『観音経』・「般若心経」が読める。
（A）常用経典のほぼ主要な経典が読め、概略の理解がある。
（S）常用経典のほぼ主要な経典が読め、特に諸経の理解に優れている。本人にとって以後の展望が見込める。

課題に対するフィードバックの方法
質問等はその都度対応する。テストの次回授業時フィードバックを行う。

その他
講義には、念珠と輪袈裟、中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を持参すること。他の経本は授業を進める上で（ページの指示・訂正箇所の不一致など）時間のロスが多くなる。経典の不所持は、出席を認めない。受講拒否とみなす。IC レコーダー等の用意が有れば使用を許可する。なるべく持って来ることを勧める。伽藍の金堂で開壇される「結縁灌頂」が有ればに入壇することを原則として義務付ける。これは法会の中でどの様に用いられているか、実際上知ってもらう為である。また、各種法会に参詣することを勧める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり、高野山山内住職であって、元伽藍維那職で諸法会に携わった経験と、高野山大学受戒会の伝戒阿闍梨、及び高野山大学加行傳授大阿闍梨を務めた経験がある教員が真言宗僧侶として、常に用いる諸経を通じて、経典に対する宗教者としての受講者各人が、実際上の讀誦技術の向上と内容理解の重要性を認識出来るよう授業する。これは、これからの社会に於て僧侶として仏教経典が何の為に説かれて、讀誦し、護持し、流布する事が必要なのかを理解し布教活動する為である。

科目名	声明／声明（別）							学 期	通年
副 題	真言僧侶として必須の声明を研鑽する				授業方法	実技	担当者	辻秀道	
ナンバリング	M1-01-026	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」。我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎（楽理を含む）の導入部分から学ぶ。

授業の到達目標
真言宗法要の基本となる「理趣三昧法会」で使われる声明を研鑽する。

授業計画
【前期】
1. 声明の楽譜の見方・唱え方（旋律型）の解説・テキスト『南山進流声明類聚・附伽陀』を必ず持参すること。
2. 「三礼」声明譜と唱え方の説明。
3. 四智梵語（1）
4. 四智梵語（2）
5. 大日讃（1）
6. 大日讃（2）
7. 不動讃
8. 四智漢語（1）
9. 四智漢語（2）
10. 心略漢語（1）
11. 心略漢語（2）
12. 仏讃（1）
13. 仏讃（2）
14. 前期個人発表と講評
15. 散華（初段目）（1）

【後期】
1. 散華（初段目）（2）
2. 散華（二段目）（1）
3. 散華（二段目）（2）
4. 散華（二段目）（3）
5. 散華（三段目）（1）
6. 散華（三段目）（2）
7. 対揚（1）
8. 対揚（2）
9. 対揚（3）
10. 唱礼（金剛界）（1）
11. 唱礼（2）
12. 唱礼（3）
13. 唱礼（4）
14. 後期個人発表と講評
15. 唱礼（5）中曲（各段の頭の部分のみ）

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として授業で学んだ唱え方に関して練習をしておくこと（90 分）

テキスト
宮野宥智編『南山進流声明類聚・附伽陀』を松本日進堂にて事前に購入する事。【必ず１講目授業より持参すること。】　（注、必ず同一内容の声明類聚で、できるだけ新しく購入した本を準備する事）

参考書・参考資料等
必要に応じて授業中に紹介する。

学生に対する評価
前期試験（40%）、授業参加の積極性（20%）、後期試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）南山進流声明を、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（B）南山進流声明の楽譜や唱え方を概ね理解し、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（A）理趣三昧法会の声明を概ね理解し、一人で唱える事が出来る。
（S）南山進流声明の理論・唱え方を理解し、理趣三昧法会の声明を一人で唱える事が出来る。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。声明は毎週の積み重ねとなるので、できる限り欠席しない様にすること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧學院・大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	法式／法式（別）							学 期	通年
副 題	高野山で学ぶ法会の実際				授業方法	実技	担当者	加藤善弘	
ナンバリング	M1-01-027	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
真言宗の僧侶として法式の基礎知識を理解する。

授業の到達目標
真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識を理解し、説明できるようになる。

授業計画
【前期】
1. 講義内容の説明
2. 道場荘厳の解説について（1）　事相と教相
3. 道場荘厳の解説について（2）　荘厳の目的と心構え
4. 道場荘厳の解説について（3）　道場荘厳の歴史
5. 道場荘厳の解説について（4）　祀り方の実際
6. 道場荘厳の解説について（5）　道場荘厳具の説明
7. 道場荘厳の解説について（6）　道場荘厳具の説明
8. 道場荘厳の解説について（7）　密壇荘厳具の説明
9. 道場荘厳の解説について（8）　密壇荘厳具の説明
10. 六種供養について（1）　供養の基本
11. 六種供養について（2）　供養の内容
12. 六種供養について（3）　供養の意義
13. 六種供養について（4）　供養の意義
14. 道場荘厳見学
15. 試験と総括

【後期】
1. 講義内容の説明
2. 真言宗の本尊について
3. 真言宗の八祖について
4. 壇荘厳の解説について（1）壇荘厳の意義と歴史
5. 壇荘厳の解説について（2）壇の形式と種類
6. 壇荘厳の解説について（3）大壇荘厳具の説明と意義
7. 壇荘厳の解説について（4）大壇荘厳具の説明と意義
8. 壇荘厳の解説について（5）大壇荘厳具の説明と意義
9. 壇荘厳の解説について（6）大壇荘厳具の説明と意義
10. 壇荘厳の解説について（7）大壇荘厳具の説明と意義
11. 壇荘厳の解説について（8）大壇荘厳具の説明と意義
12. 壇荘厳の解説について（9）大壇荘厳具の説明と意義
13. 壇荘厳の解説について（10）総括
14. 壇荘厳見学
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）

テキスト
前期：『真言宗の事作法』教務課にて購入のこと。 後期：授業時にプリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等
大山公淳著『真言宗法儀解説＜新装版＞』東方出版、平成 24 年

学生に対する評価
定期試験（80%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語を覚えている。
（B）道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語の理解が出来ている。
（A）道場荘厳・壇荘厳の様式について理解が出来ている。
（S）道場荘厳・壇荘厳の基礎を理解した上で、説明することが出来る。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶で高野山内寺院の住職であり、現法会課長である教員が、真言宗の法式について、講義や道場見学を通してその重要性を認識させる。

科目名	布教A／布教（別）							学 期	通年
副 題	布教の基本を学ぶー				授業方法	実技	担当者	橋本真人	
ナンバリング	M1-01-028	実務経験の有無	有	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本講義は布教の入門的な役割を果たす科目である。布教の基本的な知識と方法を学び、一般大衆に広く弘法大師や真言密教の教えを伝える教化伝道の重要性を認識する。また寺院子弟には、檀信徒の面前で法話を行なえるように自信をつけさせることがこの講義の目的である。

授業の到達目標
布教理論の学習により教化伝道の重要性を認識し、布教実修を通じて自ら原稿を作成し法話を語れるようになる。

授業計画
【前期】
1.講義の概要について解説する
2.布教伝道の精神
3.布教の目的
4.布教の任務
5.仏教の布教伝道
6.真言宗の布教理念
7.信仰心の喚起
8.礼拝の実践
9.安心（あんじん）の獲得
10.真言宗布教史
11.布教の対象
12.布教の種類
13.説法の十事
14.布教資料について
15.布教の五段、三段法

【後期】
1.布教原稿の書き方
2.教材収集の方法
3.布教の心得と教材の扱い方
4.布教実修①
5.布教実修②
6.布教実修③
7.布教実修④
8.布教実修⑤
9.布教実修⑥
10.布教実修⑦
11.実修の所感
12.文書布教のあり方
13.高野山開創の意義
14.布教作法とその心得
15.講義の総括

準備学習（予習・復習）・時間
（予習）講義前にテキストを正しく読めるようにしておくこと。(60 分)（復習）講義で学習した弘法大師の聖語を『定本弘法大師全集』で調べ、研究方法を身につける。(60 分)

テキスト
寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社、配布プリント

参考書・参考資料等
橋本真人著『弘法大師の贈り物』春秋社

学生に対する評価
授業態度・出席状況（５0%）、文書レポート・布教実修（50%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）仏教、密教の基本用語が理解できる。
（B）布教に関する資料収集と学習方法を習得する。
（A）基本的な布教原稿を作成できる。
（S）法話を創作して、それを布教実修（発表）を通じ人々に語ることができる。

課題に対するフィードバックの方法
法話発表者の内容について学生からも感想を述べ、聴くことの大切さと難しさを学ぶ。また、布教は一般大衆の目線に合わせ、常に「わかる法話」を心掛けることの大切さを習得する。

その他
布教は「法話」に限定されたものではない。現代社会の動向を紐解き、時代に即した布教方法を見いだすことも大切である。しかしながら僧侶である以上、人前で話す「法話」は避けて通れないことも事実である。そのことを意識して受講いただきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
担任教員は、高野山真言宗本山布教師であり高野山真言宗寺院住職である。基本的な布教理論の学習と布教実修を通して、教化伝道の重要性を認識していただけるよう努める。

科目名	布教B（詠歌）							学 期	通年
副 題	金剛流御詠歌と宗教音楽を学ぶ。				授業方法	実技	担当者	辻・西山・岩田	
ナンバリング	M1-01-029	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
御詠歌の唱え方や理論や歴史を学びながら、その他の宗教音楽にもふれる。布教活動の実践の参考となるよう学外授業も交えながら楽しい御詠歌をめざす。

授業の到達目標
御詠歌を中心に宗教音楽を学び布教活動の実践に生かせるようになる。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション・各種使用テキストと法具の説明・詠階説明
2. いろは歌／追弔和讃（1）・詠歌、和讃の概略と歴史
3. 宗教音楽布教活動と実践
4. 誕生和讃　〈相互供養和讃〉
5. 誕生和讃　〈修行和讃〉
6. 誕生和讃・〈修行和讃〉
7. 楽理・宗教音楽
8. 相互供養和讃・所作全般
9. 遍照尊
10. 個人発表
11. 楽理・宗教音楽
12. 高野の四季
13. 御廟前
14. 夢遍路
15. 前期個人発表・前期曲復習

【後期】
1. 前期履修曲総括復習
2. 観音大慈
3. 光明・無明無常
4. 楽理・宗教音楽と布教活動と実践
5. めぐみの光かがやきて
6. 法悦歓喜和讃 (1)
7. 宗教音楽
8. 個人発表
9. 法悦歓喜和讃 (2)
10. 相互供養和讃・所作全般
11. 心経和讃・めぐみの光かがやきて
12. 宗教音楽
13. いろは歌・追弔和讃
14. 後期個人発表
15. 後期履修曲総括

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として授業で学んだ曲を、声を出して何度もお唱えし練習をすること。（６０分）

テキスト
オリエンテーション時に購入する書籍・法具等の説明をする。

参考書・参考資料等
オリエンテーション時参考書を指示する。

学生に対する評価
前期実技発表（４０％）、後期実技発表（４０％）、授業参加の積極性（２０％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）他の人と一緒に唱える事が出来る。
（B）一人でお唱えだけ出来る。
（A）２～３曲を安定して唱え、所作も少し出来る。
（S）一人で数曲を安定して唱える事ができ、所作もできる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
受講した年数により詠階を授与する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の住職である教員が、僧侶としての経験と、長年にわたる御詠歌の実務実績、指導実績を踏まえた講師により、御詠歌を通して布教の重要性を認識させる。高野山内寺院の住職である教員が、高等学校、尼僧学園等の指導実績を踏まえ宗教音楽について指導する。

科目名	漢字Ⅰ						学期	通年
副　題	書道学・漢字学の中国伝統的実践				授業方法	実技	担当者	野田悟
ナンバリング	M1-06-030	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現在世界的にも特異な表意文字の重要性を理解することを思想の根底とする。古典の臨書を基本から学ぶことにより、書学において徹底的な法帖の形臨を土台に、背臨を経て文字結構の時代的特徴を認識し、自己批評や学生間での相互批評をもって最後は個々に作品課題の制作を行う。受講生自身での発見からの実践を目的とした国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根底にした指導を行う。授業はすべて繁体字（旧漢字）をもって理解する。また書道学・漢字学を通して、東洋を中心とした他の学問分野に関連する意識を最重要視する。

授業の到達目標

１．「眼高手低、手高眼低」を書学原点として、各時代における古典臨書の基本的認識。２．「尚古思想」を根底に漢字を扱う上での歴史的関連性の認識。３．最終的に作品創作をもって臨書で培った基礎を体現する。４．緑に囲まれた自然豊かな高野山において日本の書聖空海を実践でもって感じる意識を持つ。５．繁体字（旧漢字）の理解を持ち古代文献を扱う基礎とする。６．前期の心経作品は学外書道展に出品する。その際の表具代等は個人負担とする。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスによる書を学ぶ上での注意点及び漢字の歴史の概要
2. 顔真卿「多寶塔碑」の形臨（2回目の受講生は「張猛龍碑」）①
3. 顔真卿「多寶塔碑」の形臨（〃）②
4. 顔真卿「多寶塔碑」の形臨（〃）③
5. 褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（2回目の受講生は「張玄墓誌」）①
6. 褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（〃）②
7. 褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（〃）③
8. 前半半紙臨書作品の提出
9. 二つの法帖を比較臨書（形臨及び背臨）
10. 自分で法帖を1つに絞り、自身の考えた方法で創作に繋がる練習を行う。
11. 背臨課題における自身の理解度を確認する。
12. 写経創作① 〔歴史的写経の意義〕
13. 写経創作② 〔写経体や異体字の認識〕
14. 写経創作③ 〔願文の書き方〕
15. 予備〔作品提出までの再度確認及び反復練習〕

【後期】

1. 『嶧山刻石』の形臨（2回生以上は『礼器碑』）①
2. 『嶧山刻石』の形臨（〃）②
3. 『嶧山刻石』の形臨（〃）③
4. 鄧石如『白氏草堂記』（2回生以上は『礼器碑』以外を自分で選択）①
5. 鄧石如『白氏草堂記』（〃）の形臨②
6. 鄧石如『白氏草堂記』（〃）の形臨③
7. 前半半紙臨書作品の提出。呉讓之『崔子玉座右銘』の形臨①
8. 呉讓之『崔子玉座右銘』（〃）の形臨②
9. 呉讓之『崔子玉座右銘』（〃）の形臨③
10. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。①
11. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。②
12. 半切の制作に至る独自の練習①
13. 半切の制作に至る独自の練習②
14. 半切の制作に至る独自の練習③
15. 予備〔作品提出までの再度確認及び反復練習〕

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の授業に備える。また積極的に下山し出来るだけ多くの展覧会を見て学んで来る（１２０分以上）

テキスト

・二玄社法書選（二玄社）：40 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』/56『鄧石如集』、58『呉熙載集』２回目の受講生……23『張猛龍碑』、26『墓誌銘集・下』/３『石門頌』、５『礼器碑』、８『曹全碑』、９『張遷碑』※写経用紙セット LA26-59（各書店にて購入）

参考書・参考資料等

・字書：『字源』、伏見冲敬編『書道字典』（角川書店）、『清人篆隷字典』（雄山閣）等・その他必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。・各学期ごとに採点し、平均点を算出する。そのため欠席が、各学期 1/3 を超えた場合その時点で失格とする。（欠席各－３点、遅刻各－１点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）法帖の形臨ができる。
（B）学んだ法帖の背臨ができる。
（A）臨書を基にした高いレベルでの創作ができる。
（S）自身で研究した長落款〔跋文〕を含めた高いレベルでの創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・休み時間の間に毎回の課題作品を前に貼ってもらい、授業の前半部分でフイードバックを行う。・毎回の課題は作品〔レポート〕として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他

・筆（太筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、半紙、文鎮は個々に準備のこと（ガイダンス時に説明する）。・書道実技の講座として、毎回の課題が課され、授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。課題は半切画宣紙を使用する。・休み時間のうちにすべての準備を済ませ、授業に臨むこと。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。全出席が望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が添削しながら上達させることを目的とする。

科目名	かなⅠ							学期	通年
副題	かなの基本から古筆の臨書へ				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	M1-06-031	実務経験の有無	有	関連DP	2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
【前期】「かな」の成立の歴史を知り、字母を覚える。かなの運筆を理解し正しく表現する。行書きから散らし書きへと発展させ作品に仕上げる。 【後期】かな古筆を臨書する意義と心得を理解する。古筆の臨書を通し、書写形式や書風、連綿の特徴を理解し、かなの多様な表現ができるようになる。古筆を臨書することにより、かな特有の「流動美」や「変化の妙」について考えることができるようになる。

授業の到達目標
【前期】「かな」成立の歴史を知り、ひらがな単体と変体仮名から二字連綿、三字連綿、行書きから俳句のちらし書きのかな創作ができるようになる。 【後期】古筆の書風、連綿等の特徴を理解し仮名の多様な表現ができるようになる。

授業計画
【前期】
1. 講義目標・概要の解説・アンケート
2. かなの成立の歴史を解説・かなの基本的な線の練習
3. 「いろは歌」による単体練習・字母説明
4. 「変体仮名」解説・実習・字母テスト
5. 「いろは歌」単体、作品提出
6. 連綿の解説・実習（二字連綿・三字連綿）
7. 連綿の解説・実習（多字連綿）
8. ちらし書きの解説・実習 1「春の俳句」
9. ちらし書きの実習 2「夏の俳句」
10. ちらし書きの実習 3「秋の俳句」
11. ちらし書きの実習 4「冬の俳句」
12. ちらし書き創作 1、資料作り
13. ちらし書き創作 2、作品制作
14. ちらし書き創作 3、作品提出
15. 古筆蓬莱切解説、臨書の仕方解説と実習

【後期】
1. 古筆臨書（蓬莱切）1
2. 古筆臨書（蓬莱切）2
3. 古筆臨書（高野切第３種）1
4. 古筆臨書（高野切第３種）２
5. 古筆臨書（高野切第３種）３
6. 古筆臨書（高野切第１種）1
7. 古筆臨書（高野切第１種）2
8. 古筆臨書（関戸本古今和歌集）１
9. 古筆臨書（関戸本古今和歌集）２
10. 古筆臨書（関戸本古今和歌集）３
11. 古筆臨書（曼殊院本古今和歌集）1
12. 古筆臨書（曼殊院本古今和歌集）2
13. 古筆臨書（曼殊院本古今和歌集）3
14. 古筆臨書（針切）1
15. 古筆臨書（針切）2　まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として次回の授業の作品を書いてくる（120 分） 事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。（60 分）

テキスト
石飛博光他著「書道Ⅰ」東京書籍（高等学校芸術科用　2 東書　書Ⅰ701）書店で購入
石飛博光他著「書道Ⅱ」東京書籍（高等学校芸術科用　2 東書　書Ⅱ701）書店で購入

参考書・参考資料等
「日本名筆選　1　高野切第 1 種」二玄社、「日本名筆選　5　高野切第３種」二玄社、「日本名筆選　19　関戸本古今集」二玄社、「日本名筆選　7　曼殊院本古今集」二玄社、「日本名筆選　25　針切」二玄社、

学生に対する評価
授業提出課題（70%）、授業への主体的な取り組み姿勢・態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）筆を正しく持ち、正しく運び、基本的な筆使いができる。
（B）かな創作、古筆の臨書ができる。
（A）かな創作、古筆の臨書が確実にできる。
（S）高いレベルでの創作、臨書が自分でできる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他
テキスト及び書道具一式・筆（かな小筆）、かな用墨、かな半紙、硯、毛氈、文鎮、水差し、創作用の半懐紙、臨書用紙は前もって購入すること。・粘り強く実習に取り組むこと。・授業以外の課題が毎週課される。・授業中スマホ使用禁止。90 分着席しておくことができるように集中力が必要。・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。・前期欠席が５回になった時点で成績は出ない。出席不可。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	梵字悉曇A／梵字悉曇(別)							学期	通年
副題	梵字悉曇の基礎知識と実践					授業方法	実技	担当者	齋藤天譽
ナンバリング	M1-01-032	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
摩多・体文・切継など、梵字を書きながら学ぶ。

授業の到達目標
梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画
【前期】
1. 年間授業計画の説明
2. 梵字・悉曇の伝来と歴史
3. テキストを読みながら説明
4. テキストを読みながら説明
5. 筆を使って実習通摩多 12 文字
6. 筆を使って実習通摩多 12 文字
7. 筆を使って実習通摩多 12 文字
8. 別摩多４文字他
9. 別摩多５文字他
10. (ka) (kha) (ga) の３文字
11. (gha) (ṅa) の２文字
12. (ca) (cha) の２文字
13. (ja) (jha) (ña) の３文字
14. (ṭa) (ṭha) (ḍa) の３文字
15. (ḍha) (ṇa) の２文字

【後期】
1. 筆を使って実習 (ta) (tha) の２文字
2. 〃 (da) (dha) の２文字
3. 〃 (na) (pa) の２文字
4. 〃 (pha) (ba) の２文字
5. 〃 (bha) (ma) の２文字
6. 〃 (ya) (ra) (la) の３文字
7. 〃 (va) (śa) (ṣa) の３文字
8. 〃 (sa) (ha) の２文字
9. 〃重字の２文字
10. 塔婆の書き方
11. 刷毛書体について
12. 三尊仏について
13. 光明真言①
14. 光明真言②
15. 諸真言について

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90 分) 授業で学んだ文字を練習しておくこと (90 分)

テキスト
児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房「小堀南岳堂」で購入

参考書・参考資料等
中川善教編『真言宗常用諸経要聚』

学生に対する評価
授業参加の積極性 (20%)、作品提出 (80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 習った「梵字」を書くことが出来る。
(B)「梵字」に慣れて、上達が見られる。
(A) きれいな梵字を書くことが出来る。
(S)「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法
質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

その他
書道用具を準備すること。半紙も必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山内寺院の住職である教員が、真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、習字を通して、その上達を指導する。

科目名	伝統文化（華道）							学 期	通年
副 題	法会及び灌頂に生けられる華の意味について				授業方法	実技	担当者	五味和樹	
ナンバリング	M1-26-033	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を荘厳する真華の解説と真華の実技実習。

授業の到達目標
【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的実技の修得。【後期】高野山の伝統行事（年中行事）に生けられる伝統華・荘厳真華の理解

授業計画
【前期】
1. ガイダンス
2. 華道高野山についての解説
3. 供華様式から投入花の解説
4. 投入花から現代花の解説
5. 盛花の解説
6. 盛花の実技実習
7. 盛花の変化態の解説と実習
8. 投入花の解説と実習
9. 投入花の変化態の解説と実習
10. 格花の解説と実習
11. 格花の変化態の解説と実習
12. 自由花の解説と実習
13. 自由花のテーマのもとめ方と実習
14. 自由花のテーマを決めた実習
15. 格花寸胴での実習

【後期】
1. 真華の解説
2. 五段華の解説（内談義五段華）
3. 五段華の解説（勧学会五段華）
4. 真華実習（1）（基礎）
5. 真華実習（2）（変化態）
6. 二つ真の解説
7. 仏生会の華の解説
8. 白羽の矢竹の解説
9. 小品真華の解説と実習
10. 法印転衣式の華の解説
11. 合真の解説
12. 元三の花の解説
13. 万年青の解説と実技
14. 真華・格花の三態九姿の解説
15. 水仙の葉組

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の実習内容を振り返り、他の学生の作品も鑑賞し、自分の作品との相違や今後参考にしたいと思う点を確認し、今回の作品を手直しする。（60 分）

テキスト
華道高野山教本

参考書・参考資料等
特に無し

学生に対する評価
実技定期試験（60%）、小試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）盛花・自由花・格花の基本を理解し、生けられる。
（B）作品に創意・工夫が見られる。
（A）高野山の伝統華である真華を理解し、生けられる。
（S）すべての花態を理解し、特に技術的に優れている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他
実技実習時に花材費 1,000 円～1,200 円程度必要である。材料の入荷状況によっては講義実施の順序を入れ替えることがある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	伝統文化（茶道）							学 期	通年
副 題	茶の湯の理論と実践				授業方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバリング	M1-26-034	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本の伝統的な文化のひとつである茶の湯（茶道）の理解を深めるために、初風炉・開炉・初釜などの茶会を経験し、また実際に基本的な所作や初歩の点前（盆略点前）を修得する。くわえて茶の湯（茶道）の歴史・文化ついて知る。そのうえで受講生自らが茶会を企画し実践し、亭主側と客側の体験をし、それらをとおして、茶の湯（茶道）の精神や美意識について考える。

授業の到達目標
茶の湯（茶道）における、礼の仕方・歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作、および初歩の点前（盆略点前）ができるようになる。 茶の湯（茶道）の歴史・文化について学び、思想や美意識について考察できるようになる。

授業計画
【前期】
1.講義　茶道概説　茶事（茶会）のながれ
2.実習　客の所作と心得1　お茶のいただき方（薄茶）
3.実習　客の所作と心得2　席入りの仕方
4.講義　茶の湯の文化1　茶道史　茶の湯以前
5.実習　盆略点前1　割稽古
6.実習　盆略点前2　割稽古
7.講義　茶の湯の文化2　茶道史　草創期の茶の湯
8.実習　盆略点前3　割稽古
9.実習　盆略点前4　割稽古
10.講義　茶の湯の文化3　茶道具について
11.実習　盆略点前5　通し稽古
12.実習　盆略点前6　通し稽古
13.講義　茶の湯の文化4　茶書講読『南方録』「覚書」の巻から
14.実習　盆略点前6　通し稽古
15.実習　茶会体験　風炉の茶会（夏茶事）

【後期】
1.講義　茶の湯の文化5　茶書講読『南方録』「滅後」の巻から
2.実習　盆略点前の復習1　割稽古
3.実習　盆略点前の復習2　通し稽古
4.実習　盆略点前の復習3　通し稽古
5.講義　茶の湯の文化6　茶書講読『南方録』「墨引」の巻から
6.実習　客の所作と心得3お　茶のいただき方（濃茶）
7.実習　茶会体験　炉開きの茶会
8.講義　茶の湯の文化7　茶道史　近代茶道
9.実習　茶杓削り
10.実習　茶会の企画と実践1
11.実習　茶会の企画と実践2
12.実習　茶会の企画と実践3
13.講義　茶の湯の文化8　茶書講読『心の文』
14.実習　茶会体験　新年の茶会（初釜）
15.実習　七事式

準備学習（予習・復習）・時間
実技実習では、毎回の実技内容を振り返り、繰り返し復習し、実技内容を身につける。（60 分）　体験実習では、体験成果を整理し、レポートにまとめる。（60 分）　講義では、事後学修として授業で学んだ資料およびテキストを再読し、内容の要点をノートに整理する。（90 分）

テキスト
学校茶道編集委員会編　『学校茶道（初級編）』　財団法人茶道文化振興財団発行　平成 15 年出版 授業時に一括購入

参考書・参考資料等
①谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社 2007 年 ②谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社 2005 年

学生に対する評価
授業時に随時課す提出物（30%）茶会の企画と実践（35%）期末試験（35%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
（B）基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
（A）客の所作と盆略点前を修得している
（S）茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
茶室に入れる人数に限りがあるため、受講生が多い場合は面談によって選考する。 実習の費用（茶・菓子・炭）として、前期・後期、それぞれ 3,500 円必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教芸能(宗教舞踊)							学 期	通年
副 題	御詠歌に付いた舞踊を舞う				授業方法	実技	担当者	高祖・辻	
ナンバリング	M1-26-035	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
宗教舞踊の基本的な身体の動かし方・理念・法具の扱い方・教典の譜の見方等基本を学ぶ。御詠歌の歌詞の意味、舞踊で表現されている意味を学び、心の表現の仕方について学ぶ。

授業の到達目標
宗教舞踊の基礎を身につけ、練習を積み重ねることにより、心技体を磨く。

授業計画
【前期】
1.宗教舞踊を見てみる。本的理念・法具 (持ち物) の扱い方の解説。
2.「金剛舞踊和讃」実習 (1) 身体の動かし方の基本を学ぶ。
3.「金剛舞踊和讃」実習 (2)
4.「生かせいのち」実習 (1)
5.「生かせいのち」実習 (2)
6.「生かせいのち」実習 (3)
7.「生かせいのち」実習 (4)
8.「生かせいのち」実習 (5)
9.「相互供養和讃」実習 (1)
10.「相互供養和讃」実習 (2)
11.「相互供養和讃」実習 (3)
12.「相互供養和讃」実習 (4)
13.「相互供養和讃」実習 (5)
14.「相互供養和讃」実習 (6)
15.前期実技試験と講評

【後期】
1.「みあかし」実習 (1)
2.「みあかし」実習 (2)
3.「みあかし」実習 (3)
4.「みあかし」実習 (4)
5.「みあかし」実習 (5)
6.「みあかし」実習 (6)
7.「みあかし」実習 (7)
8.「みあかし」実習 (8)
9.「みあかし」実習 (9)
10.「みあかし」実習 (10)
11.「生かせいのち」復習 (1)
12.「生かせいのち」復習 (2)
13.「相互供養和讃」復習 (1)
14.「相互供養和讃」復習 (2)
15.後期実技試験と講評・1年間の総括

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として授業で学んだ実技の注意点を中心に練習をしておくこと (60 分)

テキスト
高野山宗教舞踊会師範会監修教典 (1曲ずつの教典) を大師教会で購入

参考書・参考資料等
高野山金剛流宗教舞踊基本教典　　・『はじめての「高野山宗教舞踊」入門』セルバ出版

学生に対する評価
授業中の技術の習熟度 (30%)・努力度 (30%)・実技試験 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 基本動作 (合掌の形・立座の仕方・法具の扱い方) ができる。
(B) 御詠歌に合わせてみんなと一緒に舞う事ができる。
(A) 御詠歌に合わせて一人で舞う事が出来る。
(S) 歌詞を理解し、心を表現しながら一人で舞う事ができる。

課題に対するフィードバックの方法
前後期の試験の講評を行い注意・復習すべき点を指導する。

その他
単位取得者は希望により『高野山金剛流宗教舞踊会』の〔入門〕と〔初伝〕が取得できる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山宗教舞踊会大師範で有り、教室・司部弟子指導の経験、本山宗教舞踊研究部員・巡回布教派遣講師の経験を持つ教員が、初心者に体の使い方のわかりやすい指導と曲の深い理解・実際の舞踊登壇への完成を指導する。

科目名	加行Ⅰ							学 期	通年
副 題	前期加行の体験を振り返る				授業方法	実習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M1-01-036	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	1	他	A

授業の目的と概要
真言宗僧侶になるために求められる加行（前期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は前期加行（十八道／金剛界）とし、事後のレポートを作成する。

授業の到達目標
真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

授業計画
1. 加行申し込み：前期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2. 前期加行①
3. 前期加行②
4. 前期加行③
5. 前期加行④
6. 前期加行⑤
7. 前期加行⑥
8. 前期加行⑦
9. 前期加行⑧
10. 前期加行⑨
11. 前期加行⑩
12. 前期加行⑪
13. 前期加行⑫
14. 前期加行⑬
15. 前期加行結願後：所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。受講登録はこの時点で行うこと。

準備学習（予習・復習）・時間
加行での体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト
加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等
加行監督者から指示する。

学生に対する評価
加行結願（50%）、事後レポート：テーマ「前期加行を終えて」2,000 字程度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）前期加行の結願、および事後レポートの提出。
（B）上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
（A）上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
（S）上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
レポート返却時に講評を実施する。

その他
・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。 ・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。 ・結願していない者のレポート提出は認めない。 ・事後レポートの未提出者の単位は認めない。 ・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	加行Ⅱ							学 期	通年
副 題	後期加行の体験を振り返る				授業方法	実習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M2-01-037	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	1	他	A

授業の目的と概要
真言宗僧侶になるために求められる加行（後期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は後期加行（胎蔵／護摩）とし、事後のレポートを作成する。

授業の到達目標
真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

授業計画
1. 加行申し込み：後期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2. 後期加行①
3. 後期加行②
4. 後期加行③
5. 後期加行④
6. 後期加行⑤
7. 後期加行⑥
8. 後期加行⑦
9. 後期加行⑧
10. 後期加行⑨
11. 後期加行⑩
12. 後期加行⑪
13. 後期加行⑫
14. 後期加行⑬
15. 後期加行成満後：掲示される所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。

準備学習（予習・復習）・時間
加行での体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト
加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等
加行監督者から指示する。

学生に対する評価
加行成満（50%）、事後レポート：テーマ「後期加行を終えて」2,000 字程度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）後期加行の成満、および事後レポートの提出。
（B）上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
（A）上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
（S）上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
レポート返却時に講評を実施する。

その他
・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。 ・受講登録は後期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。 ・結願していない者のレポート提出は認めない。 ・事後レポートの未提出者の単位は認めない。 ・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	宗教思想史ＩＡ／宗教思想史ＩＳ							学 期	後期
副 題	インドの宗教と思想					授業方法	講義	担当者	奥山直司
ナンバリング	M1-03-038	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
インドは東洋における思想・宗教の一大発現地である。この授業ではまず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相について学習する。

授業の到達目標
仏教を含むインドの宗教思想について、その歴史と特徴に関する基礎的な知識を養うと共に、現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深め、実生活に活かせるようになる。

授業計画
1.インドが発する人類の思想的課題－M.K.ガンディーの思想を手懸かりに
2.インドの歴史地理、インダス文明
3.ヴェーダ
4.ウパニシャッド
5.自由思想家たちとブッダの出現
6.ブッダの生涯とその教え
7.仏教の発展：大乗仏教と密教
8.叙事詩①：『ラーマーヤナ』
9.叙事詩②：『マハーバーラタ』
10.ヒンドゥー教の発展
11.正統バラモン教哲学
12.ヒンドゥー教とイスラーム教
13.インドと日本
14.タゴール、アンベードカルの思想
15.ガンディー再び

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと（90 分）。 事後学修として、ノートを読み、必要事項を記憶すること（90 分）。

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
山下博司『ヒンドゥー教　インドという謎』講談社、2004 年。 授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価
期末レポート（80%）、授業中の発言等（20%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
（B）インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
（A）インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
（S）インド宗教思想史に関して独自の知見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻 3 回で 1 欠席に換算する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教思想史ⅡA／宗教思想史ⅡS							学期	後期
副題	日本人のメンタリティのあゆみ				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-03-039	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
宗教は、時代や社会のメンタリティを映し出す鏡である。 本授業では、古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、歴史学の視点でその変遷を概観し、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、日本人の精神性のルーツを探求する。

授業の到達目標
①日本人のメンタリティの変化をたどることによって、それぞれの時代のムードを感じとることができる。
②現在の日本人の心のあり様と、これからの日本人にとって宗教とはどうあるべきかについて、自分なりの考えを提示することができる。

授業計画
1. 宗教のはじまりをさぐる－人類はいつ「心」を持つようになったのか－
2. 日本人の基層信仰－自然崇拝と八百万の神々－
3. 仏教の伝来と受容－僧尼令にみる国家と仏教－
4. 大仏造立と神仏習合－民衆への仏教のひろがり－
5. 「平安仏教」の成立－「日本仏教」の成立－
6. 来世への希求－末法の到来－
7. 現世をどう生きるか－憂世の克服－
8. 東山文化の世界－「わび・さび」の背景－
9. 日本的伝統の源流－総合と啓蒙の時代－
10. 浮世へのまなざし－儒学による社会秩序の構築－
11. 日本古典への回帰－“復古”への潮流－
12. 世直しの気運－民衆宗教の勃興－
13. 廃仏毀釈と文化財保護－精神文化の喪失－
14. 「総力戦体制」時代の宗教界－「国家神道」体制の宗教－
15. 日本人のメンタリティのゆくえ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90 分） 事後学修：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60 分）

テキスト
テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

参考書・参考資料等
①家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007 年。初版 1982 年） ②田尻祐一郎『江戸の思想史人物・方法・連環』（中公新書 2097、2011 年） ③村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010 年。初版 1970 年）。

学生に対する評価
期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）日本人のメンタリティの歴史的変遷について説明することができる。
（B）日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。
（A）日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の宗教に関する諸課題について論理的に述べることができる。
（S）日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの日本人にとって、宗教がどうあるべきかを論理的に述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①仏像や絵画などの美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物である。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけること。講義でも、博物館・美術館などの展覧会について紹介する。 ②履修者は、博物館学芸員資格の取得を目指すことが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	哲学／哲学S							学 期	前期
副 題	哲学・宗教の歴史と基礎				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-08-040	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
西洋・東洋の哲学史・宗教史から、代表的な哲学者・思想・事項を学ぶ。難解なものに向き合う姿勢を身に付ける。知的な快楽「？」「！」を体験する。人間とは何か、世界とは何か、宗教とは何かについて考える。自分の人生、現実の問題解決に哲学を活用し、自ら哲学する。

授業の到達目標
知っていること、理解していること、分からないことを自覚できる。じっくりと考える習慣を身に付ける。論理的に考えることができる。自分の言葉で論理的に説明できる。

授業計画
1. ガイダンス・哲学「言語哲学」①
2. 哲学「言語哲学」②
3. 中国思想「焚書坑儒」①
4. 中国思想「焚書坑儒」②
5. 宗教「政治と宗教（2）日本」①
6. 宗教「政治と宗教（2）日本」②
7. 哲学「論理学」①
8. 哲学「論理学」②
9. 中国思想「王陽明」①
10. 中国思想「王陽明」②
11. 宗教「移民と宗教」①
12. 宗教「移民と宗教」②
13. 哲学「バークリ」①
14. 哲学「バークリ」②
15. レポート講評

準備学習（予習・復習）・時間
テキストを音読する。（10 分）　分からない単語を調べる。（10 分）　理解できないことを事前に書き出す。（10 分）　質問事項を考える。（30 分）

テキスト
コピーを配布する。

参考書・参考資料等
納富信留ほか『よくわかる哲学・思想』ミネルヴァ書房、2019 年 湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房、2022 年 櫻井義秀・平藤喜久子編著『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015 年

学生に対する評価
論述形式の期末試験（100%）　合格点に達しない場合、授業中の質問メモを勘案する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義の内容を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法
○質問や意見については、授業内で対応する。　○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

その他
授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	心理学ＩＡ／心理学ＩＳ／心の科学(別)1							学 期	前期
副 題	心理学の歴史と基礎Ｉ					授業方法	講義	担当者	佐々木聡
ナンバリング	M1-10-041	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達的視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業の到達目標
心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画
1.オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2.実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3.感覚と知覚について学ぶ。＜感覚の仕組み＞
4.感覚と知覚について学ぶ。＜知覚の仕組み＞
5.記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の分類＞
6.記憶のﾒｶﾆｽﾞﾑについて学ぶ。＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7.記憶のメカニズムについて学ぶ。＜脳と記憶について＞
8.学習について学ぶ。＜古典的条件付け＞
9.学習について学ぶ。＜道具的条件付け・学習と認知＞
10.学習について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
11.言語と思考について学ぶ。＜言語の発達＞
12.言語と思考について学ぶ。＜概念カテゴリー＞
13.言語と思考について学ぶ。＜推論とイメージ思考＞
14.意識と認知システムについて学ぶ。
15.まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
梅本尭夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第 2 版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014 年　（書店で購入）

参考書・参考資料等
森津太子・森公美子（編著）『心理学概論』、放送大学、2018 年 斎藤勇（編）『図説心理学入門』、誠信書房、2005 年 梅本尭夫・大山正『心理学への招待　こころの科学を知る』、サイエンス社、2015 年

学生に対する評価
レポート（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
（B）感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを理解している。
（A）感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを説明できる。
（S）感覚・記憶・学習・言語と思考および脳生理学の理論から心のメカニズムを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
ICT を活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット（学内の WiFi 利用可）に接続できるスマートフォン、タブレット、PC を利用することがある。また、LMS を通じて授業の連絡を行ったり，感想・質問や課題を提出してもらったりする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、心理支援の実務経験を活かして、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	心理学ⅡA／心理学ⅡS／心の科学(別)2							学期	後期
副 題	心理学の歴史と基礎Ⅱ					授業方法	講義	担当者	佐々木聡
ナンバリング	M1-10-042	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

授業の到達目標
社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

授業計画
1.オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2.動機づけと情動について学ぶ。＜動因とホメオスタシス＞
3.動機づけと情動について学ぶ。＜誘因動機づけ＞
4.動機づけと情動について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
5.性格理論を学ぶ。＜特性論と類型論＞
6.性格理論を学ぶ。＜アイゼンクの性格理論＞
7.性格理論を学ぶ。＜ビッグファイブ理論＞
8.人間の発達理論と課題について学ぶ。＜ピアジェの発達理論＞
9.人間の発達理論と課題について学ぶ。＜フロイトの心理性発達理論＞
10.人間の発達理論と課題について学ぶ。＜エリクソンのライフサイクル理論＞
11.対人関係の心理学を学ぶ。＜集団の機能＞
12.対人関係の心理学を学ぶ。＜意思決定＞
13.対人関係の心理学を学ぶ。＜社会的手抜き・集団規範＞
14.個人と社会の心理について学ぶ。
15.まとめ。疑問点の再確認等。

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
梅本尭夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第 2 版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014 年　（書店で購入）

参考書・参考資料等
森津太子・森公美子編著『心理学概論』、放送大学、2018 年 斎藤勇編『図説心理学入門』、誠信書房、2005 年 梅本尭夫・大山正『心理学への招待　こころの科学を知る』、サイエンス社、2015 年

学生に対する評価
レポート（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をする。
（B）基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学（社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学）の領域を理解する。
（A）心理学の基礎理論か全般を説明できる。
（S）心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
ICT を活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット（学内の WiFi 利用可）に接続できるスマートフォン、タブレット、PC を利用することがある。また、LMS を通じて授業の連絡を行ったり，感想・質問や課題を提出してもらったりする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、心理支援の実務経験を活かして、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	情報処理							学 期	通年
副 題	情報(データ)の分析の大切さを知る				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	M1-13-043	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
情報処理という中でこれから必要とされるデータ処理の方法を身につける。【前期】基本的なことを通してデータ処理から分析ができるようになる。数学的論理思考が必要。【後期】前期を踏まえて、データ内容から分析まで表現できるものとしてプレゼンテーションし、情報の一般知識を活用してひとつの処理結果を制作する。

授業の到達目標
情報ネットワーク社会の中で情報を利用する上での重要な基礎技術を、データ分析を通して修得する。【前期】数学的論理を踏まえ基本的な office 機能の利用をもってプレゼンテーションができるようになる。【後期】実践的に表現していく中で、情報理論の体系化を修得をし、分析力身につける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス（序章）　一年間の流れを説明しながらデータサイエンスの説明をする
2. Office機能の確認～WORDを基本使いこなす準備と機能の知識確認
3. Wordで文書作成（1枚の文書作成）～企画書作成の例を参考に実践的に行っていく
4. Wordで文書作成（表を挿入しながらの文書作成）～文書新作成に伴い、表の挿入を行っていく
5. Excelでの文書・表作成（基本的な機能操作～関数）～関数の使い方の基本を身につける
6. Excelでの文書・表作成（機能を使いながらの実践表作成）～総合的にまとめる作業
7. 情報伝達について（スライドを用いながらの伝達）～パワーポイントを利用しながらの手順の確認
8. 情報伝達の理論～実践的な手法から講義式で理論の確認
9. 暗号化と情報管理～データ・サイエンス的に重要なものものである
10. データベースの理解と活用～実践を交えながら理解を深める
11. オペレーティングシステムの理解～参考動画で確認作業を試みる
12. サーバとネットワークの構造（基本編）～動画を資料として確認作業をしていく
13. サーバとネットワークの構造（実践編）～今までを参考に実践的なものを作成していく
14. プレゼンテーション～数時間で学んだ過程で作成を勧める
15. 総括機能の活用～すべての総括とプレゼンテーションの報告

【後期】

1. 問題解決手法一般について～毎回課題を提供しての解決法を考察
2. 問題の表し方と解決策について（同様）
3. データの分析から評価・解決手順～データ分析の手順の実践編
4. プログラム言語と論理について～一つのプログラムを提示しての確認作業
5. 構造プログラムの設計方法論
6. 構造プログラムの設計実践編～方法論から実践作成法を身につける
7. 分析論（基本データ分析方法）～各データからの分析方法を確認
8. 分析論（データの解析的な活用法）～具体的なデータからの解析方法を考えさす
9. 情報活用論～動画診断からの方法論
10. 情報活用による実践論～動画を参考にしながら学んでいく
11. 情報メディアについて～動画を参考にしながら学んでいく
12. 情報デザインについて
13. 表現メディアの編集と表現について
14. 情報メディア～まとめのプレゼンテーションによる総括報告
15. 総括メディアのプレゼンテーション

準備学習（予習・復習）・時間
PC での実践に向ける体験的な知識を必要とするので、復習の学習時間が必要である。PC の利用が当たり前の社会である。それに関われる積み重ねが必要，毎回文章入力を課しているが、テーマを与えて学習を必要としていく（90 分）

テキスト
必要に応じて文献を提示していく。素材データを共有する。

参考書・参考資料等
毎回参考資料を提示していく。数学的論理・解決が必要でもあり随時提示していく。

学生に対する評価
レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）情報機能を興味深く研究する姿勢が感じられること。
（B）情報機能が理解をしていてより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
（A）情報機能が技術的に把握していて、授業を通して認識・理解を探究できること。
（S）情報機能が技術的にできていて、授業を通じて認識・理解できていること。

課題に対するフィードバックの方法
課題を必要としていく。PC を使いこなせることがこの講座の必要性である。フィードバックに対することは毎回提示していく

その他
情報処理の講座を通して今後の社会に出た時の活用も含めてこれからＡＩがより一層の変化・進化していく中でそれをうまく自分のものになるように技術もちろんだが、利用方法を見つける工夫を考える必要がある。情報機能の技術を年間通してどれだけ進歩させるかをひとつの評価になり、技術ではなくそれを用いた表現力を身につけることを目標にし、それを生かしてどのように作り上げるかを考えること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高校教員としての経験を元に、社会に出た時の必要性を十分認識させていき、その活用が有意義に感じられるものにしてく。なお、ほとんどがまだまだ PC を使いなれてない現状であることを踏まえて最小限度の使用方法を理解させていく。

科目名	日本文化A							学 期	前期
副 題	日本の社会・文化を学ぶ。				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	M1-26-044	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
現代日本社会の現状を反映した文章や、日本文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。 同時に「読む、書く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。 語彙、文法、聴解の日本語能力試験 N3 レベルの復習をし、N2 レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

授業の到達目標
大学生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語能力を総合的に身につける。

授業計画
1.『日本語表現の教室』第１課　日本人のみょうじ・万葉集のうた（1）
2.『日本語表現の教室』第１課　復習（語彙テスト）・作文（比較による説明）
3.『日本語表現の教室』第２課　日本語の語彙・万葉の歌（2）
4.『日本語表現の教室』第２課　復習（語彙テスト）・作文（列挙による説明）
5.『日本語表現の教室』第３課　日本語の音　・万葉の歌（3）
6.『日本語表現の教室』第３課　復習（語彙テスト）・作文（回想する）
7.『日本語表現の教室』第４課　日本語の漢字・万葉集のうた（4）
8.『日本語表現の教室』第４課　復習（語彙テスト）・作文（意見を述べる）
9.JLPT 模試実施
10.模試 FB / 総括
11.『日本語表現の教室』第５課　日本人の一生
12.『日本語表現の教室』第５課　復習（語彙テスト）・作文（年中行事・慣習の説明）
13.『日本語表現の教室』第６課　日本人と動物・万葉のうた（5）
14.『日本語表現の教室』第６課　復習（語彙テスト）・作文（生き生きとした描写）
15.総まとめ　前期で学んだ表現を使い、自分/自分の国について表現する

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、次回資料を配布するので、「音読」「簡単な内容把握」をしてくること。(60 分)　『新完全マスターN2 語彙』は、語彙の予習/復習として一部を使用予定。指定された箇所を学習してくること。

テキスト
『日本語表現の教室』中級　語彙と表現と作文

参考書・参考資料等
『新完全マスターN2 文法』 必要に応じて教師がプリントを配布

学生に対する評価
期末試験（30%）、小テスト（50%）、発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した文型や表現を理解できている。
（B）学習した文型や表現を正確に使用できている。
（A）学習した文型や表現を応用できている。
（S）学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法
語彙、文法の小テストを実施した際には、その場で採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他
日本語のレベルを上げたい全ての学生は受講してほしい。JLPT の準備をしつつ、基本的な日本語能力が身につくよう、読解、作文、スピーチ、発表などを随時企画している。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化B							学 期	後期
副 題	日本の社会・文化を学ぶ。				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	M1-26-045	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
現代日本社会の現状を反映した文章や、日本文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。 同時に「読む、書く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。 語彙、文法、聴解の日本語能力試験 N3 レベルの復習をし、N2 レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

授業の到達目標
大学生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語能力を総合的に身につける。

授業計画
1.『日本語表現の教室』第７課　日本の四季ー風景との対話ー・万葉のうた（６）
2.『日本語表現の教室』第７課　復習（語彙テスト）・作文（風景の描写）
3.『日本語表現の教室』第８課　日本の文化ー茶
4.『日本語表現の教室』第８課　復習（語彙テスト）・作文（歴史・文化の説明）
5.『日本語表現の教室』第９課　日本の「共通感覚」ー和魂洋才・万葉のうた
6.『日本語表現の教室』第９課　復習（語彙テスト）・作文（スピーチ１スピーチの導入）
7.『日本語表現の教室』第 10 課　女性として立つ『樋口一葉』
8.『日本語表現の教室』第 10 課　復習（語彙テスト）・作文（人物紹介１）
9.JLPT 模試実施
10.模試　FB / 総括
11.『日本語表現の教室』第 11 課　男女強調社会を目指して『津田梅子』
12.『日本語表現の教室』第 11 課　復習（語彙テスト）・作文（スピーチ２意見を述べる）
13.『日本語表現の教室』第 12 課　神々の国を愛した『ニッポンジン』小泉八雲
14.『日本語表現の教室』第 12 課　復習（語彙テスト）・作文（自己紹介・身内の紹介）
15.１年（或いは後期）を振り返り、印象深い記事について各自意見発表

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、次回資料を配布するので、「音読」「簡単な内容把握」をしてくること。(60 分)　『新完全マスターN2 語彙』は、語彙の予習/復習として一部を使用予定。指定された箇所を学習してくること。

テキスト
『日本語表現の教室』中級　語彙と表現と作文

参考書・参考資料等
『新完全マスターN2 文法』 必要に応じて教師がプリントを配布

学生に対する評価
期末試験（40%）、小テスト（40%）、発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した文型や表現を理解できている。
（B）学習した文型や表現を正確に使用できている。
（A）学習した文型や表現を応用できている。
（S）学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法
語彙、文法の小テストを実施した際には、その場で採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他
日本語のレベルを上げたい全ての学生は受講してほしい。JLPT の準備をしつつ、基本的な日本語能力が身につくよう、読解、聴解、発表などを随時企画している。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化C							学 期	前期
副 題	日本史を学ぶ。				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	M1-26-046	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
多角的に文化を研究するために必要な方法を身につける。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

授業の到達目標
多角的に日本事情を学ぶ事を通して日本語能力を向上し、思考力を深め、物事を考察する能力を身につける。

授業計画
1.ガイダンス：日本文化について歴史を通して学ぶ（日本通史）
2.日本通史１（縄文時代～古墳時代）
3.日本通史２（飛鳥時代～平安時代）
4.日本通史３（鎌倉時代～安土桃山時代）
5.戦国時代１：世界の中の日本
6.戦国時代２：世界の中の日本（自分の国との関わりについて）
7.戦国時代３：戦国武将とは
8.戦国武将４：主な戦国武将
9.戦国時代５：戦国武将の一生（真田幸村）
10. JLPT 読解模試実施 / FB
11. 戦国時代７：衣・食・住・道具
12. 戦国時代８：戦国武将と宗教
13. 戦国時代９：高野山 「奥の院」にある武将の墓を訪ねてみる
14. 世界遺産としての高野山
15. 総まとめ：前期をふり返る

準備学習（予習・復習）・時間
事前に渡された資料は翌週までに読み、大まかに理解してくること。 「発表」がある授業の時は、指定された事柄について、十分に調べてくること（計 90 分以上）。

テキスト
教師が必要に応じてプリントを配る

参考書・参考資料等
世界史のなかの戦国日本（ちくま学芸文庫）村井章介 著 戦国日本と大航海時代一秀吉・家康・正宗の外交戦略（中公新書）平川新 著

学生に対する評価
レポート及び発表（60%）発表（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）資料を読むための日本語力がある。
（B）文化理解、研究のための方法を理解している。
（A）日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
（S）日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出、発表されたレポートは添削、講評する。 試験実施の後、フィードバックを行う。

その他
資料を読むだけではなく、自分のこととして考察し、意見を発信することも目指す。 折りに触れ、グループ討論、発表を行い自らの意見を表明する機会を作る。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化D							学 期	後期
副 題	日本史を学ぶ。				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	M1-26-047	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
多角的に文化を研究するために必要な方法を学ぶ。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

授業の到達目標
多角的に日本事情を学ぶ事を通して思考力を深め、物事を考察する能力を高める。

授業計画
1. 日本通史４（江戸時代）初代将軍～３代将軍
2. 江戸幕府の成立
3. 江戸初期の外交、鎖国政策
4. 江戸時代初期の村と政治
5. 日本通史５（江戸時代）４代将軍～７代将軍
6. 江戸の都市問題
7. この時代の文化・商売
8. 日本通史６（江戸時代）８大将軍～１０代将軍
9. JLPT 読解模試実施 / FB
10. 読解模試 / FB・総括
11. 日本通史７（江戸時代）１１代将軍～１２代将軍
12. この時代の文化・大江戸意識
13. 日本通史８（幕末）１３代将軍～１５代将軍
14. 開国まで
15. 江戸から東京へ

準備学習（予習・復習）・時間
事前に渡された資料は翌週までに読み、大まかに理解してくること。(60 分) 「発表」がある授業の時は、指定された事柄について、十分に調べてくること。(90 分)

テキスト
教師が必要に応じてプリントを配る

参考書・参考資料等
『日本の歴史』朝日ジュニアブック　朝日新聞社 『江戸時代のすべてが分かる本』ナツメ社　大石学 著

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）資料を読むための日本語力がある。
（B）文化理解、研究のための方法を理解している。
（A）日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
（S）日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出、発表されたレポートは添削、講評する。 試験実施の後、フィードバックを行う。

その他
資料を読むだけではなく、発信することも目指す。 折りに触れ、自らの意見は発表する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化E							学 期	前期
副 題	正確に伝える技術					授業方法	講義	担当者	松本貴子
ナンバリング	M1-26-048	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本語会話/スピーチの能力向上を図り、円滑な人間関係を築く助けとなるようにする。 更にレポート発表時に、より滑らかに日本語を発話できることを目指す。

授業の到達目標
日本語のスピーチや記述に関する決まりを学習し、身につける。短い文章から始め、徐々に長い文章を書けるように実践し、最終的には 1000 字～1400 字のアカデミック・スピーキングの文章を書き、発表できるようになる。 卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身に付ける。

授業計画
1.ガイダンス：発音練習体験
2.きっかけを語ろう
3.なくした体験を話そう
4.町の様子を話そう（1）課題に沿って
5.町の様子を話そう（2）自分の町について書いてみる
6.動きの順序を説明しよう
7.スポーツのおもしろさを伝えよう
8.言いかえて説明しよう
9.比べて良さを伝えよう
10.ストーリーを話そう（1）課題に沿って
11.ストーリーを話そう（2）自国の有名な物語を書いてみる
12.最近の出来事を話そう（1）課題に沿って
13.最近の出来事を話そう（2）自分の身に起こったことを書いてみる
14.健康について話そう
15.将来の夢を語ろう

準備学習（予習・復習）・時間
下読みをしてくる事前に提示された資料は下読みをしてくること。（６０分） 必ず宿題とされた文章は書いてくること。（６０分）

テキスト
『日本語上級話者への道　きちんと伝える技術と表現』　スリーエーネットワーク 『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等
必要に応じて教師が配布する

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（30%）、小テスト（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した内容を最低限理解できている。
（B）学習した内容をある程度使いこなしている。
（A）学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
（S）学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法
テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。 小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他
実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化F							学 期	後期
副 題	正確に伝える技術					授業方法	講義	担当者	松本貴子
ナンバリング	M1-26-049	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本語会話/スピーチの能力向上を図り、円滑な人間関係を築く助けとなるようにする。 更にレポート発表時に、より滑らかに日本語を発話できることを目指す。

授業の到達目標
日本語のスピーチや記述に関する決まりを学習し、身につける。短い文章から始め、徐々に長い文章を書けるように実践し、最終的には 1000 字～1400 字のアカデミック・スピーキングの文章を書き、発表できるようになる。 卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身に付ける。

授業計画
1. 好きなシーンを紹介しよう
2. 子どもたちに母国の行事を紹介しよう
3. 母国の行事を紹介する記事を書く
4. 困った状況を伝えて交渉しよう
5. 不満に対処しよう
6. 目上の人に注意を促そう
7. グラフや表を説明しよう
8. グラフ・表から情報を読み取る
9. ステレオタイプを打ち破ろう
10. 就職試験制度について説明しよう
11. 自国の制度について説明文を書いてみる
12. 働くことの意義について討論しよう
13. 環境問題について話そう
14. 犯罪傾向から現代社会を語ろう
15. マスコミの功罪について討論しよう

準備学習（予習・復習）・時間
下読みをしてくる事前に提示された資料は下読みをしてくること。（６０分） 必ず宿題とされた文章は書いてくること。（６０分）

テキスト
『日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現』 スリーエーネットワーク『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等
必要に応じて教師が配布する

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（30%）、小テスト（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した内容を最低限理解できている。
（B）学習した内容をある程度使いこなしている。
（A）学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
（S）学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法
テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。 小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他
実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	キャリアデザインⅠ							学 期	前期
副 題	コミュニケーション力をつける				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	M1-16-050	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
①これまでの自分の目的意識、価値観、経験などを振り返りながら、将来のキャリアを見据え大学で学ぶことの意味を考え、現時点でできること、これから学習していくことは何かを、学生同士が議論しながら進める。 ②主体性、コミュニケーション能力など、社会人になる前段階として必要な基本スキルを、体感ワークを通じて身につけていく。

授業の到達目標
大学生活と社会の接点、職業観を養うとともに、キャリア形成の基本となる自己表現や自己形成の考え方を習得する。

授業計画
1. キャリアとは何かを考える
2. 大学生活を考える①（大学生と高校生の違い・役割）
3. 大学生活を考える②（これまでの歩みを整理する）
4. 大学生活を考える③（学びの意味を考え目標を立てる）
5. 大学生活を考える④（ボランティア活動）
6. コミュニケーション力をつける①（基礎づくり①）
7. コミュニケーション力をつける②（基礎づくり②）
8. コミュニケーション力をつける③（傾聴）
9. コミュニケーション力をつける④（伝える）
10. コミュニケーション力をつける⑤（プレゼンテーション）
11. コミュニケーション力をつける⑥（アンガーマネジメント）
12. コミュニケーション力をつける⑦（アサーション）
13. コミュニケーション力をつける⑧（ホスピタリティ）
14. コミュニケーション力をつける⑨（チーム・ビルディング）
15. 成果と課題を考える

準備学習（予習・復習）・時間
・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト
教員作成の資料

参考書・参考資料等
①平木典子『アサーション・トレーニング―さわやかな〈自己表現〉のために』2009（金子書房） ②大山雅嗣『コミュニケーションスキルワークブック 15 講』2012（公益財団法人日本生産性本部） ③齊藤博・上本裕子『大学１年からのキャリアデザイン実践』2017（八千代出版） 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価
レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解している。
（B）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解し、その内容を説明できる。
（A）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解した上で、他人の意見を尊重して聞き、正しく理解し、 自分の意見を分かりやすく表現できる。
（S）グループでの討論や議論において適切な手順・手段を用いて、グループの中での意見を自分なりにまとめ、分かりやすくメンバーに伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。 受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。 各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。 他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアデザインⅡ							学 期	後期
副 題	自己理解とキャリアデザイン				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	M1-16-051	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
①自分自身を見つめ、キャリアデザインのための自己理解を深める。②アセスメントを活用しながら自分の興味関心、能力を認識するとともに、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。③グループワークを通して、人間関係形成･社会形成能力やコミュニケーション能力を高めるとともに課題対応能力や将来に向けたキャリアプランニング能力も身につける。

授業の到達目標
自己理解を深め、働くことの本質を理解し、就労への関心を高める。職業社会を理解する上で必要な基礎知識を習得する。

授業計画
1. 自己理解とキャリアデザインについて考える
2. 自分らしさについて考える①（自分らしさとは）
3. 自分らしさについて考える②（性格）
4. 自分らしさについて考える③（興味）
5. 自分らしさについて考える④（価値観）
6. 職業興味の探索①（自己理解・適性のワーク）
7. 自分らしさについて考える⑤（自己概念）
8. キャリアデザインの理解
9. キャリアデザインに必要な考え方
10. キャリアデザインの意識
11. ワークキャリアとライフキャリア①
12. ワークキャリアとライフキャリア②
13. 就労をイメージする
14. 職業興味の探索②（自己理解・適性のグループワーク）
15. キャリアプランを作り実行する

準備学習（予習･復習）･時間
・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分)　・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト
教員作成の資料

参考書･参考資料等
①大山雅嗣『キャリアデザインワークブック 15 講』2013（公益財団法人日本生産性本部）　②川﨑友嗣『大学生のためのキャリアデザイン　自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019（ミネルヴァ書房）　③池上彰『なぜ僕らは働くのか』2020（学研プラス）　他は授業中で紹介する。

学生に対する評価
レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解できる。
（B）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。
（A）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。 また、グループワークでわかりすく他者に説明することができる。
（S）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、将来を展望しキャリアプランニングについて考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。 受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。 各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。 他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアデザインⅢ							学 期	前期
副 題	社会人基礎力					授業方法	講義	担当者	高田綾子
ナンバリング	M2-16-052	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
グループディスカッション等を通じて実践しながら社会人基礎力について考える。近年の働き方や生き方の変化に伴い提唱されている新たな社会人基礎力について学ぶことにより、より中長期的な視点に立った必要な能力について考える。

授業の到達目標
職場や地域社会で多様な人々と仕事・社会生活をしていくために社会人として必要な基礎的な力について、知識の習得だけにとどまらず、行動に繋げる。

授業計画
1. 人生設計とキャリアデザインを考える
2. 社会人の心構えと求められる能力を考える
3. 社会人基礎力（前に踏み出す力①－主体性）
4. 社会人基礎力（前に踏み出す力②－実行力）
5. 社会人基礎力（前に踏み出す力③－働きかけ力）
6. 社会人基礎力（考え抜く力①－課題発見力）
7. 社会人基礎力（考え抜く力②－計画力）
8. 社会人基礎力（考え抜く力③－創造力）
9. 社会人基礎力（チームで働く力①－発信力）
10. 社会人基礎力（チームで働く力②－傾聴力）
11. 社会人基礎力（チームで働く力③－柔軟性）
12. 社会人基礎力（チームで働く力④－状況把握力）
13. 社会人基礎力（チームで働く力⑤－規律性）
14. 社会人基礎力（チームで働く力⑥－ストレスコントロール力）
15. 人生 100 年時代に求められる能力を考える

準備学習（予習・復習）・時間
・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分)　・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト
山﨑紅「社会人基礎力講座」（日経ＢＰ社）「書店で購入」

参考書・参考資料等
①村山昇『働き方の哲学』2018（ディスカバー・トゥエンティワン）　②井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門　第２版』2020（慶応義塾大学出版会）　③リンダ・グラットン・アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT-１００年時代の人生戦略』2016（東洋経済新報社）　他は授業中で紹介する。

学生に対する評価
レポート（30%）、発表（40%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）社会人基礎力について理解している。
（B）社会人基礎力について理解でき、積極的な意見の発表、質問ができる。
（A）社会人基礎力について理解でき、テーマについてセルフワークができ、グループワークで議論できる。
（S）社会人基礎力について理解でき、テーマについてプレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。 受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。 各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。 他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアデザインⅣ							学 期	後期
副 題	職業理解				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	M2-16-053	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
① 産業・業種・職業の定義を理解し、産業と職業の関係を考える。 ② アセスメントツールを用いて自分の興味ある分野を考え自己理解を深める。 ③ キャリア形成の多様性を考える。

授業の到達目標
産業（業種）・職種・企業についての理解を深めるとともに、現代社会における多様な働き方の現状を理解する。

授業計画
1.「社会人」と「働くこと」
2.産業と職業を理解する
3.職業との関わりを考える
4.産業とは何かを理解する
5.産業の多様性を知る
6.役割分担について考える
7.社会人インタビュー情報から学ぶ①
8.社会人インタビュー情報から学ぶ②
9.社会人インタビュー情報から学ぶ③
10.社会人インタビュー情報から学ぶ④
11.社会人インタビュー情報から学ぶ⑤
12.キャリアパスについて考える
13.キャリア形成と自己理解の深化
14.多様なキャリア形成について考える
15.今後の社会と生き方を考える

準備学習（予習・復習）・時間
・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト
川﨑友嗣『大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019（ミネルヴァ書房） 教員作成の資料

参考書・参考資料等
①『会社四季報業界地図 2022』2021（東洋経済新報社） ②田宮寛之 『みんなが知らない超優良企業 ： 新しいニッポンの業界地図』（講談社新書） 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価
レポート（60%）、授業への参加度・学習態度（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）職業や産業に関する基礎的事項を理解している。
（B）キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、内容を適切な文章で表現できる。
（A）キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考えることができる。
（S）キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考え、プレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。 受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。 各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。 他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	密教学概論A／真言宗の教えB(別)							学 期	後期
副 題	密教学の思想				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M2-01-054	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標
密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画
1. ガイダンス・密教総論
2. インド密教
3. チベット密教
4. 中国・朝鮮密教
5. 日本密教
6. 密教の聖典（1）―『大日経』―
7. 密教の聖典（2）―『金剛頂経』―
8. 密教の聖典（3）―『理趣経』―
9. 密教の聖典（4）―『菩提心論』・『釈摩訶衍論』―
10. 密教の曼荼羅（１）―胎蔵曼荼羅―
11. 密教の曼荼羅（２）―金剛界曼荼羅―
12. 密教の成仏論
13. 密教の仏身論
14. 密教の灌頂
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30 分)。 ・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60 分)。

テキスト
講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等
①高神覚昇『密教概論』(大法輪閣、1989 年)、②金岡秀友『密教の哲学』(講談社学術文庫、1989 年)、③勝又俊教『密教入門』(春秋社、1991 年)、④松長有慶『密教』(岩波新書、1991 年)など。

学生に対する評価
試験（60%)、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）基本的な密教の思想を理解できる。
（B）基本的な密教の思想・用語を理解できる。
（A）専門的な密教の思想・用語を理解できる。
（S）専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
配付資料を読んだり、テーマや思想について指名して答えてもらうので、予習・復習をしておくこと。

科目名	仏教学概論A							学 期	前期
副 題	仏教学の思想				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-055	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標
バラモン教と初期仏教と大乗思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. バラモン教の成立
3. ヴェーダ思想の特徴①
4. ヴェーダ思想の特徴②
5. ウパニシャッド思想①
6. ジャイナ教思想
7. 初期仏教①　ブッダの生涯
8. 初期仏教②　初期仏教の教理①
9. 初期仏教③　初期仏教の教理②
10. 大乗思想①
11. 大乗思想②
12. 密教の誕生
13. 密教思想の特徴
14. 大乗非仏説について
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと（120 分）。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと（90 分）。

テキスト
担当者作製『仏教とバラモン教』その他は授業で指示

参考書・参考資料等
担当者作製『仏教とバラモン教』、前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～新訳スッタニパータ』（講談社）　前谷彰訳・解説『ブッタのおしえ～新訳スッタニパータ』（講談社）

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに課題レポート（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）初期仏教と大乗思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
（B）仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
（A）部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
（S）アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教史概説A／真言宗の教えA(別)							学 期	前期
副 題	インド・チベット密教史					授業方法	講義	担当者	徳重弘志
ナンバリング	M2-01-056	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれてはいるが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要性がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることも重要である。 この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

授業の到達目標
・初期仏教や大乗仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

授業計画
1.イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2.インドにおける仏教の歴史（1）：初期仏教
3.インドにおける仏教の歴史（2）：部派仏教・大乗仏教
4.インド初期密教（1）：密教の萌芽
5.インド初期密教（2）：密教の形成期
6.インド初期密教（3）:『大日経』の先行経典
7.インド中期密教（1）:『大日経』
8.インド中期密教（2）:『理趣経』・『理趣広経』
9.インド中期密教（3）:『初会金剛頂経』
10.インド後期密教（1）：父タントラ
11.インド後期密教（2）：母タントラ・不二タントラ
12.チベットの密教（1）：前伝仏教期
13.チベットの密教（2）：後伝仏教期
14.チベットの密教（3）：宗派の概説
15.チベットの密教（4）：近代の仏教

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（60 分）。 ・授業後に毎回宿題を課すので、次回までに小レポートとして提出すること（120 分）。

テキスト
・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022 年（書店で購入） ・杉木恒彦、On the Chronology of the Buddhist Tantras、2022 年（論文のため、コピーを配布する）

参考書・参考資料等
・高橋尚夫 他編『初期密教―思想・信仰・文化―』、春秋社、2013 年 ・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016 年 ・松長有慶 編『インド後期密教』（上・下）、春秋社、2005・2006 年

学生に対する評価
レポート（35%）、毎回の授業で課す小レポート（45%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）初期仏教、大乗仏教、密教の関係を理解できている。
（B）インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解できている。
（A）主要な密教経典の特徴を理解できている。
（S）インド・チベット密教史の流れを包括的に理解できている。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された小レポートに関しては、次回の授業において解説を行う。

その他
・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・調査学習を取り入れた科目である。

科目名	仏教史概説A／釈尊の生涯（別）							学 期	後期
副 題	インド仏教史				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-057	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史的変容を被りながら展開して行ったかについて理解する。

授業の到達目標
仏教がインドのいかなる思想を背景に誕生し、いかなる歴史的変容を被りながら展開して行ったかについての基本的知識を身につける。

授業計画
1. 導入：仏教が興起する以前のインド
2. バラモン教の思想：ヴェーダの思想的特徴
3. ヴェーダの思想的特徴
4. 古ウパニシャッドの思想①（ブラフマン）
5. 古ウパニシャッドの思想②（梵我一如）
6. 反ヴェーダ思想（六師外道）
7. ジャイナ教の思想
8. 釈尊の誕生から成道までの歴史概観
9. 初期仏教思想の特徴①（縁起）
10. 初期仏教思想の特徴②（慈悲）
11. 大乗諸派の（思想全般）
12. 『般若経』の特徴
13. 『法華経』の特徴
14. 『華厳経』の特徴
15. 初期仏教と大乗の思想的相違点

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト
担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。

参考書・参考資料等
授業時に必要に応じて紹介する。

学生に対する評価
期末試験（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている
（B）ヴェーダの基本的思想を理解し、ウパニシャッドにおける梵我一如の思想を理解していること。
（A）（B）の理解を踏まえ、初期仏教における「縁起」の思想を理解していること。
（S）（B）・（A）の理解に加え、初期仏教と大乗の思想の違いについて、自身の見解を明らかにし得る能力を有していること。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	歴史学							学 期	前期
副 題	「慈円と『愚管抄』」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M2-12-058	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
鎌倉時代の天台座主・慈円（1155～1225）が著した『愚管抄』は、日本の中世を代表する歴史書として知られている。本講義では、院政期から鎌倉期に至る政治過程を見据えつつ、慈円の生涯と『愚管抄』の成立をめぐる諸問題について考察する。あわせて、慈円の著作の読解を通して、その歴史叙述・歴史思想の意義にも論及したい。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①院政期から鎌倉前期にかけての政治過程と、慈円との関係を理解できるようになる。 ②『愚管抄』を通して、承久の乱の歴史的意義を考える視座をつちかう。 ③慈円の願文類・消息の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画
1. 幼少期・青年期の慈円とその修行
2. 慈円と治承・寿永の内乱
3. 九条兼実・慈円と源頼朝
4. 九条家の沈淪と慈円
5. 後鳥羽院と慈円
6. 慈円と聖徳太子信仰
7. 慈円と日吉信仰
8. 三寅の関東下向と慈円―『道理』の執筆をめぐって―
9. 『愚管抄』の執筆と承久の乱
10. 慈円の晩年
11. 死後の慈円
12. 『愚管抄』の特徴と意義
13. 『愚管抄』における聞き取り
14. 『愚管抄』を読む①―合戦記事に見る迫真性その 1―
15. 『愚管抄』を読む②―合戦記事に見る迫真性その 2―

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史や史学史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等
多賀宗隼『慈円』（吉川弘文館、1959 年） 多賀宗隼『慈円の研究』（吉川弘文館、1980 年） 大隅和雄『愚管抄を読む』（講談社、1999 年） 大隅和雄『愚管抄 全現代語訳』（講談社、2012 年） 坂口太郎「『愚管抄』成立の歴史的前提」（元木泰雄編『日本中世の政治と制度』吉川弘文館、2020 年）

学生に対する評価
レポート（100%） ※4000 字以上

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）慈円と『愚管抄』に関する基礎的事項を理解している。
（B）慈円と『愚管抄』について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
（A）慈円と『愚管抄』について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
（S）本講義の内容を踏まえて、慈円と『愚管抄』について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートについては、採点後に講評する。

その他
本講義は、歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。 基本的に講義形式を取るが、一部の回は『愚管抄』の読解と、それにもとづく議論も行なうアクティブ・ラーニングであるので、受講生の積極的参加が必要である。

科目名	宗教学Ⅰ／世界の宗教(別)1							学 期	前期
副 題	宗教学入門				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	M2-03-059	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
宗教学の歴史と基礎的な理論を学ぶことによって、現代社会のさまざまな現象を宗教の観点から理解する姿勢を身につける。テキストを一緒に読み、当番が発表する形で授業を進める。

授業の到達目標
19 世紀後半に生まれた宗教学の代表的な理論を説明できるようになる。 現代における社会現象・文化現象を宗教の観点から解釈、分析できるようになる。

授業計画
1.ガイダンスの後、テキスト第１章「宗教学の立場と分野　1」を読む
2.テキスト第１章「宗教学の立場と分野　2」を読む
3.テキスト第１章「宗教学の立場と分野　3」を読む
4.テキスト第２章「宗教の原初形態　1」を読む
5.テキスト第２章「宗教の原初形態　2」を読む
6.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　1」を読む
7.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　2」を読む
8.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　3」を読む
9.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　4」を読む
10.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　5」を読む
11.テキスト第４章「宗教の諸類型　1」を読む
12.テキスト第４章「宗教の諸類型　2」を読む
13.テキスト第４章「宗教の諸類型　3，4」を読む
14.テキスト第４章「宗教の諸類型　5，6」を読む
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、テキストの次回の授業範囲を読んでおくこと（90 分)。 事後学修として、テキストとノートを読み直し、復習しておくこと（90 分)。

テキスト
脇本平也『宗教学入門』講談社、1997 年

参考書・参考資料等
フレーザー『図説　金枝篇』(上)（下)、講談社、2011 年

学生に対する評価
発表（50%)、期末レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）テキストを要約し、批判的に検討することができる。
（A）宗教学の代表的理論を説明することができる。
（S）社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻 3 回で 1 欠席と見なす。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教学Ⅱ／世界の宗教(別)2							学 期	後期
副 題	聖典と宗教学の名著を読む				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	M2-03-060	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
諸宗教の聖典と宗教学の名著（いずれも教員が抄出本を用意する）を読むことを通して、様々な宗教のあり方をより深く学んでゆく。映像資料を用いて、宗教現象を立体的に理解できるようにする。

授業の到達目標
各種の宗教思想について基礎的な知識を身につけることを通して、様々な宗教に関心と理解を持つことができる。

授業計画
1.ガイダンス、仏典を読む（1）初期経典『スッタニパータ』
2.仏典を読む（2）初期経典『スッタニパータ』
3.仏典を読む（3）初期経典『ダンマパダ』
4.仏典を読む（4）大乗経典『般若心経』
5.仏典を読む（5）大乗経典『法華経』
6.仏典を読む（6）大乗経典『無量寿経』
7.聖書を読む（1）旧約聖書　1
8.聖書を読む（2）旧約聖書　2
9.聖書を読む（3）新約聖書　1
10.聖書を読む（4）新約聖書　2
11.コーラン（クルアーン）を読む（1）
12.コーランを読む（2）
13.宗教学の名著を読む　フレイザー『金枝篇』1
14.宗教学の名著を読む　フレイザー『金枝篇』2
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90 分）。 事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90 分）。

テキスト
授業中にコピーを適宜配布する。

参考書・参考資料等
島薗進『宗教学の名著 30』筑摩書房、2008 年

学生に対する評価
期末レポート（80%）、授業中の発言、発表（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）諸宗教の代表的教説を説明することができる。
（A）諸宗教を比較しながら、それぞれの特徴を説明できる。
（S）宗教とその文化に関心を持ち、その角度から社会・文化現象を分析できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻 3 回で 1 欠席に換算する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教史Ⅰ／宗教の歴史(別)1							学 期	前期
副 題	宗教の歴史				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M2-03-061	実務経験の有無	無	関連DP	4,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、原始・古代における宗教の発生から、ギリシャ・ローマの宗教の歴史を踏まえつつ、キリスト教へとつながる宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標
人類における宗教的営みの中で、古代の宗教やユダヤ教、キリスト教が歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。

授業計画
1.概論（講義の進め方等）
2.宗教の起源
3.古代諸文明の宗教①－メソポタミアの宗教－
4.古代諸文明の宗教②－古代エジプトの宗教－
5.ギリシャ・ローマの神話
6.ユダヤ教の歴史①－天地創造からエジプト脱出－
7.ユダヤ教の歴史②－王国の成立－
8.ユダヤ教の歴史③－バビロン虜囚－
9.キリスト教の歴史①－イエス・キリストの生涯－
10.キリスト教の歴史②－使徒たちの活動－
11.キリスト教の歴史③－ローマ帝国とキリスト教－
12.キリスト教の歴史④－東方教会・西方教会－
13.キリスト教の歴史⑤－十字軍・魔女裁判－
14.キリスト教の歴史⑥－宗教改革－
15.講義のまとめ

準備学習(予習・復習)・時間
・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる（60分）

テキスト
※プリントを配布する。

参考書・参考資料等
・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房）　・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21）※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価
定期試験（50%）、授業時に課す小レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）宗教の歴史について大まかに理解している。
（B）各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
（A）各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業内でレポートへの講評を実施する。

その他
※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教史Ⅱ／宗教の歴史(別)2							学 期	後期
副 題	現代社会と宗教				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M2-03-062	実務経験の有無	無	関連DP	4,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、イスラム教の歴史をおさえた上で、現代社会における新宗教の歴史を踏まえつつ、今日に続く宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標
人類における宗教的営みの中で、イスラム教、および現代社会における新宗教が、歴史的・思想的にどのように位置付くのかについて理解する。

授業計画
1.概論（講義の進め方等）
2.イスラム教の歴史①－ムハンマドの生涯－
3.イスラム教の歴史②－イスラム国家の誕生－
4.イスラム教の歴史③－イスラム各派の発生－
5.イスラム教の歴史④－復興主義と原理主義－
6.現代宗教の諸相①ーオウム真理教(1)―
7.現代宗教の諸相②ーオウム真理教(2)―
8.現代宗教の諸相③ーオウム真理教(3)―
9.現代宗教の諸相④ー幸福の科学(1)―
10.現代宗教の諸相⑤ー幸福の科学(2)―
11.現代宗教の諸相⑥ー幸福の科学(3)―
12.現代宗教の諸相⑦―FSM 教―
13.現代宗教の諸相⑧―創価学会―
14.現代宗教の諸相⑨ー旧・統一教会―
15.講義のまとめ定期試験

準備学習（予習・復習）・時間
・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる（60 分）

テキスト
※プリントを配布する。

参考書・参考資料等
・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房）　・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21）※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価
定期試験（50%）、授業時に課す小レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）宗教の歴史について大まかに理解している。
（B）各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
（A）各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業内でレポートへの講評を実施する。

その他
※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読ⅠA／真言宗典講読1（別）							学期	通年
副　題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M2-01-063	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標
弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画
【前期】
1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは?－三劫成仏と即身成仏－
3. 『即身義』の構想時期と異本『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む　(1) 発端問答
6. 〃　(2) 二経－論八箇の証文①『金剛頂経』
7. 〃　(3) 二経－論八箇の証文②『大日経』
8. 〃　(4) 二経－論八箇の証文③『菩提心論』
9. 〃　(5) 二頌八句①即身の頌（前編）
10. 〃　(6) 二頌八句②即身の頌（後編）
11. 〃　(7) 二頌八句③成仏の頌（前編）
12. 〃　(8) 二頌八句④成仏の頌（後編）
13. 〃　(9)「六大無碍にして常に瑜伽なり」①六大の釈義（前編）
14. 〃　(10)「六大無碍にして常に瑜伽なり」②六大の釈義（後編）
15. 前期のまとめ－即身成仏思想の特徴

【後期】
1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む　(11)「六大能生」①
3. 〃　(12)「六大能生」②
4. 〃　(13)「六大の顕密／無碍自在の身」
5. 〃　(14)「四種曼荼各不離」①三種秘密身
6. 〃　(15)「四種曼荼各不離」②四種曼荼羅・四種智印
7. 〃　(16)「三密加持速疾顕」①法仏の三密と三密行
8. 〃　(17)「三密加持速疾顕」②『五秘密儀軌』
9. 〃　(18)「三密加持速疾顕」③加と持
10. 〃　(19)「重重帝網名即身」
11. 〃　(20)「法然具足離戯若」
12. 〃　(21)「心数心王過刹塵」
13. 〃　(22)「各具五智無際智」
14. 〃　(23)「円鏡力成実覚智」
15. 後期のまとめ－即身成仏とは何か

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60 分）。　・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60 分）。　・その他の学習については講義内で指示する（60 分）。

テキスト
・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部

参考書・参考資料等
①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社 ②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社　　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価
授業中の素読・発表など（40%）、期末テスト（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
（B）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
（A）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他
・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。　・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。　・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読ⅠB							学期	通年
副　題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M2-01-064	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標
弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画
【前期】
1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは?－三劫成仏と即身成仏－
3. 『即身義』の構想時期と異本『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む　(1) 発端問答
6. 〃　(2) 二経－論八箇の証文①『金剛頂経』
7. 〃　(3) 二経－論八箇の証文②『大日経』
8. 〃　(4) 二経－論八箇の証文③『菩提心論』
9. 〃　(5) 二頌八句①即身の頌（前編）
10. 〃　(6) 二頌八句②即身の頌（後編）
11. 〃　(7) 二頌八句③成仏の頌（前編）
12. 〃　(8) 二頌八句④成仏の頌（後編）
13. 〃　(9)「六大無碍にして常に瑜伽なり」①六大の釈義（前編）
14. 〃　(10)「六大無碍にして常に瑜伽なり」②六大の釈義（後編）
15. 前期のまとめ－即身成仏思想の特徴

【後期】
1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む　(11)「六大能生」①
3. 〃　(12)「六大能生」②
4. 〃　(13)「六大の顕密／無碍自在の身」
5. 〃　(14)「四種曼荼各不離」①三種秘密身
6. 〃　(15)「四種曼荼各不離」②四種曼荼羅・四種智印
7. 〃　(16)「三密加持速疾顕」①法仏の三密と三密行
8. 〃　(17)「三密加持速疾顕」②『五秘密儀軌』
9. 〃　(18)「三密加持速疾顕」③加と持
10. 〃　(19)「重重帝網名即身」
11. 〃　(20)「法然具足離戯若」
12. 〃　(21)「心数心王過纏識」
13. 〃　(22)「各具五智無際智」
14. 〃　(23)「円鏡力成実覚智」
15. 後期のまとめ－即身成仏とは何か

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60 分）。　・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60 分）。　・その他の学習については講義内で指示する（60 分）。

テキスト
・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部

参考書・参考資料等
①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社 ②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社　　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価
授業中の素読・発表など（40%）、期末テスト（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
（B）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
（A）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他
・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。　・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。　・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読ⅡA／祖典講読ⅡS						学期	通年
副　題	『三教指帰』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓
ナンバリング	M3-01-065	実務経験の有無	無	関連DP	1，2	単位数	4	他	―

授業の目的と概要
『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『聾瞽指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。 『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。 四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解読する。

授業の到達目標
『聾瞽指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。 偽作説のどこが誤りであるかを把握する。 駢儷文の文章構造を理解できるようになる。 十韻詩に使われている音韻技巧と、守られている音韻の規則を理解する。

授業計画

【前期】

1. 『聾瞽指帰』と『三教指帰』・『三教指帰』の真偽問題の経緯
2. 『聾瞽指帰』と『三教指帰』の序文・駢儷文の特徴
3. 両『指帰』の本文比較①対偶・訓正
4. 両『指帰』の本文比較②音韻・表現
5. 両『指帰』末尾の十韻詩の比較、音韻の規則・技巧
6. 『三教指帰』の漢語『指帰』の意味について
7. 再『指帰』の読み①文字
8. 再『指帰』の読み②音韻
9. 再『指帰』の読み③意味内容
10. 『三教指帰』を読む①亀毛先生論：亀毛の風貌・教養・蛭子の人となり
11. 『三教指帰』を読む②亀毛先生論：兎角の来歴・亀毛の応答
12. 『三教指帰』を読む③亀毛先生論：世間の悪・人が慎むべき事・蛭子の忍耐・対する叫喚
13. 『三教指帰』を読む④亀毛先生論：行動範囲の説示・忠孝の実践・医と学問の勧め
14. 『三教指帰』を読む⑤亀毛先生論：重ねて高尚となるべきこと・妻と娶・友人と交わる楽しさ
15. 『三教指帰』を読む⑥亀毛先生論：蛭子の身出世論・蛭子が亀毛に問う・兎角の難癖

【後期】

1. 『三教指帰』を読む⑦虚亡隠士論：虚亡の出世と亀毛の懺悔
2. 『三教指帰』を読む⑧虚亡隠士論：方術・道教の開示
3. 『三教指帰』を読む⑨虚亡隠士論：高潔な保ち、高貴な女色から離れるべき事
4. 『三教指帰』を読む⑩虚亡隠士論：神薬の服用・効用
5. 『三教指帰』を読む⑪虚亡隠士論：仙術による長寿・亀毛の難癖
6. 『三教指帰』を読む⑫仮名乞児論：仮名の出、立ち・外見・ある人の難詰
7. 『三教指帰』を読む⑬仮名乞児論：ある人の難詰②・仮名の反論
8. 『三教指帰』を読む⑭仮名乞児論：写瑞詩・仮名の書・仮名の兎角館到着
9. 『三教指帰』を読む⑮仮名乞児論：亀毛と虚亡の論戦・仮名と亀毛の問答・仮名と虚亡の問答
10. 『三教指帰』を読む⑯仮名乞児論：親無請武　無常・身体・美人
11. 『三教指帰』を読む⑰仮名乞児論：親無請武　家族・友人・若き男女・貴賤
12. 『三教指帰』を読む⑱仮名乞児論：親無請武　他武と我　無き事・生前と精進すべき事
13. 『三教指帰』を読む⑲仮名乞児論：亀毛の現絶と蛭子の懇請・生死海武　生死海に溺れる者
14. 『三教指帰』を読む⑳仮名乞児論：生死海武　生死海に溺れる者と無頼と鳳凰で譬える
15. 『三教指帰』を読む㉑仮名乞児論：大慈悲の果・亀毛の難癖

準備学習（予習・復習）・時間
（復習）前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの<返り点>の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること（90分）。 （予習）次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの<書き下し文>と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと（90分）。

テキスト
大柴清圓『聾瞽指帰と三教指帰　―空海大師真作の証明―』大遍照院、2022年（アマゾンで購入）

参考書・参考資料等
渡辺照宏・宮坂宥勝『三教指帰　性霊集　日本古典文学大系』岩波書店、1965年。 福永光司『空海　三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年。

学生に対する評価
学期末試験（50%）　発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
（B）学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
（A）学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
（S）学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法
最終授業で全体に対するフードバックを行う。

その他
「『三教指帰』を読む」は、『聾瞽指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	祖典講読ⅡＢ							学 期	通年
副 題	『般若心経秘鍵』講読					授業方法	講義	担当者	米田弘仁
ナンバリング	M3-01-066	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	4	他	I

授業の目的と概要
弘法大師空海の著作である『般若心経秘鍵』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて素読を通じて真言宗伝統の声読みを学ぶこと、漢文の基本を習得すること、仏教諸宗の教義の大綱を理解すること、さらには『般若心経』を通じて仏教がインドから中国・日本へいかにして伝播してきたのか、これらのことを広く理解することを目的とする。

授業の到達目標
『般若心経秘鍵』の本文をスラスラと読めるようになること。『般若心経』の内容、空の思想を理解し、それが現代社会においていかに意義あるものであるのかを自身の言葉で表現できるようになること。

授業計画
【前期】
1. 空海の諸著作の紹介、『十巻章』の編纂過程、四声点・声読みの解説。
2. 空海の漢文学の紹介、題額・撰号の解説（テキストp.1）
3. 序分講読（四種曼荼羅の説明、テキストp.1）
4. 序分講読（即身成仏思想の解説、テキストp.1-p.2）
5. 序分講読（本書の大意、テキストp.2-p.3）
6. 序分講読（如来の一音説法、テキストp.3）
7. 正宗分講読（『心経』タイトルの解説、テキストp.4）
8. 正宗分講読（『般若心経』の異本①、テキストp.5）
9. 正宗分講読（『般若心経』の異本②、テキストp.5）
10. 正宗分講読（『般若心経』の翻訳者①、羅什三蔵、テキストp.5）
11. 正宗分講読（『般若心経』の翻訳者②、玄奘三蔵、テキストp.5）
12. 正宗分講読（『般若心経』の翻訳者③、義浄三蔵、テキストp.5）
13. 正宗分講読（『般若心経』の翻訳者④、法月三蔵と般若三蔵、テキストp.5）
14. 正宗分講読（『般若心経』の翻訳者⑤、不空三蔵、テキストp.5）
15. 正宗分講読（『般若心経』の「心」の意味、テキストp.5）

【後期】
1. 正宗分講読（人法総通分①、『大日経』三句と五転、テキストp.5-p.6）
2. 正宗分講読（人法総通分②、三種般若、テキストp.6）
3. 正宗分講読（分別諸乗分①、建立如来の三摩地、テキスト p.6-p.7）
4. 正宗分講読（分別諸乗分②、無戯論如来の三摩地、テキストp.7）
5. 正宗分講読（分別諸乗分③、弥勒菩薩の三摩地、テキスト p.7-p.8）
6. 正宗分講読（分別諸乗分④、縁覚乗の三摩地、テキストp.8）
7. 正宗分講読（分別諸乗分⑤、声聞乗の三摩地、テキストp.8）
8. 正宗分講読（分別諸乗分⑥、観自在菩薩の三摩地、テキストp.8-p.9）
9. 正宗分講読（行人得益分、四種薩埵、テキストp.9）
10. 正宗分講読（総帰持明分①、四種陀羅尼、テキストp.9）
11. 正宗分講読（総帰持明分②、声字実相、テキストp.9-p.10）
12. 正宗分講読（秘蔵真言分、テキストp.10）
13. 正宗分講読（問答決疑分、秘密の意味、テキストp.10-p.11）
14. 流通分講読（テキストp.11-p.12）
15. 上表文講読（テキストp.12-p.13）

準備学習（予習・復習）・時間
予習としては講義当日の講読部分の素読を練習しておくこと（60 分）。 復習としては講義における講読部分のノート整理をしておくこと（60 分）。

テキスト
高野山大学編『十巻章』高野山大学出版部（有限高野で購入）

参考書・参考資料等
栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』1981 年訂正版、高野山出版社（大学正門横の当該出版社で購入）。

学生に対する評価
素読ができるかどうか（80%）、内容が理解できているかどうか（10%）、自分の考えをまとめてそれを表現できるかどうか（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）本文の素読ができること。
（B）本文中の用語と内容とを自身で調べて理解しようとする姿勢が認められること。
（A）頼瑜、宥快等、先学の注釈書を参照して本文を理解しようとする姿勢が認められること。
（S）本文を漢文学の資料として批判的に読む姿勢が認められること（伝統の訓読の是非を判断し、語法にもとづいて訓読を修正できること）。

課題に対するフィードバックの方法
授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中、あるいは補講時間においてその質問・意見をとりあげてそのことについて考察する。

その他
本講では、授業のほとんどが zoom によるリモートで行われるため、ネット環境を整える必要がある。第一回目の講義において、接続テストを行うので、パソコン、ｉＰａｄ、スマートフォンを用意すること。

科目名	祖典講読ⅡC／祖典講読ⅡT／真言宗典講読2(別)							学期	通年
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	M3-01-067	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	―

授業の目的と概要
弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想（特に『大日経』が説く言語哲学）について理解を深める。

授業の到達目標
漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画
【前期】
1. 『吽字義』とは何か（書誌的解説）
2. 梵字の基礎知識を学ぶ
3. 『大日経』の言語論①
4. 『大日経』の言語論②
5. 『大日経』の言語論③
6. 吽字の字相
7. 吽字の字義
8. 阿字の字義（略説）
9. 阿字の実義（本初不生の実義）
10. 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
11. 汙字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
12. 汙字の実義（小乗・大乗よりの実践）
13. 汙字の実義（六義よりの実践①）
14. 汙字の実義（六義よりの実践②）
15. 総括

【後期】
1. 汙字の実義（字門道よりの実践①）
2. 汙字の実義（字門道よりの実践②）
3. 汙字の実義（字門道よりの実践③）
4. 偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
5. 偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
6. 麼字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
7. 麼字の実義（自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等摂持の実義）
8. 麼字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
9. 吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
10. 吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
11. 吽字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
12. 吽字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
13. 吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歓喜の義趣）
14. 総括①
15. 総括②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。（90 分）／講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。（60 分）

テキスト
『十巻章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』／　松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社）
※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等
弘法大師著作研究会『高野山大学密教文化研究所紀要別冊・『吽字義』の研究』（高野山大学密教文化研究所）／　竹村牧男『空海の言語哲学』（春秋社）　など

学生に対する評価
試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
（B）漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
（A）弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはＥメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	宗典講読B							学 期	通年
副 題	秘密儀軌				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	M3-01-068	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	4	他	I

授業の目的と概要
漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道・金剛界・一尊法の各種次第への理解を深める。前期では十八道次第の本となった漢文の秘密儀軌『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『阿閦法』、『烏芻澁麽儀軌』などを読む。後期では金剛頂経系の儀軌の『如意輪瑜伽』、『千手儀軌』、『五秘密儀軌』など、その他に『観智儀軌』や『求聞持法』を読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標
密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画
【前期】
1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較① (灌頂と受法について)
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較② (修法する場所について)
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③ (壇場荘厳について)
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④ (浄三業・礼拝・五悔について)
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤ (著座・塗香・三部被甲について)
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥ (結界法について)
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦ (荘厳道場法について)
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧ (勧請法について)
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨ (結護法について)
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩ (供養法について)
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪ (入我我入と本尊加持について)
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫ (正念誦について)
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬ (字輪観について)
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭ (出堂までの行法、その他)

【後期】
1. 『金剛頂経』系の儀軌を読む①(『如意輪瑜伽』を読む)
2. 『金剛頂経』系の儀軌を読む②(『如意輪瑜伽』を読む)
3. 『金剛頂経』系の儀軌を読む③(『如意輪瑜伽』を読む)
4. 『金剛頂経』系の儀軌を読む④(『千手儀軌』を読む)
5. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤(『千手儀軌』読む)
6. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥(『千手儀軌』読む)
7. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦(『千手儀軌』読む)
8. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧(『五秘密儀軌』を読む)
9. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨(『五秘密儀軌』を読む)
10. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩(『五秘密儀軌』を読む)
11. その他の儀軌①(『観智儀軌』を読む)
12. その他の儀軌②(『観智儀軌』を読む)
13. その他の儀軌③(『観智儀軌』を読む)
14. その他の儀軌④(『求聞持法』前半を読む)
15. その他の儀軌⑤(『求聞持法』後半を読む)

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
浄厳の江戸期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

参考書・参考資料等
『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価
レポート（50%)、発表（20%)、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	キャリアデザインⅤ							学 期	前期
副 題	職業生活を考える					授業方法	講義	担当者	高田綾子
ナンバリング	M3-16-069	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
① 労働法を理解し、グループワークを通じて望ましい労働環境について考える。 ② 志望する業界や職種の研究と自己分析を通じて就職に対する意識を高める。社会に対する視野を広げ、就職活動の進め方や必要なスキルを身につける。 ③ 演習、フィードバック等のアクティブラーニングにより、社会人基礎力を理解し、必要性を知る。

授業の到達目標
労働法や働き方改革が必要とされる労働者を取り巻く問題を理解し、 望ましい職場環境のあり方を主体的に考えていくために必要なスキルを習得する。大学卒業時点での「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。

授業計画
1.労働市場について知る
2.多様な働き方を考える
3.労働関係の法律・制度①（契約と労働条件）
4.労働関係の法律・制度②（福利厚生と社会保険）
5.労働関係の法律・制度③（健康に働く）
6.労働関係の法律・制度④（働きつづけやすさとは）
7.ワークライフバランス
8.メンタルヘルスとストレスマネジメント
9.職業生活における様々な問題を考える
10.社会の変化とライフプラン
11.インターンシップを考える①（必要性、目標）
12.インターンシップを考える②（ビジネスマナーとは何か）
13.インターンシップを考える③（ビジネスにおけるコミュニケーション法）
14.インターンシップを考える④（非対面的なコミュニケーションのあり方）
15.インターンシップを考える⑤（人間関係のあり方）

準備学習（予習・復習）・時間
・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト
教員作成の資料

参考書・参考資料等
①『ポケット労働法 2021』2021（東京都産業労働局） ②『ワークで学ぶインターンシップリテラシー ：新編』2016（モリモト印刷） 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価
レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）テキストの内容及び社会人基礎力についての基礎的事項を理解している。
（B）テキストの内容及び社会人基礎力を理解している。
（A）テキストの内容を理解し、社会人基礎力に必要な能力を説明できている。
（S）テキストの内容を理解し、社会人基礎力を理解した上、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。 受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。 各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。 他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアデザインⅥ							学 期	後期
副 題	キャリアプランと自己分析				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	M3-16-070	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
①自己分析を進めるとともに、多様なキャリア形成の可能性を知る。社会を多角的に見る視点を身につける。 ②演習、フィードバック等のアクティブラーニングにより、社会人基礎力を理解し、必要性を知る。

授業の到達目標
自己の能力を確認し、社会人基礎力を養成する。大学卒業後の「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。

授業計画
1.インターンシップの経験を整理する
2.キャリア選択における基準を考える
3.職業人の行動特性を考える
4.キャリア形成に必要な能力を考える
5.キャリア形成のための基本情報を考える
6.キャリアプランを意識した自己分析を行う①（興味）
7.キャリアプランを意識した自己分析を行う②（価値観）
8.キャリアプランを意識した自己分析を行う③（能力）
9.社会人基礎力について考える①（環境と社会性）
10.社会人基礎力について考える②（学びを生かす）
11.社会人基礎力を体験する① （論理的レポートの作成）
12.社会人基礎力を体験する②（プレゼンテーションの基礎知識）
13.社会人基礎力を体験する③（プレゼンテーションの実践）
14.社会人基礎力を体験する④（グループディスカッションの基礎知識）
15.社会人基礎力を体験する⑤（グループディスカッションの実践）

準備学習（予習・復習）・時間
・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト
教員作成の資料

参考書・参考資料等
①中野美香『大学生からのプレゼンテーション入門 』2012（ナカニシヤ出版） ②中野美香『大学生からのグループ・ディスカッション入門 』2018（ナカニシヤ出版） 他は授業中に紹介する

学生に対する評価
レポート（30%）、発表（40%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）社会人に必要な能力を理解している。
（B）社会人に必要な能力を理解し、書類作成・演習について基本動作ができる。
（A）社会人に必要な能力を説明でき、書類作成・演習について基本動作がスムーズにできる。
（S）社会人に必要な能力を身に着け、書類作成・演習についてアピール性の高い基本動作ができる上に、日々の行動で実践できている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。 受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。 各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	密教学特殊講義A							学 期	前期
副 題	密教図像に関する体系的学習				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-01-071	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乗仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマーラー』や『ニシュパンナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

授業の到達目標
密教尊像の基本的な知識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

授業計画
1. 概論（講義の進め方等）
2. 漢訳資料の基本的な扱い方
3. 漢文資料の基本的な講読練習　(般若心経前半)
4. 漢文資料の基本的な講読練習　(般若心経後半)
5. 尊格表現方法の基本知識　(仏の種類)
6. 尊格表現方法の基本知識　(仏の展開)
7. 尊格表現方法の基本知識　(曼荼羅)
8. 尊格表現方法の基本知識　(曼荼羅の展開)
9. 漢訳図像資料講読　(図像鈔)
10. 漢訳図像資料講読　(図像鈔)
11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12. 図像資料講読演習　(経典の講読)
13. 図像資料講読演習　(経典の講読)
14. 図像資料講読演習　(経典の講読)
15. レポート試験・講評

準備学習（予習・復習）・時間
準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週１時間。

テキスト
大正新脩大蔵経図像部

参考書・参考資料等
松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995 年頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994 年佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962 年

学生に対する評価
レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）漢訳資料を扱える
（B）密教尊像に関する知識を得る
（A）密教図像に関する資料を扱える
（S）密教図像成立を体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法
個別に指導する。

その他
授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学特殊講義B							学 期	前期
副 題	日本の仏教美術について各時代の特徴を知る1				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	M3-12-072	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
寺院に祀られる仏像や仏画は礼拝対象であると同時に歴史的文化遺産としても重要な意義を持つ。授業では、飛鳥時代から平安時代前期までの仏教美術について、各時代を代表する仏像や仏画のスライド画像やこれまでの研究成果を参考にしつつ、その歴史や作品の特徴について学習する。併せて高野山の多くの国宝や重要文化財を収蔵する高野山霊宝館において実際に作品を見学する機会を通じて、仏像や仏画の見方や技法・構造などについて理解を深める。

授業の到達目標
・飛鳥時代から平安時代前期までの仏教美術について、各時代の代表的な作例からその背景、特徴など基本的な知識を習得し、説明できるようになる。 ・特に実際に仏像や仏画作品を間近で見学することにより、具体的に仏教美術の見学方法や各尊像の形像、技法などの細部についても理解し、説明できるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション、仏教美術の基礎知識（尊像の種類や形式など仏教美術全般にわたる基礎知識）
2.飛鳥時代前期の仏教美術１　仏像（法隆寺金堂釈迦三尊像、救世観音像等）
3.飛鳥時代後期の仏教美術２　仏像（興福寺仏頭、中宮寺菩薩半跏像等）
4.高野山霊宝館での実地見学１：　春期企画展（展示内容については詳細未定）
5.飛鳥時代の仏教美術３　仏画・工芸（玉虫厨子、法隆寺金堂壁画等）
6.奈良時代の仏教美術１　仏像１（興福寺八部衆像、東大寺法華堂諸像、東大寺戒壇堂四天王像等）
7.奈良時代の仏教美術２　仏像２（唐招提寺諸像、聖林寺十一面観音像等）
8.高野山霊宝館での実地見学２：　春期企画展（展示内容については詳細未定）
9.奈良時代の仏教美術３　仏画（東大寺大仏蓮弁図、薬師寺吉祥天像等）
10.奈良時代の仏教美術４　工芸（正倉院宝物等）
11.平安時代前期の仏教美術１　仏像１（神護寺薬師如来像、新薬師寺薬師如来像等）
12.高野山霊宝館での実地見学３：　春期企画展（展示内容については詳細未定）
13.平安時代前期の仏教美術２　仏像２（東寺講堂諸像、観心寺如意輪観音像等）
14.平安時代前期の仏教美術３　仏画１（両界曼荼羅図等）
15.平安時代前期の仏教美術４　仏画２（西大寺十二天像等）

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学修として、「仏教美術の基礎知識」で配布した資料の仏教美術に関する全般的な知識を理解、確認しておくこと（30分）、　事後学修として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認すること（90分）、実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめること（60分）

テキスト
講義内容に沿った参考資料（文字・画像資料およびスライドの資料）を配付する。

参考書・参考資料等
①辻惟雄他編『日本美術全集』小学館 2012年～2016年などの美術全集　②『日本の美術』至文堂 1966年～2009年3月・ぎょうせい 2009年～2011年　③関根俊一編『仏尊の事典』学研プラス 1997年　④水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版社 2001年

学生に対する評価
授業参加および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）の比率で評価する。 前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて4000字程度のレポートを提出する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業の内容について理解している。
（B）各時代の仏教美術について基礎的な知識を理解している。
（A）各時代の歴史的背景や仏教美術作品の造形的特徴を理解している。
（S）各時代の代表的な作例を挙げることができ、その特徴についても自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。 提出されたレポートについての講評は、添削後、返却時にひとりひとりに行う。

その他
・教室での講義だけではなく、高野山霊宝館において見学を行うアクティブラーニングを取り入れた科目である。 ・密教学特殊講義C（後期）はB（前期）から内容が継続しているので、履修・聴講することが望ましい。 ・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。 ・日頃から仏教美術作品に興味を持ち、受講生各自でも積極的に霊宝館や奈良・京都などで開催される仏教美術の展覧会などを見学することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
大学の教員及び非常勤講師として仏教美術史の講義、寺院等の見学授業や仏像調査の経験をもつ教員が、その経験を活かして、仏教美術史の基礎的な知識を解説し、霊宝館での実地見学を通してより深い作品への理解力を身につける科目である。

科目名	密教学特殊講義C							学 期	後期
副 題	日本の仏教美術について各時代の特徴を知る2				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	M3-12-073	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
寺院に祀られる仏像や仏画は礼拝対象であると同時に歴史的文化遺産としても重要な意義を持つ。授業では、平安時代後期から江戸時代までの仏教美術について、各時代を代表する仏像や仏画のスライド画像やこれまでの研究成果を参考にしつつ、その歴史や作品の特徴について学習する。併せて高野山の多くの国宝や重要文化財を収蔵する高野山霊宝館において実際に作品を見学する機会を通じて、仏像や仏画の見方や技法・構造などについて理解を深める。

授業の到達目標
・平安時代後期から江戸時代までの仏教美術について、各時代の代表的な作例からその背景、特徴など基本的な知識を習得し、説明できるようになる。 ・特に実際に仏像や仏画作品を見学することにより、具体的に仏教美術の見学方法や各尊像の形像、技法などの細部についても理解し、説明できるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション、仏教美術の基礎知識（尊像の種類や形式など仏教美術全般にわたる基礎知識）
2.平安時代後期の仏教美術１　仏像１（平等院鳳凰堂阿弥陀如来像・雲中供養菩薩像等）
3.平安時代後期の仏教美術２　仏画１・工芸（平等院鳳凰堂・来迎図等）
4.高野山霊宝館での実地見学　１：　秋期企画展前期（展覧会詳細未定）
5.平安時代後期の仏教美術３　仏像２（院政期の仏像、峰定寺千手観音像等）
6.平安時代後期の仏教美術４　仏画２（金剛峯寺仏涅槃図・東寺五大尊像等）
7.鎌倉時代の仏教美術１　仏像１（東大寺・興福寺の復興と仏師運慶の造像）
8.高野山霊宝館での実地見学　２：　秋期企画展後期（展覧会詳細未定）
9.鎌倉時代の仏教美術２　仏像２（東大寺・興福寺の復興と仏師快慶の造像）
10.鎌倉時代の仏教美術３　仏像３（運慶以後の仏像）
11.鎌倉時代の仏教美術４　仏画（東寺十二天屏風・禅林寺山越阿弥陀如来像等）
12.高野山霊宝館での実地見学　３：　冬期平常展（展覧会詳細未定）
13.鎌倉時代の仏教美術５　工芸（密教法具）
14.室町時代の仏教美術　仏像（東寺講堂大日如来像・達磨寺達磨大師像等）
15.江戸時代の仏教美術　仏像（長講堂後白河法皇像・醍醐寺理源大師像）

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学修として、「仏教美術の基礎知識」で配布した資料の仏教美術に関する全般的な知識を理解、確認しておくこと（30 分）、　事後学修として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認すること（90 分）、実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめること（60 分）

テキスト
授業内容に沿った参考資料（文字・画像資料およびスライドの資料）を配付する。

参考書・参考資料等
各時代の歴史的背景や仏教美術作品の造形的特徴を理解している。

学生に対する評価
授業参加および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）の比率で評価する。 前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて 4000 字程度のレポートを提出する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業内容について理解することができる。
（B）各時代の仏教美術について基礎的な知識を理解している。
（A）各時代の歴史的背景や仏教美術作品の造形的特徴を理解している。
（S）各時代の代表的な作例を挙げることができ、その特徴についても自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。 提出されたレポートの講評は、添削後、返却時にひとりひとりに行う。

その他
・教室での講義だけではなく、高野山霊宝館において見学を行うアクティブラーニングを取り入れた科目である。 ・密教学特殊講義Ｂ（前期）はＣ（後期）へと内容が継続しているので、履修・聴講することが望ましい。 ・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。 ・日頃から仏教美術作品に興味を持ち、受講生各自でも積極的に霊宝館や奈良・京都などで開催される仏教美術の展覧会などを見学することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
大学の教員及び非常勤講師として仏教美術史の講義、寺院等の見学授業や仏像調査の経験をもつ教員が、その経験を活かして、仏教美術史の基礎的な知識を解説し、霊宝館での実地見学を通してより深い作品への理解力を身につける科目である。

科目名	人間学専門講義（高野文化圏論）／密教学特殊講義D							学 期	後期
副 題	高野山と周辺地域の関係					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	M3-11-074	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について生活文化を中心に検討することによって、身近な地域について理解する。

授業の到達目標
高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の生活文化について理解し、説明できるようになる。

授業計画
1. 高野文化圏研究の意義
2. 高野文化圏をめぐる環境（1）自然環境
3. 高野文化圏をめぐる環境（2）社会環境
4. 景観の諸問題（1）景観権
5. 景観の諸問題（2）具体的な事例
6. 生業（1）1 次産業
7. 生業（2）2 次産業・3 次産業
8. 交通・交易（1）高野七口
9. 交通・交易（2）高野参詣
10. 社会生活（1）村について
11. 社会生活（2）近隣組織
12. 民俗宗教（1）年中行事
13. 民俗宗教（2）高野山の信仰
14. 民俗宗教（3）人生儀礼
15. 高野文化圏の生活文化の特徴

準備学習（予習・復習）・時間
・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012 年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価
定期試験（70%）、授業時の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）高野文化圏の生活文化について基本的事項を説明できる。
（B）授業内容を理解した上で、高野文化圏の生活文化について説明できる。
（A）高野文化圏の生活文化について自己の意見を述べることができる。
（S）高野文化圏の課題に対する対策を提案できる。

課題に対するフィードバックの方法
・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他
授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義A							学 期	前期
副 題	インド大乗仏教における空思想				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	M3-02-075	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
初期仏教以来、中心的な思想の一つに挙げられる「空」は、いずれの時代においても、また伝播した先のいずれの地域においても重要な課題として多々論じられ、様々に解釈されてきた。本講義は、これらの根幹となるインド仏教における空理解とその議論について学ぶことで、仏教学全般を理解するための確固たる支柱を獲得することを目的とする。

授業の到達目標
とくにインド大乗仏教における空思想の特徴と展開を体系的に把握し、仏教思想全体に対する理解を深めることができる。

授業計画
1. オリエンテーション（インド仏教の展開を概観する）
2. 初期仏教・部派仏教の思想
3. 初期仏教・部派仏教における空
4. 般若経典類と空(1)
5. 般若経典類と空(2)
6. 般若経典類と空(3)
7. ナーガールジュナ（龍樹）の思想と著作
8. 『根本中頌』が説く思想(1) 縁起
9. 『根本中頌』が説く思想(2) 空性
10. 『根本中頌』が説く思想(3) 戯論
11. 「ことばの否定」とは何か
12. 中観論師たちの思想と著作(1) バーヴィヴェーカ（清弁）
13. 中観論師たちの思想と著作(2) チャンドラキールティ（月称）
14. 空思想の展開
15. 総括（全体のまとめとレポート講評）

準備学習（予習・復習）・時間
授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する（60 分）

テキスト
プリント資料を配布する

参考書・参考資料等
立川武蔵『空の思想史』（講談社学術文庫 1600）、講談社、2003 年など。他は適宜授業中で紹介する

学生に対する評価
期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）空思想を把握するために必要な用語を理解できる
（B）空思想の特徴を理解し、説明できる
（A）空思想の特徴と展開を把握できる
（S）空思想の特徴と展開を体系的に理解し、説明できる

課題に対するフィードバックの方法
疑問・質問については、毎回の授業内で全体に対してフィードバックを行ない、知識を共有する

その他
分からない用語があれば自ら辞書や参考文献で調べる等、積極的に理解するよう努めること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義B							学 期	前期
副 題	古代インド思想から見た仏教				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M3-02-076	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
受講生と相談し、サンスクリット原典を選択し、サンスクリット語の読解能力を高める。

授業の到達目標
サンスクリット語の経典・論書を読解する能力を身につける。

授業計画
1. オリエンテーション　経典・論書の選択
2. 経典選択の前にサンスクリット語の基礎知識を確認する
3. 音論
4. サンディ法則
5. 名詞造語法
6. 『法華経』の原典を解説する①
7. 『法華経』の原典を解説する②
8. 『十地経』の原典を解説する①
9. 『十地経』の原典を解説する②
10. 大乗経典を読む上でハイブリット・サンスクリット語の知識を身につける①
11. 大乗経典を読む上でハイブリット・サンスクリット語の知識を身につける②
12. 大乗経典を読む上でハイブリット・サンスクリット語の知識を身につける③
13. 実際にハイブリット・サンスクリット語の読解訓練を行う①
14. 実際にハイブリット・サンスクリット語の読解訓練を行う②
15. 実際にハイブリット・サンスクリット語の読解訓練を行う③

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の予習（60 分）、復習（30 分）

テキスト
『法華経』、『十地経』

参考書・参考資料等
授業時に指示する

学生に対する評価
予習した内容の発表（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）サンスクリット語の音論をはじめとする基礎知識を理解している
（B）短文読解の訓練が身に付いている
（A）経典読解能力のトレーニングができる
（S）論書読解能力が身に付いている

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については適宜授業内でフィードバックする。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義D							学 期	前期
副 題	悲嘆の心理について学ぶ					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	M3-10-077	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標
悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画
1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3. 犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4. 犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5. 虐めと虐待①（虐め体験について）
6. 虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7. 難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8. 難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11. 自死遺族支援①（遺族の心理）
12. 自死遺族支援②（サポートグループについて）
13. 災害時支援①（災害による喪失体験）
14. 災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂,2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	仏教学特殊講義E							学 期	前期
副 題	中国語で仏典を読む				授業方法	講義	担当者	徐東軍	
ナンバリング	M3-02-078	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
講義の始めに中国語（標準語）の発音で『般若心経』を読誦する。中国語と日本語の文献を併用し、『般若心経』を精読することで、中日両方の語学力を高め、漢訳仏教用語及び本経典の意味を理解する。インド・チベットの仏教系統と、中国・日本の仏教系統の『般若心経』の注釈書を比較し、顕教と密教、インド仏教と中国仏教などの多様な視点から『般若心経』の解釈の違いについて考える。

授業の到達目標
中国語で漢訳仏典の『般若心経』を読誦できる。『般若心経』に説かれた教理を総合的に把握し、その意義を概説できる。

授業計画
1. 講義内容の説明
2. 玄奘三蔵の天竺求法と『般若心経』
3. 般若経典類の展開と『般若心経』の諸本
4. 円測『仏説摩訶般若波羅蜜多心経賛』を読む①
5. 円測『仏説摩訶般若波羅蜜多心経賛』を読む②
6. 円測『仏説摩訶般若波羅蜜多心経賛』を読む③
7. 円測『仏説摩訶般若波羅蜜多心経賛』を読む④
8. 円測『仏説摩訶般若波羅蜜多心経賛』を読む⑤
9. アティーシャ『般若心経解説』を読む①
10. アティーシャ『般若心経解説』を読む②
11. アティーシャ『般若心経解説』を読む③
12. 空海『般若心経秘鍵』を読む①
13. 空海『般若心経秘鍵』を読む②
14. 空海『般若心経秘鍵』を読む③
15. 講義内容の総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として次回の講義範囲の資料を読み、難解な用語を調べること。(60 分)　講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60 分)

テキスト
担当者が配布資料を用意する。

参考書・参考資料等
①渡辺章悟　高橋尚夫編『般若心経註釈集成 インド・チベット編』(起心書房、2016 年)　②渡辺章悟　高橋尚夫編『般若心経註釈集成 中国・日本編』(起心書房、2016 年)

学生に対する評価
期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）中国語で『般若心経』を読誦し、同経典の仏教用語を理解し、説明できる。
（B）中国語で『般若心経』を読誦し、同経典の思想を理解できる。
（A）中国語で『般若心経』を暗唱し、同経典の思想を理解できる。
（S）中国語で『般若心経』を暗唱し、同経典の思想及び各注釈書の解釈の違いを理解できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、授業内で対応する。

その他
中国語と日本語の文献を併用し、中日二ヶ国語で講義を行う。履修前提として、基礎的な中国語の「聴く」「読む」力を持っていること。なお、受講生の語学力に合わせて講義内容を調整する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
中日両国で行われていた仏教・密教学術大会などにおいて通訳と論文翻訳に従事した経験のある教員が、その経験を活かして、仏教・密教の文献を中国語と日本語で読む方法、注意点などについて講義する。

科目名	仏教学特殊講義F							学 期	後期
副 題	悲嘆の心理について学ぶ					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	M2-10-079	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標
悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画
1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3. 犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4. 犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5. 虐めと虐待①（虐め体験について）
6. 虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7. 難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8. 難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11. 自死遺族支援①（遺族の心理）
12. 自死遺族支援②（サポートグループについて）
13. 災害時支援①（災害による喪失体験）
14. 災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂,2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	仏教学特殊講義G／仏教学特殊講義U							学 期	後期
副 題	マインドフルネス					授業方法	講義	担当者	井上ウィマラ
ナンバリング	M3-02-080	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4,5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
伝統的なブッダの説いた瞑想法としてのマインドフルネスと、カバットジンによって現代化された実践的プログラムである MBSR に代表されるマインドフルネスの相関関係を理解する。仏教の基本的な教義が、マインドフルネス実践の中でどのようにつながり合ってゆくものなのかを体験的に理解する。解脱・悟りとは何かを理解した上で、マインドフルネスが現代的なケアの中にどのように応用可能かつ必要なものであるかを理解する。そのために、講義と瞑想的エクササイズを含む実践を組み合わせて授業を進める。

授業の到達目標
マインドフルネスの語源的意味、実践的意味を理解して、実際の日常生活の中で応用できるようにする。仏教の教義を含めて、マインドフルネスについて自分の言葉で説明できるようになる。子育てや看取りなどのケアや対人援助の活動における中核的な技法としてマインドフルネスを応用実践できるようになる。

授業計画
1. ブッダの説いたマインドフルネスの教えが、カバット・ジンの MBSR によって現代化された流れについて
2. 東洋の仏教、西洋の仏教、社会参画仏教
3. 出息入息念経（アーナーパーナサティ・スッタ）について
4. 念処経（サティパッターナ・スッタ）について
5. 四無量心について
6. 学びのステップ：戒定慧
7. 縁起について
8. 四聖諦について
9. 幸せについて
10. 中道について
11. 解脱・悟りについて
12. マインドフルネスとケア
13. 仏法僧の三宝について：目覚め・教え、コミュニティ
14. マインドフルネスとコンパッションによる燃えつき防止プログラム G.R.A.C.E.について
15. マインドフルネスと倫理について

準備学習（予習・復習）・時間
予習は必要ないが、授業で学んだことを復習して日常生活の中で 180 分以上実践してみること。

テキスト
テキストは用いず、講師がパワーポイントの資料を用意する。

参考書・参考資料等
井上ウィマラ・杉浦義典『私たちはまだマインドフルネスに出会っていない』日本評論社　2022 井上ウィマラ編著『仏教心理学キーワード事典』春秋社　2012 井上ウィマラ『呼吸による気づきの教え』佼成出版社　2005

学生に対する評価
「授業で学んだことをまとめ、今後の生活にどのように活かしていきたいか」というテーマで 1,600 字～2,000 字程度（A42 枚まで）でレポート（100%）をまとめる。提出期限と提出先は最終授業で伝える。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）目標を達成することができる。
（B）自分なりの言葉で表現することができる。
（A）コンパクトかつ説得力のある文章で表現することができる。
（S）極めて深いレベルで理解し、そのことが文章表現を通して伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問やコメントは授業内で対応する。レポートについては、採点しコメントを付して返却する。

その他
遠隔授業とスクーリングとで構成される。スクーリングではさまざまなエクササイズを行うので動きやすい服装で参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
30 年以上の瞑想指導歴と、20 年ほどの大学教員としての指導歴と研究歴に基づいて教授する。

科目名	真言密教特殊講義A／密教儀礼の理論と実習(別)1							学 期	前期
副 題	中院流諸作法 1					授業方法	講義	担当者	中西雄泰
ナンバリング	M3-01-081	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標
高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画
1. 授業の概要説明
2. 中院流の成り立ちについて（1）
3. 中院流の成り立ちについて（2）
4. 中院流の成り立ちについて（3）
5. 別行次第（理趣法）伝授説明（1）
6. 別行次第（理趣法）伝授説明（2）
7. 別行次第（理趣法）伝授説明（3）
8. 別行次第（理趣法）伝授説明（4）
9. 別行次第（理趣法）伝授説明（5）
10. 別行次第（理趣法）伝授説明（6）
11. 別行次第（理趣法）伝授説明（7）
12. 別行次第（理趣法）伝授説明（8）
13. 開眼作法等日用小作法伝授説明（1）
14. 開眼作法等日用小作法伝授説明（2）
15. 開眼作法等日用小作法伝授説明（3）

準備学習(予習・復習)・時間
事後学修として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90 分）

テキスト
①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等
必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価
授業態度（100%）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）出席 60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
（B）出席 80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
（A）出席 90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
（S）出席 100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法
質問は受け付けない。

その他
・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義B／密教儀礼の理論と実習(別)2							学 期	後期
副 題	中院流諸作法 2					授業方法	講義	担当者	中西雄泰
ナンバリング	M3-01-082	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標
高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画
1.真言宗の葬儀について（1）
2.真言宗の葬儀について（2）
3.引導作法伝授説明（1）
4.引導作法伝授説明（2）
5.引導作法伝授説明（3）
6.引導作法伝授説明（4）
7.引導作法伝授説明（5）
8.無常導師作法伝授説明（1）
9.無常導師作法伝授説明（2）
10.無常導師作法伝授説明（3）
11.無常導師作法伝授説明（4）
12.日用作法伝授説明（1）
13.日用作法伝授説明（2）
14.日用作法伝授説明（3）
15.日用作法伝授説明（4）

準備学習(予習・復習)・時間
事後学修として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90 分）

テキスト
①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等
必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価
授業態度（100%）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）出席 60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
（B）出席 80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
（A）出席 90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
（S）出席 100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法
質問は受け付けない。

その他
・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義C／真言密教特殊講義U／観法の理論と実習A(別)							学 期	後期
副 題	密教瞑想法					授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	M3-01-083	実務経験の有無	無	関連DP	2,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
阿字觀は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の觀法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字觀は在家の人でも修することができる。密教觀法の一つである月輪観と阿字観についてについてその理論と実習を通じ修得する。

授業の到達目標
阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、理論を修得するとともに説明できるようになる。

授業計画
1.瞑想の目的と種類
2.阿息観について
3.阿息観の実習
4.月輪観について
5.月輪観について
6.月輪観実習
7.『大日経』と阿字
8.阿字観について
9.阿字観について
10.阿字観実習
11.自由討論
12.阿字観の口訣
13.阿字観の口訣
14.阿字観実習
15.レポート作成と講評

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として、授業で修得したことを整理し、身に付けること。(120 分)

テキスト
①山崎泰廣著『真言密教阿字観瞑想入門』(春秋社) その他コピー配布

参考書・参考資料等
『大日経』、『大日経疏』、『定本弘法大師全集』等

学生に対する評価
レポート (80%)、授業参加の積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 密教の基本的文献を調査し読むことができる。
(B) 月輪の意味について説明できる。
(A) 実習を通して月輪の意味をより深く説明できる。
(S) 密教瞑想法の思想的背景について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
講義のまとまり毎、実修毎にフィードバックを行う。

その他
楽に坐れる服装で出席のこと。匂いの強い化粧、ネックレス、イヤリングをしないこと。受講の間に、釈尊の胸中、空海の悠大な悟境の片鱗に触れていただきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	真言密教特殊講義D							学 期	前期
副 題	『中院流三十三尊法聞書』を読む（前半）				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	M3-01-084	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標
『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画
１.中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
２.別尊次第について
３.「金輪」
４.「佛眼」
５.「薬師」
６.「阿弥陀」
７.「釈迦」
８.「尊勝」
９.「聖観音」
10.「千手」
11.「十一面」
12.「馬頭」
13.「準胝」
14.「如意輪」
15.「白衣」

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』をコピーで配布

参考書・参考資料等
『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。内容は後期に続くため、「真言密教特殊講義Ｅ」を続けて受講することを推薦する。

科目名	真言密教特殊講義E							学 期	後期
副 題	『中院流三十三尊法聞書』を読む（後半）				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	M3-01-085	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標
『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画
１.「弥勒」
２.「五字文殊」
３.「八字文殊」
４.「延命」
５.「地蔵」
６.「愛染」
７.「不動」
８.「降三世」「軍荼利」
９.「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10.「法華」「舎利」
11.「光明真言」
12.「毘沙門」
13.「炎魔天」
14.「水天」
15.「聖天」「訶利帝」

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』をコピーで配布

参考書・参考資料等
『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「真言密教特殊講義Ｄ」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	真言密教特殊講義F							学 期	前期
副 題	子嶋流の研究					授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	M3-01-086	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
子嶋流は、傳法灌頂に八印を用いるなど東密の流派の中でも特異な流派である。また、台密との関連や南都に与えた影響などを考えると極めて重要な流派である。子嶋流について伝統的な相伝と流派に伝わる文献の購読を通して専門的な知識を身に着けることを目的とする。

授業の到達目標
子嶋流の歴史と特徴を理解するだけでなく、子嶋流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画
1. オリエンテーション
2. 子嶋流について
3. 子嶋流にについて
4. 加行折紙
5. 十八道次第
6. 十八道次第
7. 十八道次第
8. 十八道次第
9. 十八道口伝について
10. 十八道口伝について
11. 十八契印生起について
12. 十八契印生起について
13. 十八契印生起について
14. 十八契印生起について
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい（20 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）講義のまとめ作成（70 分）

テキスト
資料をコピーで配布

参考書・参考資料等
『子嶋流の研究』

学生に対する評価
レポート（70%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）子嶋流の特徴を簡単に説明できる
（B）子嶋流の所作を理解実践説明できる。
（A）子嶋流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
（S）子嶋流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義のまとまり毎にフィードバックを行う。

その他
本講義は已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事

科目名	真言密教特殊講義G							学 期	後期
副 題	子嶋流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-087	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
子嶋流は、傳法灌頂に八印を用いるなど東密の流派の中でも特異な流派である。また、台密との関連や南都に与えた影響などを考えると極めて重要な流派である。子嶋流について伝統的な相伝と流派に伝わる文献の購読を通して専門的な知識を身に着けることを目的とする。

授業の到達目標
子嶋流の歴史と特徴を理解するだけでなく、子嶋流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション
2.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
3.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
4.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
5.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
6.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
7.縛日羅駄都私記の研究
8.縛日羅駄都私記の研究
9.縛日羅駄都私記の研究
10.縛日羅駄都私記の研究
11.縛日羅駄都私記の研究
12.金剛界口伝の研究
13.金剛界口伝の研究
14.金剛界口伝の研究
15.総括

準備学習(予習・復習)・時間
講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい（20 分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）講義のまとめ作成（70 分）

テキスト
コピーを配布

参考書・参考資料等
『子嶋流の研究』

学生に対する評価
レポート（70%)、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）子嶋流の特徴を簡単に説明できる
（B）子嶋流の所作を理解実践説明できる。
（A）子嶋流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
（S）子嶋流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義のまとまり毎にフィードバックを行う。

その他
本講義は已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事

科目名	密教学講読演習A							学 期	前期
副 題	『菩提心論』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	M3-01-088	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
弘法大師が真言宗の僧侶に学習することを課した必須の論書である『菩提心論』の内容を理解する。 前期は、まずテキスト上の問題があり、伝統的に誤読・誤解されている冒頭一段落について学ぶ。また『菩提心論』の作者・成書時期などについて、最新の研究成果を学ぶ。 行願段・勝義段・三摩地段で構成される『菩提心論』の本文において、前期は行願段と勝義段を学習する。

授業の到達目標
『十巻章』本『菩提心論』の訓読の誤りを知り、正確な読解を身に着ける。 最新の研究成果を踏まえた上で、『菩提心論』の全体の構成を把握する。 二乗と顕教の修行法では即身成仏することができないことを理解する。

授業計画
1.『菩提心論』の主題・副題
2.「大阿闍梨云」について
3.『菩提心論』における序文と目録の存在
4.『菩提心論』の作者・龍猛菩薩造について
5.序文：二つの発菩提心・魔宮震動・勝快楽
6.序文：求菩提者発菩提心修菩提行
7.行願段：利益
8.行願段：安楽
9.勝義段：一切法無自性
10.勝義段：声聞の四諦法・縁覚の十二因縁法
11.勝義段：顕教の三劫成仏
12.勝義段：『華厳経』所説の五十二位に修行階梯
13.勝義段：大悲為根本
14.勝義段：『秘蔵宝鑰』第六・七・八・九住心との関係
15.勝義段：五相成身観と第十・九・八・七住心

準備学習（予習・復習）・時間
（復習）前回で学んだ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること（90 分）。 （予習）次回に学ぶ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと（90 分）。

テキスト
大柴清圓校注『校注菩提心論』大遍照院、2021 年（アマゾンで購入）

参考書・参考資料等
『十巻章』高野山大学出版部、1941 年

学生に対する評価
学期末試験（50%） 発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学期末試験と授業中の発表の合計が 60 点以上 69 点以下。テキストの〔解説〕を通して、『菩提心論』の内容を理解することができること。
（B）学期末試験と授業中の発表の合計が 70 点以上 79 点以下。『菩提心論』の構成を学術的に説明することができること。
（A）学期末試験と授業中の発表の合計が 80 点以上 89 点以下。行願段・勝義段の主旨を把握することができること。
（S）学期末試験と授業中の発表の合計が 90 点以上。五相成身観と第十・九・八・七住心との対応について理解することができること。

課題に対するフィードバックの方法
最終授業で全体に対するフードバックを行う。

その他
学期末試験はペーパーテストで行う。 金剛界の結縁灌頂を受けていることが望ましい（毎年秋に壇場伽藍金堂にて行われる）。むろん伝法灌頂を受けている者は構わない。

科目名	密教学講読演習B							学 期	後期
副 題	『菩提心論』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	M3-01-089	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
弘法大師が真言宗の僧侶に学習することを課した必須の論書である『菩提心論』の内容を理解する。 後期は密教の即身成仏に直結する三摩地段について学習する。 密教の悟りの内容とは何かを金剛界三十七尊の出生を通して知る。 三摩地段に説かれる①阿字観、②三密行、③五相成身観、④合蓮華と満月輪、の四つの「菩提心の三摩地法」について理解を深める。

授業の到達目標
『十巻章』本『菩提心論』の訓読の誤りを知り、正確な読解を身に着ける。 なぜ即身成仏に発菩提心が不可欠であるかを理解する。 五相成身観を観想法を深く理解し、自身の行法に生かすことができるようになる。

授業計画
1. 三摩地段：普賢大菩提心・三種金剛薩埵
2. 三摩地段：金剛界三十七尊（五仏・四波羅蜜菩薩）
3. 三摩地段：金剛界三十七尊（十六大菩薩）
4. 三摩地段：金剛界三十七尊（十二供養菩薩）
5. 三摩地段：自性身と受用身・自受用身と他受用身
6. 三摩地段：阿字観（第一段階・入智）
7. 三摩地段：阿字観（第二段階・纔見者）
8. 三摩地段：阿字観（第三段階・常見者）
9. 三摩地段：阿字観（第四段階・廓周法界）
10. 三摩地段：五相成身観（第一相・通達菩提心）
11. 三摩地段：五相成身観（第二相・修菩提心）
12. 三摩地段：五相成身観（第三相・修金剛心）
13. 三摩地段：五相成身観（第四相・証金剛身）
14. 三摩地段：五相成身観（第五相・仏身円満①）
15. 三摩地段：諸仏加持（仏身円満②）

準備学習（予習・復習）・時間
（復習）前回で学んだ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること（90 分）。 （予習）次回に学ぶ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと（90 分）。

テキスト
大柴清圓校注『校注菩提心論』大遍照院、2021 年（アマゾンで購入）

参考書・参考資料等
『十巻章』高野山大学出版部、1941 年

学生に対する評価
学期末試験（50%） 発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学期末試験と授業中の発表の合計が 60 点以上 69 点以下。テキストの〔解説〕を通して、『菩提心論』の内容を理解することができること。
（B）学期末試験と授業中の発表の合計が 70 点以上 79 点以下。『菩提心論』のテキスト上・読解上の問題点を学術的に説明することができること。
（A）学期末試験と授業中の発表の合計が 80 点以上 89 点以下。自性身と自受用身、自受用身と他受用身の違いを理解し、金剛界三十七尊の出生の意味を理解することができる。
（S）学期末試験と授業中の発表の合計が 90 点以上。五相成身観を正確に理解することができること。

課題に対するフィードバックの方法
最終授業で全体に対するフードバックを行う。

その他
学期末試験はペーパーテストで行う。 金剛界の結縁灌頂を受けていることが望ましい（毎年秋に壇場伽藍金堂にて行われる）。むろん伝法灌頂を受けている者は構わない。

科目名	密教学講読演習D							学 期	前期
副 題	真言密教の死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-090	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標
仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画
1. 概論(講義の進め方等)
2. 凡夫の生死　① 苦としての生死
3. 〃　② 五蘊と無我
4. 〃　③ 縁起としての生死
5. 〃　④ 輪廻の世界
6. 仏陀観の変遷　① 釈尊の生涯
7. 〃　② 変容する釈尊
8. 〃　③ 神変とマンダラ
9. この身のままで仏と成る　① 六大と人間
10. 〃　② 真理の表現
11. 〃　③ 心とマンダラ
12. 生死の意味　① 因不可得
13. 〃　② 縁起生から本不生へ
14. 〃　③ 「真に帰す」
15. まとめ ―〈私〉という存在―

準備学習(予習・復習)・時間
・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく(30 分) ・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる(30 分)

テキスト
・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等
①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価
授業内での発言(40%)、期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 基礎的な仏教用語を習得している。
(B) 仏陀観の変遷について説明ができる。
(A) 大乗仏教と密教の関係を説明できる。
(S) 上記(C)～(A)を踏まえて、弘法大師の死生観の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
各まとまりごとにリアクションペーパーを作成させ、講評する。

その他
・授業中に基礎的な用語についての質問をするので、必ず予習をして臨むこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習F							学 期	後期
副 題	中国密教史				授業方法	講義	担当者	徐東軍	
ナンバリング	M3-01-091	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
インドに起こった密教が古代中国に伝えられ、中国密教として展開していった過程を学習する。密教僧の布教活動や訳経事業、著名な寺院、密教の遺跡などの面から、中国の各時代に形成された密教の特色についての理解を深める。

授業の到達目標
中国歴史年表にしたがって、魏晋南北朝時代から密教隆盛期の唐までの中国密教史の大まかな流れを理解し、概説できる。唐以降の宋・遼・金・西夏・大理などにおける中国密教の歴史的展開を学び、それらの特徴を説明できる。元代以降のチベット密教の伝播とその影響について理解できる。

授業計画
1. 講義内容の説明
2. 魏晋南北朝時代における陀羅尼密教の伝来と流行
3. 隋と初唐における密教経典の翻訳
4. 善無畏・金剛智と両部大経の伝来
5. 善無畏の弟子たち及び北宗禅との交流
6. 不空の布教と密教隆盛
7. 不空の弟子たち及び恵果による両部大法の相承
8. 入唐八家の求法
9. 中晩唐の密教僧と法門寺の仏舎利供養
10. 宋代訳経院の設立と密教経典の翻訳
11. 宋と遼の密教の特徴
12. 西夏・金・大理における密教の展開
13. 元明清三代とチベット密教
14. 二十世紀における密教の復興運動
15. 講義内容の総括

準備学習（予習・復習）・時間
講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60 分)　講義内容について、関心をもったテーマや人物を調べる。(60 分)

テキスト
担当者が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等
①呂建福『中国密教史』(中国社会科学出版社、2011 年、中国語)　②宮坂宥勝・松長有慶・頼富本宏編『密教大系第二巻　中国密教』(法蔵館、1994 年、日本語)　③立川武蔵・頼富本宏編『中国密教　シリーズ密教３』(春秋社、1999 年、日本語)

学生に対する評価
期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）中国への密教の伝来と展開の歴史を理解できる。
（B）中国の各時代における密教の展開を概説できる。
（A）中国の各時代の密教について、その特徴及び主要な密教僧の役割について理解できる。
（S）中国における密教の歩みを理解し、意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、講義内で対応する。

その他
本講義は中国語で行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習A							学 期	後期
副 題	釈尊伝を読む				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M3-02-092	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『法華経』を梵・漢対照でその比喩形態に着目して読みこみ、『法華経』の思想的特徴について考察し、理解する。

授業の到達目標
諸経の王と呼ばれて来た初期大乗経典の代表格である『法華経』を講読することによって、サンスクリット語の読解能力を身に着け、仏教（密教）の思想を広く深い視野で考究することができるようになる。

授業計画
1.『法華経』「授記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（声聞不成仏の問題）
2.『法華経』「授記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（大迦葉への授記）
3.『法華経』「化城譬品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（大通地勝仏の出現）
4.『法華経』「化城譬品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（化城の喩え）
5.『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（富楼那の出現）
6.『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（無明の酒）
7.『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（ラーフラの登場）
8.『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（迹門の法説）
9.『法華経』「法師品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（法師による教説）
10.『法華経』「法師品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（乾土の喩え）
11.『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（宝塔出現）
12.『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（法身・応身の融合）
13.『法華経』「提婆品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（畜生龍女の成仏）
14.『法華経』「勧持品」で、どのような比喩が用いられているかを探究する。（弘教の誓い）
15.上記の品以外で、重要な比喩が用いられている品を探す。

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として『法華経』の梵文テキストと漢訳とを照合し、梵文和訳の予習をする。（最低週に延べ300分）。 事後学修として授業で学んだことを復習する（120分）

テキスト
担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
梵文テキストは担当者が用意する。その他、詳細については、授業で支持する。

学生に対する評価
学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）『法華経』の基本的な成立背景に関する知識を持っている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）梵・漢対照の基本的な文献学的方法論を身に着けている。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習B							学 期	前期
副 題	9 世紀中葉における寺院と日本社会				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-02-093	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『日本三代実録』は、『日本書紀』にはじまる律令国家が編さんした「六国史」の最後を飾る歴史書である。国史の到達点とみなされ、平安時代初期の記録としても貴重である。寺院や法会に関する詳細な記述があり、9 世紀なかばの仏教界の動向を知るための基本史料である。 本講義では、『日本三代実録』の輪読を通して、漢文史料の基礎的読解力と、歴史学の研究手法を身につけるとともに、9 世紀半ばの寺院と日本社会のありようについて学ぶことを目的とする。

授業の到達目標
『日本三代実録』を読み解くことを通じて、漢文史料の基礎的読解力をつけ、歴史学の研究手法を習得し、真言宗の成立期である 9 世紀半ばの寺院と日本社会のありようを理解することができる。

授業計画
1.歴史学を研究するとは？（講義）
2.歴史学を研究するための手法（講義）
3.『日本三代実録』とはどのような史料か？（講義）
4.『日本三代実録』の時代－律令国家の完成期－（講義）
5.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）4 月 18 日癸卯条ー安祥寺年分度者の設置ー①》
6.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）4 月 18 日癸卯条ー安祥寺年分度者の設置ー②》
7.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）4 月 18 日癸卯条ー安祥寺年分度者の設置ー③》
8.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）4 月 23 日戊申条・24 日己酉条》
9.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）5 月丙辰朔条～5 月 7 日壬戌条》
10.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）5 月 10 日乙丑条～5 月 29 日甲申条》
11.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）6 月乙酉朔条～6 月 23 日丁未条》
12.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）6 月 25 日己酉条～7 月 13 日丙寅条》
13.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）7 月 14 日丁卯条～8 月 7 日庚寅条》
14.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）8 月 8 日辛卯条～8 月 28 日辛亥条》
15.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）9 月癸丑朔条～9 月 9 日辛酉条》

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修：次回授業で取り上げる箇所について辞書等で用語・語句を調べる（90 分） 事後学修：授業で取り上げた法令について関心を持ったテーマや人物について調べる（60 分）。

テキスト
テキストとして、『新訂増補国史大系　日本三代実録 前篇』（吉川弘文館、1991 年。初版は 1934 年）を用いるが、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等
①遠藤慶太『六国史－日本書紀に始まる古代の「正史」』（中公新書、2016 年）。 ②古瀬奈津子『シリーズ日本古代史⑥摂関政治』（岩波新書、2011 年） その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価
輪読担当部分の発表（50%）・予習・復習などの授業への参加度（50%）によって評価する。 全授業の 3 分の 2 以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）漢文史料を読み下すことができる。
（B）漢文史料を読み下し、その内容を解釈することができる。
（A）漢文史料を読み下し、解釈をした上で、内容を説明することができる。
（S）漢文史料を読み下して解釈し、先行研究にもとづいて、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ②漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたい。 ③卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。

科目名	仏教学講読演習C							学 期	後期
副 題	『唯識三十頌』を読む				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-094	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
仏教を研究するための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必須な概念を確認し、辞書や文法書など、研究に必要な「工具」について学ぶ。その基礎知識を活用して、インド大乗仏教の二大学派の一翼を担う瑜伽行派の基本典籍であるヴァスバンドゥ著『唯識三十頌』を読み進めながら、瑜伽行派の主要な教理としてアーラヤ識説や三性説、唯識説について知識を得るとともに、文献に接する態度、基本的な読み方を身につけてゆく。

授業の到達目標
瑜伽行派における思想を体系的に理解し、自分の言葉で説明できる。文献学に必須な概念を理解し、研究に必要な「工具」を駆使して、現代語訳されたインド仏教文献（『唯識三十頌』）を読解できる。

授業計画
1.オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2.仏教を研究するための基礎知識
3.唯識思想概観
4.『瑜伽師地論』「本地分中三摩呬多地」Initial Passage 読解と読解結果の分析
5.『唯識三十頌』第 1 偈～第 7 偈―識の働き―読解
6.『唯識三十頌』第 1 偈～第 7 偈―識の働き―読解結果の分析
7.『唯識三十頌』第 8 偈～第 16 偈―識の働き―読解
8.『唯識三十頌』第 8 偈～第 16 偈―識の働き―読解結果の分析
9.『唯識三十頌』第 17 偈～第 19 偈―識の働き―読解
10.『唯識三十頌』第 17 偈～第 19 偈―識の働き―読解結果の分析
11.『唯識三十頌』第 20 偈～第 25 偈―三性三無自性説―読解
12.『唯識三十頌』第 20 偈～第 25 偈―三性三無自性説―読解結果の分析
13.『唯識三十頌』第 26 偈～第 30 偈―修行論―読解
14.『唯識三十頌』第 26 偈～第 30 偈―修行論―読解結果の分析
15.授業の総括とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、『唯識三十頌』の読解箇所の現代語訳を辞書などを駆使して精読すること（90 分） 事後学修として、講義内容の要点をノートに整理すること（60 分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30 分）

テキスト
担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①加藤弘二郎『「唯識三十頌」を読む』仏典を読むシリーズ、角川書店、2006、②廣澤隆之『『唯識三十頌』を読む』TU 選書、大正大学出版会、2005、③長尾雅人・梶山雄一・荒牧典俊訳『世親論集』大乗仏典 15、中央公論新社、2005。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）瑜伽行派における基本的な思想・用語を理解している。
（B）現代語訳された文献を辞書などの工具を駆使して正確に読解できる。
（A）読解した文献の内容を理解している。
（S）瑜伽行派における思想を自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他
20 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学講読演習D							学 期	前期
副 題	仏伝の研究 1				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M3-26-095	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
パーリ語・サンスクリット語・チベット語のかたちで伝承されるさまざまな仏伝資料を渉猟し、言語文化の担い手としての仏教徒の役割に注目しつつ資料を批判的に検討しうる姿勢を身につける。

授業の到達目標
基本的な文献学的手順を踏まえ、仏伝を伝える諸資料を必要に応じて原資料にアクセスできる。特定の仏伝資料とその担い手との関係について概括的に説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 伝説と伝記ー仏伝とはなにか
3. 仏伝と仏教美術①　シンボルとイコン
4. 初期仏教における仏伝①　単独聖典『スッタニパータ』に含まれる経典
5. 初期仏教における仏伝②　単独聖典『サンユッタニカーヤ』に含まれる経典
6. 初期仏教における仏伝③　単独聖典「サガータヴァッガ」に含まれる経典
7. 仏伝と言語文化①　アシュヴァゴーシャ
8. 律蔵における仏伝①　『律蔵大品』第 1-5 節
9. 律蔵における仏伝②　『律蔵大品』第 6-8 節
10. 律蔵における仏伝③　『律蔵大品』第 6-9 節
11. 律蔵における仏伝④　『律蔵大品』第 10-15 節
12. 仏伝と仏教美術②　釈尊絵伝
13. 涅槃経における仏伝①　『マハーパリニッバーナスッタンタ』第 1-5 節
14. 涅槃経における仏伝②　『マハーパリニッバーナスッタンタ』第 6-10 節
15. 仏伝と言語文化②　ジャータカとニーティ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として次回に読む範囲の資料を読み、必要に応じて適宜配布される一次資料をも対照しておくこと（100 分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（80 分）。

テキスト
資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①谷川泰教「ブッダの伝記ーその資料と解釈」、高野山大学、2008 年、②宮治昭『仏像学入門 ほとけたちのルーツを探る』、春秋社、2004 年、③中村元・山口瑞鳳・松長有慶・奈良康明・山折哲雄・宮治昭・奥山直司『釈尊絵伝』、学習研究社、1996 年

学生に対する評価
ミニッツペーパー（20%）、学期末レポート（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
（B）仏伝を伝える諸資料の系統と種類について概要を把握し必要に応じて原資料にアクセスできる。
（A）サンスクリット語を中心に言語文化の形成に仏伝が与えた影響について理解している。
（S）仏伝資料とその担い手について概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・パーリ語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、基本的に現代語訳を使用して進めるので、少しでも仏伝の伝承に興味がある希望者の積極的な参加をもとめるアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習E							学 期	後期
副 題	仏伝の研究 2				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M3-26-096	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
パーリ語・サンスクリット語・チベット語のかたちで伝承されるさまざまな仏伝資料を渉猟し、言語文化の担い手としての仏教徒の役割に注目しつつ資料を批判的に検討しうる姿勢を身につける。

授業の到達目標
基本的な文献学的手順を踏まえ、仏伝を伝える諸資料を必要に応じて原資料にアクセスできる。特定の仏伝資料とその担い手との関係について概括的に説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 伝説と伝記ーキリストとブッダ
3. 仏伝と言語文化③　アヴァダーナ
4. 大乗における仏伝①　『ラリタヴィスタラ』
5. 大乗における仏伝②　『首楞厳三昧経』
6. 大乗における仏伝③　『法華経』
7. 仏伝と仏教美術③　宝冠を戴くブッダ
8. 大乗における仏伝④　『華厳経』、『世間随順経』
9. 大乗における仏伝⑤　『大智度論』、その他の聖典と注釈
10. 密教における仏伝①　纔発心転法輪菩薩
11. 密教における仏伝②　五相成身観と灌頂次第をめぐる悟りの再解釈
12. 密教における仏伝③　色究竟天と密厳浄土
13. 密教における仏伝④　密教聖典における仏伝と解釈①　陀羅尼聖典
14. 密教における仏伝⑤　密教聖典における仏伝と解釈②　『サマーヨーガタントラ』
15. 全体の総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として次回に読む範囲の資料を読み、必要に応じて適宜配布される一次資料をも対照しておくこと（90 分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（90 分）。

テキスト
資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①谷川泰教「ブッダの伝記ーその資料と解釈」、高野山大学、2008 年、②梶山雄一『大乗仏教の誕生　「さとり」と「廻向」』（講談社学術文庫）、2021 年、③田中公明『性と死の密教』、春秋社、1997 年、④「梵文和訳『サマーヨーガ・タントラ』第 4 章」、『川崎大師教学研究所紀要』、2021 年

学生に対する評価
ミニッツペーパー（20%）、学期末レポート（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
（B）仏伝を伝える諸資料の系統と種類について概要を把握し必要に応じて原資料にアクセスできる。
（A）サンスクリット語を中心に言語文化の形成に仏伝が与えた影響について理解している。
（S）密教聖典と特定の仏伝資料との関わりについて概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・パーリ語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、基本的に現代語訳を使用して進めるので、少しでも仏伝の伝承に興味がある希望者の積極的な参加をもとめるアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習F							学 期	後期
副 題	シャーティデーヴァの『入菩薩行論』を読む				授業方法	講義	担当者	平岡宏一	
ナンバリング	M3-02-097	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
インド仏教最大の名刹ナーランダ僧院の高僧シャンティデーヴァの『入菩薩行論』を中心に授業を展開する。昨年、第七章まで読み進めたが、今回は初日から二日目前半にかけて第一章から第七章までのおさらいをし、二日目後半からダライ・ラマ法王が力を入れて説明される第八章、空性思想を説く第九章を学ぶ。三日目後半からはツォンカパの『入中論広釈“密意明解”』の和訳を読み、ツォンカパの密教を理解する上で必要な波羅蜜乗の基本概念を学ぶ。

授業の到達目標
チベット語で『入菩薩行論』を読める。専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できるようになる。

授業計画
1.第一章　菩提心の利益　菩提心とは何かを考える
2.第二章　罪の懺悔因果応報と悪業の浄化する方法を考える
3.第三章　菩提心の受持 菩提心を受持する用意
4.第四章　不放逸　なぜ不放逸はダメなのか
5.第五章　正知の守護 心との向き合い方
6.第六章　忍辱 仏教のアンガーコントロール
7.第七章　精進　意味と継続する秘訣
8.第八章　禅定（1）　煩悩とどう向き合うか
9.第八章　禅定（2）　自他交換の教え1
10.第八章　禅定（3）　自他交換の教え2
11.第九章　空性　（1）
12.第九章　空性　（2）
13.第九章　空性　（3）
14.入中論広釈密意明解　入中論へのいざない
15.入中論広釈密意明解　　菩薩の因

準備学習（予習・復習）・時間
復習としては講義におけるノート整理をしておくこと（60 分）。 復習した部分の中で問題を提起し、それについて考察したレポートを作成すること（60 分）。

テキスト
講師が和訳したテキストを用意する。

参考書・参考資料等
運命を好転させる隠された教え　チベット仏教入門　幻冬舎　2021 年

学生に対する評価
授業についてのレポートを提出し、厳正に評価する。レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『入菩薩行論』の各章の概要が説明できる。
（B）『入菩薩行論』の語句、専門用語も説明できる。
（A）『入菩薩行論』の語句、専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。
（S）チベット語で『入菩薩行論』を読める。専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業の最後に質問を受ける。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山大学でのダライ・ラマ法王の金剛界マンダラ灌頂説法会の通訳、胎蔵マンダラ灌頂の通訳など、ダライ・ラマ法王の密教関係の通訳を 10 回以上務める。

科目名	真言密教講読演習B							学 期	前期
副 題	南山学道の研究と実践				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-098	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。そのため南山では、現在でも「勧学会」や「月並問講」などの法談論義が行われ、学問と修行の道場としての側面を有している。本講義では、それら南山に伝えられた教学を学ぶだけでなく、実際の問講がどのように行われているのかを体験することで、南山学道に対する理解を深めることを目的とする。 そのため受講者は、各論題を選択し発表を行う。

授業の到達目標
高野山の教学を学び、問講を体験することを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されて、現代につながってきたのかについて理解するとともに、南山教学の特徴を説明できる力を身につけ、実践できるようになる。

授業計画
1.ガイダンス・総論―学道とは何か―
2.弘法大師の著作
3.弘法大師の教え―即身成仏―
4.弘法大師の教え―法身説法―
5.高野山の歴史と地理
6.壇上伽藍と奥之院
7.高野山の学道概説
8.高野山の論義（1）―綵画形像―
9.高野山の論義（2）―一門普門―
10.高野山の論義（3）―三密双修―
11.高野山の論義（4）―事六度―
12.高野山の論義（5）―模擬問講体験―
13.高野山の論義（6）―受講者発表―
14.高野山の論義（7）―受講者発表―
15.高野山の論義（8）―受講者発表―・総括

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、授業計画に記されたテーマについて辞書などで調べておくこと（30 分）。 ・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること（120 分）。 ・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと（60 分）。

テキスト
・北川真寛『はじめての「弘法大師と高野山のおしえ」入門』（セルバ出版、2022 年）を講師が一括で用意する。 ・常用経典

参考書・参考資料等
・『宗義決択集』（『真言宗全書』巻 19、続真言主全書刊行会、1935 年） ・小田慈舟訳『宗義決択集』（『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社、1936 年） ・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
講義内での発表（50%）、ディスカッション等への参加の積極性（30%）、期末レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）論義に引用されている典拠を指摘し、語註を付した上で、本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
（B）論義の内容を正確に理解している。
（A）それぞれの論題が設定された理由を考察することができる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、各論題の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
・論義を体験するため、受講者は得度修了者（もしくは前期の内に得度を行う者）に限る。尼僧も可。 ・特に勧学会に出仕する者、既に出仕した者で、論義について学びたい者の受講を望む。 ・発表担当者を決めて、該当論義についての個人、またはグループ発表を行い、質疑応答も実施する。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	真言密教講読演習C							学 期	通年
副 題	安祥寺流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-099	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,5	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
安祥寺流は御簾流とも称され真言宗の事相流派の中で最も精緻な体系をもっている。高野山においても南山教学の大成者宥快が最も重視した流派で宝性院の本流とされたものである。安流は後に新安と古安とに分流するが、この度は古安を伝授する。古安の伝授を受けることにより日本密教史を自らの関係性の上で理解し観じることができるようになること、伝統の継承を行うことができるようになることをこの講義の目的とする。事相の専門的な講義なので伝法灌頂に入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標
安祥寺流の歴史と特徴を理解するだけでなく、安祥寺流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画
1.安祥寺流について
2.安祥寺流について
3.四度折紙
4.四度折紙
5.十八道次第（荘厳行者法）
6.十八道次第（結界法、荘厳道場法）
7.十八道次第（勧請法、結護法）
8.十八道次第（供養法、三種祕觀）
9.不動次第の特徴（道場觀）
10.不動次第　（十四契、十九布字觀）
11.不動次第　（本尊加持）
12.金剛界次第伝授
13.金剛界次第伝授
14.金剛界次第伝授
15.金剛界次第伝授

準備学習（予習・復習）・時間
講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい（20 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）講義のまとめ作成（70 分）

テキスト
次第を購入、もしくはコピーすること。

参考書・参考資料等
『真言密教事相概説』「四度部」「諸尊法、灌頂部上」「諸尊法、灌頂部下」（同朋舎）

学生に対する評価
レポート（70%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）安流の歴史的意義を説明できる。
（B）安流の所作を理解実践説明できる。
（A）安流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
（S）安流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義のまとまり毎、実修毎にフィードバックを行う。

その他
本講義は已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事。

科目名	真言密教講読演習D							学 期	前期
副 題	『蘇悉地羯羅経』を読む（前半）				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	M3-01-100	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
善無畏訳の『蘇悉地羯羅経』（3 巻、34 品）は真言密教の行法や事相全般に多大な影響を持つが、両部大経のように読まれることは少ない。『蘇悉地羯羅経』はチベットでは所作タントラの根本経典のひとつで、真言密教では密教の祈祷儀礼を基本とする大事な密教経典である。

授業の到達目標
漢文読解力、密教経典への知識、事相の理解を深める。

授業計画
1．『蘇悉地羯羅経』の内容と諸問題
2．『蘇悉地羯羅経』「請問品第一」
3．『蘇悉地羯羅経』「分別阿闍梨相品第二」
4．『蘇悉地羯羅経』「分別持誦相品第三」「分別同伴品第四」
5．『蘇悉地羯羅経』「択処品第五」
6．『蘇悉地羯羅経』「持真言法品第六」①
7．『蘇悉地羯羅経』「持真言法品第六」②
8．『蘇悉地羯羅経』「供養花品第七」
9．『蘇悉地羯羅経』「塗香薬品第八」
10. 『蘇悉地羯羅経』「分別燒香品第九」「燃燈法品第十」
11. 『蘇悉地羯羅経』「献食品第十一」
12. 『蘇悉地羯羅経』「分別悉地時分品第十二」「円備成就品第十三」
13. 『蘇悉地羯羅経』「奉請成就品第十四」
14. 『蘇悉地羯羅経』「補闕少法品第十五」①
15. 『蘇悉地羯羅経』「補闕少法品第十五」②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
『蘇悉地羯羅経』の木版本のコピーを配布

参考書・参考資料等
『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。この講義の内容は後期に続くため、「真言密教講読演習Ｅ」を続けて受講することを推薦する。

科目名	真言密教講読演習E							学 期	後期
副 題	『蘇悉地羯羅経』を読む（後半）				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	M3-01-101	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
善無畏訳の『蘇悉地羯羅経』（3 巻、34 品）は真言密教の行法や事相全般に多大な影響を持つが、両部大経のように読まれることは少ない。『蘇悉地羯羅経』はチベットでは所作タントラの根本経典のひとつで、真言密教では密教の祈祷儀礼を基本とする大事な密教経典である。

授業の到達目標
漢文読解力、密教経典への知識、事相の理解を深める。

授業計画
1．『蘇悉地羯羅経』「被偷成物却徴法品第十六」①
2．『蘇悉地羯羅経』「被偷成物却徴法品第十六」②
3．『蘇悉地羯羅経』「成就具支法品第十七」
4．『蘇悉地羯羅経』「分別成就品第十八」
5．『蘇悉地羯羅経』「奉請品第十九」
6．『蘇悉地羯羅経』「供養品第二十」①
7．『蘇悉地羯羅経』「供養品第二十」②
8．『蘇悉地羯羅経』「供養品第二十」③
9．『蘇悉地羯羅経』「供養品第二十」④
10. 『蘇悉地羯羅経』「増威品第二十一」「本尊灌頂品第二十二」「祈請品第二十三」
11. 『蘇悉地羯羅経』「受真言品第二十四」「滿足真言品第二十五」「増力品第二十六」
12. 『蘇悉地羯羅経』「護摩品第二十七」「備物品第二十八」
13. 『蘇悉地羯羅経』「成諸物相品第二十九」「取物品第三十」「淨物品第三十一」
14. 『蘇悉地羯羅経』「物量品第三十二」「灌頂壇品第三十三」
15. 『蘇悉地羯羅経』「光物品第三十四」

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
『蘇悉地羯羅経』の木版本のコピーを配布

参考書・参考資料等
『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法潅頂を入壇した者）のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「真言密教講読演習Ｄ」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	真言密教講読演習G							学 期	後期
副 題	中院流の歴史				授業方法	講義	担当者	木下智雄	
ナンバリング	M3-01-102	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
密教は、印度・中国・日本と伝わり、1200 年以上脈々と受け継がれてきた。 釈尊や弘法大師の祖師伝のみならず、それ以後の高僧たちの伝記を学ぶことは、宗教者として欠かせない視座を獲得する。 本講義では、高野山で多くの僧侶が修行し、実際に修法される中院流の歴史について、時系列をたどりながら、現在に到るまでの重要な人物について講義を行う。

授業の到達目標
・旧漢字・訓点付きの漢文を読解できる。 ・中院流の歴史と重要人物について学習し、宗学の立場から密教の流伝を説明できるようになる。 ・訓点付きの漢文が読めるようになる。

授業計画
1. 概論（講義の進め方、参考文献紹介等）と予習方法について
2. 付法・伝持の八祖（大日～空海）について
3. 入唐八家について―東密と台密の分流―
4. 野沢根本十二流の概説①―広沢流―
5. 野沢根本十二流の概説②―小野流―
6. 中院流の縁由について①―無空律師の離山と祈親上人の再興―
7. 中院流の縁由について②―明算大徳伝―
8. 中院流の分派について①―中院流四方（引摂院方・心南院方・大楽院方・智荘厳院方）―
9. 中院流の分派について②―中院流八方（宝性院方・総持院方・東南院方・龍光院方）―
10. 中院流の大成について―宥快法印と法性院院家相承―
11. 中院流の流布について①―浄厳和尚の分派と真言律―
12. 中院流の流布について②―成蓮院真源上綱と中院本流―
13. 中院流の流布について③―真別処妙瑞と有部律―
14. 中院流の流布について④―明治以後の相伝―
15. これまでの講義の振り返りと総括

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、指定した参考文献に目を通し、(60 分) 専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。(30 分)・事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。(60 分)

テキスト
講師が配布資料を用意する。 栂尾祥雲『真言宗の宗史』、高野山出版社、2008 年（書店で購入）も併用する。 ※品切れの場合は、該当箇所をコピ ーで配布する。

参考書・参考資料等
・大山公淳『中院流の研究』東方出版 ・松長有慶『密教―インドから日本への伝承』中公文庫 ・懐英『検校明算阿闍梨伝』、維宝『南山中院真言秘密諸祖伝譜』(『続真言宗全書』32 巻) ・『紀伊続風土記』(『続真言宗全書』38 巻)・『高野山先哲潅頂記録』(『続真言宗全書』41 巻) 他

学生に対する評価
期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）中院流の人物伝について、参考書を読み上げることができる。
（B）中院流の人物伝について、未知の語彙を調べ、用語の説明ができる。
（A）中院流の人物伝について、『続真言宗全書』等の漢文が訓読でき、本文内容の説明ができる。
（S）中院流の人物伝について、複数の文献史料を比較検討することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
・伝授科目ではないが、已灌頂者・加行満了者の受講が望ましい。 ・院との同時開講科目であるので、積極的に院生に学習方法を聞いてもらいたい。 ・用語の意味など、講義中回答してもらうので、必ずテキストは一読してくること。 ・『密教大辞典』が引けるように、旧漢字等は調べる習慣をつけること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての気構えについて、高僧の人物伝を通じて、宗教的実践の重要性を認識させる。

科目名	密教学演習B							学 期	通年
副 題	『冠注住心品略解』を読む。				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-25-103	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
『冠注住心品略解』は、新安流の始祖とされる浄厳和尚の著作である。該当文献を講読することによって漢文文献の読み方を身につけあわせて『大日経』について基本的な理解が出来るように講義を進める。

授業の到達目標
漢文文献の読解力養成と密教の専門知識（特に『大日経』）の取得を目標とする。

授業計画
【前期】
1.オリエンテーション
2.『冠注住心品略解』を読む。
3.『冠注住心品略解』を読む。
4.『冠注住心品略解』を読む。
5.『冠注住心品略解』を読む。
6.『冠注住心品略解』を読む。
7.『冠注住心品略解』を読む。
8.『冠注住心品略解』を読む。
9.『冠注住心品略解』を読む。
10.『冠注住心品略解』を読む。
11.『冠注住心品略解』を読む。
12.『冠注住心品略解』を読む。
13.『冠注住心品略解』を読む。
14.『冠注住心品略解』を読む。
15.テスト

【後期】
1.前期のまとめと復習
2.『冠注住心品略解』を読む。
3.『冠注住心品略解』を読む。
4.『冠注住心品略解』を読む。
5.『冠注住心品略解』を読む。
6.『冠注住心品略解』を読む。
7.『冠注住心品略解』を読む。
8.『冠注住心品略解』を読む。
9.『冠注住心品略解』を読む。
10.『冠注住心品略解』を読む。
11.『冠注住心品略解』を読む。
12.『冠注住心品略解』を読む。
13.『冠注住心品略解』を読む。
14.『冠注住心品略解』を読む。
15.まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習としてテキストの予習をして専門用語について辞書を引き理解しておく事。(90 分)、事後学習として句集をし知識を整理しておく事。(90 分)

テキスト
『冠注住心品疏略解』（発行　高野山大学）各自でコピーの事。詳しくは授業で指示。

参考書・参考資料等
松長有慶『大日経住心品講讃』（大法輪閣）、山崎泰広『『大日経講伝』（春秋社）

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（30%）、積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）文献の単語の意味を理解し説明できる。
（B）文献の文章の意味を理解し説明できる。
（A）文献を用いて自分の意見を発表できる。
（S）文献を用いて自分の意見を発表できそれが学実的に重要である。

課題に対するフィードバックの方法
演習形式の講義なので毎回の授業でフィードバックを行う。

その他
卒業論文を作成する事が大きな目標なので日本密教で漢文文献を用いて作成しようとする人の受講を望む。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習C							学 期	通年
副 題	『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読む。				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M4-25-104	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解する。

授業の到達目標
ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画

【前期】
1. オリエンテーション
2. 「犀の一角の経」を読んで解説
3. 「いやしい人の経」を読んで解説
4. 「コラム１自灯明」を読んで解説
5. 「なまぐさの経」を読んで解説
6. 「コラム２慈悲」を読んで解説
7. 「失の経」を読んで解説
8. 「コラム３中道」を読んで解説
9. 「愛欲の経」を読んで解説
10. 「論争と議論の経」を読んで解説
11. 「武器を手にすることの経」を読んで解説
12. 「コラム４非我」を読んで解説
13. 「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
14. 「志あるメッタグ一青年の質問」を読んで解説
15. 「コラム５縁起」を読んで解説

【後期】
1. 論文指導①
2. 論文指導②
3. 論文指導③
4. 学生による発表
5. 学生による発表
6. 学生による発表
7. 学生による発表
8. 学生による発表
9. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習（予習）として、１経を読んで問題点を探しておく。(180 分以上)　事後学修（復習）として 60 分以上。論文指導については、4 回生には随時アドヴァイスするが、3 回生及に関しては、後期 3 回分で論文の書き方等の指導を行い、最終講義の際に確認作業としての論文指導を２回行う。

テキスト
担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価
学期末のレポート（100%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）古文の読解能力を身につけている。
（A）歌意に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っている。
（S）講義を通して、学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
アクティブ・ラーニング（ディスカッション）を取り入れた授業である。

科目名	密教学演習D							学 期	通年
副 題	仏教・密教を研究する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-25-105	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
密教学科の学生の中で、主として歴史学や文化遺産学を学びたい者を対象に演習を行う。その研究手法を指導しながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文の作成を目指す。 3 年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、4 年次生は卒業論文の作成を行う。 授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションをはかってほしい。

授業の到達目標
歴史学・文化遺産学の視点からアプローチする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、その手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

授業計画
【前期】
1. 演習の内容・方針の説明、自己紹介
2. 研究課題への構想（各自の発表）
3. 研究論文の読み方（講義）
4. 歴史学の研究手法（講義）
5. 文化遺産学の研究手法（講義）
6. 先行研究の要約①（発表）
7. 先行研究の要約②（発表）
8. 先行研究の要約③（発表）
9. 先行研究の要約④（発表）
10. 先行研究の要約⑤（発表）
11. 先行研究の要約⑥（発表）
12. 先行研究の要約⑦（発表）
13. 先行研究の要約⑧（発表）
14. 先行研究の要約⑨（発表）
15. 参考文献表の作成について（講義）

【後期】
1. 夏休みの成果の確認
2. 卒業論文の構成について（講義）
3. 研究テーマに関する史料の考察①（発表）
4. 研究テーマに関する史料の考察②（発表）
5. 研究テーマに関する史料の考察③（発表）
6. 研究テーマに関する史料の考察④（発表）
7. 研究テーマに関する史料の考察⑤（発表）
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修：毎回の報告者のテーマに関する文献等を読んでおくこと（60 分）、 事後学修：報告者の関心テーマが自分の関心テーマとどのように関連し、その視点や手法を取り入れることができるかどうかについて検討すること（90 分）。

テキスト
受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。 講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等
各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価
①授業への参加度（40%）・発表内容（40%）・レポート（20%）によって評価する。 ②全授業の 3 分の 2 以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）歴史学・文化遺産学の研究手法を理解する。
（B）研究論文の内容を批判的に把握することができる。
（A）関係する歴史資料の語るところを正確に読み解くことができる。
（S）研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、自分なりの見解を論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ②各自が意欲的に研究課題に向き合い、プレゼンテーションにおいては、発表者はじっくりと時間をかけて下調べを行い、詳しいレジュメを作成すること。 ③歴史学の研究手法を身につけるため、仏教学講読演習 B を必ず履修すること。あわせて、博物館学芸員資格のための関係科目を履修することが望ましい。

科目名	密教学演習E							学 期	通年
副 題	思想研究の方法論				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M4-25-106	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
教理と実践が連動しているのが、密教の特徴である。事相と教相は「鳥の両翼」「車の両輪」と言われるが、これは事相と教相とが表裏一体であることを意味している。それでは、その事相で表現される教相（教義）とは、いったいどのようなものであるのか。 当演習では、実践の背後にある密教教理の研究方法を、密教の実践が仏教（特に大乗仏教）とどのような関連性を有するのかについての調査・考察を通して習得することを目的とする。 ※今年度は、３回生の受け入れは行わない。

授業の到達目標
密教（特に真言密教）の教相研究の基礎的方法論を習得し、各自の卒業論文作成に結び付ける。

授業計画
【前期】
1. 概要（前期の進め方等）
2. 学術論文とは？
3. 資料－1 次資料と 2 次資料－
4. 先行研究を読む①－先行研究を探す－
5. 先行研究を読む②－研究書を読む－
6. 先行研究を読む③－学術論文を読む－
7. レジュメを作ろう①－テーマの設定－
8. レジュメを作ろう②－資料を探す－
9. レジュメを作ろう③－レジュメをまとめる－
10. レジュメを作ろう④－発表と質疑応答－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

【後期】
1. 概要（後期の進め方）
2. 論文のプロットを作成する①－問題点を整理する－
3. 論文のプロットを作成する②－１次資料を配置する－
4. 論文のプロットを作成する③－結論を導く－
5. １次資料を読む①－阿含経典－
6. １次資料を読む②－大乗経典－
7. １次資料を読む③－密教経典－
8. １次資料を読む④－論書－
9. １次資料を読む⑤－注釈書－
10. １次資料を読む⑥－教義書－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

準備学習（予習・復習）・時間
・自身の関心に応じた資料を、各回準備する（120 分） ・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60 分）

テキスト
（前期）北尾隆心「真言宗にみる救済」、『密教学研究』(38)、2006 年。 梶山雄一「仏陀観の変遷」、『梶山雄一著作集』第 3 巻、春秋社、2012 年。 （後期）課題プリント。※コピーを配布する。

参考書・参考資料等
・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価
担当箇所の発表（50%）、授業内での質疑応答（30%）、期末レポート発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）先行研究を集め、内容を要約できる。
（B）先行研究に基づく独自課題を設定できる。
（A）独自課題の解決に向けた資料収集ができる。
（S）独自課題の解決を論理的に論述できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他
・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。 ・受講生の関心に応じて、授業内容・テキスト等を変更する場合がある。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習F							学 期	通年
副 題	密教図像資料の研究				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-25-107	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
仏教では大乗仏教の拡がりに相応して多種多様な尊格が登場する。大乗仏教の延長線上に位置する密教では、大乗仏教で生み出された尊格のみならず、密教独自の尊格を生み出し、密教の世界観を顕わす曼荼羅に配置した。これらの密教尊格の成立と発展に関して考察を加え検討する。

授業の到達目標
仏教・密教尊格の整理と典拠となる文献について学び理解する。

授業計画
【前期】
1. 授業の進め方
2. 仏教尊格の基礎知識　(仏の基本知識)
3. 仏教尊格の基礎知識　(仏の展開)
4. 密教尊格の基礎知識　(密教仏の基本知識)
5. 密教尊格の基礎知識　(密教仏の展開)
6. 曼荼羅の基礎知識　(曼荼羅の基本知識)
7. 曼荼羅の基礎知識　(曼荼羅の種類)
8. 曼荼羅の基礎知識　(曼荼羅の展開)
9. 図像資料の講読　(明王図像資料)
10. 図像資料の講読　(明王図像資料)
11. 図像資料の講読　(明王図像資料)
12. 図像資料の講読　(明王図像資料)
13. 図像資料の講読　(明王図像資料)
14. 図像資料の講読　(明王図像資料)
15. 研究課題の設定

【後期】
1. 研究内容の中間報告①
2. 研究内容の中間報告②
3. 研究内容の中間報告③
4. 研究内容の中間報告④
5. 研究内容の中間報告⑤
6. 各研究テーマの演習発表①
7. 各研究テーマの演習発表②
8. 各研究テーマの演習発表③
9. 各研究テーマの演習発表④
10. 各研究テーマの演習発表⑤
11. 各研究テーマの演習発表⑥
12. 各研究テーマの演習発表⑦
13. 各研究テーマの演習発表⑧
14. 各研究テーマの演習発表⑨
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間
図像資料の講読演習をするので授業に備えて事前に予習が必要となる。週約３時間。

テキスト
授業で随時配布する

参考書・参考資料等
①『大正新脩大蔵経』「密教部、図像部」、②『TheIndianBuddhistIconography』

学生に対する評価
発表及び提出物(１００%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 原文を自分自身の解釈で発表できる。
(B) 自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。
(A) 研究において、目新しい独自の観点を見出すことができる。
(S) 新知見を用いて論理的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法
個別に指導する。

その他
・それぞれの発表及び提出物で評価。・それぞれの発表を 10 点満点とする。・授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。・上記は前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習G							学 期	通年
副 題	「十八会指帰」所伝の聖典を読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M3-25-108	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
「十八会指帰」所伝の聖典を読む―『サマーヨーガタントラ』精読。「十八会指帰」に関連するインド密教聖典の精読を通じて文献学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標
校訂本にもとづき写本・版本をも批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコーダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学（DH）についての導入的な知識をも身につける。

授業計画
【前期】
1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① インド密教における「十八会指帰」の位置
3. 資料概観② 『理趣広経』と『サマーヨーガタントラ』
4. 論文指導①
5. 『サマーヨーガタントラ』精読①
6. 『サマーヨーガタントラ』精読②
7. 『サマーヨーガタントラ』精読③
8. 論文指導②
9. 『サマーヨーガタントラ』精読④
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑤
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑥
12. 論文指導②
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑦
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑧
15. 論文指導④

【後期】
1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 『サマーヨーガタントラ』精読⑨
3. 『サマーヨーガタントラ』精読⑩
4. 論文指導⑤
5. 『サマーヨーガタントラ』精読⑪
6. 『サマーヨーガタントラ』精読⑫
7. 『サマーヨーガタントラ』精読⑬
8. 論文指導⑥
9. 『サマーヨーガタントラ』精読⑭
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑮
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑯
12. 論文指導⑦
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑰
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑱
15. 論文指導⑧

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと（120 分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（60 分）。

テキスト
①サンスクリット語原典・Dhih: A Journal of Rare Buddhist Text 58, 2018, pp. 141-201、②チベット語訳・東北 366、北京 8。資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①「梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第１－３章」『大正大学綜合佛教研究所紀要』41-2、2019-20 年、②“Sarvabuddhasamāyogaḍākinījālaśaṃvara.” In: Brill’s Encyclopedia of Buddhism, vol. 1, 2017.

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに論文指導における検討会発表（30%）、学期末レポート（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
（B）一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができている。
（A）文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用することができている。
（S）学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、漢文を用いることができれば履修は可能なので、少しでもインド・チベット密教に興味がある希望者の積極的な参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習H（再履修）							学 期	通年
副 題	思想研究の方法論				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M4-25-109	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
教理と実践が連動しているのが、密教の特徴である。事相と教相は「鳥の両翼」「車の両輪」と言われるが、これは事相と教相とが表裏一体であることを意味している。それでは、その事相で表現される教相（教義）とは、いったいどのようなものであるのか。 当演習では、実践の背後にある密教教理の研究方法を、密教の実践が仏教（特に大乗仏教）とどのような関連性を有するのかについての調査・考察を通して習得することを目的とする。 ※昨年度、密教学演習の単位を取得できなかった４回生のみ受け入れる。

授業の到達目標
密教（特に真言密教）の教相研究の基礎的方法論を習得し、各自の卒業論文作成に結び付ける。

授業計画
【前期】
1. 概要（前期の進め方等）
2. 学術論文とは？
3. 資料－1 次資料と 2 次資料－
4. 先行研究を読む①－先行研究を探す－
5. 先行研究を読む②－研究書を読む－
6. 先行研究を読む③－学術論文を読む－
7. レジュメを作ろう①－テーマの設定－
8. レジュメを作ろう②－資料を探す－
9. レジュメを作ろう③－レジュメをまとめる－
10. レジュメを作ろう④－発表と質疑応答－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

【後期】
1. 概要（後期の進め方）
2. 論文のプロットを作成する①－問題点を整理する－
3. 論文のプロットを作成する②－１次資料を配置する－
4. 論文のプロットを作成する③－結論を導く－
5. １次資料を読む①－阿含経典－
6. １次資料を読む②－大乗経典－
7. １次資料を読む③－密教経典－
8. １次資料を読む④－論書－
9. １次資料を読む⑤－注釈書－
10. １次資料を読む⑥－教義書－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

準備学習（予習・復習）・時間
・自身の関心に応じた資料を、各回準備する（120 分） ・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60 分）

テキスト
（前期）北尾隆心「真言宗にみる救済」、『密教学研究』(38)、2006 年。 梶山雄一「仏陀観の変遷」、『梶山雄一著作集』第 3 巻、春秋社、2012 年。 （後期）課題プリント。※コピーを配布する。

参考書・参考資料等
・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価
担当箇所の発表（50%）、授業内での質疑応答（30%）、期末レポート発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）先行研究を集め、内容を要約できる。
（B）先行研究に基づく独自課題を設定できる。
（A）独自課題の解決に向けた資料収集ができる。
（S）独自課題の解決を論理的に論述できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他
・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。 ・受講生の関心に応じて、授業内容・テキスト等を変更する場合がある。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習K							学 期	通年
副 題	「史学研究法の習得と史的認識の形成」				授業方法	演習	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M3-25-110	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

本演習では、中世前期の歴史家である慈円『愚管抄』巻第７の精読を通して、歴史学の史料批判・本文校訂の方法を学ぶとともに、史料読解力を高める。また、自己の研究テーマを定めて、先行研究の検討や研究報告を行ない、歴史学的な問題意識と研究法を体得する。さらに、レポートの執筆を通して、独創的な卒業論文を執筆するための準備に取り組んでいく。

授業の到達目標

①歴史学における史料批判の手法を、具体的な史料読解に即して体得できるようになる。 ②自己の研究テーマを明確に設定し、鋭敏な史的認識に即して史実を立体的に組み立てる素地を養う。 ③明晰な文体や周到な史料操作、これらを具備した論文を執筆する前提を整える。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス(前期演習の方針の打ち合わせ､関係文献の調査方法)
2. 『愚管抄』の特徴と意義
3. 『愚管抄』巻第７の精読①
4. 『愚管抄』巻第７の精読②
5. 『愚管抄』巻第７の精読③
6. 『愚管抄』巻第７の精読④
7. 『愚管抄』巻第７の精読⑤
8. 受講生による研究報告① 先行研究の検討
9. 『愚管抄』巻第７の精読⑥
10. 『愚管抄』巻第７の精読⑦
11. 『愚管抄』巻第７の精読⑧
12. 『愚管抄』巻第７の精読⑨
13. 『愚管抄』巻第７の精読⑩
14. 受講生による研究報告② 独自の研究発表
15. 夏期休暇中の研究活動に向けての指導（図書館での調査指導）

【後期】

1. ガイダンス（後期演習の方針の打ち合わせ、研究指導）
2. 『愚管抄』巻第７の精読⑪
3. 『愚管抄』巻第７の精読⑫
4. 『愚管抄』巻第７の精読⑬
5. 『愚管抄』巻第７の精読⑭
6. 『愚管抄』巻第７の精読⑮
7. 『愚管抄』巻第７の精読⑯
8. 受講生による研究報告③ 先行研究の検討
9. 『愚管抄』巻第７の精読⑰
10. 『愚管抄』巻第７の精読⑱
11. 『愚管抄』巻第７の精読⑲
12. 『愚管抄』巻第７の精読⑳
13. 『愚管抄』巻第７の精読㉑
14. 受講生による研究報告④ 独自の研究発表
15. 今後の研究に向けての指導（図書館での調査指導）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキスト・参考書・関係論文を毎回読み、慈円および『愚管抄』に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 読解した『愚管抄』の要点をノートに整理すること（80 分） 自身の研究テーマについて史料や先行研究を調査し、問題を考察しておくこと（90 分）

テキスト

中島悦次『愚管抄全注解』(有精堂出版、1969) ※絶版であるが、教員がプリントを配布する。 岡見正雄・赤松俊秀校注『日本古典文学大系 86 愚管抄』(岩波書店、1967) ※絶版であるが、入手方法は教員が指示する。

参考書・参考資料等

多賀宗隼『慈円』(吉川弘文館、1959) 大隅和雄『愚管抄 全現代語訳』(講談社、2012) 石田一良『愚管抄の研究』(ぺりかん社、2000) 坂口太郎「『愚管抄』校訂私考」(『古代文化』68-２、2016) 森新之介「慈円『愚管抄』巻第七今訳浅註稿」(『早稲田大学高等研究所紀要』10、2018)

学生に対する評価

前期・後期の研究レポート（60%）、講義時の取り組み（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中世史料の基本的な読解能力を会得している。
（B）中世史料を読解し、先行研究の内容を適切に把握できる。
（A）自己の研究テーマを設定し、関係史料の収集・読解や、先行研究への有効な批判を行なうことができる。
（S）強固な実証的基盤の上に独自の見解を打ち立て、明晰な文体や周到な史料操作を具備したレポートを執筆できる。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による研究レポートの執筆にあたっては、担当教員がテーマに即して個別に対応する。

その他

歴史学の基礎的知識や史料読解力を前提とする演習であるため、「歴史学」「古文書解読」の単位を修得した学生を対象とする。受講生は、「書誌学」「古文書学」も受講するほか、担当教員が金剛三昧院・西南院で行なっている古文書調査にも参加すること。 本演習は、『愚管抄』の予復習や研究報告の準備、教員や他の受講生との積極的な討論など、全体的にアクティブ・ラーニングが求められる。水準は高いので、安直な姿勢の学生は履修しないこと。

科目名	密教学演習N							学 期	通年
副 題	南山教学の研究―宝門―				授業方法	演習	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-25-111	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,5	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。その南山教学における宝門・寿門という２大学派の内、特に宝門の論義書である『宗義決択集』や『釈論決択集』を中心に考察することで、弘法大師の思想がどのように理解・展開されてきたのか、そしてその教えが現代においてどのような意義を持つのかについて理解を深める。 なお受講者は、各論題を選択し発表を行う。

授業の到達目標
高野山の宗学を学ぶことを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されたのかについて学ぶとともに、それによって培われた方法論を基礎として論文を作成する。

授業計画
【前期】
1．ガイダンス・卒業論文作成工程指導
2．研究課題・題目の設定指導
3．南山学道総論―宗学とは何か―
4．南山学道（1）―南山教学史概説―
5．南山学道（2）―法談論義―
6．南山学道（3）―宝門・寿門―
7．先行研究の収集指導
8．『宗義決択集』を読む（1）―一乗経劫―
9．『宗義決択集』を読む（2）―五仏心王―
10. 『宗義決択集』を読む（3）―綵画形像―
11. 『宗義決択集』を読む（4）―一門普門―
12. 『宗義決択集』を読む（5）―三密双修―
13. 『宗義決択集』を読む（6）―事六度―
14. 『宗義決択集』を読む（7）―大日経教主―
15. 目次の設定指導

【後期】
1．ガイダンス・参考文献表作成指導
2．卒業論文中間指導
3．卒業論文中間報告（1）―受講者発表―
4．卒業論文中間報告（2）―受講者発表―
5．卒業論文中間報告（3）―受講者発表―
6．『釈論決択集』を読む（1）―報身報土―
7．『宗義決択集』を読む（8）―受講者発表―
8．『宗義決択集』を読む（9）―受講者発表―
9．『宗義決択集』を読む（10）―受講者発表―
10. 『宗義決択集』を読む（11）―受講者発表―
11. 卒業論文指導
12. 卒業論文指導
13. 卒業論文指導
14. 卒業論文指導
15. 卒業論文指導

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、授業計画に記されたテーマについて辞書などで調べておくこと（30 分）。 ・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること（120 分）。 ・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと（60 分）。

テキスト
講師が用意する。

参考書・参考資料等
・『宗義決択集』（『真言宗全書』巻 19、続真言主全書刊行会、1935 年） ・小田慈舟訳『宗義決択集』（『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社、1936 年） ・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
講義内での発表（50%）、ディスカッション等への参加の積極性（30%）、期末レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）論義本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
（B）論義に引用されている典拠を指摘し、専門用語を補足・説明すること（語註）ができる。
（A）論義の内容を理解している。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、論義の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
・内容については、受講者と相談して決定するが、特に勧学会出仕者など、真言密教や南山教学について深く学びたい者の受講を望む。 ・担当者を決めて、該当論義についての発表を行う。 ・発表時には、質疑応答やディスカッションを行うので、あらかじめ予習をしておくこと。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ＩＡ)							学 期	前期
副 題	仏教の基礎−戒を中心として−				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G1-02-112	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標
チベット語経典を通じて四大学派の禅定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

授業計画
1.授業の内容について説明
2.釈尊の十二相について
3.仏教とは、何のためにあるのか。一般的な仏教について
4.仏教徒と外道（非仏教徒）との区別について
5.前世と来世の有無について
6.全ての仏教徒が守るべき十善戒について
7.戒律 別解脱戒について
8.戒律 在家と沙弥と比丘の戒律について
9.戒律 菩薩戒について
10.戒律 三昧耶戒について
11.瞑想（止の瞑想と観の瞑想）の区別について
12.止の瞑想について①
13.止の瞑想について②
14.観の瞑想について
15.学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として配布資料を読んで覚える（90 分）、 事後学修として習ったことを暗記する（90 分）。

テキスト
教員が用意する。

参考書・参考資料等
教室で指示する。

学生に対する評価
発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ⅡA)							学 期	後期
副 題	仏教の基礎−般若心経を中心として−				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G1-02-113	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標
四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

授業計画
1.オリエンテーション
2.『般若心経』「観自在菩薩」～　慈悲の心と菩提心について①
3.『般若心経』「観自在菩薩」～　慈悲の心と菩提心について②
4.『般若心経』「色不異空色不異空」～　中観の空について①
5.『般若心経』「色不異空色不異空」～　中観の空について②
6.『般若心経』「無色無受想行識」～　五蘊と六根と十二処について
7.『般若心経』「無眼界」～　十八界について
8.『般若心経』「無無明」～　十二縁起について
9.『般若心経』「無苦集滅道」～　四聖諦について①
10.『般若心経』「無苦集滅道」～　四聖諦について②
11.『般若心経』「三世諸仏」～　悟りの道（五道）について
12.「六波羅蜜」について
13.「極楽」の世界について
14.「極楽」に生まれ変わる原因について
15.学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として配布資料を読んで覚える（90 分）。 事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90 分）。

テキスト
教室で指示する。

参考書・参考資料等
教室で指示する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（60%）、習熟度（40%）。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目（日本語留学生上級A）							学 期	通年
副 題	上級日本語				授業方法	講義	担当者	藤井知枝	
ナンバリング	G1-07-114	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
大学で学ぶために必要となる日本語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能を総合的に学習する。 中上級から上級レベルの語彙や表現を学ぶ。 社会的なテーマについて書かれたエッセイ、説明文、記事などを読み、自分の考えを詳しく具体的に表現する力を身につける。 日本文化や日本人の考え方についての文を読み理解する。 社会、生活、経済、政治、行政に関するニュースを聴く力を養う。

授業の到達目標
大学でのアカデミックな活動が円滑にできる。 日本の社会や文化への理解を深めることができる。

授業計画
【前期】
1. 自己紹介 / テーマ：環境のためにできること 語彙・読解
2. テーマ：環境のためにできること グラフの数値の説明 他
3. テーマ：環境のためにできること 重要表現（～とすれば 他）
4. テーマ：環境のためにできること 文法・語彙
5. 聴解「静岡県で震度6弱の地震」他
6. テーマ：食の共同性 語彙・読解
7. テーマ：食の共同性 読解 他
8. テーマ：食の共同性 重要表現（～に向けて 他）
9. テーマ：食の共同性 文法・語彙
10. 聴解「自動車保険料、各社一斉値上げへ」他
11. テーマ：笑いのちから 語彙・読解
12. テーマ：笑いのちから 関連エッセイ 他
13. テーマ：笑いのちから 重要表現（～をはじめとする/～をはじめとして 他）
14. テーマ：笑いのちから 文法・語彙
15. 聴解「内閣支持率、5.2ポイント低下」他

【後期】
1. テーマ：しる―初めての雪 語彙・読解
2. テーマ：しる―初めての雪 要約、文法（～ことなく 他）
3. テーマ：しる―初めての雪 / 聴解「健全サイトで中高生の被害相次ぐ」他
4. テーマ：いたわる―春の一日 語彙・読解
5. テーマ：いたわる―春の一日 要約、文法（～からといって、～というものではない 他）
6. テーマ：いたわる―春の一日 / 聴解「建設業界大手2社が合併に合意」他
7. テーマ：ならう―そば屋の先生 語彙・読解
8. テーマ：ならう―そば屋の先生 要約、文法（～ならまだしも 他）
9. テーマ：ならう―そば屋の先生 / 聴解「殺人事件、時効廃止へ」他
10. テーマ：よみとる―記事の裏側 語彙・読解
11. テーマ：よみとる―記事の裏側 要約、文法（～手前 他）
12. テーマ：よみとる―記事の裏側 / 聴解「離職者動、厳しい状況続く」他
13. テーマ：さばく―裁判員のもやもや 語彙・読解
14. テーマ：さばく―裁判員のもやもや 要約、文法（～とも～ともかぎない 他）
15. テーマ：さばく―裁判員のもやもや / 聴解「レストランで食中毒」他

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの新出語彙を調べ、指定された文に目を通しておくこと。（計 60 分） ユニット終了後小テストを行うので、十分に学習しておくこと。（60 分）

テキスト
鎌田修・ボイクマン総子他『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』ジャパンタイムズ（2012）（書店で購入） 松田浩志・亀田美保『テーマ別 上級で学ぶ日本語（三訂版）』研究社（2016）（書店で購入）

参考書・参考資料等
①友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型５００』アルク（2010）

学生に対する評価
期末試験（50%）、課題（25%）小テスト（２5%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した文法・表現をある程度理解することができる。
（B）学習した文法・表現をほぼ理解することができる。
（A）学習した文法・表現を理解し、使うことができる。
（S）学習した文法・表現を場面に応じ、自分の言葉として使うことができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出された課題は添削し、次回返却する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目（日本語留学生中級A）							学 期	通年
副 題	中級日本語				授業方法	講義	担当者	藤井知枝	
ナンバリング	G1-07-115	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
大学で学ぶために必要となる、日本語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能を総合的に学習する。 中級から中上級レベルの文法・語彙を学習し、日本の社会や文化などについて書かれた文章を読み、 理解する。自分の考えを理由とともに表現する力を身につける。 講義や口頭発表を聞く力を養う。 大学で必要な小論文やレポートを書く力をつける。

授業の到達目標
大学の講義内容を理解し、大学での基本的な活動ができる。 日本の社会や文化を理解できるようになる。

授業計画
【前期】
1. 自己紹介/ テーマ：まもるー見えない相手 語彙・読解
2. テーマ：まもるー見えない相手 文法（～はずだ 他）
3. テーマ：まもるー見えない相手 / 聴解「落語」
4. アカデミック・ライティング 準備
5. テーマ：なれるー腕時計 語彙・読解
6. テーマ：なれるー腕時計 文法（～について 他）
7. テーマ：なれるー腕時計 / 聴解「将棋」
8. アカデミック・ライティング 文末・文中のスタイル
9. アカデミック・ライティング 指示表現・接続表現・小論文作成
10. テーマ：わけるーABOAB 語彙・読解
11. テーマ：わけるーABOAB 文法（～というのも 他）
12. テーマ：わけるーABOAB / 聴解「明治神宮の森」
13. アカデミック・ライティング 指示表現・接続表現・副詞のスタイル
14. アカデミック・ライティング 主張の表現・文末のバリエーション・小論文作成
15. 徳川家康 我慢の武士

【後期】
1. テーマ：うたうー歌の力 語彙・読解
2. テーマ：うたうー歌の力 文法（～ものだから 他）
3. テーマ：うたうー歌の力 / 聴解「畳」
4. アカデミック・ライティング 名詞・動詞・形容詞のスタイル
5. アカデミック・ライティング 視点・呼応の表現・小論文作成
6. テーマ：はなれるーふるさと 語彙・読解
7. テーマ：はなれるーふるさと 文法（～たばかりに 他）
8. テーマ：はなれるーふるさと / 聴解「天神様」
9. アカデミック・ライティング 助詞・引用のスタイル
10. アカデミック・ライティング 引用表現・レポート作成
11. テーマ：かなえるーふたつの夢 語彙・読解
12. テーマ：かなえるーふたつの夢 文法（～はともかくとして 他）
13. テーマ：かなえるーふたつの夢 / 聴解「知里幸恵さん」
14. アカデミック・ライティング 数値に関する表現のスタイル
15. アカデミック・ライティング 図表・データの表現・レポート作成

準備学習（予習・復習）・時間
新出語彙を事前に調べておくこと。テキストの指定された文に目を通しておくこと。（計 60 分） 課終了後、小テストを行うので、十分に学習しておくこと。（60 分）

テキスト
松田浩志・亀田美保『テーマ別 中級から学ぶ日本語（三訂版）』研究社（2014）（書店で購入） 伊集院郁子・高野愛子『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』アスク出版（2020）（書店で購入）

参考書・参考資料等
①ABK『TRY！日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語（改訂版）』アスク出版（2014）②友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型５００（改訂版）』アルク（2010）

学生に対する評価
期末試験（50%）、課題（25%）、小テスト（２5%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した文法、語彙をある程度理解することができる。
（B）学習した文法、語彙をほぼ理解することができる。
（A）学習した文法、語彙を理解し、使うことができる。
（S）学習した文法、語彙を場面に応じ、自分の言葉として使うことができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出された課題は添削し、次回返却する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(カウンセリング論A)／人間学専門講義(カウンセリング論A)							学 期	前期
副 題	カウンセリングの理論と実際					授業方法	講義	担当者	佐々木聡
ナンバリング	G2-10-116	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業の到達目標
カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

授業計画
1.オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2.カウンセリングの歴史的背景を知る
3.心理アセスメントについて
4.様々なカウンセリングを知る（クライエント中心療法）
5.様々なカウンセリングを知る（精神分析的心理療法）
6.様々なカウンセリングを知る（解決志向アプローチ）
7.様々なカウンセリングを知る（認知行動療法）
8.様々なカウンセリングを知る（その他）
9.子どもへのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
10.保護者へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
11.発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
12.被虐待へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
13.非行を行う人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
14.自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べさせる。(90 分以上)　各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義・体験学習の振り返りやキーワードの説明を記述し（90 分)、次回の授業時に提出する。

テキスト
随時プリント配布

参考書・参考資料等
河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970 年 國分康孝『カウンセリングの理論』誠信書房、1980 年 國分康孝『カウンセリングの技法』誠信書房、1979 年 諸富祥彦『カウンセリングの理論』誠信書房、2022 年

学生に対する評価
課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション・実習等の参加度（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）カウンセリングの技法（最低３つ以上）と基礎知識について説明できる。
（S）カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。対面やライブ受講においては体験学習が主になるので、積極的な参加を期待する。オンデマンド受講においては理論の理解に重点を置きつつ、デモンストレーションを見て学ぶことを期待する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、スクールカウンセリングやオンラインカウンセリング、電話相談といった心理支援の実務経験を活かして、来談者中心療法、精神分析、認知行動療法、解決志向アプローチなどのカウンセリング技法について、その原理と演習を通して、それぞれの技法における理解と実践をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目(学校心理学A)／人間学専門講義(学校心理学A)							学 期	後期
副 題	学校における心理教育的支援の理論と実際					授業方法	講義	担当者	佐々木聡
ナンバリング	G2-10-117	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深める。

授業の到達目標
学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

授業計画
1.学校教育と心理学.歴史的背景を知る
2.発達心理学的視点と学校教育
3.学校内チーム支援について
4.保護者と学校を支援する視点
5.児童期の発達と学校教育
6.児童期の学習の問題について
7.児童期の不登校について
8.児童期の仲間関係といじめについて
9.児童期における学校内チーム支援の在り方について
10.思春期・青年期の発達と学校教育
11.思春期・青年期の学習の問題について
12.思春期・青年期の不登校について
13.思春期・青年期の仲間関係といじめについて
14.思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等
石隈利紀『学校心理学―教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』、1999 年、誠信書房 学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック第 4 版』、2020 年、風間書房その他の参考書は、適時紹介する。

学生に対する評価
次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）学校における心理学的な課題について、基本的な事項を知っている。
（B）学校における心理学的な課題について、資料を見ながらその内容や問題点を説明できる。
（A）学校における心理学的な課題について、一つの事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。
（S）学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
できるだけ、わかりやすい授業を心がけたい。現在的の課題を扱い、受講生からの積極的な質疑・意見をいただき、“臨床の知”を共に深めていきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、中高教員・スクールカウンセラー・私設相談室やNPO のカウンセラーという様々な立場での実務経験を活かして、不登校、いじめ、虐待、発達障害などの問題について、多面的にその原理、分析、対応を学ぶ授業を展開する。そのことによって、学校における心理的な理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目（日本語留学生中級B）							学 期	通年
副 題	日本の社会・文化を学ぶ。				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-118	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
現代日本社会の現状を反映した文章や、日本文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。 同時に「読む、聞く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。 語彙、文法、聴解の日本語能力試験 N3 レベルの復習をし、N2 レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

授業の到達目標
大学生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語能力を総合的に身につける。

授業計画
【前期】
1.『日本語表現の教室』第1課　日本人のみょうじ・万葉集のうた（1）
2.『日本語表現の教室』第1課　復習（語彙テスト）・作文（比較による説明）
3.『日本語表現の教室』第2課　日本語の語彙・万葉の歌（2）
4.『日本語表現の教室』第2課　復習（語彙テスト）・作文（列挙による説明）
5.『日本語表現の教室』第3課　日本語の音　・万葉の歌（3）
6.『日本語表現の教室』第3課　復習（語彙テスト）・作文（回想する）
7.『日本語表現の教室』第4課　日本語の漢字・万葉集のうた（4）
8.『日本語表現の教室』第4課　復習（語彙テスト）・作文（意見を述べる）
9.JLPT 模試実施
10.模試FB / 総括
11.『日本語表現の教室』第5課　日本人の一生
12.『日本語表現の教室』第5課　復習（語彙テスト）・作文（年中行事・慣習の説明）
13.『日本語表現の教室』第6課　日本人と動物・万葉のうた（5）
14.『日本語表現の教室』第6課　復習（語彙テスト）・作文（生き生きとした描写）
15.『日本語表現の教室』第7課　日本の四季―風景との対話―・万葉のうた（6）

【後期】
1.『日本語表現の教室』第7課　復習（語彙テスト）・作文（風景の描写）
2.『日本語表現の教室』第8課　日本の文化―茶
3.『日本語表現の教室』第8課　復習（語彙テスト）・作文（歴史・文化の説明）
4.『日本語表現の教室』第9課　日本の「共通感覚」―和魂洋才・万葉のうた
5.『日本語表現の教室』第9課　復習（語彙テスト）・作文（スピーチ1 スピーチの導入）
6.『日本語表現の教室』第10課　女性として立つ『樋口一葉』
7.『日本語表現の教室』第10課　復習（語彙テスト）・作文（人物紹介1）
8.JLPT 模試実施
9.模試　FB / 総括
10.『日本語表現の教室』第11課　男女強調社会を目指して『津田梅子』
11.『日本語表現の教室』第11課　復習（語彙テスト）・作文（スピーチ2意見を述べる）
12.『日本語表現の教室』第12課　神々の国を愛した『ニッポンジン』小泉八雲
13.『日本語表現の教室』第12課　復習（語彙テスト）・作文（自己紹介・身内の紹介）
14.1年（或いは後期）を振り返り、印象深い記事について各自意見発表
15.I年を振り返り、印象深い記事について各自意見発表

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、次回資料を配布するので、「音読」「簡単な内容把握」をしてくること。（60 分）　『新完全マスターN2 語彙』は、語彙の予習/復習として一部を使用予定。指定された箇所を学習してくること。

テキスト
『日本語表現の教室』中級　語彙と表現と作文

参考書・参考資料等
『新完全マスターN2 文法』　必要に応じて教師がプリントを配布

学生に対する評価
期末試験（40%）、小テスト（40%）、発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習した文型や表現を理解できている。
（B）学習した文型や表現を正確に使用できている。
（A）学習した文型や表現を応用できている。
（S）学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法
語彙、文法の小テストを実施した際には、その場で採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他
日本語のレベルを上げたい全ての学生は受講してほしい。JLPT の準備をしつつ、基本的な日本語能力が身につくよう、読解、聴解、発表などを随時企画している。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(日本語留学生上級B)							学 期	通年
副 題	スピーチを練習する。				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-119	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本語会話/スピーチの能力向上を図り、円滑な人間関係を築く助けとなるようにする。 更にレポート発表時に、より滑らかに日本語を発話できることを目指す。

授業の到達目標
日本語のスピーチや記述に関する決まりを学習し、身につける。短い文章から始め、徐々に長い文章を書けるように実践し、最終的には 1000 字〜1400 字のアカデミック・スピーキングの文章を書き、発表できるようになる。 卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身に付ける。

授業計画
【前期】
1. ガイダンス ：発音練習体験
2. きっかけを語ろう
3. なくした体験を話そう
4. 町の様子を話そう（1）課題に沿って
5. 町の様子を話そう（2）自分の町について書いてみる
6. 動きの順序を説明しよう
7. スポーツのおもしろさを伝えよう
8. 言いかえて説明しよう
9. 比べて良さを伝えよう
10. ストーリーを話そう（1）課題に沿って
11. ストーリーを話そう（2）自国の有名な物語を書いてみる
12. 最近の出来事を話そう（1）課題に沿って
13. 最近の出来事を話そう（2）自分の身に起こったことを書いてみる
14. 健康について話そう
15. 将来の夢を語ろう

【後期】
1. 好きなシーンを紹介しよう
2. 子どもたちに母国の行事を紹介しよう
3. 母国の行事を紹介する記事を書く
4. 困った状況を伝えて交渉しよう
5. 不満に対処しよう
6. 目上の人に注意を促そう
7. グラフや表を説明しよう
8. グラフ・表から情報を読み取る
9. ステレオタイプを打ち破ろう
10. 就職試験制度について説明しよう
11. 自国の制度について説明文を書いてみる
12. 働くことの意義について討論しよう
13. 環境問題について話そう
14. 犯罪傾向から現代社会を語ろう
15. マスコミの功罪について討論しよう

準備学習(予習・復習)・時間
下読みをしてくる事前に提示された資料は下読みをしてくること。（６０分） 必ず宿題とされた文章は書いてくること。（６０分）

テキスト
『日本語上級話者への道　きちんと伝える技術と表現』 スリーエーネットワーク 『日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現』 スリーエーネットワーク 『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等
必要に応じて教師が配布する

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（30%）、小テスト（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）学習した内容を最低限理解できている。
（B）学習した内容をある程度使いこなしている。
（A）学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
（S）学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法
テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。 小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他
実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(仏画)／仏教芸術(別)							学 期	通年
副 題	仏を描く				授業方法	実技	担当者	有松孝雄	
ナンバリング	G1-02-120	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
面相筆で仏の姿を描く。制作と併行して、描かれる尊像の儀軌・背景を学ぶ。 多様な尊像を知ることで、仏教の宇宙観についての理解を深める。

授業の到達目標
図像を描くという身体による経験を通して、広く美術・宗教への理解を深めることができる。

授業計画
【前期】
1. 授業の概要についての説明 (授業の進め方、道具の使い方、資料の読み方等を解説)
2. 基礎1 手の形、顔の線の練習 (1)・印相 (掌)
3. 基礎2 手の形、顔の線の練習 (2)・釈迦如来 (顔)
4. 基礎3 手の形、顔の線の練習 (3)・地蔵菩薩、阿弥陀如来 (上半身)
5. 基礎4 手の形、顔の線の練習 (4)・不動明王 (顔)
6. 基礎5 多様な描線の練習 (1)・宝瓶
7. 基礎6 多様な描線の練習 (2)・雲龍
8. 基礎7 多様な描線の練習 (3)・仏足
9. 基礎8 多様な描線の練習 (4)・鳳凰
10. 作品制作 白描の作品を描く (1)・阿弥陀如来
11. 作品制作 白描の作品を描く (2)・阿弥陀如来
12. 作品制作 白描の作品を描く (3)・大日如来
13. 作品制作 白描の作品を描く (4)・大日如来
14. 作品制作 白描の作品を描く (5)・大日如来
15. 総括 (仏画・彩色画の実例作品の紹介 ビデオ上映)

【後期】
1. 表現法 淡彩色・ぼかし (1) (蓮)
2. 表現法 淡彩色・ぼかし (2) (蓮)
3. 表現法 淡彩色・ぼかし (3) (蓮)
4. 表現法 淡彩色・ぼかし (4) (天女)
5. 表現法 淡彩色・ぼかし (5) (天女)
6. 表現法 淡彩色・ぼかし (6) (天女)
7. 作品制作 彩色仏画 (1) (不動明王)
8. 作品制作 彩色仏画 (2) (不動明王)
9. 作品制作 彩色仏画 (3) (不動明王)
10. 作品制作 彩色仏画 (4) (不動明王)
11. 作品制作 彩色仏画 (5) (弘法大師)
12. 作品制作 彩色仏画 (6) (弘法大師)
13. 作品制作 彩色仏画 (7) (弘法大師)
14. 作品制作 彩色仏画 (8) (弘法大師)
15. 総括 (国宝仏画・絵画の鑑賞 ビデオ上映)

準備学習(予習・復習)・時間
毎回配布する資料を読み、次の実習に活かすことができるようにする。(３０分)

テキスト
書写手本及び関係資料はコピーを配布する。 以下の教材は担当者が用意する： 用紙、彩色筆、筆洗、雑巾、日本画絵具、絵具皿。

参考書・参考資料等
・有賀祥隆「仏画の鑑賞基礎知識」、至文堂、1991 年（抜粋資料を毎回配布する） ・光森正士 岡田健「仏像彫刻の鑑賞基礎知識」、至文堂、1999 年（抜粋資料を毎回配布する）

学生に対する評価
授業に臨む姿勢と心構え（70%）、書写作品・毎回の授業時に制作する課題（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）仏画の基本事項を理解している。
（B）仏画の基本事項が理解された上でその描写ができる。
（A）仏教や仏画に関することがよく理解され、作品に表現することができる。
（S）資料を広く読み解くことができ、尊像の理解と表現が優れている。

課題に対するフィードバックの方法
課題に応じて表具を施し、返却する。

その他
授業で必要な用具・資材は担当者が支給（貸与）する。墨・硯は各自が用意する。 受講生は年間を通して使用する面相筆１本を購入、用紙代の一部を負担する。 教室、用具、資材の都合により受講者数を制限する場合がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
仏画の制作・修復に長年携わっている教員が、その経験を活かして指導する。 受講生の経験に応じて個別に指導する。

科目名	企画科目(高野山の歴史と文化)／企画科目(高野山の歴史と文化S)							学 期	前期
副 題	高野山の歴史と文化					授業方法	講義	担当者	木下智雄
ナンバリング	G3-01-121	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
高野山は、西暦816年（弘仁7年）に嵯峨天皇より賜り、1200年以上経た今でも、世界文化遺産の聖地として広く知られている。しかし、今でも高野山の街並みは変化しつづけており、その長い歴史に直接触れることは難しい。そこで、現代から歴史を遡りながら、町の変遷や文化・歴史的人物を学ぶことで、時代毎に特質があることを理解する。

授業の到達目標
・高野山の歴史・文化についての参考書を読み上げることができ、用語の説明ができる。 ・金剛峯寺磬臺案内人の資格試験に合格できる。 ・『紀伊続風土記』等の読解ができ、根拠となる資料が確認できる。

授業計画
1．概論（講義の進め方、参考文献紹介等）と予習方法について
2．世界遺産としての高野山―「紀伊山地の霊場と参詣道」―
3．大師信仰の聖地としての高野山―大師信仰の宣揚と四国遍路―
4．近代国家としての高野山①―学校の設立と文化財の保護―
5．近代国家としての高野山②―女人禁制の解禁と商業―
6．幕藩体制の中の高野山①―学道の隆盛と宝寿二門―
7．幕藩体制の中の高野山②―元禄聖断と衆行争論―
8．幕藩体制の中の高野山③―蓮華三昧院頼慶と徳川家康―
9．荘園領主としての高野山①―木食応其と豊臣秀吉―
10．荘園領主としての高野山②―高野聖と織田信長―
11．荘園領主としての高野山③―宥快法印と足利義満―
12．浄土としての高野山①―勧進と町石道―
13．浄土としての高野山②―血曼荼羅と『平家物語』―
14．浄土としての高野山③―覚鑁上人と鳥羽上皇―
15．浄土としての高野山④―小野仁海と藤原道長―

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、指定した参考文献に目を通し（60 分）、専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。(30 分)・事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。(90 分)

テキスト
講師が配布資料を用意する。 松長有慶『高野山』、岩波新書、2014年も併用する。

参考書・参考資料等
・木下浩良『高野山の歴史と文化』高野山出版社 ・山陰 加春夫『歴史の旅 中世の高野山を歩く』吉川弘文館 ・高野山金剛峰寺記念大法会事務局『高野山千百年史』 ・『紀伊続風土記』(『続真言宗全書』36.37巻) ※その他、適時講義中に紹介する。

学生に対する評価
期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）高野山の歴史・文化について、参考書を読み上げることができる。
（B）高野山の歴史・文化について、未知の語彙を調べ、用語の説明ができる。
（A）高野山の歴史・文化について、『紀伊続風土記』等から、資料の裏付がとれる。
（S）高野山の歴史・文化について、由来を端的に過不足なくまとめ、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
・本講義は金剛峯寺境内案内人資格試験（12月頃）の受験を推奨するが、対策等は別途行う。 ・用語の意味など、講義中回答してもらうので、必ずテキストは一読してくること。 ・わからない語彙は、調べる癖をつけること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての教養の布教について、高野山の歴史・文化を通じて、周辺分野の見識の重要性を認識させる。

科目名	企画科目(寺院経営入門)							学 期	前期
副 題	【金剛峯寺寄付講座】寺院の運営に関する基礎知識				授業方法	講義	担当者	藤本善光	
ナンバリング	G1-03-122	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
現在の寺院、特に高野山真言宗寺院の運営に関する基礎知識を学び、今後の寺院運営に実際に役立つ内容を金剛峯寺内局の役員の方々のお話も交えて理解を深める。

授業の到達目標
寺院の運営の方法等について学び、自ら関係する寺院の護持発展に寄与できるようになる。

授業計画
1. 寺院の現在かかえる問題と課題
2. 寺院の僧侶の役割
3. 檀家と信者について
4. 本山と末寺について
5. 高野山の塔頭寺院について
6. 寺院の施設について(文化財など)
7. 寺院と法律(宗教法人)について
8. 寺院の行事について
9. 寺院の教育と福祉について
10. 寺院の情報発信について
11. 寺院と会計(一般会計)について
12. 葬儀と霊園について
13. 寺院と NPO について
14. 心の癒しの方法について
15. 人権啓発について　(現在の人権問題)

準備学習(予習・復習)・時間
毎回の講義について大事なところを思い出し、疑問点や自分の意見をまとめる。(90 分)

テキスト
各時間ごとに資料コピーを配布。

参考書・参考資料等
授業で適宜指示をする。

学生に対する評価
出席率、授業態度を見る、発言内容を考慮。レポート提出。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら説明出来る。
（B）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら自らの寺院経営について内容を表現出来る。
（A）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら具体的計画を作成し説明出来る。
（S）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ずに自ら寺院経営について具体的計画を作成し PR 出来る。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
ゲストスピーカーをお迎えして、実際の寺院運営について学ぶ。各回のゲストスピーカーについては、適宜案内を行う。将来寺院を継承したり、就業したりするためのモチベーションを高め、21 世紀寺院に求められる社会的役割を自覚し、積極的に将来ビジョンを考える。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。この科目は金剛峯寺内局の役員の方々による寄付講座である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
真言宗の僧侶である教員が、実績をベースに寺院が抱えている問題点、課題点を明確にし、将来の寺院の使命、役割を具体的に果たせるよう学生に十分問題意識と解決方法を教える。

科目名	企画科目（歴史学入門）							学 期	前期
副 題	「鎌倉時代の政治過程」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G1-12-123	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
一般に、鎌倉時代は、鎌倉幕府を中心とする歴史観に立脚して論ぜられることが多かった。しかし、実際のところ、朝廷の権力も依然として影響力を残しており、公家・武家の双方向から鎌倉時代史を把握することが重要である。そこで、本講義では、最新の研究成果に基づいて、公武政権をめぐる諸問題について考察し、歴史学への関心を培う。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①鎌倉時代の政治過程を、朝廷の存在を視野に入れて理解できるようになる。 ②歴史学における研究史の展開、歴史観の変遷を考える視座をつちかう。 ③さまざまな史料に基づいて、史実を立体的に復元する意義を認識できるようになる。

授業計画
1. 鎌倉時代の政治構造
2. 頼朝上洛
3. 建久七年政変
4. 後鳥羽院政の成立
5. 執権政治の成立
6. 承久の乱
7. 『金剛三昧院文書』の見学
8. 九条道家政権と鎌倉幕府
9. 得宗専制政治の成立
10. モンゴル襲来と公武政権
11. 両統の分立と鎌倉幕府
12. 両統迭立への道
13. 後醍醐天皇の登場
14. 後醍醐天皇の討幕計画
15. 鎌倉幕府の滅亡

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、鎌倉時代に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
①野口実・長村祥知・坂口太郎『京都の中世史３ 公武政権の競合と協調』（吉川弘文館、2022 年）（書店などで購入。必ず講義に持参すること） ②プリント・関係資料のコピー

参考書・参考資料等
上横手雅敬ほか『日本の中世８ 院政と平氏、鎌倉政権』第２部（中央公論新社、2002 年） 村井章介『北条時宗と蒙古襲来』（日本放送出版協会、2001 年） 川添昭二『日蓮と鎌倉文化』（平楽寺書店、2002 年）

学生に対する評価
レポート（100%） ※3000 字以上

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）鎌倉時代に関する基礎的事項を理解している。
（B）鎌倉時代の政治過程について、講義の内容を踏まえて説明できる。
（A）鎌倉時代の政治過程について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
（S）鎌倉時代の政治構造について学問的に説明できるとともに、古文書の価値や研究史についても理解している。

課題に対するフィードバックの方法

その他
①受講者は、図書館を利用して本講義に関わる書籍を熟読するとともに、関西の史跡などに足を運んで、歴史への関心を育むこと。講義内容に限らず、歴史・歴史学に対する疑問があれば、遠慮無く質問すること。 ②本講義は、適宜テキストにもとづく議論や山内寺院の見学も行なうなど、アクティブ・ラーニングの側面も持つ。ゆえに、受講生の積極的参加が必要である。

科目名	企画科目(社会調査)／人間学実習(社会調査)							学 期	通年
副 題	社会調査士G科目					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	G2-11-124	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山および周辺集落の地域について調査を実施する。まず地域調査の概要ついて説明するとともに、調査地域を実見し、地域の課題を知る。高野町役場などで既存資料を収集した上で、調査計画を立案する。行政や地域住民に対してインタビュー調査を実施する。受講生の報告をもとに、最終的に調査報告書を作成する。

授業の到達目標
地域調査法の基礎を習得するとともに、実社会を理解するために、受講生自らが調査計画を立て上で、地域調査を行い、報告書を作成する。

授業計画
【前期】
1.地域調査の概要
2.テーマを設定する（1）
3.テーマの設定する（2）
4.調査法の確認（1）質的調査法
5.調査法の確認（2）量的調査法
6.調査計画書の作成（1）
7.調査計画書の作成（2）
8.既存資料の収集（1）
9.既存資料の収集（2）
10.既存資料の収集（3）
11.既存資料の整理・分析
12.観察調査の実施（1）
13.観察調査の実施（2）
14.観察調査の実施（3）
15.観察調査の整理

【後期】
1.インタビュー調査の実施（1）
2.インタビュー調査の実施（2）
3.インタビュー調査の実施（3）
4.インタビュー調査のデータ整理・分析
5.中間報告（1）
6.追加調査の実施（1）
7.追加調査の実施（2）
8.追加調査の実施（3）
9.中間報告（2）
10.調査報告書の作成（1）
11.調査報告書の作成（2）
12.調査報告書の作成（3）
13.調査報告書の作成（4）
14.受講生の報告
15.調査報告書の修正

準備学習(予習・復習)・時間
・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分)。

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
上野和男他編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館その他授業中に紹介する。

学生に対する評価
報告書（50%)、授業中の発言やコミュニケーションカードなど積極的な授業態度（50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）テーマを選び、調査計画を立てることができる。
（B）調査計画に基づいて、調査ができる。
（A）調査に基づき、報告書を作成できる。
（S）学んだことをもとに、自身で調査ができる。

課題に対するフィードバックの方法
・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他
・積極的に授業を参加するとともに、授業外における課題の作成、調査が必要であることを了解した上で履修すること。・社会調査士 G 科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(詠歌上級)							学 期	通年
副 題	金剛流御詠歌を学ぶ				授業方法	実技	担当者	辻・西山・岩田	
ナンバリング	G1-01-125	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
初級御詠歌の続きとして、学び足りなかった御詠歌の理論や歴史とお唱えの技術の向上を目的とする。 ①流祖が曼荼羅の成身会に御詠歌の基礎を感じた事を深く考え研鑽を深める。 ②初級御詠歌で学ぶ事ができなかった歌謡法や技術的な唱え方を学ぶ。

授業の到達目標
多くの曲目を研鑽すると共に、お唱えする技術や楽理理論・指導法等より多くの知識を習得研鑽し、将来の指導者養成者としての知識を深める。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション。(使用する書籍、法具等を説明)
2. 金剛和讃・相互供養和讃
3. 宗教音楽・布教音楽活動と実践
4. 歌謡技法・梵音
5. 歌謡技法・梵音
6. 誕生和讃
7. 楽理・宗教音楽
8. 梵音・所作全般
9. 光明真言和讃
10. 個人発表
11. 楽理・宗教音楽
12. 光明真言和讃
13. 影向
14. 金剛
15. 前期個人発表　・前期曲復習

【後期】
1. 前期履修曲総括復習
2. 金剛
3. 影向
4. 楽理・宗教音楽。布教活動と実践
5. 無明無常（1）
6. 無明無常（2）
7. 宗教音楽
8. 個人発表
9. 光明・相互供養和讃
10. 光明・所作全般
11. 三昧
12. 宗教音楽
13. 相互供養和讃　（歌謡法入り）
14. 後期個人発表とテスト講評
15. 後期履修曲総括復習

準備学習(予習・復習)・時間
事後学修として授業で学んだ曲を、声を出して何度もお唱えし練習をすること。（６０分）

テキスト
オリエンテーション時に購入する書籍・法具等の説明をする。

参考書・参考資料等
オリエンテーション時参考書を指示する。

学生に対する評価
前期実技発表（４０％）、後期実技発表（４０％）、授業参加の積極性（２０％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）上級で研鑽した曲を、他の人と一緒にお唱えすることができる。
（B）一人で数曲の御詠歌を安定してお唱えすることができる。
（A）法具を使って安定してお唱えすることができる。楽理について理解ができている。
（S）多くの曲目を法具を使って安定したお唱えができる。楽理について理解ができている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
大学の「初級御詠歌」を 2 年間以上研鑽したことがある、または同等の経験者の受講が望ましい。 受講合格した年月により詠階を授与する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の住職である教員が、僧侶としての経験と、長年にわたる御詠歌の実務実績、指導実績を踏まえた講師により、御詠歌を通して布教の重要性を認識させる。高野山内寺院の住職である教員が、高等学校、尼僧学園等の指導実績を踏まえ宗教音楽について指導する。

科目名	企画科目(地域連携)／人間学専門講義(地域連携)地域福祉B(別)							学 期	前期
副 題	高野山と周辺地域を考える					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	G2-11-126	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山や周辺地域に関わりのある方をゲストスピーカーとして招き、話題提供をしていただき、その後質疑応答、ディスカッションを行うことによって、地域を理解する。

授業の到達目標
高野山大学が立地する地域に関する理解し、説明できる。

授業計画
1.地域社会から考える
2.地方行政－高野町の事例
3.高野山と産業（1）ごま豆腐
4.高野山と産業（2）織物
5.高野山と産業（3）橋本と高野山
6.高野山と産業（4）農業
7.高野山を支える（1）福祉
8.高野山を支える（2）経済
9.高野山を支える（3）地域ブランディング
10.高野山を支える（4）移住者
11.参拝と観光
12.地域と教育
13.高野町の町並み（建築）
14.地方自治
15.地域社会の課題

準備学習(予習・復習)・時間
・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分)。

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
授業中に紹介する。

学生に対する評価
最終レポート（70%)、小レポートと授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）地域社会に関する基本用語を説明できる。
（B）地域社会がどのような状況にあるかを説明できる。
（A）地域社会に対して自分の考えを提案できる。
（S）地域社会に対して実際に行動ですることができる。

課題に対するフィードバックの方法
・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他
・高野山周辺を中心として就職したいという強い希望を持ち、真面目に受講することが必要である。 ・インターンシップを希望する者は、必ず受講すること。・授業内容・日程・ゲストスピーカーなど詳細については、第 1 回目の授業に指示する。・意見を発表してもらうので、授業を聞いて内容を理解する必要がある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目（歴史学入門演習）							学 期	後期
副 題	「『吾妻鏡』を読む」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G1-12-127	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
鎌倉幕府によって編纂された歴史書『吾妻鏡』は、北条氏に配慮した曲筆を含むものの、鎌倉時代を考える上で重要な史料である。本演習では、承久 3 年（1221）の記事を収める巻第 25 を読み解き、後鳥羽院と北条義時率いる鎌倉幕府が激突した承久の乱について、具体的に読み解いてゆく。毎回、和製漢文の読み下しと適切な現代語訳を行うとともに、中世史研究の調査方法や史料批判についても習得する。また、山内寺院の見学や史跡踏査も行なう。なお、進度によって内容が変更される場合がある。

授業の到達目標
①鎌倉前期における公武権力の激突を、史料に即して理解できるようになる。 ②『吾妻鏡』の叙述を通して、鎌倉幕府にとっての承久の乱の意義について考える。　③和製漢文の読解力を身につけ、歴史学の研究に取り組む上での基礎学力を養う。

授業計画
1.『吾妻鏡』の概要、講義の進め方、文献探索の方法
2.『吾妻鏡』を読む①（承久 3 年正月 10 日条～1 月 29 日条）
3.『吾妻鏡』を読む②（承久 3 年 2 月 26 日条～5 月 18 日条）
4.『吾妻鏡』を読む③（承久 3 年 5 月 19 日条）
5.『吾妻鏡』を読む④（承久 3 年 5 月 19 日条）
6.『吾妻鏡』を読む⑤（承久 3 年 5 月 19 日条）
7.高野山町石道を歩く
8.『吾妻鏡』を読む⑥（承久 3 年 5 月 20 日条～5 月 21 日条）
9.『吾妻鏡』を読む⑦（承久 3 年 5 月 21 日条）
10.『吾妻鏡』を読む⑧（承久 3 年 5 月 22 日条～5 月 23 日条）
11.『吾妻鏡』を読む⑨（承久 3 年 5 月 25 日条～5 月 26 日条）
12.『吾妻鏡』を読む⑩（承久 3 年 5 月 27 日条～6 月 1 日条）
13.『吾妻鏡』を読む⑪（承久 3 年 6 月 3 日条～6 月 6 日条）
14.『金剛三昧院文書』の調査
15.試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
【予習】事前学習として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した予習をできるように努力すること（120 分）【復習】報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（60 分）

テキスト
『吾妻鏡』の翻刻（新訂増補国史大系）のプリントを配布する。

参考書・参考資料等
『日本国語大辞典　第 2 版』全 13 巻・別巻 1 巻（小学館、2000～2002 年）　藤堂明保編『学研　新漢和大字典』（学習研究社、2005 年）　高橋秀樹『古記録入門』（東京堂出版、2005 年）　野口実・長村祥知・坂口太郎『京都の中世史 3　公武政権の競合と協調』（吉川弘文館、2022 年）

学生に対する評価
試験（60%）、講義中での取り組み（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『吾妻鏡』に関する基礎的事項を理解している。
（B）『吾妻鏡』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
（A）『吾妻鏡』の内容について、政治史・史料論の双方の視角から説明することができる。
（S）『吾妻鏡』について、独自の史料調査に基づいて独創的な解釈を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法
試験の解答については、試験後に解説を行なう。

その他
①本演習は、教員と受講者との議論に基づくアクティブ・ラーニングであるので、『吾妻鏡』はもとより、参考書などを読んで参加すること。漢文は難解だが、コツを習得すればこちらのもの。積極的な受講態度と地道な予習・復習が肝心！②受講者は、企画科目の「歴史学入門」も履修しておくこと。

科目名	サンスクリット語上級A							学 期	通年
副 題	古典サンスクリット語の文学作品を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	G2-07-128	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。 この授業は、初等文法を学習し終えた学生を対象として、サンスクリット語の文法事項をさらに一歩踏み込んで学習することにより、インド古典に対する読解力をより高めることを目的とする。

授業の到達目標
・サンスクリット語の文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。 ・サンスクリット語で記された古典文学作品を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。 ・Reader における文法事項や注記を参照することで、文献学の基礎を理解できるようになる。

授業計画
【前期】
1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 初等文法の確認（1）：文字と発音・母音の曲用・子音の曲用
3. 初等文法の確認（2）：比較法・代名詞・数詞・不変化詞
4. 初等文法の確認（3）：動詞の活用（現在組織）
5. 初等文法の確認（4）：連声法・準動詞・名称詞複語法・合成語法・韻律
6. 初等文法の確認（5）：動詞の活用（現在以外の時制の組織）
7. 読解（1）：散文の翻訳（Hitopadeśa 1）
8. 読解（2）：散文の翻訳（Hitopadeśa 2）
9. 読解（3）：散文の翻訳（Hitopadeśa 3）
10. 読解（4）：散文の翻訳（Hitopadeśa 4）
11. 読解（5）：散文の翻訳（Hitopadeśa 5）
12. 読解（6）：散文の翻訳（Hitopadeśa 6）
13. 読解（7）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 1）
14. 読解（8）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 2）
15. 読解（9）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 3）

【後期】
1. 読解（10）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 4）
2. 読解（11）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 5）
3. 読解（12）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 6）
4. 読解（13）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 7）
5. 読解（14）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 8）
6. 読解（15）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 9）
7. 読解（16）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 10）
8. 読解（17）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 11）
9. 読解（18）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 12）
10. 読解（19）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 13）
11. 読解（20）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 14）
12. 読解（21）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 15）
13. 読解（22）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 16）
14. 読解（23）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 17）
15. 読解（24）：韻文の翻訳（Nalopākhyāna 18）

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（150 分）。 ・事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと（30 分）。

テキスト
・Charles Rockwell Lanman. A Sanskrit Reader（何度も再版されているので、どの版でも可） ・William Dwight Whitney. Sanskrit Grammar（何度も再版されているので、どの版でも可）

参考書・参考資料等
・辻直四郎『サンスクリット文法』、岩波書店、1974 年 ・鎧淳 訳『J. ゴンダ：サンスクリット語初等文法』、春秋社、1982 年 ・吹田隆道『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015 年

学生に対する評価
発表（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な文法事項を理解できている。
（B）Reader における文法事項や注記を正確に理解できている。
（A）サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。
（S）サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ・原則的にはサンスクリット語初級の既習者が対象であるが、必要によっては適宜相談に応じる。

科目名	チベット語A／チベット語（別）							学 期	通年
副 題	チベット語の基礎				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G2-07-129	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
チベット仏教の最高学位（ゲシェー・ハランパ）を持つチベット人僧侶から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

授業の到達目標
文字（ウチェン）と発音、あいさつ及び文字（ウメー）を修得し、チベット語の読み書き及び会話ができるようになる。

授業計画
【前期】
1．オリエンテーション
2．３０基字の１～１０の読み方と発音
3．３０基字の１１～２０の読み方と発音
4．３０基字の２１～３０の読み方と発音
5．簡単なあいさつ
6．３０の子音字母と母音の結合１～１５の読み方と発音
7．３０の子音字母と母音の結合１６～３０の読み方と発音
8．簡単な会話
9．反対字の読み方と発音
10. ར を頭とする有頭字
11. ལ を頭とする有頭字
12. ས を頭とする有頭字
13. ད を足とする有足字
14. ར を足とする有足字
15. ལ を足とする有足字

【後期】
1．ས を足とする有足字
2．前置字
3．後置字
4．再後置字
5．文章の読み方と日常会話
6．文章の読み方と日常会話（続）
7．文章の読み方と日常会話（続）
8．文章の読み方と日常会話（続）
9．文章の読み方と日常会話（続）
10. 文章の読み方と日常会話（続）
11. 文章の読み方と日常会話（続）
12. 文章の読み方と日常会話（続）
13. 文章の読み方と日常会話（続）
14. 文章の読み方と日常会話（続）
15. 文章の読み方と日常会話（続）

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180 分）

テキスト
ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

参考書・参考資料等
松本栄一・奥山直司『チベット［マンダラの国］』（小学館）※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価
授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）チベット文字（ウチェン）が一応読み書きできる。
（B）チベット語の簡単な挨拶ができる。
（A）チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
（S）チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよどみなくできる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	パーリ語A／パーリ語S／パーリ語(別)							学 期	通年
副 題	基礎文法					授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	G2-07-130	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
パーリ語とは、伝統的には仏教の聖典語、すなわち仏陀の言葉を記録した言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様に、仏教学および密教学の学習・研究を進める上で極めて有益な言語のひとつである。本授業は、パーリ語文法の基礎を習得し、パーリ語仏典の読解力を養うことを目的とする。サンスクリット語の初等文法の未履修者に考慮して、パーリ語の文法事項を丁寧に確認する。サンスクリット語の履修者に向けては、パーリ語の音韻的特徴などを把握することで、サンスクリット語に対する理解を深める。

授業の到達目標
パーリ語の基本的な文法事項を押さえ、パーリ語仏典を自力で読解できる力を身につける。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション(シラバスの説明、授業の進め方等)
2. 文字と発音
3. 連声法①
4. 連声法②
5. 品詞、名詞の格変化①
6. 動詞
7. 現在形、名詞の格変化②
8. 未来形、名詞の格変化③
9. 過去形
10. 代名詞、形容詞、同格
11. 数詞、不変化辞
12. 命令法、名詞の格変化④
13. 願望法、名詞の格変化⑤
14. 文章構成法
15. 試験と総括

【後期】
1. 連続体、条件法
2. 不定体、名詞の格変化⑥
3. 受動調
4. 使役動詞
5. 分詞、現在分詞、名詞の格変化⑦
6. 過去分詞
7. 未来分詞
8. 動詞と名詞の造語法
9. 合成語①
10. 合成語②
11. 合成語③
12. 格の用法
13. 韻律
14. 仏典を読む
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、指示された次回のテキストの範囲を読んでおくこと (90 分)　事後学習として、テキストおよび講義ノートを見直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと (90 分)

テキスト
ショバ・ラニ・ダシュ『パーリ語文法―仏典の用例に学ぶ―』法藏館、2021 (書店で購入)　上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等
①水野弘元『パーリ語文法』山喜房佛書林、補訂 1959、②水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』春秋社、2005、③Geiger, Wilhelm, (translated into English) Ghosh, Batakrishna, & (revised and edited) Norman, K. R. A Pāli Grammar. Oxford: The Pali Text Society. 1994。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性 (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 文字と発音を理解し、特定の単語の意味を調べることができる。
(B) パーリ語の音韻的特徴を理解している。
(A) 基本的な文法事項を理解している。
(S) テキストにおける文法事項を押さえ、語彙集を参照して、パーリ語文を翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
20 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。サンスクリット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある学生であれば誰でも歓迎する。

科目名	中国語Ⅰ							学 期	通年
副 題	使える語学の習得				授業方法	講義	担当者	土生川正賢	
ナンバリング	G1-07-131	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
コロナ禍で訪日外国人数は激減したが中国語の必要性は変わらない。今や中国語は国内でも使う時代となった。コロナ禍ではあるが、近年中国語圏から高野山に密教を学びに来る傾向も強まっている。実学として「使える語学」の修得を目指す。また、一党独裁という異質の価値観を有する隣国と如何に向き合うか、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても随時考えてゆく。

授業の到達目標
「学問のための学問」ではなく、「聞く」「話す」に重点を置いた実社会で使える語学の習得を目指す。正確な発音を意識し、日常的な挨拶文から自己紹介、更には自分の日常について中国語で話せる程度の語学力の確立を目指す。外国語学習を通して自国の文化をより深く理解し多角的な視野を有する学生を育成したい。

授業計画
【前期】
1. 年間授業計画説明。中国に関する一般常識に関するアンケート。中国語の特性について。
2. 中国語の声調記号である「四声」と、発音記号「ピンイン」について。母音の発音練習。
3. 「四声」と「ピンイン」について。子音の発音練習。
4. 中国特有の漢字である「簡体字」の基礎学習。
5. 電子辞書を含む中国語辞書の紹介と使い方。
6. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 前期試験（筆記）。講評

【後期】
1. 前期試験の反省と間違った箇所の復習等。後期の授業計画説明。
2. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. テキストを中心とした授業。（第5～8課）　テキスト終えれば中国に関するビデオ鑑賞等。
14. 後期試験に関する説明。アンケート調査。
15. 後期試験（筆記）。講評

準備学習（予習・復習）・時間
教科書に付属するCDを繰り返し聞き、自分でも音読することで、正しい発音を習得して頂きたい。

テキスト
喜多山幸子・鄭幸枝　『はじめまして！中国語』　白水社

参考書・参考資料等
辞書（小学館『中日辞典』等）。電子辞書や参考書籍は授業中随時紹介する。NHKラジオ中国語講座テレビ中国語講座等の番組視聴を推奨する。

学生に対する評価
①試験（60%）　②受講姿勢（20%）　③既習項目の習熟度（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）中国語の四声とピンインを見て正しい発音ができる。簡体字を理解している。
（B）挨拶語や基礎的な構文を理解した上で正しい発音ができる。基本的な文法を理解している。
（A）基礎的な文法を理解した上で、自己紹介や自分の一日などについて中国語で話せる。教科書程度の内容について、聞いて受け答えできる会話力がある。
（S）中国人留学生らとの意思疎通が一定程度できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

その他
聞けぬ話せぬ語学では実社会では役に立たない。簡単な挨拶文から始めるので、中国人を見かけたら積極的に話しかけるくらいに学生諸君には積極的に取り組む姿勢を要求したい。積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
文部省派遣留学生として中国国立中山大学修士課程修了、中国の複数の大学の教壇にも立つ。実務としては、現地政府との折衝や国内外で多くの通訳に従事。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などへの密教の布教。中国はじめ各国駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。中国系留学僧らに対する中国語での加行伝授など。それらをいかし、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	中国語Ⅱ							学 期	通年
副 題	中国語で中国語を学ぶ				授業方法	講義	担当者	土生川正賢	
ナンバリング	G1-07-132	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
初級クラス同様「聞く」「話す」に重点を置き、受講生の語学力にあわせた個別指導を丁寧に行う。一方で中国語の新聞を読めるような読解力も養いたい。コロナ禍ではあるが、近年中国語圏から高野山に密教を学びに来る傾向も強まっている。現代社会のニーズに応え得る実学としての語学の修得を目指す。同時に、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題も時事を通して学生と共に考えたい。

授業の到達目標
多角的な視野をもち、中国語を使って仕事のできる人材を育成したい。我が国の歴史・文化・伝統・政治的立場等を中国語で堂々と主張できる国際人を目指す。

授業計画
【前期】
1. 年間授業計画説明。初級クラスで学んだ語学力のチェック。
2. 初級クラスの基礎復習。辞書・参考文献の紹介。
3. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 受講生の語学力に適した教材を配布。
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 前期試験に関する説明。前期の授業に関するアンケート調査。
15. 前期試験（面接）。

【後期】
1. 前期試験の総復習。後期の授業計画説明。
2. 前期既習単元と基礎文法の総復習。
3. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 後期試験に関する説明。アンケート調査。
15. 後期試験（面接）。

準備学習（予習・復習）・時間
教科書に付属するCDを利用した発音訓練を推奨する。段階的に応用力を磨き、各人がレベルアップを実感できるよう、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。

テキスト
初級クラスで用いた教科書の未修単元今年度は喜多山幸子・鄭幸枝　『はじめまして！中国語』　白水社

参考書・参考資料等
上記テキスト修了後は、その都度必要な教材・資料を配布。辞書は毎回必携。電子辞書や参考書籍は随時紹介。

学生に対する評価
筆記試験と中国語による個別面接試験（70%）、授業中の発表やリポート等（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基礎的な文法を理解し、自己紹介や簡単な日常会話ができる。
（B）基礎的な文法を理解し、正しい発音で教科書程度の内容について会話ができる。
（A）新聞講読に必要な最低限の語彙力と日常会話能力、「聴・説・読・写」の総合的な力がある。
（S）中国人留学生らとの意思疎通が相当程度できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

その他
諸君の先輩の中には北京大・復旦大・中山大など中国の一流の大学院に国費留学し、学位取得した者も複数いる。文系学科の中では語学の実用性は非常に高く、外国語がひとつ話せるだけで職業の選択肢や世界は大きく広がり、多様な価値観を身につけることもできよう。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
文部省派遣留学生として中国国立中山大学修士課程修了、中国の複数の大学の教壇にも立つ。実務としては、現地政府との折衝や国内外で多くの通訳に従事。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などへの密教の布教。中国はじめ各国駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。中国系留学僧らに対する中国語での加行伝授など。それらをいかし、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	声明上級／声明上級(別)							学 期	通年
副 題	各法会の表白、神文と祭文等を研鑽する。				授業方法	実技	担当者	辻秀道	
ナンバリング	G2-01-133	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
１．初級の続きとして、初級で学べなかった種々の南山進流声明及び法要を研鑽して声明の視野を広める。
２．導師作法で必要な、「理趣法」の表白・神分を研鑽する。３．四座講式の基本的な読み方を研鑽する。
４．種々の表白・神文の基礎となる御影供と大般若の表白・神文を研鑽する。

授業の到達目標
基本となる各法会の表白・神分を修得する。伽陀の譜の作りを学ぶ。各法会の祭文を研鑽する。常楽会の講式の読み方を学ぶ。

授業計画
【前期】
1.オリエンテーション　使用テキスト解説(南山進流声明類聚の他使用するテキストについて説明する)
2.総礼（伽陀）（1）
3.総礼（伽陀）（2）
4.誕生会祭文Ⅰ
5.誕生会祭文Ⅱ
6.誕生会祭文Ⅲ
7.云何唄（1）
8.云何唄（2）
9.出家唄
10.常楽会祭文（1）
11.常楽会祭文（2）
12.御影供表白・神分（1）
13.御影供表白・神分（2）
14.前期個人発表と講評
15.御影供表白・神分（3）

【後期】
1.四座講式の唱え方（初重）(1)
2.四座講式の唱え方（初重）(2)
3.四座講式の唱え方（二重）(1)
4.四座講式の唱え方（二重）(2)
5.四座講式の唱え方（三重）(1)
6.四座講式の唱え方（三重）(2)
7.大般若表白・神分（1）
8.大般若表白・神分（2）
9.大般若表白・神分（3）
10.理趣法表白・神分（1）
11.理趣法表白・神分（2）
12.理趣法表白・神分（3）
13.理趣経中曲（後半）
14.後期個人発表と講評
15.総括

準備学習(予習・復習)・時間
事後学修として授業で学んだ唱え方に関して復習をしておくこと（90 分）

テキスト
・「祭文集」－高野山出版社発行＝各自高野山出版社で購入すること。（オリエンテーションで説明）・「理趣法」講義中に伝達する・御影供／大般若表白、神分（オリエンテーションで説明）・講式テキスト（オリエンテーションで説明）

参考書・参考資料等
宮野宥智編「南山進流声明類聚」

学生に対する評価
前期末テスト（40%）後期末テスト（40%）授業参加の積極性（20%）。試験は実技試験。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）南山進流声明上級として、理解は十分ではないが、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（B）南山進流各種声明を概ね理解し、複数の人と合わせて唱える事が出来る。
（A）南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、一人で唱える事が出来る。
（S）南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、声明上級としての学力を有する。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講資格を下記の通り設ける。　１．本学「声明」初級を修得した者　２．高野山専修学院及び尼僧学院を修了した者　３．高野山高等学校宗教科を卒業した者　４．その他同等以上の研鑽を修了した者 受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧學院・大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	体育実技							学 期	通年
副 題	運動・スポーツを楽しもう				授業方法	実技	担当者	本山司	
ナンバリング	G1-17-134	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。活動の中で、体力強化、身体づくりとともに、運動やスポーツの楽しさを体感し、技能面を高めたり、楽しさを味わったりできるような個人スポーツ・団体スポーツの練習やゲームを実施していく。

授業の到達目標
個人的・集団的スポーツを通して基本技能を学習すると同時に仲間とのコミュニケーション能力を高め、スポーツのすばらしさを体感し生涯スポーツに活かしていく。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明、今後の予定、アイスブレイク①）
2. アイスブレイク②（軽運動）
3. ウオーキング（大学周辺）
4. 新体力テスト①（室内測定種目を中心に）
5. 新体力テスト②（屋外測定種目を中心に）
6. バトミントン①（ルールの理解、基礎練習）
7. バトミントン②（ゲームの理解、ルール・審判法、ダブルス基礎練習）
8. バトミントン③（ゲームの実践、ルール・審判方の確認、ドリルゲーム）
9. バトミントン④（ダブルス戦）
10. バトミントン⑤（シングルス戦）
11. アダプテッドスポーツ・ボッチャ①（基礎技能の習得、簡易なゲーム）
12. アダプテッドスポーツ・ボッチャ②（団体戦）
13. アダプテッドスポーツ・ボッチャ③（個人戦）
14. アダプテッドスポーツ・風船バレー①（基礎技能の習得、ミニゲーム）
15. アダプテッドスポーツ・風船バレー②（ゲームの実践・戦術理解、授業のまとめ）

【後期】
1. オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明、今後の予定）、バレーボール①（基礎練習）
2. バレーボール②（ルールの理解、基礎練習）
3. バレーボール③（ゲームの理解、ルール・審判法、基礎練習、ミニゲーム）
4. バレーボール④（ゲームの実践・戦術理解、ルール・審判方の確認）
5. バレーボール⑤（実践と観戦の楽しみ方）
6. フットサル①（ルールの理解、基礎練習）
7. フットサル②（ゲームの理解、ルール・審判法、基礎練習、簡易ゲーム）
8. フットサル③（ゲームの実践・戦術理解、ルール・審判方の確認）
9. フットサル④（実践と観戦の楽しみ方）
10. バスケットボール①（ルールの理解、基礎練習）
11. バスケットボール②（ゲームの理解、ルール・審判法、基礎練習、ミニゲーム）
12. バスケットボール③（ゲームの実践、ルール・審判方の確認、タスクゲーム）
13. バスケットボール④（ゲームの実践・戦術理解）
14. バスケットボール⑤（実践と観戦の楽しみ方）
15. 授業のまとめ、振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として実施する内容を調べて理解しておく。（60 分）　学習した内容や運動技能等を踏まえて、ポイントを各自で整理しておく。（60 分）

テキスト
なし

参考書・参考資料等
適宜資料を配布する。

学生に対する評価
受講意欲（40%）　受講態度（20%）　コミュニケーション・協調性（20%）　レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）ルールを理解し、関心・意欲をもって参加できている。
（B）ルールを理解し、基本的な技術を身に付けることができている。
（A）ルールを理解し、仲間と協力し合いながら活動することができている。
（S）ルールを理解し、仲間と協力しながら技術の習得やリーダーシップを発揮してゲームの雰囲気・質を高められている。

課題に対するフィードバックの方法
授業内でフィードバックを行う。レポートはコメント書いて返却する。

その他
運動実施可能な服装、及び室内用シューズを必ず持参する。私服また作務衣それ以外にも運動に適さない服装での参加は、安全上の理由により受講不可とする。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	ボランティア							学 期	通年
副 題	ボタンティアを体験する				授業方法	実習	担当者	人間学科主任	
ナンバリング	G1-16-135	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
大学から指定された実習先において、11 月末までに合計 40 時間以上のボランティア実習を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業の到達目標
ボランティア活動を通じて倫理観や社会貢献の精神、公共性や社会性の意識を身につける。実社会において行動できるようになる。

授業計画
1. ボランティアの意義
2. ボランティア実習①
3. ボランティア実習②
4. ボランティア実習③
5. ボランティア実習④
6. ボランティア実習⑤
7. ボランティア実習⑥
8. ボランティア実習⑦
9. ボランティア実習⑧
10. ボランティア実習⑨
11. ボランティア実習⑩
12. ボランティア実習⑪
13. ボランティア実習⑫
14. 事後指導①意見発表
15. 事後指導②ディスカッション

準備学習（予習・復習）・時間
ボランティア実習の体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
守本友美・河内昌彦・立石宏昭・岡本栄一『ボランティアのすすめ―基礎から実践まで（実践のすすめ）』ミネルヴァ書房、2005 年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価
レポート（30%）、発表（10%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）ボランティアについて理解している。
（B）ボランティア実習に積極的に参加できる。
（A）ボランティア実習の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもボランティアに積極的に参加できる。

課題に対するフィードバックの方法
実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他
実習先、実習期間等については、４月に告知する。 11 月末までに 40 時間の実習を行う。 体験を中心とするアクティブラーニングである。

科目名	巡礼・遍路A／企画科目(巡礼・遍路A)／巡礼・遍路S／人間学実践演習(巡礼・遍路)							学 期	通年
副 題	聖地巡礼の自主企画と実施					授業方法	講義	担当者	密教学科主任
ナンバリング	G1-26-136	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
一定期間、日常を離れ、四国八十八ヶ所や西国三十三観音などの巡礼（一部でも可）することで、座学では得られない、体験を通した身心の覚醒を図ることを目的としている。実習時間は 40 時間とし、事前に実習計画書を作成して提出する。実習期間中は実習日誌を作成し、40 時間分の実習を完了したら実習レポートと作成して提出する。

授業の到達目標
巡礼や遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養するとともに、計画を立てて実行し、報告する能力を身につける。

授業計画
1.実習計画書の作成　：実習時間は1日4時間～8時間、最大40時間まで。
2.実習計画書の提出　：教務課窓口に（実習予定1週間前まで）
3.実習許可通知　：教務課から連絡。
4.実習開始
5.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
6.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
7.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
8.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
9.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
10.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
11.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
12.巡礼・遍路の実習　：実習期間中の実習日誌を作成する。
13.実習終了
14.実習レポートの作成　：40 時間分の実習日誌に基づいてレポート（800 字以上）を作成。
15.実習日誌・レポートの提出：教務課窓口に提出。この時点で履修登録。

準備学習（予習・復習）・時間
・実習計画書作成のための学習（60 分）　・実習日誌作成（60 分）　・実習レポート作成による振り返り（60 分）

テキスト
・特に無し

参考書・参考資料等
・実習計画書にあわせて指導する。

学生に対する評価
実習計画書（30%）、実習日誌（30%）、実習レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）巡礼・遍路を自分で立てた計画に従って実施し、報告できる。
（B）巡礼・遍路の体験以前と以後の違いを説明できる。
（A）巡礼・遍路の意味を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、巡礼・遍路の意義を学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
実習レポートの講評を個別に実施する。

その他
・実習は複数年度にわたってもよい。ただし実習を行う都度、1 週間前までに実習計画書を提出すること。・1 日の実習は、4 時間以上 8 時間以内とする（移動時間は適宜含めてよい）。　・移動手段は自由に設定してよい。健康状態や事情に応じた現実的な実習計画を立てること。　・大学主催の研修や旅行等への参加も巡礼・遍路の一環として認める。　・課外授業用の保険に加入すること。　・巡礼・遍路 B・T の履修をもって、本科目の実施に換えることもできる。

科目名	巡礼・遍路B／企画科目（巡礼・遍路B）／巡礼・遍路T							学 期	前期
副 題	四国遍路と各地の巡礼					授業方法	講義	担当者	柴谷宗叔
ナンバリング	G1-01-137	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
弘法大師によって開かれたとされる四国八十八ヶ所遍路や、西国三十三所など各地の巡礼ににについて、歴史と現状、巡拝の仕方などについて学ぶ。スライド等を使ったバーチャル体験もできるようにする。座学だけでなく、実際に巡拝をする場合のノウハウも身に着ける。実際に遍路に出る場合に戸惑わないよう実習も行う。

授業の到達目標
四国遍路や各地の巡礼について、仏教的な立場から説明できるようになる。用語、歴史等、基礎的な知識を学び、実際の巡拝に活用できるようになる。巡拝作法や巡拝計画の立て方を身につける。

授業計画
1. オリエンテーション
2. 巡礼・遍路の定義
3. 遍路習俗と巡拝作法
4. 四国遍路の歴史
5. 阿波の霊場
6. 土佐の霊場
7. 伊予の霊場
8. 讃岐の霊場
9. 江戸時代の四国遍路
10. 現代の四国遍路
11. 西国三十三所概要
12. 番外札所と写し霊場
13. 実践方法の伝授
14. 高野山奥の院での実習
15. 総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前に、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問点などを整理しておくこと（60 分）。講義内容と、講義中に配布された資料を整理し、レポートにまとめられるようにする（60 分）。

テキスト
柴谷宗叔『四国遍路　こころの旅路』（慶友社、2017）（書店で購入）

参考書・参考資料等
柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路』（法蔵館）、同『公認先達が綴った遍路と巡礼の実践学』（高野山出版）、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』（ちくま新書）、森正人『四国遍路　八十八ヶ所巡礼の歴史と文化』（中公新書）、『四国遍路ひとり歩き同行二人』（へんろみち保存協力会）など

学生に対する評価
レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）四国遍路について簡単に説明できる
（B）四国遍路と各地の巡礼について用語や歴史を説明できる
（A）四国遍路と各地の巡礼について、各霊場の特徴や違いについて説明できる
（S）四国遍路と各地の巡礼について、成立や歴史を踏まえ、宗教的意義を説明できる

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、次回以降に回答する

その他
できる限り実際に巡拝することを勧める。休日などに実際に札所巡拝を行うことが望ましい。方法は講義中に指示する。時間が取れない場合はテキストや講義中に適宜紹介する文献をできるだけ多く読んでおくこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
四国遍路 120 周以上の大先達、西国巡拝 50 周以上の特任大先達、日本各地の巡礼 50 か所以上の、実際の巡拝体験をもとに巡拝方法などを伝授する。高野山真言宗住職として、性善講を主宰しての巡拝も行っているので、参加することも可能。詳細は講義中に説明する。

科目名	書誌学							学 期	前期
副 題	「古典籍と書誌学・文献学」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G3-12-138	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本講義では、古典籍の伝来過程、巻子装・折本装などの諸形態を学ぶとともに、著名な蒐書家とその蔵書、古典籍の収蔵機関とその調査方法についての専門的知識を習得する。また、文献学に必要な本文批判の技法についても学ぶ。なお、「授業計画」に示す調査進度は、受講者の実力や受講人数によって変わると考えられる。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。 ②古典籍の解読能力を習得し、その史料的価値について理解できるようになる。 ③近世・近現代の蒐書家とそのコレクションについて理解できるようになる。

授業計画
1. 書誌学と古典籍
2. 古典籍の諸形態
3. 古典籍の保存と伝来の原因
4. 近世の蒐書家たち①禁裏文庫
5. 近世の蒐書家たち②幕府
6. 近世の蒐書家たち③学者
7. 近現代における古典籍の流伝
8. 近現代における古典籍コレクター
9. 巻子装と冊子装
10. 古典籍の書き方と種類
11. 古典籍の取り扱い方
12. 高野山金剛三昧院の見学・調査
13. 文献学と本文批判①『愚管抄』を例として
14. 文献学と本文批判②『吾妻鏡』を例として
15. 高野山霊宝館の見学

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、参考書を毎回読み、書誌学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 古典籍や蒐書家の要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①橋本不美男『原典をめざして』（笠間書院、1974 年） ②川瀬一馬『日本における書籍蒐蔵の歴史』（ぺりかん社、1999 年） ③藤本孝一『日本の美術　古写本の姿』（至文堂、2002 年） ④藤本孝一『日本の美術文書・写本の作り方』（至文堂、2008 年）

学生に対する評価
レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）古典籍について基礎的な知識を習得している。
（B）古典籍の諸形態や奥書の史料的価値について理解し、系統的に説明できる。
（A）古典籍について系統的な説明ができるとともに、専門的な知識を習得している。
（S）古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法
質問については、毎回の授業内で対応する。

その他
本講義は、古典籍の原本・写本を扱うこともあるように、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。それだけに、学問的水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。 原本を調査するさいは、筆記用具は鉛筆のみ（シャープペンシル不可）。

科目名	古文書学							学期	後期
副題	「古代・中世文書の様式と機能」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G3-12-139	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
古代・中世の古文書を学問的に扱う上では、単に文字情報を解読するだけではなく、文書様式や形態的情報、さらには文書の作成・伝達過程に関わる機能的情報を理解しておかねばならない。本講義では、近年の研究成果に目を配りつつ、古文書学を理解する基礎を養う。さらに、古文書の原本などを熟覧し、これを扱う経験を身につける。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①日本古文書学に関して、様式論・形態論・機能論・伝来論等から理解する能力を身につける。 ②古代・中世文書について、朝廷・公家・武家・寺社などの諸権力の実態を踏まえた上で、解説できるようになる。 ③古文書をめぐる慣習や作法について、解説できるようになる。

授業計画
1. 古文書の基本的要素
2. 朝廷と天皇の文書①公式様文書
3. 朝廷と天皇の文書②公家様文書
4. 朝廷と天皇の文書③直状と奉書
5. 武家の文書①下文
6. 武家の文書②下知状
7. 『金剛三昧院文書』の調査
8. 文書が残るということ①紙背文書
9. 文書が残るということ②公武交渉文書
10. 文書が残るということ③軍勢催促状と軍忠状
11. さまざまな契約書①売券と寄進状
12. さまざまな契約書②起請文
13. 戦国大名の文書①書状
14. 戦国大名の文書②制札
15. 『金剛三昧院文書』の調査

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、参考書を毎回読み、古文書学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分）
関係する古文書・古文書学の要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
小島道裕『中世の古文書入門』（河出書房新社、2016 年）（書店などで購入。必ず講義に持参すること） また、適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997 年） ②田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993 年）第 1 部「日本の古文書」 ③日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983 年） ④青木和夫ほか編『文献史料を読むー古代から近代ー』（朝日新聞社、2000 年）

学生に対する評価
レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）古文書の様式や学史について基礎的な知識を習得している。
（B）古文書の様式や、授受をめぐる当事者主義などの中世的原理について説明できる。
（A）古文書について、様式のみならず、形態と機能の面を含めて説明できる。
（S）古代・中世の古文書をめぐる、公家・武家・寺社などの政治的・社会的関係について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
講義中には、古文書の訓読や解釈について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他
本講義は、一定程度のくずし字の解読能力を備えていることを前提とし、古代・中世文書の様式・機能に重きを置く歴史学的な内容である。また、原本を調査するアクティブ・ラーニングの要素も含まれる。履修にあたっては注意すること。 本講義を履修することが認められるのは、前年度までに「古文書解読」「歴史学」のいずれかを受講し、単位を修得した人のみである。要件を満たさない履修は許可できないので、登録にあたっては注意すること。

科目名	古文書解読A							学 期	後期
副 題	訴訟文書を読む				授業方法	講義	担当者	西川哲矢	
ナンバリング	G2-12-140	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
この講義では、近世の法・訴訟に関わる史料を読む。本年度は、享保6年（1721）～慶応4（1868）に大和川筋の村々（現大阪府）に生じた水論（水争い）に関する史料「待井・榎本本両樋論用書」を題材とする。古文書の解読能力を高めるとともに、近世の紛争解決の特徴や訴訟制度の発達などの知見を深めることも目的とする。 なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標
①近世の古文書に関する読解能力を身につける。 ②地域史料についての知見を深める。 ③歴史に関する知見、史料批判、史料調査について、基礎的な認識を得られるようになる。

授業計画
1．オリエンテーション（古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など）
2．引き札（近世の広告）を読む① くずし字表現に慣れる
3．引き札（近世の広告）を読む② くずし字表現に慣れる
4．「待井・榎本本両樋論用書」を読む①（安永6年の訴訟文書） 近世特有の言葉遣いを把握する
5．「待井・榎本本両樋論用書」を読む②（安永6年の訴訟文書）翻刻資料を頼りに解読
6．「待井・榎本本両樋論用書」を読む③（安永6年の訴訟文書）現代語訳された資料を頼りに解読
7．「待井・榎本本両樋論用書」を読む④（安永6年の訴訟文書）続・現代語訳された資料を頼りに解読
8．「待井・榎本本両樋論用書」を読む⑤（安永6年の訴訟文書）訴訟文書様式を学ぶ
9．「待井・榎本本両樋論用書」を読む⑥（安永7年の訴訟文書）続・訴訟文書様式を学ぶ
10．「待井・榎本本両樋論用書」を読む⑦（安永7年の訴訟文書）契約文書を学ぶ
11．「待井・榎本本両樋論用書」を読む⑧（安永7年の訴訟文書）続・契約文書を学ぶ
12．「待井・榎本本両樋論用書」を読む⑨（安永7年の訴訟文書）近世の紛争解決の作法を学ぶ
13．「待井・榎本本両樋論用書」を読む⑩（安永7年の訴訟文書）続・近世の紛争解決の作法を学ぶ
14. 山内寺院の調査①
15. 山内寺院の調査②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（90分） 講義内容の要点をメモし、図書館で関連図書を読むこと（90分）

テキスト
児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993年） ※書店で購入。また、授業中適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等
①『日本国語大辞典 第2版』全13巻・別巻1巻（小学館、2000～2002年） ②佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997年） ③地方史研究協議会『日本の歴史を突き詰める：おおさかの歴史（シリーズ・地方史はおもしろい）』（文学通信、2022年） その他、適宜授業中に示す。

学生に対する評価
授業中の参加態度（予習および発言、30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基礎的なくずし字を解読できる。
（B）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
（A）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
（S）古文書の読解能力を習得するとともに、近世史学の歴史的意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
講義は、古文書の読解について随時試問して進める。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他
本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、課題を出すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。 『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること（より安価な『くずし字解読辞典』ではないので、購入の際には要注意）。 なお、本演習では、2回分の時間を史料調査にあてる予定。 この講義を受講しなければ「古文書学」の受講は認められないので注意すること。 受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	社会学／社会保障A（別）							学 期	前期
副 題	家族の今昔					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	G1-11-141	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
家族という枠組みに注目しながら、現代家族と伝統家族を比較する。家族が現在置かれている状況を歴史的な経緯を視野に入れながら理解することを目指す。具体的には、家族をめぐるいくつかのトピックスを取り上げ講義を行う。

授業の到達目標
家族を中心とした現代の社会問題を歴史社会学の視点から検討し、相対化することを通して、大学教育で必要とされる基礎的な考え方を修得する。

授業計画
1.「家族」は当たり前か？①
2.「家族」は当たり前か？②
3.人口と家族①現在
4.人口と家族②過去
5.結婚・離婚①現在
6.結婚・離婚②過去
7.子どもと家族①現在
8.子どもと家族②過去
9.老人と家族①現在
10.老人と家族②過去
11.先祖祭祀と家族①現在
12.先祖祭祀と家族②過去
13. 労働と家族①現在
14. 労働と家族②過去
15.家族を相対化する

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
西野理子・米村千代『よくわかる家族社会学』（ミネルヴァ書房、2019 年）、森本一彦『先祖祭祀と家の確立』（ミネルヴァ書房、2006 年）、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価
定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明した基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した家族事象を説明できる。
（A）授業で説明した家族事象を社会学的に相対化して説明できる。
（S）授業で説明した家族事象をもとに自分の意見を言うことができる。

課題に対するフィードバックの方法
小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他
・人間学科の 2019 年度入学生以降は、基礎科目として人間学科の学生は全員必修であるので、必ず履修すること。・社会福祉主事任用資格の科目である。・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題に興味を持ち、今何が起こっているのかを確認しておくこと。

科目名	現代の人権／人権と福祉（別）							学 期	後期
副 題	人権を守る仕組みと基本的人権について				授業方法	講義	担当者	竹村和也	
ナンバリング	G1-09-142	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきている。本講義は、まず憲法の定める基本的な統治の仕組みを、特に立法のプロセスを中心に概観し、その後、憲法上の権利及びその権利の現代的展開に焦点を当て、法的な側面から現代社会を理解する。

授業の到達目標
統治の基本的な仕組みを学び、現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で、修得する。また、及び現在の法のあり方について批判的思考ができるようになる。

授業計画
1．イントロダクション
2．人権を守る仕組み①(国会と内閣の仕組み)
3．人権を守る仕組み②（立法過程）
4．人権を守る仕組み③（裁判所と裁判過程）
5．憲法の制定過程①（憲法の成り立ち）
6．憲法の基本原理②（憲法押付け論）
7．国際的人権保障①（国家主権体制と国際人権）
8．国際的人権保障②（国際的な人権保障の枠組み）
9．憲法における人権総論規定
10. 医療における自己決定権（治療選択の権利・死ぬ権利）
11. 新たな医療技術とそれを用いる権利
12. 子どもを産む権利・生まない権利
13. 平等権①（概説と最近の最高裁判所判決）
14. 平等権②（家族における平等）
15. その他の権利（表現の自由とヘイトスピーチなど）

準備学習（予習・復習）・時間
授業時に配布する授業内容の確認のための印刷物を十分に理解しておくこと・授業時に配布する印刷物（テキスト）を熟読すること（所要予定時間は60分）、また授業で指示するテーマについて資料を読み、レポートにまとめること（所要予定時間は180分）。

テキスト
特に定めない。授業ではパワーポイントを用いるが、そのスライドを配布する。また、授業で参考となる印刷物を配布することもある。

参考書・参考資料等
竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（晃洋書房、第5版、2018年）、青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013年）、ディヴィッド・S・ロー、西川伸一訳 『日本の最高裁を解剖する』 （現代人文社、2013年）

学生に対する評価
定期試験（最終レポートを課した場合にはこのレポート）(80%) 授業中のミニッツ・ペーパーや持ち帰りの課題提出、授業への積極的な参加 (20%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）それなりの努力が読み取れる場合
（B）内容を概ね理解したと思われる場合
（A）授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている場合
（S）授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されていると共に批判的な検討が行われている場合

課題に対するフィードバックの方法
授業終了時に小テストについて解説を行う。また、提出されたレポートについて、講評を行う。質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
授業はパワーポイントを利用し講義形式とするが、授業の中で議論を試みるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業である。社会において現代の人権と関わる新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱うとともに、学生諸君の関心により変更の可能性がある。期末筆記試験の形式やレポート課題は人により若干異なる。受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではない。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。

科目名	宗教学方法論							学 期	前期
副 題	戦後日本のコスモロジー				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	G2-03-143	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
戦後日本の娯楽映画作品を中心に取り上げ、それらの作中で描かれる「日本」のさまざまな象徴化や排除の構造分析をつうじて、宗教学の方法論を理解する。

授業の到達目標
戦後日本文化の分析をつうじて、宗教学の方法論を理解する。

授業計画
1.ガイダンスの後、宗教学の方法論について概説
2.戦後日本の成立と忘却・否認――『君の名は』『ジャコ萬と鉄』
3.娼婦から母へ――『カルメン故郷に帰る』『二十四の瞳』
4.兵士からアウトローへ――「渡り鳥」シリーズ、「網走番外地」シリーズ
5.列島を血肉化する――『憎いあンちくしょう』『家族』
6.南島はどう描かれたか――『潮騒』『神々の深き欲望』『夏の妹』
7.再発見される「ジャパン」――「男はつらいよ」シリーズ①
8.結ばれない男と女の戦後――「男はつらいよ」シリーズ②
9.アウトローから少女へ――『野性の証明』『セーラー服と機関銃』
10.聖化される少女――『ルパン三世　カリオストロの城』「尾道三部作」
11.まなざしをめぐる少女と少年――『ヘルター・スケルター』『AKIRA』
12.無縁社会の到来――『ソナチネ』『もののけ姫』
13.少女だけの世界で――『下妻物語』『フラガール』
14.名を取り戻す――『君の名は。』『ゴールデンカムイ』
15.まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、次回とりあげる作品についての基本情報を調べておくこと（90 分）。 事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90 分）。

テキスト
授業中に適宜配布する。

参考書・参考資料等
特に指定しない。

学生に対する評価
期末レポート（70%）、授業中の発言、発表（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）映画作品の内容を正確に読み解くことができる。
（B）宗教学の方法論をポストコロニアル批判に応用して日本文化を読解できる。
（A）宗教学の方法論をジェンダー批判に応用して日本文化を読解できる。
（S）宗教学の方法論を応用し、自分なりの言葉で現代社会の問題点を指摘できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国語学Ⅰ							学 期	前期
副 題	日本語研究の基礎的な方法を解説する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-05-144	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらう。

授業の到達目標
言語としての日本語について基本的な理解を深める。

授業計画
1.言語と人間二重分節性、言語の機能（1）
2.言語と人間二重分節性、言語の機能（2）
3.日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（1）
4.日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（2）
5.日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（1）
6.日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（2）
7.日本語の音声・音韻清濁、拗音（1）
8.日本語の音声・音韻清濁、拗音（2）
9.日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（1）
10.日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（2）
11.日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（1）
12.日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（2）
13.日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（1）
14.日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（2）
15.日本語の文字表記平仮名・片仮名、ローマ字

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業で行った日本語学における要点の整理を行い、キーワードを覚える（３０分）。

テキスト
藤田保幸『緑の日本語学教本』、和泉書店、2010 年　（書店で購入）

参考書・参考資料等
ジョージ・ユール『現代言語学２０章－言葉の科学』、大修館書店、２０００

学生に対する評価
都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
（B）言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
（A）言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
（S）課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業の終わりに質問と意見を提出、次回の授業のはじめにコメントともにフィードバック。都度の課題に対して解を提示、不明点を説明。

その他
授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国語学Ⅱ							学 期	後期
副 題	日本語の特徴を具体例から考察する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-05-145	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらうようにする。

授業の到達目標
言語としての日本語について基本的な理解を深める。

授業計画
1. 日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（1）
2. 日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（2）
3. 日本語の語彙語種（和語･漢語・外来語）（1）
4. 日本語の語彙語種（和語･漢語・外来語）（2）
5. 日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（1）
6. 日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（2）
7. 本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（1）
8. 本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（2）
9. 日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（1）
10. 日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（2）
11. 日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言周圏論（1）
12. 日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言周圏論（2）
13. 日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（1）
14. 日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（2）
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業での日本語学の要点を整理し、キーワードを覚える（３０分）。

テキスト
藤田保幸『緑の日本語学教本』、和泉書店、2010 年　（書店で購入）

参考書・参考資料等
ジョージ・ユール『現代言語学２０章－言葉の科学』、大修館書店、２０００

学生に対する評価
都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
（B）言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
（A）言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
（S）課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

課題に対するフィードバックの方法
都度の課題に対して解を提示、コメントとともにフィードバック。期末の試験に対して、解とコメントをフィードバック。

その他
授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国文法Ⅰ							学 期	前期
副 題	古典文法の習得Ⅰ―用言・助詞―				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-146	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
古文（および漢文）を正しく理解するためには、古典文法（文語文法）の知識は必須である。本講義では、古典文法の正しい知識を習得し、古典作品を読解できるようになることを目指す。前期は主に、用言（述語になる品詞―動詞・形容詞・形容動詞）の活用とその種類、および助詞を中心に講義する。

授業の到達目標
古文（および漢文）を正しく解釈できるように、古典文法の正しい知識を得る。

授業計画
1. ガイダンス―なぜ古典文法を学ぶのか―
2. 文語文法と口語文法
3. 品詞の分類
4. 動詞の活用①　四段活用・上二段活用・下二段活用
5. 動詞の活用②　上一段活用・下一段活用
6. 動詞の活用③　変格活用
7. 形容詞・形容動詞の活用・語幹用法
8. 用言の総合問題
9. 助詞①　格助詞
10. 助詞②　接続助詞
11. 助詞③　副助詞
12. 助詞④　係助詞・係り結び
13. 助詞⑤　終助詞・間投助詞
14. 学習到達度の確認（筆記試験）
15. まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲の参考書を読み（予習 60 分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テスト・定期試験に向けて準備しておくこと（復習 90 分）。

テキスト
教員が作成した教材（プリント）を使用する。

参考書・参考資料等
高校で使用した「古典文法」の教科書・副読本（どこの出版社のものでも可）、古語辞典（電子辞書でも可）

学生に対する評価
定期試験（50%）、小テスト（30%）、講義への取り組み（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）文法を学ぶ意義について理解し、基本的な文法事項の意味を理解している。
（B）用言の活用の種類についての基本的知識を習得している。
（A）用言の活用の種類・助詞についての基本的知識を習得している。
（S）用言の活用の種類・助詞についての基本的知識を習得し、読解に際して的確に運用することができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義後に質問を受け付け、複数回の小テストでは解説を施す。

その他
受講者については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国文法Ⅱ							学 期	後期
副 題	古典文法の習得Ⅱ―助動詞・敬語―				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-147	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
古文（および漢文）を正しく解釈するためには、古典文法（文語文法）の知識は必須である。特に日本語は細かなニュアンスが助詞・助動詞に集中するため、助動詞の知識は大切である。本講義では、主に助動詞についての正しい理解を習得し、古典作品が読解できるようになることを目指す。また、古典では身分制が厳格なため、敬語についても基本的な事項の理解が必要となる。敬語を通して人物関係を理解し、より深く作品が読み取れるようになることを目指す。

授業の到達目標
助動詞の正しい知識と敬語の基本的な事項を理解する。

授業計画
1. ガイダンス―助動詞への招待―
2. 助動詞①　「ず」「き」「けり」
3. 助動詞②　「つ」「ぬ」「たり」「り」
4. 助動詞③　「る」「らる」「す」「さす」「しむ」
5. 助動詞④　「む」「むず」「らむ」「けむ」「じ」
6. 助動詞⑤　「べし」「まじ」
7. 助動詞⑥　「たし」「まほし」「らし」「めり」「まし」
8. 助動詞⑦　「なり」「たり」「なり」「ごとし」
9. まぎらわしい語の識別
10. 敬語①　敬語の基本（構造・種類）
11. 敬語②　注意すべき敬語表現
12. 敬語③　敬語の練習問題
13. 文章読解の実際
14. 学習到達度の確認（筆記試験）
15. まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲の参考書を読み（予習 60 分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テスト・定期試験に向けて準備しておくこと（復習 90 分）。

テキスト
教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等
高校で使用した「古典文法」の教科書・副読本（どこの出版社のものでも可）、古語辞典（電子辞書でも可）

学生に対する評価
定期試験（50%）、小テスト（30%）、講義への取り組み（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）助動詞についての基本的知識を習得している。
（B）助動詞と敬語についての基本的知識を習得している。
（A）助動詞と敬語についての基本的知識を習得し、まぎらわしい語の識別ができている。
（S）文語文法の基本的知識を習得し、読解に際して的確に運用することができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業の後に質問を受け付け、複数回の小テストでは解説を施す。

その他
受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文学史概説Ⅰ							学 期	前期
副 題	日本文学の流れ―上代～中世前期―				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-148	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
上代（奈良時代）から中古（平安時代）、さらに中世前期（鎌倉時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識を学ぶだけでなく、できるだけ作品の一部を取り上げ、実際に読むことを通して、作品の成立した時代背景などを関わらせながら、広い視野で文学を考える態度を養う。

授業の到達目標
上代から中世までの文学の歴史を理解するとともに、時代背景などを踏まえて文学を考える態度を身につける。

授業計画
1. ガイダンス／上代①　文学の発生・文字の伝来
2. 上代②　祭祀・神話・地誌・説話（古事記・日本書紀・風土記・祝詞・日本霊異記ほか）
3. 上代③　古代歌謡・万葉集１（第Ⅰ・Ⅱ期）
4. 上代④　万葉集２（第Ⅲ・Ⅳ期）
5. 中古①　漢詩文・仮名の誕生
6. 中古②　和歌（三代集ほか）
7. 中古③　日記・随筆（土佐日記・蜻蛉日記・和泉式部日記・枕草子ほか）
8. 中古④　物語１（前期物語）
9. 中古⑤　物語２（源氏物語）
10. 中古⑥　院政期―和歌（後拾遺集・金葉集・詞花集・歌学と歌合）
11. 中古⑦　院政期―説話（今昔物語集）・歌謡（梁塵秘抄）
12. 中古⑧　院政期―物語（後期物語・歴史物語）
13. 中世①　和歌１（千載集・新古今集）
14. 中世②　和歌２（十三代集・連歌・歌謡）
15. 中世③　日記・紀行（十六夜日記・うたたね・海道記ほか）／前期まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲を参考書で調べ（予習 60 分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テストやレポートに向けて準備しておくこと（復習 90 分）。

テキスト
教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等
秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史』（文英堂、2000 年）　村尾誠一『教養としての日本古典文学史』（笠間書院、2022 年）　その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
毎回のコメントカード（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）日本文学史の基礎的な知識を理解している。
（B）日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解している。
（A）日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解し、読解に活用することができている。
（S）日本文学史の基礎的な知識と作品の内容を、その作品が成立した時代背景との関わりから考えることができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。また小テストについては解説を施す。

その他
受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅱ							学 期	後期
副 題	日本文学の流れ―中世後期～近現代―				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-149	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
中世後期（鎌倉・室町時代）から近世（江戸時代）、さらに近現代（明治～戦後）までの日本文学史を概説する。文学史の知識を学ぶだけでなく、できるだけ作品の一部を取り上げ、実際に読むことを通して、作品の成立した時代背景などを関わらせながら、広い視野で文学を考える態度を養う。

授業の到達目標
中世から近現代までの文学の歴史を理解するとともに、時代背景などを踏まえて文学を考える態度を身につける。

授業計画
1．ガイダンス／中世④　随筆（方丈記・徒然草）
2．中世⑤　軍記・史論（平家物語・太平記・愚管抄・神皇正統記ほか）
3．中世⑥　物語（中世王朝物語・御伽草子）・御伽草子・説話（沙石集・宇治拾遺物語ほか）
4．中世⑦　芸能（能・狂言ほか）・宗教文学（仮名法語・五山文学・キリシタン文学ほか）
5．近世①　概説（時代区分・出版文化）・仮名草子（浅井了意ほか）
6．近世②　浮世草子（井原西鶴・八文字屋本）
7．近世③　和歌（後水尾院・県門・江戸派・桂園派ほか）・国学
8．近世④　俳諧（貞門・談林・蕉風ほか）・川柳・狂歌
9．近世⑤　芸能（浄瑠璃・歌舞伎）
10．近世⑥　読本（前期―上田秋成ほか・後期―曲亭馬琴ほか）
11．近世⑦　戯作（洒落本・滑稽本・黄表紙・合巻・人情本ほか）
12．近代①　幕末～明治中期（開化文学・写実主義・浪漫主義・自然主義ほか）
13．近代②　明治後期～大正（反自然主義・耽美派・白樺派・新思潮派ほか）
14．近代③　昭和前期（プロレタリア文学・新感覚派・戦時下文学ほか）
15．近代④　戦後（無頼派・第三の新人・内向の世代ほか）／後期まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲を参考書で調べ（予習 60 分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テストやレポートに向けて準備しておくこと（復習 90 分）。

テキスト
教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等
秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史』（文英堂、2000 年）　村尾誠一『教養としての日本古典文学史』（笠間書院、2022 年）　安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2020 年新装版）その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
毎回のコメントカード（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）日本文学史の基礎的な知識を理解している。
（B）日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解している。
（A）日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解し、読解に活用することができている。
（S）日本文学史の基礎的な知識と作品の内容を、その作品が成立した時代背景との関わりから考えることができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。また小テストについては解説を施す。

その他
受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学Ⅰ							学 期	前期
副 題	「日本文学」を読む―上代・中古―				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-150	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。前期は主に上代・中古の文学を取り上げる。

授業の到達目標
日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

授業計画
1．ガイダンス／「日本 - 文学」とは何か
2．日本文学を学ぶために―時代区分・ジャンル―
3．文学を伝える「かたち」
4．神話の世界
5．古代歌謡と『万葉集』
6．王朝和歌と平安貴族の生活
7．「日記」と文学
8．レポートの書き方
9．「物語」の誕生
10. 女房文学の時代
11. 『源氏物語』の世界①
12. 『源氏物語』の世界②
13. 説話の世界
14. 院政期の文学
15. レポート講評／「中世」の始発

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（予習 60 分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（復習 90 分）。

テキスト
教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等
高校で使用した「国語便覧」（どの出版社のものでも可） 秋山虔ほか編『日本古典読本』（筑摩書房、1988年） その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）日本文学の作品を覚えている。
（B）他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べることができている。
（A）日本文学の特徴を理解し、自分の言葉で表現することができている。
（S）日本文学について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他
講義に関する疑問などは、コメントカードを活用してほしい。 3 分の 1（6 回）以上欠席した場合、評価しない。 古語や古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書を持ち込んでもよい。

科目名	日本文学Ⅱ							学 期	後期
副 題	「日本文学」を読む―中世・近世―				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-151	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。後期は主に中世・近世の文学を取り上げる。

授業の到達目標
日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

授業計画
1. ガイダンス／「文学研究」とは何か
2. 中世和歌の世界
3. 戦乱の時代と軍記物語
4. 『方丈記』と『徒然草』
5. 中世の芸能
6. 文学と宗教
7. 出版・町人文化と文学
8. レポートの書き方
9. 芭蕉の世界
10. 国学者たちの活動
11. 上田秋成と曲亭馬琴
12. 近代化する社会と文学
13. 古典文学と近現代文学①
14. 古典文学と近現代文学②
15. レポート講評／まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（予習 60 分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（復習 90 分）。

テキスト
教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等
高校で使用した「国語便覧」（どの出版社のものでも可） 秋山虔ほか編『日本古典読本』（筑摩書房、1988年） その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）日本文学の作品を覚えている。
（B）他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べることができている。
（A）日本文学の特徴を、自分の言葉で表現できている。
（S）日本文学について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他
講義に関する疑問などはコメントカードを活用してほしい。 3 分の 1（6 回）以上欠席した場合、評価しない。 古語や古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書を持ち込んでもかまわない。

科目名	漢文学概論Ⅰ							学 期	前期
副 題	漢文の散文を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-04-152	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
志怪・伝奇小説の流れを汲む『聊斎志異』を読む。和訳を参照しながら、句読点の付いた漢文を訓読する。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。登場人物の行動・心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

授業の到達目標
漢文で書かれた散文作品を読み、漢文読解の能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢文の文体・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用方法・説明する力など。国語教員に必要な技術を修得する。

授業計画
1. 戯術（1）「有桶戯者……」を読む。
2. 戯術（2）「旋出……」を読む。
3. 戯術（3）「猶空桶……」を読む。
4. 戯術（4）「利津李見田……」を読む。
5. 戯術（5）「不成而去……」を読む。
6. 戯術（6）「固哀之……」を読む。
7. 戯術（7）「果一一俱在……」を読む。
8. 丐僧（1）「済南一僧……」を読む。
9. 丐僧（2）「与以酒食……」を読む。
10. 丐僧（3）「師既不茹葷酒……」を読む。
11. 丐僧（4）「僧合眸諷誦……」を読む。
12. 丐僧（5）「要如此化……」を読む。
13. 丐僧（6）「叩之数四……」を読む。
14. 到達度の確認
15. 前期の総復習

準備学習（予習・復習）・時間
テキストの該当箇所を訓読できるように予習する（60 分）。 文章の背景にある歴史や文化について調べる（30 分）。

テキスト
コピーを配布する。

参考書・参考資料等
携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価
小テスト（100%）、または期末筆記試験（100%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）漢文法に基づいて、文章の分析ができる。
（B）漢文法に基づいて、返り点を付けることができる。
（A）漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
（S）漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

課題に対するフィードバックの方法
○質問や意見については、授業内で対応する。　○オフィス・アワーでも対応する。

その他
授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文学概論Ⅱ							学 期	後期
副 題	『唐詩選』を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-04-153	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『唐詩選』を読み、近体詩の特徴を知る。注釈を読むことにより、訓読・読解・鑑賞の訓練をする。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。作者の行動や心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

授業の到達目標
漢詩を読解する能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢詩の特徴・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用方法・説明する力など。国語教員に必要な技術を修得する。

授業計画
1. 漢詩の基本
2. 漢詩の基本
3. 「五日観妓」(1)「西施謾道浣春紗」を読む
4. 「五日観妓」(2)「碧玉今時鬬麗華」を読む
5. 「五日観妓」(3)「眉黛奪将萱草色」を読む
6. 「五日観妓」(4)「紅裙妬殺石榴花」を読む
7. 「五日観妓」(5)「新歌一曲令人豔」を読む
8. 「五日観妓」(6)「酔舞双眸斂鬢斜」を読む
9. 「五日観妓」(7)「誰道五絲能続命」を読む
10. 「五日観妓」(8)「卻令今日死君家」を読む
11. 「杜侍御送貢物戯贈」(1)「銅柱朱崖道路難」を読む
12. 「杜侍御送貢物戯贈」(2)「伏波横海旧登壇」を読む
13. 「杜侍御送貢物戯贈」(3)「越人自貢珊瑚樹」を読む
14. 到達度の確認
15. 後期の復習

準備学習(予習・復習)・時間
テキストの該当箇所を訓読できるように予習する(60 分)。 文章の背景にある歴史や文化について調べる(30 分)。

テキスト
コピーを配布する。

参考書・参考資料等
携帯用の漢和辞典として『新字源』(角川書店)、あるいは『漢語林』(大修館書店)を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価
小テスト(100%)、または期末筆記試験(100%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C)漢詩の規範を理解し、漢文法に基づいて、文章を分析することができる。
(B)漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
(A)漢文を逐語訳することができる。
(S)漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

課題に対するフィードバックの方法
○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他
授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化特殊講義A							学 期	後期
副 題	『建礼門院右京大夫集』を読む				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-04-154	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
建礼門院右京大夫は、『源氏物語』の古注釈書『源氏釈』で知られる世尊寺（藤原）伊行を父とし、高倉天皇中宮建礼門院徳子（平清盛女）に仕えた女房である。その家集『建礼門院右京大夫集』は、作品冒頭によれば自身の生涯のうちの忘れがたい出来事を書き留めたもので、主に出仕時代の思い出や、平資盛・藤原隆信との恋愛といった内容が、長大な詞書を伴う和歌によって記されており、私家集でありながら日記ともいえるような作品である。本講義では、『建礼門院右京大夫集』を通して、古典文学の読み方や特徴を考える。

授業の到達目標
『建礼門院右京大夫集』の特徴、時代背景、和歌の基礎知識、古典常識などを説明することができるようになる。

授業計画
1．ガイダンス／和歌とはどのような文学か
2．『建礼門院右京大夫集』とその時代
3．『建礼門院右京大夫集』の作者と成立圏①
4．『建礼門院右京大夫集』の作者と成立圏②
5．『建礼門院右京大夫集』の内容と構成①
6．『建礼門院右京大夫集』の内容と構成②
7．「日記」と「私家集」のあいだ
8．『建礼門院右京大夫集』を読む①
9．『建礼門院右京大夫集』を読む②
10. 『建礼門院右京大夫集』を読む③
11. 『建礼門院右京大夫集』を読む④
12. 『建礼門院右京大夫集』を読む⑤
13. 『建礼門院右京大夫集』を読む⑥
14. 『建礼門院右京大夫集』を読む⑦
15. レポート講評／まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み（60 分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90 分）。

テキスト
教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等
新編日本古典文学全集『建礼門院右京大夫集・とはずがたり』（久保田淳校注・訳、小学館、1999 年） 中世日記紀行文学全評釈集成『建礼門院右京大夫集』（辻勝美・野沢拓夫校注、勉誠出版、2004 年） 糸賀きみ江『建礼門院右京大夫集　全訳注』（講談社学術文庫、2009 年）その他、講義中に指示する。

学生に対する評価
毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）和歌を含む古典文学の基本的な知識や読み方を理解している。
（B）『建礼門院右京大夫集』とその成立・歴史的背景について理解している。
（A）『建礼門院右京大夫集』について、何らかの意見を述べることができている。
（S）『建礼門院右京大夫集』について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他
国語の教員免許取得を目指す学生・日本文学で卒業論文を書くことを目指す学生は受講することが望ましい。 私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	中国文化特殊講義A							学 期	後期
副 題	『説文解字』を読む				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	G3-26-155	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	―

授業の目的と概要

〔漢〕許慎『説文解字』は文字を系統的に分析し、字源の考察をした最古の文字学の専門書である。特に許慎『説文解字』とその背景、またその部首の基礎的知識の修得。『説文解字』を講読することにより、中国哲学を理解するきっかけにし、空海『篆隷万象名義』や顧野王『玉篇』の漢字思想に辿りつくことを目的とする。・『説文解字』以前の古代文字と触れることにより、許慎の間違いを指摘する。

授業の到達目標

1、『説文解字』を学ぶことにより古代文字の基礎知識を修得し、その内容（漢文）の講読力を向上させる。2、東洋文化の根幹である漢字に興味を持ち、中国文化へ目を向ける第一歩とすることを到達目標とする。3、説文の研究において、異体字及び漢字の正・通・俗を理解する。4、表意文字としての漢字理解を通して、密教研究につなげることを到達目標とする。

授業計画

1.表意文字と表音文字及び漢字の特徴
2.『説文解字』の背景とその関連書①〔許慎の人物像を探る）
3.『説文解字』の背景とその関連書②（二徐本や『段注』との比較により、原本を探る）
4.部首と重文について
5.「六書」について①（象形・指事・会意）
6.「六書」について②〔形声・転注・仮借）
7.説文部首第一巻の部目を読む①（一～示）
8.説文部首第一巻の部目を読む②（三～玉）
9.説文部首第一巻の部目を読む③（珏～士）
10.説文部首第一巻の部目を読む④（丨～艸）
11.説文部首第一巻の部目を読む⑤（蓐～㞢）
12.説文部首第二巻の部目を読む①（小～半）
13.説文部首第二巻の部目を読む②（牛～口）
14.説文部首第二巻の部目を読む③（凵～走）
15.先行研究の問題点を列挙し、甲骨文・金文とを比較する。

準備学習（予習・復習）・時間

担当する部目文字について調べて纏め、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。（６０分） その他、別途授業中に個々に指示する。（６０分）

テキスト

・〔漢〕許慎『説文解字』中華書局、中国書店または江蘇古籍出版社（個々に東方書店にて購入）http://www.toho-shoten.co.jp/

参考書・参考資料等

・『字通』（平凡社）・『説文新義』（平凡社）・『漢字学』（東海大学出版会）・『訓読説文解字注』（東海大学出版会）・『王福庵説文部首目』（西泠印社）・その他必要に応じて指事したり、プリントを配ったりする。

学生に対する評価

・基本的に期末テスト（60%）＋それぞれの発表及び提出物（40%）での評価をする。（素点）・毎回の発表を10点満点で計算する。各時欠席－３点、遅刻－１点を算出する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）それぞれの漢字を『説文解字』により、自発的に調べ上げることができる。
（B）それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、原文の内容を理解する。
（A）それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、自分の研究と先人の見識の違いを発表できる。
（S）毛筆にて、課題の小篆作品を高いレベルで作り上げることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・指定された時間に、教壇にて発表する。講義１５回目に定期試験の総評を行い、過去に問題のあった箇所を再度討論する。

その他

・「六書」及び本文の内容に入ったら、毎回個々に課題が課され、次週に発表をして頂く形式をとる。・受講者の人数等により、進度が大きく変わることが予想される。・『新字源』（角川書店）、『新撰漢和辞典』（小学館）、『全訳漢辞海』（三省堂）、『漢字源』（学研）、『漢語林』、『漢語新辞典』（大修館）のうち、どれか一冊を必ず持参すること。版は問わないが、できるだけ新しいものがよい。（電子辞典を持してもかまわないが、必ず紙媒体の辞典も持参すること）。※全体的な能力や達成度を見て、変更あり。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

芸術系大学院教員及び研究者として経験を持つ教員が、漢字の歴史と他分野への関連性について知識を提供し、指導する。

科目名	日本国憲法							学 期	後期
副 題	社会生活における基礎的教養としての諸ルール				授業方法	講義	担当者	竹村和也	
ナンバリング	G1-09-156	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
憲法は国の基本的なあり方を定めた法であり、また守るべき理念や価値を定めた法である。憲法を具体的に実現するものが法律であり、法律は大きく私法と公法に分かれる。本講義では憲法を念頭に置きながら、この私法と公法の概略について学ぶ。具体的には、財産権との関連において、私法の中の一般法である民法の財産法、平等権との関連において家族法をまず取り上げ、その後に、刑事人権との関連において、公法の中の刑事法を扱う予定。

授業の到達目標
民事法と刑事法についての基本的な知識を修得し、対象となる諸制度について批判的な思考ができるようになる。

授業計画
1.イントロダクション（法の体系と憲法の特質及び紛争処理）
2.財産権と私法①（物権①：用益物権）
3.財産権と私法②（物権②：担保物件）
4.財産権と私法③（契約①：様々な契約と契約の成立）
5.財産権と私法④（契約②：契約の履行・不履行）
6.財産権と私法⑤（不法行為）
7.平等権と家族①（家族法：婚姻）
8.平等権と家族②（家族法：離婚・子ども）
9.刑事司法の過程と身体的自由権①（捜査の手続き）
10.刑事司法の過程と身体的自由権②（憲法における被疑者の権利）
11.刑事司法の過程と身体的自由権③（裁判の手続き）
12.刑事司法の過程と身体的自由権④（憲法における被告人の権利）
13.国民の司法参加①（陪審制度・参審制度）
14.国民の司法参加②（裁判員制度）
15.犯罪被害者の権利と立憲主義

準備学習（予習・復習）・時間
授業時に配布する授業内容の確認のための印刷物を十分に理解しておくこと（所要予定時間は 60 分）,、また授業で指示するテーマについて資料を読み、レポートにまとめること（所要予定時間は 180 分）

テキスト
特に定めない。授業ではパワーポイントを用いるが、そのスライドを配布する。また、授業で参考となる印刷物を配布する。

参考書・参考資料等
竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（晃洋書房、第 5 版、2018 年）、青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013 年）、鎌野邦樹『不動産の法律知識 第 2 版』（日本経済新聞出版社、2017 年）、今村核『冤罪と裁判』（講談社現代新書、2012 年）

学生に対する評価
定期試験により（80%）授業中のミニッツ・ペーパーや小テスト、授業への積極的な参加により（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）それなりの努力が読み取れる答案
（B）内容を概ね理解したと思われる答案
（A）授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている答案
（S）授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されているとともに、批判的な検討が行われている場合

課題に対するフィードバックの方法
授業終了時に小テストについて解説を行う。また、提出されたレポートについて、講評を行う。質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
社会的に注目される新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱い、進度により適宜変更の可能性はあるため、あくまで目安。受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件では無い。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。調査学習を取り入れた、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢字Ⅱ							学 期	通年
副 題	漢字１からのステップアップ				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-06-157	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
臨書中心の実技の授業であり、楷書体、行書体、草書体などの書体の表現方法を修得する。法帖を客観的に見る目を養い、臨書しながら線と空間書の奥深さを探求する。学生によっては参考に指導者が示範する場合もある。授業中だけ筆を執って書くだけでは絶対に上達はしない。自宅でも日課として、筆を持つよう心がけて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。

授業の到達目標
【前期】前期は書体を楷書体、行書体に限定し、その中から一つの法帖を自分で選択し、実習する。その法帖の形、線の特徴をつかみ、実際に上手に表現できるように努める。【後期】上記２書体に草書体を加えた書体から法帖を一冊選び、その法帖の形、線などの特徴が、実際に表現できるように努める。＊篆隷または漢字かな交じり文を学びたい場合は、相談の上決定したい。

授業計画
【前期】
1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2. 法帖の臨書
3. 法帖の臨書
4. 法帖の臨書
5. 法帖の臨書
6. 法帖の臨書
7. 法帖の臨書
8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9. 法帖の臨書
10. 法帖の臨書
11. 法帖の臨書
12. 法帖の臨書
13. 法帖の臨書
14. 法帖の臨書
15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

【後期】
1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2. 法帖の臨書
3. 法帖の臨書
4. 法帖の臨書
5. 法帖の臨書
6. 法帖の臨書
7. 法帖の臨書
8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9. 法帖の臨書
10. 法帖の臨書
11. 法帖の臨書
12. 法帖の臨書
13. 法帖の臨書
14. 法帖の臨書
15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

準備学習（予習・復習）・時間
自分が選んだ法帖の特徴や筆者について基礎的な知識を予習すること。制作の構想をしっかりと考え、書体形式を決めて臨書を繰り返し練習し、どこをどう工夫すれば良いかを考えること。（計１２０分以上）。

テキスト
各自が二玄社あるいは別の法帖の中から相談の上選択する。

参考書・参考資料等
二玄社等の法帖類。字書や二玄社の法帖類、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価
各学期数回のレポート提出、前後期の平均点にて算出する（素点）。各学期欠席３点、遅刻１点の回数を素点より引く。各学期 1/3 の欠席を超えた場合その時点で失格になる。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）臨書している法帖の字形と基本的な筆使いが一応できているか
（B）線がしっかり書けていて臨書を通して、宣紙にうまくまとまっているか
（A）臨書で学んだ事を創作で高いレベルで表現できているか。
（S）非常に高いレベルでの創作能力があり、且つ自身で調べた長落款を上手く調和させているか。

課題に対するフィードバックの方法
毎時、各学生による作品批評を行う。個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。

その他
基本漢字Ⅰと基本同じであり、そちらも熟読の事。受講生は漢字Ⅰの単位取得者に限る。毎回の課題は、反切～全紙サイズの作品提出を課す。授業以外での努力が評価を大きく左右する。また出来るだけ多く下山し、自発的に沢山の展覧会に足を運び多くを見て学んでほしい。全出席を心得る事。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。年度末に開催される学外書道展に出品する。その際表具代等は、個人持ちとする。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が客観的指導により上達させることを目的とする。

科目名	かなⅡ							学期	通年
副　題	三色紙の臨書から創作へ				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	G2-06-158	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】かなⅠおよびそれと同程度のかな経験者を対象に、かなの技術・知識のより上達をめざす。ちらし書きの名品としての古筆「三色紙」を鑑賞し臨書する。 【後期】「三色紙」の中から選択した古筆を繰り返し臨書し、ちらし法を研究し理解する。 さらに古筆をもとに臨書から倣書へと発展させ、作品に仕上げる。 かなⅠで取り上げた「高野切第一種」「高野切第三種」かなⅡでの「三色紙」以外にもさまざまな古筆があることを理解し臨書できるようになる。

授業の到達目標

【前期】かなⅠの基本の上に「寸松庵色紙」の書風を理解し用筆や運筆の技術を身につける。　　【後期】「継色紙」の書風について理解し用筆や運筆の技術を深める。各自古筆を選び、連綿の特徴を読み取りながら、全体としての散らし書きも理解し表現していく。運筆法・紙面へのおさめ方、空間処理を理解し、自己表現の作品制作力を身につける。

授業計画

【前期】

1. 講義目標、概要の解説、用具用材などの説明を聞く。
2. 「寸松庵色紙」の運筆・連綿、構成の特徴を学ぶ。
3. 「寸松庵色紙（ひかせこ）」1　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
4. 「寸松庵色紙（むめのかを）」2　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
5. 「寸松庵色紙（あさはぎの）」3　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
6. 「寸松庵色紙（道しらば）」4　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
7. 「寸松庵色紙（めぬふねは）」5　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
8. 「寸松庵色紙（秋のつき）」6　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
9. 「寸松庵色紙（秋の夜は）」7　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
10. 「寸松庵色紙（あさかせこ）」8　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
11. 「寸松庵色紙（ほおぶくろ）」9　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
12. 課題を提出する。自己評価及び相互批評を行い、書法上の課題を明らかにする。
13. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。1
14. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。2
15. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。3　課題を提出する。

【後期】

1. 「継色紙」の運筆・連綿、構成の特徴を学ぶ。
2. 「継色紙」1　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
3. 「継色紙」2　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
4. 「継色紙」3　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
5. 「継色紙」4　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
6. 「継色紙」5　課題臨書の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
7. 選んだ古筆を臨書する。1・2枚目
8. 選んだ古筆を臨書する。3・4枚目
9. 選んだ古筆を臨書する。5・6枚目
10. 選んだ古筆を臨書する。7・8枚目
11. 課題を提出する。講評する。
12. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。1枚目
13. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。2枚目
14. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。3枚目
15. 1年間のまとめと継続を理解し、自分の意見を述べる。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる（120分）事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。（60分）

テキスト

「日本名筆選12　寸松庵色紙」　二玄社　　「日本名筆選13　継色紙」　二玄社　書店で購入

参考書・参考資料等

「かな古典の学び方2　寸松庵色紙・継色紙」二玄社　　編者 日比野実　「墨ニュークラッシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社 2010年発行

学生に対する評価

授業提出課題（70%）　　授業への主体的な取り組み姿勢（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な筆使いと形が表現できる。
（B）「ちらし書き」の行の流れがうまく表現できる。
（A）基本的な筆法で、墨の扱いを忠実に表現するとともに、「ちらし書き」行の流れも確実に臨書できる。
（S）古筆をもとに自分で高いレベルの「ちらし書き」の制作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

・かなⅠを履修済であること。変体仮名が理解できていること。・書道具一式、古筆臨書用紙は各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）・20分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻2回で欠席1回とする。・前期欠席が5回になった時点で成績は出ない。・授業中のスマホ使用禁止。・優秀な提出作品は2月の高野山大学学外書道展に出品する可能性がある。その場合、表装代は各自の負担とする。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	篆刻							学期	通年
副　題	伝統的中国篆刻を学ぶ				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-06-159	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・「印縦書出」、「印外出印」の篆刻理論を出発点に東洋史における印章の重要性を認識する。・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。前半は書の線条の追及として漢字Ⅰで学んだ小篆を復習する。・国内の他大学にはない中国伝統的書学教育を前提とした篆刻指導を行う。・篆刻を学ぶ上で碑学の基本を体現する。

授業の到達目標

１、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識及び古代文献に捺印されている印文の解読に興味を持つ。２、東洋文化における印章の歴史的重要性及び毛筆との関連性の理解。３、各時代に沿った印章の違いの理解をもっての刻印技術の修得。世の中で唯一の独自の篆刻作品を作ってほしい。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス印材・工具等の説明、紹介並びに古代印章史の概論
2. 古代印章の起源と歴代璽印の変遷
3. 毛筆にて篆書の練習①（鄧石如「白氏草堂記」の前半部分）
4. 毛筆にて篆書の練習②（鄧石如「白氏草堂記」の続きの部分～終わりまで）
5. 毛筆にて篆書の練習③（韓登安の鐵線篆と摹印篆）
6. 刀法と側款の練習①（横・竪・鈎・撇）
7. 刀法と側款の練習②（短撇・捺・側・長鈎）
8. 刀法と側款の練習③（自身の名前と漢詩を刻す）
9. 奏刀の練習①（沖刀・切刀・舞刀の使い分け）
10. 奏刀の練習②（各轉折と起筆・收筆）
11. 雙鈎填墨による陰陽。理論：印章の誕生から時代別の印文の流れ並びに印式の各名称（殷代から漢代まで）
12. 漢印摹刻①〔自身で選択したもの〕
13. 漢印摹刻②（①以外で自身で選択したもの）
14. 漢印創作における印稿練習
15. 漢印創作

【後期】

1. 前期の復習並びに璽印から篆刻への変遷理論
2. 秦印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
3. 秦印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
4. 秦印創作の為の印稿の練習（自分で印文を考える）
5. 秦印創作
6. 将軍印①（自分で選択したものを刻す）
7. 将軍印②（①以外で自分で選択したものを刻す）
8. 将軍印創作の為の印稿練習（自分で印文を考える）
9. 将軍印創作
10. 肖形印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
11. 肖形印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
12. 仏像印摹刻①（來楚生作品の中から自分で選択したものを刻す）
13. 仏像印摹刻②（來楚生作品の中から①以外で自分で選択したものを刻す）
14. 仏像印創作
15. 作品合評、予備

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて課題作品を作ってくる（１８０分以上）・夏休みの課題として漢印の創作作品を補刀まで済ませ、後期の最初の授業で提出する。

テキスト

・書道講座第６巻篆刻（二玄社刊）＊書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宮博物院蔵古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館蔵印選』（上海書画出版社）・蓑毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

・各学期、基本的に提出作品による評価し、その平均点を算出する（素点）。その為、各学期1/3を超えた場合失格とする。素点より欠席3点、遅刻１点を引く。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）各奏刀法を理解し、自分で摸刻ができる。
（Ｂ）陰陽思想を根底に印稿が書け、自身でそれを創作できる。
（Ａ）尚古思想を基盤とした高いレベルでの創作ができる。
（Ｓ）尚古思想を基盤とした非常に高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、長邊款が刻せる。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

その他

・漢字Ⅰ履修修了者に限る。・用具、用材は、書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）・実技の授業なので、毎回課題が課される。・２度目の受講者は、明清以降の流派印もしくは秦代以前の古璽印等を相談に応じて個別に指導する。・理解度・達成度により、授業内容を変更する場合あり。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。年度末に開催される学外書道展に出品する。（表具代その他は、個人負担とする）

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

篆刻家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が作成した作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的に指導を加える。

科目名	条幅制作A（漢字）							学 期	通年
副 題	中国書道の基礎を基に大作に挑戦しよう				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G3-06-160	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】・半切に漢字４～２８文字の言葉を楷書体、行書体で創作する。（倣書も可）・半切～全紙に漢詩、漢語を篆書体、隷書体、又は行草体で創作する。（倣書も可）・半切に漢字・仮名まじり文を創作する。【後期】２尺×８尺（52cm×約 228cm）以上の画仙紙に自選の漢文や漢詩を選ぶ。創作する上で、まず字書ですべての文字を調べ一覧表を作成する。それを参考にして字のくずし方を理解する。漢字仮名まじり文を書こうとする人は、全体の構成や空間のとり方など工夫し、漢字と仮名の調和も考えて製作をすすめる。

授業の到達目標

これまで臨書で培った基礎の上に立って、「尚古思想」を原点にした想像力豊かな大作を作り上げる。

授業計画

【前期】

1. この授業の内容、授業の進め方、必要な書道用材の説明（ガイダンス）
2. 半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。①
3. 半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。②
4. 半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。③
5. 半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。④
6. 半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。⑤
7. 半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。⑥
8. 提出後、全体で互評会を実施する
9. ①篆書体、隷書体、行書体で課題を半切（正方形）で創作
10. ②漢字仮名まじり文の創作
11. 上記①、②のどちらかひとつを選び実習する。
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上

【後期】

1. ２尺×８尺（たて228cm×よこ52cm）の紙面に、作品を制作
2. 同上　※書体、題材も自由
3. 同上　※個性と創作意欲にあふれた作品を制作する。
4. 同上　※題材、書体は途中変更も可能
5. 同上　※試行錯誤をくりかえしながら少しずつ作品が向上させる。
6. 同上　※早く仕上がった人は、小品を制作する。（書体・題材を変えたり）（漢字仮名まじり文でも可）
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 押印して提出後、互評会を実施する。

準備学習（予習・復習）・時間

制作の構想をしっかりと考え、書体形式を決めて繰り返し練習し、どこをどう工夫すれば良いかを考えること。また積極的に下山し、出来るだけ多くの展示会場で学んで来る。（計１２０分以上）。

テキスト

相談の上、書道史を踏まえて個々に法帖を決定する。

参考書・参考資料等

字書や二玄社の法帖類、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価

各学期、数回のレポート（作品）提出、前後期の平均点にて算出し、総合的に評価する（素点）。各学期欠席－３点、遅刻－１点。各学期 1/3 の欠席を超えた場合その時点で失格になる。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）規定の大きさにそれぞれの書体で誤字なく書けている。
（B）線に力強さがあり、文字の大小や墨の潤滑に工夫している。
（A）作品に一貫性があり筆力が充実している。落款も内容に相応した書き方である。
（S）自分なりに工夫を加え、また自身で調べた長落款を使用し、練度の高い作品に仕上がっている。

課題に対するフィードバックの方法

１，個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。２，拝見した展覧会の批評を発表してもらい、それについての討論も行う予定。

その他

出来上がった各作品は評価の後、大学書道展に出品して頂くことを考えている。その場合、表装代は自己負担とする。各自で事前に『字書』を購入しておくこと画仙紙は事前に大阪の書道用品店で買っておくこと。この授業は高野山書道師範を取得を希望する者、書道で卒業論文を書こうとする学生は必修である為、かなり習熟した技能を持っていることが要求される。授業時間外の取り組みにより大きく評価が分かれる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

書道家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が書いた作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	条幅制作B(かな)							学期	通年
副　題	大字かな作品制作				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	G3-06-161	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】かなⅠ・Ⅱで学習した項目を発展させ、かな条幅にあった用具・用材について理解し、運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込み、半切作品に仕上げる。【後期】2×6尺以上のかな画仙紙に自分で歌や文章を選び制作する。運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込む。また全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆を実践し、作品に仕上げる。

授業の到達目標

【前期】古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現できるようになる。【後期】かな条幅の運筆を理解し画仙紙に全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆で書くことができるようになる。

授業計画

【前期】

1. 条幅「かな」の内容解説・授業の進め方・必要な用具用材等の説明を聞く。
2. 条幅の基本用筆1（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を書く。）
3. 条幅の基本用筆2（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を自然に書く。）
4. 条幅の基本用筆3（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を確実に書く。）
5. 条幅の基本用筆4（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、2字連続を書く。）
6. 条幅の基本用筆5（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、2字・3字連続を自然に書く。）
7. 集字し資料を作り半切1/2の画仙紙に排列を書く。
8. 半切1/2の画仙紙に排列の構成に留意し自然に書く。
9. 半切1/2に排列を書き仕上げる。
10. 半切以上に制作1（題材を決定し、集字し資料を作成する。）
11. 半切以上に制作2（資料にそって、書く。）
12. 半切以上に制作3（資料に沿って自然に書く。）
13. 半切以上に制作4（資料に沿って書き込み、構成も考えていく。）
14. 半切以上に制作5（資料を基に、構成に留意し、作品を仕上げ提出する。）
15. 提出作品の講評をする。

【後期】

1. 2×6尺（65×175cm）の練習用紙に制作1（テーマ・内容を決定、集字する。）
2. 2×6尺の練習用紙に制作2（題材・デッサンを考える。）
3. 2×6尺の練習用紙に制作3（土台とする古典を臨書しつつ、構成も考えていく。）
4. 2×6尺の練習用紙に制作4（自然に運筆ができるようになるまで書き込む。）
5. 2×6尺の練習用紙に制作5（確実に運筆し、墨色、墨量の変化を整えていく。）
6. 2×6尺の練習用紙に制作6（各自のテーマを設定する。）
7. 2×6尺の練習用紙に制作7（各自のテーマに沿って書き込む。）
8. 2×6尺の清書用紙に制作1（清書用紙の扱いに慣れる。）
9. 2×6尺の清書用紙に制作1、互評会をする。
10. 2×6尺の清書用紙に制作2（講評会を受けて修正、各自のテーマに沿った作品を制作する。）
11. 2×6尺の清書用紙に制作3（より一層の内容のある作品になるように書き込む。）
12. 2×6尺の清書用紙に制作4作品提出をする。
13. 2×6尺の清書用紙に制作5提出作品の講評をする。
14. 形式を変えて条幅作品を書く。
15. 1年間のまとめと総括を理解し、自分の意見を述べる。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる（120分）　事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。（60分）

テキスト

高木厚人著　「大字かな入門」芸術新聞社2014年発行　編者　日比野実　「墨ニュークラッシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社2010年発行

参考書・参考資料等

土橋靖子著　「条幅作品手本 10　万葉集を書く　かな書篇」「生誕 100 年記念かな書の巨匠　日比野五鳳展図録」2001 年朝日新聞社発行
字書や二玄社の法帖類、芸術新聞社の書道関連本、各展覧会の作品集など

学生に対する評価

授業提出課題（70%）授業への主体的な取り組み姿勢（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）かな条幅の基本的用筆ができる。
（B）規定の大きさに効果的に表現することができる。
（A）全体構成、空間のとり方、文字の大小・墨の扱いに留意し制作することができる。
（S）自分で高いレベルでのかな条幅作品を制作することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

・かなⅠ、かなⅡを履修済みであること。変体仮名が理解できていること。・後期2×6尺以上の作品は評価の後、2月の高野山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は各自の負担とする。・条幅筆・画仙紙は事前に書道用品店で買っておくこと。・普段から展覧会などに行き、様々な、かな条幅作品を鑑賞すること。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とする。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな条幅作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	書道史(日本)／書道史							学 期	通年
副 題	文字から日本史を紐解く				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-06-162	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
わが国における書の展開について講じ、時代ごとにいくつかのテーマを取り上げながら進めてゆく。また書は、その他の芸術をはじめ諸々の文化と密接に関わるものであるので、可能な限りそうした周辺の文化的事柄とも絡めて眺めてゆくこととしたい。

授業の到達目標
書道作品の鑑賞眼を養い、その基本的事項について理解するとともに、書の世界を味わう。

授業計画
【前期】
1. ガイダンス及び漢字の歴史
2. 漢字の伝来
3. 飛鳥時代①
4. 飛鳥時代②
5. 奈良時代①
6. 奈良時代②
7. 平安時代①
8. 平安時代②
9. 平安時代③
10. 平安時代④
11. 平安時代⑤
12. 書流・書論の出現
13. 鎌倉時代①
14. 鎌倉時代②
15. 予備

【後期】
1. 南北朝時代①
2. 南北朝時代②
3. 室町時代①
4. 室町時代②
5. 安土・桃山時代①
6. 安土・桃山時代②
7. 安土・桃山時代③
8. 江戸時代①
9. 江戸時代②
10. 江戸時代③
11. 江戸時代④
12. 現代
13. 予備
14. 復習
15. テスト

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として授業で学んだことに対してノートにまとめておく事。〔３０分以上） その他、授業中に別途指示する。（６０分）

テキスト
・『［決定版］日本書道史』 名児耶明監修 芸術新聞社 定価 3300 円（書店にて購入）

参考書・参考資料等
・『書道全集（日本編)』平凡社 ・飯島春敬『日本書道史要説』(1975 年・東京堂出版） ・小松茂美『展望日本書道史』(1986 年・中央公論社） ・小松茂美編『日本書道辞典』(1987 年・二玄社） ・『墨スペシャル 12 図説日本書道史』(1997 年・芸術新聞社） ・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』(2005 年・萱原書房） ・その他必要に応じて、プリントを配布

学生に対する評価
・各学期、基本的にペーパーテストによる評価（平均点を算出し素点とする)。欠席－３点、遅刻－１点を素点より引く。その他、課外授業の積極的な参加は＋αを加える。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）書道用語を理解できる。
（B）書道史に関する時代変遷を自分で発言できる。
（A）自分で調査した書道史に関する研究を、発表できる。
（S）自分で調査した書道史に関する研究を、先人研究者との比較してその違いを発表できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業の最初に質問をしながら、前回までのフィードバックを行う。

その他
・ 欠席や遅刻は学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て望むこと。・再試験はしない。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
芸術系大学院教員及び研究者として経験を持つ教員が、書の歴史と他分野への関連性について知識を提供し、解説する。

科目名	社会福祉論／社会保障B（別）							学 期	前期
副 題	現代社会の「生きづらさ」に向き合う				授業方法	講義	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	G1-11-163	実務経験の有無	無	関連DP	2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
人が生活する中で抱えるさまざまな「生きづらさ」について、これを社会的に解決する意味と、具体的な方法等について学ぶ。社会的に解決することを模索する以上、これらの「生きづらさ」は社会的に生じたものであることが想定される。そこでまず、ごくごく個人的な要因によって生じていると考えられがちな現代の「生きづらさ」が、実際には社会的に生じているものであるとする考え方の修得を目指す。その上で、社会的に解決する際に活用する具体的なリソース（資源）についての知見を深めていく。適宜グループワークを活用する。

授業の到達目標
現代社会の「生きづらさ」について、広く、かつ、多面的な視野で把握する視野を身につける。また、その解決に向けた手段や活用すべき資源についての知見を得る。さらに、解決に際し、支援する側がどのような立ち位置で、どのような動きをすべきかについて理解する。

授業計画
1.ガイダンス　事例を通し、社会福祉の射程を知る
2.事例を通し、社会福祉の国際比較を行う
3.事例を通し、日本における社会福祉の歴史と課題を知る①　成り立ちについて
4.事例を通し、日本における社会福祉の歴史と課題を知る②　「通俗道徳」について
5.現代社会における「生きづらさ」①貧困・自己責任・格差の拡大等
6.現代社会における「生きづらさ」②差別・人間関係の希薄化等
7.社会福祉を支える基本的な考え方
8.「生きづらさ」を理解する視点
9.「生きづらさ」を解消するための社会資源について知る①　フォーマル
10.「生きづらさ」を解消するための社会資源について知る②　インフォーマル
11.「生きづらさ」を解消するための具体的な方法について知る①　関わり技法
12.「生きづらさ」を解消するための具体的な方法について知る②　組織や地域への働きかけ
13.支援者の立ち位置①　ミクロレヴェル　事例を通した学び
14.支援者の立ち位置②　メゾ・マクロレヴェル　事例を通した学び
15.まとめ　事例を通した学び　学修を自らの将来に活かす

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（90分）。

テキスト
適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等
松沢裕作『生きづらい明治社会』（岩波ジュニア新書、2018）

学生に対する評価
レポート・筆記試験（50%）、毎回の小レポート（30%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）現代社会の「生きづらさ」とそれに対応する仕組みについて理解している。
（B）現代社会の「生きづらさ」とそれに対応する仕組みについて多面的に把握することができる。
（A）現代社会の「生きづらさ」とそれに対応する仕組みについて多面的に把握したうえで、支援方法について模索することができる。
（S）現代社会の「生きづらさ」とそれに対応する仕組みについて多面的に把握したうえで、具体的な支援方法を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートまたは小レポートの内容について、次回の授業で解説を加える。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。 ②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながら映像教材を視聴することがある。 ③状況に応じて、ICTを活用した遠隔授業を実施することがある。

科目名	社会保障論／地域福祉A（別）							学 期	後期
副 題	生活を支える「あたりまえ」に気づく				授業方法	講義	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	G1-11-164	実務経験の有無	無	関連DP	2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

生活上の困難を抱えた人たちが置かれている状況と、その困難の背景となる諸事象について学ぶ。その上で、生活上の困難を解消・解決するために、日本にはどのような制度が存在しているのかについて学ぶ。その際、ヨーロッパやアメリカなど各国の社会保障制度を参照し、比較する。私たちは、生活上の困難と隣り合わせで生きているのが「あたりまえ」である。逆に考えれば、私たちは常に意識できないところで多くのもの（制度や人など）に守られていてが「あたりまえ」だといえる。そのことを実感する学びの機会としたい。

授業の到達目標

日本の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷等について理解する。また、社会保障を形成する諸制度（年金制度、公的扶助（生活保護、生活困窮）、医療保険、介護保険等）の仕組みと今後の見通しについて理解する。

授業計画

1. ガイダンス　社会保障とは
2. 事例を用いた学び　自らの生活から社会保障への理解を深める
3. 社会保障の概念と理念
4. 社会保障の財源への理解
5. 日本における社会保障の歴史
6. 社会保障制度の国際比較①アメリカ
7. 社会保障制度の国際比較②ヨーロッパ（北欧含む）
8. 日本における社会保障制度の課題
9. 公的扶助および低所得者対策、生活保護
10. 年金保険制度（国民年金、厚生年金、共済年金、老年年金、障害者年金等）
11. 国民健康保険制度と後期高齢者医療制度
12. 介護保険制度
13. 労働災害補償保険（労災保険）と雇用保険
14. 福祉サービスの仕組み（児童福祉、寡婦福祉、障害者福祉、高齢者福祉等）
15. まとめ　制度の学びを日常に活かす

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（90分）。

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

①『社会福祉小六法 2023』、中央法規

学生に対する評価

レポート・筆記試験（50%）、毎回の小レポート（30%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会保障に関する基礎的な概念と仕組みを理解している。
（B）社会保障に関する基礎的な概念と仕組みを理解し、自らの日常と関連付けることができる。
（A）社会保障に関する基礎的な概念と仕組みを理解し、自らの日常と関連付けて説明することができる。
（S）社会保障に関する基礎的な概念と仕組みを理解し、自らの日常や他者の生活に関連付けるとともに、説明・紹介することができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートまたは小レポートの内容について、次回の授業で解説を加える。

その他

①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。 ②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながら映像教材を視聴することがある。 ③状況に応じて、ICT を活用した遠隔授業を実施することがある。

科目名	キャリア研修							学 期	後期
副 題	キャリア基礎力講座				授業方法	講義	担当者	就職担当	
ナンバリング	G2-16-165	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
大学が指定する南大阪地域大学コンソーシアムなどのキャリア研修を受講し、担当大学から単位認定を受ける。

授業の到達目標
研修を体験することによって、職業意識を涵養する。

授業計画
1. 事前指導
2. キャリア研修①
3. キャリア研修②
4. キャリア研修③
5. キャリア研修④
6. キャリア研修⑤
7. キャリア研修⑥
8. キャリア研修⑦
9. キャリア研修⑧
10. キャリア研修⑨
11. キャリア研修⑩
12. キャリア研修⑪
13. キャリア研修⑫
14. キャリア研修⑬
15. 事後指導

準備学習（予習・復習）・時間

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
村山昇・若田紗希『働き方の哲学 360 度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018 年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価
レポート（30%）、授業参加の積極性（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）キャリア形成について理解している。
（B）キャリア研修に積極的に参加できる。
（A）キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

その他
・研修プログラム等については、7 月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。・プログラムによっては参加費が必要である。・体験を中心としたアクティブラーニングである。

科目名	インターンシップ							学 期	後期
副 題	職場体験					授業方法	実習	担当者	就職担当
ナンバリング	G3-16-166	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
大学が指定する高野町役場やわかやまインターンシップ、堺・南大阪インターンシップなどに参加して職業体験を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業の到達目標
インターンシップを体験することによって、職業意識を涵養し、各自のキャリア設計を具体化する。

授業計画
1. 事前指導
2. 職業体験①
3. 職業体験②
4. 職業体験③
5. 職業体験④
6. 職業体験⑤
7. 職業体験⑥
8. 職業体験⑦
9. 職業体験⑧
10. 職業体験⑨
11. 職業体験⑩
12. 職業体験⑪
13. 職業体験⑫
14. 職業体験⑬
15. 事後指導

準備学習（予習・復習）・時間
ボランティア実習の体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
村山昇・若田紗希『働き方の哲学 360 度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018 年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価
レポート（30%）、授業参加の積極性（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）キャリア形成について理解している。
（B）キャリア研修に積極的に参加できる。
（A）キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他
・インターンシップについては、5 月、6 月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。・インターンシップは企業に受入れを依頼するので、最低限のビジネスマナーを心得ておく必要がある。・関連授業として、キャリアカウンセリングⅢ－１、キャリアカウンセリングⅢ－２を同時に受講すること。・体験を中心としたアクティブラーニングである。

科目名	生涯学習概論							学 期	前期
副 題	地域をつくる生涯学習				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G1-18-167	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
生涯学習とはなにかを理解し、その理論と社会におけるしくみや方法、生涯学習社会におけるネットワーク構築の必要性をさまざまな実践例を紹介することを通じて、生涯学習の指導者としての役割や、今後の課題について探求する。

授業の到達目標
生涯学習や社会教育の意義を理解し、その制度やしくみ、内容や方法を学ぶことを通じて、今後さらに進展する「生涯学習の時代」に対応できるための基礎的な能力を身につける。

授業計画
1．ガイダンス／生涯学習とはなにか？
2．生涯学習論の導入と展開
3．生涯学習と日本の行政
4．生涯各期の学習課題
5．生涯学習と家庭・学校・地域社会
6．社会教育制度と生涯学習
7．学校教育と生涯学習
8．博物館と生涯学習
9．図書館と生涯学習
10. 生涯学習の形態と方法
11. 生涯学習を支援する指導者の役割
12. 地域づくりと生涯学習
13. グローバル化する社会と生涯学習
14. これからの生涯学習の動向と課題
15. 「生涯学習の時代」を生きる

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修：次回の授業内容についてテキストを熟読し、自治体 HP などで各地の取り組みについて調べる（90 分） 事後学修：授業内容についてノートに整理する（60 分）。

テキスト
田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜『テキスト生涯学習－学びがつむぐ新しい社会－［新訂 2 版］』（学文社、2020 年）。 その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等
①大堀哲編著『司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論』（樹村房、2010 年） ②関口礼子・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫・神部純一・柳田雅明『新しい時代の生涯学習〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価
期末レポート（40%）、毎回の授業時に行う課題（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）生涯学習の理論と実践について、基礎的な知識を身につける。
（B）生涯学習の理論と実践についての基礎的な知識を身につけ、問題点を指摘することができる。
（A）生涯学習の理論と実践についての知識を身につけ、これからの取り組みを提案することができる。
（S）これからの生涯学習のあり方について提案することができ、実際に生涯学習活動に参加している。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。授業で紹介する実践例以外にも、新聞などを通じて生涯学習に関する各地の取り組みについて関心を持つことを心がけること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	博物館概論							学 期	前期
副 題	博物館とは何か				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G1-18-168	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
本講義では、博物館学や関係法規の意義について学習するとともに、学芸員の担う職務と博物館の社会的責務について理解を深める。また、明治以降の博物館の果たした社会的機能について学ぶとともに、博物館とナショナリズムとの関係についても考える。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標
①国内外の博物館の歴史を振り返りつつ、博物館に関する基礎的知識を習得する。 ②博物館を取り巻く厳しい社会状況について理解を深める。 ③博物館学芸員を目指す上での学問的見識を養う。

授業計画
1. 博物館学の目的とそのあゆみ
2. 博物館の種類と機能―分類・施設・設備とあわせて―
3. 学芸員の職務
4. 世界の博物館とその歴史①
5. 世界の博物館とその歴史②
6. 日本の博物館とその歴史①―博物館の諸制度―
7. 日本の博物館とその歴史②―博物館と学芸員を取り巻く現況―
8. 日本の博物館とその歴史③―博物館と学芸員の未来―
9. 明治期の博物館論―博物館・文化財と政治①―
10. 大正・昭和前期の博物館論―博物館・文化財と政治②―
11. 博物館とナショナリズム―戦前期の「国史館」構想―
12. 博物館法とその意義
13. 文化財保護制度の歴史
14. 博物館をめぐる現状と矛盾
15. レポートもしくは試験の講評

準備学習（予習・復習）・時間
参考書や配布プリントを参照し、博物館学に関係する専門用語をあらかじめ理解しておく。(90 分)配布プリントを活用し、毎回の講義内容を定着させることを心がけること。(30 分)

テキスト
プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

学生に対する評価
レポートもしくは試験（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）博物館の歴史について、基礎的な説明ができる。
（B）博物館の歴史と社会的責務について具体的に説明できる。
（A）博物館の歴史と社会的責務をふまえ、現在の博物館を取り巻く環境と問題点について説明できる。
（S）講義内容と自己の調査に基づいて、博物館の存在意義と今後の在り方について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義の提出課題については、後日に講評する。

その他
博物館の社会的変遷を理解し、学芸員としての資質を高めることがこの講義の目的である。学芸員は高度な学識だけでなく、時流に即した博識が要求される。講義を通して学芸員としての理想と信念を養って欲しい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
担当教員は公益財団法人高野山文化財保存会課長として、博物館の事務、学芸業務に従事した後、高野山霊宝館館長として博物館経営の責任者として勤務した。博物館事務、学芸業務、博物館経営の経験を通して博物館学を広く深く講義する。

科目名	博物館経営論							学 期	後期
副 題	ミュージアムマネージメントの意義と方法				授業方法	講義	担当者	山口文章	
ナンバリング	G2-18-169	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
①ミュージアムマネージメントについて、②博物館の財政をとりまく経営環境、③博物館の使命と組織・職員の役割、④コレクション形成の方法、⑤博物館活動の目標設定と評価、⑥普及と情報、⑦日本の博物館の特異性　等を実例に基づいて理解し、学芸員の基礎知識とすることを目的とする。　学芸員に必要な基礎知識は文化財の管理方法や評価、研究だけでなく、設備管理や教育、広報など、博物館の経営全体に必要なものである。博物館に勤務することを目指さない者も、学芸員資格を修得することを勧める。

授業の到達目標
博物館経営（ミュージアムマネージメント）について学ぶ。博物館経営が他業種の企業体の経営よりも、広い分野に及ぶ総合的なものであり、博物館に携わる者すべてが問題意識を持つ性格であることを学ぶ。

授業計画
1. 博物館の経営概説(ミュージアムマネジメントとは)
2. 博物館の種類と組織的構造の特徴（海外・日本）
3. 博物館における現状と問題点
4. 博物館の財政形態
5. 博物館の設備と管理
6. 博物館の文化財管理
7. 博物館の危機管理
8. 博物館のコレクションの形成（購入・寄贈・寄託について）
9. 博物館の使命と組織・職員の役割
10. 現代社会に求められている博物館の対応と現状
11. 博物館の広報、マーケティング、文化財教育普及活動
12. 博物館活動の目標設定と評価
13. これからの博物館に必要なこと
14. 博物館見学(展示方法、入館者対応、地域社会との連携を現場で学ぶ)
15. 博物館見学(博物館事務、文化財管理の現場を実際に体得する)

準備学習(予習・復習)・時間
授業で学んだ内容に関して専門用語の意味を理解しておくこと。(90 分)見学実習後は見学内容を整理し、ノートにまとめておくこと。(30 分)

テキスト
必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等
授業内で紹介する。

学生に対する評価
レポートもしくは試験（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）博物館の種類別に、組織的構造の特徴を説明できる。
（B）博物館の現状と問題点を説明できる。
（A）博物館の使命と博物館職員の役割を説明できる。
（S）現代社会に求められる博物館の使命を論じ、これからの博物館に必要なことを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
博物館の見学を通して、展示や利用者対応などの業務だけでなく、設備や文化財の管理業務などの実務を理解する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
担当教員は公益財団法人高野山文化財保存会課長として、博物館の事務、学芸業務に従事した後、高野山霊宝館館長として博物館経営の責任者として勤務した。博物館事務、学芸業務、博物館経営の経験を通して博物館経営論を講義する。

科目名	博物館資料論							学 期	前期
副 題	博物館資料をめぐる現状				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-18-170	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
博物館が所蔵する資料は、博物館の根幹をなす存在である。本講義では、博物館資料の収集、整理・保管に関する知識・技術の修得と、調査研究の意義と内容についての理解を深めることを目的とする。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標
①博物館資料の多様性を学び、「二次資料（レプリカ）」などの意義について理解する。 ②博物館におけるコレクションの形成とその利用、発信方法について学ぶ。 ③学芸員による博物館資料の調査・研究の重要性、古文書・古典籍などの資料的価値について考える。

授業計画
1. 博物館資料とは何か(意義と内容)
2. 「一次資料」と「二次資料」―博物館資料の種類―
3. 博物館資料の収集
4. 博物館資料の整理と活用―資料化のプロセス―
5. 博物館資料の収集と整理―デジタル・アーカイブとからめて―
6. 学芸員の調査・研究とその発信方法(収集理念と方法)
7. 博物館資料としての古文書①―大津市歴史博物館の取り組み―
8. 博物館資料としての古文書②―京都文化博物館の取り組み―
9. 博物館資料としての古写真
10. 博物館資料としての収集品―高野山霊宝館の見学を通して―
11. 和紙の歴史①
12. 和紙の歴史②
13. 博物館資料の取り扱い方①（分類・整理）―高野山西南院における調査を通して―
14. 博物館資料の取り扱い方②（資料公開の方法等）―高野山西南院における調査を通して―
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、参考書の該当ページやプリントを毎回読み、博物館学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等
①大堀哲・水嶋英治『博物館学Ⅰ博物館概論・博物館資料論』（学文社、2012 年） ②全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年） ③高橋大樹「地域博物館における古文書展示」（『大津市歴史博物館研究紀要』20、2014 年） ④長村祥知「博物館における古文書・古記録の展示と教育」（『人間教育学研究』3、2015 年）

学生に対する評価
レポート（70%、字数 3000 字以上）、講義時におけるミニッツペーパー（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）博物館資料について、基礎的な説明ができる。
（B）博物館資料について、実例に即した具体的な説明ができる。
（A）博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について説明できる。
（S）博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について、講義内容のみならず自己の調査に基づいて、論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義の提出課題については、後日に講評する。

その他
博物館学芸員への道は険しく、高度な学識が要求される。本講義は、真剣に学芸員資格の取得を目指す学生のみ受講してほしい。

科目名	博物館資料保存論							学 期	後期
副 題	博物館資料を安全に保つ方法を学び、考える				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	G2-18-171	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
博物館において適切で安全な資料保存・活用を行うために必要な基本的知識を、歴史的・科学的・技術的な側面から、講義を通じて多角的に学習する。資料保存の重要性を確認し、環境や材質、構造上の問題などの資料を取り巻く状況を客観的に把握することで、資料を観察する目と現状判断する能力を養う。

授業の到達目標
博物館資料について保存の意義と基本理念を理解し、各種資料の材質や構造上の特性、劣化要因などをふまえて、適切な展示・保存環境を実現・維持するための基本的な知識を身につけ、活用することができる。

授業計画
1.「保存」とは何か
2.［事例研究］ 文化財保護の歴史
3.博物館資料の材質と取り扱い(1)立体物の構造・素材・特性
4.博物館資料の材質と取り扱い(2)平面物の構造・素材・特性
5.博物館におけるリスクマネージメント・危機管理
6.資料の劣化と保存(1)温湿度・光
7.資料の劣化と保存(2)空気汚染
8.資料の劣化と保存(3)生物被害と IPM
9.［事例研究］ 博物館資料と被害事例
10.資料の劣化と保存(4)自然災害と人為災害
11.博物館資料の科学的調査と技術
12.［事例研究］ 各種の修復事例
13.修復保存の基本と実際(1)彫刻作例
14.修復保存の基本と実際(2)装潢作例・古文書
15.海外の博物館における資料保存と全体の考察

準備学習（予習・復習）・時間
授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する（60 分）

テキスト
プリント資料を配布する

参考書・参考資料等
大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 IV　博物館資料保存論・博物館実習論』(学文社、2013 年)　青木豊編『人文系博物館資料保存論』(雄山閣、2013 年)　他は授業中に紹介する

学生に対する評価
期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）博物館資料保存の意義を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける
（B）博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
（A）博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
（S）これからの博物館資料保存のあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

その他
博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。 近年は、保存・修復をテーマにした特別展や書籍、雑誌特集などから現場・現況を見聞きする機会が格段に増えた。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	博物館展示論							学 期	後期
副 題	博物館展示の果たす役割とその意義を理解する				授業方法	講義	担当者	山口隆介	
ナンバリング	G2-18-172	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
博物館展示の理念と歴史、展示の諸形態を学び、展示の理論と方法に関する基本的な知識や技術を習得し、博物館における展示の果たす役割とその意義を理解する。

授業の到達目標
博物館における展示の歴史と意義を理解するとともに、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

授業計画
1. ガイダンス
2. 博物館展示の目的と役割
3. 博物館展示の歴史
4. 見学演習　近畿一円の美術館・博物館に出かけ、広く美術作品を見て学ぶ
5. 見学演習
6. 展示のプロセス企画書・出陳交渉・梱包と輸送・会場造作・展示作業
7. 展示空間の構成Ⅰ　章立て・動線・サイン
8. 展示空間の構成Ⅱ　照明・音響・展示環境・温湿度
9. 見学演習
10. 見学演習
11. 展示の技法Ⅰ　展示ケース・展示台・演示具
12. 展示の技法Ⅱ　パネル・題箋・カタログと各種印刷物の作成
13. 展示の技法Ⅲ　音声ガイド・多言語表記・ボランティア
14. 見学演習
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
普段から美術館や博物館に関心を持ち、図書やホームページを通して予備知識を持つこと（計 90 分以上）。

テキスト
なし

参考書・参考資料等
必要に応じて資料を配布する。

学生に対する評価
レポート 55%、授業への取り組み 45%。この授業では近隣の美術館・博物館を見学する演習を実施し、見学への参加とレポートの提出を課する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）展示に関する基本的な知識や技術の習得が不十分である
（B）展示に関する基本的な知識や技術を習得する
（A）展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができる
（S）展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができ、その意図を他者に伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については授業後にワークシートに記入してもらい、次回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
奈良国立博物館で研究員として勤務している教員が、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

科目名	博物館情報・メディア論							学 期	前期
副 題	博物館における情報の活かし方を考える				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	G2-18-173	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
博物館で扱う情報・メディアの意義と理論、およびその運用の現状や課題について確認し、現代の ICT 社会における情報の取り扱いに必要な基礎的知識を講義を通じて習得した上で、博物館情報・メディアがもたらす可能性について考察する。

授業の到達目標
博物館における情報の意義と活用方法や課題についての理解を深めることで、情報資源の有効な利用に関する能力を身につけ、活用することができる。

授業計画
1.［事例研究］博物館によるオンラインでの情報発信
2.「情報」と「メディア」の定義
3.博物館における情報資源の意義と活用(1)博物館資料のドキュメンテーション
4.博物館における情報資源の意義と活用(2)コレクション情報の組織化
5.博物館における情報資源の意義と活用(3)デジタルアーカイブス
6.［事例研究］各種のデジタルアーカイブスとデータベース
7.博物館における情報資源の意義と活用(4)デジタルアーカイブス・データベースの構築と現状
8.博物館における情報資源の意義と活用(5)デジタル資料の運用と課題
9.博物館と知的財産(1)知的財産権の基礎
10.博物館と知的財産(2)著作権・著作支分権と権利処理
11.博物館と知的財産(3)個人情報・肖像権・パブリシティ権の管理・運用と情報倫理
12.情報・メディアを活用した博物館活動(1)展示
13.情報・メディアを活用した博物館活動(2)学習
14.情報・メディアを活用した博物館活動(3)発信
15.博物館情報・メディア論への期待と展望（全体の考察）

準備学習（予習・復習）・時間
授業で紹介した事例や類似事例についての関連情報を、書籍やインターネットで調べてまとめる（60 分）

テキスト
プリント資料を配布する

参考書・参考資料等
大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 III　博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）　日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）　他は授業中に紹介する

学生に対する評価
期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）博物館情報・メディアの意義を理解し、基礎的知識を身につける
（B）博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
（A）博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
（S）これからの博物館情報・メディアのあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

その他
博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。各種報道やインターネット記事（SNS やブログなど）にも考察する素材があふれている。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	博物館教育論							学 期	後期
副 題	地域の魅力を発信するために					授業方法	講義	担当者	櫻木潤
ナンバリング	G1-18-174	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
博物館における学びとその特性を理解し、そのための理論と実践についてさまざまな実践例を紹介することを通じて、地域の結節点としてこれからの博物館が担う教育的な役割とその発信方法について探求する。

授業の到達目標
学びの場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論や方法、特性を学ぶことを通じて、地域の結節点としての役割を担うための博物館教育とその発信の方法についての基礎的な能力を身につける。

授業計画
1. ガイダンス／博物館教育とはなにか？
2. 博物館における学び
3. 博物館教育のあゆみ
4. 博物館教育を実践するための理論
5. 生涯学習と博物館教育
6. 博物館教育の方法①～見ること・聞くことからの学び～
7. 博物館教育の方法②～体感することからの学び～
8. 学校教育と博物館
9. 地域社会と博物館教育
10. 博物館教育の実践①～展示解説をしてみよう～
11. 博物館教育の実践②～展示解説をしてみよう～
12. 博物館教育の実践③～展示解説をしてみよう～
13. 地域の人材を育てる場としての博物館
14. グローバル化する社会と博物館教育
15. これからの博物館教育とは？

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修：次回の授業内容についてテキストを熟読し、各地の博物館 HP などで実際の取り組みについて調べる（90 分） 事後学修：授業内容についてノートに整理する（60 分）。

テキスト
黒沢浩編著『博物館教育論』（講談社、2020 年第 4 刷版）その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等
柿崎博孝・宇野慶『博物館教育論』（玉川大学出版部、2016 年）。 その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価
期末レポート（40%）、毎回の授業時に行う課題（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教育の場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける。
（B）博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その問題点を指摘することができる。
（A）博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる。
（S）これからの博物館教育のあり方について、自身の体験から実例をもとに論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。各地の博物館や美術館などを実際に訪れ、それぞれの博物館が行っている取り組みについて体験することを心がけること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	博物館実習							学 期	通年
副 題	学芸員としての知識・技術の習得とその実践				授業方法	実習	担当者	櫻木・坂口	
ナンバリング	G3-18-175	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	3	他	A

授業の目的と概要
博物館学芸員の資格を取得するための必要不可欠な科目である。博物館学芸員の実務を理解し、博物館が行う事業を習得するために、講義だけでなく、実技実習や見学実習など、学内外において多様な授業を実施する。 実技や実習をともなう授業であり、将来、学芸員として勤務することを想定し、出席を重視する。

授業の到達目標
①博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について、実践的に学ぶことができる。 ②調査研究・展示する資料について、それらを調査や評価をし、展示や解説によって、観覧者にその意義を伝える方法を学ぶことができる。 ③さまざまな博物館を見学し、各館の特徴を捉え、学芸員として現場で活かせる視野を養うことができる。

授業計画
【前期】
1. 博物館実習に関する事前指導【講義・1時限】
2. 館園実習の具体的指導 (1) 資料の取り扱いと整理・分類・保存【講義・1時限】
3. 美術分野資料の取り扱い【実習・3時限】
4. 歴史分野資料の取り扱い【実習・3時限】
5. 文化史分野資料の取り扱い【実習・3時限】
6. 資料の整理と分類【実習・3時限】
7. 資料の保存【実習・3時限】
8. 博物館施設の構造・管理【実習・1時限】
9. 博物館運営の実務【実習・1時限】
10. 事後指導【講義・1時限】
11. 館園実習の具体的指導（2）実習先での実習の概要【講義・1時限】
12. 展示テーマを作る【実習・2時限】
13. 展示計画を作る【実習・2時限】
14. 展示表現の構築【実習・2時限】
15. 展示解説（キャプション）を作る【実習・2時限】

【後期】
1. ポスター・パンフレット（目録・図録）の作成【実習・2時限】
2. 展示案内と接遇【実習・2時限】
3. 展示作業【実習・3時限】
4. 地域連携とコミュニケーション【実習・2時限】
5. 見学実習【実習・3時限】
6. 事後指導と総括【講義・1時限】

準備学習（予習・復習）・時間
予習：次回の実習内容等についてテキストを読んで理解しておく（90 分） 復習：実習内容等について整理をしておく（60 分）

テキスト
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』（芙蓉書房出版、2002 年）

参考書・参考資料等
木下史青『博物館へ行こう』（岩波ジュニア新書、2007 年） 四国ミュージアム研究会編『もっと博物館が好きっ！－みんなと歩む学芸員－』（教育出版センター、2016 年） その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価
授業への取り組みの姿勢（60%）、小テスト・レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について理解している。
（B）博物館の特徴を捉え、学芸員として現場で活かせる視野を有している。
（A）博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について理解し、実践することができる。
（S）博物館学芸員としての基礎的な知識・技術を活用し、展示や解説によって、観覧者にその意義を伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業でフィードバックを行う。

その他
①履修に際しては、博物館学芸員として、また社会人としての基本的な姿勢を求めます。第 10 回までに 3 分の 2 以上出席していない場合は、館園実習の実施を認めません。なお、理由のない遅刻は欠席とみなします。 ②実習は、グループワークやディスカッション、フィールドワークによって行われます。 ③授業以外でも、各地の博物館を訪れ、積極的に学芸員としての視野を広げる姿勢をもつこと。

科目名	教育原論							学 期	後期
副 題	教育とは何かを多面的に考察する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G1-17-176	実務経験の有無	無	関連DP	―	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
１、教育の基本的概念、２、教育思想の歴史、３、教育の営みの歴史を学び、教育の本質に関する理解を深める。

授業の到達目標
教員として教育にかかわっていくための基礎となる知識を身につける。

授業計画
1. 教育の基本的意味
2. 人間特有の現象としての教育
3. 学ぶことと教えること
4. こころとからだを育てる
5. 道徳性の発達
6. 教育思想の原点１（ソクラテス）
7. 教育思想の原点２（プラトン）
8. 近代の教育思想１（ロック）
9. 近代の教育思想２（ルソー）
10. 現代の教育思想（デューイ）
11. 家庭・地域・学校
12. 近代学校の性格
13. 日本における学校の歴史
14. 子どもの権利と教育への権利
15. 現代教育の課題定期試験

準備学習（予習・復習）・時間
シラバスに予告されている講義内容に該当する教科書部分を研究しておく（予習）。講義内容を振り返る（復習）（計 90 分以上）。

テキスト
田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価
定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義の内容を理解できる
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートにコメントを付し、返却する。

その他
ＩＣＴ機器を活用するとともに、アクティブラーニング型の授業形式を取り入れる。

科目名	教職入門							学 期	前期
副 題	教職の意義および具体的な内容を解説する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G1-17-177	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
今日の学校教育の現状と課題、学校教育に係る法令と教職の意義、様々な教職観と教員の役割、答申等に示される教員像、学校組織と教員の職階、教員の職務内容と校務分掌、学習・生徒指導と学級担任の役割、服務・身分上の義務と身分保証、教育改革と教員研修、いじめ・問題行動への対応と保護者対応、リスクマネジメントと危機管理、学校組織の課題とチーム学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

授業の到達目標
・学校教育の目的と教職の意義、教員の役割、必要な資質・能力を理解する。・教員の職務内容、服務と身分保証、職責の遂行と研修について理解する。・複雑・多様化する教育課題に、チーム学校で対応する重要性を理解する。・より良い自己実現に向けて、自己の適性と教職の職業的特性を理解する。学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

授業計画
1.児童・生徒の実態と学校教育の現状及び課題について説明する。
2.学校教育及び教職に係る法令、教員免許の取得と採用試験・任用について説明する。
3.教職の意義と自己のキャリア形成、求められる資質・能力と自己変容について説明する。
4.様々な教職観の変遷と教員の存在意義、期待される教員像について説明する。
5.学校組織と教員の種類及び職階、社会的使命について説明する。
6.教員の全ての職務内容と校務分掌、校務分掌の改善・充実について説明する。
7.「確かな学力」の形成に向けて教員の職務と学校の取り組みについて説明する。
8.生徒指導の推進に向けて教員組織の現状と課題、課題解決に向けた実践について説明する。
9.いじめ問題等の現状と課題、課題克服に向けたPDCAサイクルについて説明する。
10.キャリア教育の推進に向けた教育課程の改善、教員と保護者・地域の連携について説明する。
11.教員の職務・課題別研修、専門・教養研修と教員への役割期待・役割達成について説明する。
12.教員の職務と根本規準、服務上及び身分上の義務について説明する。
13.学校の危機管理とリスクマネジメント、学校評価について説明する。
14.学校評議員・学校運営協議会制度、学校組織の課題、チーム学校づくりについて説明する。
15.生涯学び続ける教員であるための進路選択・自己決定・自己責任について説明する。定期試験

準備学習(予習・復習)・時間
①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60分) ②教職関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60分) ③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60分)

テキスト
『新しい教職基礎論』2019.3（伊藤一雄他著サンライズ出版）書店で購入

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価
定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
（B）教員の職務や服務内容、期待される教員の在り方について、テキストを見ながら説明できる。
（A）複雑・多様化する学校教育の課題や子どもの指導・支援に、教員が「教職実践力」を身に着けることが大切であることを、テキストや参考書を見ながら自分の言葉で説明
（S）子どもに「生きる力」を育む視点から、学校教育の改善・充実に向けた「チーム学校」づくりの必要性と教職員が努力すべき事項について、テキストや参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は次の授業で解説を行う。

その他
・公教育に携わる教職員には法令順守が求められているので、学校教育並びに教職員の人事に係る法令について十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等は、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。 ・ＩＣＴを活用するとともに、アクティブラーニングの授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公立学校教員及び管理職、教育行政での勤務経験のある教員が、管理職の職務（学校経営・運営）、(教職員、児童・生徒、学校保健、学校財務運営等）の校務、教育行政（学校、人事、研修、教員採用試験等）の業務、また、長年担当した教育相談のスキルやノウハウ等の経験を活かして、実践的な立場からの講義や情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	教育心理学							学 期	後期
副 題	児童生徒の心身の発達及び学習の過程				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-178	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
学校現場における生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得すると共に、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。学習をより効果的に習得できるように、言語の発達、記憶のメカニズム、学習のプロセスについて学ぶ。さらに学習の評価についても学ぶ。生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について学ぶ。特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

授業の到達目標
・学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。・人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。・学習と評価の問題について理解を深める。・発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

授業計画
1.オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育心理学とは何かについて概観する。
2.発達過程と教育の関連について。現代の子どもの心理学的特性を理解する。
3.様々なライフサイクル論の紹介。エリクソンのライフサイクル論・乳児期から遊戯期について学ぶ。
4.エリクソンのライフサイクル論・児童期・青年期の課題と特徴および学習との関連性を知る。
5.エリクソンのライフサイクル論・人生の後半と若い世代への関わりあいについて学習する。
6.学習のメカニズムについて学ぶ。動機づけ、記憶のメカニズム等。
7.学習効果と自尊感情の関連性について理解する。「無気力」について学習する。
8.知的能力の発達について学ぶ（表象的思考の発達と創造性の発達。）
9.学習指導の心理学的理論を紹介する。プログラム学習と協同学習について学ぶ。
10.学習意欲と教育評価について学ぶ。
11.発達障害（LD、ADHG など）について理解する。発達障害(LD、ADHG など）について理解する。
12.生徒の問題行動とその対応法について考察する（いじめ、不登校、引きこもり等)。
13.生徒の不適応とストレス対処法について学ぶ。スクールカウンセラーの役割について考える。
14.特別な支援を必要とする生徒について理解を深める（事例を通して学習する)。定期試験。
15.自己指導能力を発達させる方法を学ぶ。これまでの学習の総括を行う。

準備学習（予習・復習）・時間
授業の前に必ず教科書の該当箇所を読んでおくこと。配布している問題集形式のプリントを解答しておくこと。(90 分)　授業後は、専門用語を中心として自分で学習内容をノートにまとめ、問題集形式のプリントを再確認しておくこと。(90 分)

テキスト
桜井茂男編『たのしく学べる最新教育心理学―教職に関わるすべての人に （改訂版)』、図書文化社、2017 年　（書店で購入）

参考書・参考資料等
伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編『子ども・若者政策のフロンティア』、晃洋書房、2012 年

学生に対する評価
小レポートの提出（20%）・出席状況およびディベート等の状況（25%）・学期末試験（55%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習のメカニズムを理解している。
（B）様々な学習方法を説明できる。
（A）自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
（S）様々な学習評価を理解している。

課題に対するフィードバックの方法
提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

その他
テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらう。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
16 年間の中学校・高等学校国語科教諭としての経験やスクールカウンセラーとしての経験を活かし、生徒がやる気を持てるような指導や学級の雰囲気作りを、理論を学ぶと同時に実践的な事例を伝える授業にする。

科目名	教育社会学							学 期	後期
副 題	教育の実態を考える				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G1-17-179	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
学校をめぐる諸問題について説明し、どのような問題があるのかを検討する。授業を通して、社会学的な視点を養う。

授業の到達目標
教育の中心に置かれてきた学校を社会学的な視点から理解し、どのような課題があるのかを説明できるようになる。

授業計画
1.教育社会学とはどのような学問かについて説明する。
2.学校をめぐる状況の変化（1）子どもの生活の変化について説明する。
3.学校をめぐる状況の変化（2）少年犯罪・児童虐待について説明する。
4.学校をめぐる状況の変化（3）いじめ、校内暴力について説明する。
5.学校をめぐる状況の変化（4）不登校について説明する。
6.学校をめぐる状況の変化（5）学歴社会、格差社会、子供の貧困について説明する。
7.学校をめぐる状況の変化（6）少子化・未婚化・晩婚化について説明する。
8.社会の変化と学習指導要領の改訂について説明する。
9.教育基本法改正問題について説明する。
10.諸外国の教育事情・教育改革の動向を説明する。
11.地域と学校の連携と協働について説明する。
12.開かれた学校づくりについて説明する。
13.学校安全の必要性について説明する。
14.生活安全、交通安全、災害安全における課題について説明する。
15.持続可能な社会における教育について説明する。

準備学習（予習・復習）・時間
・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト
特に定めない。

参考書・参考資料等
授業中に資料を配布する。

学生に対する評価
レポート（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教育社会学の基本用語が説明できる。
（B）教育の問題について説明できる。
（A）講義内容を理解し、社会学的に説明できる。
（S）現在の学校教育の問題について自分の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他
真剣に教師を目指す者のみ受講すること。・教育問題についてテーマを設定し、デスカッションする。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高校で教師として指導した経験がある教員が、学校や生徒の実態を講義する。

科目名	特別支援教育							学 期	前期
副 題	特別な教育的ニーズのある生徒の理解と支援				授業方法	講義	担当者	宮本直美	
ナンバリング	G2-17-180	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	1	他	A

授業の目的と概要
１、特別支援教育に関するこれまでの歴史や日本社会の法的支援の現状を理解する。 ２、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒（障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒も含む）の現状を理解し、その教育の在り方について修得する。

授業の到達目標
１、特別支援教育の在り方を理解し、幼児、児童、生徒(以下、生徒等）への援助や支援ができるようになるための基礎力を身に付ける。２、特別の支援を必要とする生徒等、及び障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒等の教育課程や支援体制の構築、援助や支援の方法について理解し、説明できるようになる。

授業計画
1.特殊教育から特別支援教育への変遷と特別支援教育の理念
2.特別支援教育の概要と特別教育を推進するための仕組み
3.視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱の理解とそれらの状態にある生徒等の学習上又は生活上の困難について
4.知的障害、発達障害のある生徒等の理解と指導方法、及び支援方法について
5.特別支援学校と特別支援学級、及び通級による指導の教育課程上の指導も含めた違いと自立活動について
6.障害はないが特別の教育的ニーズを必要とする生徒等の支援の在り方について
7.特別支援教育コーディネーターの職務と職員も含めた「チームとしての学校」の役割について
8.多様な教育的ニーズのある生徒等の学びを保障するための先進的取組を行っている事例の紹介

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習：講義時に配布する資料や紹介した文献、教示したテキストの当該箇所を読み、疑問点等を含めて内容について整理しておくこと。 事後学習：毎回当日の講義内容に関する課題を出すので、次回講義時に提出すること（計 90 分以上)。

テキスト
よくわかる！教職エクササイズ５　特別支援教育　石橋裕子・林幸範　ミネルヴァ書房（書店で購入）

参考書・参考資料等
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 著『特別支援教育の基礎・基本 2020』 ジアース教育新社、2020 年

学生に対する評価
定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出するレポート（30%）、授業中の発言や発表、グループワークやプレゼンへの取り組み等授業への参加状況（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができる。
（B）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができ関心が深まる。
（A）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）に関心を持ち、積極的に理解を深めようとする意欲がある。
（S）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等）の支援に関心もち理解を深め、積極的に支援に参加しようとする意欲が深まる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の課題は添削し次回の講義時に返却し、理解力を高める。 質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
グループワークや学生によるプレゼンテーションを行う科目である

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
授業４～７において、発達障害のある生徒等や障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等への指導と支援について、担当者の通級・特別支援コーディネーターとしての体験を取入れ、具体的な事例を通して講義、演習を行う。

科目名	教育課程論							学 期	後期
副 題	カリキュラムの意義・内容について解説する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G1-17-181	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
教育課程の意義と今日的課題、カリキュラムの変遷と教育課程の類型・特徴、学習指導要領の改訂の歴史と内容及び社会的背景、教育課程改革と新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の役割と機能、カリキュラム・マネジメントとアクティブラーニング、教科等横断的なカリキュラム編成と方法及び指導計画の作成、キャリア教育と学校改善、教育課程の評価と改善等について、学校現場での事例を紹介しながら解説する。

授業の到達目標
・教育課程の意義、カリキュラムの類型と特徴、学習指導要領の変遷及び性格と位置付け、教育課程の社会的役割や機能について理解する。・「主体的・対話的で深い学び」を育む教育課程編成の原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性、アクティブラーニングついて理解する。・教科等横断的な教育内容の選択と配列、カリキュラム・マネジメントの視点に立つ長期的指導計画の作成、カリキュラム評価と改善について理解する。

授業計画
1.学校における今日的課題と教育課程の意義と役割・機能について説明する。
2.カリキュラムの歴史的変遷と教育課程の類型・特徴について説明する。
3.我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。(明治～昭和)
4.我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。(平成～現在)
5.学習指導要領の性格及び位置付け、関連する法令について説明する。
6.中央教育審議会答申が示す教育課程改革の構造及び特徴について説明する。
7.学習指導要領改訂の特徴と改善の方向性について説明する。
8.学習指導要領の枠組みと『総則』に示す改訂のポイントについて説明する。
9.カリキュラム・マネジメントの意義と重要性及び３つの側面、方法について説明する。
10.カリキュラム・マネジメントと教育課程のＰＤＣＡサイクルについて説明する。
11.「主体的・対話的で深い学び」のアクティブラーニングについて説明する。
12.育成を目指す資質・能力から教科等横断的な教育内容の選択・配列について説明する。
13.教科等横断的な視点からのカリキュラム編成と指導計画の作成について説明する。
14.保護者及び地域と協働したキャリア教育の推進と学校改善について説明する。
15.チェックリストを活用した教育課程の評価と改善について説明する。 定期試験

準備学習(予習・復習)・時間
①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60 分) ②教育課程関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60 分) ③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60 分)

テキスト
『教育課程論のフロンティア』2019.3 改訂版（大津実他著晃陽書房）

参考書・参考資料等
・『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（文部科学省）・授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価
定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
（B）教育課程の意義や編成原理、学習指導要領の内容について、テキストを見ながら説明できる。
（A）カリキュラム・マネジメントの視点からの教育課程のＰＤＣＡサイクル、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、テキスト等を見ながら自分の言葉で説明できる。
（S）教科等横断的な視点に立ったキャリア教育推進の年間計画の策定やカリキュラムづくりの留意点について説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。・振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は、次の授業で解説を行う。

その他
・教育基本法等の学校教育関連法令については、十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等については、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公立学校教員及び管理職、教育行政等の勤務経験のある教員が、学校現場での学習指導・生徒指導等の教育実践や学校経営、教育行政の所管する教育課程等に係る資料の編成や教職員研修、教員採用試験担当等の経験を活かして、実践的な立場からの講義と情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	道徳教育指導論							学 期	前期
副 題	道徳の理論及び指導法				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-182	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
１、道徳の意義と本質、２、学校教育における道徳教育、３、道徳科指導法を学ぶ。

授業の到達目標
道徳教育における実践的指導力を身につけることを目標とする。そのために、道徳の意義や原理を理解する。また、学校教育全体における道徳教育の意義と、その中核となる道徳科目標、内容を理解する。

授業計画
１.道徳とは何か１、その本質について学ぶ。
２.道徳とは何か２、主要な道徳理論を学ぶ。
３.道徳教育の歴史を解説する（西洋）。
４.道徳教育の歴史を解説する（東洋）。
５.現代社会における道徳とは何か理解する。
６.学習指導要領における道徳教育の目標を知る１
７.学習指導要領における道徳教育の目標を知る２
８.子どもの道徳性の発達について学ぶ。
９.道徳科指導法について説明する。
10.道徳科の教材と授業計画について解説する。
11.道徳科指導案作成を行う。
12.学生による模擬授業を行う。
13.学生による模擬授業を行う。
14.模擬授業の振り返りと授業改善の方法を検討する。定期試験。
15.道徳科の学習評価を解説する。

準備学習（予習・復習）・時間
予習として、授業で用いる資料を読む。道徳教育の読み物資料等について、生徒に伝えたいこと、自分の考えをまとめておく。(90 分)　復習として、配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめる。指定した参考文献を読んでおく。(90 分)

テキスト
文部科学省『小学校学習指導要領』、2017 年 文部科学省『中学校学習指導要領』、2017 年

参考書・参考資料等
文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』、2017 年 文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』、2017 年 走井洋一（編著）『道徳教育の理論と方法』ミネルヴァ書房、2020 年 田沼茂紀（編著）『道徳科重要用語辞典』明治図書、2021 年

学生に対する評価
定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）道徳的徳目を六つ以上言える。
（B）集団や社会生活において重視される道徳的価値を説明できる。
（A）生命や自然、崇高なものを敬う気持ちの大切さを理解している。
（S）国際理解と道徳の関連性を理解し、生徒に指導する方法を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法
提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

その他
授業中のディスカッションや、指導案作成・模擬授業などを実施する。主体的な姿勢で臨むことが期待される。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
16 年間中学校・高等学校国語科教諭として勤務し、道徳教育に携わった経験を活かし、実際に使われている道徳教材を積極的に活用して、アクティブラーニングの授業を展開する。

科目名	総合的な学習の時間・特別活動							学 期	前期
副 題	総学・特活の特徴・内容・方法を解説する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-17-183	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学習指導要領において特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。授業では、学校生活(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)において学習指導要領の内容について具体的に事例を挙げながら学ぶ。総合的な学習の時間についても、探求的な見方考え方を働かせることを、横断的・総合的な学習の課題を通して学ぶ。指導案作成や教材研究、模擬授業を通して、教師になった時の実践力を身につける。さらに、教育活動の基礎にある人間の成長発達の理論や教育学の理論も学ぶ。

授業の到達目標
・特別活動の意義、目標について理解する。・学習指導要領の内容を理解し、特別活動を構成している教育活動の指導方法を学ぶ。・総合的な学習の時間の意義を理解し、指導案を作成し模擬授業を行う。・人間の成長・発達の理論や教育学の代表的な基礎理論を理解する。

授業計画
1. オリエンテーション。授業計画の説明。特別活動の意義と役割について学ぶ。
2. 学習指導要領から「特別活動」の意義や内容について学ぶ。「隠れたカリキュラム」について学ぶ。
3. ホームルーム活動について学ぶ。役割の取得と人間関係構築について考える。
4. ホームルーム活動の指導案の作成。(公共の精神や生き方・在り方を考える。)
5. ホームルーム活動の模擬授業。
6. 学校行事の意義や内容について学ぶ。
7. 学校行事の具体的実践研究とプレゼンテーション。
8. 生徒会活動とクラブ活動の意義を学ぶ。具体的実践例とプレゼンテーション。
9. 総合的な学習の時間について学ぶ。(目的・経緯、課題など)
10. 総合的な学習の時間の指導案作成と教材研究。(食育・国際理解・ボランティア等)
11. 総合的な学習の時間の模擬授業。
12. J. デューイの教育についての理論を学習する。
13. 人間の成長・発達の理論と青年期の課題について学ぶ。
14. 特別活動から見た学校の現状と課題を考える。特別活動の評価についてディスカッションを行う。
15. これまでの学習を振り返り、特別活動のまとめと今後の課題を整理する。定期試験は実施しない。

準備学習(予習・復習)・時間
配布する授業の資料を読む。(40 分)　学習指導案や授業計画、模擬授業の準備を進めていく。(50 分)　授業後は、配布プリントや資料から、要点をノートに整理してまとめる。(60 分)　授業で行われた指導案作成などを見直す。(30 分)

テキスト
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』の特別活動編。　(配布する。)

参考書・参考資料等
田中耕治編著、『よくわかる授業論』、ミネルヴァ書房

学生に対する評価
小レポートの提出(１０%)、指導案の提出(１５%)、模擬授業・プレゼンテーション(２０%)、学期末レポート(５５%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 特別活動の目標と意義が言える。
(B) 総合的な学習の目的と経緯を説明できる。
(A) ホームルーム活動や学校行事の意義を説明できる。
(S) デューイの教育理論に沿って体験学習の教育的意義を理解している。

課題に対するフィードバックの方法
小レポートや学習指導案等は添削して返却する。

その他
毎回出席を取る。ＩＣＴ機器を活用しながら、同時にアクティブラーニングの授業形式を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
１８年間の高等学校国語科教諭の経験を活かして、具体的な学級運営の事例などを紹介しながら、学校生活で特別活動の果たす役割を実践的に伝え、学生に考えてもらう授業を行う。

科目名	教育方法論							学 期	前期
副 題	教育の方法及び技術(ICT の活用含む)				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-184	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・これからの社会を生きる生徒の資質・能力を育成するために必要な教育の方法と技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・情報通信技術を活用した学習指導や校務運営、ならびに生徒の情報活用能力の育成に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の到達目標
教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する基礎的な知見について学んだ上で、教材作成や指導案作成の演習を通じて実践的な技能を身に付ける。

授業計画
1.導入（教育方法の理論、情報通信技術活用の意義、教師に求められる指導力）
2.学習をめぐる理論（学習理論とその応用、学習における他者の役割）
3.授業を構成する要件（学級、生徒、教員、教室、ICT 機器を含む教具、デジタルコンテンツを含む教材）
4.授業の基礎技術（話法、板書、ICT を用いた情報提示）
5.デジタルコンテンツの特長
6.評価の理論と方法（ICT による教育データ（スタディ・ログなど）の活用を含む）
7.主体的・対話的で深い学びを実現する授業（授業デザインと ICT 活用）
8.個別最適化された学びと ICT
9.各教科等と情報活用能力（教科横断的な指導と各教科等の特性に応じた指導）
10.学習指導案の作成方法
11.情報モラルを中心とした情報活用能力の内容とその指導法
12.特別支援教育における ICT 活用
13.ICT による学びの保障（遠隔・オンライン教育）
14.校務の情報化と教育データの活用
15.ICT 活用のための校内体制と外部連携

準備学習（予習・復習）・時間
予習としては、事前に指示された資料を読み込み、質問ができるように準備すること（90 分）。また、取得予定免許の教科の指導法における指導案を確認しておくこと。 復習としては、配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめること。また、指定した参考文献を読んでおくこと（90 分）。

テキスト
・田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之（2019）『改訂版 新しい時代の教育方法』有斐閣 ・稲垣忠・佐藤和紀（2021）『ICT 活用の理論と実践 DX 時代の教師をめざして』北大路書房

参考書・参考資料等
・文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」 ・文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）」 ・石井英真・鈴木秀幸（2021）『ヤマ場をおさえる学習評価 中学校』図書文化 ・杉江修治（2011）『協同学習入門 基本の理解と 51 の工夫』ナカニシヤ出版

学生に対する評価
授業中の課題への取組（20%）、教材・指導案（40%）、レポート試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義の内容の概要を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を、思想的歴史的背景から理解できる。
（S）講義の内容を、自分なりに批判的に検討出来る。

課題に対するフィードバックの方法
課題（授業内でのディスカッション等）へのコメント、指導案の添削、模擬授業へのコメント

その他
授業中のディスカッションや、指導案作成・模擬授業などを実施する。主体的な姿勢で臨むことが期待される。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
16 年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験を活かし、理論を実際にどのような形で生かすのかを伝える授業にする。

科目名	教育方法論･ICT 活用論							学 期	前期
副 題	教育の方法及び技術(ICT の活用含む)				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-185	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・これからの社会を生きる生徒の資質・能力を育成するために必要な教育の方法と技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・情報通信技術を活用した学習指導や校務運営、ならびに生徒の情報活用能力の育成に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の到達目標
教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する基礎的な知見について学んだ上で、教材作成や指導案作成の演習を通じて実践的な技能を身に付ける。

授業計画
1.導入（教育方法の理論、情報通信技術活用の意義、教師に求められる指導力）
2.学習をめぐる理論（学習理論とその応用、学習における他者の役割）
3.授業を構成する要件（学級、生徒、教員、教室、ICT 機器を含む教具、デジタルコンテンツを含む教材）
4.授業の基礎技術（話法、板書、ICT を用いた情報提示）
5.デジタルコンテンツの特長
6.評価の理論と方法（ICT による教育データ（スタディ・ログなど）の活用を含む）
7.主体的・対話的で深い学びを実現する授業（授業デザインと ICT 活用）
8.個別最適化された学びと ICT
9.各教科等と情報活用能力（教科横断的な指導と各教科等の特性に応じた指導）
10.学習指導案の作成方法
11.情報モラルを中心とした情報活用能力の内容とその指導法
12.特別支援教育における ICT 活用
13.ICT による学びの保障（遠隔・オンライン教育）
14.校務の情報化と教育データの活用
15.ICT 活用のための校内体制と外部連携

準備学習（予習・復習）・時間
予習としては、事前に指示された資料を読み込み、質問ができるように準備すること（90 分）。また、取得予定免許の教科の指導法における指導案を確認しておくこと。 復習としては、配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめること。また、指定した参考文献を読んでおくこと（90 分）。

テキスト
・田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之（2019）『改訂版 新しい時代の教育方法』有斐閣 ・稲垣忠・佐藤和紀（2021）『ICT 活用の理論と実践 DX 時代の教師をめざして』北大路書房

参考書・参考資料等
・文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」 ・文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）」 ・石井英真・鈴木秀幸（2021）『ヤマ場をおさえる学習評価 中学校』図書文化 ・杉江修治（2011）『協同学習入門 基本の理解と 51 の工夫』ナカニシヤ出版

学生に対する評価
授業中の課題への取組（20%）、教材・指導案（40%）、レポート試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義の内容の概要を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を、思想的歴史的背景から理解できる。
（S）講義の内容を、自分なりに批判的に検討出来る。

課題に対するフィードバックの方法
課題（授業内でのディスカッション等）へのコメント、指導案の添削、模擬授業へのコメント

その他
授業中のディスカッションや、指導案作成・模擬授業などを実施する。主体的な姿勢で臨むことが期待される。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
16 年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験を活かし、理論を実際にどのような形で生かすのかを伝える授業にする。

科目名	生徒指導・進路指導							学 期	後期
副 題	生徒指導・キャリア教育の理論及び方法				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-186	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われるものである。他の教書金や関係機関と連携して、組織的に生徒指導を行うために必要な知識を学ぶ。進路指導とキャリア教育は共に、生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的な展望からの人間形成を目指す教育活動である。これらのことを念頭に置いて学校の教育課程の中での位置づけを理解し、生徒指導および進路指導・キャリア教育の指導の原理を学び、指導の実際の在り方を考えていく。

授業の到達目標
・学校教育における生徒指導の目的と原則(ガイダンス)を理解する。・教育課程における生徒指導および進路指導・キャリア教育の役割を理解する。・問題行動の社会的背景と集団指導・個別指導の原理を理解する。・ガイダンスの特性を生かした進路指導・キャリア教育を考える。

授業計画
1.オリエンテーション。授業の概要と授業計画。生徒指導・進路指導を学ぶにあたっての留意点を説明する。
2.日本の生徒指導の歴史的系譜。世界の生徒指導を比較して学ぶ。
3.現代の生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義と課題を考える。
4.問題行動と生徒指導の在り方について学習する（不登校の問題をディスカッションする。）
5.いじめ問題を考える。(文科省によるいじめの定義と類型化の紹介。いじめ防止対策。)
6.生徒指導で直面する現代の問題(ブラックバイト、若者の貧困等)を理解する。DVD鑑賞。
7.非行の問題を考える。－新しい荒れと言われる少年非行の問題－（ディスカッションを行う。）
8.カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。(事例研究から。)
9.進路指導におけるガイダンスの役割について理解する。
10.進路指導・キャリア教育の視点から体験活動や授業の改善を考える。
11.キャリア教育についての理解。キャリア教育の本質を考える。
12.キャリア教育の基本原理を学ぶ。(ブルデュー、スーパー、パーソンズの理論から。)
13.「キャリアの時間軸」、ライフキャリアを考える。キャリアイベント、キャリアリスク等について学習する。
14.生徒指導および進路指導・キャリア教育に関して、地域との連携について学ぶ。定期試験。
15.これからの生徒指導・キャリア教育に求められることを考える。これまでの学習のまとめを行う。

準備学習(予習・復習)・時間
事前に配布する資料を読んで、分からないところや疑問点をリストアップしておく。(60分) 事前に配布する問題集のプリントに目を通しておく。(30分) 授業後は専門用語を中心に学習した内容をノートにまとめ、問題集のプリントの見直しをする。(90分)

テキスト
文部科学省『生徒指導提要』、2022年 伊藤一雄（編著）『新・教育指導の理論と実践』、サンライズ出版、2007年

参考書・参考資料等
伊藤一雄『キャリア開発と職業指導』、法律文化社、2011年 全米キャリア発達学会（著）、仙崎武・下村英雄編（訳）『D.E.スーパーの生涯と理論』、図書文化社、2013年

学生に対する評価
小レポートの提出（20%）、出席状況とディスカッション等の参加状況（25%）、学期末試験（55%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）生徒指導の目的と理念を言える。
（B）キャリアエデュケーションの目的を説明できる。
（A）問題行動の対処に関しての地域の連携を説明できる。
（S）文部科学書と厚生労働省のキャリアエデュケーションの取り組みを理解している。

課題に対するフィードバックの方法
小レポートや試験は必ず添削して返却する。

その他
授業中にディスカッションを実施する。主体的な参加を期待する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
16年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験、特に学級担任や進路指導部長を務めた経験を活かし、生徒指導や進路指導の実際の在り方や難しさを伝えることを含めて、理論と実践を学ぶ授業とする。

科目名	教育相談							学 期	前期
副 題	教育相談の理論及び方法				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G3-17-187	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
生徒が直面する様々な問題、とりわけ、いじめ、不登校、非行、発達障害などを中心に、生徒の「こころ」の問題と行動を理解し、支援していく方法について学んでいく。また、思春期に発症しやすい神経症的な問題や精神的な疾患について、さらには教師のメンタルヘルスの問題についても知識を持てるようにする。その上で、生徒の相談に応じ、援助していくためのスキルとしてカウンセリングマインドを身につける。加えて、教育相談の経過の作成、校内体制の整備など組織的な取り組みの必要性と、地域の医療・福祉・心理の専門機関との連携の意義と必要性を理解する。

授業の到達目標
・学校教育相談の意義と課題を理解する。・教育相談の背景にある問題を理解する。・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論や概念を理解する。・発達障害を理解する。

授業計画
1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育相談を学ぶにあたっての留意点などを説明する。
2. 教育相談とは何か。学校教育相談および生徒指導との関連について学ぶ。
3. 児童・生徒の抱える問題の理解と対応の基本姿勢について概説する。
4. 学校におけるカウンセリングマインドについて学ぶ。
5. カウンセリングの基礎的知識を学ぶ（カウンセリングマインドを身につける）
6. 学校における不適応と問題行動について。不登校を考える。
7. 学校でのいじめを検討する。
8. 非行(反社会的問題と非社会的問題)への対処方法を学ぶ。模擬教育相談の実施。
9. 発達障害について理解する。
10. 摂食障害や不安神経症、境界性人格障害などの精神・神経疾患の基礎知識を学ぶ。
11. 同一性の問題について学習する。(自己同一性の問題、並びに性同一性の問題など)
12. 国際化に伴う教育相談の紹介。(外国人未就学児童の問題など)
13. 教育相談の学校内体制の整備について学ぶ。(事例の紹介)
14. 学校教育相談と地域での連携について学習する。定期試験。
15. 教師のメンタルヘルスについて現状と対策を学ぶ。

準備学習(予習・復習)・時間
授業の前に、教科書や配布したプリントを読んで、分からないところをチェックしておくこと。〈90 分）
授業後は、専門用語を中心に教科書やプリントから重要なところを自分でノートにまとめておく。(90 分)

テキスト
金子邦秀（監修)、伊藤一雄・児玉祥一・奥野浩之（編著)『新しい教職基礎論』、サンライズ出版、2018 年

参考書・参考資料等
河村茂雄（編著)『教育相談の理論と実際－改訂版－』、図書文化社、2019 年 滝口俊子『スクールカウンセリング』、放送大学、2010 年 春日井敏之・伊藤美奈子（編)『よくわかる教育相談』、ミネルヴァ書房、2011 年

学生に対する評価
小レポートの提出（20%)、模擬教育相談（20%)、学期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）教育相談の目標と意義を説明できる。
（B）教師の教育相談としてのカウンセリングと一般的なカウンセリングの違いを理解している。
（A）発達障害にはどのようなものがあるのかを説明できる。
（S）教育相談の地域連携について理解している。

課題に対するフィードバックの方法
提出された小レポートや試験などは添削して次回の授業時に返却する。

その他
テーマを選んでのプレゼンテーションを各自、1 回ずつ行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
16 年間中学校・高等学校国語科教諭として勤め、学級担任や進路指導部長として生徒や保護者からの相談に応じてきた経験や、スクールカウンセラーとしての勤務経験等を活かして、専門的な知識を、個々の生徒の個性や家庭の事情などに配慮しながら活用していけるように、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的授業にする。

科目名	宗教科教育法Ⅰ							学 期	前期
副 題	宗教教育の基本を学ぶ				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G2-20-188	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
学校教育における宗教教育に必要な理論と実際について学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。

授業の到達目標
宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。

授業計画
1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（釈尊の生涯に関するもの）
2. 宗教教育とは：①宗教と宗教教育
3. 宗教教育とは：②宗教の定義
4. 宗教教育とは：③道徳教育と宗教教育
5. 宗教科教育法について：①戦前の教育と信教の自由
6. 宗教科教育法について：②戦後の教育と信教の自由
7. 宗教科教育法について：③憲法、教育基本法と宗教教育
8. 宗教教育の歴史：①日本における宗教教育
9. 宗教教育の歴史：②宗教と教育の関連
10. 宗教教育の歴史：③現代青少年の宗教意識の諸相
11. カリキュラム構成の実際と計画
12. 学習指導案の作成：①祖師の生涯を確認する（釈尊と弘法大師）
13. 学習指導案の作成：②釈尊伝の授業構成を検討する
14. 学習指導案の作成：③弘法大師伝の授業構成を検討する
15. 試験およびレポート提出

準備学習（予習・復習）・時間
授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる（計 90 分以上）。

テキスト
斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会（コピー配布）

参考書・参考資料等
①教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林②日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』鈴木出版③藤原聖子『教科書の中の宗教』（岩波新書）岩波書店④小口偉一編『宗教学辞典』東京大学出版社、他

学生に対する評価
定期試験（60%）、レポート（釈尊伝の感想文）（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）宗教教育の意義を認識している。
（B）宗教教育の問題点と課題に通じている。
（A）宗教教育および仏教に関する基本知識を備えている。
（S）宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法
各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

その他
宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには宗教科の教師になるという意味をよく考えることが必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅱ							学 期	後期
副 題	宗教授業の展開を学ぶ				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G2-20-189	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。

授業の到達目標
宗教教育科の授業方法や実際について体験して経験値を上げる。模擬授業を通してみた宗教教育の実際を学ぶ。

授業計画
1．シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（弘法大師の生涯に関するもの）
2．授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（一心院谷と女人堂）
3．教材研究と学習指導案の作成方法について解説する。
4．学習指導案の点検、宗教科の授業方法、授業記録の作成方法を解説する。
5．模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
6．模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
7．模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」③成道
8．模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」④初転法輪
9．提出された授業記録の評価を行う。次回以降の留意点を解説する。
10. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」①誕生
11. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」②青年時代
12. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」③入唐求法
13. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」④高野山開創
14. 授業記録の提出と反省会
15. 模擬授業全体の反省と提出された授業記録の評価を行う。 レポート提出

準備学習（予習・復習）・時間
授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる（計 90 分以上）。

テキスト
①中村元・田辺和子共著『ブッダ物語』（岩波ジュニア新書）岩波書店②松長有慶『空海・心の眼をひらくー弘法大師の生涯と密教ー』大法輪閣③富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所

参考書・参考資料等
①斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会②教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林

学生に対する評価
模擬授業（学習指導案と教材研究を含む）（80%）、レポート（弘法大師伝の感想文）（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習指導案をまとめる授業構成力が確認できる。
（B）授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力をもっている。
（A）仏教・密教に関する基礎知識を十分にもち、教材研究においても能力が確認できる。
（S）宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法
各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

その他
宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。模擬授業における生徒側からの観察力・批判力も重視する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅲ							学 期	前期
副 題	中学生を対象とした授業方法				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G3-20-190	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、中学生を対象とした教科「宗教」の授業内容・方法について学習する。

授業の到達目標
中学生を対象とした教科「宗教」の授業方法について理解し実践方法を学んで、実際に模擬授業ができるようになる。

授業計画
1.シラバスの説明、授業の進め方等、ビデオ鑑賞（世界の宗教に関するもの）
2.授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（奥之院「大秦景教流行中国碑」等）
3.新聞等の記事を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
4.映像や音声を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
5.教材研究と学習指導案作成の方法（系統型と経験型授業）について学習する。
6.模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（系統型授業）
7.授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
8.模擬授業「イスラームの歴史と教え」（経験型授業）
9.授業の振り返り、指導記録の方法を学習する。
10.教材研究と学習指導案作成の方法（融合型授業）について学習する。
11.模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（融合型授業）
12.授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
13.模擬授業「イスラームの歴史と教え」（融合型授業）
14.授業の振り返り、評価の種類と活用について学習する。
15.授業全体の反省とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、普段は、模擬授業に必要な宗教に関する情報を調べてまとめておく。(180 分)　事前学修として、模擬授業前は、模擬授業の学習指導案を作成し（120 分)、模擬授業の練習をしておく。(60 分)

テキスト
村上重良『世界の宗教－世界史・日本史の理解に－』岩波ジュニア新書、岩波書店、改版：2009（書店で購入）

参考書・参考資料等
①斉藤昭俊『宗教科教育法』国書刊行会、1984、②教育実習を考える会（編）『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林、1995、③岸本英夫（編）『世界の宗教』大明堂、1965／原書房、2004。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
模擬授業（学習指導案と教材研究等を含む）（60%）、レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力を有している。
（B）学習指導案を作成する授業構成力が確認できる。
（A）宗教に関する基礎知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。
（S）現代の宗教文化に関する知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他
20 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。いかなる理由であれ模擬授業を行わなかった場合は失格とする。学生によるプレゼンテーション（模擬授業）を取り入れた科目で、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。新聞等の記事にも普段から目を向け、宗教に関する知識を養うことが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高校教員（教科「宗教」）として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、教科「宗教」の授業内容・方法について具体的に指導する。

科目名	宗教科教育法Ⅳ							学 期	後期
副 題	教育免許「宗教」を目指す人の実践法を学ぶ				授業方法	講義	担当者	富田向真	
ナンバリング	G3-20-191	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
・教科「宗教」の指導方法を学び、授業が円滑にできるようになることを目的とする。 ・教育実習Ⅰ（見学実習）を修了していることを前提として、教育実習Ⅱ（教壇実習）に向けた教授法、そして指導案作成の実際を学ぶ。また年間教育計画、期間教育計画、学習指導案の作成方法を学ぶ。

授業の到達目標
宗教科の授業内容やその教授方法を学び、さらに学習指導案や単元計画、年間授業計画の作成方法を理解することで年間を通した授業が実践できるようになる。また、模擬授業を実践し、指導案に即した授業展開ができることを目指す。

授業計画
1．教科「宗教」の授業計画（目的、目標、方法、評価）について学ぶ。
2．学習指導要領に教科「宗教」がなぜないのか。その意味について理解する。
3．年間授業計画の作成方法を学び、作成する。
4．期間授業計画の作成方法を学び作成する。
5．教科「宗教」の指導法について学ぶ。系統型、経験型、問答型、討論型、その他の方法
6．系統型と経験型の学習指導案作成の方法について学び作成する。
7．系統型授業による学習指導案の点検及び修正を行う。
8．学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。
9．授業評価の種類と方法について理解する。
10. 経験型授業による学習指導案の点検及び修正を行う。
11. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。（1）
12. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。（2）
13. 多面的に授業の評価を行うことの重要性について理解する。
14. 宗教教育の意義（1）　宗教教育の効果を考える
15. 宗教教育の意義（2）　宗教教育に求められる姿を共に考える

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習としてテキスト『青少年のための仏教読本』を熟読し、教壇に立つことをイメージした授業計画を作成しておく（60 分）。また、事後学習として授業で学んだ内容を振り返り、作成した授業計画を修正しながら次の時間に備える（60 分）

テキスト
富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所発行（大師教会で販売　1200 円）

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価
定期試験（40%）、毎回の授業の取り組み（30%）、模擬授業の取り組み（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）宗教科の授業内容やその教授方法について理解でき、指導案などが適切に作成できると認められる最低限の成績である
（B）宗教科の授業内容やその教授方法についての理解でき、指導案作成の内容に即した授業展開が見込めると認められる成績である
（A）宗教科の授業内容やその教授方法についての理解した上で指導案作成も適切であり、授業展開が実際に可能と思われる優れた成績である
（S）宗教科の授業内容やその教授方法についての理解した上で指導案作成も適切であり、授業展開が実際に可能と思われ、特に優れた成績である

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
宗教科授業の指導案作成の提出、また作成した指導案に基づいた模擬授業を実施する。遅刻は原則認めない（教育実習先に迷惑をかけない観点から、本学授業でも遅刻を認めないとする）。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
現在高野山高校の教諭（宗教科主任）である教員が、その経験を活かして実際の授業（宗教）について解説し、机上でなく実際の指導案作成法を教授すると共に、実際の授業展開を教育実習に向けて指導する。

科目名	国語科教育法Ⅰ							学 期	前期
副 題	国語科の教育方法を具体例を使って解説				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-20-192	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。学習指導案の作成の意義・手順などを具体的に指導する。また、指導案の書き方を学ぶ。

授業の到達目標
国語への関心を高め、表現力を伸長し、日本文化と伝統についての理解を深める。学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。

授業計画
1.国語科教育の目的・目標（中学校と高等学校）について解説する。
2.中学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
3.高等学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
4.高等学校における古典の授業の方法を具体的に考える。
5.学習指導案とは何か。その意義と目的について解説する。
6.教材研究の方法と指導案の作成方法（1）外山滋比古『知的創造のヒント（1）』
7.教材研究の方法と指導案の作成方法（2）外山滋比古『知的創造のヒント（2）』
8.教材研究の方法と指導案の作成方法（3）古文『十訓抄』－顕宗といふ笛吹きー」
9.材研究の方法と指導案の作成方法（4）古文『竹取物語』かぐや姫のおひたち
10.教材研究の方法と指導案の作成方法漢文「返り点のつけかた」
11.国文法の授業の問題点と課題（口語の場合）
12.国文法の授業の問題点と課題（文語の場合）
13.教員による実践授業（1）現代文
14.教員による実践授業（2）古文
15.総括講義国語科の授業の必要性など定期試験

準備学習（予習・復習）・時間
国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく（45～60 分）

テキスト
①現代の国語（第一学習社）②新編言語文化（第一学習社）③『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

参考書・参考資料等
国語科教育研究（学芸図書）

学生に対する評価
発表（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）（B）にやや劣るもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）（S）にやや不十分な点があるもの。
（S）国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

その他
・単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。 ・ＩＣＴ機器を活用しながら、アクティブラーニング形式の授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
公立高等学校で１８年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法について各単元ごとに学習指導案の作成手順や授業方法など具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅱ							学 期	後期
副 題	国語科の教育方法を模擬授業等を通して解説				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-20-193	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
毎時間１名による模擬授業（50 分）とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導（40 分）。忌憚のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶ。

授業の到達目標
実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また、引き続き教育法Ⅰにおける各単元における指導案の書き方も研究する。

授業計画
1. ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の目的と意義）
2. 現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の教材研究と指導案作成を解説する。
3. 現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の模擬授業を行う。
4. 古文〈物語〉「伊勢物語」の教材研究と指導案作成を解説する。
5. 古文〈物語〉「伊勢物語」の模擬授業を行う。
6. 古典文法「動詞の活用」の教材研究と指導案作成を解説する。
7. 古典文法「動詞の活用」の模擬授業を行う。
8. 高校現場で国語の授業を見学し授業記録の作成と指導法を学ぶ。
9. 高校現場で国語担当教員及び教育実習生の体験談を聞く。
10. 高校現場での体験交流を行い、円滑な模擬授業の参考にする。
11. 漢文「漁夫の利」の模擬授業と相互評価を行う。
12. 古文〈物語〉「竹取物語」の模擬授業と相互評価を行う。
13. 国語表現「報告文と手紙を書く」の模擬授業と相互評価を行う。
14. 現代文〈詩歌〉「一つのメルヘン」の模擬授業と相互評価を行う。
15. 古文〈詩歌〉「新古今集」の模擬授業と相互評価を行う。

準備学習（予習・復習）・時間
国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく（45～60 分）

テキスト
国語総合（第一学習社）

参考書・参考資料等
①現代の国語（第一学習社）②新編言語文化（第一学習社）③『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

学生に対する評価
定期試験（50%）とレポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）（B）にやや劣るもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）（S）にやや不十分な点があるもの。
（S）国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

その他
・単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。 ・ＩＣＴ機器を活用しながら、アクティブラーニング形式の授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公立高等学校教諭として１８年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法や各単元ごとの学習指導案の作成手順など具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅲ							学 期	前期
副 題	国語の授業デザイン				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-20-194	実務経験の有無	無	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
教壇に立って授業を展開するためには、授業者に明確な授業計画とそれを支える知識がなければならない。また、学習指導要領が改訂され、今後の国語教育は大きく変わっていく。本講義では、まず学習指導要領改訂のポイントを理解し、理想的な国語科教員のイメージと、今後求められる国語教育のあり方を考える。次に、「現代の国語」（現代文）、「言語文化」（古文）からそれぞれ題材を選び、教材研究と指導案の作成、模擬授業を通して、国語科教員としての実践力を養っていく。また、不定期に小テストを行い、基礎学力の向上を目指す。

授業の到達目標
現代文と古文の教材の指導法を習得し、実践できるようになる。

授業計画
1．ガイダンス
2．『中学校学習指導要領　国語』の研究①―国語を学ぶ意味―
3．『中学校学習指導要領　国語』の研究②―現代文と古文から何を学ぶのか―
4．『高等学校学習指導要領　国語』の研究①―中学校「国語」との共通点―
5．『高等学校学習指導要領　国語』の研究②―中学校「国語」との違い―
6．高等学校「現代の国語」における教材研究の方法
7．高等学校「現代の国語」における学習指導案の作成方法
8．高等学校「現代の国語」の模擬授業―教材研究の観点から―
9．高等学校「現代の国語」の模擬授業―学習指導案作成の視点から―
10. 高等学校「言語文化」における教材研究の方法
11. 高等学校「言語文化」における学習指導案の作成方法
12. 高等学校「言語文化」の模擬授業―教材研究の視点から―
13. 高等学校「言語文化」の模擬授業―学習指導案作成の視点から―
14. 文学史の知識とその活用法
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲について自身で調べ（60 分）、事後学修として講義内容をまとめておくこと（90 分）。模擬授業の準備を含む。

テキスト
教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等
糸井通浩・植山俊宏編『国語教育を学ぶ人のために』（世界思想社、1995 年）　古田尚行『国語の授業の作り方　はじめての授業マニュアル』（文学通信、2018 年）　その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
模擬授業（60%）、不定期に実施する小テストならびに小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）国語を学ぶことについて、その意義を理解している。
（B）理想的な国語科教員像を提示できている。
（A）基礎学力があり、学習指導案に沿って授業ができている。
（S）基礎学力があり、学習指導案に沿ってわかりやすい授業ができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回討議を重ね、講義後、個別に質問を受け付ける。

その他
受講は国語の教員免許取得を目指す学生に限る。　5 分の 1（3 回）以上の欠席があった場合、成績は評価しない。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国語科教育法Ⅳ							学 期	後期
副 題	国語の授業デザイン				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G3-20-195	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
基礎的な国語力を養成するため、評論・小説・古文・漢文の読解を通じて、その教材を学ぶ意味、教員としての知識と思考力などを養う。教材研究・指導案作成・模擬授業などを実体験する。

授業の到達目標
基礎学力の向上、指導法の練成、情報機器を活用する能力の上達。教壇に立つための基盤をつくる。

授業計画
1.ガイダンス（講義の進め方、成績評価の基準）
2.評論文の教材研究の方法について解説する。
3.評論文の指導案作成の方法について講義する。
4.評論文の模擬授業と授業評価を行う。
5.小説を教材研究の視点から考察する。
6.小説を学習指導案作成の視点から考察する。
7.小説の模擬授業と授業評価行う。
8.古文を教材研究の視点から考察する。
9.古文を学習指導案作成の視点から考察する。
10.古文の模擬授業と授業評価を行う。
11.漢文を教材研究の視点から考察する。
12.漢文を学習指導案作成の視点から考察する。
13.漢文の模擬授業と授業評価を行う。
14.現代文を学ぶ意味について考える。
15.古典を学ぶ意味について考える。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間
教材研究（60 分）　指導案作成（30 分）

テキスト
使用しない。中学・高校の国語科教科書が採用している作品を用意して配布する。

参考書・参考資料等
『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

学生に対する評価
教材研究（25%）、指導案作成（25%）、模擬授業（25%）、定期試験（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）指導案作成・発話・板書・情報機器活用の基本ができている。
（B）上記について、臨機応変な対応ができる。
（A）上記について、教え方に分かりやすさが認められる。
（S）上記について、豊かな教養や教育への情熱が感じられる。

課題に対するフィードバックの方法
意見・質問などについては、授業内で対応する。 オフィス・アワーでも対応する。

その他
受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高等学校・高等専門学校における国語科の実務経験がある担当教員が、教室における生徒の反応など、想定される事態について、具体的な事例を挙げて紹介する。

科目名	教育実習の研究							学 期	前期
副 題	教育実習を通して必要な知識・技能等を修得				授業方法	講義	担当者	鈴木・佐々木	
ナンバリング	G3-17-196	実務経験の有無	無	関連DP	―	単位数	1	他	A

授業の目的と概要
①教育実習の事前に、実習の構造、実習の意義、実習における学びのポイントを確認し、実習に臨む心構えを整える。②教育実習の事後、実習内容のまとめと発表を通じて、実習を振り返り、他の実習生の体験を共有化することで、実習での学びを定着させる。

授業の到達目標
教育実習を通して、学校教育の全体を体験的・総合的に理解する問い目標を達成するため、事前学習並びに事後振り返りを行う。教員としての能力や適性を確認するとともに、将来教員として行う教育実践と教育実践研究に必要な知識・技能が何かを理解する。

授業計画
1. 教育実習の構造と意義（担当：鈴木）
2. 実習生の心得（担当：鈴木）
3. 授業観察のポイント（担当：鈴木）
4. 実習日誌の作成のポイント（担当：鈴木）
5. 実習日誌作成演習（担当：鈴木）
6. 教育実習
7. 教育実習
8. 教育実習
9. 教育実習
10. 教育実習
11. 実習内容の振り返り（実習生発表）１（担当：佐々木）
12. 実習内容の振り返り（実習生発表）２（担当：佐々木）
13. 実習生ディスカッション（担当：佐々木）
14. 教員免許取得までに必要な知識・技能（担当：佐々木）
15. 教育実習での学びを踏まえた教員像（担当：佐々木）

準備学習（予習・復習）・時間
『教育実習の常識』の該当箇所を事前に研究しておく（予習）。講義内容を自ら振り返り、教育実習への準備においては実習での学習目標を明確化し、事後楽手においては、体験の深化・共有を図る（復習）（計 90 分以上）。

テキスト
教育実習を考える会編『教育実習の常識』蒼丘書林

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価
定期試験（40%）、授業における発表（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業参加において、授業技術を観察できる。
（B）授業参観において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。
（A）授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。
（S）授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解し、それを授業実践に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法
テストにコメントを付し、返却する。

その他
今年度の教育実習Ｉに行く学生は、必ず「教育実習の研究」を受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	教職実践演習（中・高）							学 期	後期
副 題	教職課程を具体的・実践的に総括する				授業方法	講義	担当者	鈴木・佐々木	
ナンバリング	G4-17-197	実務経験の有無	有	関連DP	―	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
４年間の教職科目の学習及び教育実習を通じて、教育指導の技術の一層の進化と定着を図ることを目標とする。

授業の到達目標
４年間の教職科目の学習及び教育実習の経験などを通じて、教職に対する理解がどれだけ深まったか。教職に対する意欲がどれだけ高揚したかを確認し、具体的な指導方法の向上を図る。

授業計画
1. 本演習の目指す目標・内容について解説する。各自の教職実践演習カルテの記入。
2. 各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。
3. 教職および教師に対する見方の変化を発表する。
4. 生徒指導（反社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
5. 生徒指導（非社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
6. 教育実習で体験した生徒指導上の問題について意見交換。
7. 自分自身の学校生活を振り返っての生徒指導についての意見交換。
8. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅰ－進学希望生徒の場合－
9. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅱ－就職希望生徒の場合－
10. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅲ－進路未決定生徒の場合－
11. ミニ模擬授業Ⅰ－授業方法と技術－
12. ミニ模擬授業Ⅰ－授業構成と評価－
13. 授業方法、授業順序、内容構成、生徒指導のかかわりについて考察する。
14. 教職実践演習カルテの記入事項の再点検と個人的課題の整理。
15. 教職実践演習カルテを記入した個々の学生に対してカウンセリングを行う。まとめ。

準備学習（予習・復習）・時間
配布資料を読んでおく。事前に配布したディスカッションや課題の発表の準備をする。（100 分） 授業で用いた資料やディスカッションの内容などをノートに整理しておく。（80 分）

テキスト
プリント等、資料を配布する。

参考書・参考資料等
①原田恵理子、森山賢一編著、『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版②伊藤一雄他著『新・教育指導の理論と実践』サンライズ出版 2006, 4

学生に対する評価
レポート（30%）、発表（40%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教員として必要な最低の実務能力が身についているか。
（B）教員として必要な最低の実務能力を身につけ、教職に対する理解と意欲が深まったか。
（A）生徒指導の基本を身につけ、教職に対する理解が深まったか。
（S）進路指導や職業指導の基本知識を習得しているか。

課題に対するフィードバックの方法
小レポートや指導案等は添削して返却する。

その他
積極的な発言を求める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
１８年間の公立高等学校教諭の経験から、学校生活（教科の授業・特別活動の指導・生徒指導・進路指導など）、教師として働くということをより具体的に理解する授業にするために、ＩＣＴ機器を活用しながら、アクティブ・ラーニングを基本に授業を展開していく。

科目名	人間学基礎ゼミⅠ（再履修）							学 期	前期
副 題	大学での学びの気づき				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N2-10-198	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
人間学基礎ゼミⅠ（再履修）では、大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。特に心について言語化、文章化するのが難しいため、学習の基本的な学びを言語という形にすることを理解し、より深い考察による言語化の重要性について理解を深める。

授業の到達目標
大学での学び方を再度理解し、その学びの内容を言語化できるようになる。

授業計画
1. 大学の学び方
2. ノートの取り方①（授業内容を正確に理解する）
3. ノートの取り方②（キーワードを中心に整理する）
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方①全体像を理解する
7. 本の読み方②内容を要約する
8. レポート作成の仕方①　論文の書式　レポートの書式
9. レポート作成の仕方②　文章の構成
10. レポート作成の仕方③　分かりやすい文章
11. 資料の検索①　図書館の利用
12. 資料の検索②　インターネットの利用
13. レポート作成の実践　①論文を要約する
14. レポート作成の実践　②意見文を書く
15. レポート作成の実践　③課題にしたがって文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、配布プリントを読んで、ネット等で補足的な知識をおぎない、理解する。(60 分以上）毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること(60 分以上)。

テキスト
プリントを配布

参考書・参考資料等
田中輿子編『よくわかる学びの技法第２版』ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価
最終レポート(60%)　　授業内および授業外での課題(40%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業中に不明な点について指導をするとともに、課題についで添削を行う。

その他
基礎ゼミは、人間学科の学牛は必修科目であるので、必ず履修すること。 ・授業に出席することは当然であるが、大学４年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。 ・デスカッショッやプレゼンテーションを行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・ガイダンスカウンセラー（スーパーバイザー）・カウンセリング心理士（スパーバイザー）として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	教養講義(数学史概論)／企画科目(数学史概論)							学 期	前期
副 題	数学史とともに思考の流れを学ぶ					授業方法	講義	担当者	木地茂典
ナンバリング	N1-15-199	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
古代から数学という学問はなく、起源は文字のない時代から【仮説】の域を出ないが、数を数える、獲物の頭数を調べることからのははじまりであろう。それから【数える】が基本で、【数】が形成され、生活にかかわることから【幾何学】が形成された。その後数学は、現在発展し、学問の体系化ができている。それに伴い思考力も体系化してきました。それらをこの講座の時間で少しでも理解していくことを目標にして数学を理解しようではなく、時代の論理思考を学んでいこうと考えている。

授業の到達目標
毎回時代の中心になる数学者の思想的な所を考えていく。それについて把握できることが、到達目標である。

授業計画
１. 全体的な講座の流れを説明していく。
２. 古代の数学者（１）
３. 古代の数学者（２）
４. ゼロの発見からの時代背景
５. 中世の数学者（１）
６. 中世の数学者（２）
７. 中世の数学者（３）
８. 1900 年代における数学者（１）
９. 1900 年代における数学者（２）
10. 1900 年代における数学者（３）
11. 1900 年代における数学者（４）
12. 現代の数学者（１）
13. 現代の数学者（２）
14. まとめ
15. 総まとめ～多様化している考え方の中で純数学者が出てくるだろうか

準備学習(予習・復習)・時間
この講座は、数学の分野に対して広範囲に扱うものですから、時代背景に対して思想家がなぜこのような感性を持って出現して来たかを考察してみる。毎回数学者を提示していきます。その数学者を調べ学習をしていくことを課します(90 分)

テキスト
毎回随時にテキスト代わりにプリントを提示していく。

参考書・参考資料等
授業中に参考文献として提示する。

学生に対する評価
毎回数学の提示により、課題解決の度数により評価とする。レポート（３０％）発表（３０％）　参加の積極性（４０％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）数学者の思考を知る姿勢が感じられること。
（B）数学者の論理性に気づきより一層の調査をしていくこと。
（A）数学者の論理性を理解を示していく姿勢が感じられること。
（S）数学者の論理性を理解を示し、認識度が深まっていると感じられること。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の課題から見えてくることを通してのフィードバックをおこなう。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。数学が苦手でも時代背景にあるもの、その影響で時代を代表する思考力が生まれてきている。そのことを把握していくことで、違ったものが見えてくるものです。そういう発表の場になればいいと考えている。

科目名	教養講義（社会のしくみ）／企画科目（社会のしくみ）							学 期	前期
副 題	新聞を読む					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	N1-11-200	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
政治・経済の基本について新聞記事を読みながら考える。

授業の到達目標
社会科学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎を身につける。

授業計画
1. 政治①政治原理と政治制度
2. 政治②選挙制度
3. 政治③政党・圧力団体
4. 政治④行政
5. 政治⑤地方自治
6. 政治⑥国際連合・国際社会
7. 法律①法律概論
8. 法律②日本国憲法
9. 法律③民法・刑法・その他
10. 経済①需要・供給・市場
11. 経済②国民所得・経済政策
12. 経済③金融政策
13. 経済④財政・租税
14. 経済⑤貿易体制
15. 経済⑥経済史

準備学習（予習・復習）・時間
・事前に新聞記事を読んでおくこと。 ・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
高校で使用した現代社会や政治経済などの教科書・副教材があれば参考にすること。

学生に対する評価
授業内試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明した政治・経済の基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した政治・経済の事象を説明できる。
（A）授業で説明した政治・経済の事象を自分のことばで説明できる。
（S）授業で説明した政治・経済の問題について解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法
・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他
・人間学科の 2019 年度入学生以降の選択必修科目である。 ・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、３、４回生も履修すること。 ・高校の教科書などを見直すこと。・前回の確認をするので、復習をしておくこと。

科目名	教養講義(思考力講座)／企画科目(思考力講座)							学 期	後期
副 題	身近なことから考えられる事象からくる思考				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	N1-16-201	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
哲学・宗教の枠を超えた森羅万象すべてに通じる数学的思考力を学んでいく。日常生活の中で自然とつかわれている考え方をこの講座を通して知っていき基礎的な部分を知っていく必要性を目的にしていく。こんなところにも数学的思考が使われていることを感じてほしい。この感性を授業で取得していただきます。毎回思考力を問う問題提起をしながら解決につながる思考過程をけんしょうしていく。

授業の到達目標
問題提起と問題解決の理解度を目標にしていく。数学的思考に重点をおいて展開するため、日常生活に使われていることに気を付けながら取り組んだ結果が目標である。

授業計画
1. 全体の講座の流れを説明していく。
2. 数学的思考による問題提起（1）
3. 数学的思考による問題提起（2）
4. 数学的思考による問題提起（3）
5. 数学的思考による問題提起（4）
6. 数学的思考による問題提起（5）
7. 数学的思考による問題提起（6）
8. 哲学的思考による問題提起（1）
9. 哲学的思考による問題提起（2）
10. 哲学的思考による問題提起（3）
11. 科学的思考による問題提起（1）
12. 科学的思考による問題提起（2）
13. 科学的思考による問題提起（3）
14. まとめ（1）
15. 総まとめ（2）

準備学習(予習・復習)・時間
この講座は、数学・思想の分野に対して広範囲に扱うものですから、時代背景に対して思想家がなぜこのような感性を持って出現して来たかを考察してみる。毎回思想家を提示していきます。その思想について調べ学習をしていくことを課します(90 分)

テキスト
毎回随時にテキスト代わりにプリントを提示していく。

参考書・参考資料等
授業中に参考文献として提示する。

学生に対する評価
毎回思想の提示により、課題解決の度数により評価とする。レポート（３０％）発表（３０％）　参加の積極性（４０％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）数学的・思想的な思考を知る姿勢が感じられること。
（B）数学的・思想的な論理性に気づきより一層の分析をしていくこと。
（A）数学的・思想的な論理性を理解を示していく姿勢が感じられること。
（S）数学的・思想的な論理性を理解を示し、認識度が深まっていると感じられること。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の課題から見えてくることを通してのフィードバックをおこなう。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。毎回受講生の発表を課す。　思考の流れをしっかりと理解できているかが問われる。思考とは、難しいかもそれないが、問題提起から得られる解決の方法を感じていくことである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。毎回受講生の発表を課す。　思考の流れをしっかりと理解できているかが問われる。思考とは、難しいかもそれないが、問題提起から得られる解決の方法を感じていくことである。

科目名	教養講義（人間と文化）／企画科目（人間と文化）							学 期	後期
副 題	地歴の基礎					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	N1-12-202	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
日本史や地理学の基本について学ぶことによって、現代社会がどのように成立したかを考える。

授業の到達目標
日本史や地理学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎を身につける。

授業計画
1. 原始
2. 古代①政治
3. 古代②文化
4. 中世①政治
5. 中世②文化
6. 近世①政治
7. 近世②文化
8. 近代①政治
9. 近代②文化
10. 地形①地図を読む
11. 地形②微地形
12. 産業①1 次産業
13. 産業②2 次産業・3 次産業
14. 人口問題
15. 現代の諸問題

準備学習（予習・復習）・時間
・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
中学・高校で使用した日本史や地理などの教科書・副教材があれば参考にすること。

学生に対する評価
授業内試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の事象を説明できる。
（A）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の自分のことばで説明できる。
（S）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の問題について解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法
・小レポートやミニッツペーパーを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他
・人間学科の 2019 年度入学生以降の選択必修科目である。 ・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、３、４回生も履修すること。 ・中学校、高校の教科書などを見直すこと。 ・前回の確認をするので、復習をしておくこと。

科目名	人間学実践演習（学外研修①）							学 期	後期
副 題	地域を理解するⅠ					授業方法	演習	担当者	森本一彦
ナンバリング	N3-11-203	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
夏休みを中心として、3 日間の高野山以外の地域（近畿地方）での実査を実施することによって、現実の地域社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

授業の到達目標
高野山以外の地域での実査を通じて、現実の社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

授業計画
1．事前指導
2．学外研修①
3．学外研修②
4．学外研修③
5．学外研修④
6．学外研修⑤
7．学外研修⑥
8．学外研修⑦
9．学外研修⑧
10. 学外研修⑨
11. 学外研修⑩
12. 学外研修⑪
13. 学外研修⑫
14. 学外研修⑬
15. 事後指導

準備学習（予習・復習）・時間
学外研修の体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト
特に指定しない

参考書・参考資料等
学外研修場所によって資料を指示する。

学生に対する評価
レポート（30%）、発表（10%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学外研修の企画を立案できる。
（B）学外研修に積極的に参加できる。
（A）学外研修の体験から地域社会を客観的に説明できる。
（S）学外研修の体験を活かし、自ら地域調査を企画し、実査できる。

課題に対するフィードバックの方法
実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他
履修人数の制限をし、人間学科の学生を優先する。希望者数によって選考を行う。 学外研修先については、４月に告知する。 夏休みの 3 日間の集中を原則とするが、状況によっては 1 日ずつ分散して実施する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	人間学実践演習（学外研修②）							学 期	後期
副 題	地域を理解するⅡ					授業方法	演習	担当者	森本一彦
ナンバリング	N4-11-204	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
夏休みを中心として、3 日間の高野山以外の地域（近畿地方以外）での実査を実施することによって、現実の地域社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

授業の到達目標
高野山以外の地域での実査を通じて、現実の社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

授業計画
1．事前指導
2．学外研修①
3．学外研修②
4．学外研修③
5．学外研修④
6．学外研修⑤
7．学外研修⑥
8．学外研修⑦
9．学外研修⑧
10. 学外研修⑨
11. 学外研修⑩
12. 学外研修⑪
13. 学外研修⑫
14. 学外研修⑬
15. 事後指導

準備学習（予習・復習）・時間
学外研修の体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト
特に指定しない

参考書・参考資料等
学外研修場所によって資料を指示する。

学生に対する評価
レポート（30%）、発表（10%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学外研修の企画を立案できる。
（B）学外研修に積極的に参加できる。
（A）学外研修の体験から地域社会を客観的に説明できる。
（S）学外研修の体験を活かし、自ら地域調査を企画し、実査できる。

課題に対するフィードバックの方法
実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他
履修人数の制限をし、人間学科の学生を優先する。希望者数によって選考を行う。 学外研修先については、9 月に告知する。状況によっては近畿地方内での実施となる可能性がある。 春休みの 3 日間の集中を原則とするが、状況によっては 1 日ずつ分散して実施する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	人間学演習ⅡA							学 期	通年
副 題	卒業論文を作成する				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N4-25-205	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
卒業論文に作成を通して、企画力や表現力を身につける。 卒業論文作成に向けた準備を行う。他受講生の報告についてのディスカッションも行う。

授業の到達目標
卒業論文に作成を通して、企画力や表現力を身につける。

授業計画
【前期】
1. 卒業論文までの工程
2. 論題の設定・確認（1）
3. 論題の設定・確認（2）
4. 目次の作成. 確認（1）
5. 目次の作成・確認（2）
6. データの整理・確認（1）
7. データの整理・確認（2）
8. 中間報告（1）
9. 中間報告（2）
10. 中間報告（3）
11. 要旨・構成の検討（1）
12. 要旨・構成の検討（2）
13. データの検討（1）
14. データの検討（2）
15. 草稿の検討（1）

【後期】
1. 中間報告（4）
2. 中間報告（5）
3. 中間報告（6）
4. 要旨・構成の検討（3）
5. 要旨・構成の検討（4）
6. 草稿の検討（2）
7. 草稿の検討（3）
8. 草稿の検討（4）
9. 最終報告（1）
10. 最終報告（2）
11. 最終報告（3）
12. 口頭試問の検討（1）
13. 口頭試問の検討（2）
14. 口頭試問の検討（3）
15. 卒業論文の成果と課題

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること（90 分）。

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方第２版』ミネルヴァ書房、2013 年

学生に対する評価
レポート・課題（50%）、発表など授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）卒業論文の作成方法が理解できている。
（B）卒業論文の計画を立案し、他の人に説明できる。
（A）作成方法に従って卒業論文を作成することができる。
（S）論理的で説得力のある卒業論文を作成することができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

その他
・デスカッションやプレゼンテーションを行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	人間学演習ⅡB							学 期	通年
副 題	言語で精神世界を現わすために				授業方法	演習	担当者	上野和久	
ナンバリング	N4-25-206	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
文学部人間学科４回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関するデータ収集を行い、研究成果の発表をする。(この講義は４年次の卒業論文作成のための作業段階として位置付けられる)

授業の到達目標
自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確に文章化する。

授業計画
【前期】
1.講義ガイダンス：研究とは何か
2.研究計画書の見直し①
3.研究計画書の見直し②
4.研究計画書の見直し③
5.研究計画書の見直し④
6.研究計画書の見直し⑤
7.データ収集経過報告①
8.データ収集経過報告②
9.データ収集経過報告③
10.データ収集経過報告④
11.データ収集経過報告⑤
12.データ収集経過報告⑥
13.研究経過報告発表会①
14.研究経過報告発表会②
15.研究経過報告発表会③

【後期】
1.卒業論文作成について
2.データ分析①
3.データ分析②
4.データ分析③
5.データ分析④
6.データ分析⑤
7.結果の整理と考察①
8.結果の整理と考察②
9.結果の整理と考察③
10.結果の整理と考察④
11.結果の整理と考察⑤
12.結果の整理と考察⑥
13.研究成果発表会①
14.研究成果発表会②
15.研究成果発表会③

準備学習(予習・復習)・時間
課題について調べてまとめ、発表の準備をする。(90 分)　発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。特に、研究テーマに関係する Keyword について先行研究のデータを収集する。(90 分)

テキスト
研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等
酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版 』共立出版，2015 年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価
授業中の課題発表（50%）最終レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる 。
（B）自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
（A）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
（S） テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法
課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他
個別の指導は別途時間を設けて行う。全体での指導は、参加者の主体的な発言をもとに論文作成者の作成における視点を広げ、深めるような関係領域の講義や discussion をしたい。　論文作成のためのエンカウンターワークショップ（担当者の造語です）のような形で行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・ガイダンスカウンセラー（スーパーバイザー)・カウンセリング心理士（スパーバイザー）として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	空海の思想入門S							学 期	前期
副 題	弘法大師空海の生涯と教え					授業方法	講義	担当者	北川真寛
ナンバリング	M1-01-207	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。そのため、大師の生涯や思想、大師への信仰を知ることが本学での学びの基本となる。 本講義では、専門課程を理解する上で必要となる、基本的な弘法大師の事跡を学ぶことを目的とし、大師の生涯や思想、大師が開創した高野山などについて講義する。

授業の到達目標
・弘法大師の思想を学ぶことを通じて、密教学の基礎を涵養する。 ・弘法大師の思想や生涯を理解し、説明できるようになる。 ・弘法大師が開創した高野山とはいかなる場所かを理解し、説明できるようになる。

授業計画
1.絵伝にみる弘法大師空海の生涯（1）―生誕～入唐―
2.絵伝にみる弘法大師空海の生涯（2）―入唐～帰国―
3.絵伝にみる弘法大師空海の生涯（3）―帰国後の活動～入定―
4.弘法大師空海の著作
5.弘法大師空海の教え（1）―即身成仏思想解説―
6.弘法大師空海の教え（2）―十住心思想解説―
7.弘法大師空海の教え（3）―法身説法解説―
8.真言密教の教え―曼荼羅解説―
9.弘法大師信仰（１）―入定信仰―
10.弘法大師信仰（２）―全国に残る大師信仰―
11.高野山の歴史と地理
12.高野山の諸堂解説
13.高野山の年中行事と学道
14.真言密教の教学―三密行の解説―
15.高野山の町石道

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、都度シラバスを確認し、テキストを読んでおくこと（30 分）。 ・事後学習として、講義内容とテキスト・配付資料を見直し、解説した思想や用語を理解すること（60 分）。

テキスト
・北川真寛『はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門』（セルバ出版、2018 年） 上記テキストを講師が一括で用意、もしくはコピーを配布する。 ・その他は、講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等
・松長有慶『高野山』（岩波書店、2014 年） ・川﨑一洋『弘法大師空海と出会う』（岩波書店、2016 年） ・その他は、講義中に紹介する。

学生に対する評価
期末レポート（60%）、テキストの理解度（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な弘法大師の生涯と思想の内容を理解できる。
（B）基本的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
（A）専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
（S）専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
ICT を活用した講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、弘法大師の生涯や思想、その信仰などを、僧侶としての立場から解説する。

科目名	漢文S							学 期	通年
副 題	仏教漢文入門				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-208	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

弘法大師空海の文章を読みながら、仏教漢文を読解する基礎を修得する。読解するために必要な漢文法、難読字の読み方、特殊な用語、仏典・中国古典に関する知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを身に付ける。文体の特徴などを理解し、作者の心情について考える。仏典・中国古典が空海の知識の源泉であることへの理解を深めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を修得する。受講生は、テキストの音読を必須とする。

授業の到達目標

漢文訓読の基礎を修得する。仏教漢文の特徴を知る。難読字や専門用語を調べることができる。参考文献を見つけ、利用することができる。漢文を読解し、内容を理解することができる。

授業計画

【前期】

1. 請福州観察使入京啓（1）題目を読む。
2. 請福州観察使入京啓（2）「賀能啓……」を読む。
3. 請福州観察使入京啓（3）「故能西羌……」を読む。
4. 請福州観察使入京啓（4）「誠是明知……」を読む。
5. 請福州観察使入京啓（5）「伏惟大唐……」を読む。
6. 請福州観察使入京啓（6）「是以我日本国……」を読む。
7. 請福州観察使入京啓（7）「刳巨榆……」を読む。
8. 請福州観察使入京啓（8）「故今我国主……」を読む。
9. 請福州観察使入京啓（9）「賀能等忘身……」を読む。
10. 請福州観察使入京啓（10）「颯風朝扇……」を読む。
11. 請福州観察使入京啓（11）「頻蹙猛風……」を読む。
12. 請福州観察使入京啓（12）「但見天水之……」を読む。
13. 請福州観察使入京啓（13）「僅八月初日……」を読む。
14. 請福州観察使入京啓（14）「賀能等万冒……」を読む。
15. 請福州観察使入京啓（15）「又大唐之遇……」を読む。

【後期】

1. 請福州観察使入京啓（16）「面対竜顔……」を読む。
2. 請福州観察使入京啓（17）「又竹符銅契……」を読む。
3. 請福州観察使入京啓（18）「是故我国……」を読む。
4. 請福州観察使入京啓（19）「加以使乎……」を読む。
5. 請福州観察使入京啓（20）「然今州使責……」を読む。
6. 請福州観察使入京啓（21）「雖然遠人……」を読む。
7. 請福州観察使入京啓（22）「又建中以往……」を読む。
8. 請福州観察使入京啓（23）「伏願垂柔遠……」を読む。
9. 請福州観察使入京啓（24）「然則涓涓……」を読む。
10. 請福州観察使入京啓（25）「順風之人……」を読む。
11. 請福州観察使入京啓（26）「日本国留学……」を読む。
12. 請福州観察使入京啓（27）「逢時乏人……」を読む。
13. 請福州観察使入京啓（28）「今承不許……」を読む。
14. 請福州観察使入京啓（29）「雖然居諸……」を読む。
15. 請福州観察使入京啓（30）「伏惟中丞……」を読む。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30 分）。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（30 分）。出典を探し、原典を確認しておくこと（30 分）。

テキスト

坂田光全『性霊集講義　平成新訂』（高野山出版社）のコピーを配布する。 運敞『遍照発揮性霊集便蒙』（『真言宗全書』42 巻所収）のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

佐藤雅一『発展 30 日完成　漢文高校初級用』（日栄社）　小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994 年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000 年修訂増補 『密教大辞典』法蔵館　昭和 7 年初版 水野弘元『仏教要語の基礎知識』2006 年 加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫　2010 年　など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢文を書き下し文に出来る。
（B）C 段階に加え、難読漢字を読める。
（A）B 段階に加え、内容を精確に理解できる。
（S）A 段階に加え、専門的な疑問点を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語S							学 期	通年
副 題	サンスクリット初級					授業方法	演習	担当者	菊谷竜太
ナンバリング	M1-07-209	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
古典サンスクリット文法について語形のなりたちに注目し、基本的な文法書だけでなく工具類の扱いかたを射程に入れ、韻律・シンタックスに関する基礎知識をも修得する。精読する際に詩節を唱えてみることで実際に声に出してサンスクリットに親しむ感覚を身につける。

授業の到達目標
初等文法で習う文法規則を実際の古典資料と照らし合わせることによって連声や語形、韻律について正しく理解することができる。テキストやリーダーの指示どおりに文法事項やグロッサリー、注記を参照することで文献学の基礎を学び、作文や読誦を通じて実践的な知識をも身につける。

授業計画
【前期】
1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 音韻論と連声（サンディ）、問題演習
3. 名詞の変化①（-a-語幹）、問題演習
4. 名詞の変化②（-ā-語幹）、問題演習
5. 名詞の変化③（男性-i-および-u-語幹、中性、女性の-i-および-u-語幹）、問題演習
6. 名詞の変化④（-r-および-ū-語幹、単音節、-r-語幹、二重母音語幹）、問題演習
7. 名詞の変化⑤（語根語幹、-as-, -is-, -us-語幹）、問題演習
8. 名詞の変化⑥（-ant-, -vant-および-mant-語幹）、問題演習
9. 名詞の変化⑦（-in-, -an-, -van-および-man-語幹）、問題演習
10. 名詞の変化⑧（-vas-, -yas-語幹）、問題演習
11. 名詞の変化⑨（-añc-語幹およびその他の語幹）、問題演習
12. 比較法、問題演習
13. 代名詞、問題演習
14. 数詞、問題演習
15. 試験と総括

【後期】
1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 現在語幹①（第一種活用・幹母音語幹、未完了過去、願望法・命令法）、問題演習
3. 現在語幹②（第二種活用・語根型語幹）、問題演習
4. 現在語幹③（第二種活用・重複型語幹）、問題演習
5. 現在語幹④（第二種活用・鼻音挿入型語幹）、問題演習
6. 現在語幹⑤（未来語幹）、問題演習
7. アオリスト語幹、問題演習
8. 完了語幹・受動態、問題演習
9. 二次活用動詞①（使役活用と名詞起源動詞）、問題演習
10. 二次活用動詞②（意欲活用と強意活用）、問題演習
11. 準動詞（動詞的形容詞、不定詞、絶対詞）、問題演習
12. 複合語①（動詞複合語と副詞的複合語、名詞複合語（Dv））、問題演習
13. 複合語②（名詞複合語（TP, KD, BV））、問題演習
14. シンタックス（統語論）、問題演習
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として指示された次回の授業範囲について文法事項を調べ日本語訳を作成すること（90 分）。事後学習としてテキストと自分のノートとを読み直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと（90 分）。

テキスト
J. ゴンダ（著）・鎧淳（翻訳）『サンスクリット語初等文法―練習題、選文、語彙付』東京・春秋社、1989 年（書店で購入）

参考書・参考資料等
①W. D. Whitney. Sanskrit Grammar. ②同. The Roots, Verb-forms and Primary Derivates of the Sanskrit Language. ③J. S. Speijer. Sanskrit Syntax.

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに各授業における課題（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）テキストやリーダーに指示された文法事項を忠実に押さえ、グロッサリーや注記を正確に参照することができている。
（B）連声（サンディ）や語形を正しく押さえ、語形を正しく比定することができている。
（A）韻文・散文の平易な文章について正しく理解し、散文で簡単な文章を作ることができる。
（S）韻文で簡単な文章を作ることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。少しでもサンスクリット語に興味をもつ希望者の積極的な参加をもとめるアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語T							学 期	通年
副 題	サンスクリット語の読解能力を高める				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M1-07-210	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
サンスクリット語とはどんな言語かを理解するために、その文法体系を学び、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を養う。

授業の到達目標
サンスクリット語とはどんな言語かを理解し、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を付ける。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション
2. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。① Guna-Vrddhi 法則
3. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。② 母音階梯の特徴
4. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。③ 母音階梯の特徴
5. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。④
6. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑤
7. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑥
8. 短文読解力を身に着ける。① 榊 亮三郎の『梵語学』から引用
9. 短文読解力を身に着ける。②
10. 短文読解力を身に着ける。③ panca-tantra から引用
11. 短文読解力を身に着ける。④
12. 短文読解力を身に着ける。⑤
13. 原典翻訳①
14. 原典翻訳②
15. 原典翻訳③

【後期】
1. 原典翻訳④
2. 原典翻訳⑤
3. 原典翻訳⑥
4. 原典翻訳⑦
5. 原典翻訳⑧
6. 原典翻訳⑨
7. 原典翻訳⑩
8. 原典翻訳⑪
9. 原典翻訳⑫
10. 原典翻訳⑬
11. 原典翻訳⑭
12. 原典翻訳⑮
13. 原典翻訳⑯
14. 原典翻訳⑰
15. 原典翻訳⑱、まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、テキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(60 分)　事後学修として、授業で学んだことを復習し、理解を深めておくこと。(60 分)

テキスト
担当者作成のテキストのコピーを配布する。

参考書・参考資料等
辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波全書)

学生に対する評価
学期末（前期・後期）の試験（80%）と、授業態度（20%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）Sandhi 法則を理解し、結合文字を分解できること。
（B）音法則の理解を通して、語根を類推する能力を身に着けていること。語の音論を理解していること。
（A）簡単な短文を翻訳する能力を身に着けていること。
（S）難解な仏教外文献を翻訳できること。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。　②受講者を５クラス程度に編成する。　④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。⑤受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢字ＩＳ						学 期	通年
副 題	書道学・漢字学の中国伝統的実践				授業方法	実技	担当者	野田悟
ナンバリング	M1-06-211	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	―

授業の目的と概要

現在世界的にも特異な表意文字の重要性を理解することを思想の根底とする。古典の臨書を基本から学ぶことにより、書学において徹底的な法帖の形臨を土台に、背臨を経て文字結構の時代的特徴を認識し、自己批評や学生間での相互批評をもって最後は個々に作品課題の制作を行う。受講生自身での発見からの実践を目的とした国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根底にした指導を行う。授業はすべて繁体字（旧漢字）をもって理解する。また書道学・漢字学を通して、東洋を中心とした他の学問分野に関連する意識を最重要視する。

授業の到達目標

1．「眼高手低、手高眼低」を書学原点として、各時代における古典臨書の基本的認識。2．「尚古思想」を根底に漢字を扱う上での歴史的関連性の認識。3．最終的に作品創作をもって臨書で培った基礎を体現する。4．緑に囲まれた自然豊かな高野山において日本の書聖空海を実践でもって感じる意識を持つ。5．繁体字（旧漢字）の理解を持ち古代文献を扱う基礎とする。

授業計画

【前期】

1．ガイダンスによる書を学ぶ上での注意点及び漢字の歴史の概要
2．顔真卿「多寶塔碑」の形臨（2回目の受講生は「張猛龍碑」）①
3．顔真卿「多寶塔碑」の形臨（〃）②
4．顔真卿「多寶塔碑」の形臨（〃）③
5．褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（2回目の受講生は「張玄墓誌）①
6．褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（〃）②
7．褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（〃）③
8．前半半紙臨書作品の提出。
9．二つの法帖を比較臨書（形臨及び背臨）
10．自分で法帖を1つに絞り、自身の考えた方法で創作に繋がる練習を行う。
11．背臨課題における自身の理解度を確認する。
12．写経創作①〔歴史的写経の意義〕
13．写経創作②〔写経体や異体字の認識〕
14．写経創作③〔願文の書き方〕
15．予備〔作品提出までの再度確認及び反復練習〕

【後期】

1．『嶧山刻石』の形臨（2回生以上は『礼器碑』）①
2．『嶧山刻石』の形臨（〃）②
3．『嶧山刻石』の形臨（〃）③
4．鄧石如『白氏草堂記』（2回生以上は『礼器碑』以外を自分で選択）①
5．鄧石如『白氏草堂記』（〃）の形臨②
6．鄧石如『白氏草堂記』（〃）の形臨③
7．前半半紙臨書作品の提出。呉讓之『崔子玉座右銘』の形臨①
8．呉讓之『崔子玉座右銘』（〃）の形臨②
9．呉讓之『崔子玉座右銘』（〃）の形臨③
10．自分で法帖を１つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。①
11．自分で法帖を１つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。②
12．半切の制作に至る独自の練習①
13．半切の制作に至る独自の練習②
14．半切の制作に至る独自の練習③
15．予備〔作品提出までの再度確認及び反復練習〕

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の授業に備える。また出来るだけ多くの展覧会を見て学んで来る（120分以上）

テキスト

・二玄社法書選（二玄社）：40 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』/56『鄧石如集』、58『呉熙載集』２回目の受講生……23『張猛龍碑』、26『墓誌銘集・下』/３『石門頌』、５『礼器碑』、８『曹全碑』、９『張黯碑』※写経用紙セットLA26-59（各書店にて購入）

参考書・参考資料等

・字書：『字源』、伏見冲敬編『書道字典』（角川書店）、『清人篆隷字典』（雄山閣）等・その他必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。・各学期ごとに採点、平均点を算出する。そのため欠席が、各学期1/3を超えた場合その時点で失格とする。（欠席各－3点、遅刻各－1点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）法帖の形臨ができる。
（B）学んだ法帖の背臨ができる。
（A）臨書を基にした高いレベルでの創作ができる。
（S）自身で研究した長落款〔跋文〕を含めた高いレベルでの創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・休み時間の間に毎回の課題作品を前に貼ってもらい、授業の前半部分でフイードバックを行う。・毎回の課題は作品〔レポート〕として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他

・筆（太筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、半紙、文鎮は個々に準備のこと（ガイダンス時に説明する）。・書道実技の講座として、毎回の課題が課され、授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。・休み時間のうちにすべての準備を済ませ、授業に臨むこと。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。全出席が望ましい。年度末に開催される学外書道展に出品する。その際表具代等は、個人持ちとする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が添削しながら上達させることを目的とする。

科目名	梵字悉曇S							学 期	通年
副 題	梵字悉曇（書道）				授業方法	実技	担当者	添野了	
ナンバリング	M1-01-212	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
悉曇とはインド古代文字の一つであるが、日本においては弘法大師空海によって密教と共に請来され、梵語（真言・陀羅尼や種字）を読み書きするための学問（声明業）あるいは書道として相承されて来た。　慈雲尊者飲光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵字資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文（貝葉）を研究して、独自の書風（慈雲流）を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を学ぶ。

授業の到達目標
梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画
【前期】
1．年間授業計画の説明
2．梵字・悉曇の伝来と歴史
3．テキストを読みながら説明
4．テキストを読みながら説明
5．筆を使って実習通摩多 12 文字
6．筆を使って実習通摩多 12 文字
7．筆を使って実習通摩多 12 文字
8．別摩多４文字他
9．別摩多５文字他
10．（ka）（kha）（ga）の３文字
11．（gha）（ṅa）の２文字
12．（ca）（cha）の２文字
13．（ja）（jha）（ña）の３文字
14．（ṭa）（ṭha）（ḍa）の３文字
15．（ḍha）（ṇa）の２文字

【後期】
1．筆を使って実習（ta）（tha）の２文字
2．〃（da）（dha）の２文字
3．〃（na）（pa）の２文字
4．〃（pha）（ba）の２文字
5．〃（bha）（ma）の２文字
6．〃（ya）（ra）（la）の３文字
7．〃（va）（śa）（ṣa）の３文字
8．〃（sa）（ha）の２文字
9．〃重字の２文字
10．塔婆の書き方
11．刷毛書体について
12．三尊仏について
13．光明真言①
14．光明真言②
15．諸真言について

準備学習（予習・復習）・時間
配布プリントに目を通し、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）　授業で学んだ文字を練習しておくこと（90 分）

テキスト
松本俊彰　『慈雲流悉曇梵字入門〔基礎編〕(応用編)』、高野山出版社、2003 年　　テキストについては授業にて指示する。適宜、プリント配布。

参考書・参考資料等
静慈圓『梵字悉曇慈雲流の意義と実習』、朱鷺書房、1997 年　児玉義隆『梵字必携書写と解読』、朱鷺書房、1991 年

学生に対する評価
授業参加の積極性（20%）、作品提出（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）習った「梵字」を正しく書くことが出来る。
（B）「梵字」に慣れて、上達が見られる。
（A）きれいな梵字を書くことが出来る。
（S）「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法
質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

その他
書道用具を準備すること。半紙も必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、書道を通して、その上達を指導する。

科目名	密教学概論S							学 期	後期
副 題	密教学の思想					授業方法	講義	担当者	北川真寛
ナンバリング	M2-01-213	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標
密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画
1. ガイダンス・密教総論
2. インド密教
3. チベット密教
4. 中国・朝鮮密教
5. 日本密教
6. 密教の聖典（1）―『大日経』―
7. 密教の聖典（2）―『金剛頂経』―
8. 密教の聖典（3）―『理趣経』―
9. 密教の聖典（4）―『菩提心論』・『釈摩訶衍論』―
10. 密教の曼荼羅（１）―胎蔵曼荼羅―
11. 密教の曼荼羅（２）―金剛界曼荼羅―
12. 密教の成仏論
13. 密教の仏身論
14. 密教の灌頂
15. まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30 分）。 ・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60 分）。

テキスト
講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等
①高神覚昇『密教概論』（大法輪閣、1989 年）、②金岡秀友『密教の哲学』（講談社学術文庫、1989 年）、③勝又俊教『密教入門』（春秋社、1991 年）、④松長有慶『密教』（岩波新書、1991 年）など。

学生に対する評価
試験（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な密教の思想を理解できる。
（B）基本的な密教の思想・用語を理解できる。
（A）専門的な密教の思想・用語を理解できる。
（S）専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
ICT を活用した講義である。

科目名	仏教学概論S							学 期	前期
副 題	仏教学の思想					授業方法	講義	担当者	菊谷竜太
ナンバリング	M2-02-214	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標
初期仏教と大乗思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容①　南アジア
3. 仏教の伝達と受容②　西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③　東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④　東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教①　ブッダの生涯
8. 初期仏教②　ブッダの思想
9. 初期仏教③　仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教①　アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教②　部派における律の違い
12. 部派仏教③　部派における思想的違い
13. 大乗思想の起源①　僧院生活と大乗思想
14. 大乗思想の起源②　聖典と仏像
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと（90 分）。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと（90 分）。

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
①馬場紀寿『初期仏教―ブッダの思想をたどる』（岩波新書）、2018 年、②「仏教の思想」２・３・４（角川文庫ソフィア）、1996-1997 年、③グレゴリー・ショペン・小谷信千代訳 『大乗仏教興起時代 インドの僧院生活〈新装版〉』、春秋社、2018 年

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに課題レポート（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）初期仏教と大乗思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
（B）仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
（A）部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
（S）アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	密教史概説S							学 期	後期
副 題	密教の歴史					授業方法	講義	担当者	菊谷竜太
ナンバリング	M2-01-215	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
インドで生まれた密教聖典が仏教のなかでどのように位置付けられ、そののちアジア各地にいったいどのように伝わり受け入れられていったのか。密教の伝達と受容の歴史を聖典あるいは儀礼・美術資料における実際の内容に触れ、綜合的文化としての密教を学ぶ。

授業の到達目標
大乗仏教における密教の位置付けについて両者の関係とともに理解できる。密教聖典分類法をその具体的な内容とともに提示できる。密教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 密教の伝達と受容①　南アジア
3. 密教の伝達と受容②　ヒマラヤ・チベット文化圏
4. 密教の伝達と受容③　東南アジア
5. 密教の伝達と受容④　東アジア
6. 密教と文化①　アーユルヴェーダと陀羅尼聖典
7. インド密教①　密教とはなにか・陀羅尼と持明蔵
8. インド密教②　悟りへの捷径・『金剛頂経』と灌頂次第
9. ヒマラヤ・チベット密教　チベットのルネサンス
10. 密教と文化②　寺院建築術と曼荼羅儀礼
11. 中国・朝鮮半島の密教
12. 日本密教①　密教の伝播ならびに日本密教の興起
13. 日本密教②　密教の分化と真言教学の興隆
14. 日本密教③　新義真言宗の発展および近代における密教徒の動向
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと（90 分）。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと（90 分）。

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
①松長有慶『密教の歴史』（サーラ叢書）、京都・平楽寺書店、1991 年、②「シリーズ密教」（新装版）、東京・春秋社、2005 年、③田中公明『曼荼羅イコノロジー』東京・春秋社、1987 年、④森雅秀　『インド密教の儀礼世界』（金沢大学人間社会研究叢書）、京都・世界思想社、2011 年

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに課題レポート（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）大乗思想と密教との関係を文化・思想的な特徴とともに説明できる。
（B）密教聖典分類法について聖典成立史を踏まえながら具体的な名称とともに説明できる。
（A）日本密教をも射程に入れ、密教徒のグループ間における思想的な違いを簡単に説明できる。
（S）アジアにおける密教の伝達経路の大まかな流れを理解し、文化・思想的な変遷とともに全体を概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	仏教史概説S							学 期	前期
副 題	仏教の歴史					授業方法	講義	担当者	菊谷竜太
ナンバリング	M2-02-216	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標
初期仏教と大乗思想との言語・思想的な特徴を理解できる。代表的な大乗思想の種類をその聖典とともに提示できる。サンスクリット文化に仏教が与えた影響を簡潔に説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 大乗思想①　般若思想①　般若経系聖典群
3. 大乗思想②　般若思想②　般若経注釈群
4. 大乗思想③　浄土思想
5. 大乗思想④　法華・華厳・如来蔵思想
6. サンスクリット文化と仏教①　仏伝文学
7. サンスクリット文化と仏教②　菩薩の思想
8. 大乗思想⑤　中観思想①　ナーガールジュナ・アーリヤデーヴァ
9. 大乗思想⑥　中観思想②　自立派と帰謬派
10. 大乗思想⑦　唯識思想①　マイトレーヤ、アサンガ・ヴァスバンドゥ
11. 大乗思想⑧　唯識思想②　有相派と無相派
12. サンスクリット文化と仏教③　大僧院における詩作教師
13. 大乗思想⑨　認識論と論理学①　ナーガールジュナ
14. 大乗思想⑩　認識論と論理学②　ディグナーガとダルマキールティ
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと（90 分）。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと（90 分）。

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
①「シリーズ大乗仏教」全 10 巻、春秋社、2011-2014 年、②「仏教の思想」２・３・４（角川文庫ソフィア）、1996-1997 年、③梶山雄一『大乗仏教の誕生 「さとり」と「廻向」』（講談社学術文庫）、2021 年、④桂紹隆『インド人の論理学 問答法から帰納法へ』（法蔵館文庫）、2021 年

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに課題レポート（30%）、期末試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）初期仏教と大乗思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
（B）サンスクリット文化と仏教との関わりを簡潔に説明できる。
（A）いわゆる仏教四学派（説一切有部・経量部・唯識・中観）の思想的特徴を説明できる。
（S）仏教における認識論と論理学の位置付けについて簡単に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	歴史学S							学 期	前期
副 題	歴史学からみた中世高野山と史料採訪の意義				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M2-12-217	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本年度の本講義の目的は、二つからなる。前半では、中世前期の高野山をめぐる諸問題について学び、町石の造立をめぐる歴史、高野山と公武権力との関係、金剛三昧院・一心院の創立について理解を深める。後半では、近世における歴史学の発達について学び、『大日本史』の編纂過程、佐々宗淳の史料採訪を通して、史料批判の発達、史料調査の意義について考える。なお、「授業計画」に示す内容は目安に過ぎず、進度や学生の理解度次第で変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①中世前期の高野山について、政治史との関係を踏まえて説明できる能力を身につける。 ②歴史学における史料の重要性について説明できる能力を身につける。 ③研究史の重要性、史料調査の意義について、理解できるようになる。

授業計画
1. 高野山町石をめぐる歴史と文化①―卒塔婆造立の功徳と弘法大師信仰―
2. 高野山町石をめぐる歴史と文化②―中世前期の高野参詣―
3. 高野山町石をめぐる歴史と文化③―鎌倉時代の高野山と安達泰盛―
4. 北条政子と高野山①―源氏三代と高野山―
5. 北条政子と高野山②―貞暁と一心院―
6. 北条政子と高野山③―金剛三昧院の造立をめぐって―
7. 『金剛三昧院文書』を読み解く①―鎌倉幕府発給文書―
8. 『金剛三昧院文書』を読み解く②―室町幕府発給文書―
9. 『金剛三昧院文書』を読み解く③―新出文書―
10. 江戸時代の歴史学と史料採訪
11. 佐々宗淳による金剛寺文書・観心寺文書調査
12. 佐々宗淳による高野山文書調査①―『大日本史編纂記録』を通して―
13. 佐々宗淳による高野山文書調査②―『南行雑録』の価値―
14. 『大日本史編纂記録』を読み解く①―史料採訪の苦心①―
15. 『大日本史編纂記録』を読み解く②―史料採訪の苦心②―

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史や史学史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等
①上横手雅敬『鎌倉時代』（吉川弘文館、1994 年） ②山陰加春夫『中世の高野山を歩く』（吉川弘文館、2014 年） ③久保田収『近世史学史論考』（皇學館大学出版部、1968 年） ④但野正弘『新版佐々介三郎宗淳』（錦正社、1988 年）

学生に対する評価
レポート（100%） ※3000 字以上

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）中世前期の高野山や近世史学史に関する基礎的事項を理解している。
（B）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて説明できる。
（A）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて、具体的かつ論理的に論じることができる。
（S）高野山と公武権力の関係、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容のみならず、参考文献の読解や自己の調査を踏まえて、新たな問題提起ができる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

その他
熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読み、歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。 基本的に講義形式を取るが、一部の回は古文書の読解と、それにもとづく議論も行なうアクティブ・ラーニングであるので、受講生の積極的参加が必要である。

科目名	祖典講読ＩＳ							学 期	通年
副 題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-218	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標
弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画
【前期】
1.講義の進め方とテキストの紹介
2.成仏とは？－三劫成仏と即身成仏－
3.『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4.四声読み
5.『即身成仏義』を読む （1）発端問答
6. 〃 （2）二経一論八箇の証文① 『金剛頂経』
7. 〃 （3）二経一論八箇の証文② 『大日経』
8. 〃 （4）二経一論八箇の証文③ 『菩提心論』
9. 〃 （5）二頌八句① 即身の頌（前編）
10. 〃 （6）二頌八句② 即身の頌（後編）
11. 〃 （7）二頌八句③ 成仏の頌（前編）
12. 〃 （8）二頌八句④ 成仏の頌（後編）
13. 〃 （9）「六大無碍にして常に瑜伽なり」①六大の秘義（前編）
14. 〃 （10）「六大無碍にして常に瑜伽なり」②六大の秘義（後編）
15.前期のまとめ―即身成仏思想の特徴

【後期】
1.概論と前期の復習
2.『即身成仏義』を読む （11）「六大能生」①
3. 〃 （12）「六大能生」②
4. 〃 （13）「六大の頌密／無碍自在の身」
5. 〃 （14）「四種曼荼各不離」 ① 三種秘密身
6. 〃 （15）「四種曼荼各不離」 ②四種曼荼羅・四種印
7. 〃 （16）「三密加持速疾顕」 ①法の三密と三密行
8. 〃 （17）「三密加持速疾顕」 ② 『五秘密儀軌』
9. 〃 （18）「三密加持速疾顕」 ③ 加と持
10. 〃 （19）「重重帝網名即身」
11. 〃 （20）「法然具足薩般若」
12. 〃 （21）「心数心王過刹塵」
13. 〃 （22）「各具五智無際智」
14. 〃 （23）「円鏡力故実覚智」
15.後期のまとめ―即身成仏とは何か

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60 分）。 ・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60 分）。 ・その他の学習については講義内で指示する（60 分）。

テキスト
・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部 ・毎回配布する資料

参考書・参考資料等
①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社 ②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価
授業中の積極的な発言（30%）、毎回の小レポート（30%）、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）（C）『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
（B）（B）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
（A）（A）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
（S）（S）上記（C）～（A）を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他
・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗典講読S							学 期	通年
副 題	両部の大経を読む				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	M3-01-219	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	ー

授業の目的と概要
真言宗で「両部の大経」として最も大切にされる『大日経』と『金剛頂経』を読みながら、密教の基本的な思想を理解する。前期には、『大日経』の中から、教理を説く「住心品」と曼荼羅に関する実践法を説く「具縁品」を取り上げて通読する。後期には、『金剛頂経』（不空訳三巻本）を読みながら、即身成仏の理論と金剛界曼荼羅のシステムを学ぶ。漢訳テキストの講読であるが、必要に応じてサンスクリット原典やチベット語訳、注釈書などを参照する（講師が和訳を提示）。

授業の到達目標
密教の専門用語の意味を理解しながら、漢訳の密教経典を読むことができるようになる。

授業計画
【前期】
1. インド密教史概説
2. 『大日経』とはどのような経典か?
3. 「住心品」を読む①（序分、三句段）
4. 「住心品」を読む②（三句段の続き）
5. 「住心品」を読む③（九句段、外教段、八心段）
6. 「住心品」を読む④（六十心段）
7. 「住心段」を読む⑤（三劫段、十地段、六無畏段、十喩段）
8. 「具縁品」を読む①（作壇法）
9. 「具縁品」を読む②（三昧耶戒作法）
10. 「具縁品」を読む③（曼荼羅を描く1）
11. 「具縁品」を読む④（曼荼羅を描く2）
12. 「具縁品」を読む⑤（五種三昧道）
13. 「具縁品」を読む⑥（真言とは何か?）
14. 「具縁品」を読む⑦（曼荼羅の供養と灌頂作法）
15. 総括

【後期】
1. インド密教史における『金剛頂経』の位置
2. 『金剛頂経』の諸本（広本、三十巻品、三巻品）
3. 不空訳三巻品の構成
4. 五相成身観と四仏の出現
5. 金剛界曼荼羅の構造
6. 金剛薩埵・金剛王・金剛愛・金剛喜の出生
7. 金剛宝・金剛光・金剛幢・金剛笑の出生
8. 金剛法・金剛利・金剛因・金剛語の出生
9. 四波羅蜜、八供養、四摂菩薩の出生
10. 一切如来の集会と百八名勧請、図絵曼荼羅
11. 灌頂作法①
12. 灌頂作法②
13. さまざまな成就法
14. 四種印智と諸儀則
15. 序分を読む（総括に代えて）

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。（90 分）／講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。（60 分）

テキスト
漢訳の『大日経』と『金剛頂経』　※コピーを配布
福田亮成『新国訳大蔵経・密教部１　大日経』（大蔵出版）／　松長有慶他『新国訳大蔵経・密教部４　金剛頂経・理趣経他』（大蔵出版）

参考書・参考資料等
松長有慶『大日経住心品講讃』（大法輪閣）／　頼富本宏『『大日経』入門　』（大法輪閣）／　頼富本宏『『金剛頂経』入門　』（大法輪閣）／　津田真一『梵文和訳　金剛頂経』（春秋社）／　高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社）／　田中公明『インド密教史』（春秋社）　ほか

学生に対する評価
試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
（B）『大日経』『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
（A）『大日経』『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）『大日経』『金剛頂経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することがき、その結果を論理的に表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはＥメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	宗典講読T							学 期	通年
副 題	『理趣経』を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M3-01-220	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
真言宗では、『大日経』と『初会金剛頂経』という経典が「両部の大経」として重要視されているが、両経典が日常的に読誦されることはない。この授業で扱う『理趣経』は、真言宗における常用経典であり、現在も様々な場面で真言僧たちに読誦されているため、真言密教を深く理解するためには同経典の原語による読解が不可欠である。 この授業は、学生が密教経典を原語で読解することにより、密教の思想に対する認識を深めることを目的とする。

授業の到達目標
・経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができるようになる。 ・経典の単語の意味を、インドや中国で成立した注釈書を用いて調べることができるようになる。 ・サンスクリット語やチベット語で記された密教経典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

授業計画
【前期】
1.イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2.インド密教史の概説（1）：初期密教
3.インド密教史の概説（2）：中期密教
4.インド密教史の概説（3）：後期密教
5.『理趣経』の概要
6.『金剛頂経』系統の密教経典
7.『理趣経』と『初会金剛頂経』の関係性
8.『理趣経』の読解（1）：序分
9.『理趣経』の読解（2）：初段 1
10.『理趣経』の読解（3）：初段 2
11.『理趣経』の読解（4）：第二段
12.『理趣経』の読解（5）：第三段
13.『理趣経』の読解（6）：第四段
14.『理趣経』の読解（7）：第五段
15.『理趣経』の読解（8）：第六段

【後期】
1.『理趣経』の読解（9）：第七段
2.『理趣経』の読解（10）：第八段
3.『理趣経』の読解（11）：第九段
4.『理趣経』の読解（12）：第十段
5.『理趣経』の読解（13）：第十一段
6.『理趣経』の読解（14）：第十二段
7.『理趣経』の読解（15）：第十三段
8.『理趣経』の読解（16）：第十四段
9.『理趣経』の読解（17）：第十五段
10.『理趣経』の読解（18）：第十六段
11.『理趣経』の読解（19）：第十七段・百字の偈
12.学生による『理趣経』についての調査報告（1）
13.学生による『理趣経』についての調査報告（2）
14.学生による『理趣経』についての調査報告（3）
15.学生による『理趣経』についての調査報告（4）

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、授業内で指定した範囲の専門用語を、辞書などで確認しておくこと（120 分）。 ・事後学習として、講義内容を再確認した上で、紹介された論文などを参照しておくこと（60 分）。

テキスト
・宮坂宥勝『密教経典 ―大日経・理趣経・大日経疏・理趣釈―』、講談社、2011 年

参考書・参考資料等
・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022 年 ・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016 年 ・高橋尚夫『般若理趣経の基礎的研究』、ノンブル社、2022 年

学生に対する評価
発表（75%）、調査報告（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『理趣経』に登場する専門用語を理解することができる。
（B）『理趣経』の漢訳を、ある程度の精度で理解することができる。
（A）『理趣経』の内容を、注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）『理趣経』の原書を、注釈書や先行研究を用いた上で、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・学生による調査報告については、実施後すぐにコメントと評点を行う。

その他
・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学特殊講義S							学 期	前期
副 題	胎蔵曼荼羅を読み解く				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	M3-01-221	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
はじめに「曼荼羅とは何か？」をインド密教の歴史とともに解説し、弘法大師・空海が日本に伝えた胎蔵曼荼羅・金剛界曼荼羅の両部曼荼羅のうち、『大日経』に説かれる胎蔵曼荼羅を取り上げ、その図像の解析をしながら、そこに象徴される思想を読み解く。

授業の到達目標
密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画
1.いろいろな曼荼羅を見てみよう
2.密教の歴史と曼荼羅
3.曼荼羅とは何か？①
4.曼荼羅とは何か？②
5.『大日経』概説
6.『大日経』が説く胎蔵曼荼羅
7.胎蔵曼荼羅の図像の発展
8.中台八葉院
9.蓮華部院
10.金剛手院
11.遍知院と持明院
12.釈迦院と文殊院
13.虚空蔵院、地蔵院、除蓋障院
14.外金剛部院の神々①
15.外金剛部院の神々②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60 分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60 分)

テキスト
田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等
田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンダラ事典 100 のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) など

学生に対する評価
試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）曼荼羅とは何かが説明できる。
（B）胎蔵曼荼羅の全体構造を把握し、説明することができる。
（A）胎蔵曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
（S）胎蔵曼荼羅を『大日経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはＥメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義T							学 期	後期
副 題	金剛界曼荼羅を読み解く				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	M3-01-222	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
両部曼荼羅のうち、『金剛頂経』に説かれる金剛界曼荼羅について、その図像を解析しながら、そこに象徴される思想を読み解く。日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本のほか、インドやチベットの金剛界曼荼羅についても紹介し、さらに、金剛界曼荼羅から発展した後期密教の曼荼羅にも触れてみたい。

授業の到達目標
密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画
1.『金剛頂経』概説
2.『金剛頂経』と曼荼羅
3.金剛界曼荼羅の構造
4.金剛界五仏
5.十六大菩薩①
6.十六大菩薩②
7.四波羅蜜菩薩と八供養菩薩
8.四摂菩薩と賢劫尊
9.外金剛部の神々
10.六種曼荼羅の図像表現の方法
11.「降三世品」「遍調伏品」「一切義成就品」の曼荼羅の特徴
12.日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本
13.インドの金剛界系遺品とチベットの金剛界曼荼羅
14.後期密教の曼荼羅①
15.後期密教の曼荼羅②

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60 分)/講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60 分)

テキスト
田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等
田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社)/ 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社)/ 森雅秀『マンダラ事典 100 のキーワードで読み解く』(春秋社)/ 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) など

学生に対する評価
試験・レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 金剛界曼荼羅の構成について説明できる。
(B) 金剛界曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
(A) 金剛界曼荼羅を『金剛頂経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。
(S)『金剛頂経』と金剛界曼荼羅が密教史の上で果たした役割を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはEメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義U							学 期	後期
副 題	四国遍路の研究　澄禅の日記を読む				授業方法	講義	担当者	柴谷宗叔	
ナンバリング	M3-01-223	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
四国遍路について書かれた江戸時代初期の記録、澄禅の『四国辺路日記』を取り上げる。承応2年（1653）に高野山を出発し、四国一周遍路をした日記である。現存する文献史料としては最古級であり、修験者のものであった遍路が一般化する時代の先駆けとなる貴重な記録である。現在の遍路道と比較しながら、変遷をたどるとともに、江戸時代初期の風俗や宗教についても触れる。

授業の到達目標
現在の四国遍路を考えるうえで、その原点となる、江戸時代の遍路の実態を理解する。現在と比較することで、歴史的、宗教的、社会的、民俗学的側面から遍路を考えることができるようになる。

授業計画
1．四国遍路の歴史概論
2．『四国辺路日記』講読　高野山～徳島
3．『四国辺路日記』講読　徳島中部
4．『四国辺路日記』講読　徳島南部
5．『四国辺路日記』講読　徳島南部～高知東部
6．『四国辺路日記』講読　高知東部～中部
7．『四国辺路日記』講読　高知中部
8．『四国辺路日記』講読　高知西部
9．『四国辺路日記』講読　愛媛南部
10. 『四国辺路日記』講読　愛媛中部
11. 『四国辺路日記』講読　愛媛東部
12. 『四国辺路日記』講読　香川西部
13. 『四国辺路日記』講読　香川中部～東部
14. 『四国辺路日記』講読　香川東部～徳島北部
15. 総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前に次の講義で扱う部分を読み、疑問点を整理しておくこと（60 分）。講義の一部は発表形式にするので、当番に当たった者は事前に十分に下調べをして発表に臨むこと（120～300 分）。講義中に出てきた検討課題をまとめて、次に備える（60 分）。

テキスト
澄禅『四国辺路日記』（コピーを配布する）

参考書・参考資料等
柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路』（法蔵館）、同『四国遍路　こころの旅路』（慶友社）、伊予史談会『四国霊場記集』（愛媛県教育図書）、近藤喜博『四国遍路研究』（三弥井書店）、宮崎忍勝『澄禅四国遍路日記』（大東出版社）、頼富本宏・白木利幸『四国遍路の研究』（日本国際文化センター）など

学生に対する評価
レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）四国遍路について簡単に説明できる。
（B）澄禅の日記の概要について説明できる。
（A）澄禅の日記の内容に基き、江戸時代の四国遍路の状況を具体的に説明できる。
（S）江戸時代の資料を基に、当時の遍路の状況と、現在につながる歴史的変遷を学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、次回講義以降に回答する。疑問点については受講者も交え討議する。

その他
四国遍路とは何かを事前に知っておくこと。できる限り、前期の「巡礼・遍路 T」との通年受講が望ましい。これまで四国遍路をしたことのない人は、夏休み等を利用して、実際に遍路体験してみるといい。できる限り実際に巡拝することを勧める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
四国遍路 120 周以上の大先達、30 年以上の実際の巡拝体験をもとに巡拝方法などを伝授する。この間、遍路道については、澄禅の道と現在の道との比較をはじめ、歴史的な変遷について実地調査した経験を基に講義する。高野山真言宗住職として、性善講を主宰しての巡拝も行っているので、参加することも可能。詳細は講義中に説明する。

科目名	仏教学特殊講義S							学 期	前期
副 題	古代インド思想から見た仏教				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-224	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
バラモン教の思想と仏教のそれの徹底的な相違点を解明する。

授業の到達目標
バラモン教の思想と仏教のそれの徹底的な相違点を理解すること。

授業計画
1. オリエンテーション
2. バラモン教の誕生
3. バラモン教思想の特徴①
4. バラモン教思想の特徴②
5. ウパニシャッド哲学の特徴①
6. ウパニシャッド哲学の特徴②
7. 初期仏教思想①
8. 初期仏教思想②
9. 大乗思想の特徴①
10. 大乗思想の特徴②
11. 宗教の誕生
12. 密教とは何か？①
13. 密教とは何か？②
14. まとめ
15. 試験もしくはレポート

準備学習（予習・復習）・時間
予習として、次回のテーマについて調べておくこと。（６０分）、復習として、講義で行った内容を見直し、理解を深めること。（９０分）

テキスト
担当者作製『仏教とバラモン教』の資料を配布する。

参考書・参考資料等
参考書、参考資料は、授業内で必要に応じて紹介する。

学生に対する評価
学期末に行う試験もしくはレポートで評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）バラモン教思想の特徴を理解している。
（B）初期仏教における要の思想を理解している。
（A）初期仏教と大乗の違いを説明することができる。
（S）密教とは何かについて答えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は、授業の中で指示する

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義T							学 期	前期
副 題	心とはなにかⅠ				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-225	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乗仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標
仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2.心について－ことばの多義性－
3.心について－各宗教の思想－
4.心について－現代の場合－
5.心について－仏教の思想－
6.仏教について－歴史的多様性－
7.仏教について－地域的多様性－
8.ゴータマ・ブッダ－苦の自覚－
9.ゴータマ・ブッダ－苦からの解放－
10.ゴータマ・ブッダ－直弟子たち－
11.初期仏教経典－釈迦の直説は現存するか－
12.最古層の仏典－心への配慮－
13.最古層の仏典－執着と煩悩－
14.初期仏教－五蘊、心・意・識－
15.授業の総括とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間
講義内容の要点をノートに整理すること（60 分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30 分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90 分）

テキスト
竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等
①相良亨『一語の辞典こころ』三省堂、1995、②竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社現代新書、講談社、2009、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編［改訂版］』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）仏教についての基礎的な事項を理解している。
（B）仏教における心についての各思想を理解している。
（A）仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
（S）仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	真言密教特殊講義S							学 期	前期
副 題	真言密教の儀礼Ⅰ				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-226	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く理解するために、真言密教における実践行の解説を行い、オンラインでも実習可能なものは実際に体験する。

授業の到達目標
・真言密教の実践行がいかなるものかを正しく理解する。 ・オンラインも通して、真言密教の実践にふれる。

授業計画
1.ガイダンス・真言密教の聖典紹介
2.真言密教の読経―在家用『仏前勤行次第』の解説・読誦―
3.真言密教の読経―『観音経』の解説と読誦―
4.真言密教の読経―『理趣経』の解説―
5.真言密教の読経―訓読『般若心経』の解説と読誦―
6.真言密教の声明―解説と実唱―
7.真言密教の仏像―解説―
8.真言密教の行法―護摩行の解説―
9.真言密教の葬制―古代～現代の日本における葬制解説―
10.真言密教の回向法―十三仏信仰解説―
11.真言密教の祈願法―密教占星術解説―
12.真言密教の戒律―解説―
13.真言密教の灌頂―解説―
14.高野山の精進料理―解説―
15.巡礼・遍路―解説―

準備学習(予習・復習)・時間
・事前準備として、都度シラバスを確認し、用意すべき道具類や指示された書類を準備すること(30 分)。・事後学習として、学んだことを振り返り、整理しておくこと (60 分)。

テキスト
・講師が配付資料を用意し、オンライン受講の場合は事前に配布する。

参考書・参考資料等
講義中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性 (60%)、期末レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 講義での実践行に参加する。
(B) 講義での実践行を完遂できる。
(A) 講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
(S) 講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ・ICT を活用した講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。

科目名	真言密教特殊講義T							学 期	後期
副 題	梵字悉曇(慈雲流)の意義と実習				授業方法	講義	担当者	五十嵐啓道	
ナンバリング	M1-01-227	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
悉曇は弘法大師空海によって密教と共に日本に請来され、梵語（真言陀羅尼や種子）を読み書きするための学問あるいは書道として相承されて来た。 慈雲尊者飲光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあら ゆる梵文資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文 （貝葉）を研究して中国風な変化の影響を離れた独自の書風（慈雲流）を確立した。 本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を 学ぶものとする。

授業の到達目標
・梵字がインドより日本に伝わった概略を理解する。 ・いわゆる慈雲流悉曇の意義と内容を理解する。 ・基本的な悉曇文字が書けるようになる。

授業計画
1.配信　梵字の伝来と歴史（インド・中国・日本）
2.配信　梵字の伝来と歴史（我が国に於ける相承）
3.配信　慈雲尊者飲光について
4.配信　梵字の基本字母（摩多体文）について
5.配信　基本字母　阿字の書き方
6.対面　授受作法　基本字母　摩多の書き方（通摩多）
7.対面　基本字母　摩多の書き方（通摩多・別摩多）
8.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
9.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
10.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
11.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
12.対面　基本字母　体文の書き方（五類声）
13.対面　基本字母　体文の書き方（遍口声）
14.対面　基本字母　体文の書き方（遍口声）
15.対面　応用　十二点と切継について

準備学習(予習・復習)・時間
テキストを通読して悉曇字母表の概要を理解しておくこと。

テキスト
①松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門（基礎編)』高野山出版社刊　 部分（標題紙・目次・本文全 270 頁中〈5～35 頁、75～138 頁〉・奥付）の電子複写 ②『悉曇摩多体文手本』半紙大 11 枚（伝授〈講義〉時にお渡しします）

参考書・参考資料等
松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門（応用編)』高野山出版社 静慈円『梵字悉曇（慈雲流の意義と実践)』朱鷺書房 田久保周誉著、金山正好補筆『梵字悉曇』平川出版社

学生に対する評価
授業参加の積極性（20%）作品提出（80%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）習った梵字を書くことができる。
（B）梵字に慣れ基本的な書法を理解している。
（A）正確で美しい梵字を書くことができる。
（S）文字もきれいで、しかも梵字に対する深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法
対面授業により直接実技添削指導を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 伝統的な師資相承による伝授形式をとるので身心を整え袈裟念珠を持参されたい。（略袈裟可） 実習については習字のしやすい格好で書道道具と半紙を用意のこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
真言宗僧侶であり慈雲流悉曇の継承者である教員が、伝統的に相承されてきた悉曇の概要と書法を実技指導する。

科目名	密教学講読演習S							学 期	後期
副 題	真言密教の死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-228	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標
仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画
1. 概論(講義の進め方等)
2. 凡夫の生死　① 苦としての生死
3. 〃　② 五蘊と無我
4. 〃　③ 縁起としての生死
5. 〃　④ 輪廻の世界
6. 仏陀観の変遷　① 釈尊の生涯
7. 〃　② 変容する釈尊
8. 〃　③ 神変とマンダラ
9. この身のままで仏と成る　① 六大と人間
10. 〃　② 真理の表現
11. 〃　③ 心とマンダラ
12. 生死の意味　① 因不可得
13. 〃　② 縁起生から本不生へ
14. 〃　③ 「真に帰す」
15. まとめ ―〈私〉という存在―

準備学習(予習・復習)・時間
・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく（60 分）　・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる（120 分）

テキスト
・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等
①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価
授業内での積極的な発言（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）基礎的な仏教用語を習得している。
（B）仏陀観の変遷について説明ができる。
（A）大乗仏教から密教への展開を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、弘法大師の死生観の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
各まとまりごとにリアクションペーパーを作成させ、講評する。

その他
・授業中に基礎的な用語についての質問をするので、必ず予習をして臨むこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習T							学 期	後期
副 題	密教とスピリチュアルケア					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	M2-10-229	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
この講義では、密教の世界観をベースとしたスピリチュアルケアの援助論について講義をします。スピリチュアルケアが提唱されるようになった背景には、死について真剣に向き合おうとする臨床現場からの要請があったためです。病気だけでなく戦争、災害などで大切な人を喪うといった重大な危機的体験によって、私たちは生きることそのものに意味を見出すことができず、死を考えざるを得ない状況に追い込まれることもあります。この講義では、仏教・密教の教えに触れながら、「ケアすること」について考えたいと思います。

授業の到達目標
スピリチュアルケアの理解を深める。

授業計画
1. ガイダンス
2. 仏教の世界観
3. 密教の世界観
4. 喪失の悲しみ
5. 悲嘆の過程①
6. 悲嘆の過程②
7. 悲嘆の過程③
8. 悲嘆の過程④
9. 病とスピリチュアルケア①
10. 病とスピリチュアルケア②
11. 病とスピリチュアルケア③
12. 自殺防止とスピリチュアルケア①
13. 自殺防止とスピリチュアルケア②
14. 生死問題（安楽死と生殖医療）とスピリチュルケア
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）仏教・密教の世界観の基本的な知識を身につけている。
（B）スピリチュアルケアを理解するための基本的な知識をみにつけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上でスピリチュアルケアの概念を理解している。
（S）現代の社会問題について、スピリチュアルケアの視点から捉えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	密教学講読演習U							学 期	前期
副 題	歴史資料からたどる真言宗の歴史				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-01-230	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

弘法大師空海によって開宗された真言宗は、密教を教理とした日本独自の宗派である。空海は、高雄山寺（現在の神護寺）を皮切りに、高野山、東寺、東大寺、宮中真言院などを拠点として、真言宗を広める活動を展開し、それらは弟子たちに受け継がれた。　本授業では、空海による開宗から初期の真言教団のあゆみについて、活動の拠点となった寺院を中心に、歴史資料を講読することを通じて、その背景を視野に入れながら考察する。

授業の到達目標

空海の著作や真言宗寺院に関する歴史資料を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、平安時代初期における真言宗のあゆみを理解することができる。

授業計画

1. 歴史学からみた空海の生涯①（講義）
2. 歴史学からみた空海の生涯②（講義）
3. 歴史学からみた空海の生涯③（講義）
4. 高野山の開創①（講読）
5. 高野山の開創②（講読）
6. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ①（講読）
7. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ②（講読）
8. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ③（講読）
9. 高雄山寺から神護寺へ①（講読）
10. 高雄山寺から神護寺へ②（講読）
11. 高雄山寺から神護寺へ③（講読）
12. 後七日御修法と宮中真言院①（講読）
13. 後七日御修法と宮中真言院②（講読）
14. 平安京周辺での真言宗寺院の展開（講義）
15. 寺院から考える真言宗の歴史（講義）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修：授業で取り上げる歴史資料について辞書等で用語・語句を調べる（90 分）　事後学修：授業で取り上げた寺院や事項について調べる（60 分）。

テキスト

テキストは使用せず、歴史資料やレジュメをテーマごとに配布する。

参考書・参考資料等

平岡定海『日本寺院史の研究』（吉川弘文館、1981 年）。 吉川真司『天皇の歴史２　聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018 年）。 その他、テーマごとの参考書や参考資料等は、授業中に紹介する。

学生に対する評価

予習・復習などを含めた授業への参加度（60%）と期末レポート（40%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）歴史資料を読むスキルを身につける。
（B）歴史資料を読み、その内容を理解する。
（A）真言宗寺院に関する歴史資料を読み解き、平安時代初期の真言宗のあゆみを説明できる。
（S）平安時代初期の真言宗のあゆみについて、社会的背景をふまえて考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ①漢文の歴史資料を取り上げることがある。 ②受講生の関心によって、授業で取り上げた寺院や関連する場所を実際に訪れ、「歴史を体感する」機会を設けてもらいたい。

科目名	仏教学講読演習S							学 期	後期
副 題	仏教を宗教の領域からはずして捉える				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-231	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
仏教が宗教か否かについての問題について考究する。

授業の到達目標
宗教とは何か？仏教とは何か？の問いかけに答えることができるようになる。

授業計画
1. オリエンテーション
2. 宗教とは何か？①
3. 宗教とは何か？②
4. 宗教とは何か？③
5. 仏教とは何か？①
6. 仏教とは何か？②
7. 仏教とは何か？③
8. 宗教の原理①
9. 宗教の原理②
10. 宗教の原理③
11. 仏教の原理①
12. 仏教の原理②
13. 仏教の原理③
14. 仏教の原理④
15. 仏教の原理⑤

準備学習（予習・復習）・時間
予習として、次回の講義のテーマについて調べておくこと。(60 分)、復習として、講義で行った内容を見直し、理解を深めること（90 分）

テキスト
担当者が作成する『仏教は宗教か？』の資料を配布する。

参考書・参考資料等
参考書・参考資料等は講義で紹介する。

学生に対する評価
根源的な疑問を持って学ぶ態度を評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）宗教とはなにか、および仏教とは何かという基礎的な知識を身につけている
（B）宗教とはなにか、および仏教とは何かという意味を理解している。
（A）宗教とはなにか、および仏教とは何かという意味を理解し、他者に説明することができる。
（S）宗教とはなにか、および仏教とは何かという意味を理解し、問いかけたことに答えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業内で指示する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習T							学 期	後期
副 題	心とはなにかⅡ				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-232	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乗仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標
仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション（授業の進め方等）とビデオ鑑賞（仏教に関するもの）
2.アビダルマ仏教－南方上座部ならびに説一切有部の範疇論－
3.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（１）大地法－
4.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（２）大善地法－
5.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（３）大煩悩地法・大不善地法－
6.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（４）小煩悩地法・不定地法－
7.アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（５）心心所の働き方－
8.大乗仏教－大乗経典と大乗論師－
9.大乗仏教－瑜伽行派の範疇論と心の分析（１）六識－
10.大乗仏教－瑜伽行派の心の分析（２）マナ識・アーラヤ識－
11.大乗仏教－転識得智－
12.大乗仏教－仏性・如来蔵－
13.大乗仏教－中観派の範疇論と心の分析－
14.密教－『大日経』「住心品」－
15.授業の総括とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間
講義内容の要点をノートに整理すること（60 分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30 分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90 分）

テキスト
竹村牧男『心とはなにかー仏教の探究に学ぶー』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等
①佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、2013、②師茂樹『『大乗五蘊論』を読む』春秋社、2015、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編［改訂版］』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）仏教についての基礎的な事項を理解している。
（B）仏教における心についての各思想を理解している。
（A）仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
（S）仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	仏教学講読演習U							学 期	後期
副 題	「『感身学正記』と叡尊関係史料を読む」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M3-12-233	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本演習では、鎌倉後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』とその関係史料を読解する（史跡見学も実施）。とくに、本年度は、弘安5年～6年前半（1282～83）に叡尊が畿内で展開した宗教活動や、叡尊と貴族社会・武家社会との関係について理解を深める。受講者は、担当箇所について関係史料・論文を調査し、資料を作成することで、研究能力を練磨することが課題となる。なお、演習の性格上、「授業計画」はあくまでも目安に過ぎず、演習中の解釈・討論の進度や受講生の理解度によって変ることがありうる。あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、史料に即して理解できるようになる。　②鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。　③仏教史料の持つ歴史的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画
1．『感身学正記』の概要、講義の進め方、文献探索の方法
2．『感身学正記』を読む①（弘安６年条）
3．『感身学正記』を読む②（弘安６年条）
4．『感身学正記』を読む③（弘安６年条）
5．『感身学正記』を読む④（弘安６年条）
6．『感身学正記』を読む⑤（弘安６年条）
7．『感身学正記』を読む⑥（弘安６年条）
8．『感身学正記』を読む⑦（弘安６年条）
9．『感身学正記』を読む⑧（弘安７年条）
10. 『感身学正記』を読む⑨（弘安７年条）
11. 『感身学正記』を読む⑩（弘安７年条）
12. 『感身学正記』を読む⑪（弘安７年条）
13. 『感身学正記』を読む⑫（弘安７年条）
14. 叡尊関係の史跡見学①
15. 叡尊関係の史跡見学②

準備学習（予習・復習）・時間
【予習】事前学習として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した予習をできるように努力すること（120 分）【復習】報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（60 分）

テキスト
①『感身学正記』本文のプリント（第１回の講義で配布する）。　②細川涼一『感身学正記』第２巻（平凡社東洋文庫、2020 年）（書店などで購入。必ず講義に持参すること）　③受講生が作成する報告資料（成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること）

参考書・参考資料等
①和島芳男『叡尊・忍性』（吉川弘文館、1959 年）　②長谷川誠注解・訳 『興正菩薩御教誡聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全４冊 （西大寺、1990 年）　③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』（奈良国立博物館、2001 年）　④松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』（吉川弘文館、2004 年）

学生に対する評価
レポート（70%）、講義中での報告（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
（B）『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
（A）『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
（S）『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法
演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスを行なう。 レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

その他
①本演習は、受講生に適宜報告を課すアクティブ・ラーニングであるので、参考書や講義で紹介する論著を読んで、資料を作成すること。②受講者は、「古文書解読」や「歴史学」なども履修しておくこと。③本演習では、２回分の時間を史跡見学にあてる予定である（土曜日もくしは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する）。

科目名	真言密教講読演習S							学 期	後期
副 題	真言密教の儀礼Ⅱ				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-234	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く体験するために、真言密教における実践行を実際に体験する。

授業の到達目標
・1200 年の歴史を有する真言密教における実践行を体験し、奥深い真言密教の世界にふれる。 ・真言密教の読経や声明、特に在家用の読経について学び、実際に読誦できるようになる。 ・瞑想や礼拝行を体験し、真言密教の実践行をより深く理解する。

授業計画
1.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（1）―
2.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（2）―
3.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（3）―
4.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（4）―
5.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（5）―
6.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（6）―
7.真言密教の読経―『仏前勤行次第』の解説と読誦（7）―
8.真言密教の読経―陀羅尼の解説と読誦―
9.真言密教の行法―礼拝行の解説と実践―
10.真言密教の荘厳―仏具・衣体の解説―
11.真言密教と茶道―解説と喫茶―
12.真言密教の声明―解説と実唱（1）―
13.真言密教の声明―解説と実唱（2）―
14.真言密教の瞑想法―解説と実修（1）―
15.真言密教の瞑想法―解説と実修（2）―

準備学習（予習・復習）・時間
・事前準備として、都度シラバスを確認し、用意すべき道具類や指示された書類を準備すること (30 分)。・事後学習として、読経や瞑想などを続けておくこと（60 分)。

テキスト
・『仏前勤行次第』(高野山出版社、1997 年）・坂田光全『真言宗在家用『仏前勤行次第』の解説』(高野山出版、2016 年） 上記テキストの入手方法については、講義初回に応相談。 ・その他は、講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等
講義中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（60%)、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義での実践行に参加する。
（B）講義での実践行を完遂できる。
（A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
（S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
・実際に体験して学ぶこと（アクティブ・ラーニング）を中心にした講義である。 ・オンラインでの受講不可。 ・瞑想法実修の際は、動きやすい服装にて行う。 ・別途、実修費を徴収する場合がある（数百円)。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。

科目名	密教学演習L							学 期	通年
副 題	思想研究の方法論				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M4-25-235	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
教理と実践が連動しているのが、密教の特徴である。事相と教相は「鳥の両翼」「車の両輪」と言われるが、これは事相と教相とが表裏一体であることを意味している。それでは、その事相で表現される教相（教義）とは、いったいどのようなものであるのか。 当演習では、実践の背後にある密教教理の研究方法を、密教の実践が仏教（特に大乗仏教）とどのような関連性を有するのかについての調査・考察を通して習得することを目的とする。

授業の到達目標
密教（特に真言密教）の教相研究の基礎的方法論を習得し、各自の卒業論文作成に結び付ける。

授業計画
【前期】
1．概要（前期の進め方等）
2．学術論文とは？
3．資料－1 次資料と 2 次資料－
4．先行研究を読む①－先行研究を探す－
5．先行研究を読む②－研究書を読む－
6．先行研究を読む③－学術論文を読む－
7．レジュメを作ろう①－テーマの設定－
8．レジュメを作ろう②－資料を探す－
9．レジュメを作ろう③－レジュメをまとめる－
10. レジュメを作ろう④－発表と質疑応答－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

【後期】
1．概要（後期の進め方）
2．論文のプロットを作成する①－問題点を整理する－
3．論文のプロットを作成する②－1次資料を配置する－
4．論文のプロットを作成する③－結論を導く－
5．1 次資料を読む①－阿含経典－
6．1 次資料を読む②－大乗経典－
7．1 次資料を読む③－密教経典－
8．1 次資料を読む④－論書－
9．1 次資料を読む⑤－注釈書－
10. 1 次資料を読む⑥－教義書－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

準備学習（予習・復習）・時間
・自身の関心に応じた資料を、各回準備する（60 分） ・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60 分）

テキスト
（前期）北尾隆心「真言宗にみる救済」、『密教学研究』(38)、2006 年。 梶山雄一「仏陀観の変遷」、『梶山雄一著作集』第 3 巻、春秋社、2012 年。 （後期）課題プリント。※コピーを配布する。

参考書・参考資料等
・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価
担当箇所の発表（50%）、授業内での質疑応答（30%）、期末レポート発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）先行研究を集め、内容を要約できる。
（B）先行研究に基づく独自課題を設定できる。
（A）独自課題の解決に向けた資料収集ができる。
（S）独自課題の解決を論理的に論述できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他
・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。 ・受講生の関心に応じて、授業内容・テキスト等を変更する場合がある。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ＩＳ)							学 期	前期
副 題	仏教入門講座Ｉ				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G1-02-236	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標
チベット語経典を通じて四大学派の禅定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

授業計画
1. 授業の内容説明
2. 仏教とは、なんのためにあるのか。一般的な仏教のご紹介
3. 前世と来世の有無についての説明（生まれ変わること）
4. 善業と悪業との結果についての説明
5. 仏陀の教に入門である三帰依についての説明
6. 仏法僧に帰依する時学ぶべきことについての説明
7. 十不善についての説明（身口意により不善）
8. 十不善の結果についての説明
9. 十善戒についての説明（身口意により善戒）
10. 六加行法についての説明
11. 七支分の中の第一の礼拝の支分と供養の支分についての説明
12. 第三懺悔の支分から第七の廻向までの支分についての説明
13. 十に縁起の説明（１）
14. 十に縁起の説明（２）
15. 学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として配布資料を読んで覚える（90 分）、 事後学修として習ったことを暗記する（90 分）。

テキスト
教員が用意する。

参考書・参考資料等
教室で指示する。

学生に対する評価
発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ⅡS)							学 期	後期
副 題	仏教入門講座Ⅱ				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G1-02-237	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標
四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

授業計画
1.授業の内容説明
2.四聖諦（1）苦諦についての説明
3.四聖諦（2）集諦についての説明
4.四聖諦（3）滅諦と道諦についての説明
5.三十七道品（2）四念住と四正断などについての説明
6.三十七道品（2）八正道についての説明
7.菩薩トクメーサンポが著した『三十七偈の菩薩の実践』を読む（1）煩悩の過失についての説明
8.『三十七偈の菩薩実践』を読む（2）慈悲の心についての説明
9.『三十七偈の菩薩実践』を読む（3）六波羅蜜についての説明
10.ツオンカパ大師が著した『ラムツオ　ナムスム』を読む（1）出離についての説明
11.『ラムツオ ナムスム』を読む（2）菩提心についての説明
12.『ラムツオ ナムスム』を読む（(3）空の見解についての説明
13.極楽へ生まれ変わる原因についての説明（1）
14.極楽へ生まれ変わる原因についての説明（2）
15.学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として配布資料を読んで覚える（90 分)。 事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90 分)。

テキスト
教室で指示する。

参考書・参考資料等
教室で指示する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（60%)、習熟度（40%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(仏画S)							学 期	通年
副 題	仏画				授業方法	実技	担当者	徐東軍	
ナンバリング	G1-02-238	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
基礎から紙本の仏画制作の技法を勉強し、線画と顔料による彩色画で仏・菩薩・明王・天部の姿を描く。密教の曼荼羅を構成する多様な尊像に関する知識を学び、仏教の世界観についての理解を深める。

授業の到達目標
仏画の描き方を身につけ、仏教の諸尊や仏教美術についての理解を深める。

授業計画
【前期】
1.講義内容の説明（授業の進め方、道具の使い方など）
2.基礎1　手足・衣紋線の描き方
3.基礎2　面相・頭部の描き方
4.基礎3　頭光・瓔珞・持ち物の描き方
5.基礎4　蓮華座・岩座・雲の描き方
6.基礎5　墨の濃淡と線の強弱を使い分ける練習
7.基礎6　明王・天部の全体を描く（1）
8.基礎7　明王・天部の全体を描く（2）
9.基礎8　仏・菩薩の全体を描く（1）
10.基礎9　仏・菩薩の全体を描く（2）
11.作品制作　白描の作品を描く（1）
12.作品制作　白描の作品を描く（2）
13.作品制作　紺地金泥の作品を描く（1）
14.作品制作　紺地金泥の作品を描く（2）
15.講義内容の総括

【後期】
1.講義内容の説明（道具の使い方、彩色画の実例作品の紹介など）
2.淡彩1　絵具の作り方、平塗り・ぼかしの技法
3.淡彩2　肌の色の作り方、肌の描き方
4.淡彩3　面相の描き方（仏・菩薩）
5.淡彩4　面相の描き方（明王）
6.淡彩5　頭部・頭光の描き方
7.淡彩6　混色と繧繝彩色
8.淡彩7　蓮華・衣・紋様の描き方
9.淡彩8　瓔珞・持ち物の描き方（金泥）
10.淡彩9　山石・樹木の描き方
11.作品制作　彩色仏画（1）
12.作品制作　彩色仏画（2）
13.作品制作　彩色仏画（3）
14.作品制作　彩色仏画（4）
15.講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として、講義で学んだ技法に関して練習をしておくこと。（９０分）

テキスト
書写手本及び関係資料はコピーを配布する。

参考書・参考資料等
中村幸真・中村凉應『模写で描く仏画入門』（日本放送出版協会、１９９１年）　中村凉應・中村幸真『模写で描く彩色仏画入門』（日本放送出版協会、２０００年）　佐和隆研『仏像図典』（吉川弘文館、１９７５年）

学生に対する評価
毎回の授業の書写作品（70%）授業参加への積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）仏画の基本事項を理解できる。
（B）仏画の基本事項を理解し、それを描写することができる。
（A）仏教や仏画に関することを理解し、完成度の高い作品を描ける。
（S）仏教や仏画に関することを理解し、尊像への理解とその表現が優れている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、授業内で対応する。

その他
受講生は年間を通して使用する面相筆・彩色筆・紙を購入する（用具の発注は担当者が行う）。墨・硯・筆洗・雑巾・日本画絵具は受講生が各自で用意すること。ただし、梅皿・念紙・金泥などの用具・資材は担当者が貸与する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。なお、過去に本講義の単位を取得したことがある受講生に対しては、和紙ではなく、絵絹と木板の上で描く仏画の技法を紹介する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
仏画工房で国宝の曼荼羅の復元制作に携わった経験のある担当者が、その経験を活かし、仏像の基本知識に基づいた仏画制作の技術について講義する。

科目名	企画科目（仏教美術入門S）							学 期	後期
副 題	仏教美術入門				授業方法	講義	担当者	内藤栄	
ナンバリング	G1-02-239	実務経験の有無	有	関連DP	3	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
仏教美術の成立と特徴について考察する。インドにおける仏教美術の成立過程から始め、中国、朝鮮半島を経て日本に伝播した仏教美術の諸相を習得する。一般的に知られている仏像、仏画のほか、仏教工芸、仏教考古、建築にも興味の範囲を広げる。そのうえで仏教美術を理解する上で必要な基礎知識、仏像の図像、素材と制作技法、時代性、国ごとの特徴、様式、文献資料や経典・儀軌などを学び、自主的に鑑賞する興味と能力を身に付ける。

授業の到達目標
仏教美術にも興味を持ち、自主的に鑑賞する習慣を身に付ける。そのうえで、仏教美術の基礎を習得し、自身の言葉で説明できるようになる。

授業計画
1. 仏教美術の成立（インド文化圏のストゥーパと舎利容器）
2. インドとパキスタンの仏像
3. 仏教の伝播と仏教美術の広がり
4. 飛鳥時代前期の美術
5. 飛鳥時代後期（白鳳期）の仏教美術
6. 奈良時代の仏教美術　１
7. 奈良時代の仏教美術　２
8. 正倉院宝物概説
9. 奈良時代の密教美術
10. 後七日御修法と仏歯供養
11. 浄土教の美術
12. 神仏習合の美術
13. 平安時代から鎌倉時代
14. 密教美術　彫刻
15. 密教美術　絵画

準備学習（予習・復習）・時間
事前に授業範囲の美術作品について、美術全集や展覧会図録で主要な作品を把握しておくこと。また、授業後に寺院や博物館を訪問し、実際の作品を鑑賞することも重要である。高野山、関西という恵まれた場所で学ぶことを最大限活用してほしい。

テキスト
・『寧楽遺文　中巻　宗教編・経済編上』（東京堂出版、昭和３７年）　・『校刊美術史料　寺院編　上中下』（中央公論美術出版、昭和４７年）

参考書・参考資料等
・高田修『仏像の誕生』（岩波新書、昭和６２年）　・佐和隆研編『仏像図典』（吉川弘文館、昭和３７年）　・内藤栄『舎利荘厳美術の研究』（青史出版、平成２２年）

学生に対する評価
出席５０％　レポート５０％

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）・仏教美術における基本的な作品に対する知識を習得している。
（B）・仏教美術に興味を持ち、自ら進んで鑑賞の機会を持つようになる。
（A）・仏教美術の作品に関する知識に加え、文献資料や経典に関する知識を持っている。
（S）・仏教美術に関して独自の見解を持ち、文献資料や経典を用いて自説を展開することができる。

課題に対するフィードバックの方法
・寺院や博物館において作品を目の前にして学生同士で語り合う。それにより学生の理解度を知り、教員よりコメントをする。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・美術館と博物館で３０年以上勤務しており、そのうち仏教美術を専門とする奈良国立博物館において２６年、大阪市立美術館で１年勤務している。実際に美術品を扱ってきた経験と知識、さらに近年急速に進化した科学的調査などの最新情報を授業に盛り込む。

科目名	企画科目（密教文化講座S）							学 期	後期
副 題	密教文化講座				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G1-01-240	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
各研究機関や社会の中で実践されている自然科学系統を中心とする様々な研究分野の最前線の領域について、本校客員教授陣が交替で３回生向けにわかりやすく紹介する。様々な分野の研究の熱気の一端に触れると同時に、密教との親和性を有するあらゆる学域のアプローチにより、現代社会の抱える問題点に関する新なる視点を提供することにより、将来の研究テーマ選択に資するリレー講義である。

授業の到達目標
各専門分野における最先端の研究内容を知る。経験豊かな各研究者自身による知性に富んだ講義を聴講することにより、書物からでは得られない各分野の情報を得る。

授業計画
１.松長潤慶　「なぜ今密教なのか」
２.担当教員　平岡宏一
３.　　〃
４.担当教員　神崎亮平
５.　　〃
６.担当教員　永田良一
７.　　〃
８.担当教員　名越康文
９.　　〃
10.担当教員　根来秀行
11.　　〃
12.担当教員　高岡義寛
13.　　〃
14.担当教員　菅澤茂
15.　　〃

準備学習（予習・復習）・時間
特にない。集中して聴講してほしい。

テキスト
各教員の指示による。

参考書・参考資料等
各教員の指示による。

学生に対する評価
レポートにより判断する。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義内容が理解できる。
（B）講義内容を整理・まとめることができる。
（A）講義内容から現代社会の抱える問題点を指摘できる。
（S）講義内容から現代社会の抱える問題点を密教の見地から論述できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業毎に質問に答える。

その他
平岡宏一先生２回、神崎亮平先生２回、永田良一先生２回、名越康文先生２回、根来秀行先生２回、高岡義寛先生２回、菅澤茂先生２回による合計１５回のリレー講義で、現代社会のフロンティアを学ぶ。講義の日程・担当教員・テーマは，前期の学期初めに掲示される。順番等は変更する場合がある。

科目名	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅰ)							学 期	前期
副 題	伝統工芸の世界に触れる				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	G1-02-241	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本の伝統工芸並びに仏像彫刻に関する講義及び実習を通じて、社会や自身が仏教に求める宗教性について感じることを目的とする。具体的には、仏像彫刻に関する知識を学び、自ら、仏像を彫刻し、自身の心や変化を実感、体験する。

授業の到達目標
日本の伝統工芸及び仏像についての知識を深め、宗教性、自身のスピリチュアリティについての感性を深める。

授業計画
1.仏像の歴史と成り立ち①
2.仏像の歴史と成り立ち②
3.制作活動：彫刻作成①
4.制作活動：彫刻作成②
5.制作活動：彫刻作成③
6.仏像制作の実際①：木材の特徴・製法についての歴史・制作道具と仏像の構造
7.仏像制作の実際②：木材の特徴・製法についての歴史・制作道具と仏像の構造
8.制作活動：彫刻作成④
9.制作活動：彫刻作成⑤
10.制作活動：彫刻作成⑥
11.仏像修復：伝統的各技法（木・漆・箔・金具・彩色など）①
12.仏像修復：伝統的各技法（木・漆・箔・金具・彩色など）②
13.制作活動：彫刻作成⑦
14.制作活動：彫刻作成⑧
15.講義の振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）日本の伝統工芸についての基本的知識を身に付けている。
（B）日本の伝統工芸についての基本的知識を身に付け、芸術文化についての自分の意見を述べることができる。
（A）日本の伝統工芸などの文化、宗教性が自身のスピリチュアリティに及ぼす影響について述べることができる。
（S）日本の伝統工芸などの文化、宗教性が自身のスピリチュアリティに及ぼす影響について述べることができ、かつ、表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
伝統工芸実習Ⅰ（彫刻）を受講ののちに、伝統工芸実習Ⅱ（彫刻）を受講すること。講義は、各月 1 日の集中講義形式とし 1 回につき 5 講義を行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗僧侶・臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員による日本の伝統工芸に関する文化論について講義し、実習については、伝統工芸工房の技術者が技能について指導を行う。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅰ)／人間学実践演習(臨床実習Ⅰ)							学 期	通年
副 題	スピリチュアルケアの実践を学ぶ					授業方法	実習	担当者	森崎雅好
ナンバリング	G3-10-242	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は 60 時間とする。また、3 年次の履修とする。

授業の到達目標
スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。

授業計画
【前期】
1. 実習に関するガイダンス
2. スピリチュアルケアと臨床現場①
3. ケアと倫理①
4. 実習：傾聴活動①
5. 実習：傾聴活動②
6. 実習：傾聴活動③
7. 実習：傾聴活動④
8. 実習：傾聴活動⑤
9. 実習：傾聴活動⑥
10. 実習：傾聴活動⑦
11. 実習：傾聴活動⑧
12. 実習：傾聴活動⑨
13. 実習：傾聴活動⑩
14. 実習の振り返り
15. まとめ：苦悩とケア①

【後期】
1. 前期の振り返り
2. ケアと倫理②
3. 実習：傾聴活動①
4. 実習：傾聴活動②
5. 実習：傾聴活動③
6. 実習：傾聴活動④
7. 実習：傾聴活動⑤
8. 実習：傾聴活動⑥
9. 実習：傾聴活動⑦
10. 実習：傾聴活動⑧
11. 実習：傾聴活動⑨
12. 実習：傾聴活動⑩
13. 実習の振り返り
14. スピリチュアルケアと臨床現場②
15. まとめ：苦悩とケア②

準備学習(予習・復習)・時間
各実習実施前に、各自の課題と目標を明確化する（90 分)。実習実施後に、記録記入及び反省を行う（90 分）

テキスト
講師作成の実習資料を配付する。

参考書・参考資料等
窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説』 三輪書房, 2008 年。他、適時紹介する。

学生に対する評価
実習中の態度（30%）・実習日誌（70%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
（B）スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
（A）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
（S）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することでできる。

課題に対するフィードバックの方法
定期的に実習日誌を点検し、随時指導を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、スピリチュアルケアの臨床現場（高齢者介護施設・緩和ケア病棟・障害者福祉施設など）でのケア実習（実践・グループワーク・指導など）を通じて、ケアに必要な姿勢、態度、能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅱ)／人間学実践演習(臨床実習Ⅱ)							学 期	通年
副 題	スピリチュアルケアの実践を学ぶ					授業方法	実習	担当者	森崎雅好
ナンバリング	G4-10-243	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
「臨床実習Ⅰ」での学びをさらに深めることを目的とし、4 年次の履修とする。スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は 60 時間とする。

授業の到達目標
スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。

授業計画
【前期】
1. 実習に関するガイダンス
2. スピリチュアルケアと臨床現場①
3. ケアと倫理①
4. 実習：傾聴活動①
5. 実習：傾聴活動②
6. 実習：傾聴活動③
7. 実習：傾聴活動④
8. 実習：傾聴活動⑤
9. 実習：傾聴活動⑥
10. 実習：傾聴活動⑦
11. 実習：傾聴活動⑧
12. 実習：傾聴活動⑨
13. 実習：傾聴活動⑩
14. 実習の振り返り
15. まとめ：苦悩とケア①

【後期】
1. 前期の振り返り
2. ケアと倫理②
3. 実習：傾聴活動①
4. 実習：傾聴活動②
5. 実習：傾聴活動③
6. 実習：傾聴活動④
7. 実習：傾聴活動⑤
8. 実習：傾聴活動⑥
9. 実習：傾聴活動⑦
10. 実習：傾聴活動⑧
11. 実習：傾聴活動⑨
12. 実習：傾聴活動⑩
13. 実習の振り返り
14. スピリチュアルケアと臨床現場②
15. まとめ：苦悩とケア②

準備学習(予習・復習)・時間
各実習実施前に、各自の課題と目標を明確化する（90 分)。実習実施後に、記録記入及び反省を行う（90 分）

テキスト
講師作成の実習資料を配付する。

参考書・参考資料等
窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説』 三輪書房, 2008 年。他、適時紹介する。

学生に対する評価
実習中の態度（30%）・実習日誌（70%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
（B）スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
（A）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
（S）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することでできる。

課題に対するフィードバックの方法
定期的に実習日誌を点検し、随時指導を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、スピリチュアルケアの臨床現場（高齢者介護施設・緩和ケア病棟・障害者福祉施設など）でのケア実習（実践・グループワーク・指導など）を通じて、ケアに必要な姿勢、態度、能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅲ)／人間学実践演習(臨床実習Ⅲ)							学 期	通年
副 題	宗教的世界観に触れる					授業方法	実習	担当者	森崎雅好
ナンバリング	G3-10-244	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
キリスト教の教義及び世界観並びに神道の教義及び世界観と社会実践活動の実際について、学外実習を通じて学ぶ。遠隔地での学外実習のため現地にて宿泊する。また、各実習終了後、自身の学びや気づきについてキーワードを３つ挙げ、レポート（2,000～3,200 字以内）にまとめる。

授業の到達目標
様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の世界観を再確認し、社会実践活動に結び付ける視点を身につける。

授業計画
【前期】
1.実習に関するガイダンス1
2.事前学習①：キリスト教について1
3.事前学習②：キリスト教について2
4.事前学習③：教会の活動について
5.現地実習①：活動現場視察（自殺防止活動・於：和歌山県白浜町三段壁周辺）1
6.現地実習②：活動現場視察（自殺防止活動・於：和歌山県白浜町三段壁周辺）2
7.現地実習③：NPO法人の活動について（就労支援）
8.現地実習④：実践講義1（キリスト教の世界観）
9.現地実習⑤：実践講義2（キリスト教とケア）
10.現地実習⑥：活動現場と地域
11.現地実習⑦：礼拝出席
12.実習の振り返り①
13.実習の振り返り②
14.全体の振り返り
15.まとめ：キリスト教とケア

【後期】
1.実習に関するガイダンス1
2.事前学習①：神道について1
3.事前学習②：神道について2
4.事前学習③：伊勢神宮について
5.現地実習①：神道の世界について（神道博物館見学）
6.現地実習②：実践講義1（神道の世界観）
7.現地実習③：実践講義2（神道とケア）
8.現地実習④：伊勢神宮参拝
9.現地実習⑤：伊勢神宮参拝
10.現地実習⑥：猿田彦神社参拝
11.実習の振り返り①
12.実習の振り返り②
13.全体の振り返り
14.まとめ：神道とケア
15.全体まとめ：宗教とケア

準備学習（予習・復習）・時間
各事前学習の前の個人学習（90 分）と各実習の振り返り後の学びのまとめ（90 分）

テキスト
講師作成の資料を配付する。

参考書・参考資料等
藤藪庸一『あなたを諦めない 自殺救済の現場から』いのちのことば社,2019 年 ・伊藤 聡『神道とは何か－ 神と仏の日本史』中央公論新社,2012 年

学生に対する評価
レポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）様々な宗教的世界観を理解する。
（B）様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の抱く世界観を理解する。
（A）自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結びつける視点を身につけている。
（S）自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結びつける視点を身につけ、それらを他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートへのコメントを返却する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、宗教者によるケア実践活動の現場（キリスト教・神道）での実習を通じて、各宗教の世界観及び実践方法について学ぶことで自身のケア活動の姿勢や態度を内省し、現場での自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅳ)／人間学実践演習(臨床実習Ⅳ)							学 期	通年
副 題	社会問題についての知見を広める				授業方法	実習	担当者	川口道雄	
ナンバリング	G3-10-245	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、学術大会や研修会、ボランティア活動などに３回または３ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを３つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート（2,000～3,200 字以内）にまとめる。

授業の到達目標
現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養を身につける。

授業計画
【前期】
1. 実習に関するガイダンス
2. 事前学習①-1
3. 事前学習①-2
4. 事前学習①-3
5. 現地実習①-1
6. 現地実習①-2
7. 現地実習①-3
8. 現地実習①-4
9. 現地実習①-5
10. 事後学習①
11. 事前学習②-1
12. 事前学習②-2
13. 事前学習②-3
14. 現地実習②-1
15. 現地実習②-2

【後期】
1. 現地実習②-3
2. 現地実習②-4
3. 現地実習②-5
4. 事後学習②
5. 事前学習③-1
6. 事前学習③-2
7. 事前学習③-3
8. 現地実習③-1
9. 現地実習③-2
10. 現地実習③-3
11. 現地実習③-4
12. 現地実習③-5
13. 事後学習③
14. 実習報告会
15. まとめ：現代社会への関り

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習及び現地実習の前に個人の興味関心のある領域の情報をまとめる（90 分）。 現地実習及び実習の振り返り後の自身の気づき、学びについてまとめる（90 分）

テキスト
講師作成の実習に関する資料を配付する。

参考書・参考資料等
木下大生 （編集），鴻巣麻里香 （編集）『ソーシャルアクション！ あなたが社会を変えよう！ :はじめの一歩を踏み出すための入門書 』ミネルヴァ書房，2019 年。他、適時紹介する。

学生に対する評価
レポートによる評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
（B）現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
（A）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
（S）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートへのコメントを返却する。

その他
臨床実習Ⅳは３年次に履修すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
講師は、社会福祉法人光生会の創立者、現相談役を務めている。知的障害、身体障害のある方、高齢者の方及び子どもと子育て中の方への支援を行う法人の運営、並びに、対人援助の実務経験のある講師が、ボランティア活動への姿勢や態度、また、各領域の専門性の高め方について教示し、現代社会における様々な問題に対応するための自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅴ）／人間学実践演習（臨床実習Ⅴ）							学 期	通年
副 題	社会問題についての知見を広める				授業方法	実習	担当者	川口道雄	
ナンバリング	G4-10-246	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、研修会、学術大会、ボランティア活動などに３回または３ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを３つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート（2,000～3,200 字以内）にまとめる。

授業の到達目標
現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養や態度を身につける。

授業計画
【前期】
1. 実習に関するガイダンス
2. 事前学習①-1
3. 事前学習①-2
4. 事前学習①-3
5. 現地実習①-1
6. 現地実習①-2
7. 現地実習①-3
8. 現地実習①-4
9. 現地実習①-5
10. 事後学習①
11. 事前学習②-1
12. 事前学習②-2
13. 事前学習②-3
14. 現地実習②-1
15. 現地実習②-2

【後期】
1. 現地実習②-3
2. 現地実習②-4
3. 現地実習②-5
4. 事後学習②
5. 事前学習③-1
6. 事前学習③-2
7. 事前学習③-3
8. 現地実習③-1
9. 現地実習③-2
10. 現地実習③-3
11. 現地実習③-4
12. 現地実習③-5
13. 事後学習③
14. 実習報告会
15. まとめ：現代社会への関り

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習及び現地実習の前に個人の興味関心のある領域の情報をまとめる（90 分）。 現地実習及び実習の振り返り後の自身の気づき、学びについてまとめる（90 分）

テキスト
講師作成の実習に関する資料を配付する。

参考書・参考資料等
木下大生（編集），鴻巣麻里香（編集）『ソーシャルアクション！ あなたが社会を変えよう！ :はじめの一歩を踏み出すための入門書 』ミネルヴァ書房，2019 年。他、適時紹介する。

学生に対する評価
レポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
（B）現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
（A）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
（S）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートへのコメントを返却する。

その他
臨床実習Ⅴは４年次に履修すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
講師は、社会福祉法人光生会の創立者、現相談役を務めている。知的障害、身体障害のある方、高齢者の方及び子どもと子育て中の方への支援を行う法人の運営、並びに、対人援助の実務経験のある講師が、ボランティア活動への姿勢や態度、また、各領域の専門性の高め方について教示し、現代社会における様々な問題に対応するための自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅱ)							学 期	後期
副 題	伝統工芸の世界に触れる				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	G1-02-247	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
伝統工芸実習Ⅰ（彫刻）の講義を受講したことをうけ、さらに社会や自身が仏教に求める宗教性について深めることを目的とする。具体的には、仏像彫刻に関する知識を学び、自ら、仏像を彫刻し、自身の心や変化を実感、体験する。

授業の到達目標
日本の伝統工芸及び仏像についての知識を深め、宗教性、自身のスピリチュアリティについての感性を深める。

授業計画
1. 日本の伝統工芸Ⅰ：日本の伝統工芸の実態①
2. 日本の伝統工芸Ⅰ：日本の伝統工芸の実態②
3. 制作活動：彫刻作成①
4. 制作活動：彫刻作成②
5. 制作活動：彫刻作成③
6. 仏像制作の過程と修復の実際①
7. 仏像制作の過程と修復の実際②
8. 仏像制作の過程と修復の実際③
9. 仏像制作の過程と修復の実際④
10. 仏像制作の過程と修復の実際⑤
11. 日本の伝統工芸Ⅱ：日本の伝統工芸の実態③
12. 日本の伝統工芸Ⅱ：日本の伝統工芸の実態④
13. 制作活動：彫刻作成④
14. 制作活動：彫刻作成⑤
15. 講義の振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）日本の伝統工芸についての基本的知識を身に付けている。
（B）日本の伝統工芸についての基本的知識を身に付け、芸術文化についての自分の意見を述べることができる。
（A）日本の伝統工芸などの文化、宗教性が自身のスピリチュアリティに及ぼす影響について述べることができる。
（S）日本の伝統工芸などの文化、宗教性が自身のスピリチュアリティに及ぼす影響について述べることができ、かつ、表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
伝統工芸実習Ⅰ（彫刻）を受講ののちに、伝統工芸実習Ⅱを受講すること。講義は、各月 1 日の集中講義形式とし 1 回につき 5 講義を行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗僧侶・臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員による日本の伝統工芸に関する文化論について講義し、実習については、伝統工芸工房の技術者が技能について指導を行う。

科目名	企画科目(スピリチュアルケア概論)／人間学専門講義(スピリチュアルケア概論)							学 期	後期
副 題	魂へのケア					授業方法	講義	担当者	窪寺俊之
ナンバリング	G2-10-248	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
各授業時間（90 分）の内 60 分を講義に使い、残りの 30 分は受講者とのディスカッションをする。受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くようにする。

授業の到達目標
スピリチュアルケアの基本的概念（スピリチュアルケア、スピリチュアリティ、宗教的ケア、心理的ケア、終末期医療、日本的スピリチュアリティなど）を理解し関心と興味をもつこと。

授業計画
1.スピリチュアルケアとは何か（I）WHO の健康定義の改正案
2.スピリチュアルケアの必要性、終末期医療現場での苦悩
3.スピリチュアルケアの必要性と現代医療の問題点（治療中心医療の限界）
4.前回の講義内容について考察を深め課題に答える
5.前回の講義内容について考察を深め課題に答える
6.スピリチュアルとは何か、スピリットとは何か
7.スピリチュアルケアの本質、関係性、人間とは何か
8.スピリチュアルケアの目的（QOL の向上）
9.前回の講義内容について考察を深め課題に答える
10.前回の講義内容について考察を深め課題に答える
11.ケアとは何か
12.スピリチュアルケア・ギバー（提供者）の養成
13.スピリチュアルな感性を磨く（スピリチュアルな視点、側面、テーマなど）
14.前回の講義内容について考察を深め課題に答える
15.前回の講義内容について考察を深め課題に答える

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店,2000 年

参考書・参考資料等
窪寺俊之『スピリチュアルケア序説』三輪書店,2004 年 窪寺俊之『スピリチュアルケア概説』三輪書店,2008 年

学生に対する評価
レポート評価（50%）・出席率（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）スピリチュアルケアの基本的用語を理解できている。
（B）スピリチュアルケアの基本に加えて、宗教的ケア、心理的ケアとの関係など周辺領域との関係を広く理解できている。
（A）スピリチュアルケアを全体的に理解することに加えて、ケア者（スピリチュアルケア援助者）として、他の参考図書を読んで理解し、他者に説明することができる。
（S）スピリチュアルケアと他の領域との関係性を踏まえながら、臨床現場でスピリチュアルケアを実践するための姿勢を理解できている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
牧師として、いのちの電話　訓練委員の経験を持つ教員が、受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くよう授業を行う。

科目名	企画科目（死生観）／人間学専門講義（死生観）							学 期	後期
副 題	「どう生き、どう死ぬか」を考える				授業方法	講義	担当者	山本佳世子	
ナンバリング	G2-03-249	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本人の死生観の変遷と、現代日本人の死生観について、映画や絵本を取り上げながら、理解を深める。講義及びディスカッションを通して、受講者が自身の死生観を見つめ直し、培う。

授業の到達目標
日本人の死生観の変遷を理解し、説明できる。 自身の死生観を振り返り、言語化できる。

授業計画
1．死生学と死生観
2．死生観の生成と涵養（絵本『かえるくんととりのうた』）
3．死に向き合う：2.5 人称の死を考える（映画「赤ひげ」、絵本『かないくん』）
4．死までの生を生きる：1 人称の死を考える（映画「生きる」、絵本『100 万回生きた猫』）
5．グループワーク、ディスカッション①
6．故人との関係性（絵本『老夫婦』、映画「加奈子のこと」）
7．死からの生を生きる：2 人称の死を考える（映画「殯の森」、「岸辺のふたり」）
8．日本人の死生観と他界観（絵本『このあとどうしちゃおう』）
9．死者を送る（映画「おくりびと」）
10. グループワーク、ディスカッション②
11. 彼岸と此岸を媒介するもの：お迎え（絵本『マッチ売りの少女』、『わすれられないおくりもの』）
12. この世にいる死者：幽霊（映画「岸辺の旅」）
13. 新しい葬送の形：死者はどこにいるのか（歌「千の風になって」、映画「洗骨」）
14. 「無宗教」という死生観（絵本『つちはんみょう』）
15. 受け継がれていく生、まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
参考書として挙げられている図書に事前に目を通して理解を深める（60 分）。 事後にさらに理解を深めるために再読する（60 分）。 挙げられている映画や絵本は授業内では一部のみ観賞するにとどまるため、全編観賞し、理解を深める（120 分）。

テキスト
適宜指示する。

参考書・参考資料等
・佐藤弘夫『死者の花嫁―葬送と追悼の列島死』幻戯書房、2015 年 ・波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞出版、2004 年

学生に対する評価
期末レポート（50%）、毎回の授業時に提出する課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）日本人の死生観について基本概念を理解し、自身の死生観をなんとなく説明できる。
（B）日本人の死生観とその変遷を配布資料に沿って理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
（A）日本人の死生観とその変遷を配布資料を含む複数の資料を見ながら他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
（S）日本人の死生観とその変遷を資料を見ずに他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、「日本人の死生観」に比較言及しながら自身の死生観を自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
授業計画は予定であり、取り上げる映画等、一部変更する可能性があります。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
スピリチュアルケア師を指導できる資格を有し、グリーフケアカウンセラーの経験を持つ教員が、日本人の死生観の理解を深め、映画や絵本に現れる死生観をディスカッションしながら自身の死生観の気づき、培う場とさせる科目である。

科目名	企画科目(コミュニケーション演習Ⅰ)／人間学実習(コミュニケーション演習Ⅰ)							学 期	後期
副 題	コミュニケーション演習Ⅰ					授業方法	演習	担当者	橋本久仁彦
ナンバリング	G2-10-250	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手（カウンセラー）と語り手（クライアント）の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間（聞き手と話手）の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を体験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ＝現場の発見を促す。また仏教との関わりについて多角的に講義する。

授業の到達目標
相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得すること。仏教と聞く態度の関連について知ること。

授業計画
1.講義ガイダンス：身体と言葉について・導入
2.身体の動きを聞く芸能①：影舞という在り方
3.身体の動きを聞く芸能②：指と指との「ふれ」と「ことば」
4.円坐の実習・由来について。講義と実習
5.円坐とセラピーの違いについて。講義と実習
6.円坐と仏教との重なりについて。講義と実習
7.ミニカウンセリング・トレーニング
8.ミニカウンセリングと「傾聴」ということ
9.ミニカウンセリングから「未二観」へ
10.未二観と大乗仏教について講義と実習
11.逐語録検討①：音韻
12.逐語録検討②：間合い
13.逐語録検討③：環境音
14.他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について①
15.他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について②・まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
日常生活の中人間関係、家族や友人、職場などの具体的な関係の在り方について意識しておくこと。(120分）どんな疑問や葛藤でも、その具体的な事例を扱うことから授業に入るので臆せず発言されたい。

テキスト
必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等
授業時に伝える。

学生に対する評価
レポートによる評価（50%）・講義への積極的参加（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま辿らず自分の言葉で編集する。
（B）15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
（A）15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
（S）非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目（「コミュニケーション演習Ⅱ」）を受講することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(コミュニケーション演習Ⅱ)／人間学実習(コミュニケーション演習Ⅱ)							学 期	後期
副 題	コミュニケーション演習Ⅱ					授業方法	演習	担当者	橋本久仁彦
ナンバリング	G2-10-251	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手（カウンセラー）と語り手（クライアント）の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間（聞き手と話手）の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を体験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ＝現場の発見を促す。また仏教との関わりについて多角的に講義する。

授業の到達目標
相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得すること。仏教と聞く態度の関連について知ること。

授業計画
1.講義ガイダンス：身体と言葉について・導入
2.身体の動きを聞く芸能①：影舞という在り方
3.身体の動きを聞く芸能②：指と指との「ふれ」と「ことば」
4.円坐の実習・由来について。講義と実習
5.円坐とセラピーの違いについて。講義と実習
6.円坐と仏教との重なりについて。講義と実習
7.ミニカウンセリング・トレーニング
8.ミニカウンセリングと「傾聴」ということ
9.ミニカウンセリングから「未二観」へ
10.未二観と大乗仏教について講義と実習
11.逐語録検討①：音韻
12.逐語録検討②：間合い
13.逐語録検討③：環境音
14.他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について①
15.他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について②・まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
日常生活の中人間関係、家族や友人、職場などの具体的な関係の在り方について意識しておくこと。(120分）どんな疑問や葛藤でも、その具体的な事例を扱うことから授業に入るので臆せず発言されたい。

テキスト
必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等
授業時に伝える。

学生に対する評価
レポートによる評価（50%）・講義への積極的参加（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま辿らず自分の言葉で編集する。
（B）15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
（A）15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
（S）非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目（「コミュニケーション演習Ⅱ」）を受講することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(もの語り心理学)／人間学専門講義(もの語り心理学)							学 期	後期
副 題	人生と喪失の語り					授業方法	講義	担当者	やまだようこ
ナンバリング	G2-10-252	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
もの語り（ナラティヴ）心理学の理論と方法論の基礎を、ワークに主体的に参与することによって実践から体験的に学ぶ。特に、「人生」「喪失」「スピリチュアリティ」「ケア」と関連づけた語りの共同生成ワークと討論を行う。

授業の到達目標
もの語り（ナラティヴ）心理学の理論をワークを通じて学ぶとともに、人生を深く考える態度を養い、ナラティヴによるケアの方法と技法を習得する。

授業計画
1. 人生のイメージ（ビジュアル・ナラティヴのワーク）
2. 人生のイメージと人生観
3. もの語り（ナラティヴ）とは？
4. もの語りアプローチの人間観
5. ナラティヴ心理学の理論（まとめ）
6. 人生を物語る（ライフストーリー）
7. ナラティヴ・インタビューの方法
8. カウンセリングとナラティヴ・セラピー
9. ナラティヴ・インタビューの実践
10. ナラティヴ実践とケアの方法（まとめ）
11. 喪失の語りー喪失から生成へのもの語りとケア
12. もの語りの語り直しと生き直し
13. もの語りによる人生の転換とレジリエンス
14. この世とあの世のイメージ
15. 喪失の語りとケア（まとめ）

準備学習(予習・復習)・時間
授業後に毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること（90 分） 下記の参考書を読むことが望ましい

テキスト
なし

参考書・参考資料等
①やまだようこ『喪失の語りー生成のライフストーリー』新曜社② やまだようこ『ナラティヴ研究－語りの共同生成』新曜社

学生に対する評価
授業への積極的参与と授業時の小レポート（５0%）最終レポート（５0%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）授業への積極的参与
（B）授業への積極的参与とレポートの提出
（A）授業への積極的参与と優れたレポートの提出
（S）授業への積極的参与と特に優れたレポートの提出

課題に対するフィードバックの方法
授業を通じて積極的に対話を行う

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床発達心理士としての臨床経験からナラティヴ・セラピーやケアについて講義する。

科目名	企画科目(聖地巡礼Ⅰ)／人間学実践演習(聖地巡礼Ⅰ)							学 期	後期
副 題	自身のスピリチュアリティを見つめる					授業方法	実習	担当者	森崎雅好
ナンバリング	G3-03-253	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問・巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート（2,000～3,200 字）にまとめる。

授業の到達目標
自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのか、自身のスピリチャリティに影響を及ぼした体験について考察して記述することができる。

授業計画
1.講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2.聖地巡礼に向けての計画書作成①
3.聖地巡礼に向けての計画書作成②
4.聖地巡礼に向けての計画書作成③
5.聖地巡礼に向けての計画書作成④
6.聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7.聖地巡礼経過報告①
8.聖地巡礼経過報告②
9.聖地巡礼経過報告③
10.聖地巡礼経過報告④
11.聖地巡礼経過報告⑤
12.聖地巡礼後の報告書作成①
13.聖地巡礼後の報告書作成②
14.聖地巡礼後の報告書作成③
15.総合報告会：まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
聖地について調べてまとめ、巡礼のための準備をする。(90 分）計画または巡礼後の発表、質疑応答を踏まえ、内容について各自で整理する。(90 分)

テキスト
講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等
①鎌田東二『究極日本の聖地』KADOKAWA/中経出版,2014 年　②岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書,2015 年

学生に対する評価
レポート（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
（B）聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
（A）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
（S）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートへのコメントを返却する。

その他
この科目は、３年次に履修すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、自身にとっての聖地を巡る実習教育を通じて、自身のスピリチャリティ涵養のために必要な学びを自ら立案及び実行し、自身の得た体験の意味に思索を巡らし、言語化する力を身につけさせる。

科目名	企画科目(聖地巡礼Ⅱ)／人間学実践演習(聖地巡礼Ⅱ)							学 期	後期
副 題	自身のスピリチュアリティを見つめる					授業方法	実習	担当者	森崎雅好
ナンバリング	G4-03-254	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問・巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート（2,000～3,200 字）にまとめる。

授業の到達目標
自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのか、自身のスピリチャリティに影響を及ぼした体験について考察して記述することができる。

授業計画
1．講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2．聖地巡礼に向けての計画書作成①
3．聖地巡礼に向けての計画書作成②
4．聖地巡礼に向けての計画書作成③
5．聖地巡礼に向けての計画書作成④
6．聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7．聖地巡礼経過報告①
8．聖地巡礼経過報告②
9．聖地巡礼経過報告③
10. 聖地巡礼経過報告④
11. 聖地巡礼経過報告⑤
12. 聖地巡礼後の報告書作成①
13. 聖地巡礼後の報告書作成②
14. 聖地巡礼後の報告書作成③
15. 総合報告会：まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
聖地について調べてまとめ、巡礼のための準備をする。（90 分）計画または巡礼後の発表、質疑応答を踏まえ、内容について各自で整理する。（90 分）

テキスト
講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等
①鎌田東二『究極日本の聖地』KADOKAWA/中経出版,2014 年　②岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書,2015 年

学生に対する評価
レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
（B）聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
（A）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
（S）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートへのコメントを返却する。

その他
この科目は、『聖地巡礼Ⅰ』を受講していなければ受講できない。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、自身にとっての聖地を巡る実習教育を通じて、自身のスピリチャリティ涵養のために必要な学びを自ら立案及び実行し、自身の得た体験の意味に思索を巡らし、言語化する力を身につけさせる。

科目名	サンスクリット語上級S							学 期	通年
副 題	古典サンスクリット語の文学作品を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	G2-07-255	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。 この授業は、初等文法を学習し終えた学生を対象として、サンスクリット語の文法事項をさらに一歩踏み込んで学習することにより、インド古典に対する読解力をより高めることを目的とする。

授業の到達目標
・サンスクリット語の文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。 ・サンスクリット語で記された古典文学作品を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。 ・Reader における文法事項や注記を参照することで、文献学の基礎を理解できるようになる。

授業計画
【前期】
1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 初等文法の確認（1）：文字と発音・母音の曲用・子音の曲用
3. 初等文法の確認（2）：比較法・代名詞・数詞・不変化詞
4. 初等文法の確認（3）：動詞の活用（現在組織）
5. 初等文法の確認（4）：連声法・準動詞・名称詞造語法・合成語法・韻律
6. 初等文法の確認（5）：動詞の活用（現在以外の時制の組織）
7. 読解（1）：散文の翻訳（Hitopadeśa 1）
8. 読解（2）：散文の翻訳（Hitopadeśa 2）
9. 読解（3）：散文の翻訳（Hitopadeśa 3）
10. 読解（4）：散文の翻訳（Hitopadeśa 4）
11. 読解（5）：散文の翻訳（Hitopadeśa 5）
12. 読解（6）：散文の翻訳（Hitopadeśa 6）
13. 読解（7）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 1）
14. 読解（8）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 2）
15. 読解（9）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 3）

【後期】
1. 読解（10）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 4）
2. 読解（11）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 5）
3. 読解（12）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 6）
4. 読解（13）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 7）
5. 読解（14）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 8）
6. 読解（15）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 9）
7. 読解（16）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 10）
8. 読解（17）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 11）
9. 読解（18）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 12）
10. 読解（19）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 13）
11. 読解（20）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 14）
12. 読解（21）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 15）
13. 読解（22）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 16）
14. 読解（23）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 17）
15. 読解（24）：韻文の翻訳（Ṇalopākhyāna 18）

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（150 分）。 ・事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと（30 分）。

テキスト
・Charles Rockwell Lanman. A Sanskrit Reader（何度も再版されているので、どの版でも可） ・William Dwight Whitney. Sanskrit Grammar（何度も再版されているので、どの版でも可）

参考書・参考資料等
・辻直四郎『サンスクリット文法』、岩波書店、1974 年 ・鎧淳 訳『J. ゴンダ：サンスクリット語初等文法』、春秋社、1982 年 ・吹田隆道『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015 年

学生に対する評価
発表（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な文法事項を理解できている。
（B）Reader における文法事項や注記を正確に理解できている。
（A）サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。
（S）サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ・原則的にはサンスクリット語初級の既習者が対象であるが、必要によっては適宜相談に応じる。

科目名	チベット語S							学 期	通年
副 題	チベット語の基礎				授業方法	講義	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	
ナンバリング	G2-07-256	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
チベット仏教の最高学位（ゲシェー・ハランパ）を持つチベット人僧侶から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

授業の到達目標
文字（ウチェン）と発音、あいさつ及び文字（ウメー）を修得し、チベット語の読み書き及び会話ができるようになる。

授業計画
【前期】
1．オリエンテーション
2．３０基字の１～１０の読み方と発音
3．３０基字の１１～２０の読み方と発音
4．３０基字の２１～３０の読み方と発音
5．簡単なあいさつ
6．３０の子音字母と母音の結合１～１５の読み方と発音
7．３０の子音字母と母音の結合１６～３０の読み方と発音
8．簡単な会話
9．反対字の読み方と発音
10. ར を頭とする有頭字
11. ལ を頭とする有頭字
12. ས を頭とする有頭字
13. ལ を足とする有足字
14. ར を足とする有足字
15. ས を足とする有足字

【後期】
1．ས を足とする有足字
2．前置字
3．後置字
4．再後置字
5．文章の読み方と日常会話
6．文章の読み方と日常会話（続）
7．文章の読み方と日常会話（続）
8．文章の読み方と日常会話（続）
9．文章の読み方と日常会話（続）
10. 文章の読み方と日常会話（続）
11. 文章の読み方と日常会話（続）
12. 文章の読み方と日常会話（続）
13. 文章の読み方と日常会話（続）
14. 文章の読み方と日常会話（続）
15. 文章の読み方と日常会話（続）

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180 分）

テキスト
ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

参考書・参考資料等
松本栄一・奥山直司『チベット［マンダラの国］』（小学館）※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価
授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）チベット文字（ウチェン）が一応読み書きできる。
（B）チベット語の簡単な挨拶ができる。
（A）チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
（S）チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよどみなくできる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	古文書解読S							学 期	後期
副 題	中・近世の古文書を読む				授業方法	講義	担当者	桐田貴史	
ナンバリング	G2-12-257	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
この講義では、日本史上、あるいは地域史上重要な古文書を精選し、くずし字の読解はもちろん、その内容を丁寧に読み解くとともに、古文書が発給された歴史的背景も解説する。 なお、講義計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標
①中世・近世の古文書に関する読解能力を身につける。 ②中世文書を中心に、多様な文書様式に関する基礎的な認識を得られるようになる。 ③古文書を通して、日本史上の重要な史実について説明できるようになる。

授業計画
1. 古文書序説（古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など）
2. 中世の天皇文書―「宸翰」を読む
3. 中世の公家文書　吉田家旧蔵文書を読む①
4. 中世の公家文書　吉田家旧蔵文書を読む②
5. 中世の寺院文書　西南院文書を読む
6. 中世の寺院文書　五坊寂静院文書を読む
7. 中世の武家文書Ⅱ　佐藤家文書を読む①
8. 中世の武家文書Ⅱ　佐藤家文書を読む②
9. 中世の武家文書Ⅰ　結城神社所蔵文書を読む①
10. 中世の武家文書Ⅰ　結城神社所蔵文書を読む②
11. 近世大名の歴史観　藤堂家覚書を読む①
12. 近世大名の歴史観　藤堂家覚書を読む②
13. 近世後期の文人書簡　川喜田家文書を読む①
14. 近世後期の文人書簡　川喜田家文書を読む②
15. 期末試験

準備学習（予習・復習）・時間
【予習】事前学修として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に見える専門用語や文献について調べておくこと（90 分）　【復習】講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと（90 分）

テキスト
児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993 年）※書店で購入のこと。 また、古文書の図版プリントを各授業ごとに配布する。

参考書・参考資料等
①『日本国語大辞典　第 2 版』全 13 巻・別巻 1 巻（小学館、2000～2002 年）　②相田二郎『日本の古文書』上・下（岩波書店、1949 年）　③佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997 年）

学生に対する評価
授業中の参加態度（予習および発言、50%）、期末試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基礎的なくずし字を解読できる。
（B）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
（A）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
（S）古文書の読解能力を習得するとともに、古文書の歴史研究における役割について理解、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法
講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他
①本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。②『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。(類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意)。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化特殊講義S							学 期	前期
副 題	日本文学史における説話文学Ⅰ				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-04-258	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
日本の古典文学において、中古・中世に栄えた完結性のある短い“話”を、総称して「説話」と呼ぶ。説話は特に仏教と深く関わりながら発展したが、仏教思想を背景に持っていながらも、笑い話や処世術を示す教訓譚などの世俗的な説話を多く含んだ作品もあり、現代とははるか隔たった時代を生きた人々の息づかいをリアルに感じさせる文学性を有している。本講義では、主に上代（奈良時代）・中古（平安時代）の説話文学を取り上げ、詳しく読むことで、古典への理解を深めるとともに、文学作品の読み方を学ぶ。

授業の到達目標
説話文学の特徴とその読み方・研究方法、および古典常識などを説明することができるようになる。

授業計画
1.ガイダンス／古典文学を読むとはどういうことか
2.「説話」とは何か
3.説話の歴史（上代・中古）
4.説話を読むための視点
5.『日本霊異記』を読む①
6.『日本霊異記』を読む②
7.平安時代前期の仏教説話
8.『今昔物語集』の世界
9.『今昔物語集』本朝仏法部を読む①
10.『今昔物語集』本朝仏法部を読む②
11.『今昔物語集』本朝世俗部を読む①
12.『今昔物語集』本朝世俗部を読む②
13.『今昔物語集』本朝世俗部を読む③
14.『今昔物語集』と芥川龍之介
15.レポート講評／まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み（60 分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90 分）。

テキスト
教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等
中田祝夫『日本霊異記　全訳注　上・中・下』（講談社学術文庫、1978～1980 年）　池上洵一編『今昔物語集　本朝部　上・中・下』（岩波文庫、2001 年）　その他、講義中に適宜指示する。

学生に対する評価
毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）説話文学の作品名や基本的な知識を理解している。
（B）説話文学が成立した歴史的背景について理解している。
（A）説話について、自身なりの読解を提示することができている。
（S）説話について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他
古語・古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書などを持ち込んでもかまわない。　私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文化特殊講義T							学 期	後期
副 題	日本文学史における説話文学Ⅱ				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-04-259	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
日本の古典文学において、中古・中世に栄えた完結性のある短い“話”を、総称して「説話」と呼ぶ。説話は特に仏教と深く関わりながら発展したが、仏教思想を背景に持っていながらも、笑い話や処世術を示す教訓譚などの世俗的な説話を多く含んだ作品もあり、現代とははるか隔たった時代を生きた人々の息づかいをリアルに感じさせる文学性を有している。本講義では、主に中世（鎌倉時代）の説話文学を取り上げ、詳しく読むことで、古典への理解を深めるとともに、文学作品の読み方を学ぶ。

授業の到達目標
説話文学の特徴とその読み方・研究方法、および古典常識などを説明することができるようになる。

授業計画
1.ガイダンス／古典文学研究への招待
2.「説話」とは何か
3.説話の歴史（中世）
4.説話を読むための視点
5.『発心集』を読む①
6.『発心集』を読む②
7.『発心集』を読む③
8.『宇治拾遺物語』を読む①
9.『宇治拾遺物語』を読む②
10.『宇治拾遺物語』を読む③
11.『沙石集』を読む①
12.『沙石集』を読む②
13.説話文学の比較研究①
14.説話文学の比較研究②
15.レポート講評／まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み（60 分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（90 分）。

テキスト
教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等
浅見和彦・伊東玉美『発心集　現代語訳付き』（角川ソフィア文庫、2014 年）　高橋貢・増古和子『宇治拾遺物語　全訳注』（講談社学術文庫、2018 年）　その他、講義中に適宜指示する。

学生に対する評価
毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）説話文学の作品名や基本的な知識を理解している。
（B）説話文学が成立した歴史的背景について理解している。
（A）説話について、自身なりの読解を提示することができている。
（S）説話について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他
古語・古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書などを持ち込んでもかまわない。　私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	中国文化特殊講義S							学 期	前期
副 題	中国の古典を読む					授業方法	講義	担当者	南昌宏
ナンバリング	G2-04-260	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『文選』(中国六朝時代の漢詩文集) を精読することによって、四六駢儷体の特徴など中国文学の文章軌範を理解し、作者の心情について考える。あわせて、『文選』を読解するために必要な中国古典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。同時に、『文選』を始めとする中国古典が弘法大師空海の知識の源泉であることを認識し、その文章作成の技法などについて理解を進めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を読解できる。　○漢文を自学自習するための技法を修得している。　○四六駢儷体の特徴を説明できる。　○「典故を踏む」という技法を説明できる。
○作者の心情を推し量ることができる。

授業計画

1. 木玄虚「海賦」(1)「昔在帝嬀巨唐之代……」を読む。
2. 木玄虚「海賦」(2)「天綱浡潏……」を読む。
3. 木玄虚「海賦」(3)「為凋為瘵……」を読む。
4. 木玄虚「海賦」(4)「洪濤瀾汗……」を読む。
5. 木玄虚「海賦」(5)「萬里無際……」を読む。
6. 木玄虚「海賦」(6)「長波渣滫……」を読む。
7. 木玄虚「海賦」(7)「迪涎八裔……」を読む。
8. 木玄虚「海賦」(8)「於是乎禹也……」を読む。
9. 木玄虚「海賦」(9)「乃鏟臨崖之阜陸……」を読む。
10. 木玄虚「海賦」(10)「決陂潢而相浚……」を読む。
11. 木玄虚「海賦」(11)「啓龍門之岝嶺……」を読む。
12. 木玄虚「海賦」(12)「墾陵巒而嶄鑿……」を読む。
13. 木玄虚「海賦」(13)「群山既略……」を読む。
14. 木玄虚「海賦」(14)「百川潛渫……」を読む。
15. 木玄虚「海賦」(15)「泱漭澹泞……」を読む。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと (30 分)。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと (60 分)。

テキスト

『文選』(明治書院・新釈漢文大系) のコピーを配布する。(受講生の希望があれば、テキストの変更も可)

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994 年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000 年修訂増補 近藤春雄『中国学芸大事典』大修館書店　昭和 53 年 他は授業で紹介する。

学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (50%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

(C) テキストを正確に音読できる。
(B) C 段階に加え、未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
(A) B 段階に加え、テキストの内容を理解し、説明できる。
(S) A 段階に加え、テキストから問題点・疑問点を抽出できる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内あるいはオフィスアワーで対応する。

その他

授業実数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は 2 分の 1 欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	中国文化特殊講義T							学 期	後期
副 題	中国の古典を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-08-261	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『礼記』（五経の一つ）を精読することによって、儒教思想への理解を深める。あわせて、『礼記』を読解するために必要な中国古典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。同時に、『礼記』を始めとする中国古典が弘法大師空海の知識の源泉であることを認識し、その思想などを理解することによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を読解できる。　○漢文を自学自習するための技法を修得している。　○儒教思想の特徴を説明できる。　○「典故を踏む」という技法を説明できる。　○作者の心情を推し量ることができる。

授業計画

1.「王制」(1)「王者之制禄爵……」を読む。
2.「王制」(2)「公侯伯子男凡五等……」を読む。
3.「王制」(3)「諸侯之上大夫卿……」を読む。
4.「王制」(4)「下大夫上士中士下士凡五等……」を読む。
5.「王制」(5)「天子之田方千里……」を読む。
6.「王制」(6)「公侯田方百里……」を読む。
7.「王制」(7)「伯七十里……」を読む。
8.「王制」(8)「子男五十里……」を読む。
9.「王制」(9)「不能五十里者……」を読む。
10.「王制」(10)「不合於天子……」を読む。
11.「王制」(11)「附於諸侯……」を読む。
12.「王制」(12)「曰附庸……」を読む。
13.「王制」(13)「天子之三公之田視公……」を読む。
14.「王制」(14)「侯天子之卿視伯……」を読む。
15.「王制」(15)「天子之大夫視子男……」を読む。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30 分）。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60 分）。

テキスト

『礼記』（明治書院・新釈漢文大系）のコピーを配布する。（受講生の希望があれば、テキストの変更も可）

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994 年改訂　諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000 年修訂増補　近藤春雄『中国学芸大事典』大修館書店　昭和 53 年　他は授業で紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）C 段階に加え、未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）B 段階に加え、テキストの内容を理解し、説明できる。
（S）A 段階に加え、テキストから問題点・疑問点を抽出できる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内あるいはオフィスアワーで対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	人間学専門講義(カウンセリング論B)／企画科目(カウンセリング論B)							学 期	前期
副 題	カウンセリングの実際を学ぶ					授業方法	講義	担当者	上野和久
ナンバリング	N1-10-262	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業の到達目標
カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

授業計画
1.オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2.カウンセリングの歴史的背景を知る
3.心理アセスメントについて
4.様々なカウンセリングを知る（クライエント中心療法）
5.様々なカウンセリングを知る（精神分析的心理療法）
6.様々なカウンセリングを知る（解決思考アプローチ）
7.様々なカウンセリングを知る（認知行動療法）
8.様々なカウンセリングを知る（その他）
9.子どもへのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
10.保護者へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
11.発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
12.被虐待へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
13.非行を行う人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
14.自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる（90 分）。 各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90 分）、次回に提出する。

テキスト
随時プリント配布

参考書・参考資料等
河合隼雄『カウンセリングの実際問題』、誠信書房、1970 年 國分康孝『カウンセリングの理論』、誠信書房、1980 年 國分康孝『カウンセリングの技法』誠信書房、1979 年 諸富祥彦『カウンセリングとは何か』、誠信書房、2010 年

学生に対する評価
課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）カウンセリングの技法（最低３つ以上）と基礎知識について説明できる。
（S）カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、対面授業でも遠隔授業でも積極的な参加を期待する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、学校や NPO での心理支援という実務経験を活かして、来談者中心療法、精神分析、認知行動療法、ゲシュタルト療法などのカウンセリング技法について、その原理と演習を通して、それぞれの技法における理解と実践をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	人間学専門講義（学校心理学B）／企画科目（学校心理学B）							学 期	後期
副 題	学校カウンセリングの実際からの学校心理学				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N1-10-263	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
学校カウンセリングの主要テーマに関する実践や課題を述べ、質疑や討議や発表を通して、学校心理学の意義を具体的に考察する。また、子どもの発達上の課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する問題を取りあげ、それらへの理解を深めていく。

授業の到達目標
学校心理学の意義や学校カウンセリングの方法について理解できる。また、子どもの発達課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する典型的な課題についての基本的理解を習得し、対応知識を得ることができるようになる。

授業計画
1. オリエンテーション
2. 学校カウンセリングとは
3. 学校カウンセリングと生徒指導
4. 学校カウンセリングの基礎１－カウンセリングの基本－
5. 学校カウンセリングの基礎２－カウンセリングの諸理論－
6. 学校カウンセリングの基礎３－発達障害－
7. 学校カウンセリングの基礎４－アセスメント－
8. スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー
9. 校内連携－チーム学校－
10. 保護者との関係
11. 学校カウンセリングと不登校
12. 学校カウンセリングといじめ
13. 学校カウンセリングと虐待
14. 学校カウンセリングと特別支援教育
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した内容を、予習・復習を取り組むこと（60 分以上）。各講義終了後、feedback 用紙にて①講義でのキーワードの説明をレポートし、講義内容と関係のある自分で体験できるラボラトリートレーニングから思考・感情・身体の変化などを記録し、そこからの気づきをのレポートを作成する（60 分以上）。これを、次回の授業に提出する。

テキスト
「体験型ワークで学ぶ教育相談」（小野田正利他監修　2019 年　大阪大学出版会）

参考書・参考資料等
生徒指導提要・改訂版（令和４年 12 月　文部科学省）。他は、授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価
授業での態度・意欲・発表（50%）、試験（レポートを含む）（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学校心理学の理論と学校カウンセリングのの技術の基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）学校心理学の理論と学校カウンセリングの技術の基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）学校心理学の理論と学校カウンセリングの技法（最低３つ以上）の関連性と実践について説明できる。
（S）学校心理学の理論と学校カウンセリングの技法を用いて、学校場面の基礎的な問題事象を解決できる知識をもち技法を持つ。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
授業の随所に自分で体験できるラボラトリートレーニングを実践しながら、学校心理学の知識と学校カウンセリングの技術を学んでゆく。身体的な動きなども説明しながらいれるので、対面や遠隔授業においても積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
公認心理師、臨床心理士、カウンセリング心理士（スーパーバイザー）、ガイダンスカウンセラー（スーパーバイザー）、NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ＩＳＰトレーニング、ゲシュタルトセラピー125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。なお、令和元年より和歌山県 SC・スーパーバイザー

科目名	人間学専門講義(悲嘆学)／企画科目(悲嘆学)							学 期	前期
副 題	悲嘆の心理について学ぶ					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	N2-10-264	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標
悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画
1.悲嘆の定義・理論
2.悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3.犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4.犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5.虐めと虐待①（虐め体験について）
6.虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7.難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8.難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9.ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10.ホスピス・緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11.自死遺族支援①（遺族の心理）
12.自死遺族支援②（サポートグループについて）
13.災害時支援①（災害による喪失体験）
14.災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15.講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂,2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	人間学専門講義(心理検査法演習Ⅰ)／企画科目(心理検査法演習Ⅰ)							学 期	前期
副 題	心理検査法					授業方法	講義	担当者	木下忠恭
ナンバリング	N2-10-265	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ，心理的把握の視点を身につける。この講義では、主として、質問紙法によるパーソナリティ把捉や心理的概念を把捉するために開発された心理尺度に触れ、その理論的背景、解釈方法を学ぶ。尚、この講義を受講後に、心理検査法演習Ⅱを受講することが望ましい。

授業の到達目標
心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

授業計画
1.質問紙法の基本的考え方について
2.パーソナリティ論及びその把捉について①　(類型論)
3.パーソナリティ論及びその把捉について②　(特性論)
4.MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈①　(実施方法について)
5.MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈②　(MMPI コード表をもとに解釈)
6.MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈③　(実際の解釈を行って気づいた点を検討)
7.Y-G 性格検査について
8.Big5 について
9.知能検査について (WISC・WAIS・ビネー式検査など) ①　(実施方法について)
10.知能検査について (WISC・WAIS・ビネー式検査など) ②　(解釈について)
11.領域別心理測定(対人関係・価値観について)①　＜対人関係の心理測定について＞
12.領域別心理測定(対人関係・価値観について)②　＜価値観の心理的測定について＞
13.領域別心理測定(ストレスと適応について)①　＜生理学的方法によって＞
14.領域別心理測定(ストレスと適応について)②　＜心理学的方法によって＞
15.まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料や参考文献に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし､疑問点などが解消さているか確認をしておくこと(90 分)

テキスト
特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等
願興寺礼子・吉住隆弘 (著)『心理検査の実施の初歩 (心理学基礎演習) 』ナカニシヤ出版，2011 年その他、適時紹介する。

学生に対する評価
次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題 (複数) レポート (50%)・授業中の発表・ディスカッション等の参加度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 心理検査や心理査定について基本的な事項を知っている。
(B) 心理検査や心理査定について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
(A) 心理検査や心理査定について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
(S) 心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士や公認心理師資格を有する教官が、その実務経験を活かして、エゴグラムや YG 性格検査やクレペリン作業検査や WAiS などの心理査定について、その原理、実施、分析を通して、被検査者の理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	人間学専門講義（深層心理学）／企画科目（深層心理学）							学 期	前期
副 題	心理臨床における深層心理学の知見を学ぶ					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	N2-10-266	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
日常の生活を送る上で、私たちは、自身の言動をすべて意識して行っているわけではない。例えば、普段口にしないようなことを思わず口走ってしまうことは誰もが体験していることだろう。このように自身が意識・感知していない領域（無意識の心理過程）が我々にはあると考え、研究を重ねてきた領域が深層心理学の分野である。本講義では、深層心理学の分野において多大な影響を与えている精神分析学とその諸派の基本的な概念、及び、分析心理学の概念について取り扱う。

授業の到達目標
臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

授業計画
1. 精神分析学以前の学説
2. 精神分析誕生について. 夢判断・錯誤行為
3. 無意識の発見・心的構造論
4. 神経症の症例を通じて
5. 自我心理学とライフサイクル論について
6. 自己心理学について
7. 対象関係論について①
8. 対象関係論について②
9. ラカンの精神分析理論について
10. 分析心理学誕生について
11. タイプ論
12. 夢分析
13. 元型論
14. 集合的無意識と東洋思想
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの関連するページを毎回読み、内容を理解しておくこと（90 分）、疑問点は授業で質問する。事前学習したことと授業中に学んだことを踏まえて、授業最後の作文を書く。そして事後学習として授業で学んだ内容に関して、新たに考えたこと、生活の中で気が付いたことをまとめ（90 分）、次回の授業で発言する.

テキスト
松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター, 2001 年

参考書・参考資料等
適時、紹介する。

学生に対する評価
レポートにて評価する（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）精神分析に関心がある。
（B）精神分析に関する基礎的な知識を身につけている。
（A）精神分析の知識のみならず技能も理解している。
（S）臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

課題に対するフィードバックの方法
毎回授業の最後に実施する作文に書かれた質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、無意識の過程について講義する。講師は、心理臨床での心理支援及び臨床現場で活動しているケア提供者のスーパーヴァイズ実践もおこなっている。

科目名	人間学専門講義(宗教学入門)／宗教学ＩＳ							学 期	前期
副 題	宗教学入門				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	N2-03-267	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	Ａ・Ｉ

授業の目的と概要
宗教学の歴史と基礎的な理論を学ぶことによって、現代社会のさまざまな現象を宗教の観点から理解する姿勢を身につける。テキストを一緒に読む形で授業を進める。

授業の到達目標
19 世紀後半に生まれた宗教学の代表的な理論を説明できるようになる。 現代における社会現象・文化現象を宗教の観点から解釈、分析できるようになる。

授業計画
1.ガイダンスの後、テキスト第１章「宗教学の立場と分野　1」を読む
2.テキスト第１章「宗教学の立場と分野　2」を読む
3.テキスト第１章「宗教学の立場と分野　3」を読む
4.テキスト第２章「宗教の原初形態　1」を読む
5.テキスト第２章「宗教の原初形態　2」を読む
6.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　1」を読む
7.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　2」を読む
8.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　3」を読む
9.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　4」を読む
10.テキスト第３章「科学・呪術・宗教　5」を読む
11.テキスト第４章「宗教の諸類型　1」を読む
12.テキスト第４章「宗教の諸類型　2」を読む
13.テキスト第４章「宗教の諸類型　3，4」を読む
14.テキスト第４章「宗教の諸類型　5，6」を読む
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90 分)。 事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90 分)。

テキスト
脇本平也『宗教学入門』講談社、1997 年

参考書・参考資料等
ジョージ・フレイザー『図説　金枝篇』(上)（下)、講談社、2011 年

学生に対する評価
期末レポート（70%)、授業中の発言、発表（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（Ｃ）テキストを正確に読み解くことができる。
（Ｂ）テキストを要約し、批判的に検討することができる。
（Ａ）宗教学の代表的理論を説明することができる。
（Ｓ）社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅰ)／企画科目(スピリチュアルケア演習Ⅰ)							学 期	前期
副 題	スピリチュアルケア演習					授業方法	講義	担当者	大河内大博
ナンバリング	N2-10-268	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論、並びにスピリチュアルケア理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業の到達目標
スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

授業計画
1. 講義ガイダンス：スピリチュアルケアにおけるグループワーク
2. グループワークの基礎①（対人援助概論）
3. グループワークの基礎②（傾聴手法）
4. グループワークの基礎③（スピリチュアルケア援助訓練法）
5. グループワークの基礎④（ケアの哲学的構造）
6. 生育歴セッション1－①（自己開示の訓練基礎）
7. 生育歴セッション1－②（自己開示の訓練基礎）
8. 生育歴セッション1－③（家族関係論）
9. 生育歴セッション1－④（家族関係論）
10. 生育歴セッション1－⑤（家族関係論）
11. 生育歴セッション2－①（アイデンティティの形成過程）
12. 生育歴セッション2－②（アイデンティティの形成過程）
13. 生育歴セッション2－③（死者との共生）
14. 生育歴セッション2－④（死者との共生）
15. 生育歴セッション2－⑤：まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
事前に課された課題作成に取り組み（60分)、授業内で発表する。

テキスト
窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』(関西学院大学出版会、2010年)

参考書・参考資料等
大河内大博『今、この身で生きる』(ワニブックス、2014年)

学生に対する評価
レポート（50%)、発表（25%)、授業参加の積極性（振り返りシート）(25%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）自己課題への気づきがあり、今後取り組む姿勢ができている。
（B）自己課題が明確であり、グループダイナミックスを理解できている。
（A）自己課題への取り組みが出来ており、他者のケアができている。
（S）自己課題への取り組みをグループダイナミックスを通して行い、他者のケアができている。

課題に対するフィードバックの方法
質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他
グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に秋学期の「スピリチュアルケア演習Ⅱ」と両方の受講を求める。各回、欠席のないようにすること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	人間学専門講義(心理統計学)／企画科目(心理統計学)							学 期	前期
副 題	基礎的な心理統計の理解と実践					授業方法	講義	担当者	五明優介
ナンバリング	N2-10-269	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解する。・統計学は、本を読むことや授業を聞いただけでは身につかない。課題を自分で解き、また各種のデータを使って自ら演習を行うといった主体的な学習による知識の取得を目指す。 ・講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。・統計に基づいた論文を読み、内容を理解できる知識を修得する。 ・心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。

授業の到達目標
・統計の基本用語について理解できる。・心理統計を用いた学術論文を理解できるようになる。 ・基本的な心理統計の具体的な算出方法を理解し、実際に答えを導き出すことができる。・計算結果から、統計的な解釈を行い、自身の考えを述べることができる。

授業計画
1．授業の目的と方針：①なぜ心理学研究に統計が必要か
2．授業の目的と方針：②日常生活の中でのデータにもとづく判断
3．さまざまな心理学データ：①変数のタイプ（質的・量的）分類
4．さまざまな心理学データ：②量的変数と質的変数の集計。度数分布・代表値・散布度等
5．２つの質的変数の分析：①クロス表を用いた場合
6．２つの質的変数の分析：②関連と独立性の判断
7．量的変数の分析：①記述統計指標。度数分布・平均・散布度
8．量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布(1)
9．量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布(2)
10. 量的変数の条件間比較：①条件間比較のポイント・散布度の重要性・データ数の重要性
11. 量的変数の条件間比較：②１要因分散分析・③平均による比較が適切でない場合
12. 量的変数の条件間比較：④対応のあるデータの性質と分析方法
13. ２つの量的変質数間の分析：①相関図の作成方法
14. ２つの量的変質数間の分析：②相関係数の算出方法
15. ２つの量的変質数間の分析：③相関の解釈の問題点・相関関係と因果関係

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ（45 分）、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす（45 分）。 ・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い（45 分）、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する（45 分）。

テキスト
・向後千春　冨永敦子　『統計学がわかる―ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』　技術評論社　2007 年・向後千春　冨永敦子　『統計学がわかる―アイスクリームで味わう”関係”の統計学』　技術評論社　2008 年

参考書・参考資料等
・下山晴彦ほか　『心理学研究法入門』　東京大学出版会, 2004 年・他は授業中で紹介する

学生に対する評価
単元ごとの定期テストの合計点により評価する（60%）・レポート（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）統計の基本用語を覚えている。
（B）統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
（S）統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
・電卓やパソコンを取り入れた科目である。・心理測定法も併せて履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ・統計ソフトによっては起動しないことがある。パソコンは OS が Windows で、Microsoft 社の Excel がインストールされているものを準備することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助していた教員（臨床心理士・公認心理師）の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみを持てることを目指す。・身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅰ)／企画科目(臨床心理学面接演習Ⅰ)							学 期	前期
副 題	心理学面接演習					授業方法	演習	担当者	山添　正
ナンバリング	N2-10-270	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
まず面接のプロセスが、来談者と面接者との出会いから始まり、治療的関係が形成され、面接作業がどのように進むかについての理論学習と平行して、各ステップごとに教科書と関連する DVD を視聴して、具体的にどのように面接が進められているか実践的に理解する。その後、受講生同士で面接（ピア面接）を行い、記録に残してスーパービジョンを受け、実践的に面接技術の学習をする。

授業の到達目標
テキストは面接過程を 13 段階にわけており、段階ごとの基本的概念とテクニックを学ぶ。

授業計画
1.面接のはじめ
2.治療的関係
3.治療目標の確立
4.多様性の理解と対応
5.抵抗の理解と対処
6.面接における認知的焦点化
7.面接における感情的焦点化
8.面接における行動的焦点化
9.面接における発達的焦点化
10.統合的視点
11.転移
12.逆転移
13.過去が現在に与える影響の理解
14.決断と行動変化への作業
15.評価と終結

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分） 事後学習として、授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
ジェラルド・コーレイ『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践』金子書房,2011 年

参考書・参考資料等
『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践 DVD 版』金子書房

学生に対する評価
レポート（30%）・発表（30%）・授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）基本的概念の理解はできている。
（B）概念だけでなく技能の理解も出来ている。
（A）概念、技能、ロールプレイのパーフォーマンスが優れている。
（S）臨床現場でここでの学びを応用実践できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
トロント大学大学院留学で、カウンセリング過程の各ステップごとの教材の内容を研究し、その教材を利用しながら、臨床心理士としての実務経験をもとに、具体的に、また実践的に面接の過程の基礎概念を指導し、また日本の事例を紹介しながら、文化差の問題に触れながら説明し、学生のケースにかかわることのできる能力を身につけさせる。

科目名	人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅲ)／企画科目(臨床心理学面接演習Ⅲ)							学 期	前期
副 題	マインドフルネス					授業方法	講義	担当者	山本和美
ナンバリング	N2-10-271	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・学生が自らの心身に向き合うことでマインドフルネスとは何かを体験的に理解する。 ・学生の日常生活においても実践的に身に着けてゆくことを通して、自己理解を深める。 ・学生が心理的ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆく。 ・授業は、講義と演習を織り交ぜて進めてゆく。

授業の到達目標
・学生が自らの心身に向き合うことでマインドフルネスとは何かを体験的に理解できるようになる。 ・学生の日常生活においても実践的に身に着けてゆくことを通して、自己理解を深めることができる。 ・学生がマインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆくことができる。

授業計画
1. 臨床心理学におけるマインドフルネスの位置づけ
2. 今という瞬間を意識的に生きる
3. マインドフルネス瞑想：基本的な心構え
4. 呼吸・身体を感じとる
5. 心と身体を結びつける
6. ものごとにとらえ方：思考パターン
7. 日常生活における快・不快体験
8. 心と身体の関係：ストレス反応
9. 心と身体の関係：ストレス対応
10. 対人ストレス：コミュニケーション
11. 治療的関係
12. 共感・コンパッション
13. マインドフルネスの科学的知見
14. 日常生活でのマインドフルネスの実践
15. 全体の振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として前回の講義と実習内容について復習しておく　(30 分)　・実習内容を振り返り、実習を継続し、自身の体験を記録する　(120 分)

テキスト
その都度プリントを配布する。

参考書・参考資料等
井上ウィマラ著『呼吸による気づきの教え』佼成出版社、2005 年 井上ウィマラ他『仏教心理学キーワード事典』春秋社、2012 年 春木豊訳『マインドフルネスストレス低減法』北大路書房、2007 年

学生に対する評価
レポート（70%）・授業参加の姿勢（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）マインドフルネスの基本的な考え方を理解する。
（B）マインドフルネスを通じて、自己の感覚と向き合うことができる。
（A）マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づく。
（S）マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨む心構えを身につける。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
・アクティブ・ラーニング（グループワーク、実習）を取り入れた科目である。 ・身体を活用したワークが含まれるため、学生は動きやすい服装を着用すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士として心身医学領域での実務経験をもつ教員により、集団・個人を対象としたカウンセリングの基本およびマインドフルネスの実務経験を生かして体験的に学修する授業を行い、学生自身が自己をより良く理解することを通じて、対人援助の場面での適切な対応につなげる能力を身に付けさせる。

科目名	人間学専門講義(コミュニケーション心理学)／企画科目(コミュニケーション心理学)							学 期	後期
副 題	人と人とのつながりを科学する					授業方法	講義	担当者	東真由美
ナンバリング	N2-10-272	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
人と人との出会いや印象形成、友人関係や組織での円滑な人間関係構築など、身近なコミュニケーション場面に活用できる理論や技法について身につける。社会心理学や臨床心理学の観点からコミュニケーションについて理解を進め、産業・組織心理学の観点も加えながら、日常場面への応用を目指す。 この授業は、オンデマンド型の遠隔授業を受講し、毎回所定の課題を期限内に提出する形で実施予定である。授業ではテキストを使用し、講義形式で行うが、理解を深め、コミュニケーション力を身につけるために様々なワークを実施する。

授業の到達目標
①人間関係の基礎となるコミュニケーションの基礎理論を理解し、他者に説明できる。②コミュニケーションには様々な方法があり、場に応じて使い分けることにより円滑な関係が構築されることを理解する。③周囲と良好な人間関係を保つコミュニケーション力を身につけて、適切な自己表現ができる。

授業計画
1. 人と人との出会い１：オリエンテーション、第一印象、印象形成
2. 人と人との出会い２：対人認知、対人魅力
3. 非言語的コミュニケーション：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
4. 効果的なコミュニケーションをめざして１：積極的傾聴法
5. 効果的なコミュニケーションをめざして２：アサーショントレーニング
6. われわれは他者からどのように影響を受けるか１：説得的コミュニケーション
7. われわれは他者からどのように影響を受けるか２：マス・コミュニケーション
8. われわれは他者からどのように影響を受けるか３：コンピュータ・コミュニケーション
9. 組織・集団のコミュニケーション：集団の性質、リーダーシップ理論
10. ストレスと人間関係：メンタルヘルス、職場適応、組織における葛藤、ストレスマネジメント
11. 対人関係の諸問題：攻撃行動、フラストレーション、匿名性など人が攻撃的になる要因
12. より良い人間関係を保つために１：自分を知る～交流分析のエゴグラムの体験から
13. より良い人間関係を保つために２：自分を肯定的にとらえる～リフレーミングを用いて
14. より良い人間関係を保つために３：他者に関心をもち肯定的にみる
15. 対人コミュニケーションに関する心理学についてのまとめ

準備学習（予習・復習）・時間
各回の授業前に事前学習として、テキストの当該ページを読み専門用語の意味を理解しておくこと (90 分)、授業後に事後学習として、宿題レポートに取り組み、提出すること (90 分)。

テキスト
藤本忠明・東正訓『ワークショップ人間関係の心理学』ナカニシヤ出版 2004 年（書店で購入）

参考書・参考資料等
藤本忠明・東正訓『ワークショップ大学生活の心理学』ナカニシヤ出版 2009 年　他、テキストの各章末のブックガイドを参照。

学生に対する評価
授業ごとに毎回行うレポート（評価の 84%）に加えて、最終回終了後、最終レポート（評価の 16%）を課す。レポートの質および課題への積極的な取り組み姿勢（レポートの文章量等）を評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業への積極的参与といくつかの間違いはあるものの最低限の説明ができているレポートの提出
（B）授業への積極的参与と大きな間違いがないレポートの提出
（A）授業への積極的参与と優れたレポートの提出
（S）授業への積極的参与と特に優れたレポートの提出

課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業でレポート課題を行うが、理解不十分な内容については、後日に再度説明するなどのフィードバックを行う。

その他
オンデマンド型の遠隔授業を視聴し、毎回所定の課題を期限内に提出していただく形で実施予定である。講義形式で行うが、コミュニケーション力を身につけるために種々の気づきを得るための心理テストやワークも取り入れるので、受講生の能動的な学びが必要である。レポートの提出回数が比較的多い授業なので、先延ばしにせず、授業を受けたらすぐ課題に取り組み、すぐ提出（締切厳守）すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師として実務経験を持つ担当教員の臨床心理業務経験をもとに、実務家教員として講義を行い、将来、対人支援にかかわる業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

科目名	人間学専門講義（自殺学）／企画科目（自殺学）							学 期	後期
副 題	自殺についての知見を深める					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	N2-10-273	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業の到達目標
自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

授業計画
1. 日本における自殺の現状
2. 世界における自殺の現状
3. 自殺についての理論①精神分析的視点
4. 自殺についての理論②認知論的視点
5. 自殺についての理論③対人関係論的視点
6. 自殺と精神障害
7. 自殺と自傷
8. 自殺対策①：危機介入
9. 自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）自殺に関する基本的な知識を身につけている。
（B）自殺を志向する心理について理解している。
（A）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
（S）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	人間学専門講義(心理検査法演習Ⅱ)／企画科目(心理検査法演習Ⅱ)							学 期	後期
副 題	心理検査を理解する					授業方法	講義	担当者	木下忠恭
ナンバリング	N2-10-274	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ，心理的把握の視点を身につける。この講義では、投影法によるパーソナリティや心的状態を把捉するための理論や方法を学び、人間理解の一助となる視点を身に付ける。尚、この講義を受講する前に、臨床心理学検査法演習Ⅰを受講していることが望ましい。

授業の到達目標
投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

授業計画
1.投影法検査の考え方について
2.ロール・シャッハテストについて①　＜スコアリングについての学習＞
3.ロール・シャッハテストについて②　＜検査者となり検査の実施＞
4.ロール・シャッハテストについて③　＜被験者となり検査を体験＞
5.ロール・シャッハテストについて④　＜解釈について教科書をもとに復習＞
6.P-F スタディについて①　＜実施方法について＞
7.P-F スタディについて②　＜解釈について＞
8.風景構成法について①　＜実施方法について＞
9.風景構成法について②　＜解釈について＞
10.描画法について（HTP・バウム・スクイッグルなど）①　＜実施方法について＞
11.描画法について（HTP・バウム・スクイッグルなど）②　＜解釈について＞
12.箱庭療法の体験、及び、解釈について①　　＜実施方法について＞
13.箱庭療法の体験、及び、解釈について②　　＜解釈について＞
14.箱庭療法の体験、及び、解釈について③　　＜箱庭療法の応用編　他の心理療法との併用＞
15.まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料や参考文献に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし､疑問点などが解消さているか確認をしておくこと(90 分)

テキスト
特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等
願興寺礼子・吉住隆弘（著)『心理検査の実施の初歩 （心理学基礎演習）』ナカニシヤ出版，2011 年その他、適時紹介する。

学生に対する評価
次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題（複数）レポート（50%)・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）投影法や描画法について、基本的な事項を知っている。
（B）投影法や描画法について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
（A）投影法や描画法について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
（S）投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士や公認心理師資格を有する教官が、その実務経験を活かして、箱庭や樹木画や風景構成法や S-HTP などの心理査定について、その原理、実施、分析を通して、被検査者の理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	人間学専門講義（福祉心理学）／企画科目（福祉心理学）							学 期	後期
副 題	福祉領域における問題について知見を広める					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	N2-10-275	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
社会福祉の理念と制度とその歴史的変遷について学ぶ。その上で、児童、家庭、高齢者、障害者福祉分野での心理支援活動における必須知識と課題並びにその実際について学ぶ。

授業の到達目標
社会の中での福祉の理念と制度を理解し、かつ、社会の人々の福祉に資するための心理学的知識と態度を身に付ける。

授業計画
1.社会福祉の歴史と動向
2.社会福祉の理念
3.社会福祉の制度・法律
4.社会福祉の職種とその連携
5.福祉現場における活動の基本と倫理
6.福祉における心理アセスメントと心理学的支援
7.児童福祉分野の活動①　児童虐待
8.児童福祉分野の活動②　子どもへの支援・社会的養護
9.家庭福祉分野の活動①　家庭支援と貧困
10.家庭福祉分野の活動②　DV
11.高齢者福祉分野の活動①　認知症の理解・高齢者の支援
12.高齢者福祉分野の活動②　高齢者虐待
13.障害者福祉分野の活動①　障害福祉サービス
14.障害者福祉分野の活動②　障害者虐待
15.まとめ：尊厳について

準備学習（予習・復習）・時間
各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる（90 分）。 各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90 分）、次回に提出する。

テキスト
随時プリント配布

参考書・参考資料等
中島 健一（著, 編集）, 野島 一彦（監修）, 繁桝 算男（監修）『福祉心理学（公認心理師の基礎と実践）』第 17 巻,遠見書房,2018 年

学生に対する評価
課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）社会福祉における心理学の基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）社会福祉における心理学の基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）社会福祉における心理支援における心理学的知識と態度について説明ができる。
（S）社会の人々の福祉に資するための心理学的知識と態度を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士、公認心理師資格を有する教官が、心理支援職という実務経験を活かし、実例を提示しながら、福祉支援のあり方について講義をする。

科目名	人間学専門講義（世俗主義と宗教）／宗教学ⅡＳ							学 期	後期
副 題	宗教と公共性・差別					授業方法	講義	担当者	小田龍哉
ナンバリング	N2-03-276	実務経験の有無	無	関連DP	1,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
近代国民国家が宗教とどのような関係を持ち、どのように公共性を創出してきたか、そして同時に、どのように人びとを排除してきたのか。理論的考察やさまざまな事例の紹介を通じて習得する。

授業の到達目標
世俗主義の基本的理解を得るとともに、比較宗教の観点から宗教と差別の多様な事例について知識を深める。テキストを一緒に読む形で授業を進める。

授業計画
1.ガイダンスの後、テキストの概略を紹介する
2.テキスト序章「「聖なるもの」と「統治」の系譜」を読む
3.テキスト第1章「近代主権国家における排除と差別の論理」を読む
4.テキスト第2章「神・天皇・非人」を読む
5.テキスト第3章「情動的存在と「モノ」の政治」を読む
6.テキスト第4章「被差別／差別の主張とカースト制度」を読む
7.テキスト第5章「ディアスポラと国民国家」を読む
8.テキスト第6章「仏蘭西の世俗主義と「イスラムのヴェール問題」」を読む
9.テキスト第7章「〈ラルシュ〉共同体運動の「リアライゼーション」」を読む
10.テキスト第8章「近代日本における生-権力と包摂／排除のポリティクス」を読む
11.テキスト第9章「主権と「天皇の赤子」」を読む
12.テキスト第10章「「狐持ち」と結婚忌避」を読む
13.テキスト第11章「低線量被ばく問題と現代社会」を読む
14.テキスト終章「「差別」を超えて」を読む
15.まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90分）。 事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90分）。

テキスト
上村静他編『差別の構造と国民国家――宗教と公共性』（法蔵館、2021年）

参考書・参考資料等
佐々田悠他編『差別と宗教の日本史――救済の〈可能性〉を問う』（法蔵館、2022年）

学生に対する評価
期末レポート（70%）、授業中の発言、発表（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）聖俗論の変遷を説明できる。
（A）国民国家と宗教の関係を具体的な事例から説明できる。
（S）主権と統治性の観点から社会・文化現象を読み解くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅱ)／企画科目(スピリチュアルケア演習Ⅱ)							学 期	後期
副 題	スピリチュアルケア演習Ⅱ					授業方法	講義	担当者	大河内大博
ナンバリング	N2-10-277	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論、並びにスピリチュアルケア理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業の到達目標
スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

授業計画
1. スピーチセッション 1－①（患者とのラポール形成）
2. スピーチセッション 1－②（患者とのラポール形成）
3. スピーチセッション 1－③（対人援助パターンの分析）
4. スピーチセッション 1－④（対人援助パターンの分析）
5. スピーチセッション 1－⑤（フィードバックの訓練）
6. スピーチセッション 2－①（自己課題の開示）
7. スピーチセッション 2－②（自己課題の開示）
8. スピーチセッション 2－③（他職種連携）
9. スピーチセッション 2－④（他職種連携）
10. スピリチュアルケア理論 1（窪寺理論）
11. スピリチュアルケア理論 2（大下理論）
12. スピリチュアルケア理論 3（村田理論）
13. スピリチュアルケア理論 4（谷山理論）
14. スピリチュアルケア理論 5（伊藤・小西・中井理論）
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前に課された課題作成に取り組み（60 分）、授業内で発表する。

テキスト
窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第 3 集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010 年）

参考書・参考資料等
大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014 年）

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（振り返りシート）（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）15 分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま辿らず自分の言葉で編集する。
（B）15 分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
（A）15 分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
（S）非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法
質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他
グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に春学期の「スピリチュアルケア演習Ⅰ」の受講者を対象とする。各回、欠席のないようにすること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	人間学専門講義(心理測定法)／企画科目(心理測定法)							学 期	後期
副 題	発展的な心理統計の理解と実践					授業方法	講義	担当者	五明優介
ナンバリング	N2-10-278	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解する。・講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。 ・統計に基づいた論文を読み、内容を理解できる知識を修得する。・心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。 ・授業内で機器（表計算ソフト Excel や統計解析ソフト HAD などを使用）を用いて機器による計算についての知識を修得する。授業時間外課題としてコンピューターを用いた分析実習とを行う。

授業の到達目標
・統計の基本用語について理解でき、説明できる。・様々な統計手法の特徴を理解して、適切な方法で計算を行うことができる。 ・統計ソフトの操作を習得して、統計処理を素早く行うことができるようになる。・統計結果の記載方法を理解して、学術論文などの内容を理解できるようになる。

授業計画
1．データ縮約記述
2．推測統計
3．独立変数と従属変数
4．質的変数と量的変数
5．被験者内要因と被験者間要因
6．t 検定と分散分析
7．1 要因の分散分析
8．2 要因分析主効果と交互作用・被験者内要因を含む分散分析
9．ノンパラメトリック法
10. 相関
11. 回帰分析①
12. 回帰分析②
13. 連関
14. x 2 検定①
15. x 2 検定②

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ（45 分)、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす（45 分）。 ・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い（45 分)、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する（45 分）。

テキスト
・小宮 あすか、布井 雅人 『Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける』 講談社 2018 年

参考書・参考資料等
・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会, 2004 年・他は授業中で紹介する

学生に対する評価
単元ごとの定期テストの合計点により評価する（60%)、レポート（40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）統計の基本用語を覚えている。
（B）統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
（S）統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
・本講義は前期の「心理統計学」の内容を発展していく科目になる。そのため、「心理統計学」を受講してからの履修が好ましい。 ・実際に統計ソフトで計算を行う科目であるため、初歩的な Excel 操作などのパソコン操作が必須となる。 ・統計ソフトが起動しない場合があるため、パソコンは OS が Windows で、Microsoft 社の Excel がインストールされているものを準備するのが望ましい。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助していた教員（臨床心理士・公認心理師）の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみを持てることを目指す。・身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅰ)／企画科目(心理学基礎実験演習Ⅰ)							学 期	前期
副 題	基礎的な心理実験の実施と報告					授業方法	演習	担当者	五明優介
ナンバリング	N2-10-279	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解する。・実験や調査のレポートを書き、他者に伝える能力を修得する。・被験者に配慮すべきこと考察して、倫理に則った実験や調査の重要性を知る。 ・実習では実験者と被検者双方を体験することによって、実験、調査のポイントをつかむ。・調査や実験に影響してくるさまざまな物事に対して考察を行い、どのような場所や人などに調査を行うか把握して、適切に実施する能力を身につける。

授業の到達目標
①心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解し、説明できる。②基本的な実験、調査方法の手順を理解して、適切に実施することができる。③実験結果を統計的に処理して、規定に則った様式でレポートにまとめることができる。④被験者に配慮することの意味を理解し、実施できる。

授業計画
1.ガイダンス（心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導）
2.感覚・知覚領域①錯視
3.感覚・知覚領域①錯視
4.感覚・知覚領域②大きさの恒常性
5.感覚・知覚領域②大きさの恒常性
6.記憶領域③短期記憶測定
7.記憶領域③短期記憶測定
8.記憶領域④単語の再生と再認
9.記憶領域④単語の再生と再認
10.学習領域⑤両側性転移
11.学習領域⑤両側性転移
12.認知領域⑥ストループ効果
13.認知領域⑥ストループ効果
14.レポート課題発表会（各自で各課題を１つ選択し結果と考察を発表する）
15.まとめ（総括と発表への補足説明）

準備学習（予習・復習）・時間
・実習で使う機材や道具の作成や準備を行う（45 分)。前回の実習を振り返り、課題や改良すべき点を確認する（45 分） ・授業後に毎回宿題を課すので次回に小レポートとして提出すること（45 分） 、また指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと（45 分） 。

テキスト
・心理学実験指導研究会編 『実験とテスト.心理学の基礎ー実習編ー』 培風館,1985 年・鎌原雅彦他 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房 ,1998 年・フィンドレイ 『心理学実験研究レポートの書き方』 北大路書房,1996 年

参考書・参考資料等
・日本心理学会認定心理士資格認定委員会 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房,2015 年。 ・他は核実験テーマごとに授業中で紹介する。

学生に対する評価
・課題毎に提出するレポートによる評価（60%)・課題発表(40%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）心理学的実験の用語を覚えており、正しく説明できる。
（B）心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。
（A）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。
（S）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見には、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
実験の授業は一旦始まると事件演習の授業の性質上融通を利かせられないため、無断での遅刻、欠席は厳禁である。本講義は基礎的な心理学の知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくことが望ましい。グループワークを行う講義である。次回欠席が明らかである場合は、事前にグループメンバーおよび講義担当者に申告しておくこと。 ・パソコンを使用しソフトを使う場合に起動しないことがある。パソコンはOS が Windows のものを準備することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
大学病院で研究コーディネートを行っていた教員（臨床心理士・公認心理師）による心理実験の実施手順など実務経験に基づいた指導を行う。具体的には、学生がグループになり実習を行いながら、認知や生理の観点における心理的な理解を目指す。また、実験を統計的に処理し、考察を行い、先行研究と比較しつつ自身の考えをまとめられる能力育成を目指す。知識の習得だけでなく、実験で取り扱った内容が日常生活でどのように活用されている具体的な例を提示して、実験内容の活用を考える力をつける。

科目名	人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅱ)／企画科目(心理学基礎実験演習Ⅱ)							学 期	後期
副 題	発展的な心理実験の実施と報告					授業方法	演習	担当者	五明優介
ナンバリング	N2-10-280	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解する。・実験や調査のレポートを書き、他者に伝える能力を修得する。・被験者に配慮すべきこと考察して、倫理に則った実験や調査の重要性を知る。 ・実習では実験者と被検者双方を体験することによって、実験、調査のポイントをつかむ。・調査や実験に影響してくるさまざまな物事に対して考察を行い、どのような場所や人などに調査を行うか把握して、適切に実施する能力を身につける。

授業の到達目標
①心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解し、説明できる。②基本的な実験、調査方法の手順を理解して、適切に実施することができる。③実験結果を統計的に処理して、規定に則った様式でレポートにまとめることができる。被験者に配慮することの意味を理解し、実施できる。④自身の調べたい課題について、実験・調査を計画して、倫理に配慮して適切な手順で実施できる。

授業計画
1.ガイダンス（心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導）
2.社会領域⑦パーソナルスペース測定
3.社会領域⑦パーソナルスペース測定
4.社会領域⑧囚人のジレンマ（ゲーム行動）
5.社会領域⑧囚人のジレンマ（ゲーム行動）
6.産業領域⑨SD 法
7.産業領域⑨SD 法
8.産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
9.産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
10.人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
11.人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
12.臨床領域⑫インタビュー面接法（KJ 法）
13.臨床領域⑫インタビュー面接法（KJ 法）
14.レポート課題発表会（各自で各課題を１つ選択し結果と考察を発表する）
15.まとめと総括（実験の補足説明）

準備学習(予習・復習)・時間
・実習で使う機材や道具の作成や準備を行う（45 分)。前回の実習を振り返り、課題や改良すべき点を確認する（45 分） ・授業後に毎回宿題を課すので次回に小レポートとして提出すること（45 分） 、また指定された論文を読み問題点を明らかにした上で授業に臨むこと（45 分） 。

テキスト
・心理学実験指導研究会編 『実験とテスト.心理学の基礎ー実習編ー』 培風館,1985 年・鎌原雅彦他 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房 ,1998 年・フィンドレイ 『心理学実験研究レポートの書き方』 北大路書房,1996 年

参考書・参考資料等
・日本心理学会認定心理士資格認定委員会 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房,2015 年。 ・他は各実験テーマごとに授業中で紹介する

学生に対する評価
・課題毎に提出するレポートによる評価（60%）・課題発表(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）心理学的実験の用語を覚えており、正しく説明できる。
（B）心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。
（A）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。
（S）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見には、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
・実験の授業は一旦始まると実験授業の性質上融通を利かせられないため、無断での遅刻、欠席は厳禁である。次回欠席が明らかである場合は、事前にグループメンバーおよび講義担当者に申告しておくこと。 ・レポートの書き方指導など基本的な実験に関する授業は前期の心理学基礎実験演習Ⅰに行うので、心理学基礎実験演習Ⅰを受講していることが望ましい。 ・パソコンを使用しソフトを使う場合に起動しないことがある。パソコンはOS がWindows のものを準備することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
大学病院で研究コーディネートを行っていた教員（臨床心理士・公認心理師）による心理実験の実施手順など実務経験に基づいた指導を行う。具体的には、学生がグループになり実習を行いながら、認知や生理の観点における心理的な理解を目指す。また、実験を統計的に処理し、考察を行い、先行研究と比較しつつ自身の考えをまとめられる能力育成を目指す。知識の習得だけでなく、実験で取り扱った内容が日常生活でどのように活用されている具体的な例を提示して、実験内容の活用を考える力をつける。

科目名	人間学専門講義(社会心理学)／企画科目(社会心理学)							学 期	後期
副 題	対人心理学					授業方法	講義	担当者	松下歩睦
ナンバリング	N2-10-281	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
自己と他者・集団・社会の社会心理学の基礎的テーマを講義し、様々な社会心理現象をより細かく知ることで理解を深める。自己と他者の分野では、社会における個人の自己のありかたや他者に対する認知や感情が研究されている。また、集団・社会の分野では、より応用的な研究が行われている。たとえば、対人関係を円滑にするための社会的スキル・説得的コミュニケーションなどがあげられる。この授業では、講義をはじめ、映画を通してワールドカフェ法などを行いながら、それらの研究を支える様々な理論的枠組みについて話し合いながら学んでいくことで理解を深める。

授業の到達目標
・社会心理学の基本用語について自分の言葉で説明が出来るようになる ・更に動画学習(映画鑑賞)を通してより現実的に理解し、意見交換をしながらより多くの意見を取り入れる ・社会心理学の理論がどのように活用されているのかを理解し、現実社会でも利用できるように習得する

授業計画
1.社会心理学概論
2.社会的認知の基礎：脳と認知
3.対人認知：第一印象形成
4.対人感情
5.自己概念
6.自己開示
7.向社会的行動
8.反社会的行動
9.対人コミュニケーション（言語的）
10.対人コミュニケーション（非言語的）
11.説得的コミュニケーション
12.集団の中の人間　リーダー
13.集団の中の人間　葛藤
14.ネットワーク
15.まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
・【予習】　事前学修として、講義内容と講義で配布される資料の要点を整理しておく(45 分) ・【復習】事後学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味をより深く理解する(45 分) ・【発表】　課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表後内容について各自で整理する(45 分)

テキスト
山岸俊男（編集)『社会心理学キーワード』有斐閣, 2001 年

参考書・参考資料等
堀洋道（監修)『新編社会心理学[改訂版]』福村出版, 2009 年

学生に対する評価
授業参加の積極性と小レポート（70%）・各テーマ発表（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）社会心理学の基本用語を覚えている。
（B）社会心理学の基本用語について、参考書やノートの言語を用いて、説明できる。
（A）社会心理学の基本用語について、参考書やノートを見て、自分の言葉で説明できる。
（S）社会心理学の基本用語について、自分の言葉で説明が出来、深く理解できている。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う ・レポート発表のフィードバック方法は授業の中で指示する

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士としての臨床経験から、社会心理学理論に基づく実際について具体的に知識を提供している。特に、スクールカウンセラーとして、教育現場や相談機関での実務経験を生かし、集団や社会について体験的に学習可能な教材を選択し、机上の勉強だけにとどまらずより現実的に理解しやすい形で学習することで、具体的に実生活に活かすことが出来る能力を身につけさせる。

科目名	人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅱ)／企画科目(臨床心理学面接演習Ⅱ)							学 期	後期
副 題	カウンセリング実習					授業方法	演習	担当者	山添　正
ナンバリング	N2-10-282	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
ボランティアまたは実習で係わった人との事例報告書作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかを 12 のアプローチ方法を比較しながら、それを自分の発表ケースに当てはめながら、他の受講生の感想も参考にしながら、スーパービジョンを通して学ぶ。

授業の到達目標
事例に対して、12 のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパービジョンを通して学び、自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解ができるようになる。

授業計画
1.スーパービジョンについてのガイダンス
2.精神分析的視点からのケース・アプローチ
3.アドラー派の視点からのケース・アプローチ
4.実存分析的視点からのケース・アプローチ
5.来談者中心療法の視点からのケース・アプローチ
6.ゲシュタルト療法的視点からのケース・アプローチ
7.行動療法的視点からのケース・アプローチ
8.認知行動療法的視点からのケース・アプローチ
9.現実療法的視点からのケース・アプローチ
10.フェミニスト療法的視点からのケース・アプローチ
11.ポストモダン的視点からのケース・アプローチ
12.家族療法的視点からのケース・アプローチ
13.統合的視点からのルースへのケース・アプローチ
14.受講者自身の面接スタイルの探求
15.日本人との面接の留意点

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと (90 分)

テキスト
松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター,2001 年

参考書・参考資料等
Gerald Corey (2012)　『 Case approach to Counseling and Psychotherapy　8 edition』

学生に対する評価
レポート (30%)・発表 (30%)・授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）臨床場面でかかわったケースの記録をまとめている。
（B）ケース・アプローチ方法の基礎知識を理解している。
（A）ケース・アプローチ方法の知識のみならず、技能も理解している。
（S）自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解が出来ている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
トロント大学大学院留学で、統合的カウンセリングの方法を学び、そこでの教材を活用しつつ、臨床心理士としての実務経験をもとに、学生が自分の事例報告書を作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかスーパービジョンを通して、それぞれの理論と事例を理解できる能力を身につけさせる。

科目名	人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅳ)／企画科目(臨床心理学面接演習Ⅳ)							学 期	後期
副 題	自と他のスピリチュアリティに気付く					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	N2-10-283	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
人生のあらゆる場面での臨床場面を想定し、どのようなクライアントと面接しているときでも、その人の存在を全人的に理解し関わることができるようにするために、臨床心理学的視点とスピリチュアリティの涵養を含めて理解とトレーニングを積み重ねてゆく。授業は講義と演習を交えながら進めてゆく。

授業の到達目標
生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につける。

授業計画
1. 人生と発達
2. 世代間伝達
3. 発達促進的環境
4. 疾病利得
5. 終末期を生きること
6. 認知症を生きること・家族の支援
7. 悲しむ力と育む力
8. トラウマケア、グリーフケア、スピリチュアルケア
9. スーパービジョンとスピリチュアリティ
10. コンステレーション
11. 全人的医療と全人的ケア
12. 幸せの心理学
13. 感情労働と燃えつき防止
14. 苦しみと解放
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、 事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
窪寺俊之『死とスピリチュアルケア論考』関西学院大学出版会,2019 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）生老病死の苦しみについて理解する。
（B）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解する。
（A）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度について考えることができる。
（S）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につけ、自身のケア観について他者に述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、講義及びグループ演習を通じて、生老病死の苦しみに伴う痛みを理解し実践するための姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	人間学演習ＩC(臨床心理学演習)							学 期	通年
副 題	心の世界を言語化する				授業方法	演習	担当者	上野和久	
ナンバリング	N3-25-284	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要
3 回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関する文献の収集・要約及び研究計画書を作成し、発表をする。1. 自身が興味・関心をいだいた心理学領域に関する文献を収集する。 2. 文献の要約を行い、受講生が順番に発表を行う。3. テーマに関する議論を行い、問題点・課題点を明らかにする。4. 新たに見出された問題点・課題点について文献を収集しまとめる。5. 以上の手順で、自身が焦点をあてる研究課題を明らかにする。(この講義は 4 年生次の卒業論文作成のための準備段階として位置付けられる)

授業の到達目標
自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画
【前期】
1.講義ガイダンス：研究とは何か。
2.興味関心と研究①
3.興味関心と研究②
4.興味関心と研究②
5.興味関心と研究④
6.興味関心と研究⑤
7.テーマ設定①
8.テーマ設定②
9.テーマ設定③
10.テーマ設定④
11.テーマ設定⑤
12.テーマに関する文献収集①
13.テーマに関する文献収集②
14.テーマに関する文献収集③
15.まとめ：研究テーマ発表

【後期】
1.テーマに関する課題の探索①
2.テーマに関する課題の探索②
3.テーマに関する課題の探索③
4.テーマに関する課題の探索④
5.テーマに関する課題の探索⑤
6.目的に関する文献収集①
7.目的に関する文献収集②
8.目的に関する文献収集③
9.目的に関する文献収集④
10.目的に関する文献収集⑤
11.研究計画書の作成①
12.研究計画書の作成②
13.研究計画書の作成③
14.研究計画書の作成④
15.まとめ：研究計画書の発表

準備学習(予習・復習)・時間
課題について調べてまとめ、発表の準備をする (90 分)。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する (90 分)。

テキスト
研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等
酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版 』共立出版，2015 年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価
授業中の課題発表 (50%) 最終レポート (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
(B) 自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
(A) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
(S) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法
課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師、臨床心理士、カウンセリング心理士 (スーパーバイザー)、ガイダンスカウンセラー (スーパーバイザー)、NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ＩＳＰトレーニング、ゲシュタルトセラピー125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。なお、令和元年より和歌山県 SC・スーパーバイザー

科目名	人間学演習ＩＤ(臨床心理学演習)							学 期	通年
副 題	研究する力を身につける				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N3-25-285	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	4	他	Ａ・Ｉ

授業の目的と概要
3 回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関する文献の収集・要約及び研究計画書を作成し、発表をする。1. 自身が興味・関心をいだいた心理学領域に関する文献を収集する。　2. 文献の要約を行い、受講生が順番に発表を行う。3. テーマに関する議論を行い、問題点・課題点を明らかにする。4. 新たに見出された問題点・課題点について文献を収集しまとめるこの講義は 4 年生次の卒業論文作成のための準備段階として位置付けられる。

授業の到達目標
自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画
【前期】
1. 講義ガイダンス：研究とは何か。
2. 興味関心と研究①
3. 興味関心と研究②
4. 興味関心と研究②
5. 興味関心と研究④
6. 興味関心と研究⑤
7. テーマ設定①
8. テーマ設定②
9. テーマ設定③
10. テーマ設定④
11. テーマ設定⑤
12. テーマに関する文献収集①
13. テーマに関する文献収集②
14. テーマに関する文献収集③
15. まとめ：研究テーマ発表

【後期】
1. テーマに関する課題の探索①
2. テーマに関する課題の探索②
3. テーマに関する課題の探索③
4. テーマに関する課題の探索④
5. テーマに関する課題の探索⑤
6. 目的に関する文献収集①
7. 目的に関する文献収集②
8. 目的に関する文献収集③
9. 目的に関する文献収集④
10. 目的に関する文献収集⑤
11. 研究計画書の作成①
12. 研究計画書の作成②
13. 研究計画書の作成③
14. 研究計画書の作成④
15. まとめ：研究計画書の発表

準備学習(予習・復習)・時間
課題について調べてまとめ、発表の準備をする（90 分)。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する（90 分)。

テキスト
研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等
酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版 』共立出版，2015 年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価
授業中の課題発表（50%）最終レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
（B）自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
（A）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
（S）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法
課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	人間学演習ⅡC(臨床心理学演習)							学 期	通年
副 題	文字で心の世界を現わすために				授業方法	演習	担当者	上野和久	
ナンバリング	N4-25-286	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要
４回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関するデータ収集を行い、研究成果の発表をする。(この講義は４年次の卒業論文作成のための作業段階として位置付けられる)

授業の到達目標
自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確に文章化する。

授業計画
【前期】
1.講義ガイダンス：研究とは何か
2.研究計画書の見直し①
3.研究計画書の見直し②
4.研究計画書の見直し③
5.研究計画書の見直し④
6.研究計画書の見直し⑤
7.データ収集経過報告①
8.データ収集経過報告②
9.データ収集経過報告③
10.データ収集経過報告④
11.データ収集経過報告⑤
12.データ収集経過報告⑥
13.研究経過報告発表会①
14.研究経過報告発表会②
15.研究経過報告発表会③

【後期】
1.卒業論文作成について
2.データ分析①
3.データ分析②
4.データ分析③
5.データ分析④
6.データ分析⑤
7.結果の整理と考察①
8.結果の整理と考察②
9.結果の整理と考察③
10.結果の整理と考察④
11.結果の整理と考察⑤
12.結果の整理と考察⑥
13.研究成果発表会①
14.研究成果発表会②
15.研究成果発表会③

準備学習(予習・復習)・時間
課題について調べてまとめ、発表の準備をする。(90 分)　発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。特に、研究テーマに関係する Keyword について先行研究のデータを収集する。(90 分)

テキスト
研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等
酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版 』共立出版，2015 年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価
授業中の課題発表（50%）最終レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる 。
（B）自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
（A）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
（S） テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法
課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他
個別の指導は別途時間を設けて行う。全体での指導は、参加者の主体的な発言をもとに論文作成者の作成における視点を広げ、深めるような関係領域の講義や discussion をしたい。　論文作成のためのエンカウンターワークショップ（担当者の造語です）のような形で行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・ガイダンスカウンセラー（スーパーバイザー)・カウンセリング心理士（スパーバイザー）として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	人間学演習ⅡD(臨床心理学演習)							学 期	通年
副 題	研究する力を身につける				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N4-25-287	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要
４回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関するデータ収集を行い、研究成果の発表をする。この講義は４年次の卒業論文作成のための作業段階として位置付けられる。

授業の到達目標
自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画
【前期】
1.講義ガイダンス：研究とは何か
2.研究計画書の見直し①
3.研究計画書の見直し②
4.研究計画書の見直し③
5.研究計画書の見直し④
6.研究計画書の見直し⑤
7.データ収集経過報告①
8.データ収集経過報告②
9.データ収集経過報告③
10.データ収集経過報告④
11.データ収集経過報告⑤
12.データ収集経過報告⑥
13.研究経過報告発表会①
14.研究経過報告発表会②
15.研究経過報告発表会③

【後期】
1.卒業論文作成について
2.データ分析①
3.データ分析②
4.データ分析③
5.データ分析④
6.データ分析⑤
7.結果の整理と考察①
8.結果の整理と考察②
9.結果の整理と考察③
10.結果の整理と考察④
11.結果の整理と考察⑤
12.結果の整理と考察⑥
13.研究成果発表会①
14.研究成果発表会②
15.研究成果発表会③

準備学習(予習・復習)・時間
課題について調べてまとめ、発表の準備をする。(90 分)　発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。特に、研究テーマに関係する Keyword について先行研究のデータを収集する。(90 分)

テキスト
研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等
酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版 』共立出版，2015 年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価
授業中の課題発表（50%）最終レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる 。
（B）自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
（A）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
（S） テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法
課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

大　学　院

1.文学研究科修士課程（修了要件：30単位）

[密教学専攻　博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1）基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	1	92101	密教学講義Ａ（大）	佐　藤　隆　彦	2	８単位を超えて修了要件に参入できない。	346
前期	水	1	93101	仏教学講義（大）	前　谷　彰	2		347
前期	月	1	91101	インド学講義（大）	徳　重　弘　志	2		348
後期	火	1	92151	祖典演習Ａ（大）	佐　藤　隆　彦	2		349

2）主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	金	1	95101	密教学特殊研究Ａ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	主要科目12単位必修	350
後期	金	1	95151	密教学特殊研究Ｂ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		351
前期	金	2	95201	密教学特殊研究Ｃ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		352
後期	金	2	95251	密教学特殊研究Ｄ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		353
後期	火	3	92351	密教史特殊研究Ａ（大）	木　下　智　雄	2		354
後期	木	1	94152	密教史特殊研究Ｂ（大）	徐　東　軍	2		355
前期	水	1	93102	密教学演習Ａ（大）	南　昌　宏	2		356
後期	金	3	95351	密教学演習Ｂ（大）	土　居　夏　樹	2		357
前期	金	4	95401	密教史演習（大）	奥　山　直　司	2		358
前期	木	3	94301	密教学講読Ａ（大）	川　﨑　一　洋	2		359
後期	木	3	94351	密教学講読Ｂ（大）	川　﨑　一　洋	2		360
前期	月	1	91102	密教史講読Ａ（大）	松　長　潤　慶	2		362
前期	火	3	92301	密教史講読Ｂ（大）	北　川　真　寛	2		361
前期	木	1	94101	現代社会と宗教（大）	森　﨑　雅　好	2	社会人コースは４単位必修	363
前期	金	3	95301	密教と文化（大）	土　居　夏　樹	2		364
前期	月	4	91402	事相研究Ⅰ-1（大）	佐　藤　隆　彦	2	僧侶コースは４単位必修 ※事相研究Ⅰ及びⅡでそれぞれ２単位以上修得すること	365
後期	月	4	91451	事相研究Ⅰ-2（大）	佐　藤　隆　彦	2		366
前期	木	2	94201	事相研究Ⅱ-1（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		367
後期	木	2	94251	事相研究Ⅱ-2（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		368

3）関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	3	94302	仏教学特殊研究Ａ（大）	坂　口　太　郎	2		369
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究Ｂ（大）	前　谷　彰	2		370
前期	木	4	94401	仏教学特殊研究Ｃ（大）	那 須 真 裕 美	2		371
後期	木	3	94352	仏教史特殊研究Ｂ（大）	坂　口　太　郎	2		372
前期	水	2	93201	仏教学演習Ａ（大）	前　谷　彰	2		373
後期	水	2	93251	仏教学演習Ｂ（大）	前　谷　彰	2		374
前期	月	4	91401	仏教史演習Ａ（大）	菊　谷　竜　太	2		375
後期	月	4	91452	仏教史演習Ｂ（大）	菊　谷　竜　太	2		376
後期	木	2	94252	仏教学講読Ａ（大）	岡　田　英　作	2		377
前期	火	2	92201	仏教学講読Ｂ（大）	前　谷　彰	2		378
後期	集中	集中	97051	仏教学講読Ｃ（大）	平　岡　宏　一	2		379
前期	月	2	91202	仏教史講読Ａ（大）	櫻　木　潤	2		380

4）共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	月	1	91103	密教実践法の研究1（大）	中　西　雄　泰	2		381
後期	月	1	91151	密教実践法の研究2（大）	中　西　雄　泰	2		382
前期	火	4	92401	仏教芸術の研究Ａ（大）	和　田　圭　子	2		383
後期	火	4	92451	仏教芸術の研究Ｂ（大）	和　田　圭　子	2		384
後期	水	4	93451	宗教学宗教史の研究（大）	小　田　龍　哉	2		385
後期	月	1	91152	アジア地域の宗教文化の研究（大）	松　長　潤　慶	2		386
前期	月	2	91201	比較宗教の研究（大）	森　本　一　彦	2		387
後期	木	1	94151	現代社会と仏教の研究（大）	森　﨑　雅　好	2		388
前期	集中	集中	97001	教育学特殊研究（大）	山　脇　雅　夫	2		389
通年	論文	論文	99001	修士論文（密教学）	大学院委員長	0		－
前期	論文	論文	99003	修士論文（密教学）（前期）	大学院委員長	0	7月提出許可者	－

1.文学研究科修士課程（修了要件：30単位）

[仏教学専攻　博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1）基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	1	92101	密教学講義Ａ（大）	佐　藤　隆　彦	2	８単位を超えて修了要件に参入できない。	346
前期	水	1	93101	仏教学講義（大）	前　谷　彰	2		347
前期	月	1	91101	インド学講義（大）	徳　重　弘　志	2		348
後期	火	1	92151	祖典演習Ａ（大）	佐　藤　隆　彦	2		349

2）主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	3	94302	仏教学特殊研究Ａ（大）	坂　口　太　郎	2	主要科目12単位必修	369
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究Ｂ（大）	前　谷　彰	2		370
前期	木	4	94401	仏教学特殊研究Ｃ（大）	那 須 真 裕 美	2		371
後期	木	3	94352	仏教史特殊研究Ｂ（大）	坂　口　太　郎	2		372
前期	水	2	93201	仏教学演習Ａ（大）	前　谷　彰	2		373
後期	水	2	93251	仏教学演習Ｂ（大）	前　谷　彰	2		374
前期	月	4	91401	仏教史演習Ａ（大）	菊　谷　竜　太	2		375
後期	月	4	91452	仏教史演習Ｂ（大）	菊　谷　竜　太	2		376
後期	木	2	94252	仏教学講読Ａ（大）	岡　田　英　作	2		377
前期	火	2	92201	仏教学講読Ｂ（大）	前　谷　彰	2		378
後期	集中	集中	97051	仏教学講読Ｃ（大）	平　岡　宏　一	2		379
前期	月	2	91202	仏教史講読Ａ（大）	櫻　木　潤	2		380
前期	木	1	94101	現代社会と宗教（大）	森　崎　雅　好	2	社会人コースは４単位必修	363
前期	金	3	95302	仏教と文化（大）	土　居　夏　樹	2		364
前期	月	4	91402	事相研究Ⅰ-1（大）	佐　藤　隆　彦	2	僧侶コースは４単位必修 ※事相研究Ⅰ及びⅡでそれぞれ２単位以上修得すること	365
後期	月	4	91451	事相研究Ⅰ-2（大）	佐　藤　隆　彦	2		366
前期	木	2	94201	事相研究Ⅱ-1（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		367
後期	木	2	94251	事相研究Ⅱ-2（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		368

3）関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	金	1	95101	密教学特殊研究Ａ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		350
後期	金	1	95151	密教学特殊研究Ｂ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		351
前期	金	2	95201	密教学特殊研究Ｃ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		352
後期	金	2	95251	密教学特殊研究Ｄ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		353
後期	火	3	92351	密教史特殊研究Ａ（大）	木　下　智　雄	2		354
後期	木	1	94152	密教史特殊研究Ｂ（大）	徐　東　軍	2		355
前期	水	1	93102	密教学演習Ａ（大）	南　昌　宏	2		356
後期	金	3	95351	密教学演習Ｂ（大）	土　居　夏　樹	2		357
前期	金	4	95401	密教史演習（大）	奥　山　直　司	2		358
前期	木	3	94301	密教学講読Ａ（大）	川　崎　一　洋	2		359
後期	木	3	94351	密教学講読Ｂ（大）	川　崎　一　洋	2		360
前期	月	1	91102	密教史講読Ａ（大）	松　長　潤　慶	2		362
前期	火	3	92301	密教史講読Ｂ（大）	北　川　真　寛	2		361

4）共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	月	1	91103	密教実践法の研究1（大）	中　西　雄　泰	2		381
後期	月	1	91151	密教実践法の研究2（大）	中　西　雄　泰	2		382
前期	火	4	92401	仏教芸術の研究Ａ（大）	和　田　圭　子	2		383
後期	火	4	92451	仏教芸術の研究Ｂ（大）	和　田　圭　子	2		384
後期	水	4	93451	宗教学宗教史の研究（大）	小　田　龍　哉	2		385
後期	月	1	91152	アジア地域の宗教文化の研究（大）	松　長　潤　慶	2		386
前期	月	2	91201	比較宗教の研究（大）	森　本　一　彦	2		387
後期	木	1	94151	現代社会と仏教の研究（大）	森　崎　雅　好	2		388
前期	集中	集中	97001	教育学特殊研究（大）	山　脇　雅　夫	2		389
通年	論文	論文	99002	修士論文（仏教学）	大学院委員長	0		－
前期	論文	論文	99004	修士論文（仏教学）（前期）	大学院委員長	0	7月提出許可者	－

3.文学研究科博士後期課程（修了要件：12単位）

[密教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	金	1	95101	密教学特殊研究Ａ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	※密教特殊演習4単位を含め、12単位以上を履修しなければならない。（複数回履修可）	350
後期	金	1	95151	密教学特殊研究Ｂ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		351
前期	金	2	95201	密教学特殊研究Ｃ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		352
後期	金	2	95251	密教学特殊研究Ｄ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		353
後期	火	3	92351	密教史特殊研究Ａ（大）	木下智雄	2		354
後期	木	1	94152	密教史特殊研究Ｂ（大）	徐東軍	2		355
前期	水	1	93102	密教学演習Ａ（大）	南昌宏	2		356
後期	金	3	95351	密教学演習Ｂ（大）	土居夏樹	2		357
前期	金	4	95401	密教史演習（大）	奥山直司	2		358
前期	木	3	94301	密教学講読Ａ（大）	川﨑一洋	2		359
後期	木	3	94351	密教学講読Ｂ（大）	川﨑一洋	2		360
前期	月	1	91102	密教史講読Ａ（大）	松長潤慶	2		362
前期	火	3	92301	密教史講読Ｂ（大）	北川真寛	2		361
前期	月	5	91501	密教特殊演習Ｃ-1（大）	佐藤隆彦	2		390
後期	月	5	91551	密教特殊演習Ｃ-2（大）	佐藤隆彦	2		391
前期	月	5	91502	密教特殊演習Ｄ-1（大）	松長潤慶	2		392
後期	月	5	91552	密教特殊演習Ｄ-2（大）	松長潤慶	2		393
前期	月	2	91203	密教特殊演習Ｅ-1（大）	佐藤隆彦	2		394
後期	月	2	91251	密教特殊演習Ｅ-2（大）	佐藤隆彦	2		395
前期	月	3	91301	密教特殊演習Ｇ-1（大）	櫻木潤	2		396
後期	月	3	91351	密教特殊演習Ｇ-2（大）	櫻木潤	2		397

[仏教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	3	94302	仏教学特殊研究Ａ（大）	坂口太郎	2	※仏教特殊演習4単位を含め、12単位以上を履修しなければならない。（複数回履修可）	369
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究Ｂ（大）	前谷彰	2		370
前期	木	4	94401	仏教学特殊研究Ｃ（大）	那須真裕美	2		371
後期	木	3	94352	仏教史特殊研究Ｂ（大）	坂口太郎	2		372
前期	水	2	93201	仏教学演習Ａ（大）	前谷彰	2		373
後期	水	2	93251	仏教学演習Ｂ（大）	前谷彰	2		374
前期	月	4	91401	仏教史演習Ａ（大）	菊谷竜太	2		375
後期	月	4	91452	仏教史演習Ｂ（大）	菊谷竜太	2		376
後期	木	2	94252	仏教学講読Ａ（大）	岡田英作	2		377
前期	火	2	92201	仏教学講読Ｂ（大）	前谷彰	2		378
後期	集中	集中	97051	仏教学講読Ｃ（大）	平岡宏一	2		379
前期	月	2	91202	仏教史講読Ａ（大）	櫻木潤	2		380
前期	木	4	94402	仏教特殊演習Ａ-1（大）	前谷彰	2		398
後期	木	4	94451	仏教特殊演習Ａ-2（大）	前谷彰	2		399

講　義　概　要
・
授　業　計　画

科目名	密教学講義A（大）							学 期	前期
副 題	密教学概論				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-288	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標
密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画
1. ガイダンス・密教総論
2. インド・チベッ
3. 教判論
4. 教判論（顕密二教判）
5. 教判論（十住心教判）
6. 教判論（十住心教判）
7. 仏身論
8. 大日如来論
9. 本地身と加持身
10. 本地身と加持身
11. 両部曼荼羅
12. 両部曼荼羅
13. 両部曼荼羅
14. 成仏論
15. まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについてテキストに目を通し辞書などで意味を調べておくこと（30 分）。 ・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60 分）。

テキスト
高神覚昇『密教概論』（大法輪閣、1989 年）、

参考書・参考資料等
①金岡秀友『密教の哲学』（講談社学術文庫、1989 年）、②勝又俊教『密教入門』（春秋社、1991 年）、③松長有慶『密教』（岩波新書、1991 年）など。

学生に対する評価
期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な密教の思想を理解できる。
（B）基本的な密教の思想・用語を理解できる。
（A）専門的な密教の思想・用語を理解できる。
（S）専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
講義の中で発表討論質問時間を設けてフィードバックする。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講義(大)							学 期	前期
副 題	仏教学の思想					授業方法	講義	担当者	前谷彰
ナンバリング	D5-02-289	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標
初期仏教と大乗思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容①　南アジア
3. 仏教の伝達と受容②　西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③　東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④　東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教①　ブッダの生涯
8. 初期仏教②　ブッダの思想
9. 初期仏教③　仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教①　アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教②　部派における律の違い
12. 部派仏教③　部派における思想的違い
13. 大乗思想の起源①　僧院生活と大乗思想
14. 大乗思想の起源②　聖典と仏像
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと（90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと（90 分)。

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
①馬場紀寿『初期仏教―ブッダの思想をたどる』(岩波新書)、2018 年、②「仏教の思想」２・３・４(角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③グレゴリー・ショペン・小谷信千代訳 『大乗仏教興起時代 インドの僧院生活〈新装版〉』、春秋社、2018 年

学生に対する評価
ミニッツペーパーならびに課題レポート（30%)、期末試験（70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）初期仏教と大乗思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
（B）仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
（A）部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
（S)アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	インド学講義(大)							学 期	前期
副 題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	D5-01-290	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 仏 1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれてはいるが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要性がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることも重要である。 この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

授業の到達目標
・初期仏教や大乗仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

授業計画
1.イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2.インドにおける仏教の歴史（1）：初期仏教
3.インドにおける仏教の歴史（2）：部派仏教・大乗仏教
4.インド初期密教（1）：密教の萌芽
5.インド初期密教（2）：密教の形成期
6.インド初期密教（3）:『大日経』の先行経典
7.インド中期密教（1）:『大日経』
8.インド中期密教（2）:『理趣経』・『理趣広経』
9.インド中期密教（3）:『初会金剛頂経』
10.インド後期密教（1）：父タントラ
11.インド後期密教（2）：母タントラ・不二タントラ
12.チベットの密教（1）：前伝仏教期
13.チベットの密教（2）：後伝仏教期
14.チベットの密教（3）：宗派の概説
15.チベットの密教（4）：近代の仏教

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（60 分）。 ・授業後に毎回宿題を課すので、次回までに小レポートとして提出すること（120 分）。

テキスト
・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022 年（書店で購入） ・杉木恒彦、On the Chronology of the Buddhist Tantras、2022 年（論文のため、コピーを配布する）

参考書・参考資料等
・高橋尚夫 他編『初期密教―思想・信仰・文化―』、春秋社、2013 年 ・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016 年 ・松長有慶 編『インド後期密教』（上・下）、春秋社、2005・2006 年

学生に対する評価
レポート（70%）、毎回の授業で課す小レポート（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）初期仏教、大乗仏教、密教の関係を正確に理解できている。
（B）インドやチベットにおける密教経典の分類法を正確に理解できている。
（A）主要な密教経典の特徴を正確に理解できている。
（S）インド・チベット密教史の流れを正確に理解できている。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された小レポートに関しては、次回の授業において解説を行う。

その他
・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・調査学習を取り入れた科目である。

科目名	祖典演習A（大）							学 期	後期
副 題	『即身成仏義』の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-291	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『即身成仏義』の伝統的な素読を行い、その内容を理解する。特に『即身成仏義』で説かれる即身成仏思想は真言宗の根本思想とされる。『即身成仏義』にしたがって「即身成仏思想」を学術的に理解するとともに説明できるようになることを目的とする。

授業の到達目標
『即身成仏義』にしたがって眞言宗の根本教理である「即身成仏思想」を説明することができる。

授業計画
1.オリエンテーション
2.伝統的な漢文の読み方
3.伝統的な漢文の読み方
4.『即身成仏義』講読（二教一論八ケ証文）
5.『即身成仏義』講読（二教一論八ケ証文）
6.『即身成仏義』講読（二教一論八ケ証文）
7.『即身成仏義』講読（二頌八句の偈文）
8.『即身成仏義』講読（二頌八句の偈文）
9.『即身成仏義』講読（六大）
10.『即身成仏義』講読（六大能生）
11.『即身成仏義』講読（四曼）
12.『即身成仏義』講読（三密）
13.『即身成仏義』講読（三密、重重帝網）
14.『即身成仏義』講読（成仏）
15.まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前予習（60 分）、事後復習（60 分）、素読（20 分）、レポート作成（事後復習のまとめ）（40 分）

テキスト
『十卷章』（高野山大学出版部）

参考書・参考資料等
中川善教『漢和対照十卷章』（高野山出版社）　『即身成仏義の研究』（密経文化研究所紀要別冊）　小田慈舟『十卷章講説』（高野山出版社）　松長有慶『訳注即身成仏義』（春秋社）

学生に対する評価
素読、発表 40%　レポート 60%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『即身成仏義』を素読できる。
（B）『即身成仏義』にしたがって眞言宗の根本教理である「即身成仏思想」を説明することができる。
（A）『即身成仏義』だけでなく、注釈書や先行研究に基づき「即身成仏思想」を説明することができる。
（S）「即身成仏思想」を学術的に先行研究を批判的にとらえて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義において毎回フィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学特殊研究A（大）							学 期	前期
副 題	『蘇悉地羯羅経』を読む（前半）				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	D5-01-292	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
善無畏訳の『蘇悉地羯羅経』（3 巻、34 品）は真言密教の行法や事相全般に多大な影響を持つが、両部大経のように読まれることは少ない。『蘇悉地羯羅経』はチベットでは所作タントラの根本経典のひとつで、真言密教では密教の祈祷儀礼を基本とする大事な密教経典である。

授業の到達目標
漢文読解力、密教経典への知識、事相の理解を深める。

授業計画
1．『蘇悉地羯羅経』の内容と諸問題
2．『蘇悉地羯羅経』「請問品第一」
3．『蘇悉地羯羅経』「分別阿闍梨相品第二」
4．『蘇悉地羯羅経』「分別持誦相品第三」「分別同伴品第四」
5．『蘇悉地羯羅経』「択処品第五」
6．『蘇悉地羯羅経』「持真言法品第六」①
7．『蘇悉地羯羅経』「持真言法品第六」②
8．『蘇悉地羯羅経』「供養花品第七」
9．『蘇悉地羯羅経』「塗香薬品第八」
10. 『蘇悉地羯羅経』「分別燒香品第九」「燃燈法品第十」
11. 『蘇悉地羯羅経』「献食品第十一」
12. 『蘇悉地羯羅経』「分別悉地時分品第十二」「円備成就品第十三」
13. 『蘇悉地羯羅経』「奉請成就品第十四」
14. 『蘇悉地羯羅経』「補闕少法品第十五」①
15. 『蘇悉地羯羅経』「補闕少法品第十五」②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
『蘇悉地羯羅経』の木版本のコピーを配布

参考書・参考資料等
『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法潅頂を入壇した者）のみが受講できる。この講義の内容は後期に続くため、「密教学特殊研究Ｂ（大）」を続けて受講することを推薦する。

科目名	密教学特殊研究B(大)							学 期	後期
副 題	『蘇悉地羯羅経』を読む(後半)				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	D5-01-293	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
善無畏訳の『蘇悉地羯羅経』(3 巻、34 品) は真言密教の行法や事相全般に多大な影響を持つが、両部大経のように読まれることは少ない。『蘇悉地羯羅経』はチベットでは所作タントラの根本経典のひとつで、真言密教では密教の祈祷儀礼を基本とする大事な密教経典である。

授業の到達目標
漢文読解力、密教経典への知識、事相の理解を深める。

授業計画
1．『蘇悉地羯羅経』「被偷成物却徴法品第十六」①
2．『蘇悉地羯羅経』「被偷成物却徴法品第十六」②
3．『蘇悉地羯羅経』「成就具支法品第十七」
4．『蘇悉地羯羅経』「分別成就品第十八」
5．『蘇悉地羯羅経』「奉請品第十九」
6．『蘇悉地羯羅経』「供養品第二十」①
7．『蘇悉地羯羅経』「供養品第二十」②
8．『蘇悉地羯羅経』「供養品第二十」③
9．『蘇悉地羯羅経』「供養品第二十」④
10. 『蘇悉地羯羅経』「増威品第二十一」「本尊灌頂品第二十二」「祈請品第二十三」
11. 『蘇悉地羯羅経』「受真言品第二十四」「滿足真言品第二十五」「増力品第二十六」
12. 『蘇悉地羯羅経』「護摩品第二十七」「備物品第二十八」
13. 『蘇悉地羯羅経』「成諸物相品第二十九」「取物品第三十」「淨物品第三十一」
14. 『蘇悉地羯羅経』「物量品第三十二」「灌頂壇品第三十三」
15. 『蘇悉地羯羅経』「光物品第三十四」

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
『蘇悉地羯羅経』の木版本のコピーを配布

参考書・参考資料等
『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価
レポート（50%)、発表（20%)、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『蘇悉地羯羅経』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法潅頂を入壇した者）のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「密教学特殊研究Ａ（大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	密教学特殊研究C(大)							学 期	前期
副 題	『中院流三十三尊法聞書』を読む(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	D5-01-294	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標
『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画
1．中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2．別尊次第について
3．「金輪」
4．「佛眼」
5．「薬師」
6．「阿弥陀」
7．「釈迦」
8．「尊勝」
9．「聖観音」
10．「千手」
11．「十一面」
12．「馬頭」
13．「準胝」
14．「如意輪」
15．「白衣」

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』をコピーで配布

参考書・参考資料等
『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価
レポート（50%)、発表（20%)、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法潅頂を入壇した者）のみが受講できる。内容は後期に続くため、「密教学特殊研究Ｄ（大)」を続けて受講することを推薦する。

科目名	密教学特殊研究D（大）							学 期	後期
副 題	『中院流三十三尊法聞書』を読む（後半）				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	D5-01-295	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標
『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画
１.「弥勒」
２.「五字文殊」
３.「八字文殊」
４.「延命」
５.「地蔵」
６.「愛染」
７.「不動」
８.「降三世」「軍荼利」
９.「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10.「法華」「舎利」
11.「光明真言」
12.「毘沙門」
13.「炎魔天」
14.「水天」
15.「聖天」「訶利帝」

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』をコピーで配布

参考書・参考資料等
『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「密教学特殊研究Ｃ（大）」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	密教史特殊研究A（大）							学 期	後期
副 題	中院流の歴史				授業方法	講義	担当者	木下智雄	
ナンバリング	D5-01-296	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
密教は、印度・中国・日本と伝わり、1200 年以上脈々と受け継がれてきた。 釈尊や弘法大師の祖師伝のみならず、それ以後の高僧たちの伝記を学ぶことは、宗教者として欠かせない視座を獲得する。 本講義では、高野山で多くの僧侶が修行し、実際に修法される中院流の歴史について、時系列をたどりながら、現在に到るまでの重要な人物について講義を行う。

授業の到達目標
・中院流の歴史と重要人物について学習し、宗学の立場から密教の流伝を説明できるようになる。 ・訓点付きの漢文が読めるようになる。 ・史料批判について学び、歴史学の立場から、検証できるようになる。

授業計画
1. 概論（講義の進め方、参考文献紹介等）と予習方法について
2. 付法・伝持の八祖（大日～空海）について
3. 入唐八家について―東密と台密の分流―
4. 野沢根本十二流の概説①―広沢流―
5. 野沢根本十二流の概説②―小野流―
6. 中院流の縁由について①―無空律師の離山と祈親上人の再興―
7. 中院流の縁由について②―明算大徳伝―
8. 中院流の分派について①―中院流四方（引摂院方・心南院方・大楽院方・智荘厳院方）―
9. 中院流の分派について②―中院流八方（宝性院方・総持院方・東南院方・龍光院方）―
10. 中院流の大成について―宥快法印と法性院院家相承―
11. 中院流の流布について①―浄厳和尚の分派と真言律―
12. 中院流の流布について②―成蓮院真源上綱と中院本流―
13. 中院流の流布について③―真別処妙瑞と有部律―
14. 中院流の流布について④―明治以後の相伝―
15. これまでの講義の振り返りと総括

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として、指定した参考文献に目を通し、（60 分）専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。（30 分） 事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。（90 分）

テキスト
講師が配布資料を用意する。 栂尾祥雲『真言宗の宗史』、高野山出版社、2008 年（書店で購入） ※品切れの場合は、該当箇所をコピ ーで配布する。

参考書・参考資料等
・大山公淳『中院流の研究』東方出版 ・松長有慶『密教―インドから日本への伝承』中公文庫 ・懐英『検校明算阿闍梨伝』、維宝『南山中院真言秘密諸祖伝譜』（『続真言宗全書』32 巻） ・『紀伊続風土記』（『続真言宗全書』38 巻）・『高野山先哲潅頂記録』（『続真言宗全書』41 巻）他

学生に対する評価
期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）中院流の人物伝について、参考書を読み上げることができ、用語の説明ができる。
（B）中院流の人物伝について、『続真言宗全書』等の漢文が訓読でき、本文内容の説明ができる。
（A）中院流の人物伝について、複数の文献史料を比較検討することができる。
（S）中院流の歴史について、問題意識をもって論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
・伝授科目ではないが、已灌頂者・加行満了者の受講が望ましい。 ・学部との同時開講科目であるので、学部生の学習補助（予習や復習の手引き）を行ってもらいたい。 ・必要に応じて、簡単な発表資料を作成してもらうことがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての気構えについて、高僧の人物伝を通じて、宗教的実践の重要性を認識させる。

科目名	密教史特殊研究B(大)							学 期	後期
副 題	中国密教史					授業方法	講義	担当者	徐東軍
ナンバリング	D5-01-297	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
インドに起こった密教が古代中国に伝えられ、中国密教として展開していった過程を学習する。密教僧の布教活動や訳経事業、著名な寺院、密教の遺跡などの面から、中国の各時代に形成された密教の特色についての理解を深める。

授業の到達目標
中国歴史年表にしたがって、魏晋南北朝時代から密教隆盛期の唐までの中国密教史の大まかな流れを理解し、概説できる。唐以降の宋・遼・金・西夏・大理などにおける中国密教の歴史的展開を学び、それらの特徴を説明できる。元代以降のチベット密教の伝播とその影響について理解できる。

授業計画
1. 講義内容の説明
2. 魏晋南北朝時代における陀羅尼密教の伝来と流行
3. 隋と初唐における密教経典の翻訳
4. 善無畏・金剛智と両部大経の伝来
5. 善無畏の弟子たち及び北宗禅との交流
6. 不空の布教と密教隆盛
7. 不空の弟子たち及び恵果による両部大法の相承
8. 入唐八家の求法
9. 中晩唐の密教僧と法門寺の仏舎利供養
10. 宋代訳経院の設立と密教経典の翻訳
11. 宋と遼の密教の特徴
12. 西夏・金・大理における密教の展開
13. 元明清三代とチベット密教
14. 二十世紀における密教の復興運動
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間
講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60 分)　講義内容について、関心をもったテーマや人物を調べる。(60 分)

テキスト
担当者が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等
①呂建福『中国密教史』(中国社会科学出版社、2011 年、中国語)　②宮坂宥勝・松長有慶・頼富本宏編『密教大系第二巻　中国密教』(法蔵館、1994 年、日本語)　③立川武蔵・頼富本宏編『中国密教　シリーズ密教３』(春秋社、1999 年、日本語)

学生に対する評価
期末レポート（60%)、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）中国への密教の伝来と展開の歴史を概説できる。
（B）中国の各時代における密教の展開を詳細に説明できる。
（A）中国の各時代の密教について、その特徴及び主要な密教僧の役割について説明できる。
（S）中国における密教の歩みを理解し、独自の観点から意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、講義内で対応する。

その他
本講義は中国語で行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習A（大）							学 期	前期
副 題	空海『十住心論』を読む					授業方法	講義	担当者	南昌宏
ナンバリング	D5-25-298	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『十住心論』を精読することで、漢文訓読に熟達する。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。テキストの読解を通じて、密教に関する基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。テキストは、受講生の関心に応じて、変更も可。

授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。　○漢訳経典の内容を理解できる。　○漢訳経典を批判的に読むことができる。
○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。　○自分の考えを論理的に表現できる。

授業計画

1. 亮海『十住心論冠註』巻第二（1）「愚童持齋心者……」を読む
2. 亮海『十住心論冠註』(2)「即是人趣善心之萌兆……」を読む
3. 亮海『十住心論冠註』(3)「凡夫歸源之濫觴……」を読む
4. 亮海『十住心論冠註』(4)「萬劫寂種遇春雷而甲坼……」を読む
5. 亮海『十住心論冠註』(5)「一念善幾沐時雨而吐牙……」を読む
6. 亮海『十住心論冠註』(6)「……發歡喜乎節食」を読む
7. 亮海『十住心論冠註』(7)「行檀施乎親疎……」を読む
8. 亮海『十住心論冠註』(8)「少欲之想始生……」を読む
9. 亮海『十住心論冠註』(9)「知足之心稍發……」を読む
10. 亮海『十住心論冠註』(10)「見高徳而尊重具伎樂而供養……」を読む
11. 亮海『十住心論冠註』(11)「知過必改見賢思齊……」を読む
12. 亮海『十住心論冠註』(12)「初信因果漸諾罪福……」を読む
13. 亮海『十住心論冠註』(13)「孝于親親竭忠國主……」を読む
14. 亮海『十住心論冠註』(14)「不及之善生探湯之惡休……」を読む
15. 亮海『十住心論冠註』(15)「内外三歸從此而發……」を読む

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにする（30 分）、難解な語彙や漢文訓読などについて調査・理解しておく（60 分）。 事後学修としてレポートをまとめる（90 分）。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）　『密教大辞典』（法蔵館）など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
（S）自分の考えを論理的に発表することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。 受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 修士論文の作成に関し、具体的な疑問・要望があれば、授業内で対応する。

科目名	密教学演習B（大）							学 期	後期
副 題	高野山の教学研究				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-25-299	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4, 5	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
弘法大師空海がもたらした真言密教は、後世さまざまな展開を見せた。その一つに、祖典をどのように理解するのか、という教学上の問題がある。本演習で取り上げる『即身義聞書附録』は、法性や道範といった高野山教学史上重要な学僧が行った『即身成仏義』に関する問答である。この演習では、『即身義聞書附録』で論じられる問答を一つひとつ確認し、鎌倉初期の高野山上では『即身成仏義』のどのような点が問題になっていたのか、そしてそれに対する解答はどのようなものであったのかについて、考察する。なお、受講生には担当を決め、書き下し・語注などを課す。

授業の到達目標
高野山の教学研究史に触れることで、弘法大師の思想が後世どのように解釈されているのかを理解し、事相と教相との関係を意識的に捉えることができるようになる。

授業計画
1．概要（前期の進め方等）
2．高野山の教学史 ①―大師以後の教学史―
3．　〃　②―覚海と法性・道範―
4．　〃　③『即身義聞書附録』について
5．『即身義聞書附録』を読む　① 問不改迷情所見凡身可云即身成仏耶
6．　〃　② 問後十六生成正覚文所云正覚指金剛拳位歟
7．　〃　③ 問而成身秘密文大師何釈給耶
8．　〃　④ 問現世得成無上覚文心王心数成仏中可云何耶
9．　〃　⑤ 問一切真言行者悉可即身成仏乎
10．　〃　⑥ 問六大無碍常瑜伽等二行即身成仏四字配釈如何
11．　〃　⑦ 問六大四曼可云有互為能生所生之義耶
12．　〃　⑧ 問自宗意第六識大可云有色形耶
13．　〃　⑨ 問一大処余五大渉入相応矣
14．　〃　⑩ 問自性法身可有生住異滅之相乎
15．講義の振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
・事前に担当者箇所の翻刻・書き下し・語注・現代語訳を作成する（120 分）　・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60 分）

テキスト
『即身義聞書附録』〈道範〉、『カルフォルニア大学所蔵栂尾コレクション顕密典籍文書集成』教相篇５、平河出版社。　※コピーを配布します。

参考書・参考資料等
・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価
担当箇所の発表（50%）、授業内での積極的な発言（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）テキストの書き下し・語釈・現代語訳ができる。
（B）テキストの内容を正確に理解できる。
（A）テキストの論義の内容を正確に理解し、その内容についての自分の考えを客観的に論じることができる。
（S）上記（A）～（S）に基づいて、独自に学術的な問題提起とその解決を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他
・担当者を決めて、該当箇所についての書き下し・語注を発表してもらう。　・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。　・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。　・受講生の関心に応じて、テキストを変更する場合がある。

科目名	密教史演習(大)							学 期	前期
副 題	真言密教における国際交流の研究				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D5-01-300	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
グローバル社会に生きる私たちにとって、今最も求められていることのひとつは国際的な感覚を身に着けることであろう。幸い私たちには高野山がある。近年高野山には多数の外国人が訪れており、研究と実践のフィールドとしての条件は整っている。本授業は、高野山を舞台にして国際交流の実践的研究を行うことを目的とする。そのための前提として、前半では従来の真言宗の国際交流・国際協力の歴史を学び、後半に入って、真言密教の解説、山内の案内、意見交換などを通じて、実践的な学びの体験を進める。

授業の到達目標
高野山をフィールドとした実践的研究を通じて、国際交流を体験し、異文化理解を進めること。

授業計画
1.ガイダンス
2.明治インド留学生 1
3.明治インド留学生 2
4.インド仏跡復興運動
5.土宜法龍の世界旅行 1
6.土宜法龍の世界旅行 2
7.中国仏教界との交流 1
8.中国仏教界との交流 2
9.高野山真言宗の国際交流の現在 1
10.高野山真言宗の国際交流の現在 2
11.高野山における国際交流の実践 1
12.高野山における国際交流の実践 2
13.高野山における国際交流の実践 3
14.高野山における国際交流の実践 4
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、資料の該当箇所を読解してくる (120 分)。 事後学修として、自らの読みを修正し、関連の知識を整理する (90 分)。

テキスト
担当者が用意する。

参考書・参考資料等
奥山直司(2008)「近代日本仏教史の中の土宜法龍」『環』35

学生に対する評価
授業参加・予習復習状況 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 関連資料を読解することができる。
(B) 真言宗による国際交流・国際協力の歴史を概括的に説明できる。
(A) 外国人のために高野山および高野山大学を案内できる。
(S) 英語で高野山と真言密教の解説ができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
気軽に出席し、自ら工夫して、国際交流の体験を重ねてもらいたい。

科目名	密教学講読A（大）							学 期	前期
副 題	『吽字義』講読 1				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	D5-01-301	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書や先行研究を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。弘法大師の著作を通じて、密教の言語哲学について考察する。

授業の到達目標
漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画
1．『吽字義』とは何か（書誌的解説）
2．梵字の基礎知識を学ぶ
3．『大日経』の言語論①
4．『大日経』の言語論②
5．『大日経』の言語論③
6．吽字の字相
7．吽字の字義
8．阿字の字義（略説）
9．阿字の実義（本初不生の実義）
10. 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
11. 汗字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
12. 汗字の実義（小乗・大乗よりの実践）
13. 汗字の実義（六義よりの実践①）
14. 汗字の実義（六義よりの実践②）
15. 総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。（90 分）／講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。（60 分）

テキスト
『十巻章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』／　松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社）
※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等
弘法大師著作研究会『高野山大学密教文化研究所紀要別冊・『吽字義』の研究』（高野山大学密教文化研究所）／　竹村牧男『空海の言語哲学』（春秋社）　など

学生に対する評価
試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容を理解することができる。
（B）弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（A）弘法大師の著作を読み、その基礎となった仏教や密教の思想を理解し、弘法大師の思想の独自性を指摘することができる。
（S）弘法大師の著作に関して、新たな視点から新たな問題点を指摘し、それに対して適切な資料を用いて独自の解釈を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはＥメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
必ず予習して講義に臨むこと。できるだけ多くの注釈書や先行研究に目を通しておくとこ。

科目名	密教学講読B(大)							学 期	後期
副 題	『吽字義』講読 2				授業方法	講義	担当者	川﨑一洋	
ナンバリング	D5-01-302	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書や先行研究を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。 弘法大師の著作を通じて、密教の言語哲学について考察する。

授業の到達目標
漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画
1.汗字の実義（字門道よりの実践①）
2.汗字の実義（字門道よりの実践②）
3.汗字の実義（字門道よりの実践③）
4.偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
5.偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
6.麼字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
7.麼字の実義（自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等摂持の実義）
8.麼字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
9.吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
10.吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
11.吽字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
12.吽字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
13.吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歓喜の義趣）
14.総括①
15.総括②

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90 分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60 分)

テキスト
『十巻章』(高野山大学出版部) 所収の『吽字義』/　松長有慶『訳注 吽字義』(春秋社)
※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等
弘法大師著作研究会『高野山大学密教文化研究所紀要別冊・『吽字義』の研究』(高野山大学密教文化研究所) /　竹村牧男『空海の言語哲学』(春秋社)　など

学生に対する評価
試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容を理解することができる。
（B）弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（A）弘法大師の著作を読み、その基礎となった仏教や密教の思想を理解し、弘法大師の思想の独自性を指摘することができる。
（S）弘法大師の著作に関して、新たな視点から新たな問題点を指摘し、それに対して適切な資料を用いて独自の解釈を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義で質問を受け付け、口頭もしくはＥメールで 、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他
必ず予習して講義に臨むこと。できるだけ多くの注釈書や先行研究に目を通しておくとこ。

科目名	密教史講読B(大)							学 期	前期
副 題	南山学道の研究と実践				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	D5-01-303	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。そのため南山では、現在でも「勧学会」や「月並問講」などの法談論義が行われ、学問と修行の道場として側面を有している。本講義では、それら南山に伝えられた教学を学ぶだけでなく、実際の問講がどのように行われているのかを体験することで、南山学道に対する理解を深めることを目的とする。 そのため受講者は、各論題を選択し発表を行う。

授業の到達目標
高野山の教学を学び、問講を体験することを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されて、現代につながってきたのかについて理解するとともに、南山教学の特徴を説明できる力を身につけ、実践できるようになる。

授業計画
1.ガイダンス・総論―学道とは何か―
2.弘法大師の著作
3.弘法大師の教え―即身成仏―
4.弘法大師の教え―法身説法―
5.高野山の歴史と地理
6.壇上伽藍と奥之院
7.高野山の学道概説
8.高野山の論義（1）―綵画形像―
9.高野山の論義（2）―一門普門―
10.高野山の論義（3）―三密双修―
11.高野山の論義（4）―事六度―
12.高野山の論義（5）―模擬問講体験―
13.高野山の論義（6）―受講者発表―
14.高野山の論義（7）―受講者発表―
15.高野山の論義（8）―受講者発表―・総括

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、授業計画に記されたテーマについて辞書などで調べておくこと（30 分）。 ・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること（120 分）。 ・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと（60 分）。

テキスト
・北川真寛『はじめての「弘法大師と高野山のおしえ」入門』(セルバ出版、2022 年）を講師が一括で用意する。 ・常用経典

参考書・参考資料等
・『宗義決択集』(『真言宗全書』巻 19、続真言主全書刊行会、1935 年） ・小田慈舟訳『宗義決択集』(『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社、1936 年） ・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
講義内での発表（50%）、ディスカッション等への参加の積極性（30%）、期末レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）論義本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
（B）論義に引用されている典拠を指摘し、専門用語を補足・説明すること（語註）ができる。
（A）論義の内容を理解している。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、論義の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
・論義を体験するため、受講者は得度修了者（もしくは前期の内に得度を行う者）に限る。尼僧も可。 ・特に勧学会に出仕する者、既に出仕した者で、論義について学びたい者の受講を望む。 ・発表担当者を決めて、該当論義についての個人、またはグループ発表を行い、質疑応答も実施する。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教史講読A（大）							学 期	前期
副 題	密教付法資料の研究				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D5-01-304	実務経験の有無	無	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深める。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。

授業の到達目標
密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高めることを通じて密教学をより深く理解する。

授業計画
1．『付法傳』の全体像
2．『付法傳』の歴史的背景
3．『広付法傳』講読１因起感通分第一叙意
4．『広付法傳』講読２叙意
5．『広付法傳』講読３第一祖大日如来金剛薩埵
6．『広付法傳』講読４龍猛①
7．『広付法傳』講読５龍猛②
8．『広付法傳』講読６龍智
9．『広付法傳』講読７金剛智①
10. 『広付法傳』講読８金剛智②
11. 『広付法傳』講読９金剛智③
12. 『広付法傳』講読 10 金剛智④
13. 『広付法傳』講読 11 金剛智⑤
14. 『広付法傳』講読 12 金剛智⑥
15. 『広付法傳』講読 13 金剛智⑦

準備学習（予習・復習）・時間
授業は漢文資料の演習を実施するので、週３時間の予習が必要（計 90 分以上）。

テキスト
「定本弘法大師全集」第一巻

参考書・参考資料等
①『密教』中央文庫松長有慶②『弘法大師空海全集』第二巻筑摩書房

学生に対する評価
予習状況（50%）、授業参加状況（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）付法傳を正確に読むことができる。
（B）付法傳の内容を理解できる。
（A）付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
（S）密教付法に関して体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法
演習時に個別に指導する。

その他
十分に予習して授業に臨んでもらいたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	現代社会と宗教(大)							学 期	前期
副 題	悲嘆の心理について学ぶ					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	D5-10-305	実務経験の有無	有	関連DP	密 2,4,仏 2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標
悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画
1.悲嘆の定義・理論
2.悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3.犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4.犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5.虐めと虐待①（虐め体験について）
6.虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7.難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8.難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9.ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10.ホスピス・緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11.自死遺族支援①（遺族の心理）
12.自死遺族支援②（サポートグループについて）
13.災害時支援①（災害による喪失体験）
14.災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15.講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、 事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂,2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	密教と文化(大)／仏教と文化(大)							学 期	前期
副 題	仏教／密教における死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-01-306	実務経験の有無	無	関連DP	密 1,2,3,4, 仏 1,2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標
仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画
1．概論(講義の進め方等)
2．凡夫の生死　① 苦としての生死
3．　〃　② 五蘊と無我
4．　〃　③ 縁起としての生死
5．　〃　④ 輪廻の世界
6．仏陀観の変遷　① 釈尊の生涯
7．　〃　② 変容する釈尊
8．　〃　③ 神変とマンダラ
9．この身のままで仏と成る　① 六大と人間
10．　〃　② 真理の表現
11．　〃　③ 心とマンダラ
12．生死の意味　① 因不可得
13．　〃　② 縁起生から本不生へ
14．　〃　③ 「真に帰す」
15．まとめ ―〈私〉という存在―

準備学習(予習・復習)・時間
・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく（60 分）　・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる（120 分）

テキスト
・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等
①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価
授業内での積極的発言（60%）、期末レポート（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）仏陀観の変遷について説明ができる。
（B）大乗仏教から密教への展開を説明できる。
（A）弘法大師の死生観の特徴を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、密教の死生観を学術的に論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他
・学部生との合同授業のため、院生各位には授業中に質問を課す。積極的な下調べ、発言を期待する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	事相研究Ⅰ-1(大)							学 期	前期
副 題	子嶋流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-307	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
子嶋流は、傳法灌頂に八印を用いるなど東密の流派の中でも特異な流派である。また、台密との関連や南都に与えた影響などを考えると極めて重要な流派である。子嶋流について伝統的な相伝と流派に伝わる文献の購読を通して専門的な知識を身に着けることを目的とする。

授業の到達目標
子嶋流の歴史と特徴を理解するだけでなく、子嶋流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション
2.子嶋流について
3.子嶋流にについて
4.加行折紙
5.十八道次第
6.十八道次第
7.十八道次第
8.十八道次第
9.十八道口伝について
10.十八道口伝について
11.十八契印生起について
12.十八契印生起について
13.十八契印生起について
14.十八契印生起について
15.まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい（20 分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）講義のまとめ作成（70 分）

テキスト
資料をコピーで配布

参考書・参考資料等
『子嶋流の研究』

学生に対する評価
レポート（70%)、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）子嶋流の特徴を簡単に説明できる
（B）子嶋流の所作を理解実践説明できる。
（A）子嶋流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
（S）子嶋流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義のまとまり毎にフィードバックを行う。

その他
本講義は已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事

科目名	事相研究Ⅰ-2(大)							学 期	後期
副 題	子嶋流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-308	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
子嶋流は、傳法灌頂に八印を用いるなど東密の流派の中でも特異な流派である。また、台密との関連や南都に与えた影響などを考えると極めて重要な流派である。子嶋流について伝統的な相伝と流派に伝わる文献の購読を通して専門的な知識を身に着けることを目的とする。

授業の到達目標
子嶋流の歴史と特徴を理解するだけでなく、子嶋流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション
2.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
3.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
4.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
5.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
6.金剛界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
7.縛日羅駄都私記の研究
8.縛日羅駄都私記の研究
9.縛日羅駄都私記の研究
10.縛日羅駄都私記の研究
11.縛日羅駄都私記の研究
12.金剛界口伝の研究
13.金剛界口伝の研究
14.金剛界口伝の研究
15.総括

準備学習(予習・復習)・時間
講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい（20 分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）講義のまとめ作成（70 分）

テキスト
コピーを配布

参考書・参考資料等
『子嶋流の研究』

学生に対する評価
レポート（70%)、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）子嶋流の特徴を簡単に説明できる
（B）子嶋流の所作を理解実践説明できる。
（A）子嶋流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
（S）子嶋流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義のまとまり毎にフィードバックを行う。

その他
本講義は已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事

科目名	事相研究Ⅱ-1(大)							学 期	前期
副 題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	D5-01-309	実務経験の有無	無	関連DP	密 1,2,3,4 仏 1,2,3,4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道次第の理解を深める。『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁麽儀軌』、『阿閦法』等を平行して解読しながら比較研究を行う。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標
密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画
1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘厳について）
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（荘厳道場法について）
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勧請法について）
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、その他）

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
浄厳の江戸期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

参考書・参考資料等
『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。内容は後期に続くため、「事相研究Ⅱ-2（大）」を続けて受講することを推薦する。

科目名	事相研究Ⅱ-2(大)							学 期	後期
副 題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	
ナンバリング	D5-01-310	実務経験の有無	無	関連DP	密 1,2,3,4 仏 1,2,3,4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界次第と一尊法の各種次第への理解を深める。後期では金剛頂経系の儀軌として『如意輪瑜伽』、『千手儀軌』、『五秘密儀軌』などを読み、その他に『観智儀軌』や『求聞持法』を読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標
密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画
1.『金剛頂経』系の儀軌を読む①（『如意輪瑜伽』を読む）
2.『金剛頂経』系の儀軌を読む②（『如意輪瑜伽』を読む）
3.『金剛頂経』系の儀軌を読む③（『如意輪瑜伽』を読む）
4.『金剛頂経』系の儀軌を読む④（『千手儀軌』を読む）
5.『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤（『千手儀軌』読む）
6.『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥（『千手儀軌』読む）
7.『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦（『千手儀軌』読む）
8.『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧（『五秘密儀軌』を読む）
9.『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨（『五秘密儀軌』を読む）
10.『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩（『五秘密儀軌』を読む）
11.その他の儀軌①（『観智儀軌』を読む）
12.その他の儀軌②（『観智儀軌』を読む）
13.その他の儀軌③（『観智儀軌』を読む）
14.その他の儀軌④（『求聞持法』前半を読む）
15.その他の儀軌⑤（『求聞持法』後半を読む）

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（９０分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（９０分）

テキスト
浄厳の江戸期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

参考書・参考資料等
『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「事相研究Ⅱ-1（大）」ら続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	仏教学特殊研究A（大）							学 期	前期
副 題	「金剛三昧院伝来聖教の調査・研究」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D5-12-311	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本講義では、高野山大学図書館に寄託されている金剛三昧院伝来聖教を調査する。この作業を通して、古典籍の諸形態を学ぶとともに、調査方法についての専門的知識を習得する。また、聖教の末尾に記載された奥書に注目し、その集録作業を行なう。なお、「授業計画」に示す調査進度は、受講者の実力や受講人数によって変わると考えられる。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。 ②古典籍の奥書についての解読能力を習得し、その史料的価値について理解できるようになる。

授業計画
1. 金剛三昧院伝来聖教の意義
2. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査①
3. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査②
4. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査③
5. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査④
6. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑤
7. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑥
8. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑦
9. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑧
10. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑨
11. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑩
12. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑪
13. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑫
14. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑬
15. 総括

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、参考書を毎回読み、書誌学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 調査対象の古典籍の要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①橋本不美男『原典をめざして』（笠間書院、1974 年） ②藤本孝一『日本の美術　古写本の姿』（至文堂、2002 年） ③藤本孝一『日本の美術　文書・写本の作り方』（至文堂、2008 年） ④藤本孝一『本を千年伝える』（朝日新聞出版、2012 年）

学生に対する評価
調査対象の聖教奥書の解読レポート（100%） ※複数名の共同作業になる可能性もある。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）古典籍について基礎的な知識を習得している。
（B）古典籍の諸形態や奥書の史料的価値について理解し、系統的に説明できる。
（A）古典籍について系統的な説明ができるとともに、金剛三昧院伝来聖教についての知識を習得している。
（S）古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法
質問については、毎回の授業内で対応する。

その他
本講義は、古典籍の原本・写本を共同で調査するアクティブ・ラーニングであるため、細心の注意を必要とする。それだけに、学問的水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。 原本を調査するので、筆記用具は鉛筆のみ（シャープペンシル不可）。

科目名	仏教学特殊研究B(大)							学 期	後期
副 題	サンスクリット原典と漢訳の違いについて考える。				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-02-312	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
漢訳語とサンスクリット語の異相について考察する。

授業の到達目標
原語と漢訳語の比較作業を通して、仏教思想のある意味での「歪み」を修正できるようになる。

授業計画
1. 原語と翻訳語の異相全般について概略する。
2. 四摂事について
3. 四無量心について
4. 六波羅蜜行について
5. 自然智について
6. 善悪について
7. 智慧について
8. 清浄について
9. 一心について
10. 平等について
11. 法眼について
12. 法師について
13. 貪について
14. 瞋について
15. 痴について

準備学習(予習・復習)・時間
課題は必ずこなす（週 120 分以上）

テキスト
必要に応じて担当者が紹介・コピー配布する。

参考書・参考資料等
担当者が必要に応じて紹介する。

学生に対する評価
学期末のレポートによって評価（100%）する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）原語を扱うにあたって、サンスクリット語（初級程度）の読解力を持っていること。
（A）原語を扱うにあたって、サンスクリット語（中級程度）の読解力を持っていること。
（S）講義をとおして、「ことば」を厳密に解析する能力を身につけること。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
アクティブ・ラーニング（ディスカッション）を取り入れた授業である。

科目名	仏教学特殊研究C(大)							学 期	前期
副 題	インド大乗仏教における空思想				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	D5-02-313	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
初期仏教以来、中心的な思想の一つに挙げられる「空」は、いずれの時代においても、また伝播した先のいずれの地域においても重要な課題として多々論じられ、様々に解釈されてきた。本講義は、これらの根幹となるインド仏教における空理解とその議論について学ぶことで、仏教学全般を理解するための確固たる支柱を獲得することを目的とする。

授業の到達目標
とくにインド大乗仏教における空思想の特徴と展開を体系的に把握し、仏教思想全体に対する理解を深めることができる。

授業計画
1. オリエンテーション（インド仏教の展開を概観する）
2. 初期仏教・部派仏教の思想
3. 初期仏教・部派仏教における空
4. 般若経典類と空(1)
5. 般若経典類と空(2)
6. 般若経典類と空(3)
7. ナーガールジュナ（龍樹）の思想と著作
8. 『根本中頌』が説く思想(1) 縁起
9. 『根本中頌』が説く思想(2) 空性
10. 『根本中頌』が説く思想(3) 戯論
11. 「ことばの否定」とは何か
12. 中観論師たちの思想と著作(1) バーヴィヴェーカ（清弁）
13. 中観論師たちの思想と著作(2) チャンドラキールティ（月称）
14. 空思想の展開
15. 総括（全体のまとめとレポート講評）

準備学習(予習・復習)・時間
授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する（60 分）

テキスト
プリント資料を配布する

参考書・参考資料等
立川武蔵『空の思想史』(講談社学術文庫 1600)、講談社、2003 年など。他は適宜授業中に紹介する

学生に対する評価
期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）空思想の特徴を理解し、説明できる
（B）空思想の特徴と変遷を理解できる
（A）インド大乗仏教における空思想の特徴と展開を体系的に理解し、自分の言葉で説明できる
（S）インド大乗仏教における空思想の特徴と展開を体系的に理解し、自分の専門分野や研究テーマ等と比較・検討して論じることができる

課題に対するフィードバックの方法
疑問・質問については、毎回の授業内で全体に対してフィードバックを行ない、知識を共有する

その他
分からない用語があれば自ら辞書や参考文献で調べる等、積極的に理解するよう努めること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教史特殊研究B(大)							学 期	後期
副 題	「金剛三昧院伝来聖教・文書の調査・研究」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D5-12-314	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本講義では、高野山大学図書館や金剛三昧院に収蔵されている聖教・文書を調査する。この作業を通して、古文書・古典籍の諸形態を学ぶとともに、調査方法についての専門的知識を習得する。また、文書はもとより、聖教の末尾に記載された奥書に注目し、その集録作業を行なう。なお、「授業計画」に示す調査進度は、受講者の実力や受講人数によって変わると考えられる。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標
①古文書・古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。 ②古文書・古典籍の奥書についての解読能力を習得し、その史料的価値について理解できるようになる。

授業計画
1. 金剛三昧院伝来聖教、金剛三昧院文書の意義
2. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査①
3. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査②
4. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査③
5. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査④
6. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑤
7. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑥
8. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑦
9. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑧
10. 金剛三昧院文書の調査①
11. 金剛三昧院文書の調査②
12. 金剛三昧院文書の調査③
13. 金剛三昧院文書の調査④
14. 金剛三昧院文書の調査⑤
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、参考書を毎回読み、書誌学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 調査対象の古文書・古典籍の要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①橋本不美男『原典をめざして』(笠間書院、1974 年) ②藤本孝一『日本の美術　古写本の姿』(至文堂、2002 年) ③藤本孝一『日本の美術　文書・写本の作り方』(至文堂、2008 年) ④藤本孝一『本を千年伝える』(朝日新聞出版、2012 年)

学生に対する評価
調査対象の聖教奥書、または古文書の解読レポート（100%） ※複数名の共同作業になる可能性もある。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）古文書・古典籍について基礎的な知識を習得している。
（B）古文書・古典籍の諸形態や奥書の史料的価値について理解し、系統的に説明できる。
（A）古文書・古典籍について系統的な説明ができるとともに、金剛三昧院伝来聖教・文書についての知識を習得している。
（S）古文書・古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法
質問については、毎回の授業内で対応する。

その他
本講義は、古典籍・古文書の原本・写本を共同で調査するアクティブ・ラーニングであるため、細心の注意を必要とする。それだけに、学問的水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。原本を調査するので、筆記用具は鉛筆のみ（シャープペンシル不可)。

科目名	仏教学演習A（大）							学 期	前期
副 題	『スッタニパータ』を読む					授業方法	演習	担当者	前谷彰
ナンバリング	D5-25-315	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解するとともに、論文の書き方を学ぶ。

授業の到達目標
ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画
１.オリエンテーション
２.初期仏教思想概説
３.「犀の一角の経」を読んで解説
４.「犀の一角の経」を読んで解説
５.「いやしい人の経」を読んで解説
６.「いやしい人の経」を読んで解説
７.「コラム１自灯明」を読んで解説
８.「コラム１自灯明」を読んで解説
９.「なまぐさの経」を読んで解説
10.「なまぐさの経」を読んで解説
11.「コラム２慈悲」を読んで解説
12.「コラム２慈悲」を読んで解説
13.「失の経」を読んで解説
14.「失の経」を読んで解説
15.「コラム３中道」を読んで解説

準備学習（予習・復習）・時間
毎回レジュメを作成して発表（毎回 180 分以上）

テキスト
必要に応じて担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価
レジュメのノルマを果たす（50%）、発表能力（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
アクティブ・ラーニング（ディスカッション・発表）を取り入れた授業である。

科目名	仏教学演習B（大）							学 期	後期
副 題	『スッタニパータ』を読む				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-25-316	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解するとともに、論文の書き方を学ぶ。

授業の到達目標
ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画
1.オリエンテーション
2.「コラム３中道」を読んで解説
3.「コラム３中道」を読んで解説
4.「愛欲の経」を読んで解説
5.「愛欲の経」を読んで解説
6.「論争と議論の経」を読んで解説
7.「論争と議論の経」を読んで解説
8.「武器を手にすることの経」を読んで解説
9.「武器を手にすることの経」を読んで解説
10.「コラム４非我」を読んで解説
11.「コラム４非我」を読んで解説
12.「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
13.「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
14.「志あるメッタグ一青年の質問」を読んで解説
15.「コラム５縁起」を読んで解説

準備学習（予習・復習）・時間
毎回レジュメを作成して発表（毎回 180 分以上）

テキスト
必要に応じて担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価
レジュメのノルマを果たす（50%）、発表能力（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。アクティブ・ラーニング（ディスカッション・発表）を取り入れた授業である。

科目名	仏教史演習A（大）							学 期	前期
副 題	仏伝の研究１				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D5-26-317	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
パーリ語・サンスクリット語・チベット語のかたちで伝承されるさまざまな仏伝資料を渉猟し、言語文化の担い手としての仏教徒の役割に注目しつつ資料を批判的に検討しうる姿勢を身につける。

授業の到達目標
基本的な文献学的手順を踏まえ、仏伝を伝える諸資料を必要に応じて原資料にアクセスできる。特定の仏伝資料とその担い手との関係について概括的に説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 伝説と伝記ー仏伝とはなにか
3. 仏伝と仏教美術①　シンボルとイコン
4. 初期仏教における仏伝①　単独聖典『スッタニパータ』に含まれる経典
5. 初期仏教における仏伝②　単独聖典『サンユッタニカーヤ』に含まれる経典
6. 初期仏教における仏伝③　単独聖典「サガータヴァッガ」に含まれる経典
7. 仏伝と言語文化①　アシュヴァゴーシャ
8. 律蔵における仏伝①　『律蔵大品』第 1-5 節
9. 律蔵における仏伝②　『律蔵大品』第 6-8 節
10. 律蔵における仏伝③　『律蔵大品』第 6-9 節
11. 律蔵における仏伝④　『律蔵大品』第 10-15 節
12. 仏伝と仏教美術②　釈尊絵伝
13. 涅槃経における仏伝①　『マハーパリニッバーナスッタンタ』第 1-5 節
14. 涅槃経における仏伝②　『マハーパリニッバーナスッタンタ』第 6-10 節
15. 仏伝と言語文化②　ジャータカとニーティ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として次回に読む範囲の資料を読み、必要に応じて適宜配布される一次資料をも対照しておくこと（100 分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（80 分）。

テキスト
資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①谷川泰教「ブッダの伝記ーその資料と解釈」、高野山大学、2008 年、②宮治昭『仏像学入門 ほとけたちのルーツを探る』、春秋社、2004 年、③中村元・山口瑞鳳・松長有慶・奈良康明・山折哲雄・宮治昭・奥山直司『釈尊絵伝』、学習研究社、1996 年

学生に対する評価
ミニッツペーパー（20%）、学期末レポート（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
（B）仏伝を伝える諸資料の系統と種類について概要を把握し必要に応じて原資料にアクセスできる。
（A）サンスクリット語を中心に言語文化の形成に仏伝が与えた影響について理解している。
（S）仏伝資料とその担い手について概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・パーリ語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、基本的に現代語訳を使用して進めるので、少しでも仏伝の伝承に興味がある希望者の積極的な参加をもとめるアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教史演習B(大)							学 期	後期
副 題	仏伝の研究 2				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D5-26-318	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
パーリ語・サンスクリット語・チベット語のかたちで伝承されるさまざまな仏伝資料を渉猟し、言語文化の担い手としての仏教徒の役割に注目しつつ資料を批判的に検討しうる姿勢を身につける。

授業の到達目標
基本的な文献学的手順を踏まえ、仏伝を伝える諸資料を必要に応じて原資料にアクセスできる。特定の仏伝資料とその担い手との関係について概括的に説明できる。

授業計画
1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 伝説と伝記ーキリストとブッダ
3. 仏伝と言語文化③　アヴァダーナ
4. 大乗における仏伝①　『ラリタヴィスタラ』
5. 大乗における仏伝②　『首楞厳三昧経』
6. 大乗における仏伝③　『法華経』
7. 仏伝と仏教美術③　宝冠を戴くブッダ
8. 大乗における仏伝④　『華厳経』、『世間随順経』
9. 大乗における仏伝⑤　『大智度論』、その他の聖典と注釈
10. 密教における仏伝①　纔発心転法輪菩薩
11. 密教における仏伝②　五相成身観と灌頂次第をめぐる悟りの再解釈
12. 密教における仏伝③　色究竟天と密厳浄土
13. 密教における仏伝④　密教聖典における仏伝と解釈①　陀羅尼聖典
14. 密教における仏伝⑤　密教聖典における仏伝と解釈②　『サマーヨーガタントラ』
15. 全体の総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として次回に読む範囲の資料を読み、必要に応じて適宜配布される一次資料をも対照しておくこと（90 分)。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（90 分)。

テキスト
資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①谷川泰教「ブッダの伝記ーその資料と解釈」、高野山大学、2008 年、②梶山雄一『大乗仏教の誕生 「さとり」と「廻向」』（講談社学術文庫）、2021 年、③田中公明『性と死の密教』、春秋社、1997 年、④「梵文和訳『サマーヨーガ・タントラ』第 4 章」、『川崎大師教学研究所紀要』、2021 年

学生に対する評価
ミニッツペーパー（20%)、学期末レポート（80%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
（B）仏伝を伝える諸資料の系統と種類について概要を把握し必要に応じて原資料にアクセスできる。
（A）サンスクリット語を中心に言語文化の形成に仏伝が与えた影響について理解している。
（S）密教聖典と特定の仏伝資料との関わりについて概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
密教聖典と特定の仏伝資料との関わりについて概括的に説明できる。

その他
遅刻３回で１欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・パーリ語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、基本的に現代語訳を使用して進めるので、少しでも仏伝の伝承に興味がある希望者の積極的な参加をもとめるアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読A（大）							学 期	後期
副 題	『唯識三十頌』を読む				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	D5-02-319	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
仏教を研究するための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必須な概念を確認し、辞書や文法書など、研究に必要な「工具」について学ぶ。その基礎知識を活用して、インド大乗仏教の二大学派の一翼を担う瑜伽行派の基本典籍であるヴァスバンドゥ著『唯識三十頌』を読み進めながら、瑜伽行派の主要な教理としてアーラヤ識説や三性説、唯識説について知識を得るとともに、文献に接する態度、基本的な読み方を身につけてゆく。

授業の到達目標
瑜伽行派における思想を体系的に理解できる。文献学に必須な概念を理解し、研究に必要な「工具」を駆使して、インド仏教文献（『唯識三十頌』）を読解できる。文献の読解結果を分析し、問題の所在を明確にして、自分の考えを論述できる。

授業計画
1.オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2.仏教を研究するための基礎知識
3.唯識思想概観
4.『瑜伽師地論』「本地分中三摩呬多地」Initial Passage 読解と読解結果の分析
5.『唯識三十頌』第 1 偈～第 7 偈―識の働き―読解
6.『唯識三十頌』第 1 偈～第 7 偈―識の働き―読解結果の分析
7.『唯識三十頌』第 8 偈～第 16 偈―識の働き―読解
8.『唯識三十頌』第 8 偈～第 16 偈―識の働き―読解結果の分析
9.『唯識三十頌』第 17 偈～第 19 偈―識の働き―読解
10.『唯識三十頌』第 17 偈～第 19 偈―識の働き―読解結果の分析
11.『唯識三十頌』第 20 偈～第 25 偈―三性三無自性説―読解
12.『唯識三十頌』第 20 偈～第 25 偈―三性三無自性説―読解結果の分析
13.『唯識三十頌』第 26 偈～第 30 偈―修行論―読解
14.『唯識三十頌』第 26 偈～第 30 偈―修行論―読解結果の分析
15.授業の総括とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、『唯識三十頌』の読解箇所の文法分析、現代語訳の作成（90 分） 事後学修として、講義内容の要点をノートに整理すること（60 分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30 分）

テキスト
担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
①加藤弘二郎『「唯識三十頌」を読む』仏典を読むシリーズ、角川書店、2006、②廣澤隆之『『唯識三十頌』を読む』TU 選書、大正大学出版会、2005、③長尾雅人・梶山雄一・荒牧典俊訳『世親論集』大乗仏典 15、中央公論新社、2005。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）瑜伽行派における基本的な思想・用語を理解している。
（B）基本的な文法事項を押さえて文献を正確に読解できる。
（A）読解した文献の内容を理解している。
（S）文献の読解結果を分析し、学術的な問題を論述できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他
20 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。サンスクリット語やチベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある学生であれば誰でも歓迎する。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学講読B（大）							学 期	前期
副 題	『般若心経秘鍵』の講読					授業方法	講義	担当者	前谷彰
ナンバリング	D5-02-320	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『般若心経秘鍵』の講読を通して、弘法大師の真言観について考察する。

授業の到達目標
『般若心経秘鍵』の講読を通して、弘法大師の真言観について認識を深め、解析する力を身につける。

授業計画
1．『般若心経秘鍵』の性格について解説する。
2．1．人法総通分の解説
3．2．分別諸乗分の解説
4．3．行人得益分の解説
5．4．総帰持明分の解説
6．5．秘蔵真言分の解説
7．6．読誦の訓練
8．7．読誦の訓練
9．8．読誦の訓練
10．9．読誦の訓練
11．10．読誦の訓練
12．11．読誦の訓練
13．12．読誦の訓練
14．13．読誦の訓練
15．14．読誦の訓練

準備学習（予習・復習）・時間
課題は必ずこなす（週 120 分以上）

テキスト
必要に応じて担当者が紹介・コピー配布する。

参考書・参考資料等
担当者が必要に応じて紹介する。

学生に対する評価
読誦の仕方（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『秘鍵』の意味を解説できる。
（B）読誦に集中できる。
（A）音（声）と呼吸が合っている。
（S）読誦によって心を解放できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読C（大）							学 期	後期
副 題	シャーティデーヴァの『入菩薩行論』を読む				授業方法	講義	担当者	平岡宏一	
ナンバリング	D5-02-321	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
インド仏教最大の名刹ナーランダ僧院の高僧シャンティデーヴァの『入菩薩行論』を中心に授業を展開する。昨年、第七章まで読み進めたが、今回は初日から二日目前半にかけて第一章から第七章までのおさらいをし、二日目後半からダライ・ラマ法王が力を入れて説明される第八章、空性思想を説く第九章を学ぶ。三日目後半からはツォンカパの『入中論広釈“密意明解”』の和訳を読み、ツォンカパの密教を理解する上で必要な波羅蜜乗の基本概念を学ぶ。

授業の到達目標
チベット語で『入菩薩行論』を読める。専門用語は勿論、空性の解釈の理由も説明できるようになる。

授業計画
1.第一章　菩提心の利益　菩提心とは何かを考える
2.第二章　罪の懺悔因果応報と悪業の浄化する方法を考える
3.第三章　菩提心の受持 菩提心を受持する用意
4.第四章　不放逸　なぜ不放逸はダメなのか
5.第五章　正知の守護 心との向き合い方
6.第六章　忍辱 仏教のアンガーコントロール
7.第七章　精進　意味と継続する秘訣
8.第八章　禅定（1）　煩悩とどう向き合うか
9.第八章　禅定（2）　自他交換の教え1
10.第八章　禅定（3）　自他交換の教え2
11.第九章　空性　（1）
12.第九章　空性　（2）
13.第九章　空性　（3）
14.入中論広釈密意明解　入中論へのいざない
15.入中論広釈密意明解　　菩薩の因

準備学習（予習・復習）・時間
復習としては講義におけるノート整理をしておくこと（60 分）。 復習した部分の中で問題を提起し、それについて考察したレポートを作成すること（60 分）。

テキスト
講師が和訳したテキストを用意する。

参考書・参考資料等
運命を好転させる隠された教え　チベット仏教入門　幻冬舎　2021 年

学生に対する評価
授業についてのレポートを提出し、厳正に評価する。レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『入菩薩行論』の各章の概要が説明できる。
（B）『入菩薩行論』の語句、専門用語も説明できる。
（A）『入菩薩行論』の語句、専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。
（S）チベット語で『入菩薩行論』を読める。専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業の最後に質問を受ける。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山大学でのダライ・ラマ法王の金剛界マンダラ灌頂説法会の通訳、胎蔵マンダラ灌頂の通訳など、ダライ・ラマ法王の密教関係の通訳を 10 回以上務める。

科目名	仏教史講読A（大）							学 期	前期
副 題	9 世紀中葉における寺院と日本社会				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D5-02-322	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『日本三代実録』は、『日本書紀』にはじまる律令国家が編さんした「六国史」の最後を飾る歴史書である。国史の到達点とみなされ、平安時代初期の記録としても貴重である。寺院や法会に関する詳細な記述があり、9 世紀なかばの仏教界の動向を知るための基本史料である。 本講義では、『日本三代実録』の輪読を通して、漢文史料の基礎的読解力と、歴史学の研究手法を身につけるとともに、9 世紀半ばの寺院と日本社会のありようについて学ぶことを目的とする。

授業の到達目標
『日本三代実録』を読み解くことを通じて、漢文史料の基礎的読解力をつけ、歴史学の研究手法を習得し、真言宗の成立期である 9 世紀半ばの寺院と日本社会のありようを理解することができる。

授業計画
1．歴史学を研究するとは？（講義）
2．歴史学を研究するための手法（講義）
3．『日本三代実録』とはどのような史料か？（講義）
4．『日本三代実録』の時代－律令国家の完成期－（講義）
5．『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）4 月 18 日癸卯条ー安祥寺年分度者の設置ー①》
6．『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）4 月 18 日癸卯条ー安祥寺年分度者の設置ー②》
7．『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）4 月 18 日癸卯条ー安祥寺年分度者の設置ー③》
8．『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）4 月 23 日戊申条・24 日己酉条》
9．『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）5 月丙辰朔条～5 月 7 日壬戌条》
10.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）5 月 10 日乙丑条～5 月 29 日甲申条》
11.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）6 月乙酉朔条～6 月 23 日丁未条》
12.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）6 月 25 日己酉条～7 月 13 日丙寅条》
13.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）7 月 14 日丁卯条～8 月 7 日庚寅条》
14.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）8 月 8 日辛卯条～8 月 28 日辛亥条》
15.『日本三代実録』を読む《貞観元年（859）9 月癸丑朔条～9 月 9 日辛酉条》

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修：次回授業で取り上げる箇所について辞書等で用語・語句を調べる（90 分） 事後学修：授業で取り上げた法令について関心を持ったテーマや人物について調べる（60 分）。

テキスト
テキストとして、『新訂増補国史大系　日本三代実録 前篇』（吉川弘文館、1991 年。初版は 1934 年）を用いるが、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等
①遠藤慶太『六国史－日本書紀に始まる古代の「正史」』（中公新書、2016 年）。 ②古瀬奈津子『シリーズ日本古代史⑥摂関政治』（岩波新書、2011 年） その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価
輪読担当部分の発表（50%）・予習・復習などの授業への参加度（50%）によって評価する。 全授業の 3 分の 2 以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）漢文史料を読み下すことができる。
（B）漢文史料を読み下し、その内容を解釈することができる。
（A）漢文史料を読み下し、解釈をした上で、内容を説明することができる。
（S）漢文史料を読み下して解釈し、先行研究にもとづいて、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。 ②漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたい。 ③卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。

科目名	密教実践法の研究 1(大)							学 期	前期
副 題	中院流諸作法 1					授業方法	講義	担当者	中西雄泰
ナンバリング	D5-01-323	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標
高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画
1. 授業の概要説明
2. 中院流の成り立ちについて（1）
3. 中院流の成り立ちについて（2）
4. 中院流の成り立ちについて（3）
5. 別行次第（理趣法）伝授説明（1）
6. 別行次第（理趣法）伝授説明（2）
7. 別行次第（理趣法）伝授説明（3）
8. 別行次第（理趣法）伝授説明（4）
9. 別行次第（理趣法）伝授説明（5）
10. 別行次第（理趣法）伝授説明（6）
11. 別行次第（理趣法）伝授説明（7）
12. 別行次第（理趣法）伝授説明（8）
13. 開眼作法等日用小作法伝授説明（1）
14. 開眼作法等日用小作法伝授説明（2）
15. 開眼作法等日用小作法伝授説明（3）

準備学習(予習・復習)・時間
事後学修として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90 分）

テキスト
①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等
必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価
授業態度（100%）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）出席 60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
（B）出席 80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
（A）出席 90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
（S）出席 100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法
質問は受け付けない。

その他
・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	密教実践法の研究 2(大)							学 期	後期
副 題	中院流諸作法 2					授業方法	講義	担当者	中西雄泰
ナンバリング	D5-01-324	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標
高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画
1.真言宗の葬儀について（1）
2.真言宗の葬儀について（2）
3.引導作法伝授説明（1）
4.引導作法伝授説明（2）
5.引導作法伝授説明（3）
6.引導作法伝授説明（4）
7.引導作法伝授説明（5）
8.無常導師作法伝授説明（1）
9.無常導師作法伝授説明（2）
10.無常導師作法伝授説明（3）
11.無常導師作法伝授説明（4）
12.日用作法伝授説明（1）
13.日用作法伝授説明（2）
14.日用作法伝授説明（3）
15.日用作法伝授説明（4）

準備学習(予習・復習)・時間
事後学修として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90 分）

テキスト
①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等
必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価
授業態度（100%）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）出席 60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
（B）出席 80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
（A）出席 90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
（S）出席 100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法
質問は受け付けない。

その他
・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	仏教芸術の研究A（大）							学 期	前期
副 題	日本の仏教美術について各時代の特徴を知る1				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	D5-12-325	実務経験の有無	有	関連DP	1		単位数	2	他	A

授業の目的と概要
寺院に祀られる仏像や仏画は礼拝対象であると同時に歴史的文化遺産としても重要な意義を持つ。授業では、飛鳥時代から平安時代前期までの仏教美術について、各時代を代表する仏像や仏画のスライド画像やこれまでの研究成果を参考にしつつ、その歴史や作品の特徴について学習する。併せて高野山の多くの国宝や重要文化財を収蔵する高野山霊宝館において実際に作品を見学する機会を通じて、仏像や仏画の見方や技法・構造などについて理解を深める。

授業の到達目標
・飛鳥時代から平安時代前期までの仏教美術について、各時代の代表的な作例からその背景、特徴など基本的な知識を習得し、説明できるようになる。 ・特に実際に仏像や仏画作品を間近で見学することにより、具体的に仏教美術の見学方法や各尊像の形像、技法などの細部について理解し、説明できるようになる。

授業計画
1．オリエンテーション、仏教美術の基礎知識（尊像の種類や形式など仏教美術全般にわたる基礎知識）
2．飛鳥時代前期の仏教美術１　仏像（法隆寺金堂釈迦三尊像、救世観音像等）
3．飛鳥時代後期の仏教美術２　仏像（興福寺仏頭、中宮寺菩薩半跏像等）
4．高野山霊宝館での実地見学１：　春期企画展（展示内容については詳細未定）
5．飛鳥時代の仏教美術３　絵画・工芸（玉虫厨子、法隆寺金堂壁画等）
6．奈良時代の仏教美術１　仏像１（興福寺八部衆像、東大寺法華堂諸像、東大寺戒壇堂四天王像等）
7．奈良時代の仏教美術２　仏像２（唐招提寺諸像、聖林寺十一面観音像等）
8．高野山霊宝館での実地見学２：　春期企画展（展示内容については詳細未定）
9．奈良時代の仏教美術３　絵画（東大寺大仏蓮弁図、薬師寺吉祥天像等）
10. 奈良時代の仏教美術４　工芸（正倉院宝物等）
11. 平安時代前期の仏教美術１　仏像１（神護寺薬師如来像、新薬師寺薬師如来像等）
12. 高野山霊宝館での実地見学３：　春期企画展（展示内容については詳細未定）
13. 平安時代前期の仏教美術２　仏像２（東寺講堂諸像、観心寺如意輪観音像等）
14. 平安時代前期の仏教美術３　絵画１（両界曼荼羅図等）
15. 平安時代前期の仏教美術４　絵画２（西大寺十二天像等）

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学修として、「仏教美術の基礎知識」で配布した資料の仏教美術に関する全般的な知識を理解、確認しておくこと（30 分）、事後学修として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認すること（90 分）、実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめること（60 分）

テキスト
講義内容に沿った参考資料（文字・画像資料およびスライドの資料）を配付する。

参考書・参考資料等
①辻惟雄他編『日本美術全集』小学館 2012 年～2016 年などの美術全集　②『日本の美術』至文堂 1966 年～2009 年 3 月・ぎょうせい 2009 年～2011 年　③関根俊一編『仏尊の事典』学研プラス 1997 年　④水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版社 2001 年

学生に対する評価
授業参加および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）の比率で評価する。 前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて 4000 字程度のレポートを提出する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）各時代の仏教美術についての基礎的な知識を理解している。
（B）各時代の仏教美術について、その歴史的背景や仏教美術作品の造形的特徴を理解している。
（A）各時代の仏教美術について、その概要を説明することができ、代表的な作例の特徴についても自分の言葉で説明することができる。
（S）各時代の仏教美術について、その歴史的背景や様式的な特徴を理解し、作品に対してより深い考察が行える。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。 提出されたレポートについての講評は、添削後、返却時にひとりひとりに行う。

その他
・教室での講義だけではなく、高野山霊宝館において見学を行うアクティブラーニングを取り入れた　科目である。 ・密教学特殊講義C（後期）はB（前期）から内容が継続しているので、履修・聴講することが望ましい。 ・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。 ・日頃から仏教美術作品に興味を持ち、受講生各自でも積極的に霊宝館や奈良・京都などで開催される仏教美術の展覧会などを見学することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
大学の教員及び非常勤講師として仏教美術史の講義、寺院等の見学授業や仏像調査の経験をもつ教員が、その経験を活かして、仏教美術史の基礎的な知識を解説し、霊宝館での実地見学を通してより深い作品への理解力を身につける科目である。

科目名	仏教芸術の研究B(大)							学期	後期
副題	日本の仏教美術について各時代の特徴を知る2				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	D5-12-326	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
寺院に祀られる仏像や仏画は礼拝対象であると同時に歴史的文化遺産としても重要な意義を持つ。授業では、平安時代後期から江戸時代までの仏教美術について、各時代を代表する仏像や仏画のスライド画像やこれまでの研究成果を参考にしつつ、その歴史や作品の特徴について学習する。併せて高野山の多くの国宝や重要文化財を収蔵する高野山霊宝館において実際に作品を見学する機会を通じて、仏像や仏画の見方や技法・構造などについて理解を深める。

授業の到達目標
・平安時代後期から江戸時代までの仏教美術について、各時代の代表的な作例からその背景、特徴など基本的な知識を習得し、説明できるようになる。 ・特に実際に仏像や仏画作品を見学することにより、具体的に仏教美術の見学方法や各尊像の形像、技法などの細部についても理解し、説明できるようになる。

授業計画
1. オリエンテーション、仏教美術の基礎知識（尊像の種類や形式など仏教美術全般にわたる基礎知識）
2. 平安時代後期の仏教美術１　仏像１（平等院鳳凰堂阿弥陀如来像・雲中供養菩薩像等）
3. 平安時代後期の仏教美術２　仏画１・工芸（平等院鳳凰堂・来迎図等）
4. 高野山霊宝館での実地見学 １：　秋期企画展前期（展覧会詳細未定）
5. 平安時代後期の仏教美術３　仏像２（院政期の仏像、峰定寺千手観音像等）
6. 平安時代後期の仏教美術４　仏画２（金剛峯寺仏涅槃図・東寺五大尊像等）
7. 鎌倉時代の仏教美術１　仏像１（東大寺・興福寺の復興と仏師運慶の造像）
8. 高野山霊宝館での実地見学 ２：　秋期企画展後期（展覧会詳細未定）
9. 鎌倉時代の仏教美術２　仏像２（東大寺・興福寺の復興と仏師快慶の造像）
10. 鎌倉時代の仏教美術３　仏像３（運慶以後の仏像）
11. 鎌倉時代の仏教美術４　仏画（東寺十二天屏風・禅林寺山越阿弥陀如来像等）
12. 高野山霊宝館での実地見学 ３：　冬期平常展（展覧会詳細未定）
13. 鎌倉時代の仏教美術５　工芸（密教法具）
14. 室町時代の仏教美術　仏像（東寺講堂大日如来像・達磨寺達磨大師像等）
15. 江戸時代の仏教美術　仏像（長講堂後白河法皇像・醍醐寺理源大師像）

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学修として、「仏教美術の基礎知識」で配布した資料の仏教美術に関する全般的な知識を理解、確認しておくこと（30 分）、　事後学修として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認すること（90 分）、実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめること（60 分）

テキスト
授業内容に沿った参考資料（文字・画像資料およびスライドの資料）を配付する。

参考書・参考資料等
①辻惟雄他編『日本美術全集』小学館 2012 年～2016 年などの美術全集　②『日本の美術』至文堂 1966 年～2009 年 3 月・ぎょうせい 2009 年～2011 年　③関根俊一編『仏尊の事典』学研プラス 1997 年　④水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版社 2001 年

学生に対する評価
授業参加および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）の比率で評価する。 前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて 4000 字程度のレポートを提出する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）各時代の仏教美術について基礎的な知識を理解している。
（B）各時代の仏教美術について、その歴史的背景や仏教美術作品の造形的特徴を理解している。
（A）各時代の仏教美術について、その概要を説明することができ、代表的な作例の特徴についても自分の言葉で説明することができる。
（S）各時代の仏教美術について、その歴史的背景や様式的な特徴を理解し、作品に対してより深い考察が行える。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。 提出されたレポートの講評は、添削後、返却時にひとりひとりに行う。

その他
教室での講義だけではなく、高野山霊宝館において見学を行うアクティブラーニングを取り入れた　科目である。 ・密教学特殊講義B（前期）はC（後期）へ内容が継続しているので、履修・聴講することが望ましい。 ・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。 ・日頃から仏教美術作品に興味を持ち、受講生各自でも積極的に霊宝館や奈良・京都などで開催される仏教美術の展覧会などを見学することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
大学の教員及び非常勤講師として仏教美術史の講義、寺院等の見学授業や仏像調査の経験をもつ教員が、その経験を活かして、仏教美術史の基礎的な知識を解説し、霊宝館での実地見学を通してより深い作品への理解力を身につける科目である。

科目名	宗教学宗教史の研究(大)							学 期	後期
副 題	真言密教の近代化と土宜法龍				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	D5-01-327	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
明治以降の真言密教がどのように近代化の道を歩んだのか、土宜法龍（1854～1923）の事績や言説の分析をつうじて理解を深める。

授業の到達目標
近代仏教史についての概略的な知識を得るとともに、他の宗教や宗派と比較して真言宗の近代化がどのようであったか、説明できるようになる。

授業計画
1.ガイダンスの後、明治初期の宗教をめぐる状況を概説
2.『明教新誌』掲載記事を読む①　最初期の投稿
3.『明教新誌』掲載記事を読む②　「田中雲外」名義の投稿
4.『明教新誌』掲載記事を読む③　「三島孝蔵」名義の投稿
5.後七日御修法再興運動の検討①　明治4年の廃絶の再検討
6.後七日御修法再興運動の検討②　本末合同会議
7.後七日御修法再興運動の検討③　釈雲照と土宜法龍
8.後七日御修法再興運動の検討④　再興後の動き
9.万国宗教会議と世界一周旅行①　米欧日記を読む
10.万国宗教会議と世界一周旅行②　『伝灯』掲載記事を読む
11.南方熊楠との交流①　南方在英中の往復書簡
12.南方熊楠との交流②　「南方マンダラ」と「二而不二」
13.後半生の土宜法龍①　「宗教」観の変化
14.後半生の土宜法龍②　高野山との関連を中心に
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90分）。 事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90分）。

テキスト
授業中に適宜配付する。

参考書・参考資料等
特に指定しない。

学生に対する評価
期末レポート（70%）、授業中の発言、発表（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）仏教近代化の概要を説明できる。
（A）真言密教の近代化について、他宗派と比較して説明できる。
（S）西洋近代的な宗教概念を、真言密教の近代化の観点から読み解くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	アジア地域の宗教文化の研究(大)							学 期	後期
副 題	密教付法資料の研究				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D5-01-328	実務経験の有無	無	関連DP	―	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深める。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。

授業の到達目標
密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高めることを通じて密教学をより深く理解する。

授業計画
1.『付法傳』の全体像
2.『広付法傳』講読 14 不空①
3.『広付法傳』講読 15 不空②
4.『広付法傳』講読 16 不空③
5.『広付法傳』講読 17 不空④
6.『広付法傳』講読 18 不空⑤
7.『広付法傳』講読 19 不空⑥
8.『広付法傳』講読 20 不空⑦
9.『広付法傳』講読 21 恵果①
10.『広付法傳』講読 22 恵果②
11.『広付法傳』講読 23 恵果③
12.『広付法傳』講読 24 恵果④
13.『広付法傳』講読 25 恵果⑤
14.『広付法傳』講読 26 恵果⑥
15.『広付法傳』講読 27 恵果⑦

準備学習(予習・復習)・時間
授業は漢文資料の演習を実施するので、週３時間の予習が必要（計 90 分以上)。

テキスト
「定本弘法大師全集」第一巻

参考書・参考資料等
①『密教』中央文庫松長有慶②『弘法大師空海全集』第二巻筑摩書房

学生に対する評価
予習状況（50%)、授業参加状況（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）付法傳を正確に読むことができる。
（B）付法傳の内容を理解できる。
（A）付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
（S）密教付法に関して体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法
演習時に個別に指導する。

その他
十分に予習して授業に臨んでもらいたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	比較宗教の研究(大)							学 期	前期
副 題	民俗宗教を考える					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	D5-03-329	実務経験の有無	無	関連DP	密 2, 仏 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
修士論文作成のための論文読解と資料読解のための能力を養成することを目指す。日本における民俗宗教について、論文や歴史資料を講読することによって、日本の信仰の特徴について検討をする。授業中に受講者にテキストを音読するとともに、解説してもらう。

授業の到達目標
民俗宗教に関する論文や歴史資料を読むことを通して、日本の信仰の特徴を理解するとともに、読解力を高める。

授業計画
1. 民俗宗教について
2. 年中行事①論文を読む
3. 年中行事②歴史を読む
4. 暦①論文を読む
5. 暦②歴史を読む
6. 正月行事①論文を読む
7. 正月行事②歴史資料を読む
8. 盆行事①論文を読む
9. 盆行事②歴史資料を読む
10. 人生儀礼①論文を読む
11. 人生儀礼②歴史資料を読む
12. 葬送・墓制①論文を読む
13. 葬送・墓制②歴史資料を読む
14. 先祖祭祀①論文を読む
15. 先祖祭祀②歴史資料を読む

準備学習(予習・復習)・時間
授業で扱う論文や資料について予習・復習をする（90 分)。

テキスト
プリントを配付する。

参考書・参考資料等
高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編高野町、2012 年、森本一彦『先祖祭祀と家の確立―「半檀家」から一家一寺へ』ミネルヴァ書房、2006 年、日野西眞定『お大師さんと高野山〔奥の院〕』慶友社、2011 年、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価
レポート（50%)、授業参加の積極性（50%）評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）論文や資料を読むことができる。
（B）論文や資料の内容を理解して、要約することができる。
（A）論文や資料の内容について、批評をすることができる。
（S）論文や資料の内容についての新しい解釈ができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業中のディスカッションの中でフィードバックする。

その他
授業で講読する論文や歴史資料については、受講生の研究関心に合わせながら初回の授業で決定する。授業は受講生が論文や歴史資料を音読・解説をする形式で進めて行くので、必ず予習をすること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	現代社会と仏教の研究(大)							学 期	後期
副 題	自殺についての知見を深める					授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	D5-10-330	実務経験の有無	有	関連DP	密 2, 4, 仏 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業の到達目標
自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

授業計画
1. 日本における自殺の現状
2. 世界における自殺の現状
3. 自殺についての理論①
4. 自殺についての理論②
5. 自殺についての理論③
6. 自殺と精神障害
7. 自殺と自傷
8. 自殺対策①：危機介入
9. 自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、 事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等
厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価
レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）自殺に関する基本的な知識を身につけている。
（B）自殺を志向する心理について理解している。
（A）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
（S）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	教育学特殊研究（大）							学 期	前期
副 題	デューイ新教育を読む					授業方法	講義	担当者	山脇雅夫
ナンバリング	D5-17-331	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本講義は、ジョン・デューイ著『学校と社会』を精読することによって、教育哲学的思考力を涵養することを目指す。担当者による内容要約・発表をもとに、デューイの唱えた新教育の内容と吟味し、学校と社会との関係について自分の意見を構築する。

授業の到達目標
デューイの唱えた新教育の内容について理解する。学校と社会との関係について意見を構築する。

授業計画
1.イントロダクション。発表方法の確認と担当者の割り当て・
2.第一章「学校と､社会の進歩」の発表
3.第一章についてのディスカッション
4.第二章｢学校と、子どもの生活｣の発表
5.第二章についてのディスカッション
6.第三章「教育における浪費」の発表
7.第三章についてのディスカッション
8.第四章｢初等教育の心理学」の発表
9.第四章についてのディスカッション
10.第五章「フレーベルの教育原理」の発表
11.第五章についてのディスカッション
12.第六章 j｢仕事の心理｣の発表
13.第六章についてのディスカッション
14.第七章｢注意の発達｣の発表
15.総括講義

準備学習（予習・復習）・時間
シラバスに予告された内容につき、最低 1 時間ほどを参考者等において調べておく（予習）。講義内容をまとめ、示された参考資料にあたっておく（復習）（計 90 分以上）。

テキスト
デューイ『学校と社会』（岩波文庫）

参考書・参考資料等
なし

学生に対する評価
講義内容に対する理解と考察の深さで判断する。課題レポート（70%）、議論への参加（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義の内容を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる

課題に対するフィードバックの方法
レポートにコメントを付け返却する。

その他
教職関係科目を履修していることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教特殊演習C-1（大）							学 期	前期
副 題	真言宗と天台宗の行位論の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D6-01-332	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3,	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
真言宗と天台宗の行位論を比較検討する事によって、日本密教における東密と台密の相違点を明確化する。さらに、行位論の相違点の源がいかなる思想（文献）によるものかを解明することが授業の目的である。

授業の到達目標
研究成果を学術誌に投稿することを目標とする。あわせて、博士論文の主要部分を作成することを最終目標にする。

授業計画
1．オリエンテーション　先行研究の整理
2．先行研究の整理
3．『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
4．『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
5．『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
6．『大日經疏』の行位論
7．『大日經疏』の行位論
8．『大日經疏』の行位論
9．『大日經疏』の行位論
10. 『大日經疏』の行位論
11. 『大日經疏』の行位論
12. 『大日經疏』の行位論
13. 『大日經疏』の行位論のまとめ
14. 『大日經疏』の行位論のまとめ
15. 総括

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の準備（120 分）、講義の後の復習と整理（60 分）

テキスト
『冠注大日経住心品疏』『成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌』

参考書・参考資料等
『大正大藏経』『国訳一切経』『国訳秘密儀軌』

学生に対する評価
授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）真言宗と天台宗の行位論の違いを簡単に説明できる。
（B）真言宗と天台宗の行位論の違いを文献を用いて説明できる。
（A）真言宗と天台宗の行位論の違いを先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
（S）真言宗と天台宗の行位論の違いを独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。〈毎回授業でフィードバックする）

その他
学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習C-2(大)							学期	後期
副題	真言宗と天台宗の行位論の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D6-01-333	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
真言宗と天台宗の行位論を比較検討する事によって、日本密教における東密と台密の相違点を明確化する。さらに、行位論の相違点の源がいかなる思想（文献）によるものかを解明することが授業の目的である。

授業の到達目標
研究成果を学術誌に投稿することを目標とする。あわせて、博士論文の主要部分を作成することを最終目標にする。

授業計画
1.オリエンテーション　前期の振り返り
2.天台宗の行位論
3.天台宗の行位論
4.天台宗の行位論の分析
5.天台宗の行位論の分析
6.真言宗の行位論の分析
7.真言宗の行位論の分析
8.真言宗の行位論の分析
9.真言宗と天台宗の行位論の比較
10.真言宗と天台宗の行位論の比較
11.經軌の行位論の分析
12.經軌の行位論の分析
13.行位論の分析と批判検討
14.行位論の分析と批判検討
15.まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
毎回の準備（120 分）、講義の後の復習と整理（60 分）

テキスト
『冠注大日経住心品疏』『成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌』

参考書・参考資料等
『大正大藏経』『国訳一切経』『国訳秘密儀軌』

学生に対する評価
授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）真言宗と天台宗の行位論の違いを簡単に説明できる。
（B）真言宗と天台宗の行位論の違いを文献を用いて説明できる。
（A）真言宗と天台宗の行位論の違いを先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
（S）真言宗と天台宗の行位論の違いを独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。〈毎回授業でフィードバックする）

その他
学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習D-1（大）							学 期	前期
副 題	図像資料の講読					授業方法	演習	担当者	松長潤慶
ナンバリング	D6-01-334	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
中国における観音の成立と展開を理解するためにインド、東アジア、日本の各地域における観音の展開を文献資料、および現地に残される遺品をもとに考察する。

授業の到達目標
インドに興り日本まで展開した観音信仰の成立と展開の一連の繋がりを確認し、整理し体系づける。

授業計画
１.演習（１）
２.演習（２）
３.演習（３）
４.演習（４）
５.演習（５）
６.演習（６）
７.演習（７）
８.演習（８）
９.演習（９）
10.演習（１0）
11.演習（１1）
12.演習（１2）
13.演習（１3）
14.演習（１4）
15.演習（１5）

準備学習（予習・復習）・時間
別途指示する。

テキスト
別途指示する。

参考書・参考資料等
別途指示する。

学生に対する評価
研究に対する問題点への洞察力、研究手法の到達点により評価する。(100%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）研究課題に対してポイントを整理できる。
（B）研究課題に対して的確な研究手法が組み上げられる。
（A）研究課題に関して新知見が提供できる。
（S）学会等で的確な発表ができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎時間の演習で指導する。

その他

科目名	密教特殊演習D-2(大)							学 期	後期
副 題	図像資料の講読					授業方法	演習	担当者	松長潤慶
ナンバリング	D6-01-335	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
中国における観音の成立と展開を理解するためにインド、東アジア、日本の各地域における観音の展開を文献資料、および現地に残される遺品をもとに考察する。

授業の到達目標
インドに興り日本まで展開した観音信仰の成立と展開の一連の繋がりを確認し、整理し体系づける。

授業計画
1.演習（1）
2.演習（2）
3.演習（3）
4.演習（4）
5.演習（5）
6.演習（6）
7.演習（7）
8.演習（8）
9.演習（9）
10.演習（10）
11.演習（11）
12.演習（12）
13.演習（13）
14.演習（14）
15.演習（15）

準備学習(予習・復習)・時間
別途指示する。

テキスト
別途指示する。

参考書・参考資料等
別途指示する。

学生に対する評価
研究に対する問題点への洞察力、研究手法の到達点により評価する。(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）研究課題に対してポイントを整理できる。
（B）研究課題に対して的確な研究手法が組み上げられる。
（A）研究課題に関して新知見が提供できる。
（S）学会等で的確な発表ができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎時間の演習で指導する。

その他

科目名	密教特殊演習E-1(大)							学 期	前期
副 題	即身成仏思想の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D6-01-336	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
即身成仏思想は真言宗の根本教理である。「即身成仏思想」は『即身成仏義』にて大成されるが、思想に留まるだけではなく実践大系とも深い関わりを有する。特に「三密加持」とはいかなるものかを解明することは重要な問題である。さらに、「即身成仏思想」が後世に与えた影響についても「三密加持」を切り口にもう一度再検討する必要がある。これらの点を検討解明することによって博論を作成する能力を身につけることを目的とする。

授業の到達目標
博論の中の一章を作成し、その内容を学術誌に投稿することを目標とする。

授業計画
1.オリエンテーション
2.これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
3.これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
4.これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
5.日本部教における成仏思想の研究
6.日本仏教における成仏思想の研究
7.修論作成時の即身成仏思想の振り替えり
8.三密加持と即身成仏
9.三密加持と即身成仏
10.三密加持と即身成仏
11.三密加持と即身成仏
12.三密加持と密教瞑想法
13.三密加持と密教瞑想法
14.三密加持と密教瞑想法
15.まとめ

準備学習(予習・復習)・時間
毎回の準備（120 分)、講義の後の復習と整理（60 分）

テキスト
『十卷章』(高野山大学出版部)、(『弘法大師全集』『定本弘法大師全集』)

参考書・参考資料等
中川善教『漢和対照十卷章』(高野山出版社)　『即身成仏義の研究』(密経文化研究所紀要別冊)　小田慈舟『十卷章講説』(高野山出版社)　松長有慶『訳注即身成仏義』(春秋社

学生に対する評価
授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）即身成仏思想を『即身成仏義』にしたがって説明できる。
（B）即身成仏思想を『即身成仏義』とその注釈を用いて説明できる。
（A）即身成仏思想を先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
（S）即身成仏思想を独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他
学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習E-2(大)							学 期	後期
副 題	即身成仏思想の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D6-01-337	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
即身成仏思想は真言宗の根本教理である。「即身成仏思想」は『即身成仏義』にて大成されるが、思想に留まるだけではなく実践大系とも深い関わりを有する。特に「三密加持」とはいかなるものかを解明することは重要な問題である。さらに、「即身成仏思想」が後世に与えた影響についても「三密加持」を切り口にもう一度再検討する必要がある。これらの点を検討解明することによって博論を作成する能力を身につけることを目的とする。

授業の到達目標
博論の中の一章を作成し、その内容を学術誌に投稿することを目標とする。

授業計画
1.オリエンテーション
2.『即身成仏義』の研究
3.『即身成仏義』の研究
4.『即身成仏義』の研究
5.『即身成仏義』の研究
6.『即身成仏義』の研究
7.『即身成仏義』の研究
8.『即身成仏義』の研究
9.『即身成仏義』の研究
10.『即身成仏義』の研究
11.『即身成仏義』の注釈書研究
12.『即身成仏義』の注釈書研究
13.『即身成仏義』の注釈書研究
14.『即身成仏義』の注釈書研究
15.『即身成仏義』の注釈書研究

準備学習(予習・復習)・時間
毎回の準備（120 分)、講義の後の復習と整理（60 分）

テキスト
『十卷章』(高野山大学出版部)、(『弘法大師全集』『定本弘法大師全集』)

参考書・参考資料等
中川善教『漢和対照十卷章』(高野山出版社)　『即身成仏義の研究』(密経文化研究所紀要別冊)　小田慈舟『十卷章講説』(高野山出版社)　松長有慶『訳注即身成仏義』(春秋社

学生に対する評価
授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）即身成仏思想を『即身成仏義』にしたがって説明できる。
（B）即身成仏思想を『即身成仏義』とその注釈を用いて説明できる。
（A）即身成仏思想を先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
（S）即身成仏思想を独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他
学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習G-1（大）							学 期	前期
副 題	歴史学の研究手法を用いて研究論文を作成する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D6-01-338	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
修士論文の成果をふまえ、課題や問題点を明らかにし、完成度をより高めるために、最近の研究成果を報告してもらう。研究史を批判的に検討し、史料の読み込みを深めるとともに、史料収集状況を確認しながら、博士論文の作成にむけて今後の方向性を探るようにしたい。

授業の到達目標
①研究史の批判的な検討をすることができる。 ②関係史料の読み込みをさらに深める。

授業計画
1.授業計画と方法について
2.奈良・平安時代史研究の最新動向①（講義）
3.奈良・平安時代史研究の最新動向②（講義）
4.受講生による研究テーマに沿った報告と討議①
5.受講生による研究テーマに沿った報告と討議②
6.受講生による研究テーマに沿った報告と討議③
7.受講生による研究テーマに沿った報告と討議④
8.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑤
9.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑥
10.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑦
11.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑧
12.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑨
13.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑩
14.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑪
15.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑫

準備学習（予習・復習）・時間
①年に1本は研究論文を書けるように、研究を進める。 ②学内の学会のほか、外部の学会や研究会に参加し、研究情報を集める。

テキスト
受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。 講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等
各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価
①報告内容（50%）・レポート（30%）・討議への参加度（20%）によって評価する。 ②全授業の 3 分の 2 以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）歴史学の研究手法を理解し、研究史を批判的に検討することができる。
（B）関係史料を深く読み込み、正確に解釈することができる。
（A）研究テーマの現状と問題点を把握して、自分なりの見解を論じることができる。
（S）学内外の学会や研究会に積極的に参加して研究情報を集め、研究論文を書くための準備を進めることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	密教特殊演習G-2(大)							学 期	後期
副 題	歴史学の研究手法を用いて研究論文を執筆する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D6-01-339	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
春学期までの研究成果をふまえ、課題や問題点を明らかにし、完成度をより高めるために、最近の研究成果を報告してもらう。研究史を批判的に検討し、史料の読み込みをさらに深めるとともに、史料収集状況を再確認しながら、博士論文の作成にむけて今後の方向性を探るようにしたい。

授業の到達目標
①通説を乗り越える道を模索する。 ②文献史料のより深い読み込みを学ぶ。

授業計画
1.授業計画と方法について
2.奈良・平安時代史研究の最新動向①（講義）
3.奈良・平安時代史研究の最新動向②（講義）
4.受講生による研究テーマに沿った報告と討議①
5.受講生による研究テーマに沿った報告と討議②
6.受講生による研究テーマに沿った報告と討議③
7.受講生による研究テーマに沿った報告と討議④
8.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑤
9.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑥
10.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑦
11.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑧
12.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑨
13.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑩
14.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑪
15.受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑫

準備学習(予習・復習)・時間
①研究論文の完成に向けて、研究を進める。 ②外部の学会や研究会に積極的に参加し、研究情報を集める。

テキスト
受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。 講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等
各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価
①報告内容（50%）・レポート（30%）・討議への参加度（20%）によって評価する。 ②全授業の 3 分の 2 以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）研究史を批判的に検討し、通説を乗り越える道を模索することができる。
（B）文献史料をより深く読み込み、正確に解釈することができる。
（A）研究テーマの現状と問題点を把握して、自分なりの見解を論じることができる。
（S）外部の学会や研究会に積極的に参加して研究情報を集め、研究論文を完成させることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	仏教特殊演習A-1（大）							学 期	前期
副 題	『瑜祇経』の読解				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D6-01-340	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	―

授業の目的と概要
『瑜祇経』を徹底的に解読する

授業の到達目標
本経の成立背景や思想的特徴を明らかにする

授業計画
1．『瑜祇経』解読　序文
2．『瑜祇経』解読　第一章①
3．『瑜祇経』解読　第一章②
4．『瑜祇経』解読　第二章
5．注釈書を参考にする
6．頼瑜の注釈
7．杲宝の注釈
8．同経成立の思想的背景
9．同経成立の思想的意義
10. タントラ文献の中の位置
11. 無上ユガタントラと『瑜祇経』の比較①
12. 無上ユガタントラと『瑜祇経』の比較②
13. 密教における『瑜祇経』の役割
14. 弘法大師と本経の関係①
15. 弘法大師と本経の関係②

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の予習（60 分）、復習（30 分）

テキスト
『瑜祇経』と幾つかの注釈書（詳細は授業中に指示する）

参考書・参考資料等
授業中に指示する。

学生に対する評価
研究に対する意欲（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『瑜祇経』の位置について考えることができる
（B）『瑜祇経』の特殊性について考えることができる
（A）注釈書を調べることができる
（S）『瑜祇経』全体の思想的特徴について考えることができる

課題に対するフィードバックの方法
授業時に毎回フィードバックする

その他

科目名	仏教特殊演習A-2(大)							学 期	後期
副 題	『瑜祇経』の読解					授業方法	演習	担当者	前谷彰
ナンバリング	D6-01-341	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
博士論文『瑜祇経』の研究を仕上げる。

授業の到達目標
博士論文を完成させる

授業計画
1. 博士論文作成作業①
2. 博士論文作成作業②
3. 博士論文作成作業③
4. 博士論文作成作業④
5. 博士論文作成作業⑤
6. 博士論文作成作業⑥
7. 博士論文作成作業⑦
8. 博士論文作成作業⑧
9. 博士論文作成作業⑨
10. 博士論文作成作業⑩
11. 博士論文作成作業⑪
12. 博士論文作成作業⑫
13. 博士論文作成作業⑬
14. 博士論文作成作業⑭
15. 博士論文作成作業⑮

準備学習(予習・復習)・時間
毎回の予習（60 分)、復習（30 分）

テキスト
『瑜祇経』と幾つかの注釈書（詳細は授業中に指示する）

参考書・参考資料等
授業中に指示する。

学生に対する評価
論文作成を意欲的にするか（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）『瑜祇経』の成立背景を調べることができる
（B）『瑜祇経』の思考的基盤を調べることができる
（A）『瑜祇経』の密教経典としての位置について考えることができる
（S）『瑜祇経』の研究についての論文を作成することができる

課題に対するフィードバックの方法
授業時に毎回フィードバックする

その他

教員別索引

あ	有松孝雄	企画科目（仏画）	171
		仏教芸術（別）	171
い	五十嵐啓道	真言密教特殊講義T	278
	伊藤佳世子	英語I	54
	井上ウィマラ	仏教学特殊講義G	131
		仏教学特殊講義U	131
う	上野和久	人間学基礎ゼミI（再履修）	249
		人間学演習IIB	257
		人間学専門講義（カウンセリング論B）	313
		企画科目（カウンセリング論B）	313
		人間学専門講義（学校心理学B）	314
		企画科目（学校心理学B）	314
		人間学演習IC（臨床心理学演習）	335
		人間学演習IIC（臨床心理学演習）	337
お	大河内大博	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習I）	319
		企画科目（スピリチュアルケア演習I）	319
		人間学専門講義（スピリチュアルケア演習II）	328
		企画科目（スピリチュアルケア演習II）	328
	大柴清圓	祖典講読IIA	116
		祖典講読IIS	116
		密教学講読演習A	139
		密教学講読演習B	140
	岡田英作	仏教学講読演習C	145
		パーリ語A	181
		パーリ語S	181
		宗教科教育法III	241
		仏教学特殊講義T	276
		仏教学講読演習T	283
		パーリ語（別）	181
		仏教学講読A（大）	377
	岡本文音	伝統文化（茶道）	85
	奥山直司	宗教思想史IA	89
		宗教思想史IS	89
		宗教学I	110
		宗教学II	111
		世界の宗教（別）	110
		密教史演習（大）	358
	小田龍哉	宗教学方法論	194
		人間学専門講義（宗教学入門）	318
		宗教学IS	318
		人間学専門講義（世俗主義と宗教）	327
		宗教学IIS	327
		宗教学宗教史の研究（大）	385
か	加藤善弘	法式	78
		法式（別）	78
	亀位卓阿	英語II	56
	川口道雄	企画科目（臨床実習IV）	296
		人間学実践演習（臨床実習IV）	296
		企画科目（臨床実習V）	297
		人間学実践演習（臨床実習V）	297
	川崎一洋	祖典講読IIC	118
		祖典講読IIT	118
		宗典講読S	270
		密教学特殊講義S	272
		密教学特殊講義T	273
		密教学講読A（大）	359
		密教学講読B（大）	360
き	菊谷竜太	サンスクリット語A	59
		密教学基礎ゼミB1	66
		密教学基礎ゼミB2	67
		仏教学講読演習D	146
		仏教学講読演習E	147
		密教学演習G	159
		サンスクリット語S	260
		仏教学概論S	265
き	菊谷竜太	密教史概説S	266
		仏教史概説S	267
		サンスクリット語（別）	59
		仏教史演習A（大）	375
		仏教史演習B（大）	376
	木地茂典	情報処理	94
		教養講義（数学史概論）	250
		企画科目（数学史概論）	250
		教養講義（思考力講座）	252
		企画科目（思考力講座）	252
	北川真寛	密教学基礎ゼミA1	64
		密教学基礎ゼミA2	65
		密教学概論A	105
		祖典講読IB	115
		真言密教講読演習B	149
		密教学演習N	162
		空海の思想入門S	258
		密教学概論S	264
		真言密教特殊講義S	277
		真言密教講読演習S	285
		真言宗の教えB（別）	105
		密教史講読B（大）	361
	木下忠恭	人間学専門講義（心理検査法演習I）	316
		企画科目（心理検査法演習I）	316
		人間学専門講義（心理検査法演習II）	325
		企画科目（心理検査法演習II）	325
	木下智雄	真言密教講読演習G	153
		企画科目（高野山の歴史と文化）	172
		企画科目（高野山の歴史と文化S）	172
		密教史特殊研究A（大）	354
	桐田貴史	古文書解読S	308
く	窪寺俊之	企画科目（スピリチュアルケア概論）	299
		人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）	299
こ	高祖・辻	宗教芸能（宗教舞踊）	86
	五味和樹	伝統文化（華道）	84
	五明優介	人間学専門講義（心理統計学）	320
		企画科目（心理統計学）	320
		人間学専門講義（心理測定法）	329
		企画科目（心理測定法）	329
		人間学専門講義（心理学基礎実験演習I）	330
		企画科目（心理学基礎実験演習I）	330
		人間学専門講義（心理学基礎実験演習II）	331
		企画科目（心理学基礎実験演習II）	331
さ	齋藤天譽	梵字悉曇A	83
		梵字悉曇（別）	83
	坂口太郎	歴史学	109
		密教学演習K	161
		企画科目（歴史学入門）	174
		企画科目（歴史学入門演習）	178
		書誌学	189
		古文書学	190
		博物館資料論	221
		歴史学S	268
		仏教学講読演習U	284
		仏教学特殊研究A（大）	369
		仏教史特殊研究B（大）	372
	櫻木・坂口	博物館実習	226
	櫻木潤	密教学基礎ゼミC1	68
		密教学基礎ゼミC2	69
		宗教思想史IIA	90
		宗教思想史IIS	90
		仏教学講読演習B	144
		密教学演習D	156
		生涯学習概論	218
		博物館教育論	225

教員別索引

さ	櫻木潤	密教学講読演習U	281
		仏教史講読A（大）	380
		密教特殊演習G-1（大）	396
		密教特殊演習G-2（大）	397
	佐々木聡	密教学基礎ゼミE1	72
		密教学基礎ゼミE2	73
		心理学ⅠA	92
		心理学ⅠS	92
		心理学ⅡA	93
		心理学ⅡS	93
		人間学専門講義（カウンセリング論A）	167
		企画科目（カウンセリング論A）	167
		人間学専門講義（学校心理学A）	168
		企画科目（学校心理学A）	168
		教育心理学	229
		道徳教育指導論	233
		教育方法論	235
		教育方法論・ICT活用論	236
		生徒指導・進路指導	237
		教育相談	238
		心の科学（別）	92
	佐藤隆彦	真言密教特殊講義C	134
		真言密教特殊講義U	134
		真言密教特殊講義F	137
		真言密教特殊講義G	138
		真言密教講読演習C	150
		密教学演習B	154
		観法の理論と実習A（別）	134
		密教学講義A（大）	346
		祖典演習A（大）	349
		事相研究Ⅰ-1（大）	365
		事相研究Ⅰ-2（大）	366
		密教特殊演習C-1（大）	390
		密教特殊演習C-2（大）	391
		密教特殊演習E-1（大）	394
		密教特殊演習E-2（大）	395
し	塩野三恵子	かなⅠ	82
		かなⅡ	209
		条幅制作B（かな）	212
	柴谷宗叔	企画科目（巡礼・遍路B）	188
		巡礼・遍路B	188
		巡礼・遍路T	188
		人間学実践演習（巡礼・遍路）	188
		密教学特殊講義U	274
	徐東軍	仏教学特殊講義E	129
		密教学講読演習F	142
		企画科目（仏画S）	289
		密教史特殊研究B（大）	355
す	鈴木晴久	密教学基礎ゼミD1	70
		密教学基礎ゼミD2	71
		国語学Ⅰ	195
		国語学Ⅱ	196
		教育原論	227
		教職入門	228
		教育課程論	232
		総合的な学習の時間・特別活動	234
		国語科教育法Ⅰ	243
		国語科教育法Ⅱ	244
	鈴木・佐々木	教育実習の研究	247
		教職実践演習（中・高）	248
そ	添田隆昭	空海の思想入門A	52
		弘法大師空海の生涯（別）	52
	添野了	梵字悉曇S	263
た	高田綾子	キャリアデザインⅠ	101
		キャリアデザインⅡ	102
た	高田綾子	キャリアデザインⅢ	103
		キャリアデザインⅣ	104
		キャリアデザインⅤ	120
		キャリアデザインⅥ	121
	竹村和也	現代の人権	193
		日本国憲法	207
		人権と福祉（別）	193
つ	辻秀道	声明	77
		声明上級	184
		声明（別）	77
		声明上級（別）	184
	辻・西山・岩田	布教B（詠歌）	80
		企画科目（詠歌上級）	176
て	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ	総合科目（仏教入門ⅠA）	163
		総合科目（仏教入門ⅡA）	164
		チベット語A	180
		総合科目（仏教入門ⅠS）	287
		総合科目（仏教入門ⅡS）	288
		チベット語S	307
		チベット語（別）	180
と	土居夏樹	宗教史Ⅰ	112
		宗教史Ⅱ	113
		密教学講読演習D	141
		密教学演習E	157
		密教学演習H（再履修）	160
		祖典講読ⅠS	269
		密教学講読演習S	279
		密教学演習L	286
		宗教の歴史（別）	112
		密教学演習B（大）	357
		密教と文化（大）	364
		仏教と文化（大）	364
	徳重弘志	密教史概説A	107
		サンスクリット語上級A	179
		宗典講読T	271
		サンスクリット語上級S	306
		真言宗の教えA（別）	107
		インド学講義（大）	348
	富田向真	宗教科教育法Ⅳ	242
	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	宗典講読B	119
		真言密教特殊講義D	135
		真言密教特殊講義E	136
		真言密教講読演習D	151
		真言密教講読演習E	152
		密教学特殊研究A（大）	350
		密教学特殊研究B（大）	351
		密教学特殊研究C（大）	352
		密教学特殊研究D（大）	353
		事相研究Ⅱ-1（大）	367
		事相研究Ⅱ-2（大）	368
な	内藤栄	企画科目（仏教美術入門S）	290
	中西雄泰	真言密教特殊講義A	132
		真言密教特殊講義B	133
		密教儀礼の理論と実習（別）	132
		密教実践法の研究1（大）	381
		密教実践法の研究2（大）	382
	那須真裕美	仏教学特殊講義A	126
		博物館資料保存論	222
		博物館情報・メディア論	224
		仏教学特殊研究C（大）	371
に	西川哲矢	古文書解読A	191
の	野田悟	漢字Ⅰ	81
		中国文化特殊講義A	206
		漢字Ⅱ	208
		篆刻	210

教員別索引

の	野田悟	条幅制作A（漢字）	211
		書道史	213
		書道史（日本）	213
		漢字ＩＳ	262
は	橋本久仁彦	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）	301
		人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ）	301
		企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）	302
		人間学実習（コミュニケーション演習Ⅱ）	302
	橋本真人	布教A	79
		布教（別）	79
	土生川正賢	中国語Ⅰ	182
		中国語Ⅱ	183
ひ	東真由美	人間学専門講義（コミュニケーション心理学）	323
		企画科目（コミュニケーション心理学）	323
	平岡宏一	仏教学講読演習F	148
		仏教学講読C（大）	379
ふ	藤井知枝	日本語A	62
		日本語B	63
		企画科目（日本語留学生上級A）	165
		企画科目（日本語留学生中級A）	166
	藤本善光	企画科目（寺院経営入門）	173
ま	前谷彰	仏教学概論A	106
		仏教史概説A	108
		仏教学特殊講義B	127
		仏教学講読演習A	143
		密教学演習C	155
		サンスクリット語T	261
		仏教学特殊講義S	275
		仏教学講読演習S	282
		釈尊の生涯（別）	108
		仏教学講義（大）	347
		仏教学特殊研究B（大）	370
		仏教学演習A（大）	373
		仏教学演習B（大）	374
		仏教学講読B（大）	378
		仏教特殊演習A-1（大）	398
		仏教特殊演習A-2（大）	399
	松下歩睦	人間学専門講義（社会心理学）	332
		企画科目（社会心理学）	332
	松長潤慶	祖典講読ⅠA	114
		密教学特殊講義A	122
		密教学演習F	158
		宗教科教育法Ⅰ	239
		宗教科教育法Ⅱ	240
		企画科目（密教文化講座S）	291
		真言宗典講読1（別）	114
		密教史講読A（大）	362
		アジア地域の宗教文化の研究（大）	386
		密教特殊演習D-1（大）	392
		密教特殊演習D-2（大）	393
	松本貴子	日本文化A	95
		日本文化B	96
		日本文化C	97
		日本文化D	98
		日本文化E	99
		日本文化F	100
		企画科目（日本語留学生中級B）	169
		企画科目（日本語留学生上級B）	170
み	溝端悠朗	国文法Ⅰ	197
		国文法Ⅱ	198
		日本文学史概説Ⅰ	199
		日本文学史概説Ⅱ	200
		日本文学Ⅰ	201
		日本文学Ⅱ	202
		日本文化特殊講義A	205
み	溝端悠朗	国語科教育法Ⅲ	245
		日本文化特殊講義S	309
		日本文化特殊講義T	310
	溝渕淳	社会福祉論	214
		社会保障論	215
		社会保障B（別）	214
		地域福祉A（別）	215
	南昌宏	漢文	58
		漢文Ⅰ	60
		漢文Ⅱ	61
		哲学	91
		哲学S	91
		漢文学概論Ⅰ	203
		漢文学概論Ⅱ	204
		国語科教育法Ⅳ	246
		漢文S	259
		中国文化特殊講義S	311
		中国文化特殊講義T	312
		密教学演習A（大）	356
	宮田永明	常用経典	76
		常用経典（別）	76
	宮本直美	特別支援教育	231
も	本山司	体育実技	185
	森崎雅好	仏教学特殊講義D	128
		仏教学特殊講義F	130
		密教学講読演習T	280
		企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅰ）	292
		企画科目（臨床実習Ⅰ）	293
		人間学実践演習（臨床実習Ⅰ）	293
		企画科目（臨床実習Ⅱ）	294
		人間学実践演習（臨床実習Ⅱ）	294
		企画科目（臨床実習Ⅲ）	295
		人間学実践演習（臨床実習Ⅲ）	295
		企画科目（伝統工芸実習彫刻Ⅱ）	298
		企画科目（聖地巡礼Ⅰ）	304
		人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ）	304
		企画科目（聖地巡礼Ⅱ）	305
		人間学実践演習（聖地巡礼Ⅱ）	305
		人間学専門講義（悲嘆学）	315
		企画科目（悲嘆学）	315
		人間学専門講義（深層心理学）	317
		企画科目（深層心理学）	317
		人間学専門講義（自殺学）	324
		企画科目（自殺学）	324
		人間学専門講義（福祉心理学）	326
		企画科目（福祉心理学）	326
		人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）	334
		企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）	334
		人間学演習ⅠD（臨床心理学演習）	336
		人間学演習ⅡD（臨床心理学演習）	338
		現代社会と宗教（大）	363
		現代社会と仏教の研究（大）	388
	森本一彦	人間学専門講義（高野文化圏論）	125
		密教学特殊講義D	125
		人間学実習（社会調査）	175
		企画科目（社会調査）	175
		人間学専門講義（地域連携）	177
		企画科目（地域連携）	177
		社会学	192
		教育社会学	230
		教養講義（社会のしくみ）	251
		企画科目（社会のしくみ）	251
		教養講義（人間と文化）	253
		企画科目（人間と文化）	253
		人間学実践演習（学外研修①）	254

教員別索引

も	森本一彦	人間学実践演習（学外研修②）	255
		人間学演習ⅡA	256
		地域福祉B（別）	177
		社会保障A（別）	192
		比較宗教の研究（大）	387
	森本敦子	英語Ⅰ（再履修）	55
		英語Ⅱ（再履修）	57
や	山口文章	博物館概論	219
		博物館経営論	220
	山口隆介	博物館展示論	223
	山添　正	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅰ）	321
		企画科目（臨床心理学面接演習Ⅰ）	321
		人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅱ）	333
		企画科目（臨床心理学面接演習Ⅱ）	333
	やまだようこ	企画科目（もの語り心理学）	303
		人間学専門講義（もの語り心理学）	303
	山本和美	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）	322
		企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）	322
	山本佳世子	企画科目（死生観）	300
		人間学専門講義（死生観）	300
	山脇雅夫	教育学特殊研究（大）	389
よ	米田弘仁	祖典講読ⅡB	117
わ	和田圭子	密教学特殊講義B	123
		密教学特殊講義C	124
		仏教芸術の研究A（大）	383
		仏教芸術の研究B（大）	384
	学科主任	導入研修	53
	密教学科主任	密教学基礎ゼミF1	74
		密教学基礎ゼミF2	75
		加行Ⅰ	87
		加行Ⅱ	88
		巡礼・遍路A	187
		企画科目（巡礼・遍路A）	187
		巡礼・遍路S	187
	人間学科主任	ボランティア	186
	就職担当	キャリア研修	216
		インターンシップ	217

講義概要・授業計画　令和５年度（2023）

2023 年４月１日発行

編集・発行　　高 野 山 大 学
〒648-0280　和歌山県伊都郡高野町高野山 385
T E L：(0736) 56－5027（学務課教務係）
F A X：(0736) 56－5048
E-mail：kyomu@koyasan-u.ac.jp
U R L：https://www.koyasan-u.ac.jp